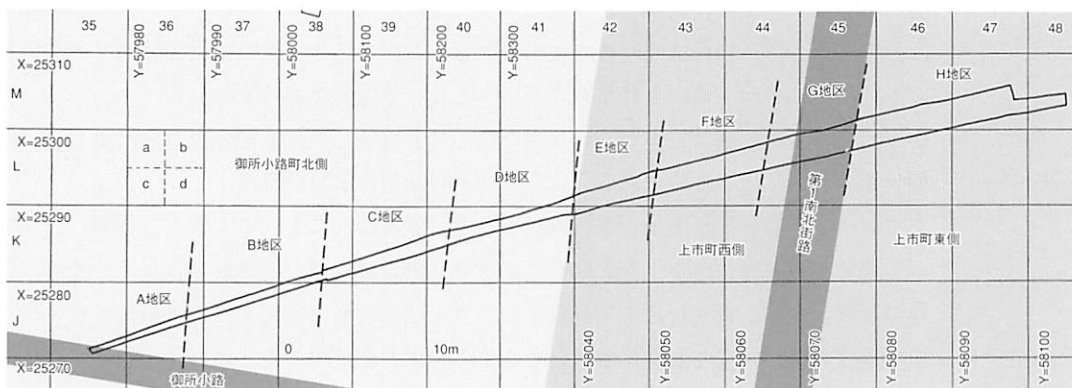


### 第3章 中世大友府内町跡第16次調査区

#### 第1節 調査の経緯 (第3-1図)



第3-1図 第16次調査区 (1/1000)

8つの調査区 現在の地籍の区画に沿って、西から順にA～H地区の八つの区割りで調査をおこなった。実測は旧国土座標に基づいた正方位の10メートル方眼を組んで使用した。

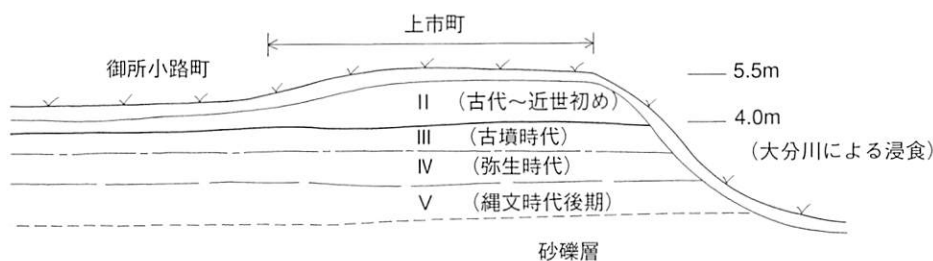
測量は光波トランシットを用いて、原則として20分の1図、遺構の状況に応じて10分の1図を作成した。また調査区全体の断面土層図を10分の1で作成した。写真は35ミリ白黒とカラーリバーサルを基本に、必要に応じて6×9中型カメラを使用した。調査は、JR九州日豊線の線路北側の側道部分にあたるため、あたかも長さ200mを超える長大なトレンチ調査というおもむきとなった。

A地区からE地区にかけての調査区西半分については、無遺物層まで完掘したが、東半分のF地区からH地区については第2焼土層を取り去ったB層上面まで全体を掘り下げた後、南壁にそって幅1mの下層トレンチを設けて掘り下げた。かなり深くなったためSD590のような深い遺構は完掘していない。

#### 第2節 遺構の概要と基本層序 (第3-2図)

基本層序 第16次調査区の層序は、I層は近世以後の耕作土、II層は人為堆積層で古代の包含層はほとんどないが、中世以後とりわけ16世紀には急速かつ厚く堆積する。III層は基盤砂層で奈良時代から中世大友府内町が廃滅するまでの地山である。古墳時代前期の土器を包含することがある。IV層は粘質土層で、弥生時代の遺物を含む。V層は砂質土層である。さらに井戸の湧水層である砂礫層が標高1.5m以下に存在するが、その層中には場所によって縄文時代後期から晩期の遺物が出土する。

16世紀の都市遺構 E地区からH地区にあたる調査区東側のかつて上市町となっていた場所では、16世紀の100年前後の間に1mから1.5mの土層堆積が認められる。大陸の都市遺跡で見られるテルと同じ状況である。この点からもこの遺跡が16世紀代には都市として発展したことをよく示している。

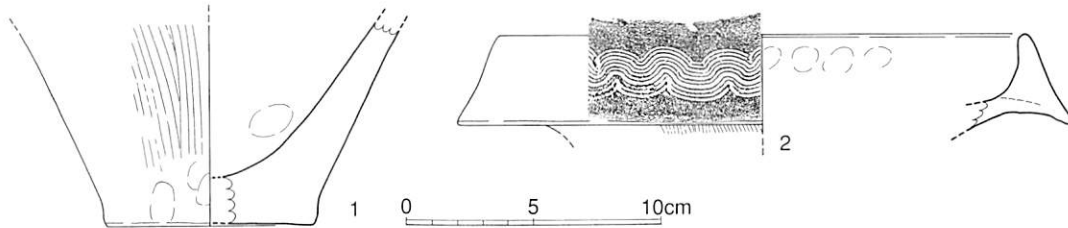


第3-2図 第16次調査区層序概念図

## 奈良時代以前の遺物（第3-3図遺物）

弥生土器

遺構に伴わないが、古代以前の遺物が採集されている。1はSD18出土の弥生時代前期の甕底部片。2は御所小路北側出土の弥生時代後期の複合口縁壺口縁で、櫛描波状文が明瞭である。このような遺物の存在から、すでに弥生時代からこの大分川の形作った微高地上に人間の生活の跡をうかがうことができる。第3章の末尾においても、遺物の補遺をのせるので参照されたい。



第3-3図 奈良時代以前の遺物（1/3）

## 第3節 御所小路北側の遺構と遺物（A・B・C・D地区）

## I. 遺構の概要と基本層序（第3-4図、第3-5図、図版31）

御所小路町

第16次調査区の西半に当たるA～D地区は、「府内古図」における「御所小路町」の北側にあたる。東は「上市町」に当たるが、地籍図等の地理資料からは御所小路町と上市町との境界は必ずしも明瞭ではない。しかし第3-1図のように西半のA～D地区と東半のE～H地区とでは整地層の堆積状態が全く異なり、A～D地区では下に述べるA層の堆積が薄く遺構密度も低い。それに対してE～H地区では遺構の密集と整地の繰り返しによる厚い包含層が形成されることから、考古学的にA～D地区を「御所小路町」に、E～H地区を「上市町」に比定できる。以下に基本層序をのべる。

上市町との境界

## I層：現耕作土

II層：5cm程度の深さで2回に分けて掘り下げた。D地区ではこの層はやや厚い。上面は近世以後の畑地として耕作により削平を受けている。1590年以後の中国景德鎮窯系青花皿F群や、斜めすり目をもつ近世1期の備前焼の播鉢、京都系土師器3期の皿を包含するので、16世紀第4四半期に形成された包含層と考えられる。

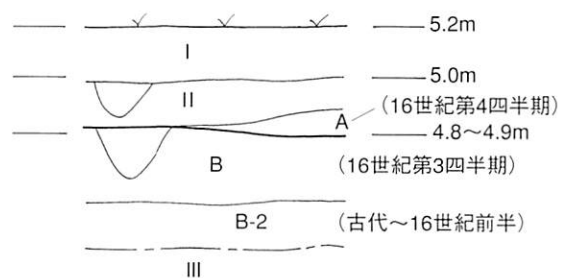
A層はD地区の東端から堆積が始まる層である。上部で京都系土師器3期の皿が含まれるので、16世紀第IV四半期には堆積が終了していたと見られる。

生活面形成

B層：II層3回目とII層4回目として二回に分けて掘り下げた。C地区のK39区付近ではB層上面に生活面が残る場所があり、貝類などの生活残滓が見つかっている。生活面は多少硬化し表面がややよごれた層として認識した。多少の起伏があるがH=4.8～4.9m付近で平坦にその上面が広がっている。一部では整地されたらしい地点もある。出土遺物から16世紀第3四半期に形成された層で、その上面は上市町のC層に対応する可能性がある。

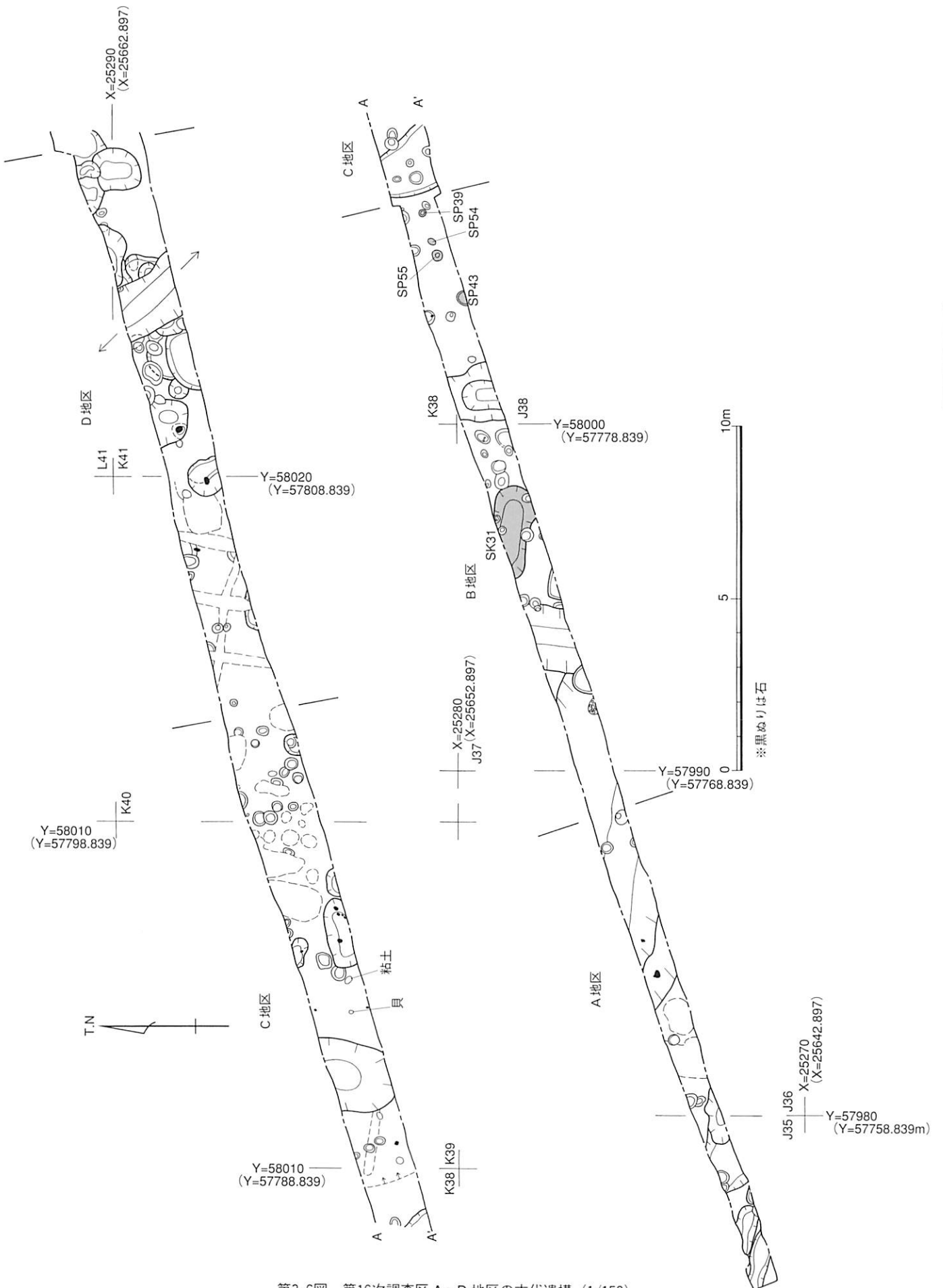
B-2層：基盤IV層 古代の遺構は、すべてこの層の掘り下げ時に検出した。古代の土器から京都系土師器1期の皿までが出土しているので、古代から16世紀前半の包含層と考えられる。

III層：基盤V層 古墳時代以前の包含層。少数ながら遺物が混じる。



第3-4図 A～D地区層序概念図





第3-6図 第16次調査区 A~D 地区の古代遺構 (1/150)

## Ⅱ. 8～9世紀の遺構

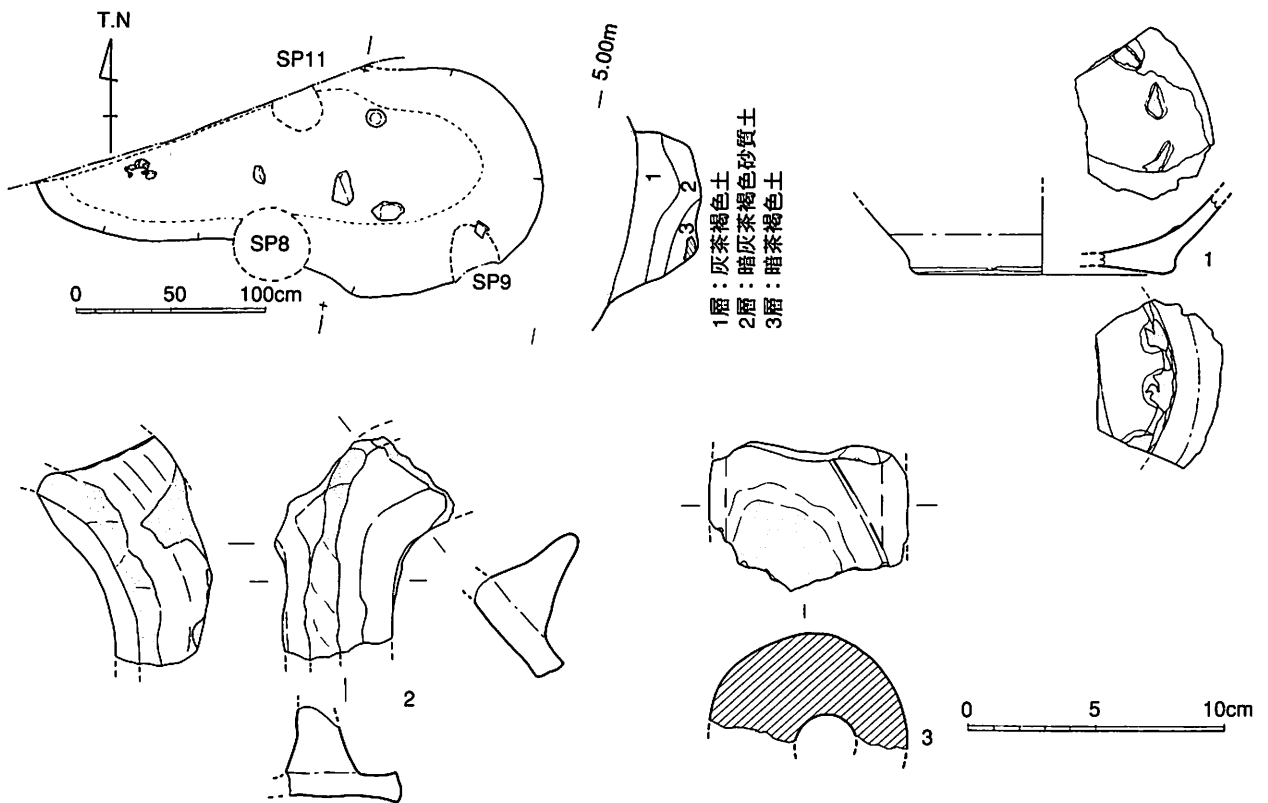
### 概要 (第3-6図)

大半はB-2層掘り下げ時に検出した遺構で、A・B地区のB層はC・D地区のB-2層に対応する。B地区のJ37区とJ38区のB層掘り下げ時、つまり下層で検出した遺構のうち出土遺物の内容から古代の遺構と考えられるものは以下のとおりである。

### 土坑

**SK31 (B地区) (第3-7図、図版39)** J37区のB層1回目掘り下げ後に検出した長円形の土坑である。長さ2.7m、幅1.2m、深さ0.4mで、底の幅は0.6m。おそらくB層上面から掘り込まれた遺構で、溝の先端部の可能性がある。埋没後にSP8・9・11・12に切られている。埋土は三層に別れ3層がゆっくりと堆積した後2層と1層は短時間で埋没している。遺物は大半が破片で埋土中に散在しており、出土遺物から9世紀の遺構と判断した。

**SK31出土遺物** 1は越州窯青磁碗の破片で、2は土師質の移動式甕形土器の一部である。3はふいごの羽口の破片である。図示できるのは以上で、ほかに古代土師器の底部ヘラ切りの坏5点・甕1点、黒色土器A類碗2点や動物骨の一部が出土している。出土遺物は8・9世紀の遺物に限られる。

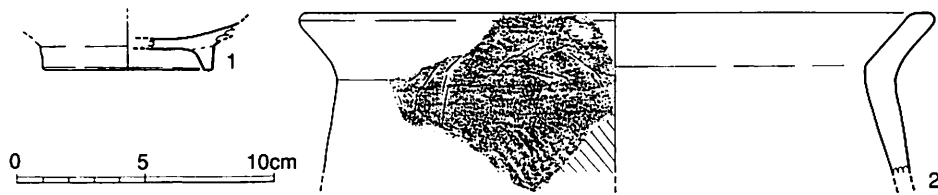


第3-7図 SK31 (遺構1/40、遺物1/3)

### ピット

**SP54・SP55 (B地区)** K38区の2層4回目で検出したもので、B-2層中で掘り込まれたものと推定される。SP54からは古代の黒色土器A類碗の底部片、SP55からは古代土師器の坏口縁片が1点ずつ出土している。いずれも柱穴とみなしてよいが、建物は復元できなかった。

**SP39・SP43 (B地区)** K38区とJ38区の、ともにB層1回目掘り下げ後 (B-2層上面) に検出したもので古代の土師器坏と甕の破片が出土している。



第3-8図 古代の遺物 (1/3)

**8～9世紀の遺物**（第3-8図） II層からB層中出土したものとして、1は黒色土器A類碗底部片。2は土師器の企救型甕口縁部。ほかに須恵器壺1点・甕2点・坏身1点、内面磨きの土師器碗片1点の破片が出土している。

#### 小結

SK31と柱穴

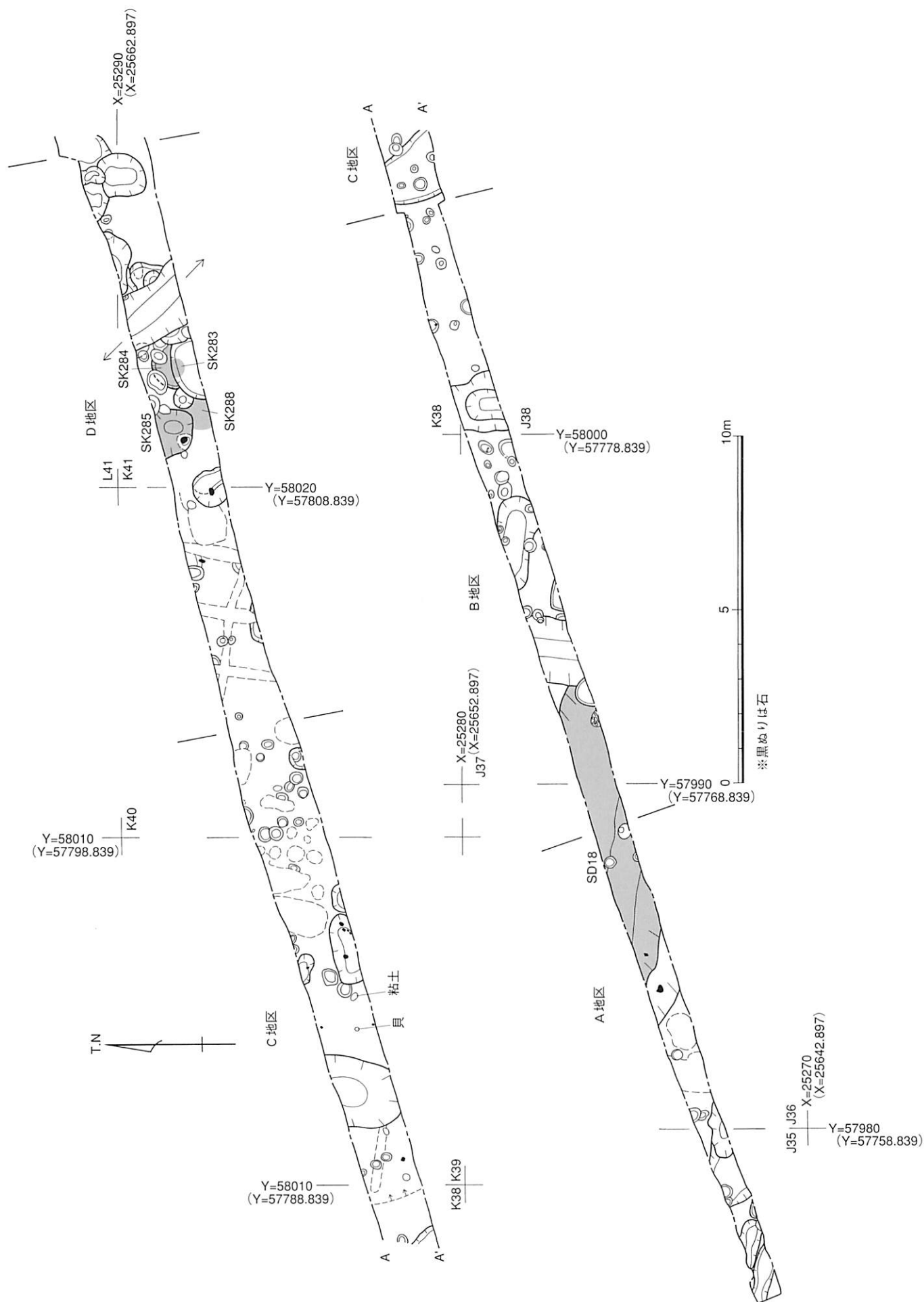
長いトレンチともいえる第16次調査区においても、8世紀から9世紀の遺物が散見される。その中で遺構が検出されるのはB地区の土坑SK31とその東隣のピット群である。SK31が溝の先端部と評価できるならば、第7次調査区で発見された8～9世紀の掘立柱建物群と関係する可能性が出てくる。今後の周辺調査に期待したい。

### Ⅲ. 15世紀以前の遺構と遺物

#### 概要（第3-9図）

大溝 SD18

A・B地区で御所小路のラインと並行する方向に、大きな東西溝SD18がほられる。ほかには溝から東にやや離れたD地区において、土坑とピットの集中地点が認められるが、それ以外にはほとんど遺構は認められない。



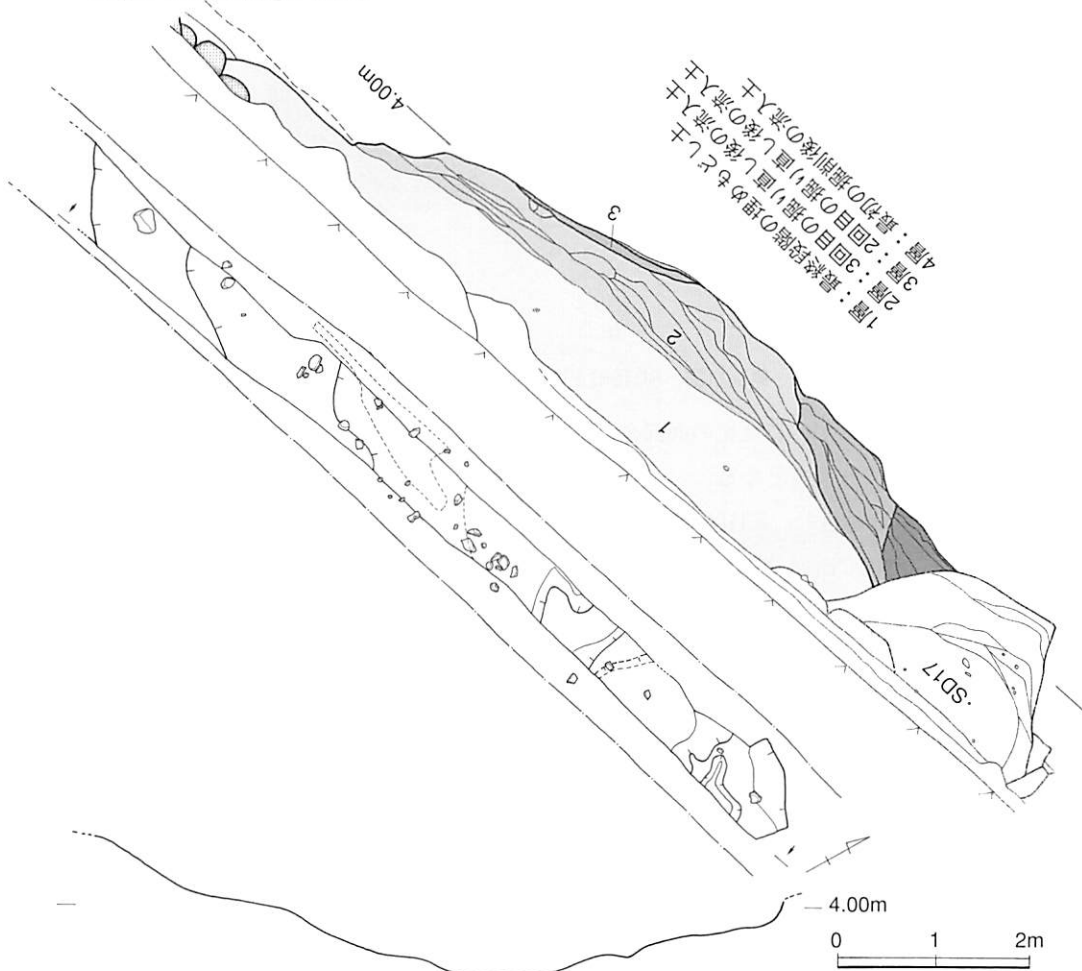
第3-9図 第16次調査区 A~D地区の15世紀以前の遺構 (1/150)

溝

東西方向

16世紀初めに埋没

SD18 (A、B 地区) (第3-10図、図版39) J36・37区のB-2層上から掘り込まれたものと考えられる東西方向の巨大な溝である。幅7m、底面の幅2.5m、深さ1.7m。16世紀第1四半期に掘削されたSD17に切られている。断面は逆台形で、掘り直しの痕跡が2回あり、長期にわたって使用されたものと推定される。そして最終段階では自然埋没ではなく埋め戻された堆積を示す(1層)。出土した土師質土器は底部糸切の在り系土師器のみで、内面にロクロ目を残す土師器や京都系土師器をいっさい含まない。またこの付近では切り合い最古の遺構であるので14世紀から15世紀代の遺構であると推定される。



第3-10図 SD18 (1/80)

14世紀の遺物

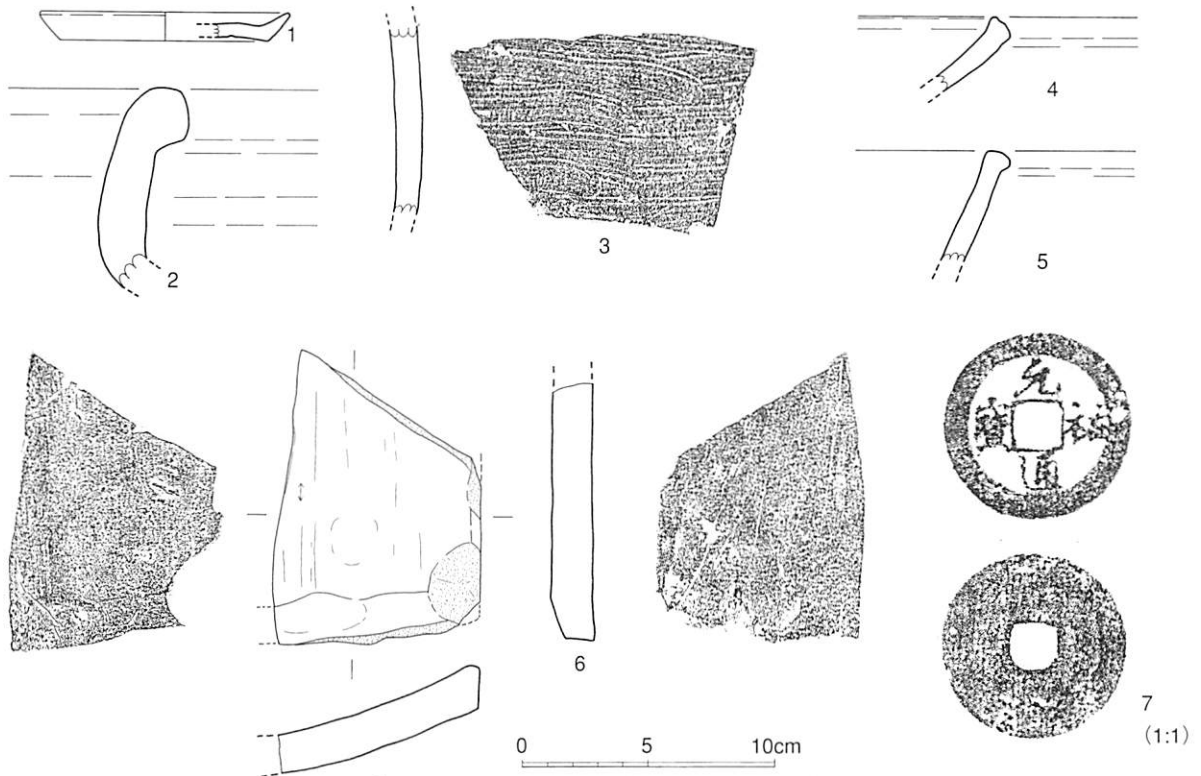
SD18出土遺物 (第3-11図) まとまった形の廃棄状態ではなく、いずれも破片が散在する状態であった。出土遺物として、1は13~14世紀形の土師器小皿、2は14世紀はじめの備前焼甕口縁部、3は中国南部産の陶器壺、4は瓦質鉢の口縁部、5は瓦質鍋の口縁部、6は平瓦の破片であるが、胎土に大型石英粒と結晶片岩を含む佐賀関半島周辺の海部産平瓦である。ほかの瓦の小片も同じ胎土である。7の完形の中国銅銭は元祐通寶(北宋1086年初鑄)である。ほかに図示できないが瓦質火鉢、外面下半に格子タタキを施した鍋、備前焼の甕、白磁皿E群、大内系の白色硬質の土師器片が認められる。

土坑 (第3-9図参照) (第3-12図)

K41区の土坑群

以下の4つの土坑はD地区K41区のB-2層上面すなわち最下層で、切り合って発見された土坑群である。いずれも出土遺物は少なく、土師質土器については内面にロクロ目を残す土師器や京都





第3-11図 SD18出土遺物 (1~6=1/3, 7=1/1)

系土師器を含まず、15世紀の底部糸切の在地系土師器のみであり、層位的にも最古となる。

**SK288 (D地区)** K41区のB層除去後に砂層上で検出された円形の土坑で断面は皿状である。SK284とSK285に切られている。出土遺物は底部糸切の在地系土師器の小片8点のみで、内面にロクロ目を残す土師器と京都系土師器は含まない。

**SK285 (D地区)** K41区のB層除去後砂層上で検出された。

SK288を切り、SP297に切られている。平面不整形円形、断面円形の土坑で、土層は上下に分かれ、下層は灰色が強いグライ化した粘質土、上層は灰茶褐色の粘質土で、いずれもよくしまつて粗砂をまじえる。出土遺物は底部糸切の在地系土師器の小片2点のみで、内面にロクロ目を残す土師器と京都系土師器は含まない。

**SK284 (D地区)** K41区のB層除去後砂層上で検出された長円形の土坑である。SK288を切り、S281・282・283や16世紀末のSD110に切られている。断面は円形に近く、底面は水平ではない。埋土は暗灰紫色細砂混じりの粘質土で、水分が多くややグライ化している。出土遺物には土器の細片が多く、内面に暗文を描く瓦質土器碗2点や1の搬入の薄手白色の京都系土師器を含むが、出土遺物は底部糸切の在地系土師器の小片のみで、内面にロクロ目を残す土師器と在地産の京都系土師器は含まない。鉄釘片が5点出土。

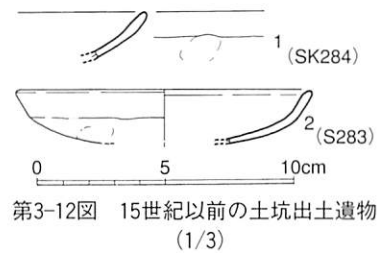
**SK283 (D地区)** K41区のB層除去後に検出した浅い船底状の小土坑で、SK284とSK288をきる。埋土出土遺物ともにSK284に等しく、2の搬入の薄手白色の京都系土師器を含むが、出土遺物は底部糸切の在地系土師器の小片のみで、内面にロクロ目を残す土師器と在地産京都系土師器は含まない。

#### 小結 (第3-9図参照)

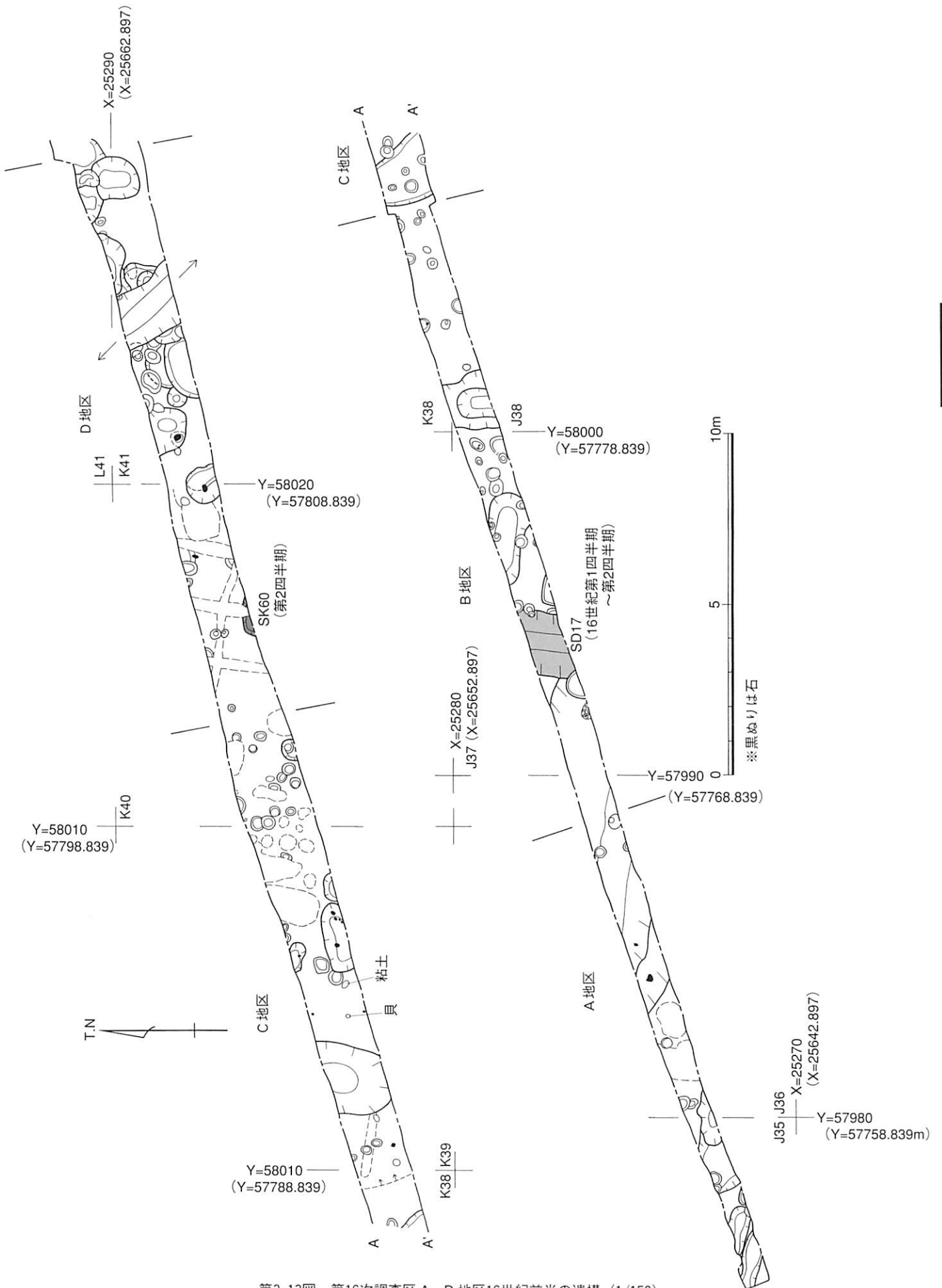
以下に概要を述べる。

①大溝SD18は東西に伸びるもので、御所小路の道路推定ラインの北側に平行して掘られてい

御所小路のラインに平行



第3-12図 15世紀以前の土坑出土遺物 (1/3)



第3-13図 第16次調査区A~D地区16世紀前半の遺構 (1/150)

14・15世紀の  
区画

る。ただし、御所小路の道路は後述するように、16世紀後半の築造であるから、14・15世紀代にSD18と御所小路が並存していたわけではない。おそらく14・15世紀の大溝の区画線が、溝埋没後に機能しており、そのラインを生かすかたちで16世紀後半に御所小路の道路が建設され、その北側に宅地が設定されたものと考えられる。

SD18以北空  
閑地？

②15世紀のSD18以北にはほとんど遺構はない。わずかにD地区で土坑が4基集中するのみである。この付近には都市あるいは住民集住を想定させる要素はない。

#### IV. 16世紀第1四半期の遺構と遺物

##### 概要 (第3-13図)

埋没した大溝SD18を切って、SD17が掘られている。方向はSD18と直交する南北方向である。この南北溝SD17は7次調査区のSD538の位置にあう。それ以外にこの時期の遺構と考えられるものはない。

##### 溝

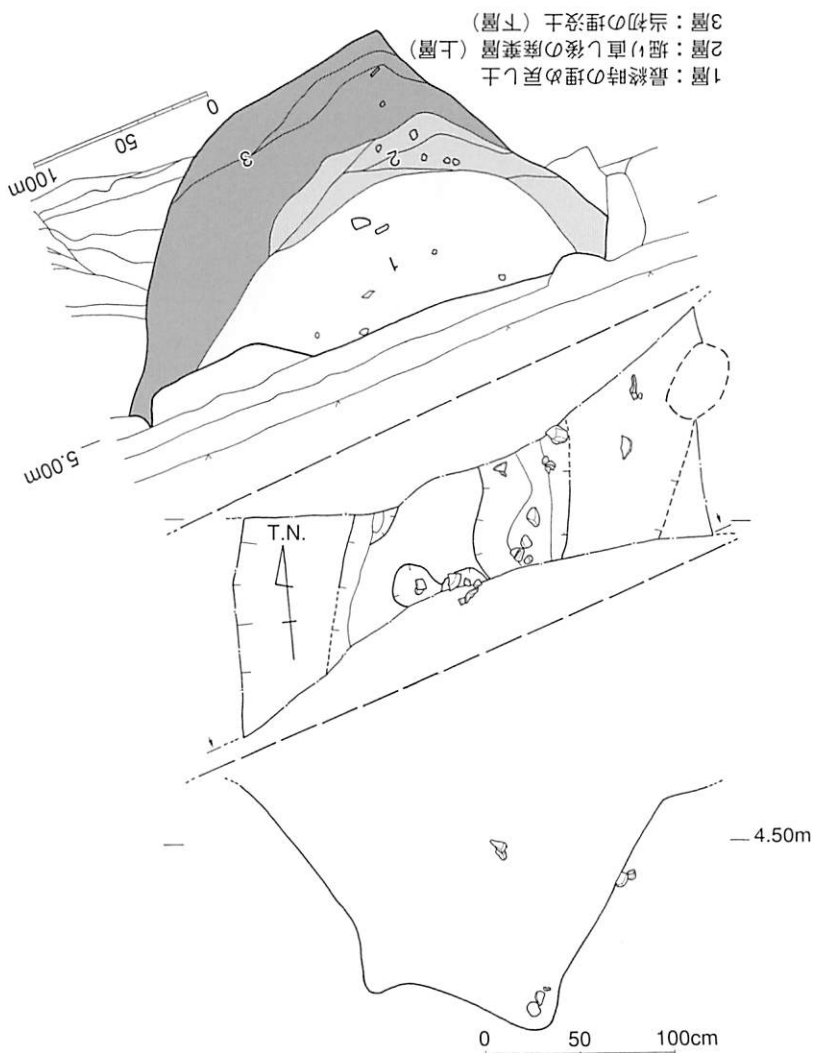
南北溝

**SD17 (B地区) (第3-14図、図版39)** J37区のB層上面から掘り込まれたものである。14・15世紀の溝SD18を切り、埋没後SK4・5に切られている。南北方向の掘られた逆台形の溝の一部である。第7次調査区のG区SD538の方向に一致する。内部には部分的にまとまった炭層や土器の廃棄単位が認められるが、ほかの遺物は散在しており埋没時の流れ込みと見られる。下層は京都系土師器を含まず、上層の廃棄単位の中に京都系土師器1期の皿を含むところからSD17は16世紀第1四半期に掘削され、埋没が完了する第2四半期にまで利用されたものと見られる。その間に層序から見て1回の掘り直しが認められる。なお、このSD17は、大分市調査第58次調査区のSD020に対応する可能性が高い。

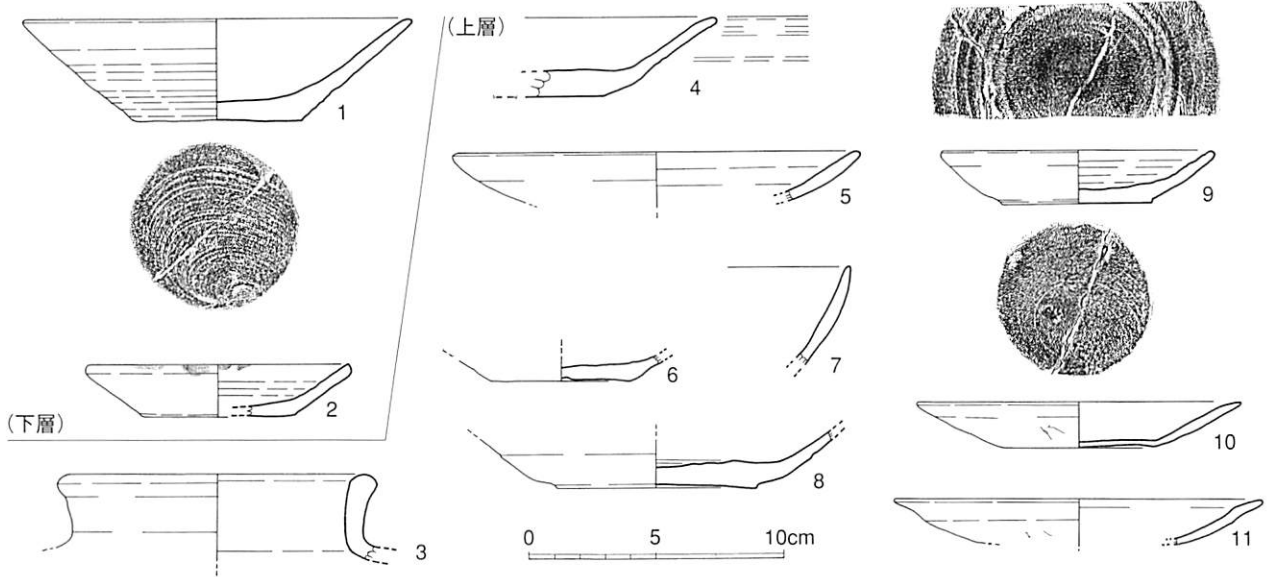
58次SD020  
と接続

##### SD17出土遺物 (第3-15図)

(下層) 1・2は内面にロクロ目を残す土師器の皿と小皿、1は内面の工具痕をナデ消し、2は口縁部を上方に摘み上げ、煤が付着して灯明皿として使用されている。ほかに備前焼の甕胴部1点。底部糸切の在地系土師器26点。大内系土師器7点。内面にロクロ目を残す土師器3点。極薄の



第3-14図 SD17 (1/40)



第3-15図 SD17出土遺物 (1/3)

京都系土師器0期の皿2点。鉄釘1点。以上の破片が出土している。

ロクロ目土師器主体

(上層) 3は備前焼の壺口縁。4は底部糸切の在り系土師器、5は底部糸切の在り系土師器口縁。6と7は底部糸切の在り系土師器底部。8は内面をナデ消した内面にロクロ目を残す土師器皿。9は内面にロクロ目を残す土師器小皿。10と11は薄手白色の京都系土師器0期の皿で搬入品と考えられる。ほかに中国焼締陶器1点。中世陶器鉢底部1点。備前焼の甕胴部1点。瓦質土器1点。底部糸切の在り系土師器3点。内面にロクロ目を残す土師器6点(底部3)。以上の破片が出土している。

### 小結

区画溝とその東西

この付近の16世紀第1四半期は、15世紀代につづいて遺構が極めて少ない。御所小路の道路建設以前ではあるが、そのもととなる区画のラインの存在が御所小路のライン上に想定されるので、南北溝SD17は敷地を東西に区切る区画の溝とみなすことも可能である。しかし両側に遺構が集中する様子はなく、溝SD17が半世紀にわたり長期間利用されて状況をみると、溝の東西はながらく空閑地であったと考えられる。

## V. 16世紀第2四半期の遺構と遺物

### 概要 (第3-13図参照)

溝SD17がこの時期まで機能し、埋没するほかは、土坑が1基みつかったのみである。

SK60 (D地区) K40区のB-2層上で検出したもので南壁にかかり、平面断面ともに不整な円形をしめす。埋土は単層で暗茶褐色土で少量の炭焼土と土器片を含み、景德鎮青花小片1点、京都系土師器1期の皿1点、瓦質鍋片3点(外面格子たたき)を含む。

### 小結

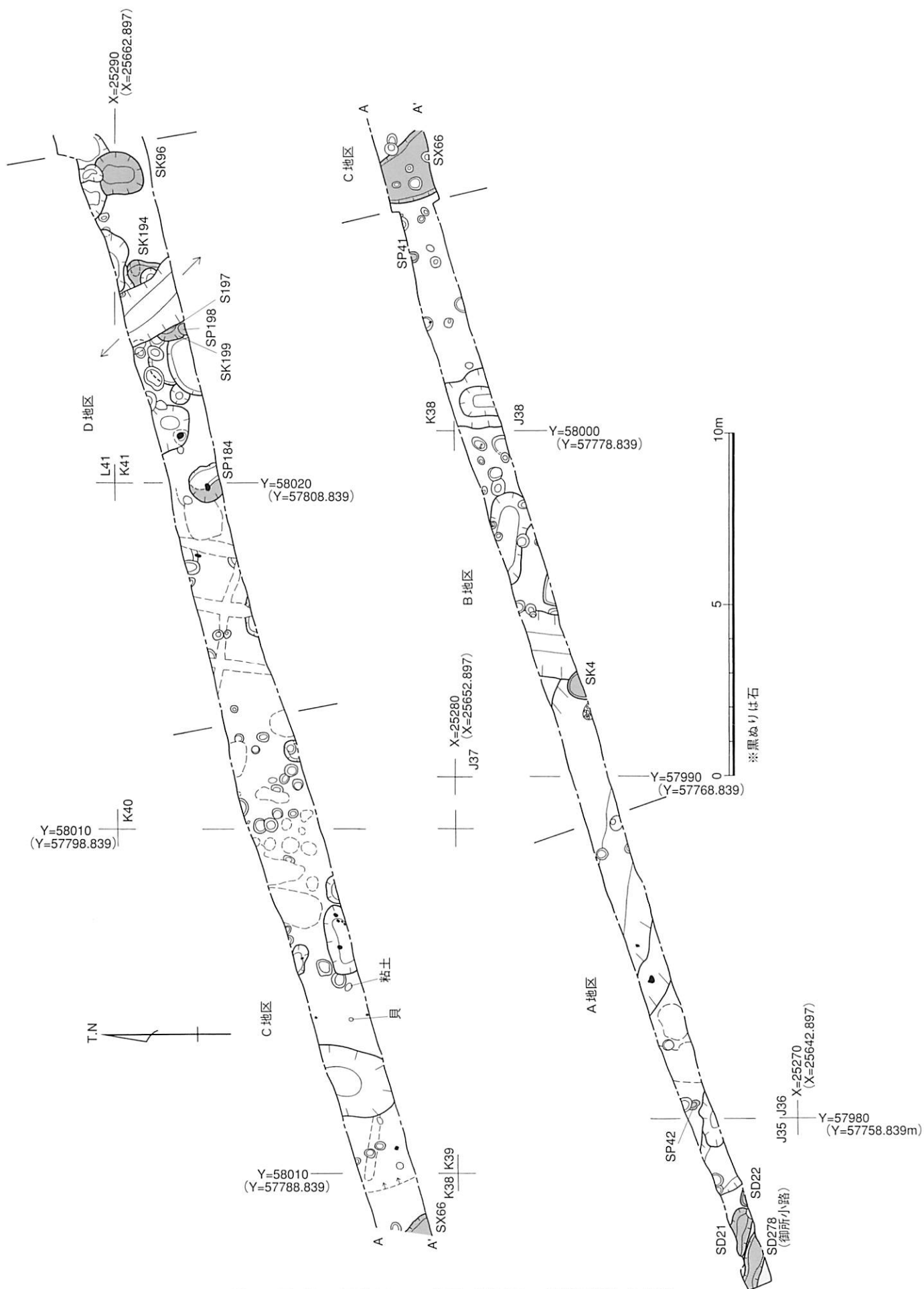
前代と同じように空き地に区画溝SD17が機能していた段階である。

## VI. 16世紀後第3四半期の遺構と遺物

### 概要 (第3-16図)

遺構の増加

B層上面からII層上面にかけて検出された遺構で、切り合い関係と出土遺物の構成から時期を判断した。調査区最西端のA地区で御所小路の道路面と側溝が発見されている。この時期から遺構とみなせる柱穴が散見されるようになる。



第3-16図 第16次調査区A~D地区16世紀第3四半期の遺構 (1/150)

道路遺構 (A 地区) (第3-17図、図版36上)

御所小路

以下に述べる SD278と SD21・22は府内絵図の御所小路の位置と合致する道路側溝と判断される。土層断面からみて側溝には3回の掘り直しがあり、道路の硬化面が作り直されている。

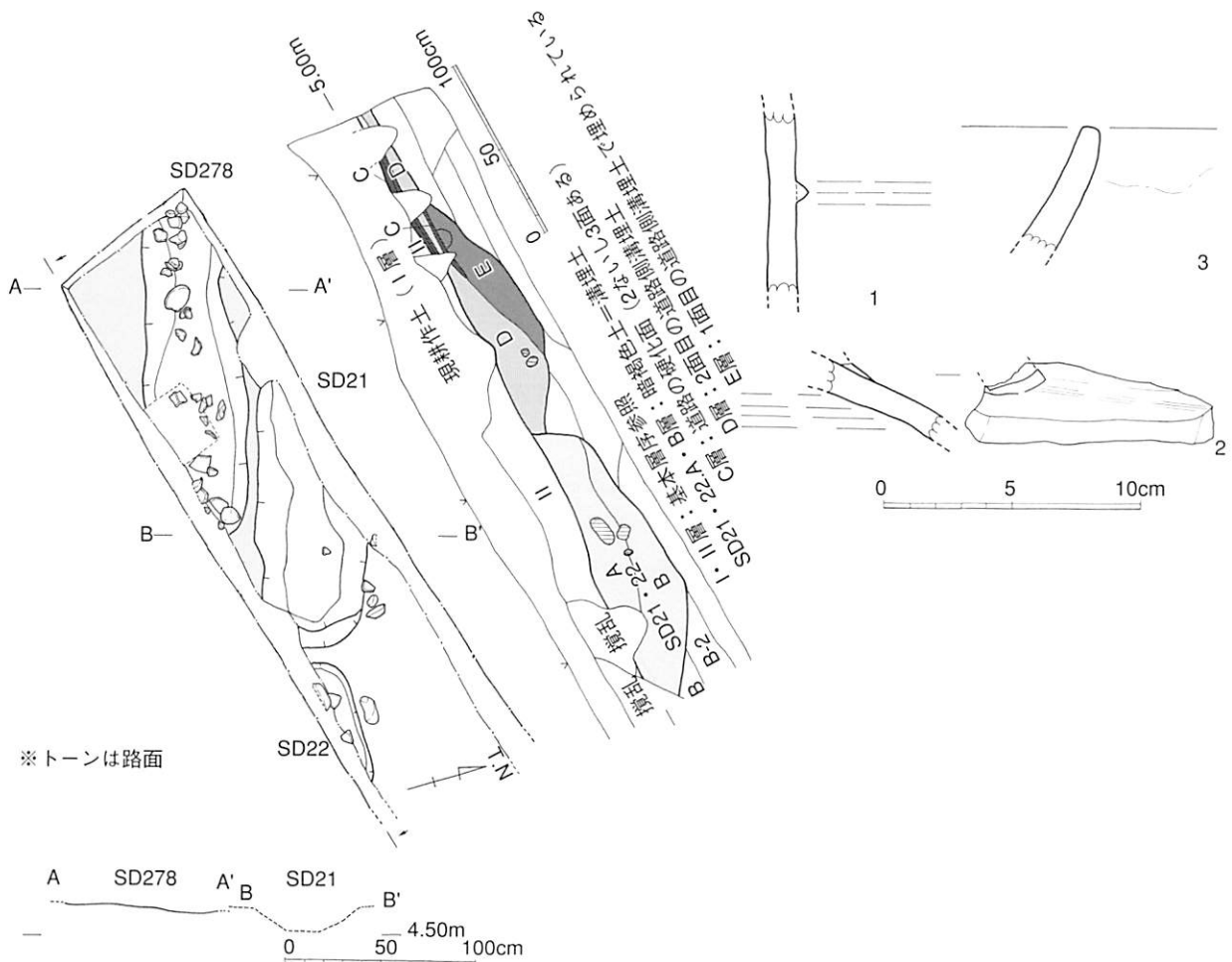
側溝

**SD278 (A 地区) (図版36)** J35区 B 層上面で検出した東西方向に走る細い溝で、断面は皿状である。長さ1.7m 以上、幅0.6m、深さ0.3m。側溝 SD21・22に切られている。内部は小礫や土器片瓦片が詰まっていた。御所小路の最初の側溝である。埋土には京都系土師器 2 期の皿を含む。断面をみると1回の掘り直しがあり、道路面は再生されている。さらにその上に硬化した土層 (C 層) が存在するので、まだ上に道路面があったと考えられるが、すでに削平されている。出土遺物はほとんど掘り直し後のものである。

**SD278出土遺物** 1は備前焼広口壺の胴部片。2はタイ産黒釉陶器壺の肩部片。3は瓦質火鉢の口縁片で被熱している。このほか備前焼の甕、瓦の破片が多く、側溝を埋めるために廃棄したものである。

北に拡大した側溝

**SD21・22 (A 地区) (図版36)** J35区の B 層上面から掘りこまれたもので、側溝 SD278を切る東西方向の溝である。幅0.6m、深さ0.4m。SD21と SD22の間で陸橋状に小さく途切れている。埋土は黒色土で炭焼土が多い。京都系土師器 2 期の皿と中国景德鎮産青花碗 B 群が最新の遺物であるが、切り合い関係から見てSD278の道路側溝を北側に拡張したものである。図示できる遺物はない。青花碗 B 群 1 点。京都系土師器 1 期の皿 1 点。京都系土師器 2 期の皿 2 点。平瓦 1 点。以上の破片が出土している。



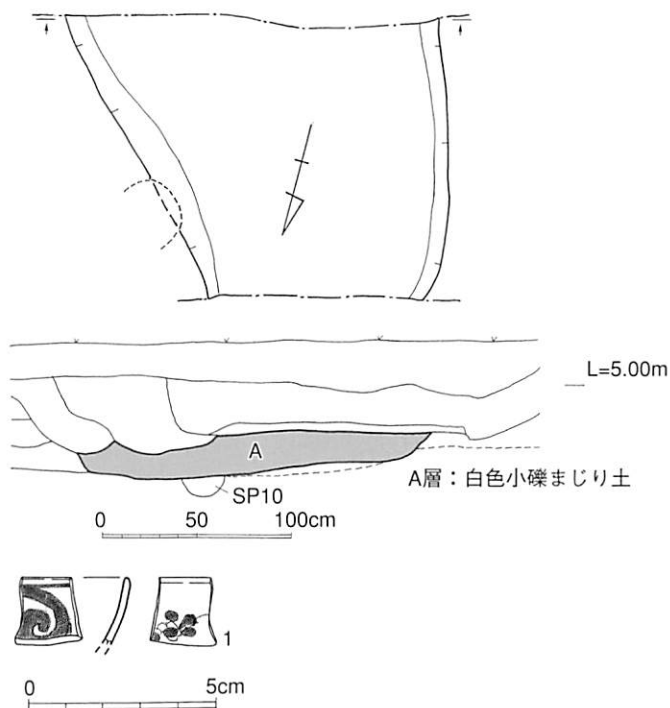
第3-17図 御所小路の道路 (遺構1/40、遺物1/3)

整地層

土坑

**SX66 (C地区) (第3-18図) K38**  
 区のB層上面から掘り込まれたと考えられる遺構である。土坑というよりくぼみに整地を行った感じである。そしてこの整地に伴ってB層上面の生活面が形成されたと考えられる。長さ2m、幅2m、深さ0.2m。SP10を切り、SP61・62・63に切られる。埋土は5ミリ大の小礫を多く含む粗砂層である。最新の遺物が景德鎮青花碗E群であり、B層上面の遺構であるので16世紀第3四半期の遺構である。

**SX66出土遺物** 1は中国景德鎮窯系青花碗E群、このほかに景德鎮青花碗2点。京都系土師器1期皿の破片が出土している。



第3-18図 SX66の遺構と遺物 (遺構1/40、遺物1/2)

廃棄土坑

**SK96 (D地区) (第3-19図) LK41区**のB層上面で検出した長円形の土坑で、断面は皿状である。長さ1.4m以上、幅1.2m、深さ0.3m。第4四半期の遺構 SP118と SK122に切られる。埋土には炭が多く、炭焼土黄褐色土のブロックを多く含む廃棄土坑である。検出時に京都系土師器1期の皿を検出した。B層上面からの掘り込みなのでこの時期と推定される

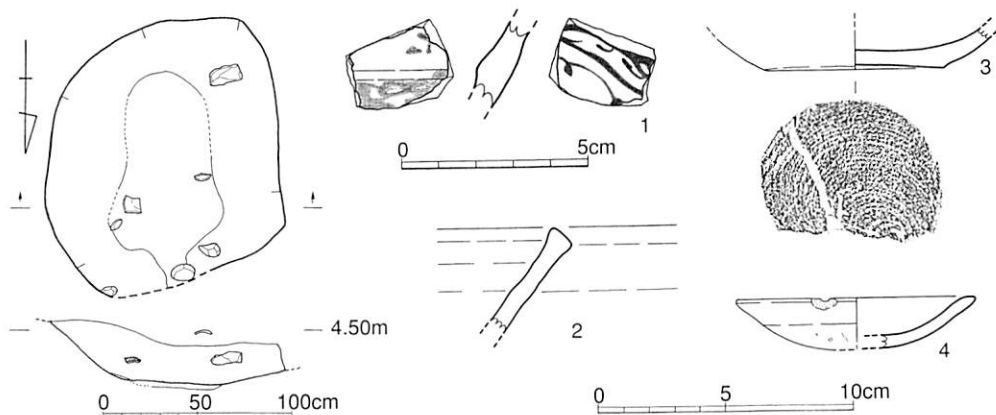
**SK96出土遺物** 1は中国磁州窯産陶器片。2は瓦質鉢の口縁片で河野B類にあたる。3は底部糸切の在地系土師器。4は京都系土師器1期の皿で、口縁に故意の打ち欠きの痕がある。

そのほかの遺構 (第3-16図参照、3-20図遺物)

西側から順に記述する。

**SP42 (A地区)** J36区のB層上面で発見した柱穴で、埋土中に京都系土師器2期皿の破片が出土した。

**SK4 (B地区)** J37区II層1回目掘下げ後に検出した浅い半円形の土坑で、上部にII層土の堆積がある。16世紀前半の溝 SD17を切り、16世紀第4四半期の土坑 SK5に切られている。埋土は被熱した小礫と焼土を多く含む暗黄褐色土の単層で、出土遺物はない。



第3-19図 SK96 (遺構1/40、遺物1=1/2・2~4=1/3)

**SP41 (B地区)** J38区Ⅱ層上面から掘られた柱穴で、柱抜き後に1の内面にロクロ目を残す土師器の皿が出土した。

**SP184 (D地区)** K40区のB層上面で検出の柱穴。B層上面が機能中にはすでに埋まっていた。中央に人頭大の根石があり、かなり大きな柱穴の可能性がある。埋土から白磁1点、瓦質土鍋2点、底部糸切りの在来系土師器15点の破片が出土している。

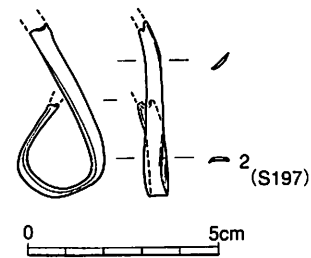
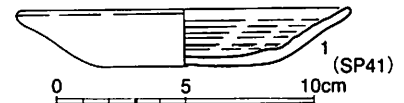
以下の4つの遺構はいずれも第4四半期の溝SD110に切られる遺構である。

**S197 (D地区)** K41区のB層上面で検出した浅い落ち込みで、SK199を切る。京都系土師器2期の皿を最新の遺物とする。埋土はきめの細かい暗茶褐色土の単一層である。2は両端に取り付け部を持つ用途不明の銅製品。ほかに中国景德鎮産青花碗C群2点、青花皿B群1点、白磁、瓦質火鉢1点、吉備系土師器1点、底部糸切の在来系土師器1点はSK96出土片と接合。内面にロクロ目を残す土師器1点、京都系土師器2期の皿10点の破片が出土している。

**SP198 (D地区)** 埋土が同一であるところからS197に付属する柱穴であろう。

**SK199 (D地区)** K41区のS197の底面で検出した円形の小土坑で、第4四半期の溝SD110に切られる。瓦質火鉢の脚部1点や中国景德鎮窯産青花碗E群1点の小片が出土した。

**SK194 (D地区)** K41区のB層上面で検出された土坑で、SP289を切り、第4四半期の溝SD110に切られる。胎土に大型石英の入る海部産の瓦片1点が出土している。



第3-20図 16世紀第3四半期の遺構出土遺物 (1=1/3、2=1/2)

## 小結

御所小路

16世紀第3四半期に御所小路の道路が建設される。舗装方法は上市町の道路と同じであるが、確認されたのは多くて3面の道路面である。第1南北街路の上市町や清忠寺町の道路の舗装枚数に比べると少なく、道路としての使用頻度は少なかったものと推定される。

武家屋敷か

御所小路北側のこの地には16世紀第3四半期になってはじめて、柱穴等が散見されるようになる。おそらく御所小路に南面した宅地が設けられ、内部にまばらながら掘立柱建物が立つようになったと推定される。その際上市町の東西の町屋空間と比べると、遺構の密度は極めて少なく、御所小路に面するとはいえ、この付近が商工業地であったとはとうてい考えられない。おそらく、武家屋敷などの広大な敷地を必要とする宅地になっていたものと推定される。C地区付近のB層上面で生活面が認められるのは、その宅地化と関係すると考えられる。

上市町と御所小路町の境界

D地区の東半の上市町に近いあたりでは、土坑や柱穴がやや増加する。これらは御所小路町の宅地の遺構と考えるよりも、上市町西側の町屋の背後地の遺構とみなすほうが合理的であろう。ただし上市町と御所小路町を区画する遺構を明確に指示することはできない。地籍図から推定すると、その境界はD地区とE地区の境界付近のA層土の堆積が始まる付近となる。

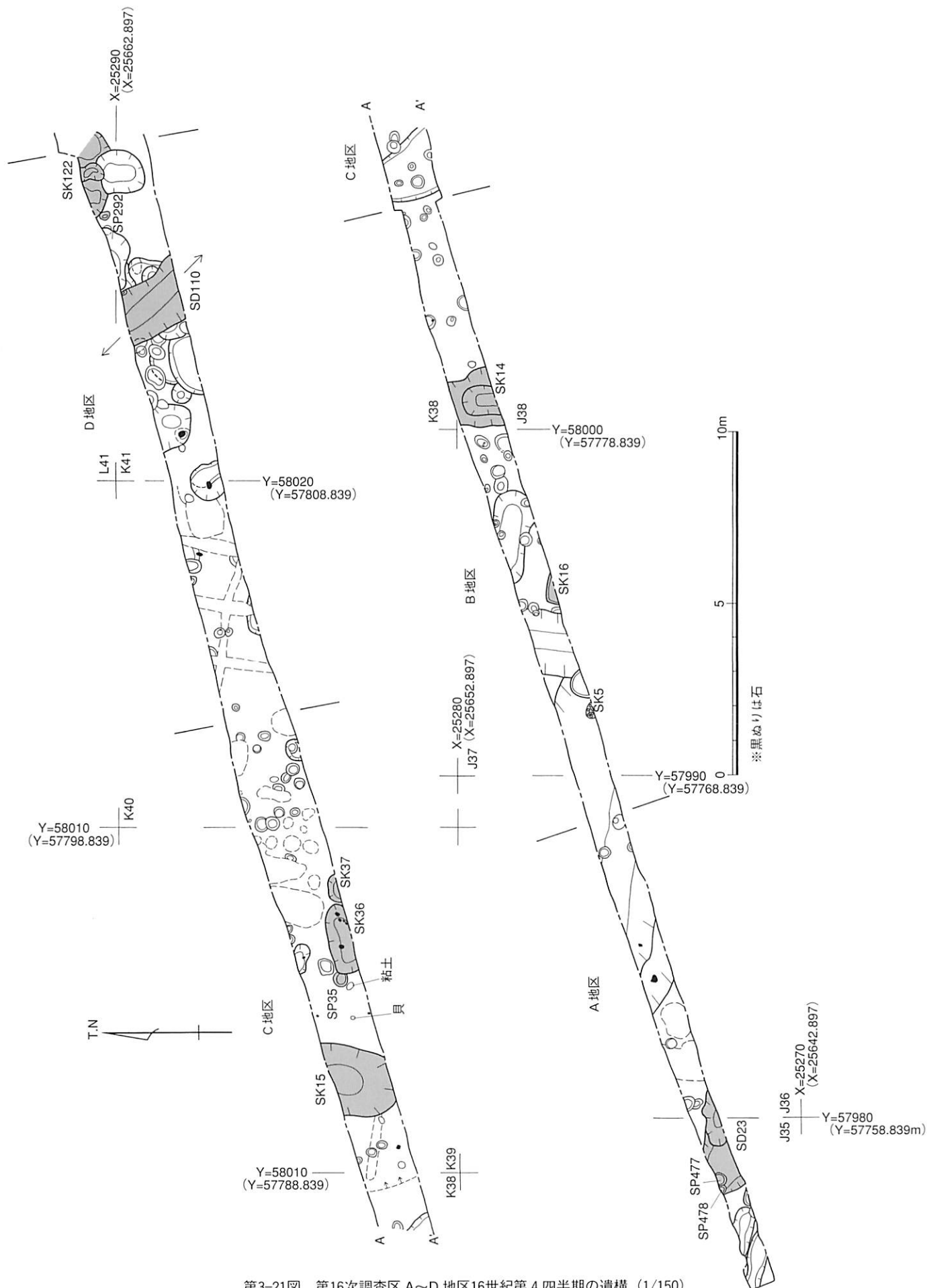
## Ⅶ. 16世紀第4四半期から17世紀初頭の遺構と遺物

### 概要 (第3-21図)

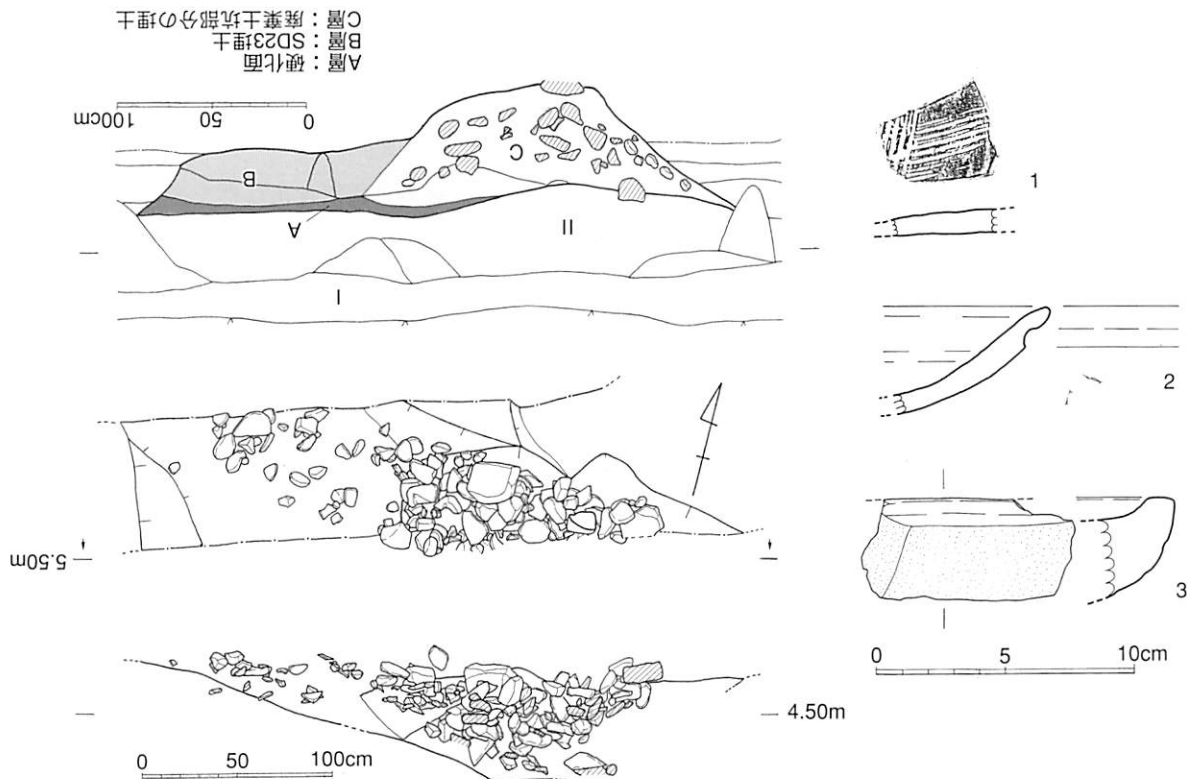
SD110を堺

Ⅱ層上面とD地区のA層上面で検出された遺構である。御所小路の道路側溝が大きく掘り直され、北側の区画には廃棄土坑と柱穴が増加する。D地区の東端には北西-東南方向の溝SD110が掘られる。その溝の東西では遺構の密度が全く異なり、かつ東側ではA層の堆積が始まるので、SD110付近が上市町と、御所小路の境界と考えられる。





第3-21図 第16次調査区A~D地区16世紀第4四半期の遺構 (1/150)



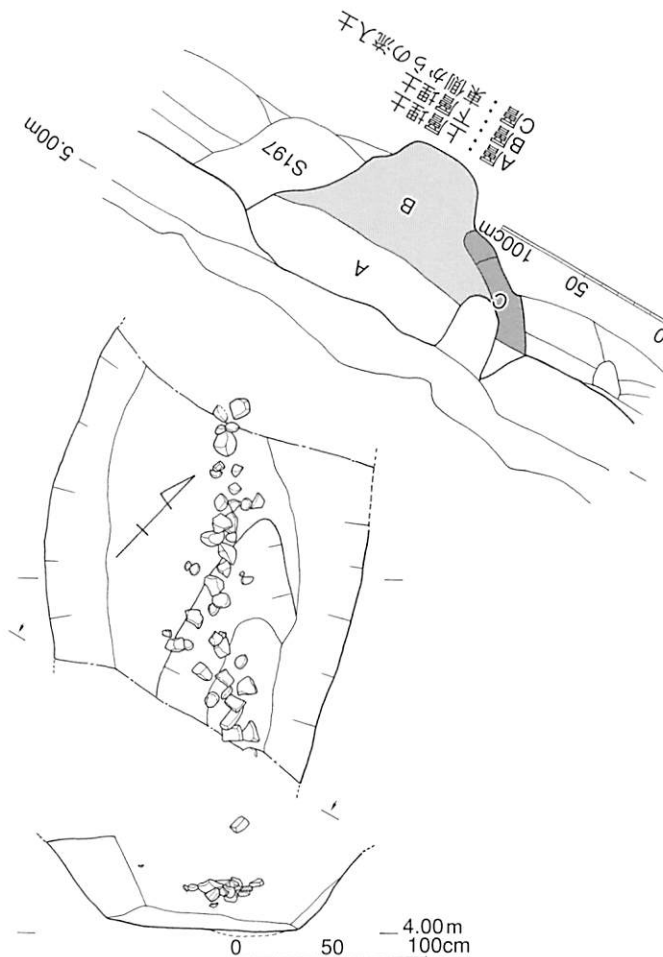
第3-22図 SD23 (遺構1/40、遺物1/3)

溝

御所小路の側溝

SD23 (A 地区) (第3-22図、図版36下) J35区のB層上面で検出した溝である。SP477とSP477に切られている。内部には被熱した礫が充満しており、掘下げるとつれて別の円形土坑と重複していることが判明したが、遺物を分離することはできなかった。A層の整地層が上に乗るので御所小路の拡張で埋没した可能性が高く、京都系土師器3期の皿が出土するので第4 四半期である。

**SD23出土遺物** 1は備前焼播鉢(底部十字すり目)。2は京都系土師器3期の大皿で、外面に煤が付着する。3は安山岩製の茶臼の下臼片で、作りが粗く在地の模倣品か。ほかに白磁皿、中国産焼締陶器、朝鮮灰青釉陶器、備前焼の壺・甕、瓦質火鉢、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器、丸瓦・平瓦の破片が出土している。

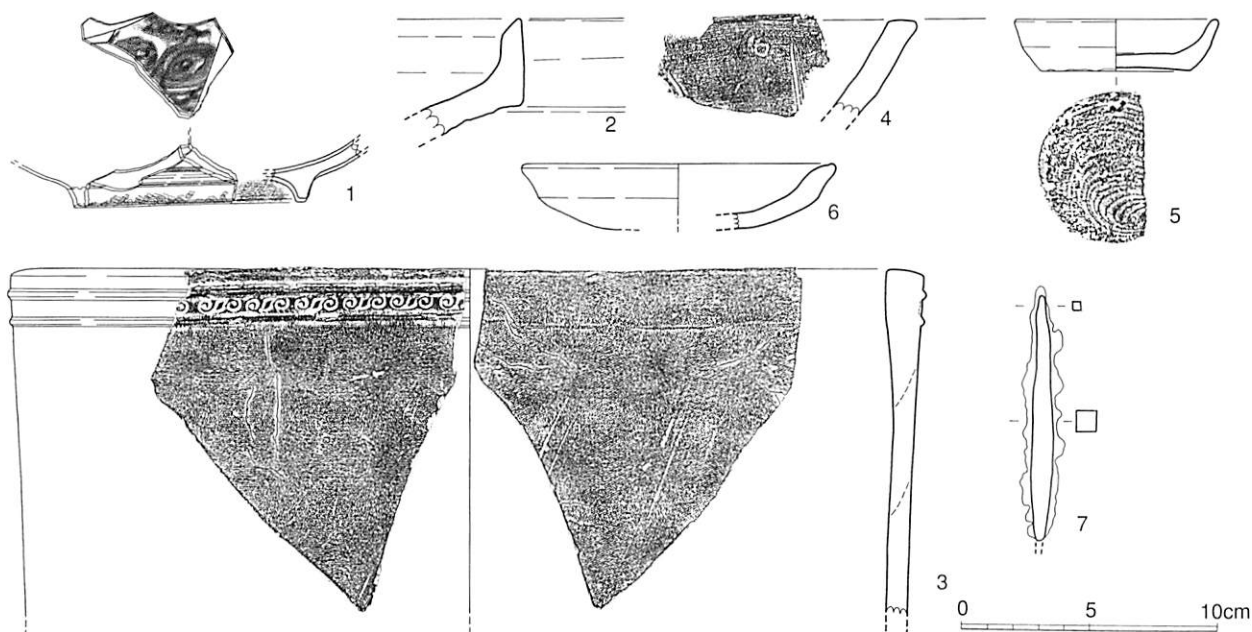


第3-23図 SD110 (1/40)

方向の異なる  
溝

**SD110 (D地区) (第3-23図、図版39)** K41区Ⅱ層上面で検出した北西-東南方向の溝で断面は台形である。長さ1.7m、幅1.0m、深さ0.9m。京都系土師器3ないし4期皿の破片が出土したことからこの時期とした。また切り合い上も最も上位に位置する。埋土は上下に分かれ、下層(B層)の底部付近に人頭大の被熱礫の堆積があり、凝灰岩と安山岩礫が多い。

**SD110出土遺物 (第3-24図)** 1は中国漳州窯系青花碗の景德鎮青花C群を模倣したもの。2は15世紀後半中世5期の備前焼播鉢。3は瓦質火鉢で口縁外面に双頭蕨手流雲文の刻印を施す。4は瓦質播鉢の口縁部。5は在地の糸切土師器の小皿で、胎土に金雲母が多い。6は京都系土師器3ないし4期の皿の口縁部。7は両端の尖った鉄器。ほかに瀬戸美濃産の陶器、京都系土師器1期皿の破片、丸瓦・平瓦、白銅銭が出土した。



第3-24図 SD110出土遺物 (1/3)

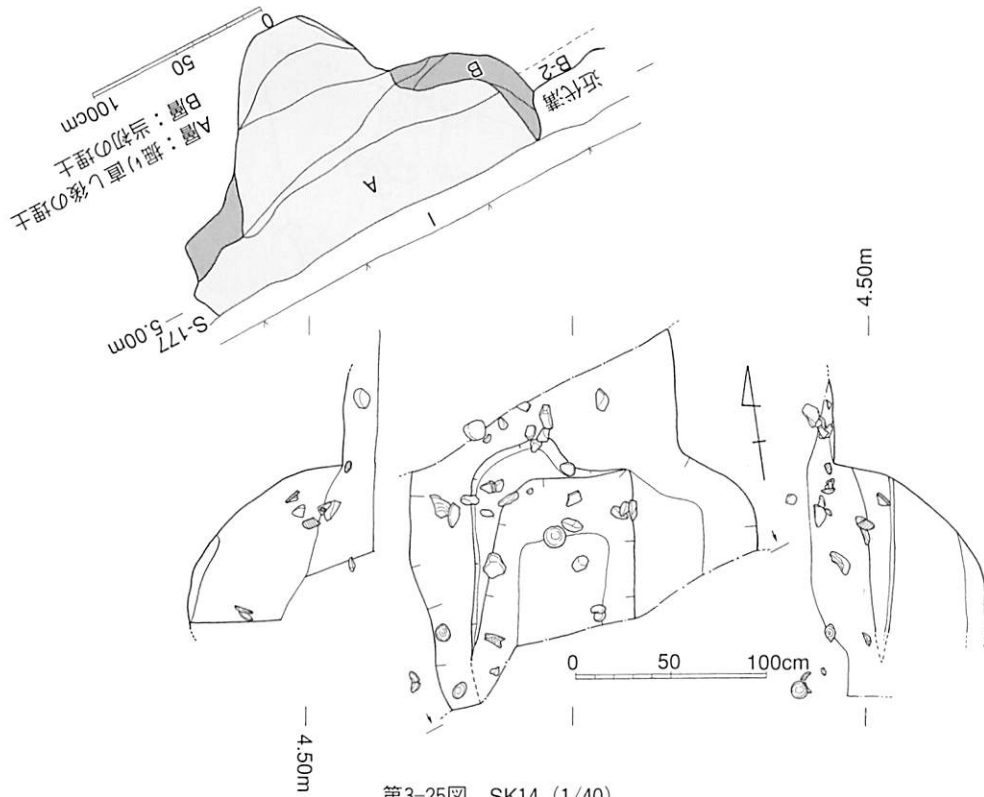
### 土坑

**SK14 (B地区) (第3-25図、図版39)** JK38区のⅡ層上面から掘り込まれたと推定される土坑である。あるいは南北方向の溝とも考えられるが、北から南に向かって階段状に深くなるので、土坑または溝の北端と推定される。幅1.8m、深さ1.2m。SP177に切られる。断面には掘り直しの痕跡が1度あり、出土遺物はほとんど掘り直し後のものである。遺物の出土状態は散在的だが、完形の土師器が廃棄されているので、祭祀的に使用されて廃棄された一括遺物であろう。最新の遺物は近世1期の備前焼播鉢である。

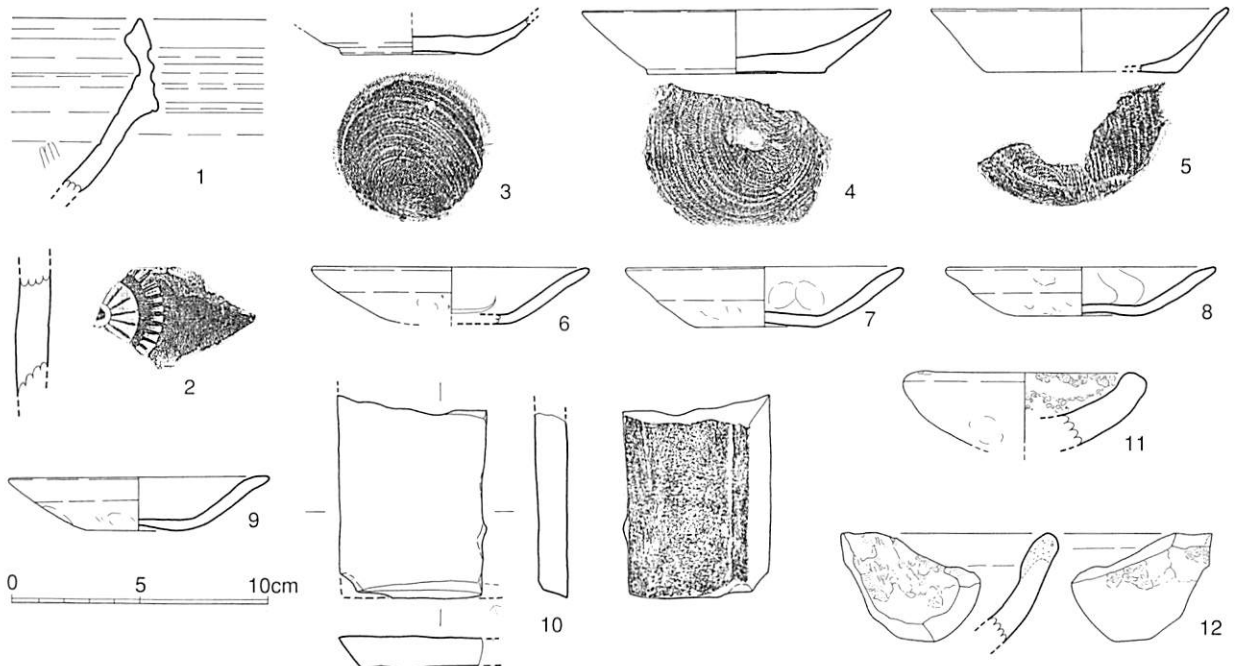
完形土師器廃  
棄

**SK14出土遺物 (第3-26図)** 1は斜めすり目を施す近世1期の備前焼播鉢。2は車輪文の刻印のある瓦質火鉢。3と4は底部糸切の在地系土師器坏。5は薄手の底部糸切の在地系土師器坏。6は接合して完形の京都系土師器1期の皿、7~9は京都系土師器1期の皿で、7と9は完形品。10は平瓦。11と12は土製のるつぼ。内面に緑青と赤色の付着物が多い、高温の被熱で変質し膨れている。

ほかに龍泉窯産青磁碗2点。中世陶器の胴部片2点。備前焼1点。瓦質火鉢3点(胴部2)。底部糸切の在地系土師器坏多数。大内系土師器1点。内面にロクロ目を残す土師器の皿1点。京都系土師器1期の皿11点。鉄釘1点。動物骨1点。以上の破片が出土している。



第3-25図 SK14 (1/40)



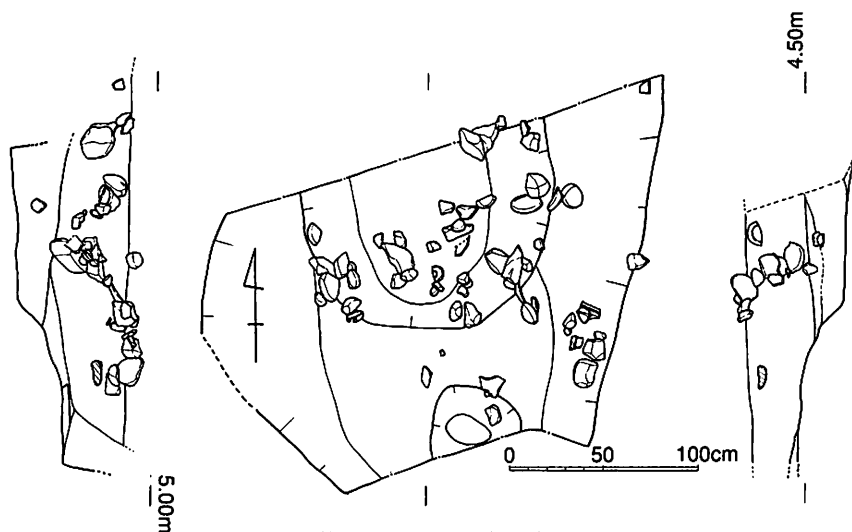
第3-26図 SK14出土遺物 (1/3)

廃棄土坑

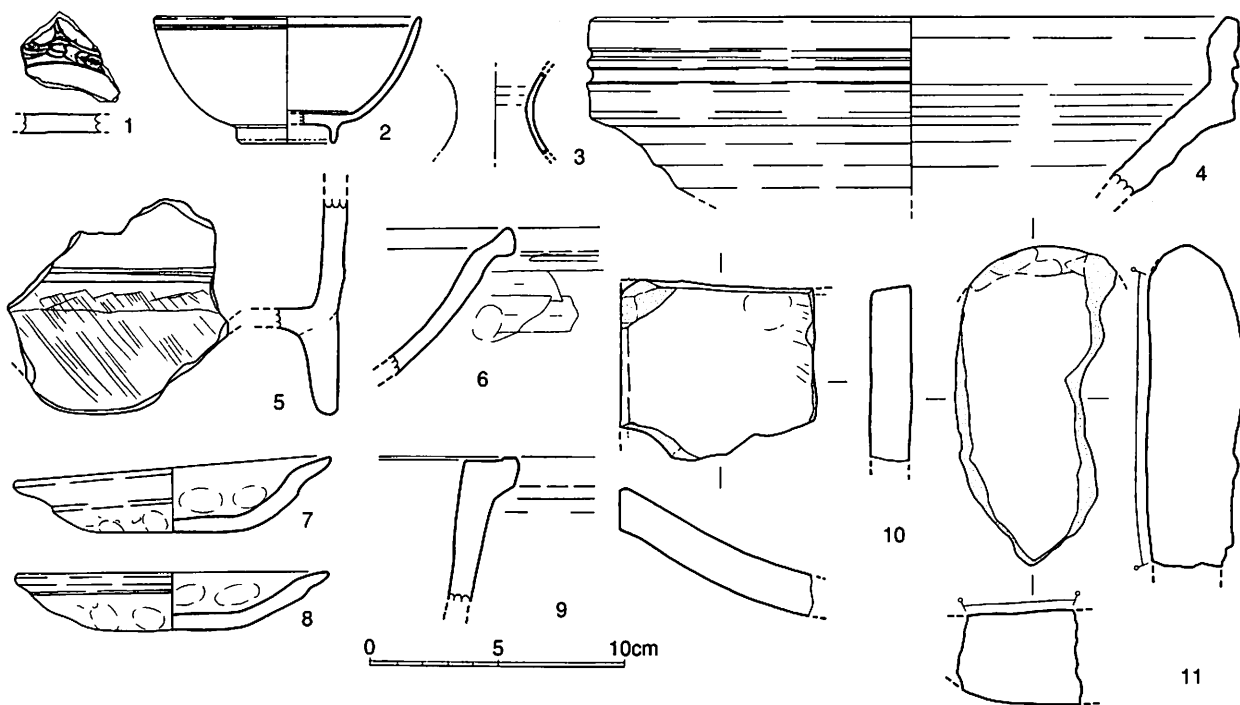
**SK15 (C 地区) (第3-27図、図版39)** K39区のⅡ層上面から掘り込まれた長円形の土坑で断面は逆台形をなす。長さ2.2m、幅2.0m、深さ0.6m。遺物は破片が散在する状況の廃棄土坑である。埋土は暗褐色砂質土の単一層である。最新の遺物が京都系土師器2期の皿と近世1期の備前焼播鉢であるのでこの時期とした。

青花碗E群  
備前焼鉢

**SK15出土遺物 (第3-28図)** 1は13世紀の中国磁窰窯緑釉盤。2は景德鎮青花碗E群。3は朝鮮王朝産舟徳利の頸部。4は近世1b期の備前焼播鉢。5は瓦質火鉢脚部。6は瓦質鍋で外面にケズリを施す16世紀後半の河野 B-2類。7と8は京都系土師器2期の皿で、8は完形品。9は瓦質火



第3-27図 SK15 (1/40)

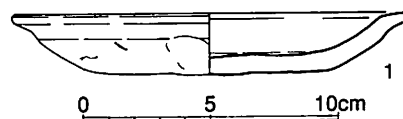
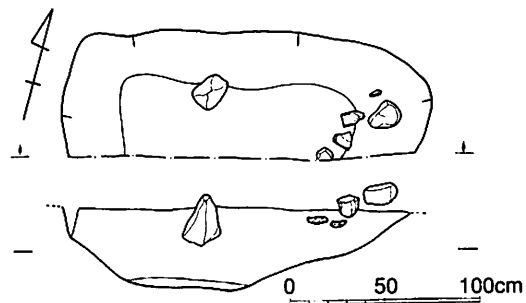


第3-28図 SK15出土遺物 (1/3)

鉢の口縁。10は平瓦。11は石皿。

ほかに中国景德鎮窯産青花碗1点。備前焼甕2点(胴部1、底部1)。瓦質火鉢3点(胴部1、底部1)・鍋7点(胴部5、底部2、そのうち外面へラケズリ1)。瓦質土器碗1点。底部糸切の在地系土師器10点以上。大内系土師器1点。内面にロクロ目を残す土師器2点。京都系土師器1期の皿2点。京都系土師器2期の皿多数。鉄釘2点。貝輪1点。以上の破片が出土している。

京土師2期

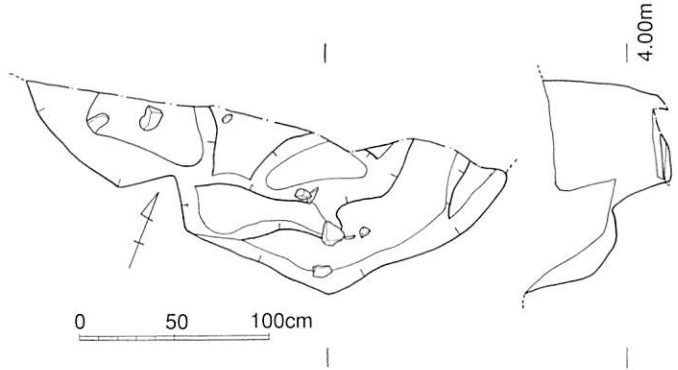


第3-29図 SK36 (遺構1/40、遺物1/3)

**SK36 (C地区) (第3-29図)** K39区Ⅱ層上面から掘り込まれていた。SP35とSK37に切られた隅丸方形の土坑で、断面も方形に近く底面も平坦

方形土坑

であるので、なんらかの機能をもった土坑である。長さ1.9m、幅0.6m以上、深さ0.4m。埋土は上下に別れ、上層は茶褐色砂混じり土で3～4ミリ大の炭焼土に被熱した角礫がはいる。下層は地山の砂層に上層土のブロックが混じった土で、掘ってすぐ埋まったもの。遺物は下層からは出土しない。遺物は碎片が散在する状況で、最新の遺物が京都系土師器3期の皿であるのでこの時期とした。



第3-30図 SK122 (1/40)

京土師3期

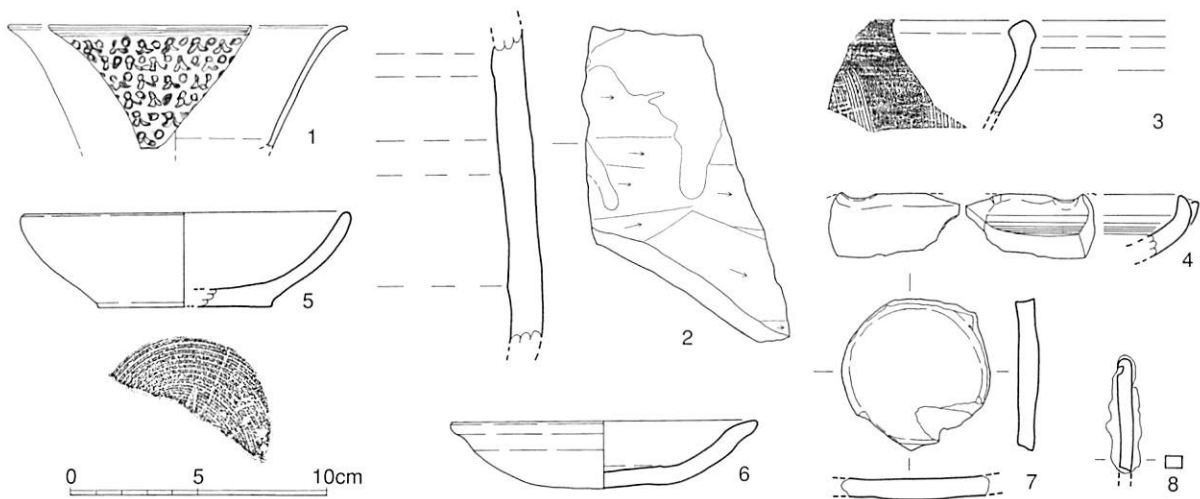
**SK36出土遺物** 1はその京都系土師器3期の皿口縁部。ほかに中国産褐釉陶器1点、備前焼の甕1点、瓦質鍋1点、底部糸切の在り系土師器12点、京都系土師器2期の皿2点の破片が出土している。

**SK122 (=SK120) (D地区) (第3-30図)** L41区の西4区画のB層上面掘り下げ時に検出した不整長円形の土坑である。長さ1.8m、幅1m以上、深さ0.8cm。上部にB層整地層があるので、B層上面使用時にはすでに埋没している。当初別の遺構としたSK120とSK122は掘下げ後同一の遺構であることが判明した。同時期のピットSP118に切られた土器片を多量に含む廃棄土坑である。最新の遺物が京都系土師器3期の皿である点と層位からこの時期とした。

廃棄土坑

**SK122出土遺物 (第3-31図)** 1は中国景徳鎮窯産青花碗で、口縁が外反したB群。2はタイ産黒褐釉陶器の壺片、3は中国南部産焼締陶器鉢の口縁部片、4は備前焼の皿口縁部、5は胎土に金雲母を多量にふくむ搬入品の底部糸切の土師器坏、6と7は京都系土師器2期と3期の皿で、後者は口縁部全周を故意に打ち欠いている。8は環頭状に先端を折り曲げた鉄製の金具で、火箸の可能性もある。ほかに龍泉窯産青磁碗D類、白磁碗、景徳鎮青花碗・蓋、焼けた青釉小皿、備前焼壺・甕・播鉢、瓦質火鉢・鍋、底部糸切の在り系土師器、内面にロクロ目を残す土師器、土壁片、平瓦、鉄釘などの破片が出土している。

華南の鉢  
備前の茶陶皿



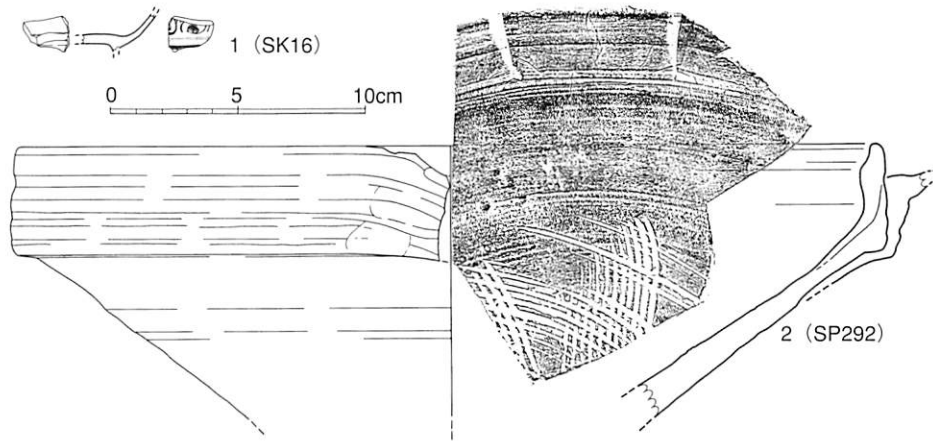
第3-31図 SK122出土遺物 (1/3)

そのほかの遺構 (第3-32図)

**SP477** (A地区) J35区検出のピットで、第4四半期の溝SD23を切る。埋土は白色粘土混じりの暗灰褐色土。鉄釘や京都系土師器1期の皿の破片を含む。

**SP478** (A地区) J35区検出のピットで、第4四半期の溝SD23を切る。SP477とくらべて白色粘土はあまり混じらない。

**SK5** (B地区) J37区のII層上面検出の平面断面ともに円形の小土坑である。16世紀第3四半期の土坑SK4と15世紀の溝SD18を切る。底部に被熱した礫が集中する。備前焼甕の破片が出土している。



第3-32図 そのほかの遺構出土遺物 (1/3)

**SK16** (B地区) J37区のII層上面で検出した方形の土坑で底面も平坦である。埋土は単層で、茶褐色砂混じり土で炭焼土を少量ふくむ。1は中国景德镇窯産青花碗E群で、層序から時期を判断した。

**SP35** (C地区) K39区のII層上面から掘り込まれたと推定されるSK36 (16世紀第4四半期の土坑)を切る柱穴。

**SK37** (C地区) K39区のII層上面から掘り込まれたと推定されるSK36を切る円形の土坑で、底面は平坦である。埋土は茶褐色砂混じり土で炭焼土を少量ふくむ単一層である。

**SP292** (D地区) L41区東側のA層上から掘り込まれたと考えられる柱穴である。乗岡編年近世I期の斜めすり目をほどこす備前焼播鉢の口縁部が出土した。柱抜き取り後に廃棄されたものである。2はそれである。

小結

16世紀の第4四半期になると溝SD23の上面まで御所小路の道路面が及ぶようになった。道路幅が北側に拡張したのか、あるいは道路自体が北側に中心を移動したかのいずれかであろう。今のところ御所小路の道路の南限を調査していないので、答えはでていない。

この時期に御所小路町北側の東限と上市町西側の西限の境界、すなわち御所小路町と上市町の境界がはっきりとしてくる。溝SD110は最終的には17世紀初めまで存続しており、その方向は御所小路の道路と斜交するが、検出されたのはその一部に過ぎないので、どのように延びていくのか定かではない。この溝を境に、①遺構の分布密度と②土層の堆積状態が全く異なっている。すなわちSD110西側では遺構が少なく、かつ生活面も多くても2面であるのに対し、東側では土坑・柱穴がおびただしく分布・重複して掘られ、しかも生活面が最低5面以上、その間に3回以上の焼土層を

確認できる。このようにSD110は土地の境界として機能したものと推定される。

御所小路北の  
宅地

さて以上の御所小路の道路と東限の溝SD110に限られた御所小路町北側では、いくつかの土坑と柱穴が散見される状況である。前代の16世紀第3四半期の状況よりは遺構の密度は増している。しかし町屋の状況と比較すると、それはやはり疎であり、建物が少ないので町屋ではなく、武家屋敷として引き続き利用されたものと推定される。

### VIII. 包含層・整地層出土の遺物 (第3-33図)

I層：現耕作土 出土遺物は省略。

II層：16世紀第IV四半期～17世紀初頭の包含層。

青花F群  
近世1C期の  
備前焼

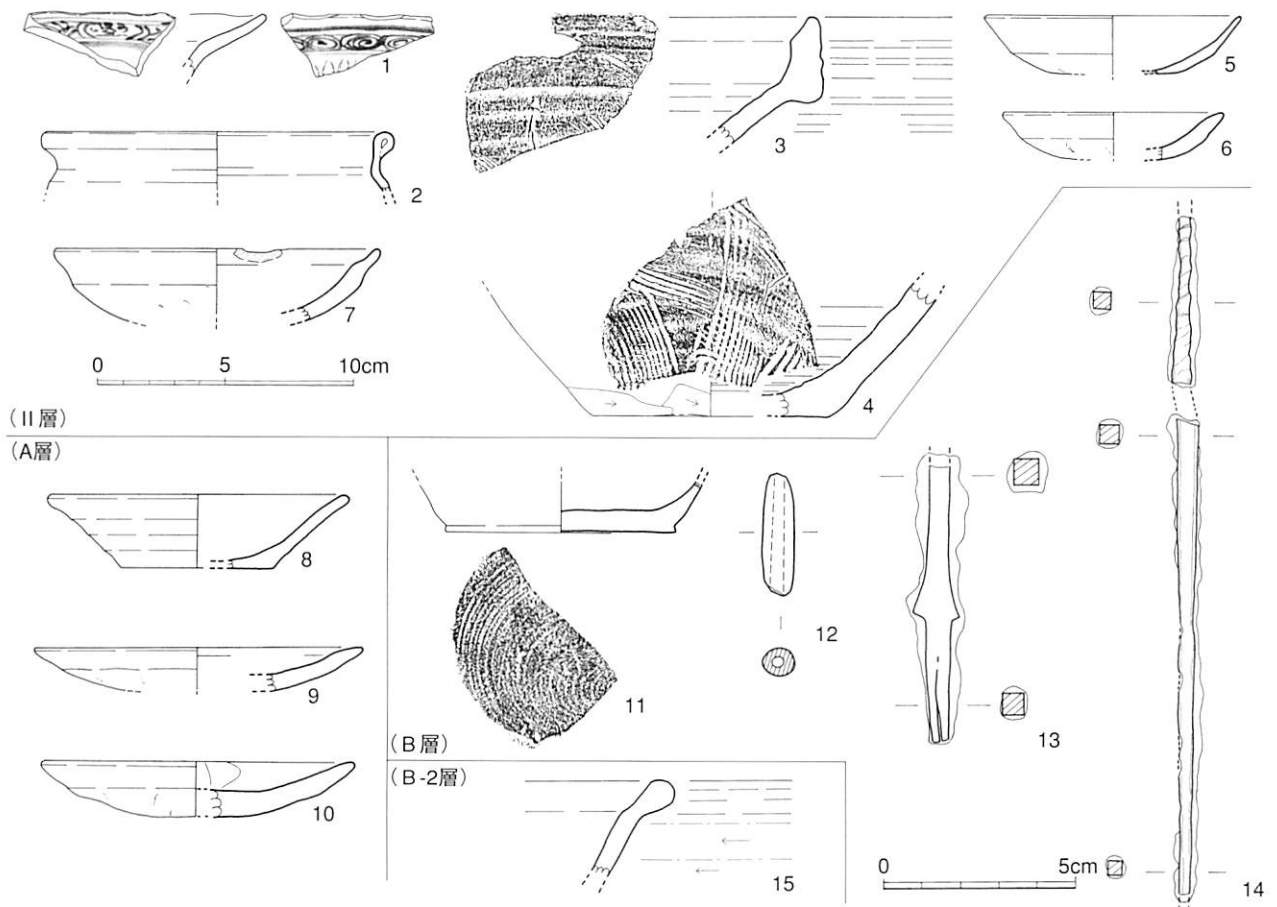
1は景德鎮青花皿F群のいわゆるつば皿口縁。2は中国焼締陶器鉢B類口縁。3は17世紀まで下る近世1c期の斜めすり目をほどこす備前焼播鉢口縁。4は同じく近世1期の備前焼播鉢底部。5は京都系土師器1期の小皿口縁部。6は京都系土師器2期の小皿口縁部。7は京都系土師器3期の皿で、口縁に故意の打ち欠きが有り、被熱している。

ほかに備前焼の甕2点。近世1期の備前焼播鉢2点。瓦質甕1点・播鉢1点・火鉢1点。瓦質土器3点。内面にロクロ目を残す土師器の小皿1点。京都系土師器2期ないし3期の皿20点。分類不能の京都系土師器40点。丸瓦1点・平瓦2点の破片が出土している。

A層 (D地区の東端にのみ堆積)：16世紀第4四半期～17世紀初頭の包含層。

京土師3期

8は底部糸切の在り系土師器杯。9は京都系土師器2期の皿口縁部。10は京都系土師器3ないし4期の皿口縁部。



第3-33図 包含層・整地層の出土遺物 (1~12=1/3、13・14=1/2)



**B層**：16世紀第3四半期の包含層。

11は底部糸切の在地系土師器坏の底部。12は管状土錘B類の完形品。13は鉄鎌基部。14は鉄製火箸で、もち手部分をねじっている。

京土師2期

ほかに瓦質火鉢1点・播鉢1点。底部糸切の在地系土師器20点。大内系土師器1点。内面にロクロ目を残す土師器2点。京都系土師器1期の皿1点。京都系土師器2期の皿3点。鉄釘2点。貝輪1点の破片が出土している。

**B-2層**：古代から16世紀前半の包含層。

15は瓦質鍋口縁で、外面ヘラケズリの河野B-1類。

京土師1期

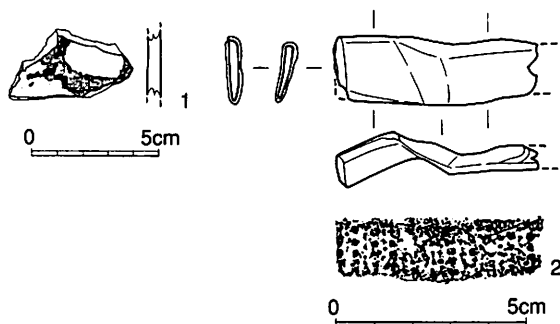
ほかに瓦質鍋口縁1点。底部糸切の在地系土師器、内面にロクロ目を残す土師器、大内系土師器あり。京都系土師器1期皿1点などの破片出土。

**Ⅲ層**：基盤Ⅴ層。出土遺物なし。

**そのほかの遺物 (第3-34図遺物)**

1はA地区出土の中国磁窰窯緑釉盤。

2はD地区出土の鉄芯銅版巻きの小柄で、表面に打ち出しによるなまこ模様がある。



第3-34図 A~D地区出土遺物 (1=1/3、2=1/2)

**Ⅸ. まとめ**

御所小路北側の調査成果を、以下に箇条書きでまとめる。

御所小路の時期

①御所小路の道路とその施工時期は、A) 道路側溝と推定される溝SD278の掘り直し後の埋土中から京都系土師器2期の皿が出土し、B) その後SD21・22に掘り直されているところから遅くとも16世紀第3四半期のうちに道路側溝が掘り込まれていると推定される。

さらにその後SD21・22さらにSD23の溝が掘られることで北側に道路が拡大し、SD23からは近世1期の備前焼播鉢と京都系土師器3期の皿が出土するので、16世紀末まで利用されたことは明らかである。したがって道路は16世紀第3四半期から17世紀初めまで機能している。御所小路町の成立と存続時期もこの期間であると考えられる。

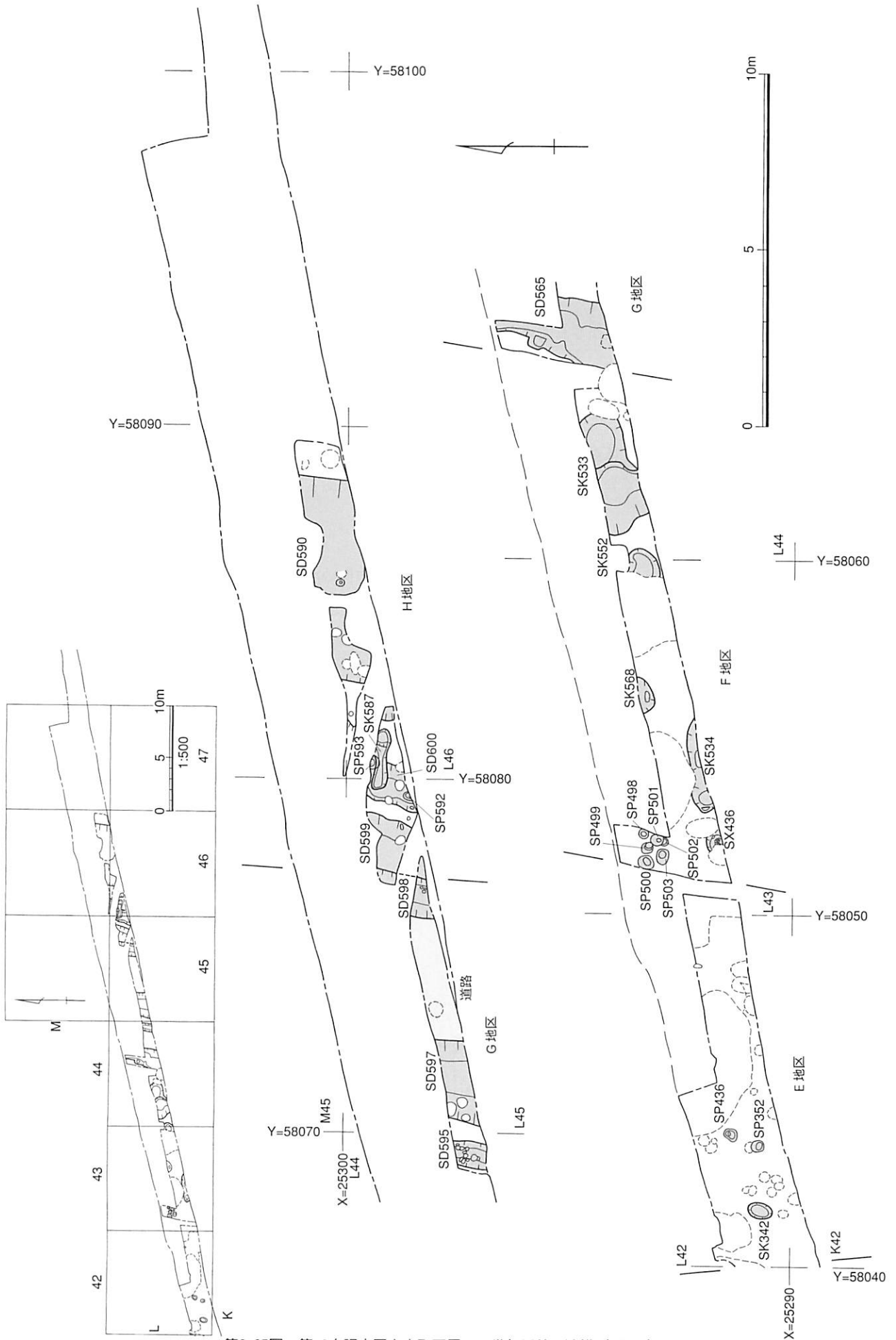
御所小路町北側

②16世紀後半の御所小路町北側の性格は、広大な敷地に散漫な遺構分布のありかたからみて、武家屋敷の可能性が強い。

16世紀前半は空閑地

③16世紀前半は東西南北に区画されているが、道路があったかどうかは不明である。仮に道路が存在したとしても、その北側は広大な空閑地として維持されている。

④15世紀の状況は16世紀前半と同じであるが、道路の代わりに大溝SD18で区画されている。



第3-35図 第16次調査区上市町下層の15世紀以前の遺構 (1/150)

## 第4節 上市町下層の遺構と遺物 (E・F・G・H地区)

### I. 遺構の概要

15世紀以前

4節で取り扱うのは、後世の上市町に当たる場所の下層で発見された、15世紀以前にさかのぼる遺構である。それは①層序的にはE層あるいは基盤Ⅴ層上で検出され (E地区ではB-2層上、F地区の西半ではC層上)、②遺物からみると、内面にロクロ目を残す土師器や京都系土師器を含まず、底部糸切の在来系土師器のみを出土する遺構である。

多くの南北溝

15世紀以前のほとんどの遺構は上市町の道路の下層あるいはその両側に分布し、第1南北街路から遠ざかるにつれてその密度は薄くなる。大小の溝が多いのが特徴で、廃棄土坑やピットはきわめて少なく、井戸も検出されていない。遺構の大半は基盤Ⅲ層上面で検出したものである。

### II. 14~15世紀代の遺構と遺物

#### 概要 (第3-35図)

上市町の両側では古代にさかのぼる遺構は発見されなかったが、14世紀から15世紀に比定できる遺構がかなり多く分布する。ほとんどが南北方向の溝である。

#### 溝

道路の存在

以下に述べる14~15世紀代の溝は、いずれも南北方向の溝であって、L45区のSD597とSD598の間には厚さ数cmの整地層が広がり、その後の道路建設で路面は削平されて硬化面はなくなっているが、15世紀代の道路遺構と考えられる。同じ方向に掘られているSD595からSD600は本来道路の側溝あるいは、道路を意識した区画溝と考えられる。それぞれの溝は同時に存在したものではなく、SD600→SD597・SD599→SD595・SD598の順で掘られており、SD565はSD597以前である。

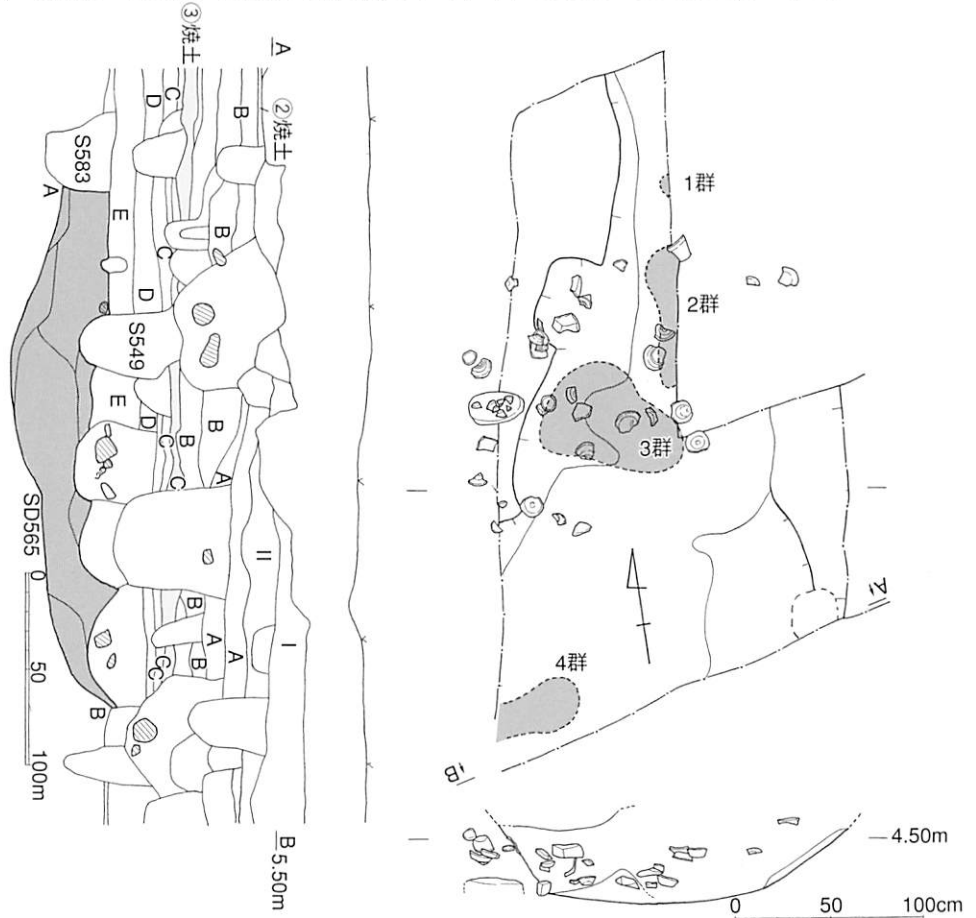
南北溝

土師器の大量  
廃棄

金雲母胎土

#### SD565 (G地区)

(第3-36図、図版44) L44区の基盤Ⅲ層上面から掘り込まれた南北方向の溝である。埋没後E層が堆積する。断面はゆるい逆台形をなし、この付近で切り合い上最古の遺構である。溝内には底部に接して大量の土師器が廃棄されており、接合して完形になるものも多い。集中廃棄の単位を4群把握した。土師器の中には金雲母を多量に



第3-36図 SD565 (1/40)

含む独特な胎土のものが多い。また器高の低い14世紀形の小皿が多い。内面にロクロ目を残す土師器は含まず、底部糸切の在地系土師器のみで、大内系の薄手で白色の土師器が含まれる。小皿の形態などから見て15世紀前半の遺構であろう。

15世紀前半

SD565出土遺物 (第3-37図)

(1群) 1は河野 A-1類の防長系瓦質鍋口縁。2と3は底部糸切の在地系土師器の坏。

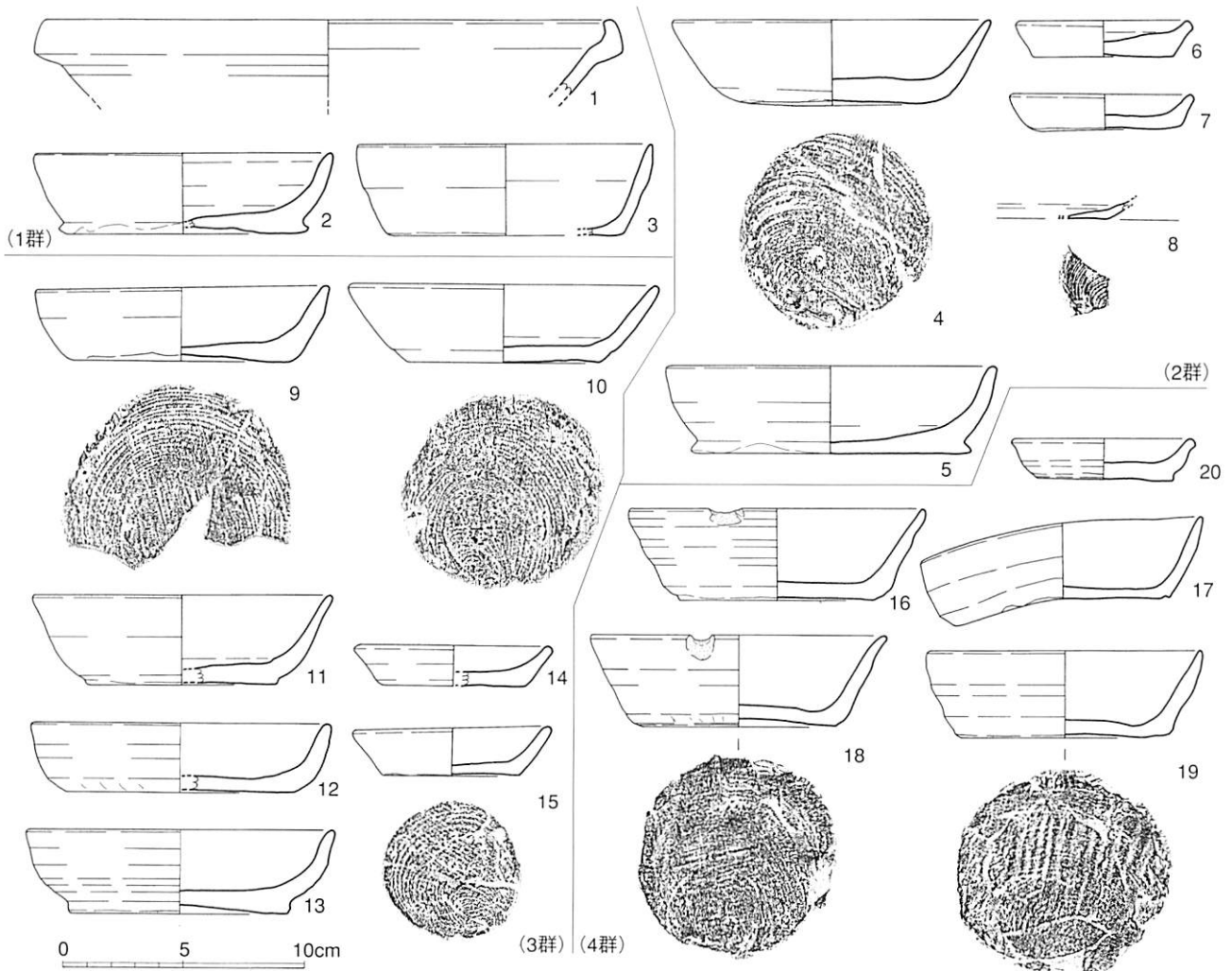
胎土石英  
海部産

(2群) 4と5は胎土に石英を多量に含む海部産の在地系土師器坏。6と7は口縁の低い在地系土師器小皿(6は金雲母を含む胎土で3群出土片と接合)。8は底部糸切りの大内系土師器皿の底部片。ほかに底部糸切の在地系土師器坏3点、口縁の低い在地系土師器小皿1点の破片が出土している。

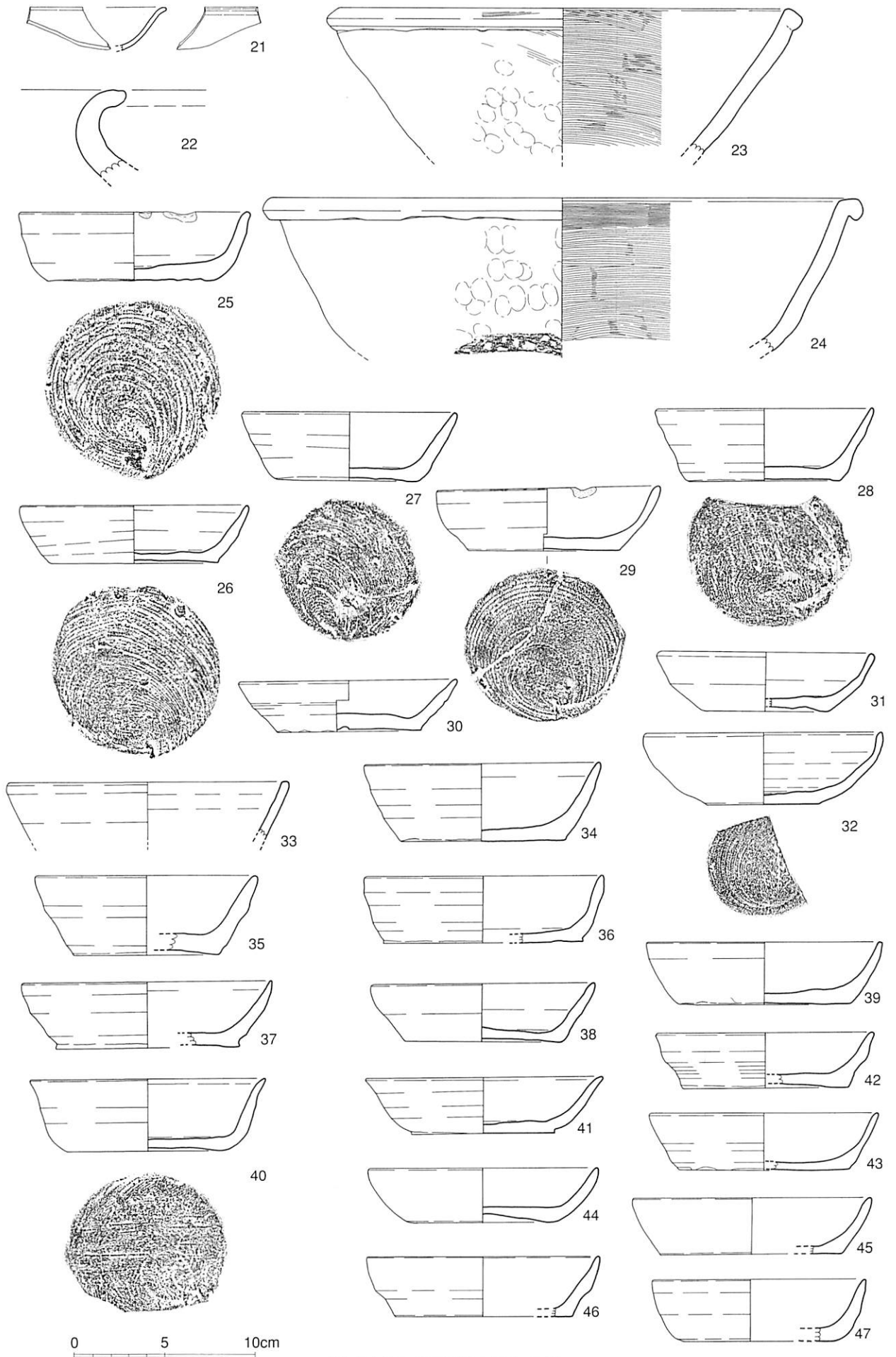
(3群) 9~13は底部糸切の在地系土師器坏(9と10は口縁に故意の打ち欠きがある。10は海部産)。14と15は底部糸切の在地系土師器小皿(15は3群とSK189出土破片と接合し、口縁を故意に打ち欠く)。ほかに底部糸切の在地系土師器坏2点・小皿1点。砥石1点。などの破片が出土している。

口縁打欠と故意  
破碎多い

(4群) 16と17は底部糸切の在地系土師器坏(16は口縁を打ち欠く)。18は完形の底部糸切の在地系土師器坏で、口縁を打ち欠く。19は接合して完形になった底部糸切の在地系土師器坏。20は底部糸切の在地系土師器小皿で、口縁を打ち欠く。ほかに底部糸切の在地系土師器坏1点。鉄釘1点。鉄片1点。などの破片が出土している。多くの破片が口縁を打ち欠いたり、故意に破碎しており、なんらかの祭祀に用いて廃棄したものであると考えられる。

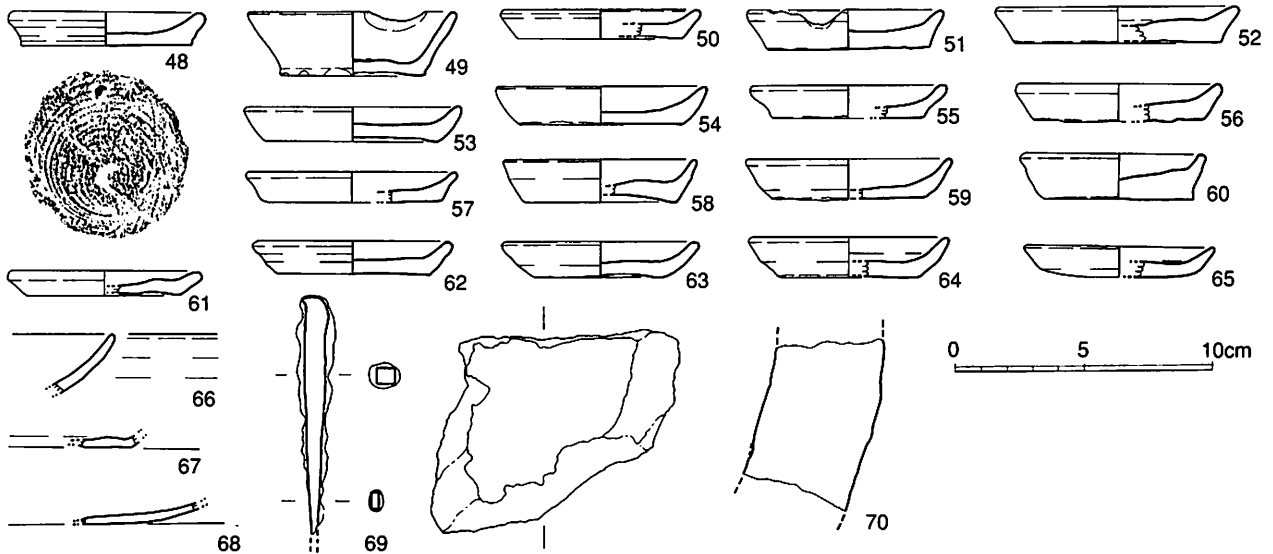


第3-37図① SD565出土遺物、1群~4群 (1/3)



第3-37図② SD565出土遺物 (1/3)

(一括) 21は端反の白磁皿口縁。22は瓦質甕の口縁。23は瓦質鍋の口縁。24は底部外面にたたきのある14世紀前半の瓦質鍋。25と26は正位で置かれ、口縁の一部を打ち欠いた底部糸切の在地系土師器坏。27と28は逆位で置かれ、口縁の一部を打ち欠いた底部糸切の在地系土師器坏。29は接合して完形の底部糸切の在地系土師器坏で2群と3群出土片と接合し、口縁の一部を打ち欠く。30は正位に置かれた底部糸切の在地系土師器坏。31と32は金雲母を多量に含む胎土の底部糸切の土師器坏の搬入品で、形態も異なっている。底部径が口径より小さく、体部は内湾する。33~47は底部糸切の在地系土師器坏(36は胎土に金雲母が多い。40は口縁を打ち欠きがある。44は故意に破碎している)。48は完形で正位に置かれた底部糸切の在地系土師器小皿。49は逆位でつぶれた完形の底部糸切の在地系土師器小皿。51は逆位でつぶれた完形の金雲母を多量に含む胎土の底部糸切の在地系土師器小皿の搬入品。50、52~65は底部糸切の在地系土師器小皿(52・60・64は金雲母を多量に含む胎土の搬入品)。66と67は大内系土師器皿の破片で、胎土は灰白色。68は白色の搬入の京都系土師器。69は鉄製の火箸。70は凝灰岩製の石臼。ほかに中世陶器の甕3点、瀬戸美濃産陶器1点。瓦質碗3点。瓦質土器1点。底部糸切の在地系土師器の坏19点(口縁2、底部6)・小皿3点。鉄釘3点。砥石1点。以上の破片が出土している。

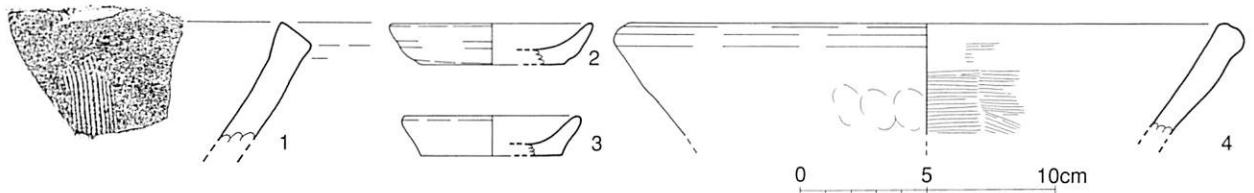


第3-37図③ SD565出土遺物 (1/3)

南北溝 SD600(H地区)(第3-35図参照) ML45・46区の基盤3層上で検出された南北方向の溝である。断面は円形である。P592、P593、SK587に切られている。平瓦片が1点出土している。

南北溝 SD597(G地区)(第3-35図参照) L45区の道路SF70の第15硬化面の下で検出された15世紀代の道路にかかわる南北方向の溝である。溝SD598に切られている。断面は逆台形であるが、掘られた直後にその東側に整地がおこなわれ、その土の一部が溝の内部に流れこむような堆積が観察される。おそらく道路面を作るための積土が行われ、道路使用時にはSD597は側溝として機能していたものと思われる。内部からは丸瓦が1点出土している。

南北溝 SD599(G地区)(第3-35図参照、第3-38図) ML45・46区のS70の第15硬化面より下で検出された南北方向の溝で、SD598に切られている。1は15世紀はじめの乗岡編年中世3b期の備前焼揃鉢口縁部、2と3は在地系糸切土師器の小皿で15世紀前半の遺物である。4は瓦質鉢口縁部で、胎土に石英が多く海部産の遺物である。ほかに青磁小片と鉄釘が出土しているが青花は含まない。

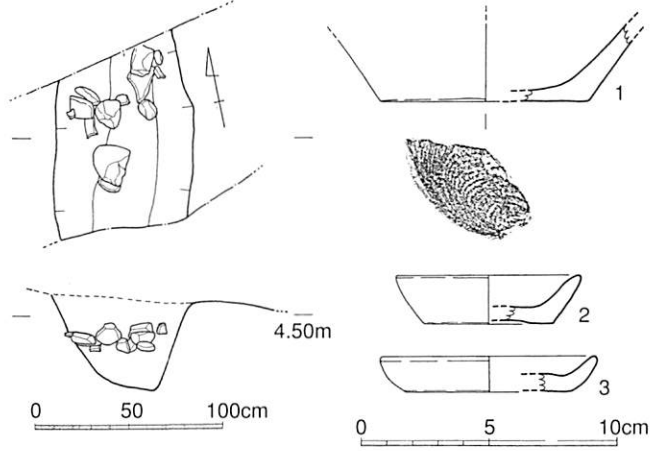


第3-38図 SD599出土遺物 (1/3)

南北溝

**SD595 (G地区) (第3-39図) L44区**  
 の上市町の道路S70の下で検出した南北方向の溝で、断面は深いV字形である。長さ1.1m以上、幅0.7m、深さ0.5m。E層上から掘り込む。出土遺物は底部糸切の在り系土師器のみで、内面にロクロ目を残す土師器や京都系土師器を含まない。

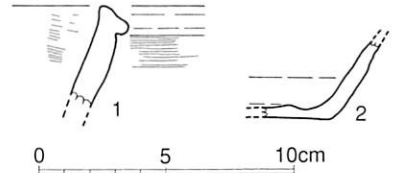
**SD595出土遺物** 1～3は底部糸切の在り系土師器で、1は坏、2・3は小皿である。ほかに大内系の薄手白色の土師器小片、瓦質火鉢・鍋、布目の残る中世の丸瓦片が出土している。



第3-39図 SD595 (遺構1/40、遺物1/3)

南北溝

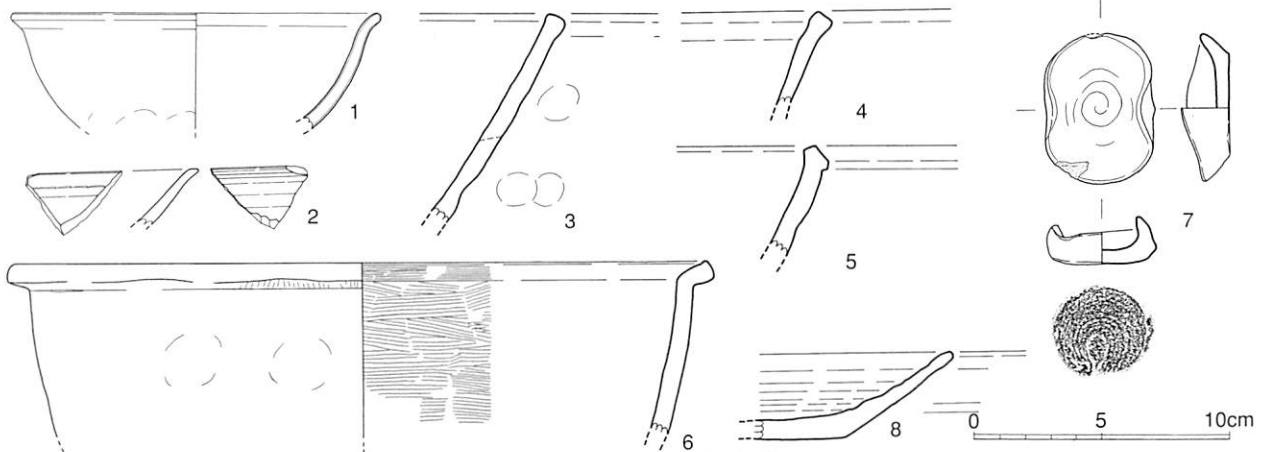
**SD598 (G地区) (第3-35図参照、第3-40図) L45区**のS70の15面より下で検出された15世紀代の道路に係る南北方向の溝である。SD597とSD599を切る。1は土師質の鍋口縁。2は底部糸切の在り系土師器器坏底部。ほかに備前焼の甕の胴部片や鉄釘が出土している。



第3-40図 SD598出土遺物 (1/3)

南北大溝

**SD590 (H地区) (第3-35図参照、第3-41図) ML45・46区**の基盤Ⅲ層上で検出した南北方向に伸びる大溝である。幅約6mをはかり、第1南北大路に並行する。トレンチで上端を検出したのみで底部まで掘っていないので、深さと断面形態はわからないが、上端幅から推してかなり大規模な溝の一部である。最上層の出土遺物に、内面にロクロ目を残す土師器が混じり、京都系土師器を含まないので、廃絶時期は16世紀第1四半期と推定される。掘削時期は15世紀までさかのぼると見られる。1は14世紀の中国龍泉窯産青磁碗D類口縁部、2は13～14世紀の白磁皿A3類、3～5は瓦質土器で、3と4は土鍋口縁(3は胎土に石英が多い海部産)、5は鉢口縁、6は土師質の土



第3-41図 SD590出土遺物 (1/3)

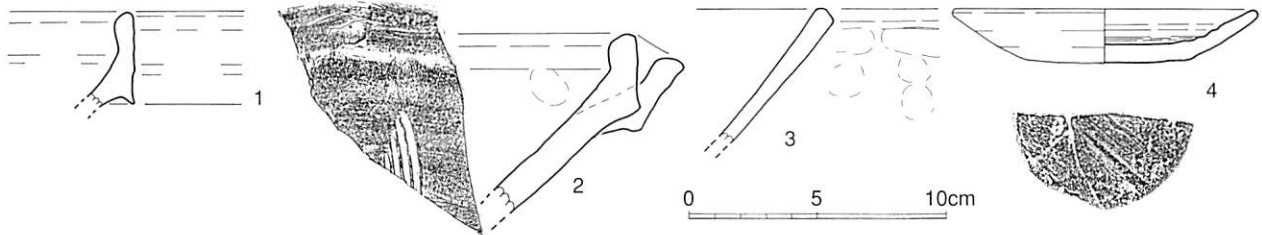
鍋口縁で東2区画トレンチのD層出土片と接合。7は糸切土師器小皿の耳皿の完形品。8は内面にロクロ目を残す土師器の大型皿で、東2区画トレンチのD層出土片と接合。そのほかに備前焼鉢底部、瓦質火鉢、大内系土師器、土師器の破片は在地系の土師器が大半である。

土坑

土取り坑？

**SK534 (F 地区)** (第3-42図、図版43) L43区のD層上面で検出した土坑である。16世紀第1四半期の土坑 SK533に切られる。掘り下げ時には、SK533と区別がつかなかった。形は不整で断面も整っていない。埋没状況も長期間の陥没しながらの埋没で、内部に第3焼土層と第4焼土層に対応する焼土堆積の広がりがある。おそらく放置された土砂採取坑であろうか。出土土師器は底部糸切の在地系土師器が多く、上層には内面にロクロ目を残す土師器があるので、16世紀の第1四半期まで残っていた可能性が高い。尚 S514は礫の集中地点でSK534と一連の遺構である。

**SK534出土遺物** 1・2は15世紀後半代の備前播鉢口縁。3は瓦質鍋の口縁。4は内面にロクロ目を残す土師器皿で、上層出土で被熱している。ほかに中国龍泉窯産青磁碗D類1点。中世陶器1点。備前焼播鉢底部1点。底部糸切の在地系土師器多数。鉄釘2点。以上の破片が出土している。

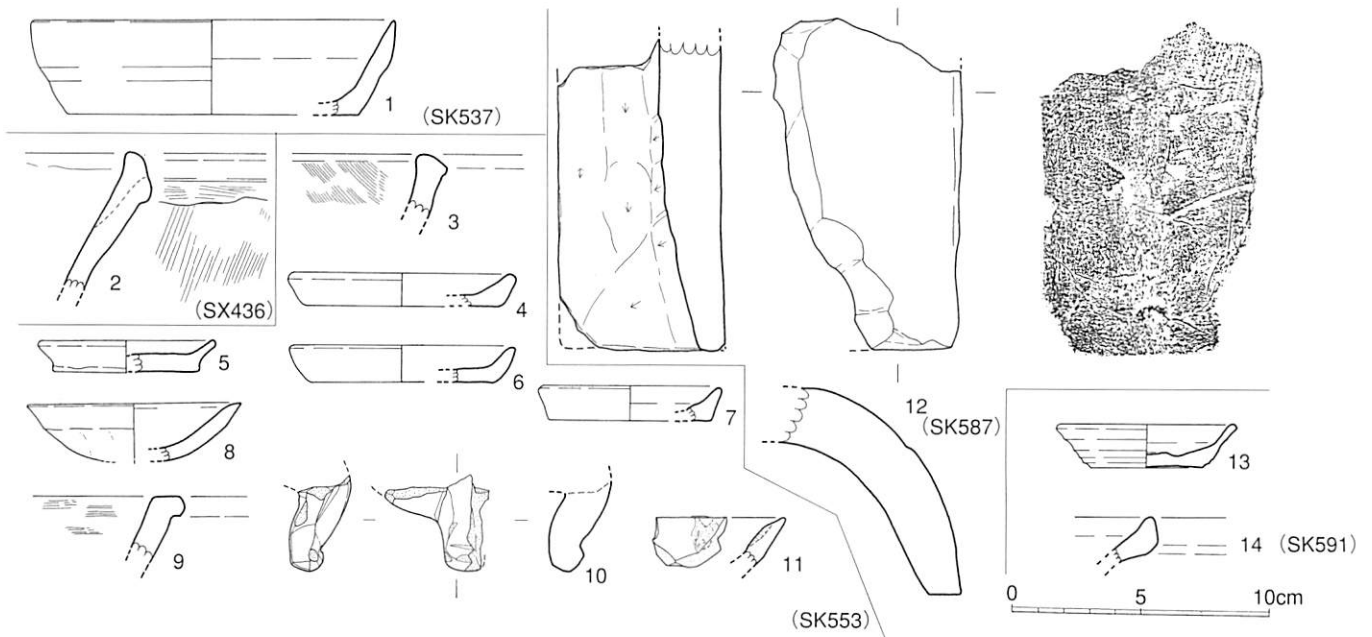


第3-42図 SK534出土遺物 (1/3)

そのほかの遺構 (第3-43図) 西から順に記述する。

**SK342 (E 地区)** L42区のB-2層上面で検出した長円形の土坑。B層上面の整地の際にはすでに埋没している。底部糸切の在地系土師器破片のみが出土している。

**SP352 (E 地区)** L42区のB層2回目掘下げ後に検出の柱穴。SP347と同じ埋土で、搬入品の



第3-43図 そのほかの遺構出土遺物 (1/3)



薄手白色の京都系土師器破片が数点出土している。

**SP346** (E地区) L42区のB層2回目掘り下げ後に検出した不整形の柱穴で、柱の位置に礎を置く。出土遺物は底部糸切の在地系土師器のみで、14世紀の吉備系土師器破片が出土している。

**SP498** (F地区) L43区C層中から検出した柱穴である。出土遺物は底部糸切の在地系土師器の破片のみが出土している。

F地区のL43区の下層トレンチのC層上面で検出した**SP499**、**SP500**、**SP501**、**SP502**、**SP503**もこの時期のピットと考えられる。

**SK537** (E地区) L42区の基盤Ⅳ層上で検出した円形の小土坑で、16世紀第3四半期の土坑SK510に切られる。1は底部糸切の在地系土師器である。

**SX436** (F地区) L43区C層上面からの不整な掘り込みである。SK389とSK400(16世紀第2四半期)に切られる。出土土師器は底部糸切の在地系土師器のみで、2は土師器鍋の口縁部である。

**SK568** (F地区) L43区で検出された土坑。切り合い上最古の遺構で、出土遺物は底部糸切の在地系土師器のみである。

**SK552** (F地区) L44区のD層上面で検出された円形の土坑である。16世紀第1四半期の溝SD529に切られる。出土遺物は底部糸切の在地系土師器と丸瓦1点である。

2つの土坑

**SK553** (F地区) L44区の基盤層上面で検出されたもので、掘り下げるにつれて2つの土坑からなっていることが判明した。3は土師質鉢口縁部。4～7は底部糸切の在地系土師器の小皿(4は金雲母を多量に含む搬入品)。8は京都系土師器2期の小皿で後世の混入品であろう。9は瓦質火鉢の口縁、10は獣脚である。11は京都系土師器小皿を転用のるつぼである。内面が高温で一旦溶けて凝固している。

**SK587** (H地区) ML45～46区のD層上面除去後に検出した東西に長い不整な船底型の土坑である。溝SD600の埋没後に掘られている。出土遺物は内面にロクロ目を残す土師器と、京都系土師器を含まない。12は丸瓦片。

**S593** (H地区) ML45～46区の基盤Ⅲ層上で検出したピット。SD600を切る。底部糸切の在地系土師器と薄手白色の大内系土師器皿の小片が出土している。

**S591** (H地区) M46区。13は在地産糸切土師器の小皿、14は瓦質鉢口縁部、ほかに底部糸切の在地系土師器3点の破片が出土している。

### 小結

上市町の下層では、G地区の南北溝SD565を境に遺構の状況が大きく異なる。そのSD565の東では、南北方向の大小の溝が切りあいながら掘削されている。調査区の幅が狭いので、溝の方向を正確に割り出すのは困難だが、いずれも真北からやや東に振り、第1南北街路の方向と並行する。15世紀後半段階では道路面も確認できることからみて、これらの溝は15世紀の上市町の道路に係る溝、あるいはその道路と宅地を区画する溝として機能したものと考えられる。もちろん15世紀に、この付近が上市町と呼ばれていたかどうかは定かではない。

第1南北街路  
並行の溝

SD565以西

一方SD565の西側では、溝は全くなく、不整な円形土坑や土取り穴などが重なっている。しかし遺構はそれほど密集せず、柱穴も少ないことから、上市町の道路に面した町屋が存在したとは考えにくく、一定の宅地の区画が存在したものと推定される。それは武家屋敷の方形区画である可能性も否定できない。

全体として第1南北街路の道路が存在し、その周囲には溝で区画された地割が存在する。

### 第5節 上市町の第1南北街路（G地区）

概要（第3-44図、付図3-1、図版38）

道路遺構

本節は、16世紀に使用された上市町の道路遺構を取り扱うが、それ以前の15世紀以前の遺構は第4節で扱う。SF70とした道路遺構は、まず表土直下で固い面として認識された。重機でもそれは感じられ、オペの方はこの部分は手ごたえが異なると感想をのべた。その硬い地面の位置は府内古図から想定された上市町の道路の位置にぴったりと一致している。

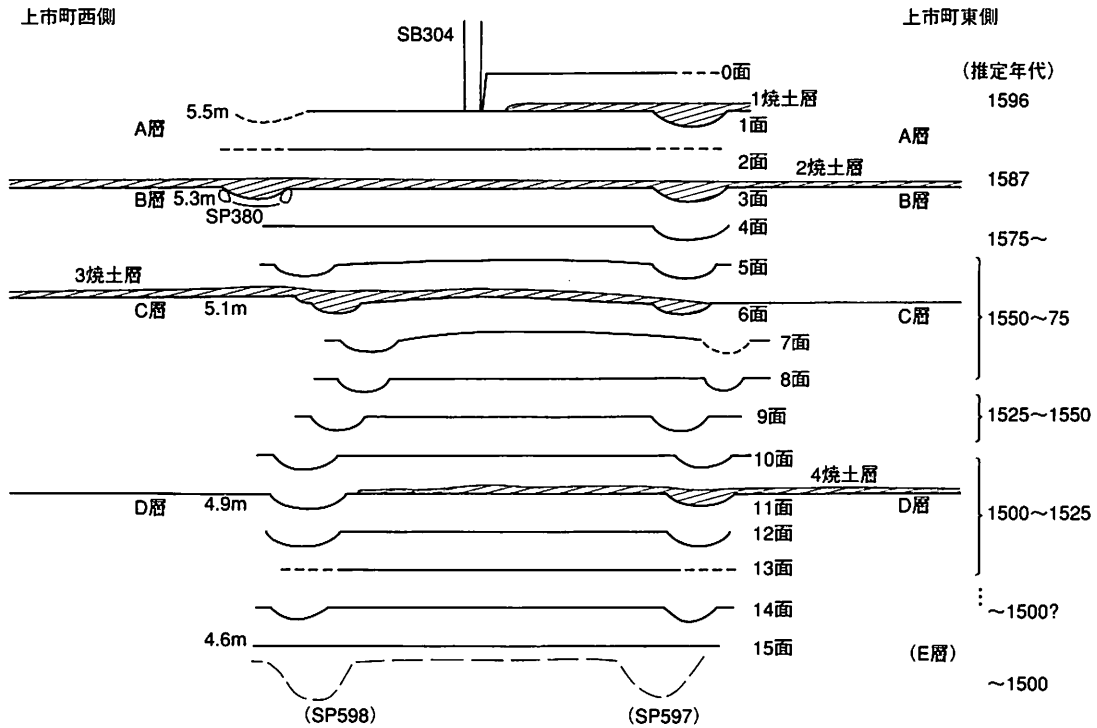
硬化面と間層

道路遺構は、踏みしめられて硬化し、移植ゴテでは菌が立たない。粘土をつき固めたようなもので、基本的に遺物は含まないが、時に礫や貝殻がはいる。パリパリとした感触のこの面を硬化面とよぶ。その下に砂礫層のやや軟い層があり、貝殻や時には土器の碎片などの遺物が見られる。以上の硬化面をなす層と間層があわせて一単位の積土整地をおこなって道路舗装がおこなわれている。貝殻はカルシウム分が溶けて道路を固化させる効果があり、人為的に混入されたものである。

道路舗装

焼土層

またこの単位の中に4回の焼土層が完全に除去されないままその上に舗装がなされている。道路面に焼土が堆積するような大きな火災のあったことを物語っている。



第3-44図 道路 SF70の断面模式図

#### 道路（第1南北街路）（第3-45図、第3-46図、図版37）

16回の舗装

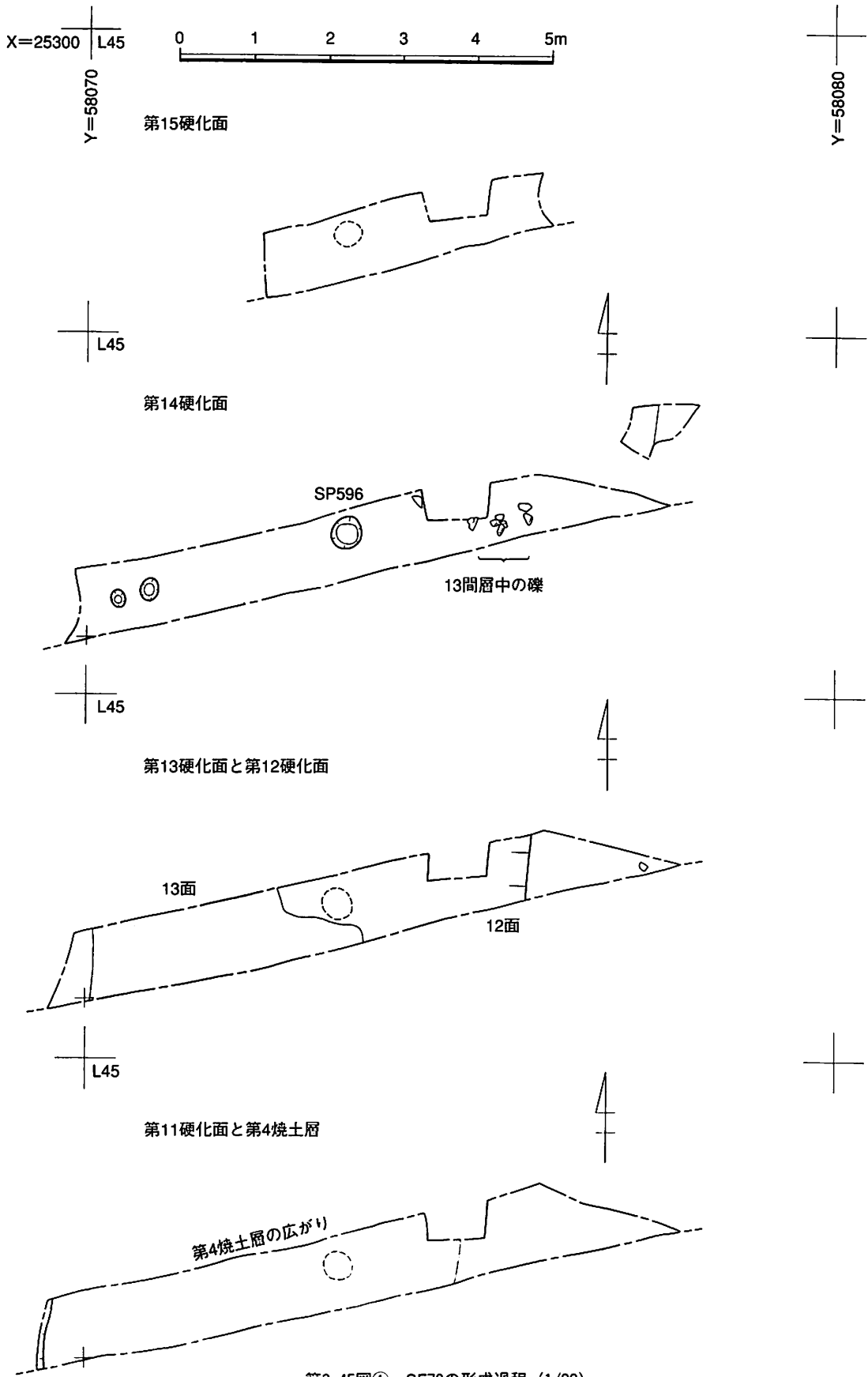
SF70 A層直下で検出したが、最終的には第0硬化面から第15硬化面まで、16面におよぶ舗装があり、さらにその中に部分的な硬化面を含めると20面近い舗装面がある。最初の硬化面は15世紀の末までさかのぼり、最後の硬化面は1596年から程遠くない時期に舗装され、1602年から数年の間の近世府内城下への移転まで使用されたものと考えられる。以下に時期を追って記述する。

最初の硬化面

第15硬化面は、H区E層上面の生活面と連続した可能性のある最初の道路面である。断面には側溝は無く、路面はほぼ水平である。E層あるいはSD597とSD599間の15世紀の道路面の上面を、浅い皿状に掘り窪める形で形成された最初の硬化面である。積土による舗装ではなく、踏みしめられて硬化している。第15間層とした層は、E層あるいはSD597の整地層に対応する。防長系の瓦質鍋口縁部と底部糸切の在り系土器の破片のみが出土している。

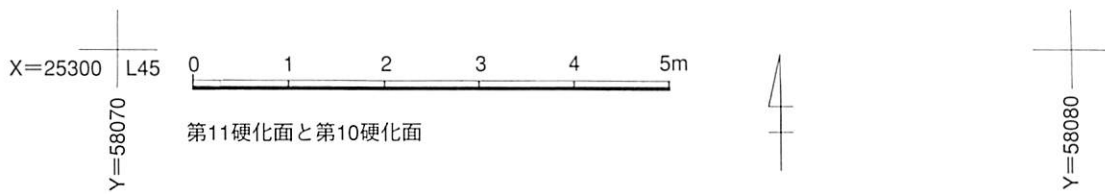
積土舗装

第14硬化面は、東西に浅い側溝をもち道路面はほぼ水平である。積土による整地層である14間層

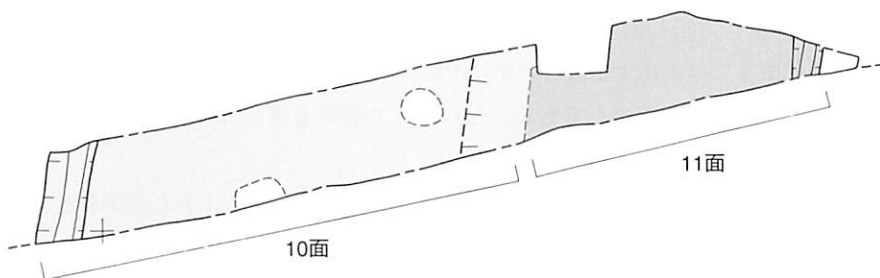


第3-45図① SF70の形成過程 (1/80)

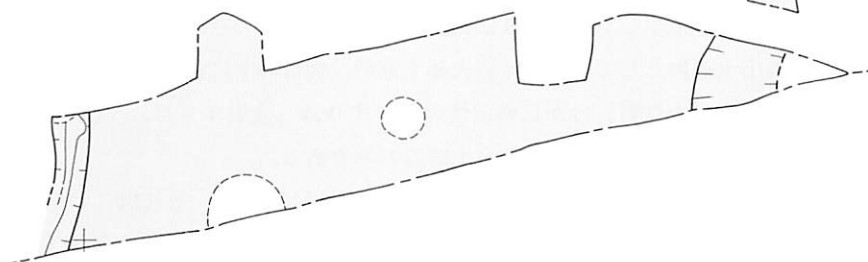
からは、1は剣先蓮弁文のある15世紀後半の中国龍泉窯産青磁碗B類。2は玉縁口縁の備前焼壺口縁。3は瓦質火鉢の底部。4は土師質鍋の口縁部、5は金雲母を多量に含む胎土の土師器小皿。そのほかに備前焼の甕、瓦質土器の鍋、薄手白色の大内系土師器の小片が出土した。出土土師器は



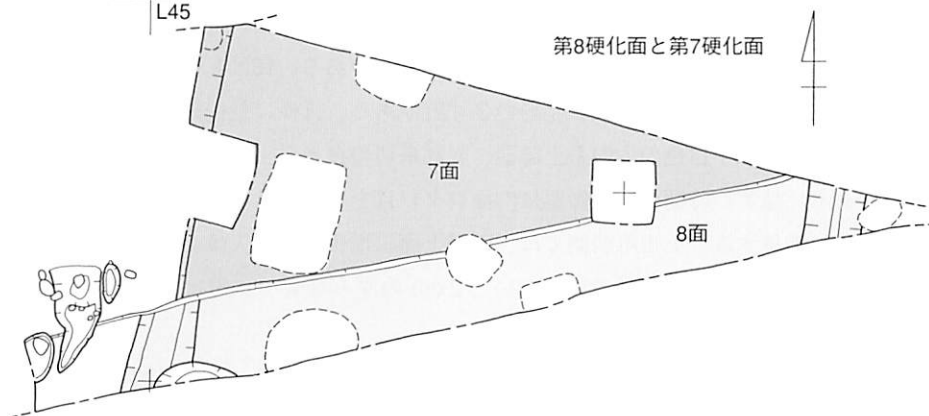
第11硬化面と第10硬化面



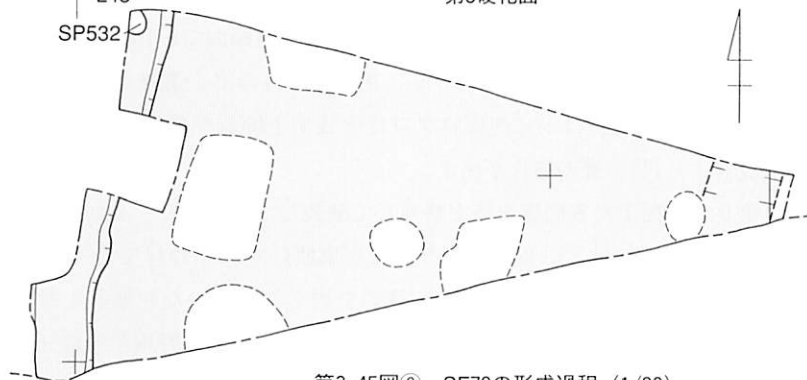
第9硬化面



第8硬化面と第7硬化面



第6硬化面



第3-45図② SF70の形成過程 (1/80)

底部糸切の在り系土師器のみである。

**SP596** 14硬化面上で検出した径40cmほどの円形のピット。出土遺物の6は銅銭で元豊通寶（北宋1078年初鑄）。ほかに白磁と在り系糸切土師器の小片が出土している。

15、14硬化面の時期

以上の第14硬化面までは、出土土師器の中に内面にロクロ目を残す土師器や京都系土師器が含まれず、底部糸切の在り系土師器のみである。したがって道路遺構 SF70の第14硬化面までは15世紀にさかのぼる可能性がある。

**第13硬化面**は、積土整地による13間層によって形成され、積土中には拳大の礫が混ざられている部分がある。この間層中からは、7の朝鮮灰青釉陶器の口縁部片、8は外面下半にへら削りをほどこす在地産の瓦質鍋口縁部。8は河野編年 B-1類の16世紀前半にあたり、第12間層東側 D層出土の破片と接合した。13間層中央では朱十字の漆塗り板片が出土した。ほかに骨、備前焼の甕胴部片、在り系の底部糸切土師器や鉄釘が出土している。8の鍋の存在から16世紀第1四半期にあたる可能性がある。

両側溝

**第12硬化面**は両側に側溝がみとめられ、路面はほぼ水平である、側溝から底部糸切の在り系土師器と瓦質土器碗の小片が出土している。9は側溝出土の底部糸切の在り系土師器小皿。積土整地による12間層からの出土遺物として、10は瓦質火鉢下部で、突帯の下に雷文の大型スタンプがある。11は東側で出土した完形の鉄釘。ほかに備前焼の甕・すり鉢（放射すり目）、瓦質火鉢の破片などが出土している。土師器は底部糸切の在り系土師器のみである。

**第11硬化面**の路面を東西に追うと、上市町の D層上面に対応する。それはこの第11硬化面上に堆積していた第4焼土層が明瞭に対応するからである。第4焼土層は16世紀第1四半期の火災層であるから、第11硬化面はその直前に舗装されたものであると考えられる。この面は積土整地層である11間層からなり、両側に浅い側溝があり、路面はほぼ水平で、中央部がやや盛り上がる。この11間層からは12の中国景德鎮青花皿 E群口縁部。13は瓦質火鉢の口縁部で、外面に雷文の刻印を施す。14は瓦質鉢の口縁。15は瓦質の小型の香炉で外面に刻印がある。16は瓦質鍋の口縁部で河野 B-1類。17は破片の銅銭で開元通寶か。18は完形の3寸釘である。ほかに景德鎮青花皿、白磁皿 E-2群、備前焼の甕胴部片、薄手白色の大内系土師器、底部糸切の在り系土師器や内面にロクロ目を残す土師器のみである。舗装の時期は、土師器に内面ロクロ目を残す土師器が加わる時期である。

16世紀第1四半期  
幅7.5m

**第4焼土層**が次に堆積する。上市町西側では、D層上面に堆積する火災焼土層が、かなり薄くながらも、路面全体に広がり、断面では1ないし2cmの厚みをもつ。出土遺物は第6節の上市町西を参照。16世紀第1四半期の焼土層である。

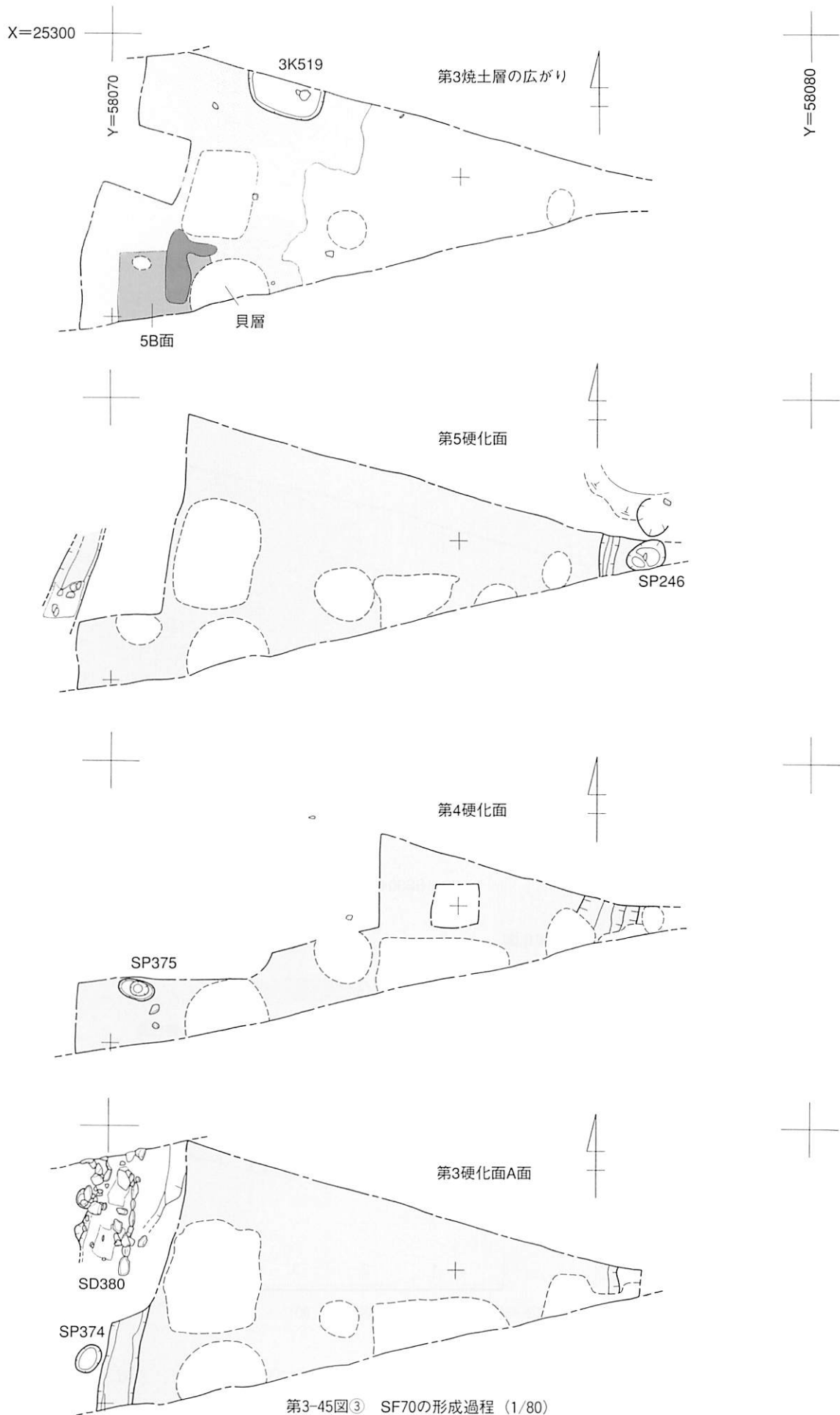
**第10硬化面**では両側に側溝を検出した。その心々距離は7.5mである。この硬化面は積土整地による10間層から形成され、出土遺物は底部糸切の在り系土師器、内面ロクロ目を残す土師器と薄手白色の大内系土師器のみで、京都系土師器を含まない。ほかに備前焼甕の破片が出土している。舗装時期は16世紀第1四半期にあたる。

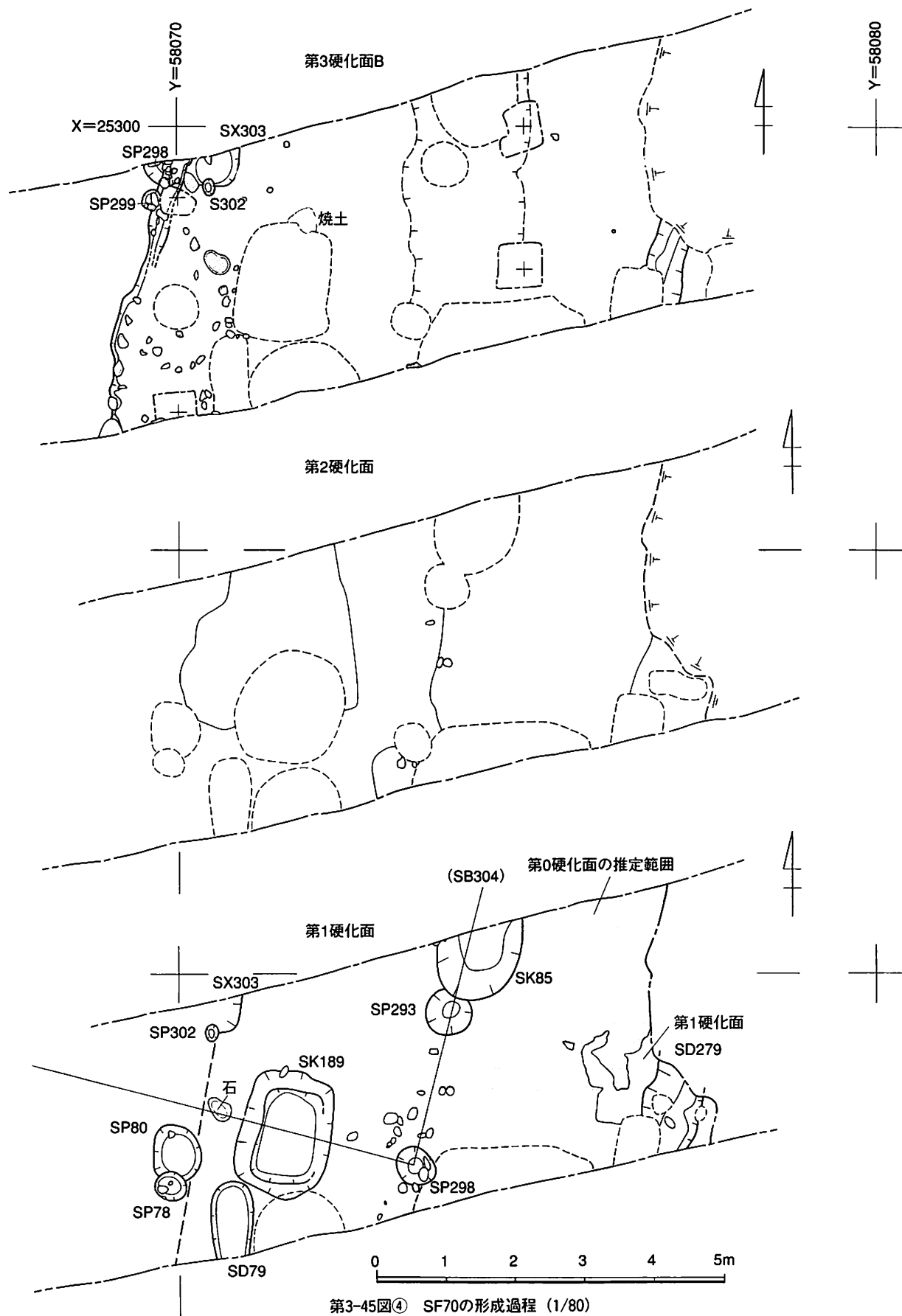
幅7.0m

**第9硬化面**は第10硬化面上に9間層を積土整地して舗装した道路面で、10面よりやや内側の両側に側溝をつけている。その心々距離は7.0mである。9間層からの出土遺物として、19と20は底部糸切の在り系土師器の坏と小皿。ほかに内面ロクロ目を残す土師器や朝鮮王朝産舟徳利、瓦質土器、備前焼播鉢（放射すり目）・甕の破片が出土。

東に移動

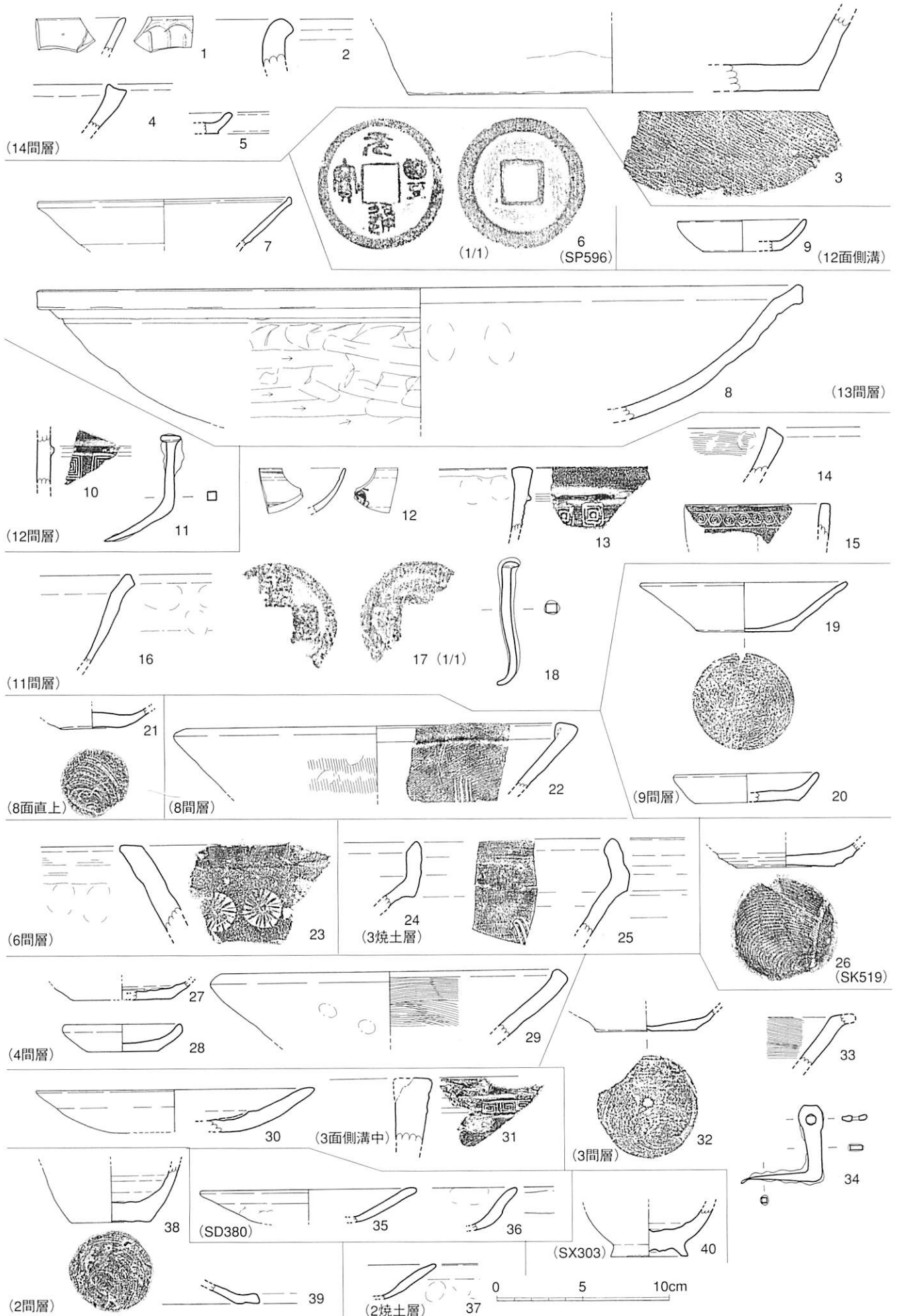
**第8硬化面**は、第9硬化面上に8間層を積土整地して舗装した道路面で、9面に比べて東側に約1m移動して両側に側溝をつけている。つまり道路が東側にずれるわけである。その心々距離は7.0mでかわらない。硬化面にめりこんで21の口縁の全周を打ち欠いた在り系土師器の小皿が出土している。第8間層から出土した22は防長系の瓦質播鉢口縁部で、河野編年では16世紀第3四半期である。ほかに青磁碗、瓦質鉢、糸切土師器の底部数点が出土した。舗装時期は16世紀第3四半期である。





期にはいると考えられる。

第7硬化面は、第8硬化面上に7間層を積土整地して舗装した道路面で、8面と同じ位置に側溝をつけている。西側溝のみを検出した。この面から上は、道路面の南半分を掘り下げている。ま



第3-46図 道路 SF70出土遺物 (1/3、6と17は1/1)



- 貝殻廃棄 た路面はやや中央が高くなる。7間層からは舗装の積土にまぜるイボキサゴ・キサゴ類がまとまって集中廃棄された地点がある。この面から上で貝殻を伴う。底部糸切の在系土師器のみで、外面に突帯をもつ瓦質火鉢の小片が出土している。前後の関係から16世紀第3四半期の舗装であると考えられる。
- C層上面对比 第6硬化面の路面を東西に追うと、上市町のC層上面に達する。それはこの第6硬化面上に堆積していた第3焼土層が明瞭に対応する。第3焼土層は16世紀第3四半期の火災層であるから、第6硬化面はその直前まで使われていた道路面であろう。この面は積土整地層である6間層からなり、両側に浅い側溝があり、路面はやや中央が高くなる。側溝の位置は西側に再び移動し、第9硬化面の道路位置に戻っている。出土遺物の中で、この面より上で瓦片が多くなる。SP532が第6硬化面の西側溝に掘り込まれているが、出土遺物はない。第6間層からの出土遺物として、23は器高の低い瓦質火鉢の口縁部で、口縁直下外面に2個一対の輪状文のスタンプがある。ほかに丸瓦や平瓦の小片がある。
- 西にもどる
- 16世紀第3四半期の火災 第3焼土層（16世紀第3四半期）は焼土炭混じり層の広がりである。特に第6硬化面の路面が側溝に向かって低くなる西側で厚い堆積がみられた。西側にイボキサゴ・キサゴ類の集中箇所がある。24と25は中世6a期の備前焼播鉢で1500～1530年ごろの製品である。ほかに中国龍泉窯系青磁碗、中国漳州窯系青花の皿片が多く、底部糸切の在系土師器、内面ロクロ目を残す土師器、京都系土師器1期の皿の破片を含む。
- 道路上の土坑 SK519 第6硬化面上で検出した浅い土坑である、第3焼土層を切るのは确实だが、あるいは第5硬化面上から掘られたものか。埋土はざくざくとした砂層で周辺の硬化した砂層とは異なり、炭層が一部に広がり、数点の礫が入る。26の底部糸切の在系土師器坏が出土している。この土器は口縁の全周を打ち欠いた祭祀行為に伴う遺物である。
- 幅7.5m 第5硬化面は、第6硬化面上に5間層を積土整地して舗装した道路面で、6面と同じ位置に側溝をつけている。西側溝はやや西に移り、その心々距離は7.5mで再びやや広くなる。路面はやや中央が高い。一部ではAB二枚の硬化面がある。路面からは底部糸切の在系土師器、内面ロクロ目を残す土師器の破片が出土し、側溝からは備前焼の甕胴部片と底部糸切の在系土師器底部片が出土している。5間層からは丸瓦や鉄釘の破片があり、瓦には砂の付着が激しく、舗装用に混ぜられたものである。そのほかに舗装材料の巻貝や底部糸切の在系土師器と京都系土師器2期皿の破片が出土している。舗装の時期は出土遺物と層序から16世紀第3四半期と考えられる。
- 火災復興 第4硬化面は、第5硬化面上に4間層を積土整地して舗装した道路面で、5面と同じ位置に東側溝をつけているが、西側には側溝がなく平坦である。第4硬化面上ではSP375が掘られている。それは長円形の小ピットで、埋土は茶褐色砂混じり軟質土、出土遺物はない。4間層からの出土遺物として、27は内面ロクロ目を残す土師器で、摩滅がはげしい。28は内面ロクロ目を残す土師器の小皿口縁部。29は瓦質鉢の口縁部。ほかに底部糸切の在系土師器と京都系土師器1・2期皿の破片が出土している。
- B層上面对応 第3硬化面の上面は、上市町西と東のB層上面に対応する。第3硬化面は西側にAB2面にわかれ、東側溝の位置は変わらないが、西側溝は西側に1m近く広がる。第2焼土層の火災はこのA面上に堆積している。側溝中から30の京都系土師器3期の皿と31の瓦質火鉢の口縁部で上部が突出し雷文の刻印があるものが出土している。ほかに備前壱片、瓦質播鉢片あり。3A面からは32の全周を打ち欠いた内面にロクロ目を残す土師器の坏底部が出土している。被熱した破片が多い。
- 第3硬化面上で道路の断面形態を観察すると中央部が最も低くなる浅い皿状となり、両側は徐々に高くなりそこに浅い側溝がつき、さらに側溝の外側が最も高い盛り上がりとなり、そこから再び低くなっている。

以上は第3硬化面A面で、上述した両側のやや高くなる部分を除去するとほぼ水平な第3硬化面B面があらわれた。同時に石組み側溝のSD380も現れる。したがって第3硬化面舗装当初はほぼ道路面は水平でその両側の側溝が取り付けいていたものである。3間層からは、33は瓦質鍋の口縁部。34は屈曲した鉄金具で目釘孔がある。ほかに青磁稜花皿口縁部片、備前焼甕、平瓦、貝、京都系土師器1・2期皿の破片が出土した。舗装の時期は16世紀第4四半期の1587年の戦災以前である。

入口施設

**SD380** (第3-45図、図版37) M44・45区の第3硬化面のA面とB面の間で検出された石組みの側溝である。底面には石を使用していない。第2焼土層が上を覆っているが、1586年の火災時にはすでに埋まっている。側溝の両側に人頭大の円礫を一段配置して側溝の側面を固めている。西1区と西2区の延長線がこの石列の南端に一致するところから、西側の道路に接した西1区画の町屋建物の入口施設であると考えられる。35は京都系土師器1期皿の口縁で、胎土は白い。36は京都系土師器2期皿の口縁部で溝内の焼土層の下で検出。ほかに青磁稜花皿、青磁碗、備前焼、鉄釘の破片が出土した。16世紀第4四半期の1587年の戦災以前の遺構である。

火災層

**第2焼土層** (推定1587年) 上市町西側のB層上面に堆積した焼土層がそのままやや薄くなりながら、第3硬化面全体に広がっている。37は側溝中の第2焼土層出土の京都系土師器1期の皿口縁。

**第2硬化面**は路面全体で検出されたが、側溝は判然としなかった。路面にめりこんで貝類遺体を検出している。1587年の火災後最初の道路面である。2間層からは、38は備前焼小壺底部。39は瓦質土器の蓋口縁部。ほかに備前焼播鉢(放射すり目)、京都系土師器2期皿の口縁部片、丸瓦や銅銭の破片、貝殻が出土している。貝殻はいずれもサザエ類であった(第4章第2節参照)。

**第1硬化面**は平面的に検出されたのは一部に過ぎないが、北断面の観察から、ほぼ路面全体に認められる。東側溝の一部をSD279として調査している。おそらく1587年から1596年の間の舗装であろう。

1面の側溝

**SD279**(H区西) LM45区の第1硬化面精査時に発見した浅い溝状遺構で、断面は皿状をなす。北側は攪乱で破壊されているが、残存している範囲の溝の方向がSF70の方向と一致するので道路の側溝と考えられる。しかし埋土はよくしまった黄色粘質土で人為的に埋められた状態を示し、上面は第1硬化面と同じ高さであった。また底面は第2硬化面に達して止まっているので、この側溝は第1硬化面造成後に掘られたが、短命で第1硬化面存続中に埋められたものと考えられる。遺物は鉄釘が1点出土したのみである。

1間層からの出土遺物は備前焼の播鉢(放射すり目)・甕、在地系土師器の坏、鉄器釘先の破片が出土している。

この第1硬化面上に**第1焼土層**(推定1596年)が来る可能性が高い。

東半のみ舗装

**第0硬化面**は、北断面の観察からは路面全体に行われたものではなく、東半分のみに行われた舗装である。幅は3m前後である。第1焼土層の上から積土整地して舗装しているので1596年の火災後の舗装であろう。道幅が半減している。この硬化面の舗装が行われていない西半分では以下の遺構が道路面の上から掘り込まれている。したがって道路を東詰めに狭めて、町屋が拡大している。したがって以下の遺構は第0硬化面に伴う遺構である。

道幅半減

町屋の拡大

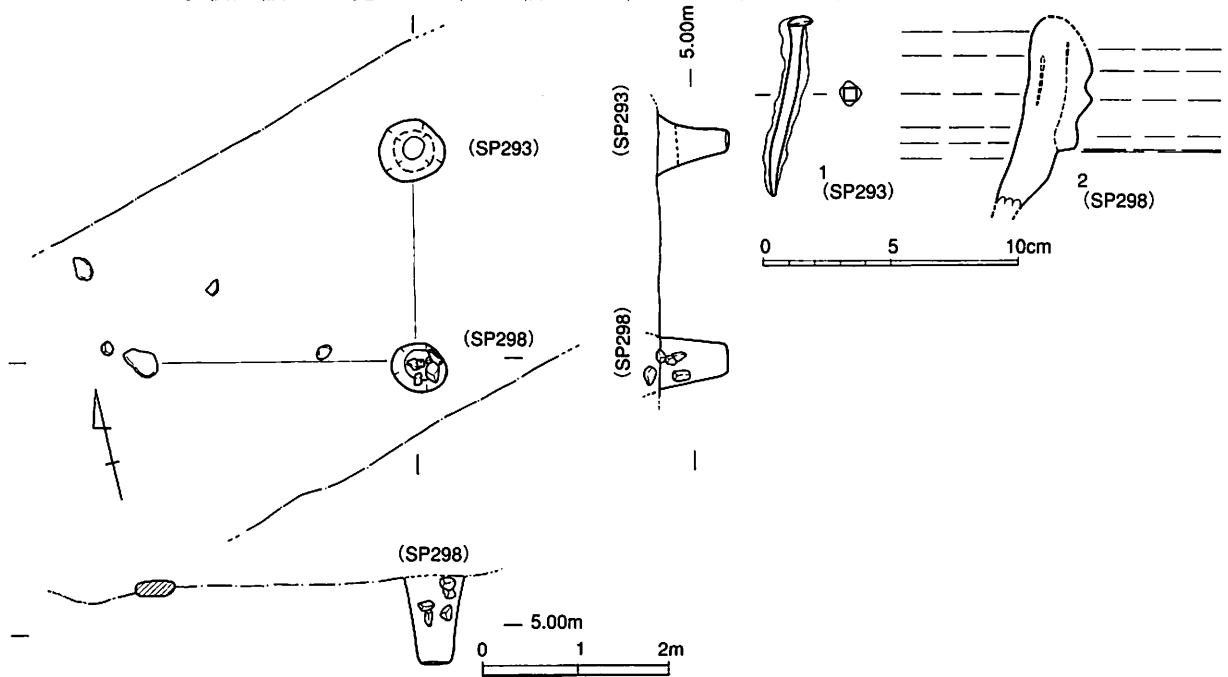
**SP80**(G地区) L44区のA層上面で検出した。第2焼土層を切る柱穴である。SP78に切られる。出土遺物は青磁碗、京都系土師器の小片が出土している。

**SP78**(G地区) L44区のA層上面からの掘り込まれたものある。SP80を切る円形のピットで、底面に根石を置いているところからみて柱穴である。層位関係から1587年以後の遺構とみてよく、京都系土師器3期の皿が出土した。

**S302**(G地区) L45区のSF70で発見された小ピットである。S303を切る。鉄釘の破片が出土している。

**SX303 (G地区)** L45区の第1硬化面上のくぼみで性格不明。S302に切られる。40は朝鮮王朝産陶器底部片で砂目がある。ほかに備前焼播鉢体部の破片が出土している。

**SB304 (G地区) (第3-47図)** L45区の第1硬化面上から掘り込まれた掘立柱建物の一部である。SP293とSP298は同形同大で深さも同じである。道路SF70の方向とも一致しSP298から直交する位置に礎石がある。F地区から張り出し、SP293とSP298の東側では第1硬化面上に、0間層が整地され、その上に最終道路面である第0硬化面が形成されているので、この建物SB304が建設された時点で、上市町の道路は西半分が宅地化し、その道路幅は大幅に狭まったことを証している。検出層位から見て1596年より後で1602年までに移転した建物である。

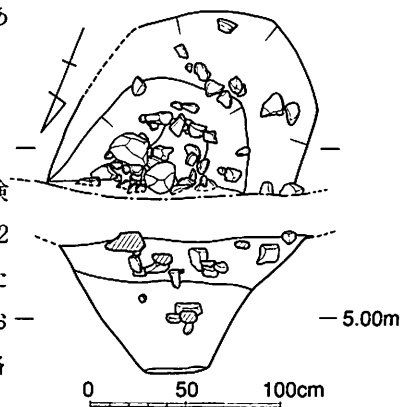


第3-47図 SB304 (遺構1/80、遺物1/3)

柱穴

**SP293** L45区のSF70第3硬化面上で当初検出した柱穴だが、同じ位置の上部に礫が集中していたのでその高さからみて第1硬化面上から掘り込まれたものである。埋土は暗灰茶褐色でよくしまり、炭焼土はほとんどなく、出土遺物の1は鉄釘の完形品のほかは古代の須恵器片のみであった。

**SP298** L45区のSR70第3硬化面上で当初検出した柱穴だが、同じ位置の上部に礫が集中していたので、その高さからみて第1硬化面上から掘り込まれたものである。埋土は暗灰茶褐色土と茶褐色土の混層で固くしまり柱を固めるように石が埋め込まれている。中央部に柱痕があり、内部に被熱礫が入っていたので、柱は廃絶時に抜き取られたことは確実である。埋土内から2の乗岡編年近世1期の備前焼甕口縁片のほかに、平瓦の小片や雲母を多く含む糸切土師器の破片が出土している。



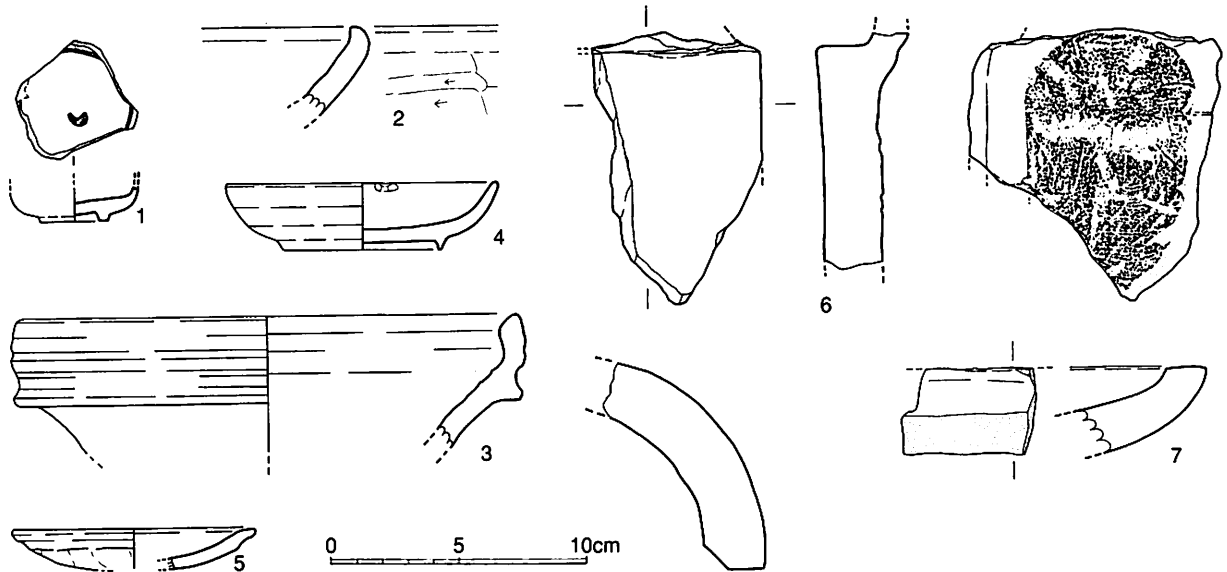
**SK85 (G地区) (第3-48図、図版39)** LM45区のA層上面で検出した平面円形断面不整形の土坑である。長さ1.3m以上、幅1.2m、深さ0.7m。SF70の第1硬化面を切る。北壁にかかっているため全体の形状は不明であるが、内部には廃棄された礫が集中しており廃棄土坑と考えられる。SB304に隣接するところからみて、道路が狭くなった最終段階の町屋に伴う廃棄土坑と考えられる。

道路上の廃棄土坑

**SK85出土遺物 (第3-49図)** 1は中国景徳鎮窯系青花の小坏。

第3-48図 SK85 (1/40)

2は備前焼鉢の口縁部、3は中世6a期の備前焼播鉢、4は瀬戸美濃大窯3期の陶器皿で、口縁に1箇所打ち欠きがある。5は京都系土師器2期皿の口縁部、6は大型の丸瓦で内面の布目につり紐の痕跡が残る。7は砂岩製の茶臼の下臼の破片である。ほかに青花碗、白磁皿、青磁、中国産陶器甕、備前焼の斜めすり目の播鉢・甕、瓦質火鉢、土師器鍋、磚・平瓦などの小片が出土している。



第3-49図 SK85出土遺物 (1/3)

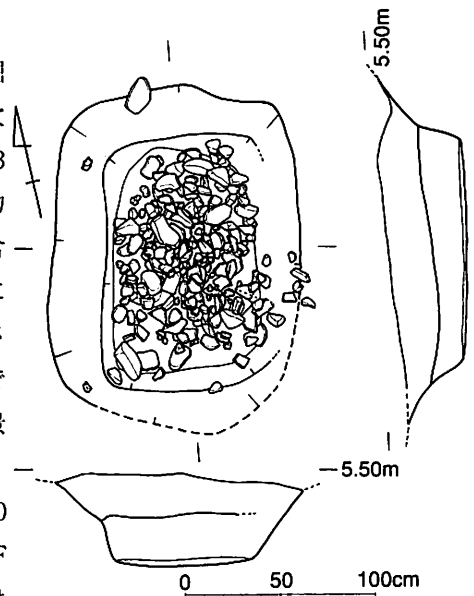
貯蔵穴？

**SK189 (G 地区) (第3-50図、図版40)** LM45区のⅡ層掘下げ後に検出した長方形の土坑で、底面も平坦なので本来穴蔵等の機能を持って掘られたものである。長さ1.8m、幅1.3m、深さ0.4m。SB304建物と方向が一致するのでその建物の伴う土坑であろう。埋没状態はSK85と似て、炭焼土を含む砂混じりの暗褐色軟質土に大多数が被熱した小礫が多量に入り、その中に土器片が散在する状況で、廃棄土坑に転用されたものである。ただし最上層に黄色土の整地層があるので埋没したのは建物の廃絶以前である。唐津産の小皿や中国景德鎮青花皿F群の存在から1596年以後のものである。

廃棄土坑に転用

唐津灰釉陶器皿

**SK189出土遺物 (第3-51図)** 1は唐津灰釉陶器の皿で1590～1610年に生産されたもの、2は中国景德鎮窯系青花皿F群口縁、3は同じ青花碗、4は中国龍泉窯系の青磁碗、5は朝鮮王朝産白磁皿で、目跡が内外につく。6は京都系土師器2期皿の口縁部。ほかに最上部からは丸瓦や平瓦の破片、上半から備前焼の甕や播鉢、景德鎮青花、漳州青花、白磁皿、瓦質火鉢・鍋などの破片が出土した。

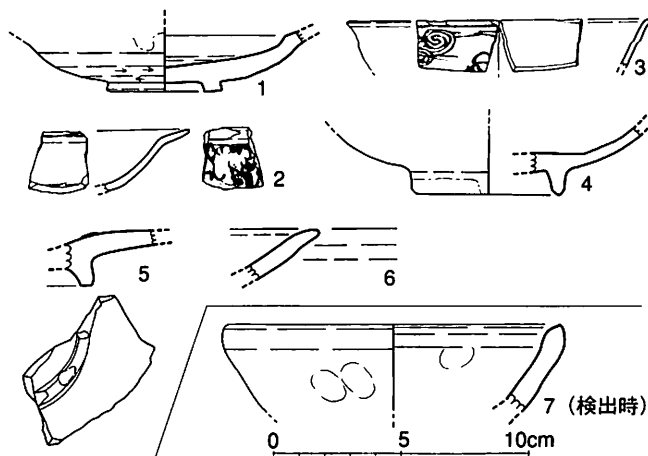


第3-50図 SK189 (1/40)

検出時に7の京都系土師器4期皿の口縁部や京都系土師器3期皿や底部系切の在り系土師器の破片出土。ほかに次の土坑が掘り込まれていた。

**SD79 (G 地区) (第3-52図)** L45区のA層上面で検出され南壁にかかっている。南北方向の浅い溝である。長さ1.1m、幅0.6m、深さ0.1m。内部には拳大の礫がまとまって出土している。埋土は砂混じりの茶褐色土である。近代の遺構であるS187に切られている。SF70の道路の方向とやや異なっており、道路廃絶後の遺構であろう。中世府内町が移転した1602年前後の遺構であると考

えられる。備前焼播鉢片、青磁碗、瓦質土器碗などの小片が出土しているが、近世の遺物はない。



第3-51図 SK189出土遺物 (1/3)

小結

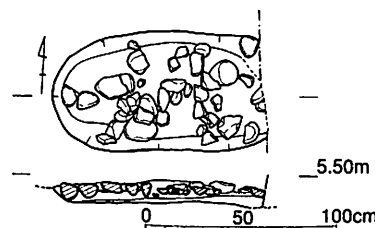
以下にこの道路についての調査成果を列記する。

上市町の第1南北街路

①道路遺構SF70は、その位置と方向から、府内絵図に描かれた上市町の道路と一致する。中世大友府内町遺跡の第1南北街路に当たる。

②この上市町の道路には16面の硬化面すなわち舗装道路の面が認められる。道路の舗装は砂混じりの積土の上に粘土層を載せるのがもっとも丁寧な施工方法で、粘土層の場合もある。そのなかに小型の貝類を混ぜていることが多い。貝類はイボキサゴ・キサゴ類の小型の巻貝である。16世紀末に近い第2硬化面より上では混ぜ物の砂利の量が多くなる。

貝殻を混ぜる



第3-52図 SD79 (1/40)

両側溝  
幅7～7.5m

③道路は両側に側溝を持つのが普通で、多くの面はほぼ水平であるが、第7硬化面以後は中央がやや高くなる。道路幅は側溝の心々距離を測れる場合は、7mないし7.5mで、1世紀間近くかわらないので、道路幅には一定の決まりがあったものと推測される。側溝の位置は道路の舗装のたびに少しずつ移動し、1m前後東西に移動し元に戻る。

石組施設

④側溝は基本的に浅い素掘りの溝であるが、例外的に1586年に焼けた第3硬化面に伴う西側の町屋にはSD380の石組み側溝が伴う。おそらく道路に面した建物の入り口部分に石組みを施したものと考えられる。

火災焼土層

⑤最初の硬化面である第15硬化面から第12硬化面までは積土中に内面にロクロ目を残す土師器や京都系土師器を含まない。調査面積が狭いので、明確ではないが、最初の舗装は15世紀にさかのぼる可能性がある。

道路の縮小

⑥第11硬化面上に第4焼土層、第6硬化面上に第3焼土層、第3硬化面上に第2焼土層、第1硬化面上に第1焼土層が堆積する。とりわけ第2焼土層と第3焼土層は除去されずにそのまま積土の一部として利用されるほど厚く堆積しており、火災の激しさを物語っている。

舗装技術

⑦第1硬化面廃棄後、西側から建物が張り出し、道路が狭くなる第0硬化面が舗装される。中世大友府内町の最終段階である1602年の移転前には、上市町の道路は幅3mほどに縮小されている。

路面の上昇

⑧上層に行くほど硬化面舗装に礫をまぜるようになる。コンクリートと同じ効果である。また硬化した路面では貝類を混ぜた痕跡が明瞭である。道路面を固化する16世紀の道路舗装技術の側面を伝えている。

⑨1世紀あまりの間に道路面の高さは、標高4.3mから5.5mまで、1.2m上昇した。その間16回以上の舗装が行われていることになる。数年に一度舗装が行われたと考えられる。このような道路の作り方は、硬化面の累積が行われない古代以来の道路とは、大きく異なっている。

第6節 上市町西側の遺構と遺物 (E・F・G地区)

I. 遺構の概要 (第3-53図、付図3-2、図版32・33)

下層トレンチ B層上面までは全面を掘り下げ、L43とL44区では生活面が多層化するので、南側に幅1.5mの下層トレンチを設けて掘り下げた。E・F地区とF・G地区の境界付近では南北方向に幅1mの下層トレンチを拡張し、L42区の下層は全掘した。

次に層序をまとめる。

I層：現耕作土

1596年以後

II層：A層と同じ内容の土層で、この上面から掘り込まれた遺構は1596年以後の復興面の遺構であると推定される。

第1焼土層 ほとんどが削平されているが断面の一部で確認される。第1焼土層に対応する各地区のA層上面のうち、特に残りのよいG地区A層上面では17世紀初頭にあたる京都系土師器4期の皿が出土している。1596年の慶長大地震による火災層である可能性が高い(註1)。

1587年の戦災後の復興

A層：1587年の火災後の整地層。京都系土師器3期の皿と斜めすり目を施す近世1期の備前焼播鉢が調査区全体に分布している。A層は1587年の島津氏の豊後侵入による府内炎上後の復興時の整地層であり、その上面から掘られた遺構は1587年から1596年の遺構と考えられる。斜めすり目の近世1期の備前焼播鉢や京都系土師器3期の皿を最新の遺物とする。

1587年の戦災

第2焼土層 1587年の火災層。L43・L44区では全体で厚く堆積している。中国景德鎮窯系青花E群のいわゆる饅頭心碗を主体とし、中国漳州窯系青花をかなり含む。京都系土師器2期の皿が多く、3期の皿も少数ながら含まれる。それに近世1期の斜めすり目の備前焼播鉢を伴う。第2焼土層の下のSP323からも斜めすり目の備前焼播鉢破片が出土している。第1南北街路SF70(上市町道路)の第3硬化面上にまで堆積する。第16次調査区に堆積した焼土層の中では最大の規模の焼土層である。第7次調査区の第1焼土層に対応すると考えられる。

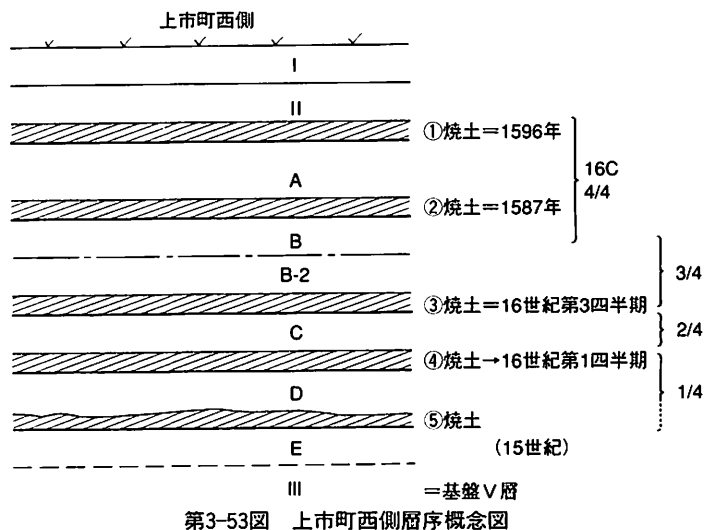
B層：1587年の火災前の整地された生活面(16世紀第4四半期)。この整地層では短冊型地割が作られている。土師器は京都系土師器2期の皿を主体に京都系土師器3期の皿もごく少数含まれる。

短冊型地割

B-2層：第3焼土層堆積後の最初の整地層(16世紀第3四半期)。この整地層で初めて短冊型地割が作られている。京都系土師器2期と3期の皿を同量ふくみ、内面にロクロ痕を残す土師器は少ない。斜めすり目の備前焼播鉢破片が1点含まれている。小面積な調査にもかかわらず多量の銅銭が出土している。火災後の整地の際の地鎮祭祀(SP242)があり、FG地区では焼土層直上に銭貨や完形の土師器を置いている。なおこの整地に際した祭祀行為では京都系土師器1期の皿が用いられている。

第3四半期の火災

第3焼土層：16世紀第3四半期の火災層。京都系土師器1期・2期の皿が多く、3期の皿はない。中国漳州窯系窯青花皿のC群模



註1 河野史郎「大友府内4」大分市教育委員会 2002

俵皿が確実に含まれる。第1南北街路 SF70 (上市町道路) の第6硬化面上に対応する。この層には瓦片が多く、この層から上では瓦が多くなる。なお第3焼土層除去後のC層上面には京都系土師器2期の皿が含まれているので、C層の整地で形成された生活面は基本的に第3四半期の火災直前まで利用されていたと考えられる。

4 焼土の復興面

**C層**：16世紀第1四半期の整地層。第4焼土層堆積後に整地して造成された生活面である。出土した土師器は底部糸切の在り系土師器と内面にロクロ痕を残す土師器のみで、京都系土師器を含まないので整地の時期は16世紀第1四半期である。

**第4焼土層**：内面にロクロ痕を残す土師器の破片のみが出土している。SF70 (上市町道路) の第11硬化面上に対応する。

最初の整地層

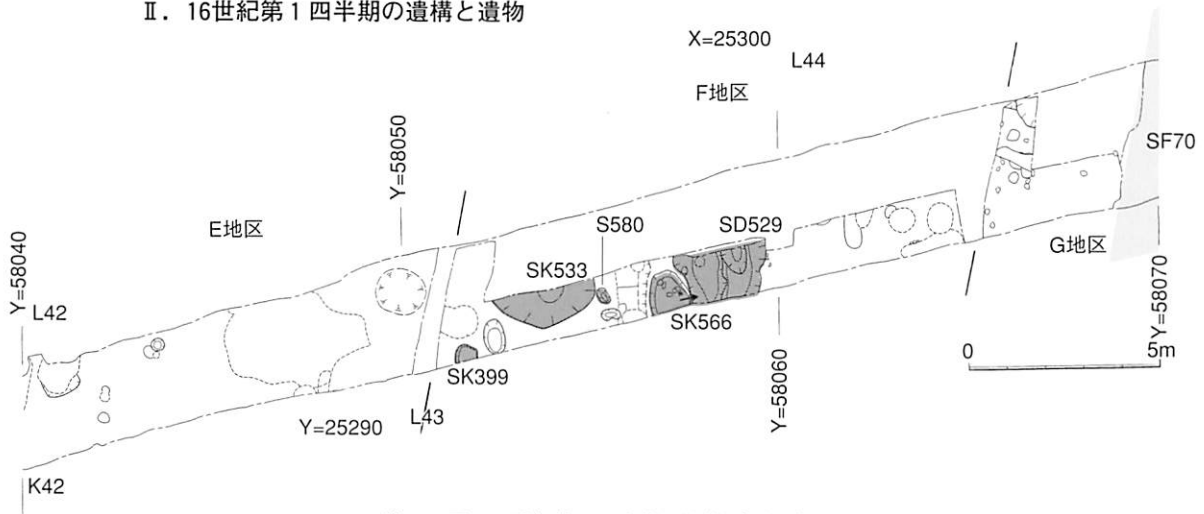
**D層**：15世紀から16世紀第1四半期の整地層。D層中からは底部糸切の在り系土師器のみが出土し、内面にロクロ痕を残す土師器や京都系土師器を含まないので、15世紀のうちに整地されて形成された生活面である。その後C層上面の第4焼土層の直前まで、内面にロクロ痕を残す土師器が使われているので、この生活面は16世紀第1四半期まで利用されたと考えられる。F地区では15世紀の中世5b期の備前播鉢 (1475~1500年製) が含まれている。

**第5焼土層**：底部糸切の在り系土師器のみ出土で、15世紀代の焼土層。

**E層**：15世紀の包含層。底部糸切の在り系土師器のみが出土している。

**Ⅲ層**：基盤V層

## Ⅱ. 16世紀第1四半期の遺構と遺物



第3-54図 16世紀第1四半期の遺構 (1/200)

### 概要 (第3-54図、付図3-3)

溝と土坑

15世紀代に掘られた溝はほとんど埋没し、第1南北街路の道路がこの時期から路面の舗装を開始する。上市町の道路 SF70である。12硬化面の道路西端から10mほど西に平行して溝 SD529が掘られ、その西側 (L43区) では廃棄土坑が重なり、第4焼土層の部分的広がりが認められる。土坑の中にはSK399のように、完形の土師器を埋め置いた遺構が存在する。おそらく新たな道路の建設に伴った、宅地割がなされたものと推定されるが、16世紀後半以後の密集度には程遠く、まだ町屋とは言いがたい。

### 溝

南北溝

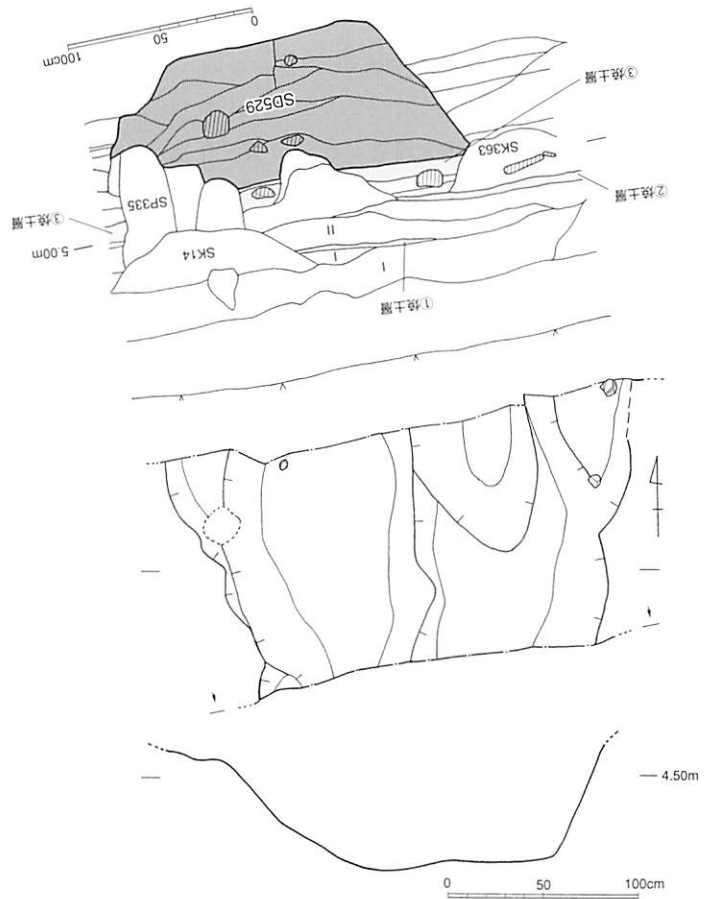
**SD529 (F地区)** (第3-55図、図版43) L43区のD層上面で検出した南北方向の溝である。断面は掘り直し後も逆台形である。幅約1.8m、深さ0.9mである。やや東にずれて掘り直しがあ

り、最終的な埋没後にはD層上面の整地層が薄く覆っている。15世紀の土坑SK552と同じ16世紀第1四半期の土坑SK566を切る。溝には掘り直しがある。口縁を打ち欠いた内面にロクロ痕を残す土師器(1)の皿が、掘り直し前の溝に廃棄されており、何らかの祭祀行為が行われた可能性を示す。

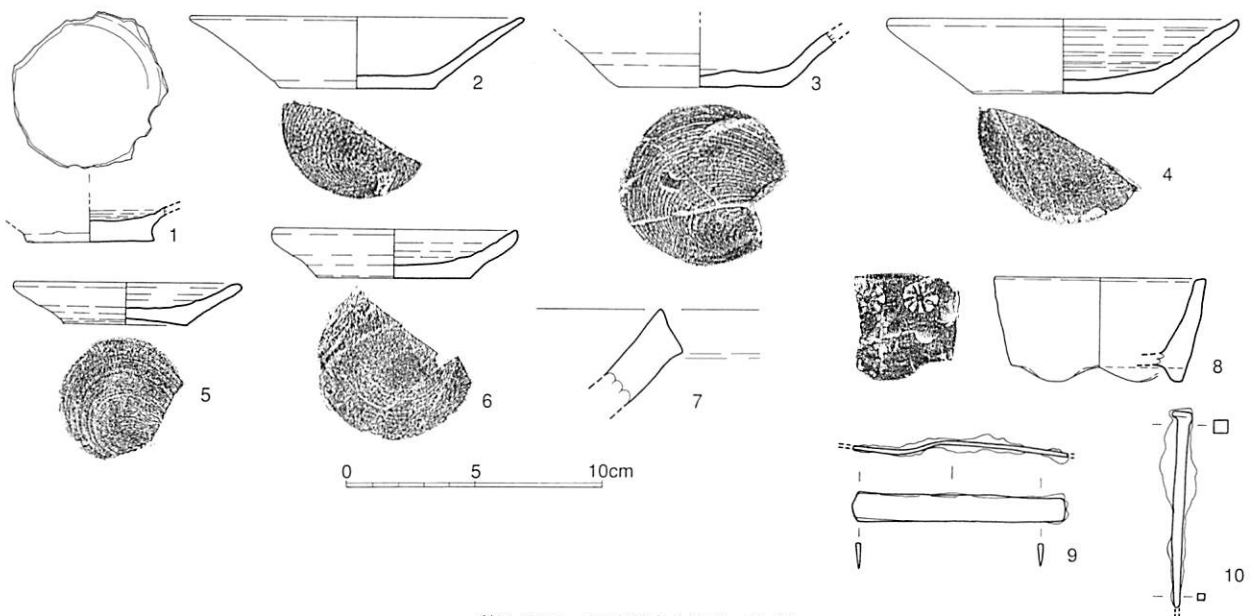
SD529出土遺物 (第3-56図)

ロクロ目土師器

土師器には京都系土師器を含まない。1は口縁の全周を打ち欠いた内面にロクロ痕を残す土師器の皿、2と3は底部糸切の在地系土師器坏だが、形態はロクロ痕の土師器に近い。4は内面にロクロ痕を残す土師器皿、5と6はその小皿。7は15世紀はじめの中世3b期の備前焼播鉢、8は瓦質小型の香炉、外面に菊花紋の刻印を施す。9は鉄製の刀子。10は完形の鉄釘。ほかに中国龍泉窯産青磁碗、放射すり目の備前焼播鉢・甕、瓦質火鉢・鉄刀子・釘、薄手白色の大内系土師器の破片が出土している。



第3-55図 SD529 (1/40)



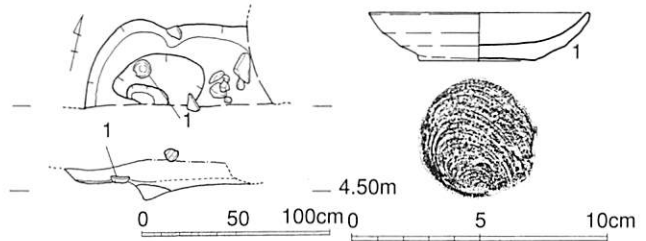
第3-56図 SD529出土遺物 (1/3)



土坑

SK399 (F地区西) (第3-57図) L43区の下層トレンチのD層上面で検出した長円形の土坑で、S436 (15世紀) を切り、SK398 (16世紀第3四半期) に切られる。長さ1.0m、幅0.5m以上、深さ0.2m。出土遺物が底部糸切の在地系土師器と内面にロクロ痕を残す土師器のみで、京都系土師器を含まないところからこの時期の遺構とした。完形の在地系土師器小皿(1)を底面中央に正位で置く土師器埋置遺構である。

土師器埋置



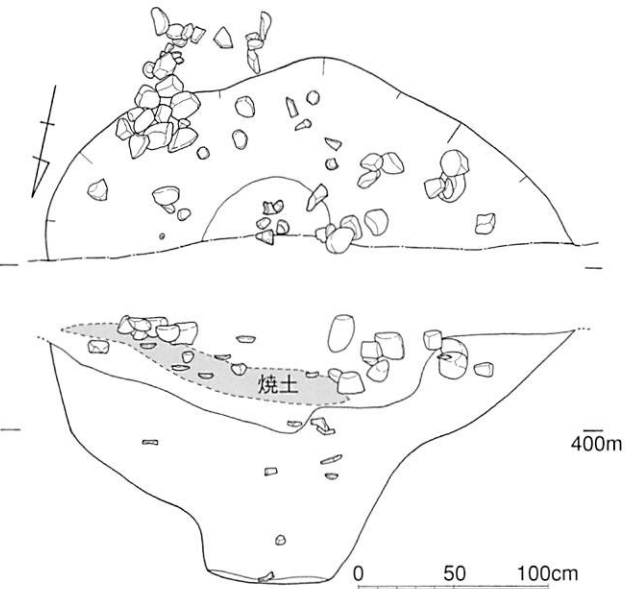
第3-57図 SK399 (遺構1/40、遺物1/3)

SK399出土遺物 1は正位に置かれた底部糸切の在地系土師器小皿の完形品であり、口縁に3箇所故意の打ち欠きがある。ほかに須恵質の中世陶器、瓦質火鉢、大内系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器や、器高の低い在地系糸切土師器の小皿の破片が出土している。

口縁打欠

SK533 (F地区西) (第3-58図、図版43) L43区のD層上面で検出され、15世紀の土坑SK534を切る平面半円形の土坑である。長さ2.7m以上、幅1.0m以上、深さ1.6mである。

大型土坑



第3-58図 SK533 (1/40)

SK533出土遺物 (第3-59図) 以下はSK533と534上層がかなり混じっている最上層出土遺物。1は14世紀までさかのぼる備前焼甕口縁。2と3は薄手の底部糸切の在地系土師器小皿だが法量は異なる。4は管状土錘A類の中小型完形品。5は半分に折れた中国銅銭の紹聖元寶 (北宋1094年初鑄)。

6は小型の仕上用砥石。ほかに白磁皿E2類端反の口縁1点。白磁1点。中国景德鎮窯系青花の皿B1群1点。同じ青花1点。中国漳州窯系青花碗1点。瓦質土器1点。鉄釘3点。などの破片が出土している。

(上層焼土層) 7は瓦質鉢の底部。8は内面にロクロ痕を残す土師器皿で、底部に焼成後の穿孔がある。ほかに瓦質鍋1点、白銅銭一枚が出土している。

(中層焼土層) 9は16世紀後半の底部糸切の在地系土師器の大型坏。10は底部糸切の在地系土師器の大型坏。11は口縁の全周を打ち欠いた底部糸切の在地系土師器底部。12は内面にロクロ痕を残す土師器皿で内面のロクロ痕をナデ消している。13は16世紀後半の底部糸切の在地系土師器小皿。ほかに底部糸切の在地系土師器の坏2点 (1点は第3焼土層D層出土片と接合) の破片が出土している。

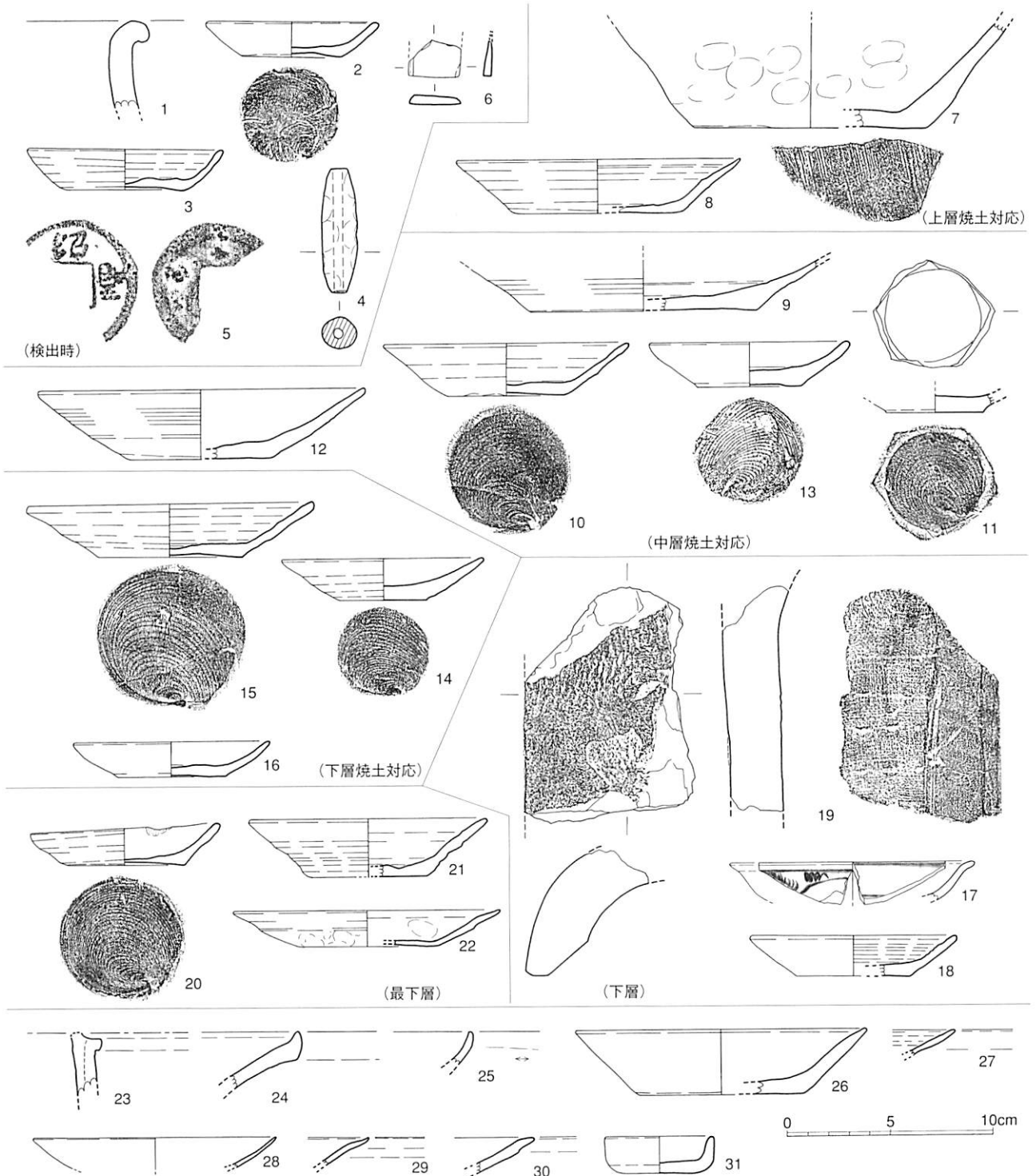
(下層焼土層) 14は16世紀後半の底部糸切の在地系土師器小皿の河野E類。15は内面にロクロ痕を残す土師器で、故意に破碎された割れ方で出土し、D層とSK534の出土破片と接合。16は16世紀後半の底部糸切の在地系土師器小皿の河野E類。ほかに平瓦1点、動物骨1点の破片が出土している。

(下層) 17は中国景德鎮窯系青花皿B1群。18は内面にロクロ痕を残す土師器の小皿。19は内

面の布目につり紐の痕が残る丸瓦。ほかに瓦質火鉢底部1点、鉄釘1点の破片が出土している。

(最下層) 20は底部糸切の在り系土師器小皿(口縁に3箇所打ち欠きがある)。21は内面に口ク口痕を残す土師器皿。22は薄手白色の京都系土師器0期皿。ほかに14世紀後半から15世紀の中国龍泉窯系青磁碗CⅡb類1点。底部糸切の在り系土師器坏1点などの破片が出土している。

(一括) 23は14世紀の土師質鍋口縁。24は瓦質鉢口縁。25は瓦質土器碗。26は京都系土師器を模倣した底部糸切の土師器皿。27と28は大内系土師器皿。29は京都系土師器0期の皿。30は京都系土師器1期の皿。31は京都系土師器の小型小皿。ほかに備前焼の播鉢2点。瓦質の甕1点(外面格子タタキ)・火鉢1点・播鉢1点・鍋2点(口縁1)。底部糸切の在り系土師器多数。そのうち小皿



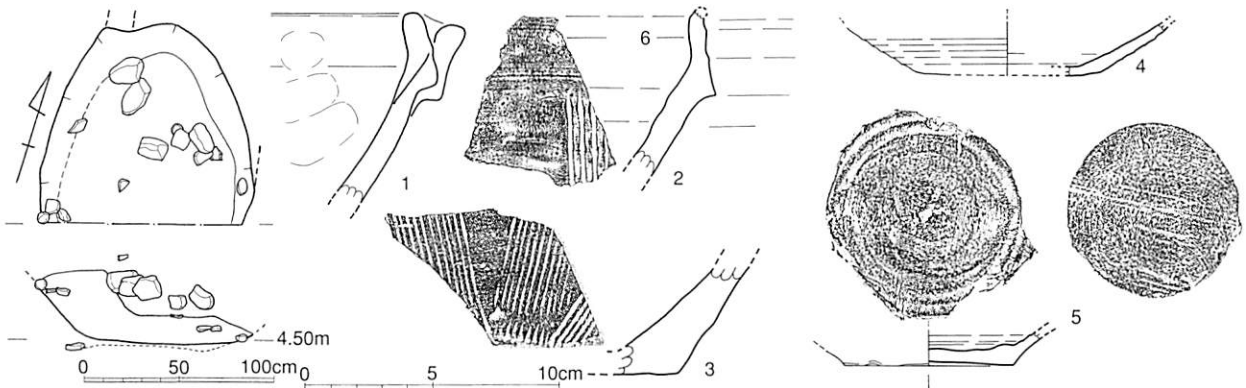
第3-59図 SK533出土遺物 (1/3)

1点はSK534出土破片と接合。内面にロクロ痕を残す土師器多数。丸瓦1点(内面布目外面縄目タタキ)。平瓦4点。銅銭片1点。以上の破片が出土している。

**SK566 (F地区) (第3-60図)** L43区の下層トレンチのD層除去後に検出し、基盤Ⅲ層まで達していた。断面観察からD層上面から掘り込まれたものである。不整な長円形の土坑である。長さ1.1m以上、幅1.0m、深さ0.4m。同じ第1四半期の溝SD529に切られている。内部には礫や土器の破片が多く廃棄されていた。その中には口縁部の全周を打ち欠いた内面にロクロ痕を残す土師器の坏が含まれていて、廃棄時になんらかの祭祀的行為が行われたものと見られる。出土土師器は底部糸切の在地系土師器と内面にロクロ痕を残す土師器のみで、京都系土師器が含まれず、共伴する備前焼播鉢は乗岡編年の中世5b期の1475~1500年製のものなのでこの時期とした。

廃棄土坑?

**SK566出土遺物** 1と2はともに15世紀後半の中世5b期の備前焼播鉢の口縁部である。3は備前焼播鉢の底部片。4は薄手白色の大内系土師器の皿。5は内面にロクロ痕を残す土師器皿の底部で口縁全周を打ち欠いている。ほかに瓦片や土師器の碎片が多い。



第3-60図 SK566 (遺構1/40、遺物1/3)

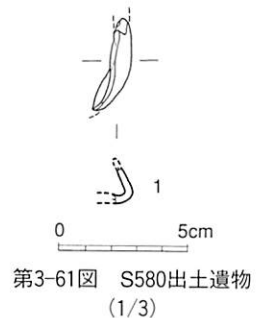
そのほかの遺構 (第3-61図)

**S580 (F地区)** L43区のE層上面で検出した不整形のピットである。底部糸切の在地系土師器坏の小片のほかに、1の内面に布目の残る土師器の耳皿片が出土した。

小結

南北方向に伸びるSD529の西側に、廃棄土坑が多く、そのうちSK399とSK566では土師器を埋置する祭祀行為が行われており、広い面積の宅地が存在したものと考えられる。

広い区画

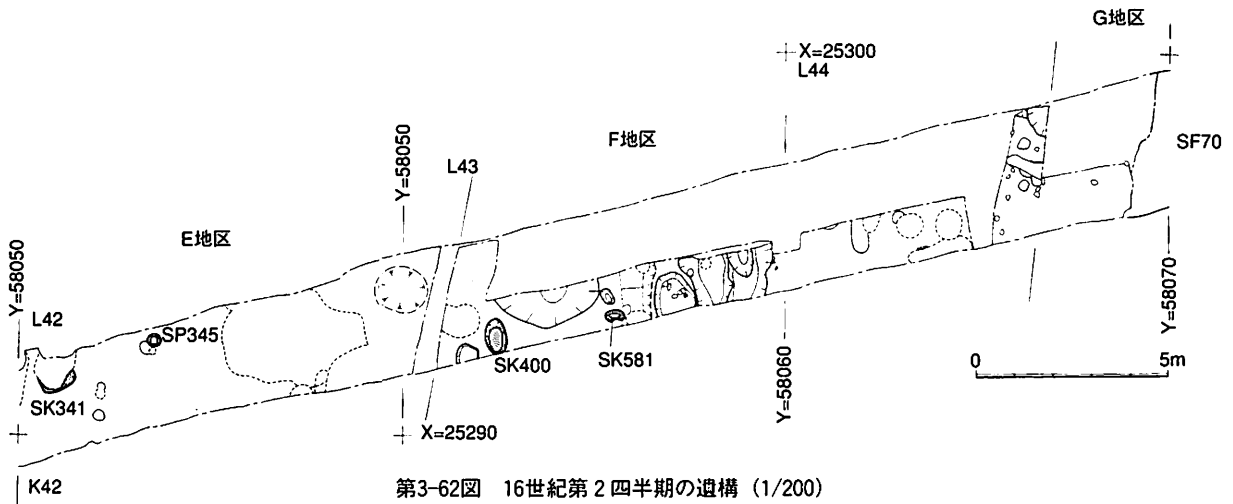


第3-61図 S580出土遺物 (1/3)

Ⅲ. 16世紀第2四半期の遺構と遺物

概要 (第3-62図、付図3-3)

上市町の道路遺構 SF70の西側に広がる C~D層上面で検出された遺構群で、小土坑と柱穴がほとんどで、それほど密集していない。

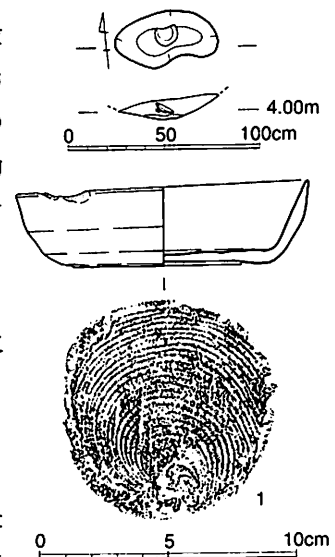


第3-62図 16世紀第2四半期の遺構 (1/200)

土坑

**SK581 (F 地区)** (第3-63図、図版44) L43区の基盤Ⅲ層上面で検出した小土坑である。長さ0.5m、幅0.3m。E層土でふさがれており、E層上面から掘り込まれたもの。しかし口縁を打ち欠いた完形の在り系系切土師器が1点、正位に置かれたように発見された。意図的は土師器埋納遺構である。埋土中からはほかに内面にロク口痕を残す土師器と京都系土師器1期の皿の破片が出土しているのでこの時期まで下げた。

**SK581出土遺物** 1は底部糸切の在り系土師器杯で口縁部に打ち欠きがある。

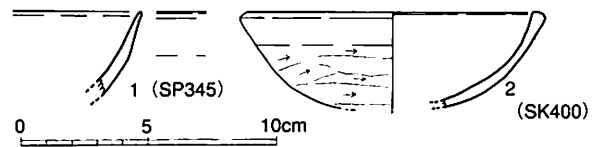


第3-63図 SK581 (遺構1/40、遺物1/3)

そのほかの遺構 (第3-64図)

**SK341 (E 地区)** L42区のB-2層 (D層に対応) 上面で検出した不整円形の土坑である。長さ1.0m。B層上面の整地の際にはすでに埋没し、16世紀第3四半期のSK123に切られているので、それ以前であるが上限ははっきりしない。下部に礫が集中し埋土に炭焼土を多く含む、上部には黄色粘土のC層上面整地層が入り込む。出土遺物には瓦質鍋の小片がある。

**SP345 (E 地区)** L42区のB-2層上面 (D層に対応) から掘り込まれた円形の柱



第3-64図 そのほかの遺構出土遺物 (1/3)

穴と推定される。1は中国製天目碗の口縁部片で、ほかに糸切土師器の口縁が出土している。

**SK400 (F 地区西)** L43区トレンチのC層上面で検出された長円形の小土坑である。長さ0.9m、幅0.5m。中国景德鎮系青花片、備前焼の甕、底部糸切の在り系土師器、大内系土師器、京都系土師器1期皿の口縁のほか、2は瓦質土器碗の口縁片が出土している。

土師器埋置

柱穴

小結

わずかな柱穴と廃棄土坑と考えられる小土坑が点在する状況であるが、土坑 SK581のように埋没に先だって土師器の埋納が行われている遺構があり、この付近に何らかの施設があったことは事実である。この状態を宅地と言えるかどうかは別にして、第1四半期同様に広い範囲に遺構が散漫に分布するなんらかの区画が設定されていたものと考えられる。

IV. 16世紀第3四半期の遺構と遺物

概要 (第3-66図、付図3-3中)

C層上面

C層上面から掘り込まれた遺構をこの時期とする。16世紀の第3四半世紀の間に、上市町の道路の両側には火災による焼土層が広く堆積しており、この焼土層を第3焼土層とする。遺構はこの第3焼土層の上から掘り込むことが確認されたものと、第3焼土層除去後のC層上面で検出した遺構に別れる。

3焼土の上下

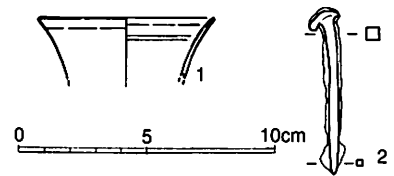
整地層の厚くなるL43区とL44区では焼土層を取り除くと、硬化して表面がよごれた明瞭な生活面(C層上面)を検出したので、第3焼土層以前の遺構と、火災後の遺構を掘り分けることは容易であったが、L42区は第3焼土層の広がりがなく、生活面も削平されていたために明確でなかった。

以下の3遺構は第3焼土層との上下関係は判別できなかったが、検出層序と出土遺物から16世紀の第3四半期の遺構であると判断した。(第3-66図)

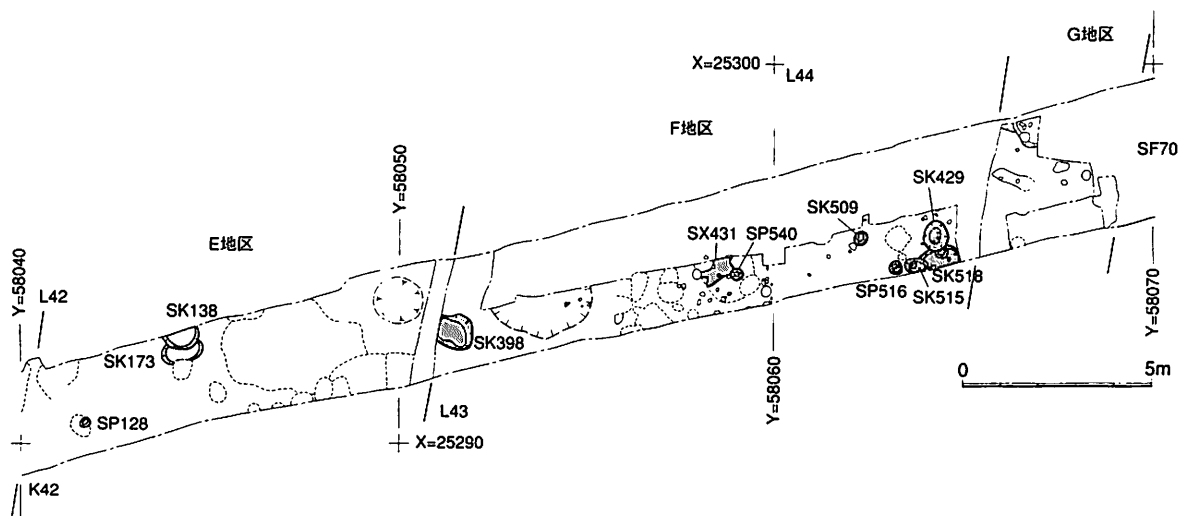
**SP128** (E地区) L42区のB層上部で検出した土坑 SK127を切る円形の柱穴。遺物はない。

**SK138** (E地区) L42区のB層上面で検出した長円形の土坑で、SK173を切る。長さ0.9m、幅0.5m以上。埋土は1~2ミリ大の炭・焼土を含む砂混じりの暗褐色土の単層である。1は白磁小皿。2は完形の鉄釘。ほかに白磁1点。端反りの中国景德鎮窯系青花碗B群1点。青花碗1点。備前焼の甕胴部1点。底部糸切の在土系土師器1点。完形の鉄釘1点。

**SK173** (E地区) L42区のB層上面で検出した円形の土坑で、1587年以後の柱穴 SP73と SK138から切られる。長さ0.9m、幅0.4m。5ミリ大の炭・焼土を含む砂混じりの暗褐色土の単層である。ほかに碁笥底の中国景德鎮窯系青花皿C群、朝鮮王朝産舟徳利と京都系土師器1期と2期皿の破片が出土している。



第3-65図 SK138出土遺物 (1/3)



第3-66図 16世紀第3四半期の遺構① (第3焼土以前、C層上面、1/200)

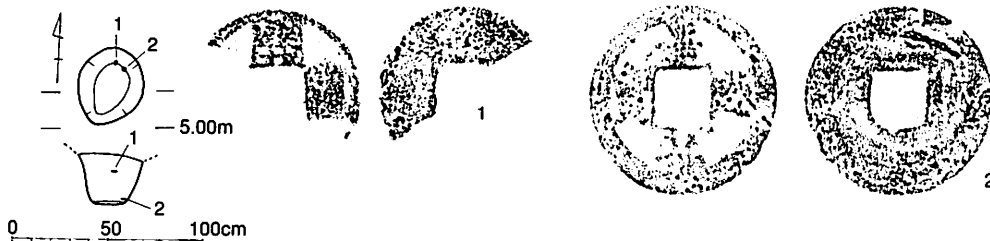
## ①16世紀第3四半期（第3焼土層以前）（第3-66図）

## 概要

C層上面の遺構

第3焼土層除去後のC層上面精査時に発見した遺構である。大小の土坑数基と、少数の柱穴が分布する。特にL44区には密集する。上市町の道路SF70に面して礎石となりうる石材が4つ検出されている。C層上面の生活面が機能していた時点では、上市町の道路面の方が両側の宅地部分より高く、緩やかな斜面を介在させて西側は一段低くなっている。その西側は平坦である。重要なことはこの時点ではまだ短冊型の地割は形成されていないことである。

大区画



第3-67図 SK509（遺構1/40、銭貨1/1）

## 土坑

銭貨埋納

**SK509**（F地区）（第3-67図） L44区のC層上面で第3焼土層除去後に検出した小土坑。長さ0.5m、幅0.4m、深さ40cm。平面形は楕円形をなし、断面も整わない。内部から銅銭2枚が出土し埋納した可能性が高い。埋土には焼土や炭を多く含む。

**SK509出土遺物** 1は銅銭の破片（開○通○と読める）、2は完形の嘉祐通寶（北宋1056年初鑄）。

## そのほかの遺構（第3-68図）

礎石

**礎石** G地区の道路に向かう緩やかな斜面で礎石となりうるような平坦な円礫を検出したが配置に規則性が無いため、礎石建物があつたのか整地層に混入したものか不明である。

**SK398**（F地区西） L44区下層トレンチのC層上面で検出した円形の土坑である。SK399（16世紀第1四半期）を切る。3～4ミリ大の炭・焼土を多く含む砂混じりの暗褐色土の単層である。1は在地系糸切土師器の底で、2は底部糸切の在地系土師器台付き皿で底部中央に穿孔がある。1箇所打ち欠きがある。3は京都系土師器1期の皿、4は銅銭で元符通寶（北宋1098年初鑄）だが、ほかに中国龍泉窯系青磁碗B IV類、備前焼、京都系土師器2期の皿、瓦質火鉢、鉄釘などの破片が出土している。

C層上面の跡

**SX431**（F地区）（図版42） C層面を作るとき埋没した窪みである。底面中央には円形の被熱面があり灰の堆積や第3焼土層に対応する焼土層の堆積が認められ、C層上面のこのくぼみで火をたいたものと見られる。しかし常設された炉とはみなしがたい。5は防長系瓦質鉢で16世紀前半の河野A1類、6は在地系の糸切土師器小皿。ほかに中国景德鎮窯系青花碗口縁、京都系土師器1期の皿口縁、鉄釘などが出土している。

**SP540**（F地区） L43区下層トレンチのD層上面で検出したが、断面土層から見るとさらに上のC層上から掘り込まれたと見られる円形の柱穴である。炉SX431に伴う可能性もある。7は土師質火鉢の口縁部片で、ほかに在地系土師器小皿の破片が出土している。

**SK516**（F地区） L44区のC層上面で第3焼土層除去後に検出した小土坑。長さ0.4m、幅0.3m。埋土は単層で3～4ミリ大の炭や焼土を含む暗褐色土。骨や底部糸切の在地系土師器の底部片が出土した。

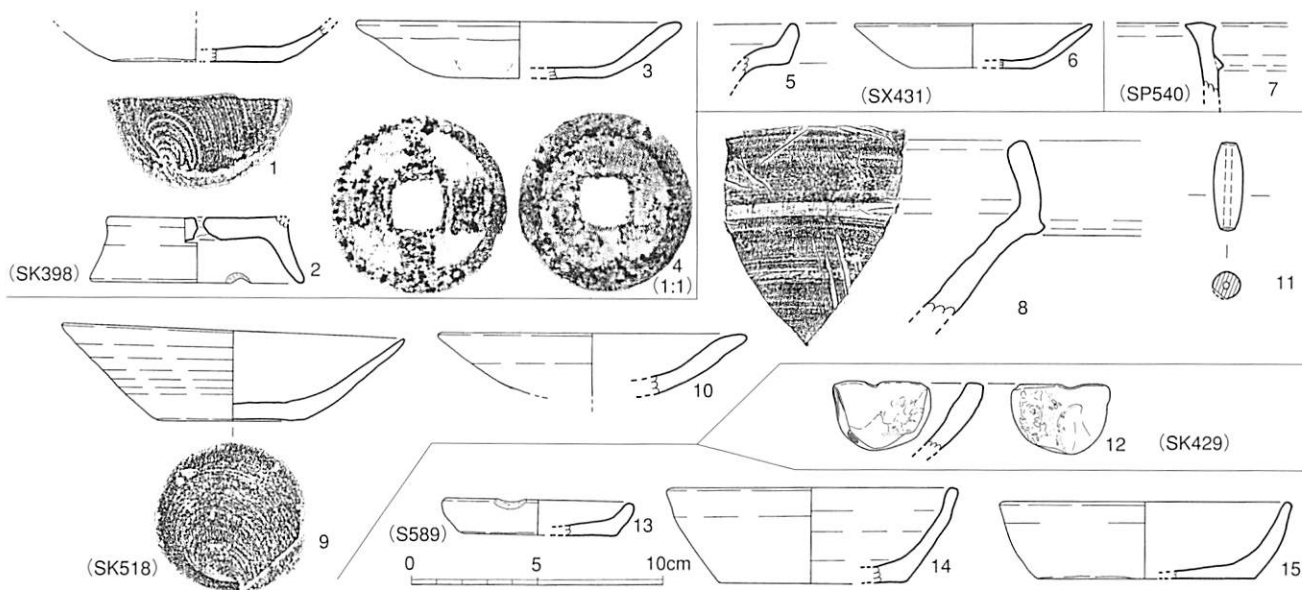
**SK518**（F地区） L44区のC層上面で検出した不整形の土坑であるが、壁の断面観察から3つの土坑の複合であることが判明した。8は中世6期の備前焼播鉢。9は底部糸切の在地系土師器

で、16世紀後半の河野E類でL44区第3焼土層出土の破片と接合した。10は京都系土師器2期皿の口縁、11は下層から出土した管状土錘A類の完形品で、超小型に分類される。ほかに、白磁皿A群、碁笥底の白磁皿E3群、内面にロクロ痕を残す土師器の破片が出土している。

**SK515 (F地区)** L44区のC層上面で検出された長円形の浅い土坑である。長さ0.6m、幅0.4m。同じ時期の土坑SK518を切る。埋土は単層で2～3ミリ大の炭焼土を含む暗灰褐色土。出土遺物は底部糸切の在り土系土師器と瓦質播鉢の破片がある。

**SK429 (F地区)** L44区下層トレンチのC層中で検出した長円形の土坑である。長さ0.8m、幅0.7m。16世紀第4四半期の柱穴SP456出土破片と接合した京都系土師器2期皿の破片や、割れて判別できない銅銭2枚(銭種不明)や、12の黒色の付着物が内面から断面にひろがる土製のつぼのほか、中国景德鎮窯系青花碗E群と青磁、放射すり目の備前焼播鉢、瓦質鍋や底部糸切の在り土系土師器、京都系土師器1・2期の皿の小片が出土している。

**S589 (G地区)** L44区(西2区)トレンチE層上面で検出したが遺物の内容から見てこの時期と考えられる。13～15は底部糸切の在り土系土師器の坏および小皿である。13には口縁に打ち欠きがあり、14は胎土が異なる搬入品。ほかに中国景德鎮窯系青花碗E群と青花皿C群、青磁碗、白磁皿E-2、白磁小坏、京都系土師器1・2期の皿、内面にロクロ痕を残す土師器の破片が出土している。



第3-68図 そのほかの遺構出土遺物 (4=1/1、そのほかは1/3)

小結

いまだ短冊地割ではない

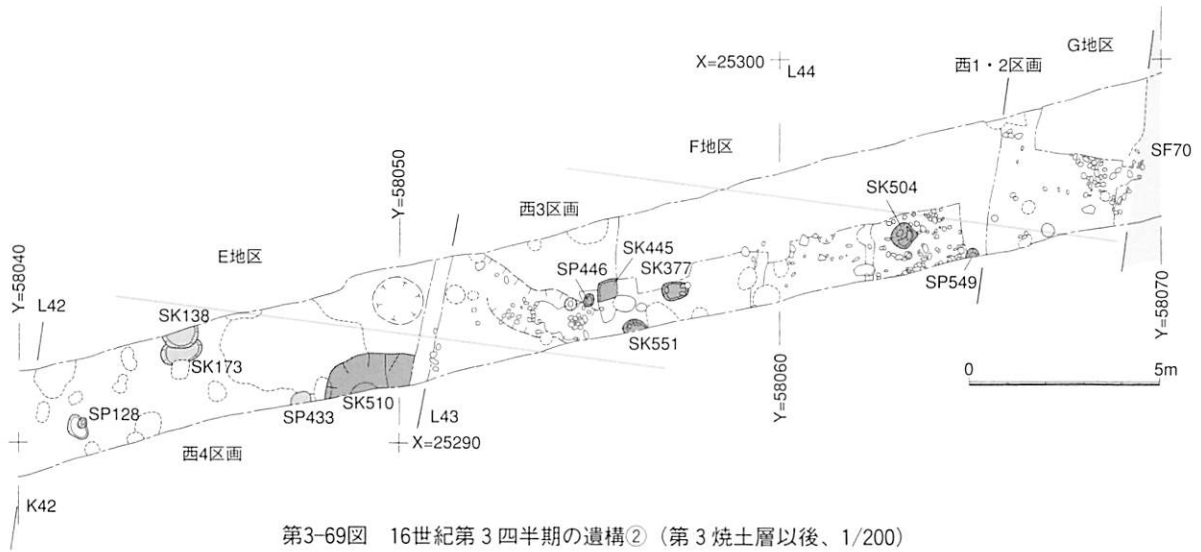
C層上面の地形をみると緩やかな斜面をなし、とりたてて段差がない。また道路から直交する方向への区画施設の遺構はみとめられず、この段階ではいまだ短冊型の地割は存在していない。しかし道路SF70に直交する方向に礎石が認められるので、上市町の道路に面して礎石建物が建てていた可能性が指摘できるのみであるが、確実ではない。

②16世紀第3四半期(第3焼土層以後)(第3-69図、付図3-3、図版33)

概要

火災復興面

第3焼土層形成後、その上に盛り土をおこなって造成された火災復興面である。B-2層として把握した。その上面は、ゆるい段差で区画され、のちに西1区画と西2区画に分けた部分が一つの区画となり、西3区画と西4区画ができあがる。第3焼土層の上あるいは、その上の最初の整地層で



B-2層上面

あるB-2層上から掘り込まれた遺構である。

第3焼土層はF地区のL43区からG地区の道路SF70の第6硬化面上に広がる焼土の堆積である。以下は形成された区画ごとに記述する。

西1区画・西2区画 明瞭な遺構は無い。

西3区画

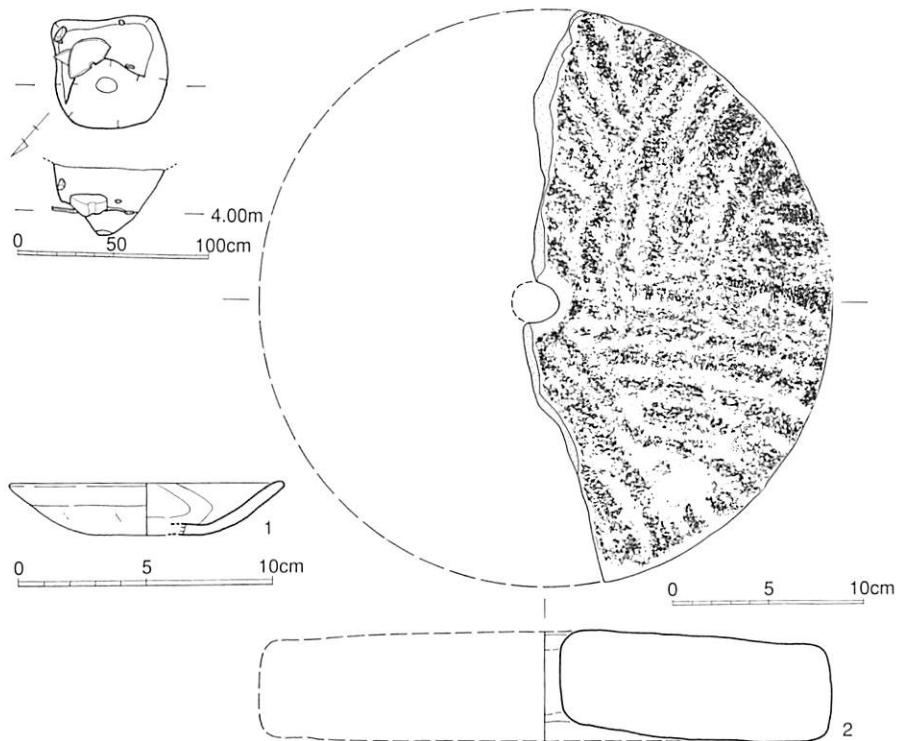
土坑

SK504(F地区) (第3-70図、図版42)

L44区のC層上面で第3焼土層除去後に検出した方形の土坑。長さ一辺0.6m、深さ0.4cm。平面形は不整な四角形をなし、底面は平坦である。内部からは両端が被熱した石臼や、土師器・陶器の破片が大粒の炭や焼土の塊とともに出土し、第3焼土層の片付けに起因する廃棄土坑である。

方形土坑

火災処理土坑



第3-70図 SK504 (遺構1/40、遺物1=1/3、2=1/4)

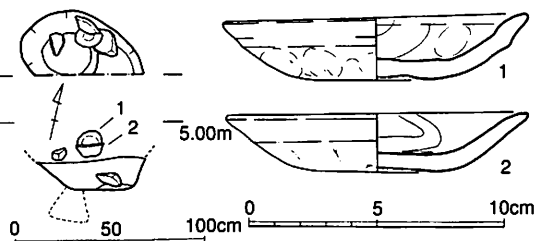
SK504出土遺物 1は京都系土師器1期の皿で、西3区B層上面と第2焼土出土破片と接合。2は半分にわかれた安山岩製の石臼で、被熱している。ほかに備前焼の甕はSK188出土破片と接合し、底部糸切の在地系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器、瓦質土器や鉄釘、骨片などが出土している。



土師器埋置

京土師3期2枚

**SK551 (F地区) (第3-71図) L43区 (西3区画)** のB-2層上から掘り込まれた土師器埋納土坑である。長さ0.7m、幅0.3m以上、深さ0.3m。B層上面の整地層が上に覆っているところから、第3焼土層後の短冊型地割造成に伴う地鎮祭祀遺構と考えられる。内部には完形の京都系土師器3期の皿2個体はやや上部に置かれていた。2が正位で置かれ、1はその上に横向きに出土した。

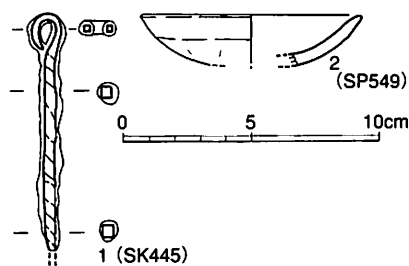


第3-71図 SK551 (遺構1/40、遺物1/3)

**SK551出土遺物** 1と2は埋納されていた、ともに完形の京都系土師器でいずれも3期の皿か。ほかに備前焼の播鉢、底部糸切の在り系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器、大内系土師器の小片が出土しているが、いずれも埋土中に混じったものである。

**そのほかの遺構 (第3-72図)**

**SK377 (F地区) L43区 (西3区画)** トレンチの第3焼土層を切る状況で検出された長円形の土坑で、断面も半円形である。長さ0.7m、幅0.5m。おそらくB層中から掘り込まれたものであろう。埋土は5ミリ大の炭・焼土が多い微砂質暗褐色軟質土で、瓦質土器と底部糸切の在り系土師器の小片が出土している。



第3-72図 そのほかの遺構出土遺物 (1/3)

**SK445 (F地区) L43区 (西3区画)** トレンチのB1層整地時に埋没した浅い円形の土坑である。埋土は暗褐色軟質土で、B層整地層によって埋められている。1は鉄製火箸の握り部分で環頭状に折り曲げ、ねじりを入れている。ほかは土師器の小片が出土している。

**SP446 (F地区) L43区 (西3区画)** 拡張したサブトレンチのB層除去後に検出した円形の柱穴である。内面にロクロ痕を残す土師器と糸切り土師器のみが出土している。

**SP549 (G地区) L44区 (西3区画)** の第3焼土層より上で検出した円形の柱穴。2は京都系土師器1期の小皿口縁部、ほかに鉄釘片出土。

**西4区画**

**土坑**

土師器埋置

廃棄土坑

**SK510 (E地区) (第3-73図、図版42) L42区 (西4区画)** のB-2層上面で検出されB層が上を覆う円形の土坑である。第4四半期の土坑SK378に切られる。長さ2.5m以上、幅1m以上、深さ50cm。断面はやや深い皿状で、上層には礫が充満し、埋土には5ミリ大の大粒の焼土・炭片が含まれる。礫の下には炭層が広がり、その下には底部糸切の在り系土師器の坏がおかれていた。上部は別の遺構の掘込みがあり、上層の遺物は必ずしも本土坑に伴うものではない。上層遺構は別の集石土坑である可能性が大きい。廃棄土坑で掘削時に土師器の埋納が行われている。

**SK510出土遺物 (第3-74図)** 下層出土遺物。1は中国景德鎮窯系青花皿B1群口縁、2は白磁鉢、3~6は底部糸切の在り系土師器の坏、7は同じく小皿、8は瓦質火鉢の口縁。ほかに青磁、備前焼の甕、瓦質土器碗、内面にロクロ痕を残す土師器、京都系土師器、平瓦・鉄小刀・釘などの小片が出土している。

上層出土遺物。第4四半期の遺物がある。9は中世6期の備前焼甕口縁、10は15世紀後半の中世5期の備前焼播鉢口縁。11は瓦質土鍋で16世紀後半河野B-2類。12は底部糸切の在り系土師器、13は京都系土師器2期の小皿、14は京都系土師器3期の皿。15と16は完形の中国銅銭で、15は元祐通

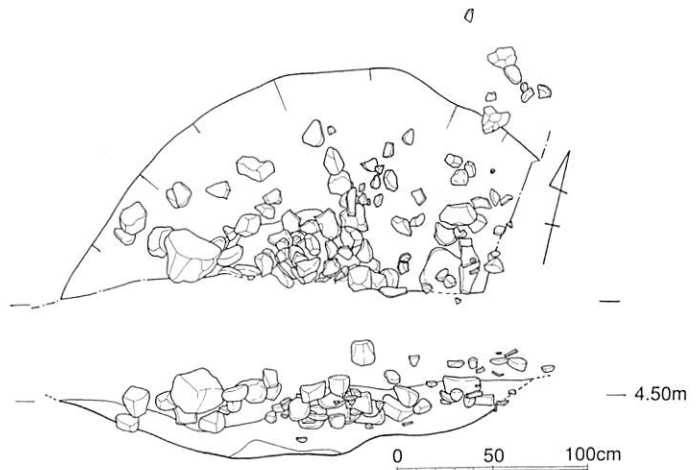
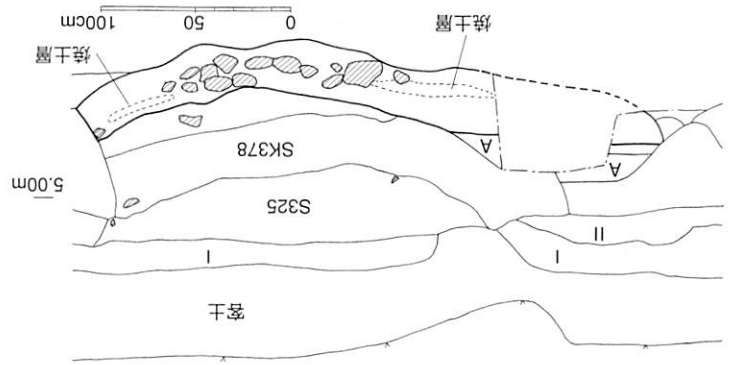
寶（北宋1086年初鑄）、16は開元通寶（唐621年初鑄）。17～19は鉄器で、17は1寸鉄釘、18は3寸鉄釘、19は小刀の完形品。ほかに朝鮮王朝産舟徳利（16世紀後半）、備前焼の甕、瓦質土器火鉢、鉄釘、焼けた壁土の一部などが出土している。

小結

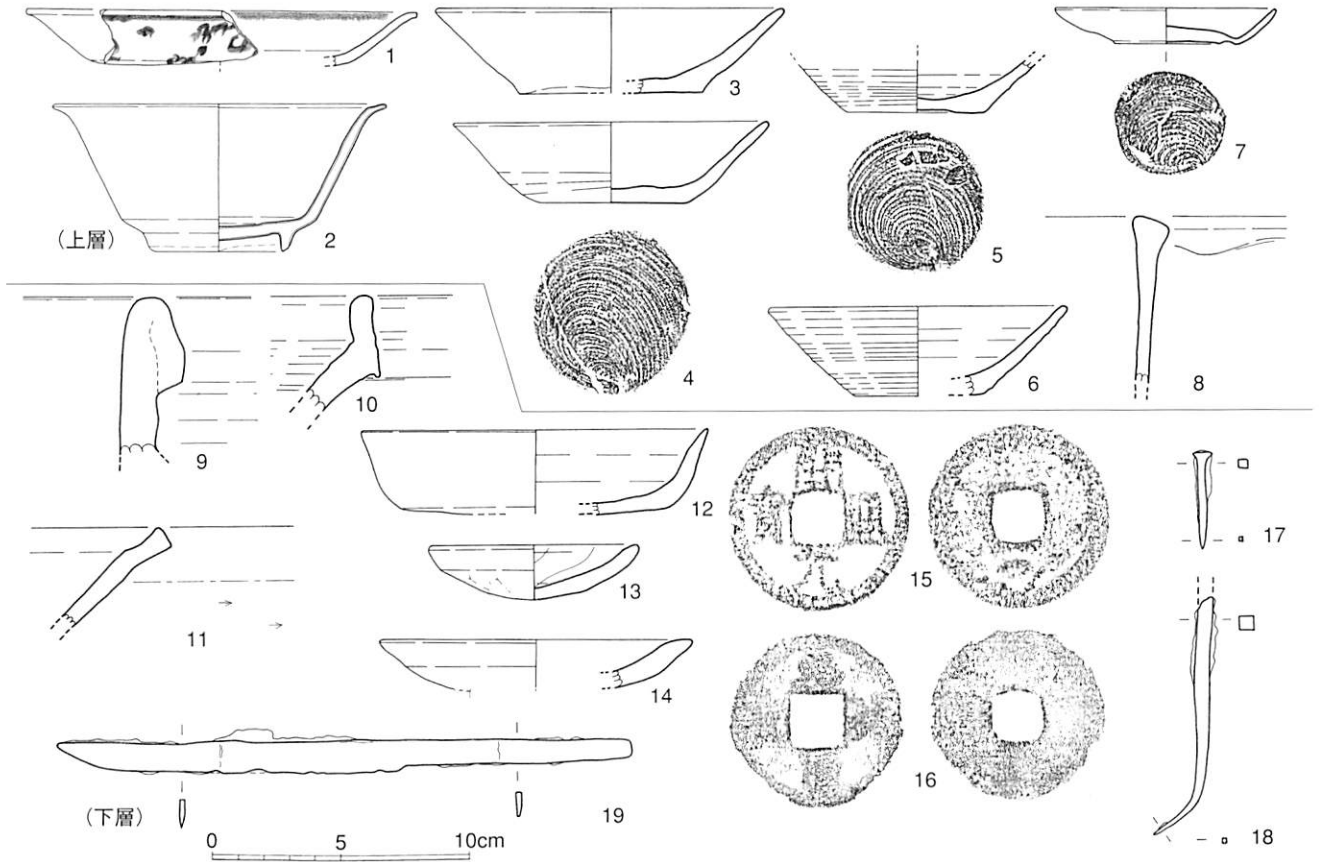
第3焼土層が形成された後、すなわち火災以後の上市町を復興するに際して、道路の位置は全く変わらず、西側に道路と直行する区画が、盛り土によって造成される。しかし内部は柱穴や土坑の分布と密度から見て、それほど建物は建て込んでいない。短冊型地割といってもまだ間口は広がった可能性がある。

盛土造成

段差をつけ短冊型地割



第3-73図 SK510 (1/40)



第3-74図 SK510出土遺物 (1/3、15・16=1/12)

V. 16世紀第4 四半期から17世紀初頭の遺構と遺物

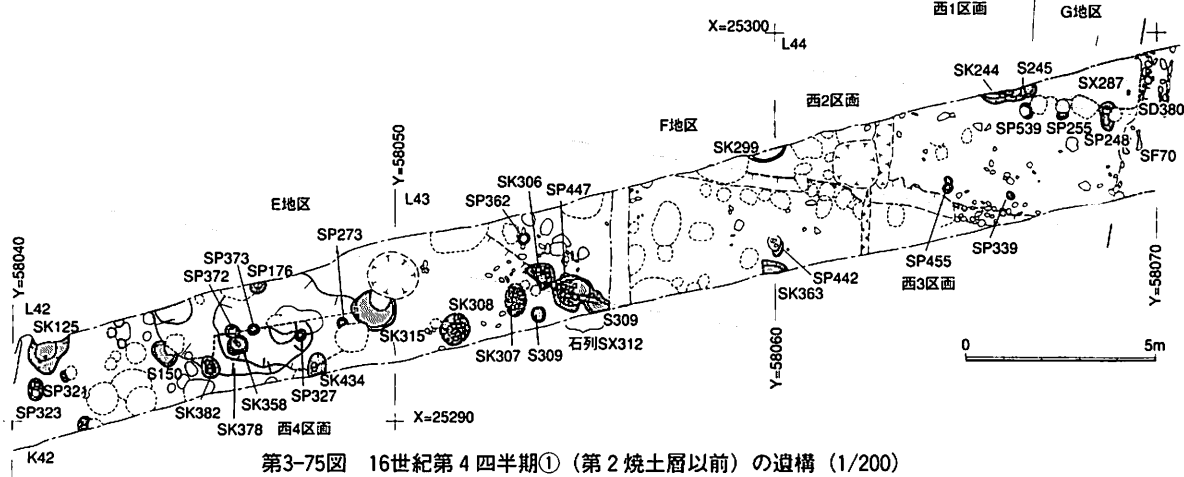
①第2 焼土層以前

B層上面

概要 (第3-75図、付図3-4) 以下の遺構はB層上面の検出で、埋土に炭と焼土の混入が比較的少なく、1587年と推定される第2 焼土層形成以前にすでに埋没していたと考えられる遺構である。

西1~4区画

西1~4区画の4つの宅地が上市町の道路SF70に直交する形で分割される。その境界は整地層の段差あるいは柱穴列として認識され、各区画の内部には掘立柱建物のほか礎石が散見され、道路から離れるにつれて土坑が増加するが、調査範囲内では井戸は発見されなかった。



第3-75図 16世紀第4 四半期① (第2 焼土層以前) の遺構 (1/200)

西1区画 (第3-76図)

西1区画は間口2m以上の上市町の道路SF70の西側に接し、直交して西に延びる区画である。短冊型地割のひとつと推定される。同時期の第1南北街路の道路面は、第3硬化面に当たり、生活面と道路面は側溝で隔てられるが、高さは同じである。

入口施設

調査区内最北の区画で、道路に面する部分を検出した。道路との境には石組みの側溝SD380が作られており、道路に面した部分に入口があったことを示している。西2区画との境には道路の方向と直交する柱穴が並び、その後礎石に変わっている。内部は床面に当たるB層上面には、SX287とした薄い堆積層がひろがり、その内容から銅製品の工房の可能性が高い。また境界の柱穴列は礎石に建て変わるところからみて、柵列ではなく建物の柱穴と考えてよい。したがって工房は屋内の土間で行われていたもので、SK244のような廃棄土坑も掘られており、その内部に第2 焼土層の流れ込みがあるところから、おそらく1587年の火災にあった建物と見られる。

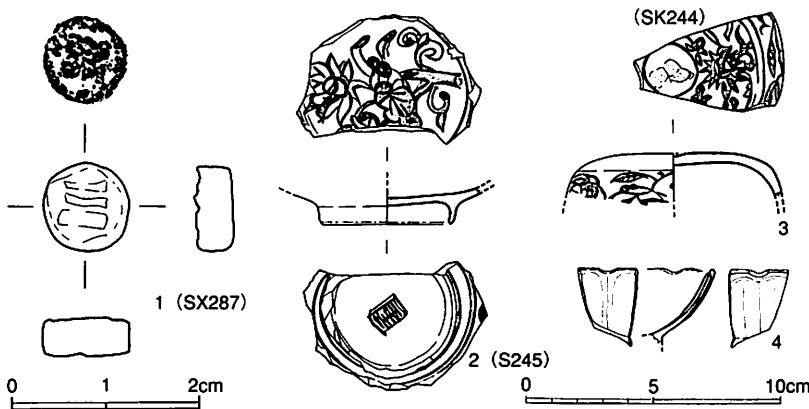
銅工房

火災焼失

SX287 (G地区) L44区 (西1区) において第2 焼土層の除去後に検出した、B層上面の床の

広がりである。柱穴列を境に北側の硬化したB層上面の床面上に緑青の混じった銅さびが混じり被熱したと思われる赤化部分がある。金属製品を製作する工房の床面で、しかも建物内の床面の遺構と考えられる。1は銅製分銅で、重さ3.5g正面

緑青混じりの床面



第3-76図 16世紀第4 四半期①西1区画の遺構出土遺物 (1=1/1、2~4=1/3)

金属工房

に「三」の浮き彫りがある(図版50)。1587年の火災の直前まで利用されていた上市町の道路の西に面した町屋の一部に銅工房が存在したことをしめす。

口縁打欠

**S245** (G地区) L44区(西1区画)のB層上面の浅いくぼみで、SK244に切られる。2は中国景德鎮窯系青花碗E群で、口縁全周を打ち欠いている。

**SK244** (G地区) L44区(西1区画)のB層上面で検出された不整形な土坑で、SP235とS245を切る。埋土の中には焼土(第2焼土層)が流れ込んでいた。3は中国景德鎮窯系青花の蓋で上部のつまみははがれている。G地区A層上面の第1焼土層出土の破片と接合した。4は青磁の菊花皿の口縁である。ほかに中国景德鎮窯系青花碗、備前焼の甕、京都系土師器1期の皿、底部糸切の在り系土師器の小片が出土している。

柱穴列

西1区画と西2区画の境界はSX287の分布範囲として認識されるが、その位置には以下の柱穴SP248、SP539や礎石となる石、SK244などが並び、掘立柱建物あるいは礎石建物の壁が存在したものと推定される。その場合道路に間口を合わせた建物が建てられたことになる。

**SP248** (G地区) L44区のB層上面で検出した柱穴である。SP247に切られる。西1区画と西2区画を区切る建物の柱穴のひとつ。白磁、底部糸切の在り系土師器、京都系土師器1期の皿、鉄釘の破片が出土している。

礎石建物

**SP539** (F地区) L44区(西1区画)のB層上面から掘り込まれた柱穴で、埋没後第2焼土層が上に乗り、その上に礎石がおかれている。B層上面で建てられた掘立柱建物の柱穴の一つで、1587年の火災後同じ地点に礎石建物が再建されたことを物語る。遺物は出土していない。

### 西2区画(第3-77図)

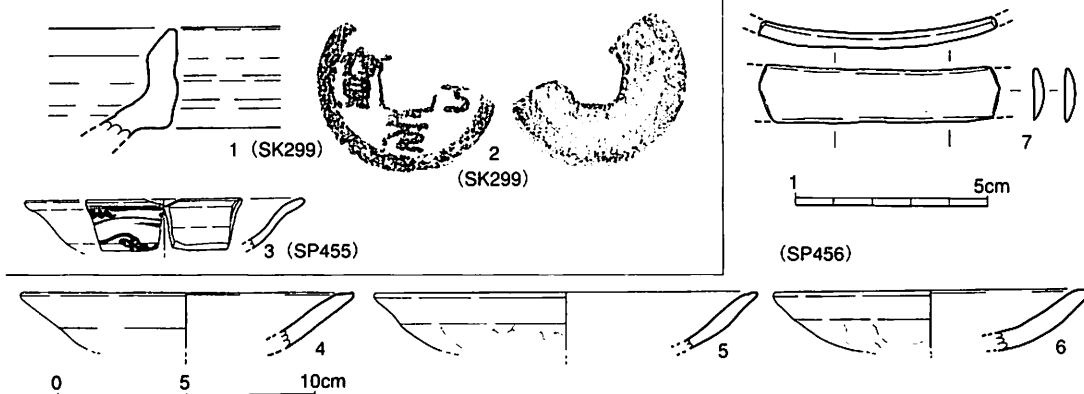
短冊型地割

西2区画は間口3mほどの、上市町の道路SF70の西側に、直交して西に延びる長い区画である。短冊型地割のひとつである。

西1区画との間に段差はなく、造成時には西1区画と一連の面として整地されている。西2区画との間には平均20cmほどの段差がある。B層で整地する際に、B-2層上の区画が先にあり、それに規制されて高さを離れたものと推定される。道路から10mほどはなれたところまでは、遺構は少ない。西の端で土坑がSK299が見つかるのみである。L44区の西3区画との段差に平行し道路と直交するように、礎石やSP339やSP455などの柱穴が見つかる。したがって、西2区画と上市町の道路SF70の接点に存在する道路側溝には西1区画に見られたような石組みはないが、西2区画の道路の接した間口を持つ建物が存在したと推定される。

建物

以上のように西1区画と西2区画は別個の短冊型地割と考えられるが、西1区画と西2区画を同一の区画とみて、西1区画を屋内とみなすことも可能である。



第3-77図 16世紀第4四半期①西2区画の遺構出土遺物(2=1/1、7=1/2、ほかは1/3)

**SK299** (F地区) L43・44区(西2区画) B層上面で検出した半円形の土坑で、埋没後に第2焼土層がかぶる。1は乗岡編年近世1b期の備前焼播鉢、2は半分におれた銅銭の中国銭で、「〇元寶」と読める。ほかに中国景德鎮窯産青花碗、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器2期皿の破片が出土した。西2区画の宅地の西奥に掘られた廃棄土坑と推定される。

**SP339** (G地区) L44区(西2区画)のB層除去後に検出した円形の柱穴で、柱痕はB層上面まで達していた。B層上面の建物に使われた柱である。内部から紙のような繊維が付着した完成の銅銭が1枚出土した。

**SP455** (F地区) L43区(西2区画)のB層(黄色整地層)除去後に検出した円形の柱穴で、第4四半期の柱穴SP456に切られている。柱を立てた後にB層整地層がしかれており、B層上面の建物の柱と考えられる。なおこの付近のSP450からSP456までは全く同じ状況である。3は中国景德鎮窯系青花皿B1類。

**SP456** (F地区) L43区(西2区画)のB層除去時に検出した柱穴で、埋土、柱の状況ともSP455と同じである。SP455を切る。4～6は京都系土師器の皿で、4は2期、5は1期、6は3期である。7は器種不明の青銅製品。ほかに瓦質甍、鉄釘と鉄塊が出土している。

### 西3区画(第3-78図)

西3区画は間口4mほどの上市町の道路SF70の西側に接し、直交して西に延びる長い区画である。短冊型地割のひとつである。

西2区画との間に段差があり、20cmほど下がっている。西4区画との間にもゆるい段差があり西3区画のほうがやや高い。ただしその段差は西2区画と西3区画との間の段差ほどには明瞭ではない。しかしSX312のような石列が一段が境界に積まれており、この地割の境界が意識されていたことは明白である。同時に石列SX312の存在は、西3区画と西4区画の間が行き来できたことを、表すか、あるいは西3区画と西4区画の間に狭い路地のような通路が存在し、そこに勝手口のような脇に入口が存在した可能性を示している。筆者は西4区画の前後の状況から見て後者の可能性を指示する。

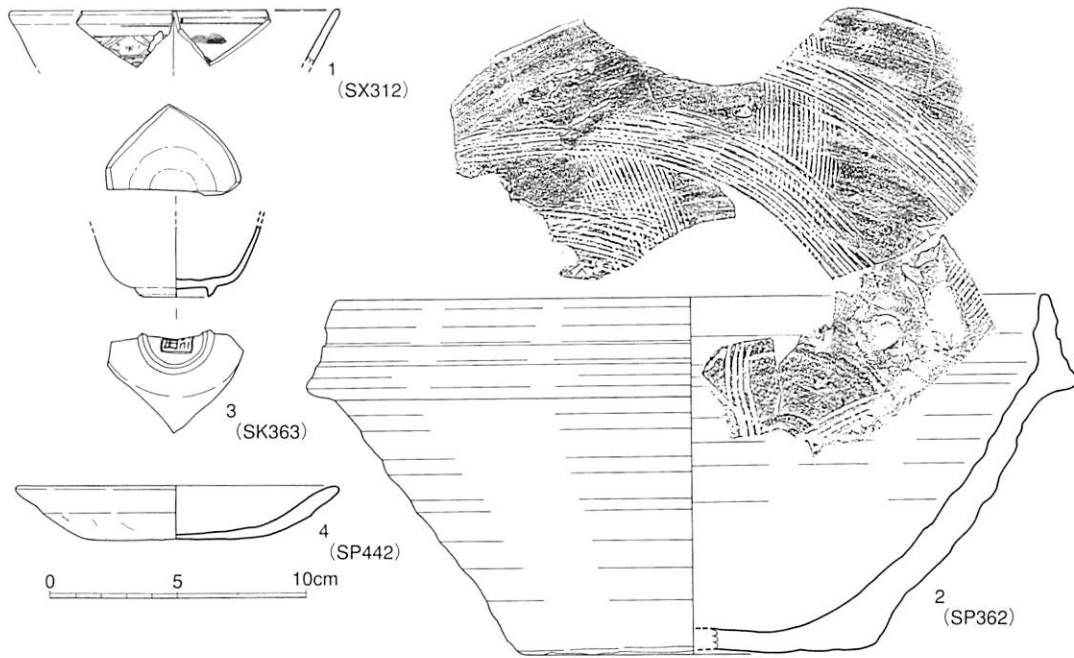
内部には遺構は少なく少数の柱穴と、礎石が散見される。柱穴が並ばずその数も少ない点からみて、礎石建物が存在した可能性が高い。しかしほとんどの礎石は再利用されたり廃棄されたりして、移動したものと考えられる。あるいは第2焼土層の後に建てられたと考えたSB338はこの時点で建っていたのかもしれない。

**SX312** (F地区) L43区(西3・4区画の境界)のB層上面で検出した石列である。人頭大の円礫を数個幅1mほど段差の上端に配置したものである。第2焼土層が上にかぶるので、1587年以前の遺構である。また西3区画と西4区画の境界に当たる段差のうち石列がおかれたのはこのSX312とした地点のみであるので、あるいは西3区画と西4区画の間の通路施設の可能性がある。石のそばから1の中国五彩碗が出土している。

**SP362** (F地区) L43区(西3区画)のB層上面で検出された浅い小柱穴で、2は斜めすりめをほどこす近世1期の備前焼播鉢(L43区A層出土破片と接合)、ほかに土師器の破片が出土。

**SK363** (F地区) L43区(西3区画)のB層上面検出の土坑で、SB338の柱穴に切られる。埋土から、3の中国景德鎮窯系青花小坏の底部が出土した。

**SP442** (=SP544) (F地区) L43区(西3区画)下層トレンチのB層上面で検出した柱穴で、下部はSP544として調査した。内部からは瓦片や礫、炭焼土の多い暗褐色土で拳大の円礫充滿していた。4は京都系土師器1期の皿で、ほかに平瓦、内部底面に十字のすり目を施す放射すり目の



第3-78図 16世紀第4四半期①西3区画の遺構出土遺物 (1/3)

備前掃鉢が出土している。

**SP447 (F 地区)** L43区 (西4区) のB層除去後に検出した円形の柱穴で、中央に炭焼土と礫を多数含むやわらかい暗茶褐色土が柱痕にはいり、まわりの埋土は炭焼土の少ない黄褐色土で固めていた。B層上面に立てられた建物の柱と考えられる。内面にロクロ痕を残す土師器と底部糸切りの在地系土師器、瓦質火鉢の小片が出土している。なおこの柱穴はB-2層上面から掘りこまれた可能性もある。

**西4区画**

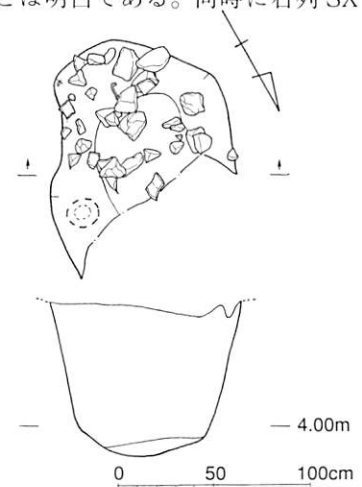
**短冊型地割** 西4区画は間口は不明だが、上市町の道路SF70の西側に接し、直交して西に延びる短冊型地割のひとつであると考えられる。

西3区画との間に段差があり、10cmほど下がっている。西3区画のほうがやや高い。ただしその段差は西2区画と西3区画との間の段差ほどには明瞭ではない。しかしSX312のような石列一段が境界に積まれており、この地割の境界が意識されていたことは明白である。同時に石列SX312の存在は、西3区画と西4区画の間が行き来できたことを表すか、あるいは西3区画と西4区画の間に狭い路地のような通路が存在したと見られる。この点はSK325埋没後に設けられた石列が北側に面を合わせている点からも首肯される。

内部には小土坑とピットが多く、宅地の奥まった部分の建物の少ない場所に当たる遺構の分布状況である。

**土坑**

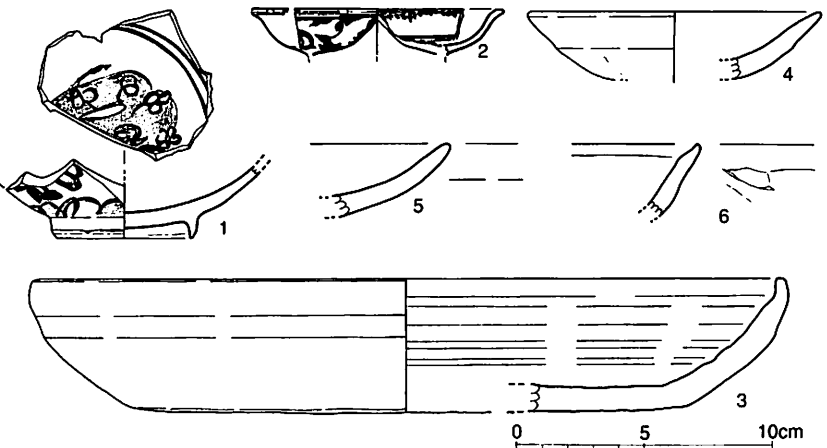
**SK123 (E 地区)** (第3-79図) L42区 (西4区画) のB層上面で検出された不整形の土坑で、断面は半円形である。長さ1.1m以上、幅0.9m、深さ0.8m。B層使用中に埋没したもの。16世紀第2四半期の土坑SK341を切る。埋土は上下二層にわかれ、



第3-79図 SK123 (1/40)

下層は1cm大の炭焼土を多く含む汚れた暗茶褐色土で、上層はB層上面の整地層と同じ黄灰色粘土層でふさがれている。最新の遺物は京都系土師器3期の皿であるが、第2焼土層以前に、埋没している遺構と判断される。

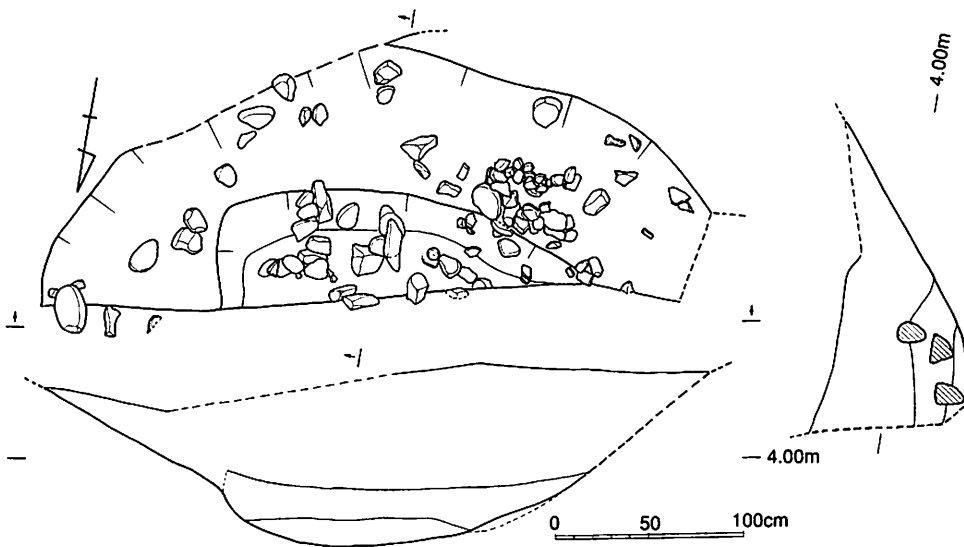
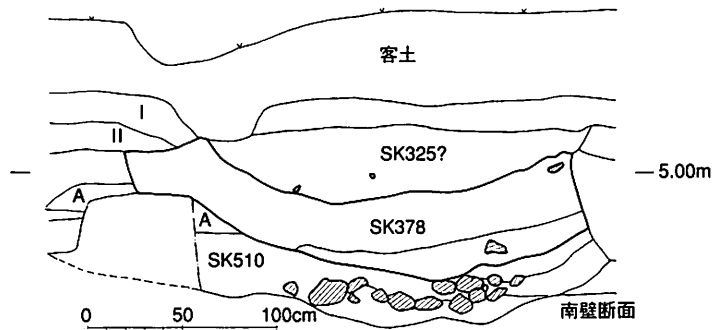
2焼土以前に埋没



第3-80図 SK123出土遺物 (1/3)

SK123出土遺物 (第3-80図) 1は中国景德鎮窯系青花碗C群、2は同じ青花皿B1群。3は備前焼の鉢口縁部。4~6はいずれも京都系土師器3期の皿口縁。ほかに中国景德鎮窯系青花碗B群など4点、白磁碗1点、華南産焼締陶器1点、備前焼の甕1点、瓦質甕2点・播鉢2点や糸切の在地形土師器の破片が出土している。

SK123出土遺物 (第3-80図) 1は中国景德鎮窯系青花碗C群、2は同じ青花皿B1群。3は備前焼の鉢口縁部。4~6はいずれも京都系土師器3期の皿口縁。ほかに中国景德鎮窯系青花碗B群など4点、白磁碗1点、華南産焼締陶器1点、備前焼の甕1点、瓦質甕2点・播鉢2点や糸切の在地形土師器の破片が出土している。

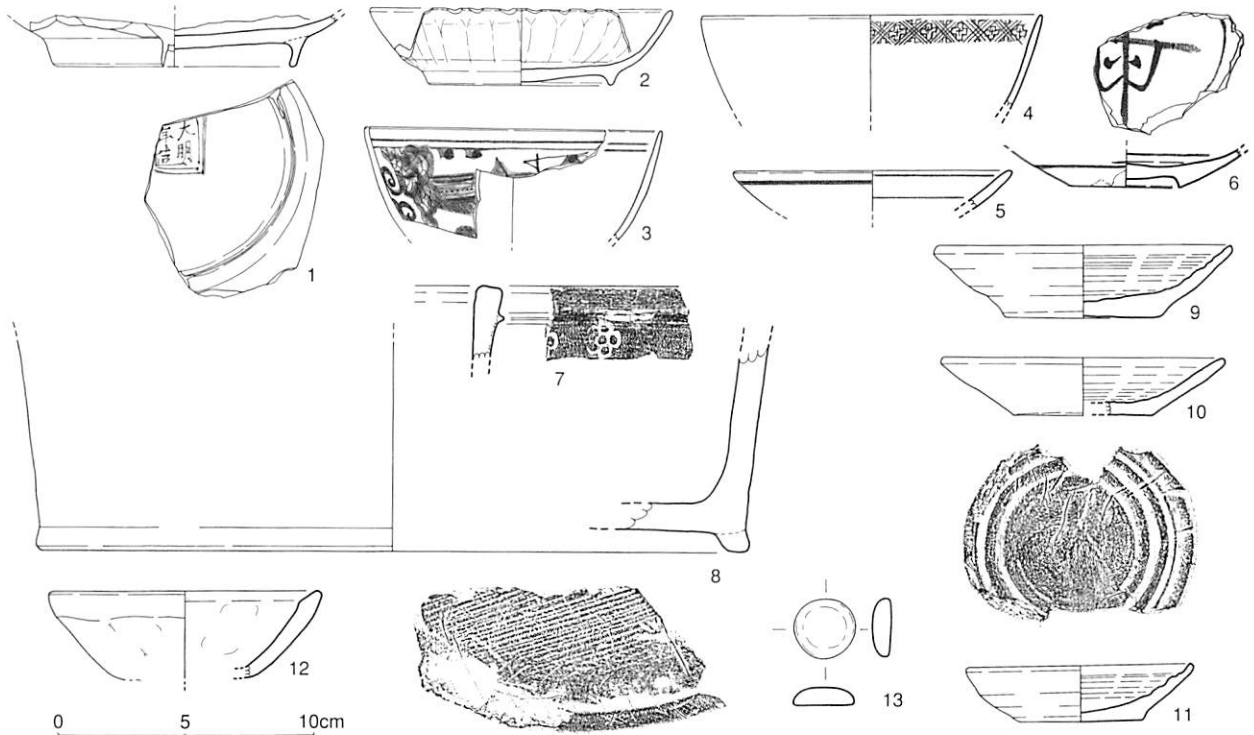


第3-81図 SK378 (1/40)

SK378 (E地区) (第3-81図、図版42) L42区(西4区画)のB層上面から掘り込まれたと見られる大型の不整円形の土坑である。長さ3.5m以上、幅1.3m以上、深さ1.0m。16世紀第3四半期の土坑SK510を切り、SK324とSK325に重なるように切られている。下層は暗灰褐色微砂質土の堆積でそのなかに焼土の単位がある。土取り穴の落ち込みの可能性はある。

土取り穴?

SK378出土遺物 (第3-82図) 1は中国景德鎮窯系青花皿B類、2は白磁輪花皿E4類。3と4



第3-82図 SK378出土遺物 (1/3)

は中国景德鎮窯系青花碗E群いわゆる饅頭心碗、5と6は碁笥底の中国漳州窯系青花皿、7は口縁部が肥厚しない瓦質火鉢の口縁部で小突帯下に刻印がある。8は瓦質火鉢底部、9～11は内面にロクロ痕を残す土師器の皿と小皿である、12は京都系土師器3期の皿、13はガラス質の基石のような扁平な白球で、中世大友府内町跡第14次調査(『大友府内VI』2003-3大分市教育委員会)、中世大友府内町跡第12次調査で類似品が出土している。ほかに中国景德鎮窯系青花碗C・E群・青花皿B1群、龍泉窯産青磁碗、備前焼甕・放射すり目の播鉢、瓦質火鉢・鍋・鉢、底部糸切の在地系土師器、大内系土師器、平瓦、銅銭完形1枚は繊維付着、鉄釘、骨の小片が出土している。

#### そのほかの遺構 (第3-83図)

**S150** (E地区) L42区(西4区画)のB層上面で検出した不整円形の浅いくぼみ。第2焼土層以前に埋没している。白磁皿E2群、龍泉窯産青磁、大内系土師器、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器1期皿の破片が出土している。

**SP176** (E地区) L42区(西4区画)のB層上面で検出した柱穴である。同時期の土坑SK324を切る。1の三角の突帯備前焼広口壺の胴部片と、土師器の小片が出土している。

一連の遺構

以下の集石土坑SK306、SK307、SK308は、西3区画にはほぼ一列に配置され、B層上面で掘られている点でも一致し、同一時期のなんらかの遺構群である可能性がある。

集石土坑

**SK306** (F地区) L43区(西3区画)B層上面で検出した小さな集石土坑で、礫は被熱した円礫からなり石列SX312を切り、第2焼土層が上になるが、土坑の輪郭ははっきりしない。近世1期の斜めすり目の備前焼播鉢が、礫内に入り込んでいた。ほかに中国景德鎮窯系青花皿B1群、瓦質火鉢の破片が出土。

集石土坑

**SK307** (F地区) L43区(西4区画)のB層上面から掘り込まれた小型円形の集石土坑である。拳大の被熱した小円礫が集中して、土坑の輪郭ははっきりしない。第2焼土層が上になり、それ以前に埋没している。SK306と状況がよく似ている。



集石土坑

**SK308** (F地区、図版42) L43区(西4区画) B層上面から掘り込まれた円形の集石土坑である。拳大の被熱した小円礫が集中して、土坑の輪郭ははっきりしない。第2焼土層が上にのり、それ以前に埋没している。SK306・307と状況がよく似ている。2は礫中に食い込んだ中国景德鎮窯系青花皿E群。

**S309** (F地区) L43区(西4区画)のB層上面で検出された不整形の掘り込みで、石列SX312のそばに位置する。第2焼土層が上にのり、中国景德鎮窯系青花碗、中国漳州窯系青花碗、底部糸切の在り系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器、京都系土師器1・2期の皿と小皿の小片が出土している。

**SK315 (=S211)** (F地区) L42区(西4区画)のB層上面で検出した浅い円形の土坑である。長さ1.1m、幅0.9m。埋土は礫や1cm以下の炭焼土を含む暗褐色土の単一層で、同時期の土坑SK316を切り、同じく同時期のSK152・SK153に切られる。3は京都系土師器3期の皿口縁部で、ほかに中国景德鎮窯系青花碗、備前焼の甕、瓦質火鉢や底部糸切の在り系土師器の破片が出土している。

**SP321** (E地区) L42区(西4区画)のB層上部1回目掘下げ後に検出した柱穴である。15世紀の土坑SK342を切る。SP323と埋土が同じなのでB層上面から掘り込まれたものと見られる。

**SP322** (E地区) L42区(西4区画)のB層上部1回目掘下げ後に検出した柱穴である。同時期の土坑SK174に切られる。SP323と埋土が同じなのでB層上面から掘り込まれたものと見られる。出土遺物は瓦質茶釜片のみである。

**SP323** (E地区) L42区(西4区画)のB層上面で第2焼土層の形成前に掘られた柱穴である。SP321・SP323と共通する。4は斜めすり目で乗岡編年近世1b期の備前焼播鉢。

**SP327** (E地区) L42区(西4区画)のS325を切る円形の柱穴で、出土遺物は底部糸切の在り系土師器の底部片のみ。

**SP328** (E地区) L42区(西4区画)のS325を切る円形の柱穴。

集石土坑

**SK358 (=S458)** (E地区)(図版42) L42区(西4区画)のSK325を掘下げ中に底面に近い高さで検出した長円形の土坑で、SK325を切る。長さ0.6m、幅0.5m。内部には被熱した礫がしき並べたように充填しており、埋土は5ミリ大の炭焼土を含む暗茶褐色粗砂質土でよくしまっている。5は中国景德鎮窯系青花碗E群で、ほかに同じ青花碗B1群、中国漳州窯系青花碗、瓦質火鉢胴部、底部糸切の在り系土師器の小片が出土している。

**SP372** (E地区) L42区(西4区画)のSK325を掘下げ中に底面に近い高さで検出した円形の柱穴で、SK325を切る。内部からは板状圧痕のある底部糸切の在り系土師器杯の底部片が出土している。

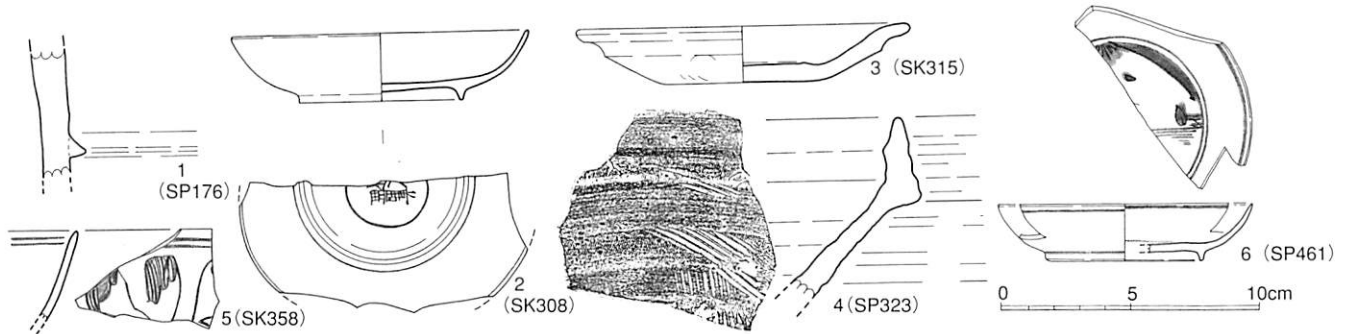
**SP373** (E地区) L42区(西4区画)のSK325を切って検出した円形の柱穴で、B層上面から掘り込まれている。同時期の土坑SK152を切る。埋土には被熱した礫を含む。

小集石土坑

**SK382** (E地区) L42区(西4区画)の1587年以前の土坑SK378を切って検出した長円形の土坑である。長さ0.6m、幅0.5m。内部には被熱した小礫が充填しており、礫の高さから見てB層上面から掘り込まれたものである。出土遺物は備前焼の甕底部、京都系土師器2期皿の口縁などがある。

**SK434** (E地区東) L42区(西4区画)下層トレンチで、1587年以前の土坑SK378とSK435を切って検出した長円形の土坑である。長さ0.6m以上、幅0.5m。B層上面から掘り込まれている。埋土は1cm大の炭焼土を多く含む暗褐色土の単一層で小礫を含む。内部からは大内系土師器皿の底部片が出土している。

**SP461** (E地区) L42区(西4区画)のS325を切る柱穴で、石列SX312の背後あたりにある。6は中国景德鎮窯系青花皿E群で、ほかに碁笥底の中国漳州窯系青花皿の破片が出土している。



第3-83図 16世紀第4 四半期① (1587年以前) の遺構出土遺物 (1/3)

## ②第2焼土層以後 (推定1587年～1602年直後) (第3-84図、付図3-4)

A層上

最も新しい遺構群で1587年と推定される第2焼土層上に盛られたA層上から検出された遺構である。G地区の西1区画では掘立柱建物が同じ位置に再建されている。20年弱の期間が想定されるが、遺構の数・密度は最も多い。

## 西1区画

建物再建

1587年の火災前には銅工房の建物があった場所であるが、火災後には整地されて、以前と同じ位置に、SP182、SP235、SP247、SP249の柱穴が掘られ、掘立柱建物が再建されたことがわかる。さらに後に礎石建物に変わっている。内部が銅工房として復興したかどうかは、この面の床面が削平されているため不明である。ただし道路 SF70の側溝に作られていた石組みは埋没したまま再建されていないので、火災前の同じ内容の建物が再建されたとは考えられない。したがって道路への間口の取り付け方に変化があると思われる。

柱穴

**SP246 (G地区)** L44区 (西1区画) のA層上面で検出した不整円形の柱穴で、埋土はSP230と同じで炭焼土が多い。中国景德鎮窯系青花碗と土師器の小片が出土している。



第3-84図 16世紀第4 四半期② (第2焼土層以後) の遺構 (1/200)

## 西1区画と西2区画の境界

境界柱穴列

以下の柱穴は、東西に並び、何度かの重複があるが、西1区画と西2区画の境界となる柱穴列である。(第3-85図)

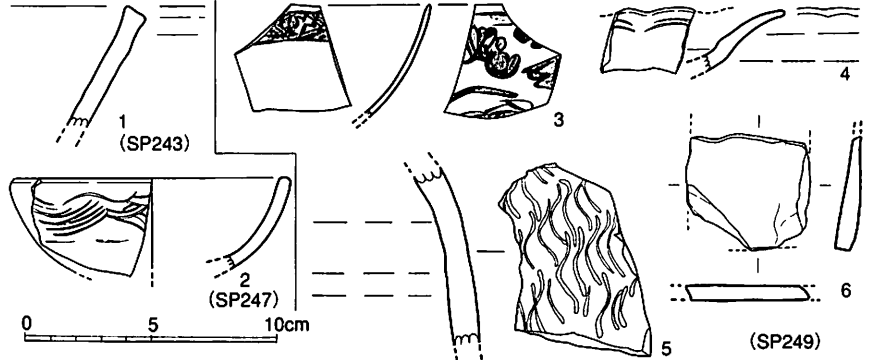
**SP182=SP243 (G地区)** L44区の西1区画と西2区画の境界にならぶ柱穴の一つで、第2焼土層上で検出され、A層上面から掘り込まれたと推定される。SP253とSP254を切る。SP182はSP243の柱痕である。SP182部分の埋土は10mm大の炭焼土を多く含むよくしまった暗茶褐色土の単一層である。掘り方に当たるSP243の埋土は1～2mm大の炭焼土を含むよくしまった明茶褐色軟

質土で暗黄色土ブロックが多い。1は掘形から出土した瓦質鉢の口縁部、ほかに京都系土師器2期の皿、柱痕下部から瓦質火鉢の底部と底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。おそらく1587年の火災後の復興面でたてられて建物の柱穴と考えられる。

**SP235** (G地区) L44区(西1区画)のA層上面で検出した柱穴で、柱の根石が残されている。

**SP247** (G地区) L44区のB層上面で検出した柱穴で、第2焼土層を切るなのでA層中からの掘り込みと推定される。1587年以前の柱穴SP248を切る。埋土はSP230と同じで炭焼土が多い。2は16世紀の口縁外面に雷文のある中国龍泉窯青磁碗C3類。ほかに白磁、京都系土師器2期皿の口縁、埴の破片が出土している。

**SP249** (G地区) L44区のB層上面で検出した柱穴で、第2焼土層を切るなのでA層中からの掘り込みと推定される。埋土は炭焼土と粘土のブロックが多い。3は中国景德鎮窯系の青花碗E群で、16世紀後半の産。4は中国龍泉窯系青磁の稜花皿で15世紀の遺物。5は古瀬戸の瓶子肩部片、6は



第3-85図 西1区画と西2区画の境界の柱穴出土遺物(1/3)

両面にすり面のある砥石片。ほかに青磁皿、京都系土師器1期皿の口縁の破片が出土している。

**SP254**もこの柱穴列に含まれる。

**SP255** (G地区) L44区(西2区画)のB層上面で検出したが第2焼土層を切っているのでA層上からの掘り込みである。この柱がぬかれた後に礎石がすえられている。基筒底の中国漳州窯系青花皿と底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。

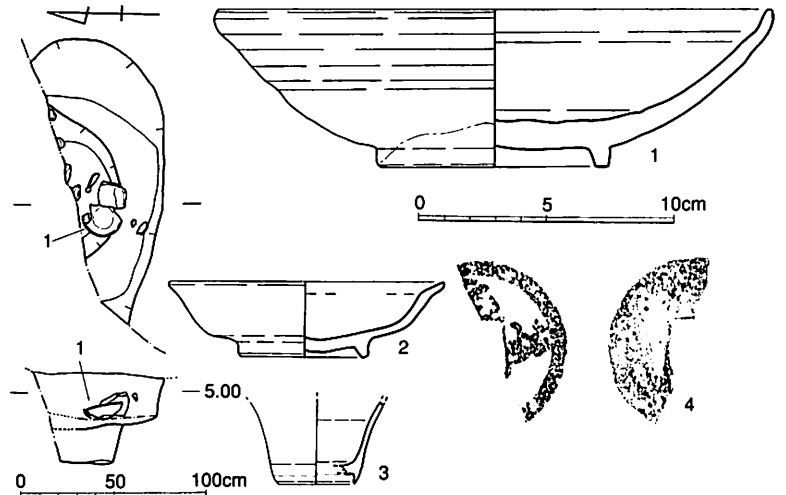
### 西2区画

1587年の火災と推定される第2焼土層堆積後に同じ区画が再建されている、まず火災処理土坑SK300が区画の南端に掘られ、道路から5mほど西に入った中央部に、地鎮祭祀遺構と推定されるSX242が設けられる、小土坑SK214も関連する祭祀遺構である。このような祭祀行為を伴って宅地再整備に伴う整地が行われたものと推定される。西1区画との境界は柱穴列で区画され、西3区画との境界は段差で表されているが、後述するように西3区画は嵩上げされて掘立柱建物SB338が立てられているので、段差は少なくなっている。

内部は道路に面した部分で、土坑は少なく、柱穴が散在している。建物を推定するのは困難だが、1587年以前の状態とおなじく道路に面した建築物を構築した利用状況であったと考えられる。

### 土坑

**SK300**(F地区)(第3-86図、図版41) L43区の西2区画



第3-86図 SK300(遺構1/40、遺物1~3=1/3、4=1/1)

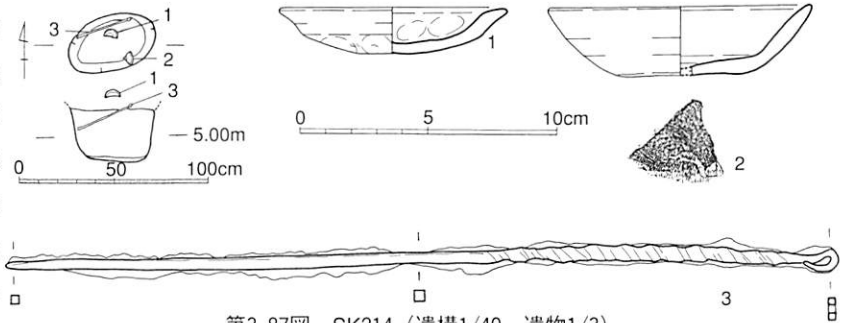
火災処理と地鎮

整地嵩上げ

のB層上面で北壁にかかって検出した長円形の土坑で、第2焼土層にあたる炭焼土と被熱礫の多量に混じる土層が上部陥没するように堆積していた。長さ1.5m以上、幅1.0m以上、深さ0.45m。火災処理土坑 1587年の火災処理土坑と考えられる。炭層に入り込むように完形に近い白磁や中国景德鎮窯系青花碗などが廃棄されている。

**SK300出土遺物** (図版50) 1は中国漳州窯系でも龍泉窯系でもない青磁の鉢で、西2区画を覆う第2焼土層から出土した破片と接合し、この土坑が火災処理土坑であることを示している。2は完形の白磁皿E2群でやはり上層出土。3は白磁小杯の底部。4は割れた銅銭で元祐通寶(北宋1086年初鑄)。ほかに被熱した中国景德鎮窯系青花碗、瓦質土器、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器1・2期皿、鉄釘の破片が出土している。

**SK214 (F地区)** (第3-87図、図版40) L44区(西2区画)のB層上面で検出した長円形の土坑であるが、輪郭を検出する前に遺物が高い位置で現れていたため、A層中からの



第3-87図 SK214 (遺構1/40、遺物1/3)

火箸埋納

掘り込みとみられる。半分がSP155に切られている。鉄製の火箸のかたわれを下に横たえ、その上に底部糸切の在地系土師器の皿を伏せておいている。祭祀にかかわる埋納遺構である。埋土は粗砂混じりの暗灰褐色土層の単一層である。

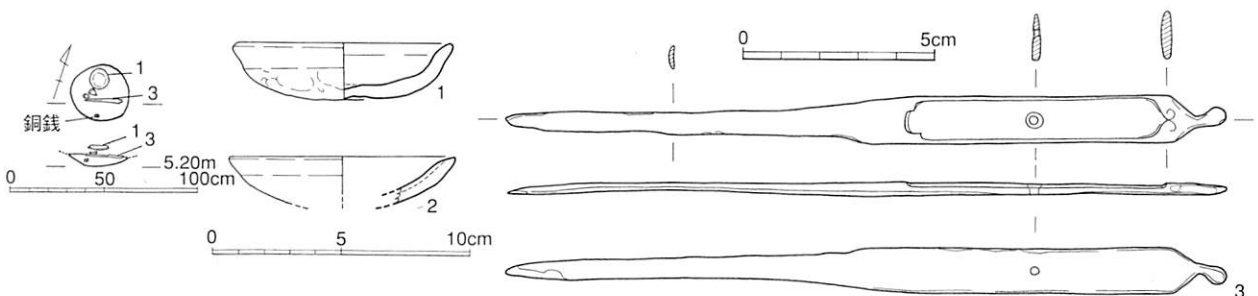
**SK214出土遺物** 1は脇に置かれた京都系土師器1期の皿、2は京都系土師器を模倣した底部糸切の在地系土師器の皿、3は鉄製の火箸の完形品、端部を環頭につくる。

小埋納坑

土師皿  
かんざし

**SX242 (F地区)** (第3-88図、図版40) L44区(西2区画)の第2焼土層上で検出した小型の埋納坑である。おそらくA層整地に伴う地鎮祭祀の可能性が高い。遺構自体は第2焼土層を掘りぬいて、B層上面に達する浅いもので、埋土は焼土混じりの暗褐色土である。SP230と重複するが、前後関係は判明しない。内部には京都系土師器の皿が伏せて置かれていた(1)。完形品である。そのやや上に銅製のかんざし(3)がこれも完形のまま置かれ、そのそばに銅銭1枚が出土したがSP230出土の可能性がある。ほかに京都系土師器の破片が2点採集されたが、これは埋納遺物がどうか不明である。1587年の火災以後の復興面にかかわる祭祀遺構である。

**SX242出土遺物** 1は伏せて置かれた京都系土師器2期の完形の小皿。2は破片で出土した京都系土師器2期の皿。3は銅製のかんざし(図版51)で、装飾をとめた目釘穴があるが、装飾部位はすでに失われていた。第3-89図5はそのSP230出土の銅銭の元祐通寶(北宋1086年初鑄)。



第3-88図 SX242 (遺構1/40、遺物1・2=1/3、3=1/2)

そのほかの遺構 (第3-89図)

以下柱穴

**SP155** (F地区) (図版40) L44区 (西2区画) で検出した不整形の柱穴だが、出土遺物が第2焼土中の破片と接合したためA層中から掘り込まれたと考えられる。SP214に切られている。1は土師器を転用したるつばの破片で、内面から口縁にかけて黒色の付着物がある。ほかに備前焼の播鉢、底部糸切の在り系土師器、京都系土師器1期の皿、鉄釘が出土している。

**SP156** (F地区) L44区 (西2区画) のA層中から掘られた円形の柱穴。2の中国景德鎮窯系青花碗D類か、底部糸切の在り系土師器の小片が出土している。

**SP157** (F地区) L44区 (西2区画) のA層中で検出した円形の柱穴である。4分の1片の銅銭が出土したが銭種は不明。

**SP158** (F地区) L44区 (西2区画) のA層中で検出した円形の柱穴である。京都系土師器2期の小皿口縁片が出土している。

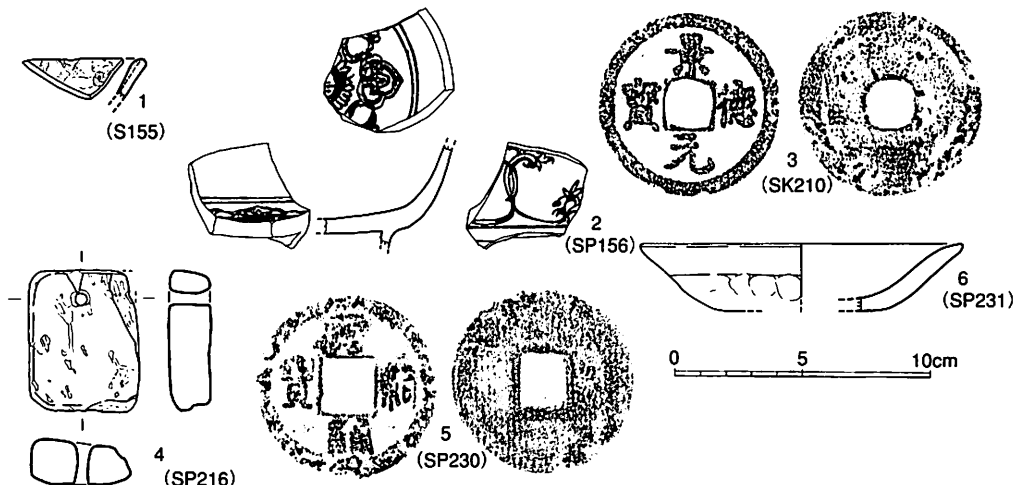
**SP166** (F地区) L43区 (西2区画) のB層上面で検出した円形の柱穴で、備前焼の甕底部片が出土している。

**SK210** (G地区) L44区 (西1区画) の第2焼土層上から切り込まれた浅い土坑でA層上面の遺構と推測される。長さ0.6m以上、幅0.5m。埋土は茶褐色軟質土で、3は完形の中国銭の景德元寶 (北宋1004年初鑄) である。

**SP216** (F地区) L44区 (西2区画) の第2焼土層上から切り込まれた柱穴で、A層上面からの遺構と推測される。SK81に切られている。4は携帯用の砥石のような形をした軽石製のおそらくアカスリであろうか。ほかに中国景德鎮窯系青花碗E群、内面にロクロ痕を残す土師器小片が出土している。

根石

**SP230** (F地区) L44区 (西2区画) の第2焼土層の残るB層上面で検出した隅丸方形の柱穴で、中央に柱の根石となる礫がある。第2焼土層を切っているので、A層上面から掘り込まれたと推定される。SP242と重複するが前後関係は不明である。5は完形の中国銭の元祐通寶 (北宋初鑄1086年)。ほかに京都系土師器3期皿の破片が出土している。



第3-89図 16世紀第4四半期 (第2焼土層以後) の遺構出土遺物 (3・5=1/1、1・2・4・6=1/3)

**SP231** (F地区) L44区 (西2区画) のA層上面で検出した柱穴で、埋土はSP230と同じである。6の京都系土師器3期皿と底部糸切の在り系土師器の小片が出土している。

**SP232、SP233、SP234** (G地区) L44区 (西2区画) のA層上面で検出した柱穴で、埋土はSP230と同じである。

**SP251** (G地区) L44区 (西2区画) のB層上面で検出した柱穴で、埋土はSP230と同じである点から、A層上面からの遺構と推定される。京都系土師器2期皿の小片が出土している。

西2区画と西3区画の境界

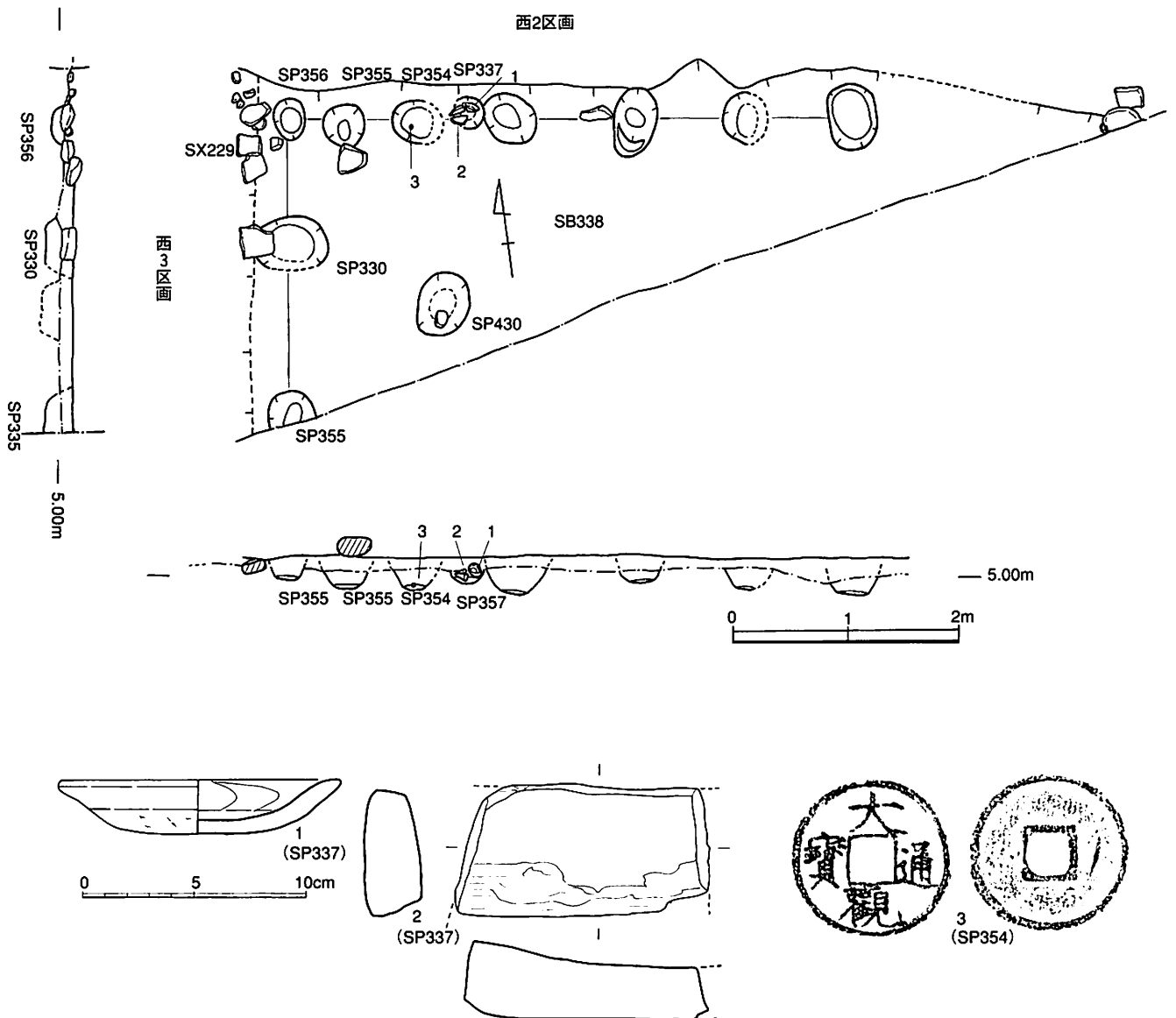
**SX286** (F地区) (図版41) L44区の西2区画と西3区画との境界の段差の一部に設置された幅1m強の石列で、下に第2焼土層が入り込むので、A層造成時のものである。石列の上からは中国景德镇窯系青花1点、備前焼の広口壺1点、底部糸切の在地系土師器多数、内面にロクロ痕を残す土師器1点、大内系土師器1点、京都系土師器1期の皿1点。京都系土師器2期の皿1点の小片が出土している。

西3区画

掘立柱建物 西2区画と西4区画の段差は維持されるが、西3区画では東半分には嵩上げが行われ掘立柱建物SB338が立てられる。そのため西半との間に軽い段差が生じ、石列SX229が設けられている。西半には廃棄土坑が多数掘られている。

掘立柱建物

**SB338** (F地区) (第3-90図) L43・44区の西3区画に平行し棟を東西に向けた掘立柱建物跡で



第3-90図 SB338 (遺構1/60、遺物1・2=1/3、3=1/1)

2ないし3×  
5間

小型建物

ある。梁間は2間ないし3間、桁行5間と考えられる。A層整地後一段高くして建物を構築したものである。西側に石列SX229を配置している。西2区画とはわずかの段差が残された模様である。梁間2.7m以上、桁行5.2mで、柱間の心々距離は1.1から1.3mと短く、かなり小型の建物である。柱穴の掘形はいずれも円形または長円形をなし、柱根は検出できなかった。以下に主要な柱穴と出土遺物について触れる。

柱穴

**SP337** (図版41) 埋土中には、礫と完形の京都系土師器の皿が廃棄されている。柱ぬき取り後の埋納の可能性がある。1は完形の京都系土師器3期の皿である。2は結晶片岩製の砥石である。ほかに底部糸切の在地系土師器の小片も出土している。

**SP354** 中央部から1枚の銅銭が出土した。建物にかかわるまじないであるが、埋まったのが建設時か廃絶時か不明確である。3はその銅銭で大観通寶(北宋1107年初鑄)。ほかに中国漳州窯系青花碗、底部糸切の在地系土師器、大内土師底部片などが出土している。

**SP430** C層上面で検出したがSB338の内部に位置し埋土も全く同じなので、この建物の遺構とした。底部糸切の在地系土師器口縁部と鉄釘が出土している。

以上の大半の柱穴はB-1層除去後に検出したが、段差が付くために西3区画のB層はA層に対応する。SB338は柱穴の密度から見て、さらにもう一度建て直した可能性が高い。SP337の土師器埋納はこの掘立柱建物建設あるいは廃止に伴う祭祀行為のあとであろう。

石列

**SX229** L43・44区(西3区画)の区画に直行する、飛び飛びの石列である。SB338の西側の梁間に沿って配置されている。

土坑

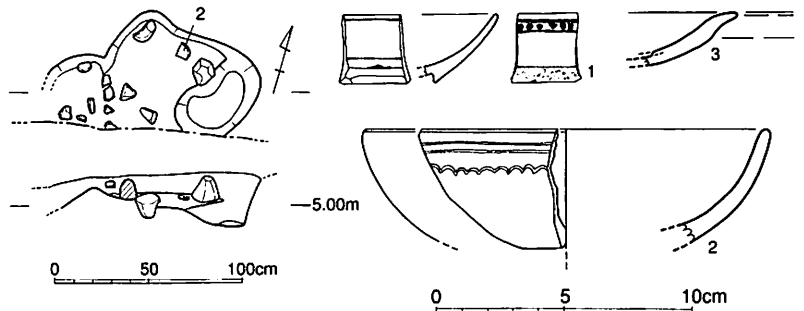
**SK72** (F地区) (第3-91図)

廃棄土坑

L43区(西3区画)のA層

上面で検出した不整形の土坑

である。長さ1.2m、幅0.6m以上、深さ0.3m。内部からは焼けた礫や比較的多量の遺物の破片が出土し、廃棄土坑であると見られる。



第3-91図 SK72 (遺構1/40、遺物1/3)

**SK72出土遺物** 1は碁笥底の中国漳州窯系青花皿、2は16世紀代の中国龍泉窯系の青磁碗B IV類、3は京都系土師器2期の皿。ほかに中国景德鎮窯系青花碗、備前焼壺、丸瓦、底部糸切の在地系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器、硯片が出土しているほか、遺構がかなり深く掘られて、下位の第3焼土層まで達しているため、第3焼土層と出土遺物と接合する破片が多い。

**SK222** (F地区) (第3-92図、図版40) L43区(西3区画)のB層

集石土坑

上面で検出した円形の土坑であるが、輪郭を検出する前に礫群が高い

位置で現れていたため、A層上面からの掘り込みとみられる。長さ

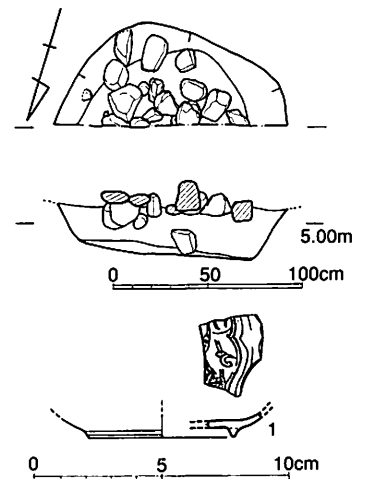
1.2m、幅0.5m、深さ0.3m。内部には礫集中廃棄が認められ、大半

が被熱した礫である。

**SK222出土遺物** 1は中国景德鎮窯系青花碗E群で16世紀後半の

産物。ほかに底部糸切の在地系土師器4点、京都系土師器1期の皿3

点・2期の皿2点、鉄片1点が出土している。



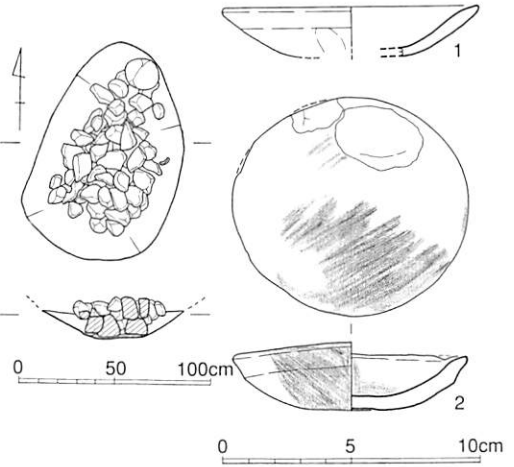
第3-92図 SK222 (遺構1/40、遺物1/3)

**SK301** (F地区) (第3-93図、図版41) L43区(西3区画)のB層

集石土坑

上面で検出した長円形の土坑であるが、第2焼土層を切るのでA層上面からの掘り込みとみられる。長さ1.1m、幅0.7m、深さ0.3m。内部には礫集中廃棄が認められ、大半が被熱した礫である。埋土は暗褐色軟質土の単一層である。掘立柱建物SB338の妻側に外に掘られるという、その位置関係からSB338と関係のある遺構であろう。

**SK301出土遺物** 1と2はいずれも京都系土師器2期の皿である。とくに2は強度の被熱により煤が付着し、外面が剥離している。ほかに底部糸切の在り系土師器底部片が出土している。



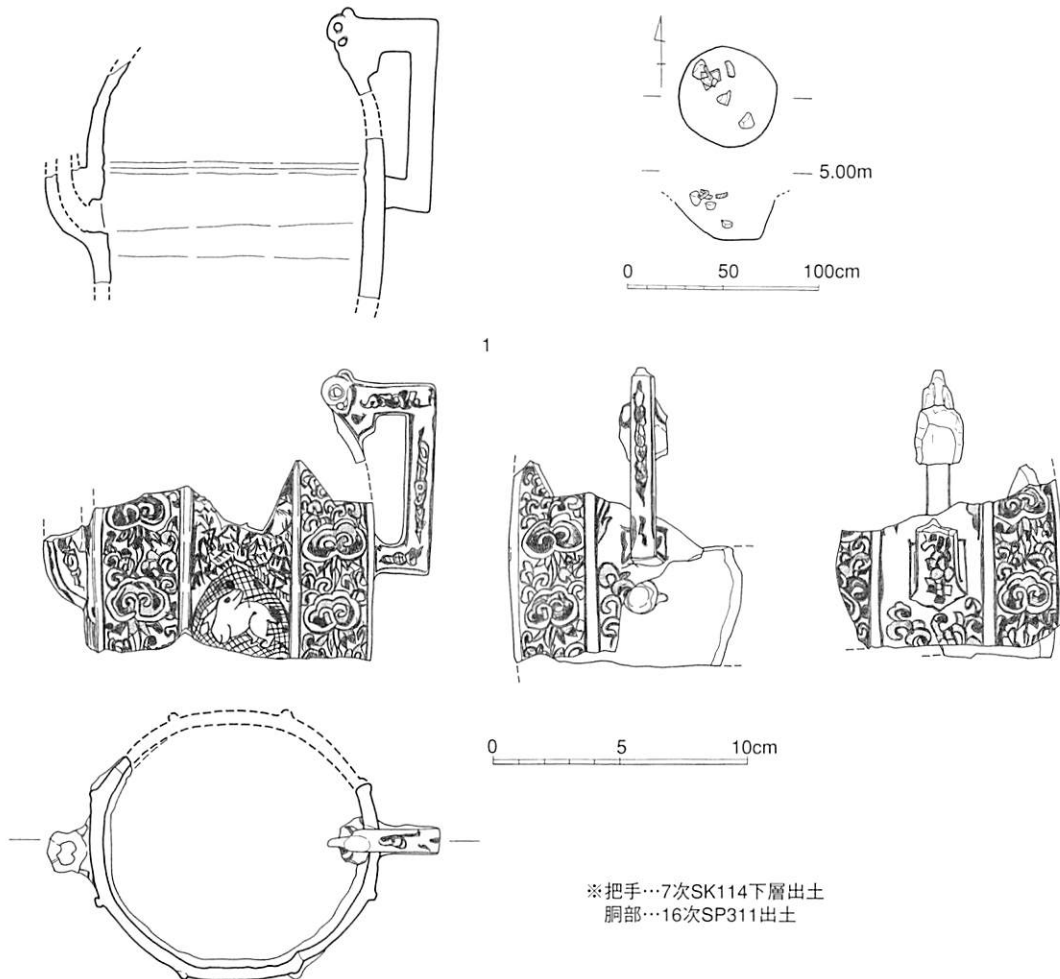
第3-93図 SK301 (遺構1/40、遺物1/3)

ピット

**SP311 (F地区) (第3-94図、図版41)** L43区 (西3区画) のB層上面で検出した柱穴であるが、輪郭を検出する前に遺物が高い位置で現れていたため、A層上面からの掘り込みとみられる。埋土は5mm大の炭焼土を多く含む暗茶褐色土である。中央上層から中国景徳鎮窯系青花水注の胴部破片が出土した。この破片は第7次調査区E地区SK114下層出土の把手と接合した。

7次と接合  
青花水柱

**SP311出土遺物** 1はその青花水柱である (巻頭図版8)。ほかに備前焼壺低部片が出土している。



※把手…7次SK114下層出土  
胴部…16次SP311出土

第3-94図 SP311 (遺構1/40、遺物1/3)



そのほかの遺構 (第3-95図)

土坑

**SK71** (F地区) L43区 (西3区画) のA層上面で検出した2段掘りの円形の土坑で、北壁にかかっている。長さ1.6m、幅0.6m以上。埋土は1cm大の炭焼土を含む暗茶褐色土である。層序からこの時期と判断した。1と2は京都系土師器2期の皿、1は内面に煤が付着する。3は底部糸切の在り系土師器小皿で、内外に煤が付着し口縁に1箇所故意の打ち欠きがある。ほかに中国景德鎮窯系青花碗、備前焼鉢の口縁片などが出土している。

**SK77** (F地区) L43区 (西3区画) のA層上面で検出した不整円形の土坑で、埋土は2~3mm大の炭焼土を含む砂混じり茶褐色土である。長さ0.8m、幅0.6m。4は備前焼水注の口縁部。5は瓦質鍋の口縁部で外面にヘラ削りを施す河野B2類。6は環頭状に折り曲げた鉄製の金具、火箸の端部であろうか。ほかに白磁と瓦質火鉢、底部糸切の在り系土師器の小片が出土している。

柱穴

**SP82** (F地区) L43区 (西3区画) のA層上面で検出した柱穴で、柱を固定するために礫を入れている。底部糸切の在り系土師器小皿、鉄滓の小片が出土している。

**SP83** (F地区) L43区 (西3区画) のA層上面で検出した掘形円形の柱穴で、埋土はSP82と全く同じ。中国景德鎮窯系青花皿の小片が出土している。

**SP84** (F地区) L43区 (西3区画) のA層上面で検出した柱穴で、埋土はSP82と全く同じ。

**SP139** (F地区) L43区 (西4区画) の円形の柱穴で、第2焼土層を切るのので、少なくともA層上面から掘り込まれている。底部糸切の在り系土師器の破片が出土している。

**SP140** (F地区) L43区 (西3区画) で検出した円形の柱穴で、第2焼土層を切るのので、少なくともA層上面から掘り込まれている。底部糸切の在り系土師器と鉄釘の破片が出土している。

**SP141** (F地区) L43区 (西3区画) で検出した円形の柱穴で、A層上面から掘り込まれたと推定される。埋土はSP140と同じ。京都系土師器3期の皿の小片が出土している。

**SK145** (F地区) L43区 (西3区画) で検出した土坑で、A層上面またはⅡ層上面から掘り込まれたと推定される。長さ0.5m、幅0.3m以上。中国景德鎮窯系青花碗、京都系土師器2期の皿、底部糸切の在り系土師器、古代の須恵器甕の小片が出土している。

**SP146** (F地区) L43区 (西3区画) で検出した円形の柱穴で、A層上面またはⅡ層上面から掘り込まれたと推定される。

**SP147** (F地区) L43区 (西3区画) で検出した柱穴で、A層上面またはⅡ層上面から掘り込まれたと推定される底部糸切の在り系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器の小片が出土している。

**SK153** (E地区) L42区 (西3区画) のA層1回目後で検出した小土坑で、A層上面から掘り込まれたと推定される。SK315 (第4四半期) を切る。長さ0.6m、幅0.4m以上。7は瓦質の壺の口縁部。8は16世紀前半の青磁碗CⅢ類、ほかに備前焼甕の小片が出土している。

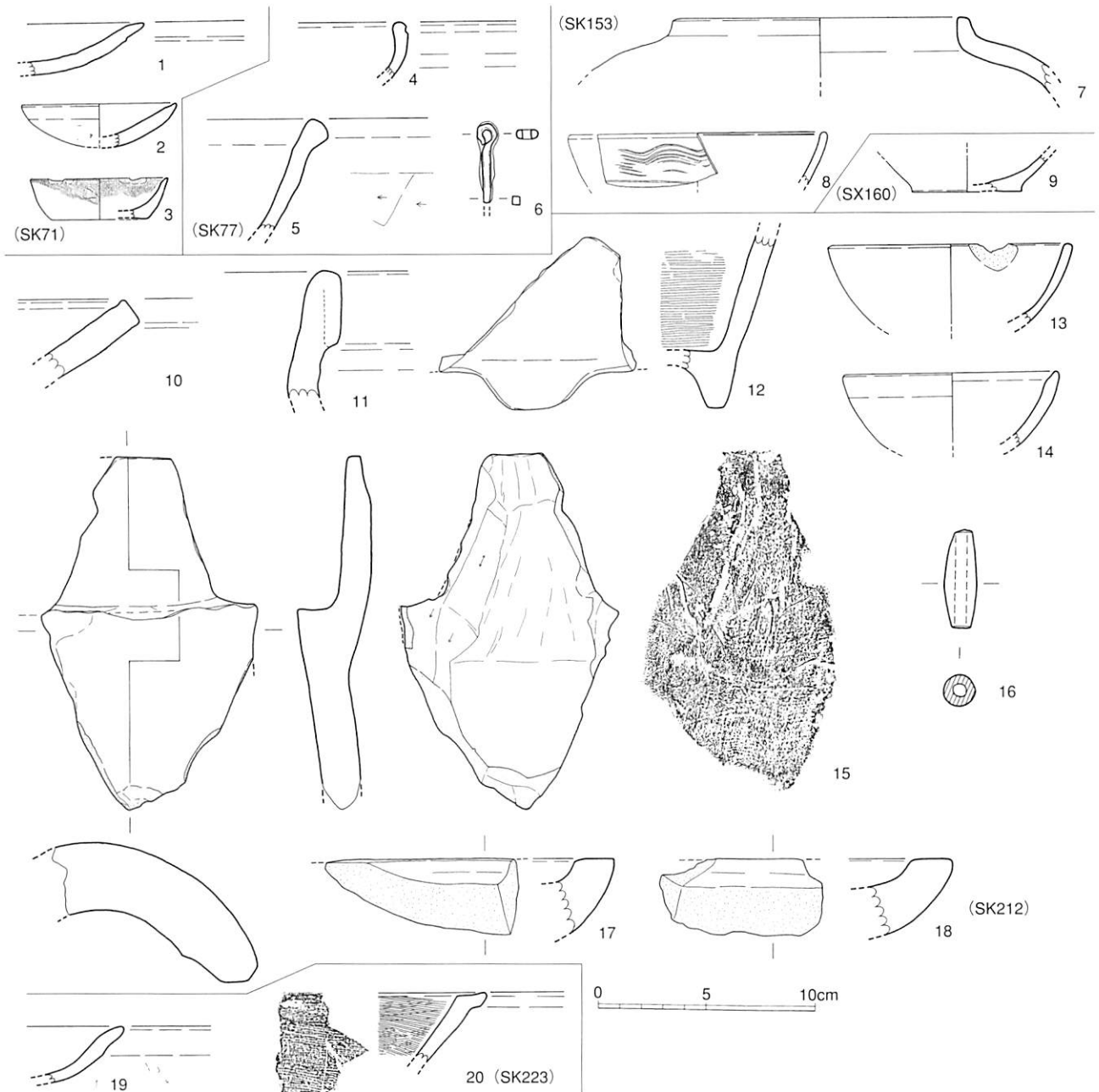
**SP159** (F地区) L44区 (西3区画) の第2焼土層の残るB層上面で検出した柱穴で、A層上面から掘り込まれたと推定される。備前焼の破片が出土している。

**SX160** (F地区) L43区 (西3区画) のA層中で検出した浅い溝だが、遺構かどうかは不明確である。9の底部糸切の在り系土師器底部、中国景德鎮窯系青花皿B群、備前焼鉢、鉄釘、青銅の板、丸瓦などが出土している。A層包含層のしみを遺構として掘ったかもしれない。

**SP170** (F地区)、L43区 (西3区画) のB層上面で検出した柱穴であるが、S143を切り、SK77に切られるのでこの時期とした。

**SP171** (F地区) L43区 (西3区画) のB層上面で検出した円形の柱穴である。中国漳州窯系青花碗、底部糸切の在り系土師器、京都系土師器2期の皿の口縁部片が出土している。

**SX179** (E地区) L43区 (西3区画) のB層上面で検出したがA層からの掘り込みと推定される遺構。



第3-95図 16世紀第4 四半期② (1587年以後) 西3区画の遺構出土遺物 (1/3)

**SK212=SK316 (E 地区)** L42区 (西4区画) のB層上面で検出した不整円形の土坑で、1587年以前の第4 四半期の土坑 SK211=315と土坑 SK153に切られる。下部の層で検出した SK316と同一遺構であると判明した。長さ1.3m、幅1.0m。比較的多量の遺物が廃棄されており西3区画の廃棄土坑のひとつであろう。**10**は備前焼の播鉢口縁、**11**は16世紀前半の中世6期の備前焼甕口縁部、**12**は瓦質火鉢の底部で、**13**は被熱し口縁に打ち欠きのある瓦質土器の碗口縁、**14**は京都系土師器2期の皿、**15**は内面布目の丸瓦、**16**は完形の小型管状土錘A類、**17**と**18**は同一個体の可能性のある茶白下白の受け部片で、ともに砂岩製である。和泉砂岩の可能性はある。ほかに中国漳州系青花碗、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器0期皿、平瓦の破片も出土している。

**柱穴** **SP218 (F 地区)** L44区 (西3区画) 検出の円形の柱穴で、A層中からの掘り込みと推定される。京都系土師器の小片が出土している。

**SK223 (F 地区)** L43区 (西3区画) のB層上面検出の遺構で、2つの土坑が重なっている。

長さ1.2m、幅0.7m以上。19は京都系土師器2期皿の口縁、20は土師質鍋口縁部。ほかに中国景德鎮窯系青花碗E群や底部糸切の在地系土師器の破片出土。16世紀後半。

**SP313 (F地区)** L43区(西3区画)のB層上部1回目掘下げ後に検出した円形の柱穴で、S311と埋土が同じなのでこの時期とした。遺物なし。

**SK376 (F地区)** L43区(西3区画)で検出した不整形の土坑で、A層上からの掘り込みである。長さ0.8m、幅0.5m。京都系土師器1期の皿、瓦質火鉢底部、鉄釘の小片が出土している。

**小結**

上市町の道路SF70の西側に面して掘立柱建物SB338が建てられ、その背後の西半分は建物のない空間として、廃棄土坑SK222、SK72、SK301などが掘られている。周辺には簡単な柱穴を伴う施設がもうけられたものと考えられる。

西3区画の空間構成

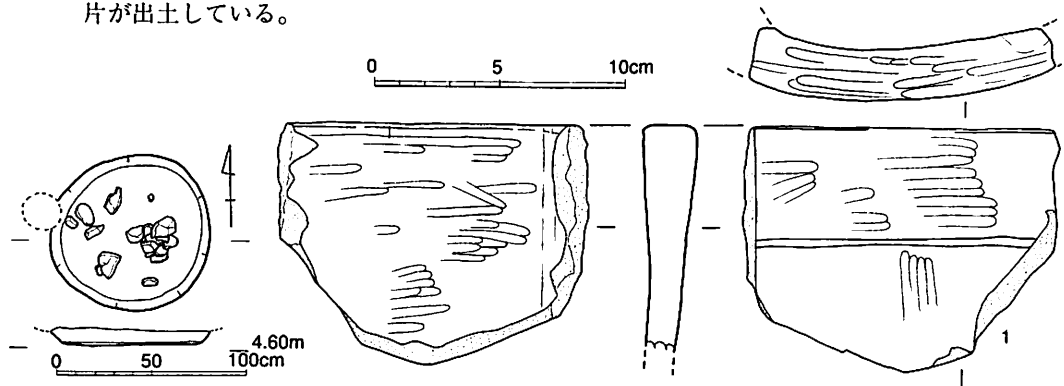
**西4区画**

土坑が多く掘られ、土取り坑であるSK325はまだこの段階でも埋まらずに、くぼんだままで維持されている。この付近には第2焼土層の堆積は少なく、西1～3区画ほどの整地による嵩上げは行われていない。

**土坑**

**SK190 (E地区)** (第3-96図) L42区(西4区画)のB層上面で検出した円形の土坑であるが、輪郭を検出する前に礫群が高い位置で現れていたため、A層上面またはⅡ層上面からの掘り込みとみられる。断面は浅い皿状である。長さ0.9m、幅0.8m、深さ10cm。同時期の土坑SK191とSP349を切り、SP130に切られる。内部には礫の廃棄が認められ、大半が被熱した礫である。埋土は5mm大の炭焼土を多く含む暗茶褐色土である。

**SK190出土遺物** 1は大型で四方から内側に押さえこみのある瓦質の鉢口縁部で、SP349からの残留遺物である。ほかに備前焼の甕底部1点、底部糸切の在地系土師器の底部2点、平瓦1点の破片が出土している。



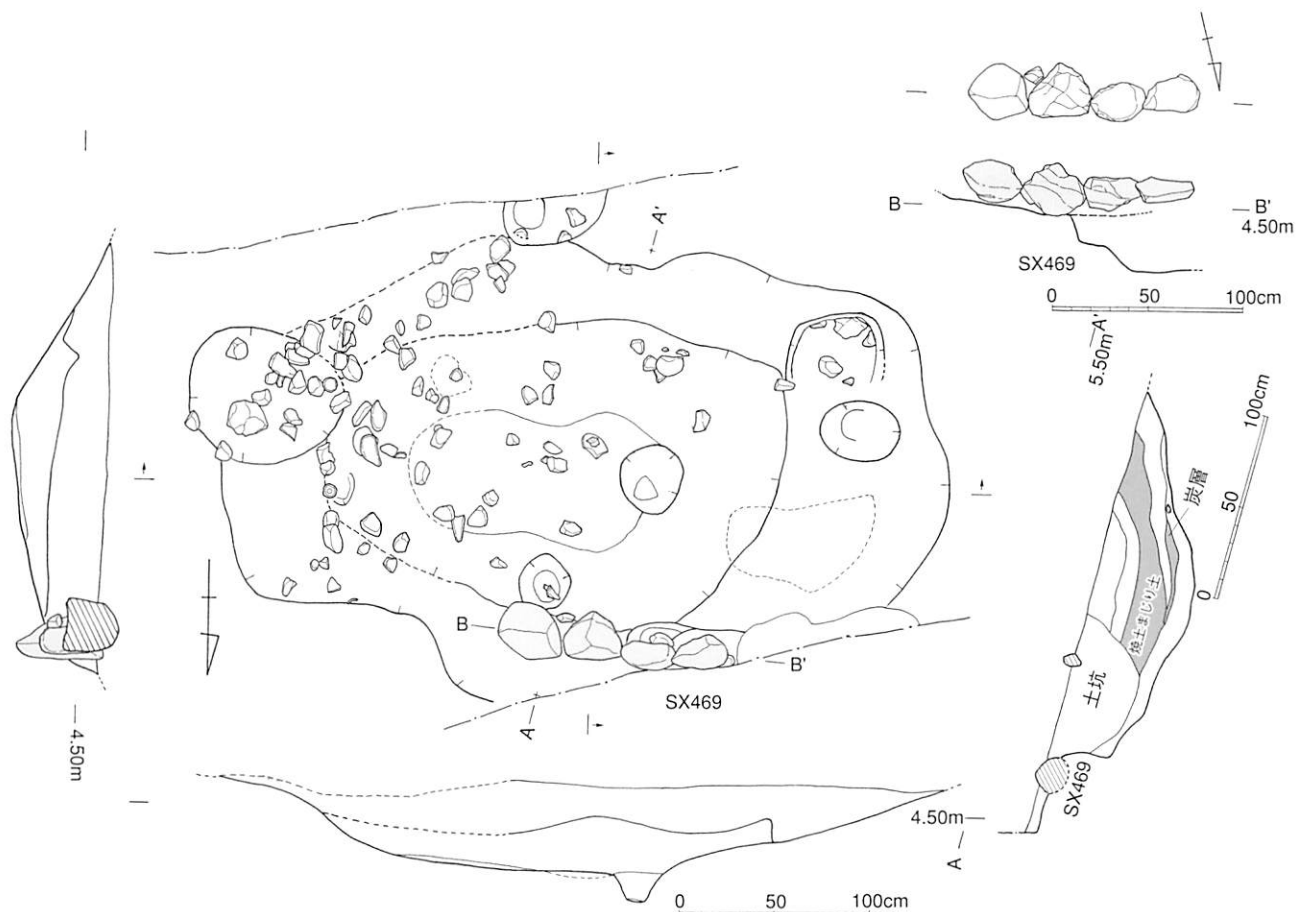
第3-96図 SK190 (遺構1/40、遺物1/3)

大型土坑

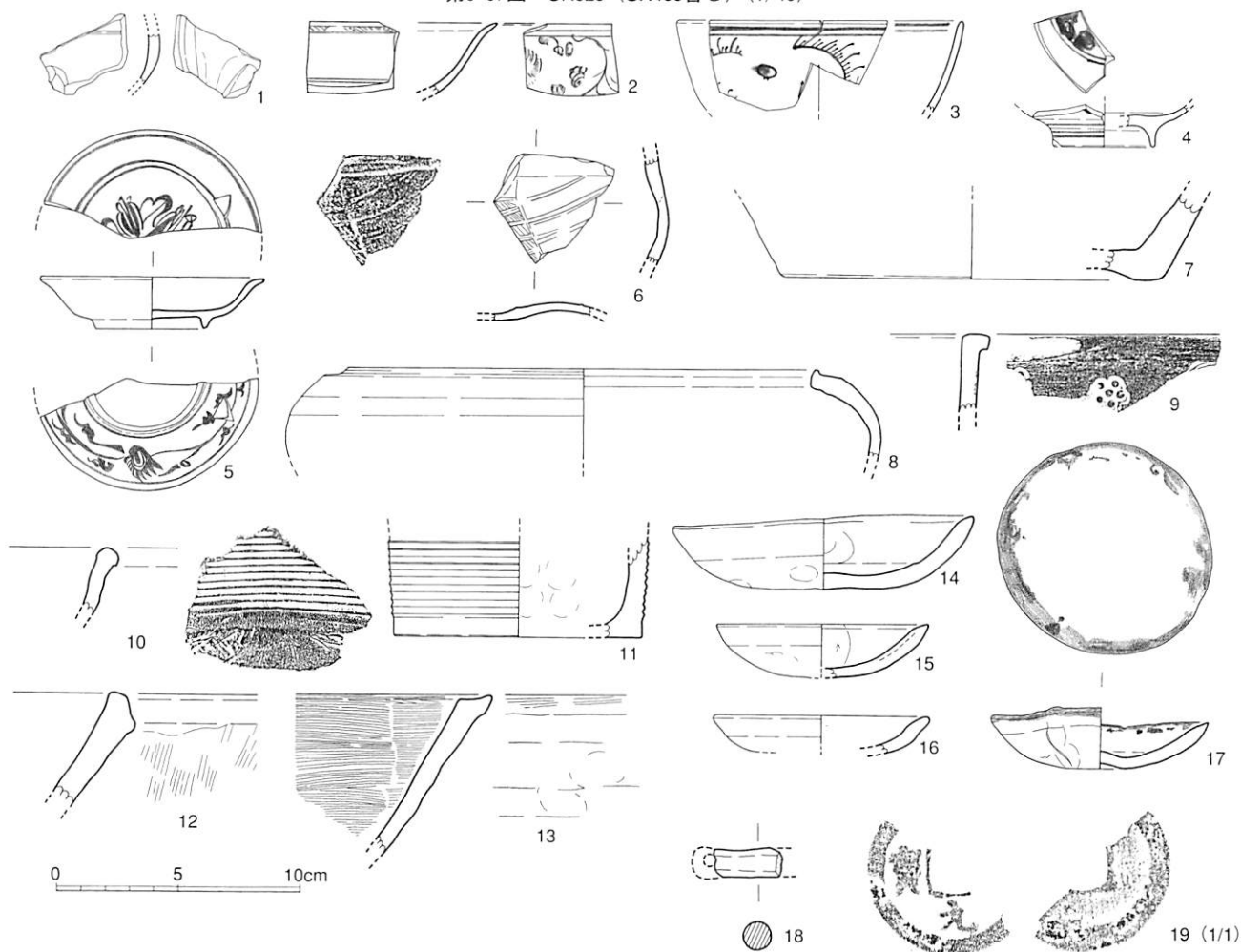
石列 SX469

**SK325 (E地区)** (第3-97図、図版41) L42区(西4区画)のB層上面で検出した不整形長円形の大型土坑であるが、第2焼土層に対応する層が内部に堆積している。長さ3.6m、幅2.0m、深さ0.5m。SK378と重なるように掘り込まれている。A層上面あるいはⅡ層上面からの掘り込みとみられる。埋没後に石列SX469が面を北にそろえて設けられたり、SK324・SK326、SP327に切られる。内部には礫や土器の多量廃棄が認められる。最新の遺物は京都系土師器3期の皿や中国漳州窯系青花碗である。SX469は北に面をそろえた石列で、SK325埋没後に設けられている。

**SK325出土遺物** (第3-98図) 1は中国製青磁の香炉。2は中国景德鎮窯系青花碗B群。3と



第3-97図 SK325 (SX469含む) (1/40)



第3-98図 SK325出土遺物 (1~18=1/3、19=1/1)

## 華南三彩

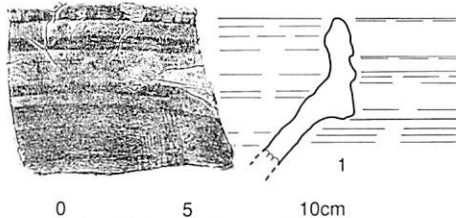
4は景德鎮青花碗E群。5は景德鎮青花皿B1群。6は被熱した華南三彩の鳥形水注の羽の部分の破片。7はいわゆるルソン壺とよばれる中国褐釉陶器底部。8は備前焼の無頸壺口縁。9は外面に刻印のある瓦質火鉢口縁。10は瓦質鉢口縁。11は瓦質火鉢の底部。12は土師質搗鉢の口縁。13は土師質鍋の口縁。14は京都系土師器2期の皿。15~17は京都系土師器2期の小皿(17は完形の灯明皿)。18は棒状土錘。19は中国銅銭の〇〇元寶と読める。ほかに中国龍泉窯系青磁碗2点。白磁皿2点。中国景德鎮窯系青花碗9点。同じく青花碗E群口縁1点。青花皿F群1点。中国漳州窯系青花4点。中国焼締陶器1点。中世陶器甕胴部1点。瀬戸美濃天目碗1点・皿1点。備前焼壺胴部1点・甕12点(胴部5:1点はSK123出土破片と接合)。瓦質火鉢6点・鍋2点。瓦質土器碗底部1点。底部糸切の在り系土師器の坏2点。内面にロク口痕を残す土師器多数。京都系土師器2期の皿4点。京都系土師器3期の皿1点。丸瓦2点・平瓦2点。土師器転用するつば1点。銅銭破片2点。鉄釘4点。鉄製品3点。土壁1点。以上の破片が出土している。

## そのほかの遺構 (第3-99図)

**SP73** (E地区) L42区(西4区画)のA層上面で検出した隅丸方形の柱穴で、S150、SK173を切る。柱痕は確認できなかった。中国景德鎮窯系青花碗E群、大内系土師器の破片が出土している。

**SP130** (E地区) L42区(西4区画)のB層上部で検出したが、S190を切るのでA層上面から掘り込まれた円形の柱穴と考えられる。底部糸切の在り系土師器の小片が出土している。

**SK133** (E地区) L42区(西4区画)のB層上部で検出した円形の小土坑であるが、出土遺物が浮いていることから、A層またはII層上部から掘り込まれたと推定される。径0.5m。埋土は5mm大の炭焼土を多く含む砂主体の暗褐色土である。1の中世6b期の備前焼搗鉢や土師器の破片が出土している。



第3-99図 SK133出土遺物 (1/3)

**SK134** (E地区) L42区(西4区画)のB層上面で検出したが、S191を切るのでA層上面からの可能性が高い円形の小土坑である。長さ0.9m、幅0.7m。断面は円形で内部からは拳大の礫や5mm大の炭・焼土を含む砂混じりの暗褐色土の単層である。遺物は土師器片が出土しているのみである。

**SP151** (E地区) L42区(西4区画)で検出した円形の柱穴で、A層上面またはII層上面から掘り込まれたと推定される。SP205とSK375を切る。底部糸切の在り系土師器の小片が出土している。

**SK152** (E地区) L42区(西4区画)で検出した円形の土坑で、A層上面またはII層上面から掘り込まれたと推定される。長さ0.9m、幅0.7m。SK378とSK315を切る。埋土は5mm大の炭焼土を多く含む砂混じりの暗褐色土である。白磁小坏、信楽系陶器壺の底部、底部糸切の在り系土師器の小片が出土している。

## 集石土坑

**SK174** (E地区) L42区(西4区画)のA層上面から掘り込まれたと推定される廃棄土坑である。焼けた礫の集中廃棄が認められ。埋土は10mm大の炭焼土を含む暗茶褐色土である。京都系土師器は小片が出土している。

**SK191** (E地区) L42区(西4区画)で検出したもので、内部の礫の高さから見てA層上面から掘り込まれたと推定される円形の土坑である。長さ1.1m、幅0.9m。1587年以後の土坑SK134と同じくSK190に切られる。焼けた礫の廃棄が認められる。埋土は5mm大の炭焼土を含む暗黄褐色土である。底部糸切の在り系土師器と京都系土師器の小片が出土している。

小溝

**SX228** (F地区) L43区(西4区画)で検出した小さな溝状の遺構で、A層中からの掘り込みと推定される。長さ1.0m、幅0.3m。1587年以後の復興面での町割りにあたる西3区画と西4区画の境界に関係する遺構の可能性がある。備前甕・播鉢、平瓦、鉄釘、古墳時代の土師器甕の口縁部の小片が出土している。

**SP314** (F地区) L43区(西4区画)のB層上部1回目掘下げ後に検出した円形のピットで、第2焼土層の上より掘り込まれているのでこの時期とした。瓦質鍋1点の破片が出土している。

**SP318** (E地区) L42区(西4区画)のA層上面から掘られたと見られる柱穴である。出土遺物なし。

**SK324** (E地区) L42区(西4区画)で検出したが、SK325を切っているのでA層上面から掘られたと見られる円形の土坑である。SP176に切られている。備前焼の甕、底部糸切の在地区土師器、内面にロクロ痕を残す土師器底部、京都系土師器2期の皿口縁部の小片が出土している。

**SK326** (E地区) L42区(西4区画)のSK325を掘下げ中に検出した円形の小土坑である。埋土は炭が多く入る黒褐色軟質土の単一層である。SK325中の堆積土のブロックの可能性が高い。中国景德鎮窯系青花碗と、古代の土師器碗片が出土したが、前者はSK325出土の破片と接合し、切り合い関係を証明した。

ほかに**SP175**もこの時期の遺構である。

### 小結

土坑SK325の埋め戻し後の陥没がまだ残っており、その中に第2焼土層の堆積が認められる。その復興の際に、SK325は完全に埋められ西3区画の境界に面して石列SX469が部分的に設けられたり、小さな溝状の遺構SX228が存在するので、1587年の火災後も以前の境界を踏襲して、西4区画が再生されている。その内部は小規模な土坑が比較的多く、柱穴は比較的小さく、宅地の中でも建物のない裏側の空間と考えられる。

区画の奥

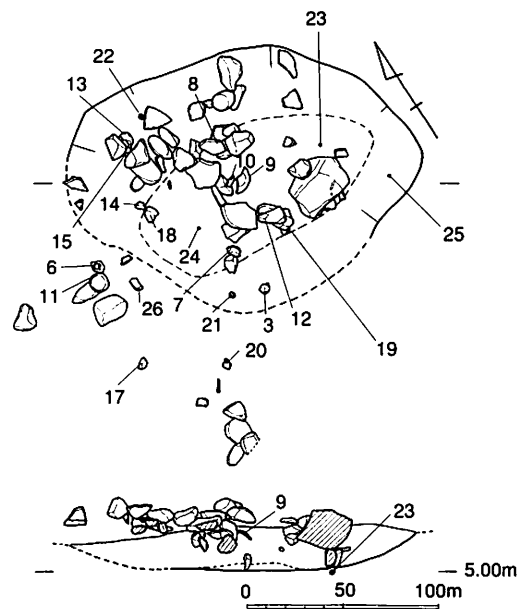
### ③第1焼土層以後(1596年～1602年直後)(第3-84図参照)

A層上面

以下に区別したのはA層上面から掘り込まれた遺構のうち、埋土の内容から見て1596年の慶長大地震の際の焼土と考えられる第1焼土層堆積後に掘られたと考えられる遺構である。

第1焼土層後の状況

西1区画にはこの時期に礎石建物が存在した可能性がある。同時に道路SF70の西半に建物が張り出していく。一方西2区画は遺構が少なく、建物は復興した状況ではない。西3区画では掘立柱建物SB338はなくなったらしく、火災処理土坑のSK81が同じ場所に掘られている。ほかにわずかの柱穴が発見されているので、一定の建物の復興が行われているが、前代にくらべると少ない。



### 土坑

火災処理土坑

**SK188** (F地区)(第3-100図、図版40) L44区の西2区画と西3区画の境界にまたがって掘られた不整形の火災処理土坑である。長さ1.9m、幅1.4m、深さ0.4m。A層を切っているため、第1焼土層直後の火災処理土坑と推定される。底面

銭貨埋置

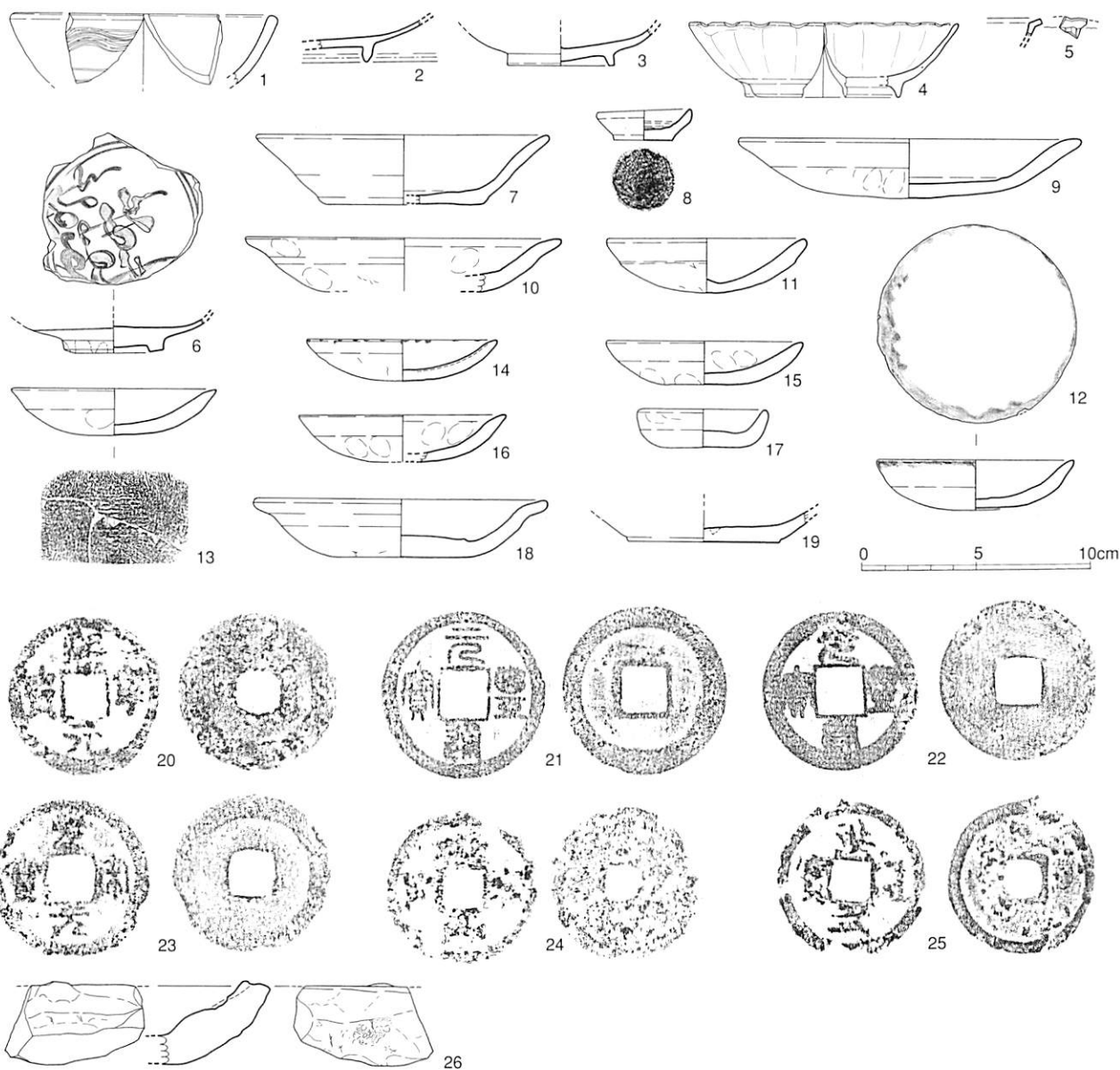
には銅銭が数枚置かれており、敷地再建のための祭祀行為を行った上で、火災処理を行ったものと推定される。埋土は大量の被熱礫が廃棄された炭焼土を多量に含む暗褐色土である。

SK188出土遺物 (第3-101図)

1は中国龍泉窯青磁碗C3類。2と3は白磁皿E-2類の底部。4は白磁皿E-4類の稜花皿。5は中国産翡翠釉青釉陶器小皿。6は中国漳州窯系青花碗底部。7は底部糸切の在り系土師器皿。8は口縁の一部を打ち欠いた内面にロクロ痕を残す土師器小皿のミニチュア。9は内面に煤の付着した京都系土師器2期の大皿。10は京都系土師器2期の皿。11は完形の京都系土師器2期の小皿。12~16は京都系土師器2期小皿で、12は接合すると完形になった煤の付着する灯明皿。13の底面には板状の圧痕が残る。17は京都系土師器2期小型の小皿。18は京都系土師器3期の皿。19は16世紀後半の底部糸切の在り系土師器の皿。20~25は完形の中国銅銭である。20は灑寧元寶(北宋1068年初鑄)。21と22は元豊通寶(北宋1078年初鑄)。23は聖宋元寶(北宋1101年初鑄)。24と25は洪武通寶(明1368年初鑄)。26は銅を溶かした土製大型のるつぽ。

銭貨6枚

ほかに備前焼の甕4点(1点はL44区に第2焼土層出土破片と接合、1点はSK504出土破片と接合、1点はL44区B層上面出土破片と接合)・播鉢1点(放射すり目)。瓦質播鉢3点・鍋2点(底



第3-101図 SK188出土遺物 (1~19・26=1/3、20~25=1/1)

部1)。底部糸切の在り系土師器18点。京都系土師器2期の大皿1点・皿9点。銅銭片1点。銅製品1点。鉄釘3点・鉄棒1点。以上の破片が出土している。

#### そのほかの遺構（第3-102図）

**SK76**(G地区) L44区A層上面からの掘り込まれた円形の小土坑である。長さ0.7m、幅0.6m。層位関係から1596～1602年の遺構であると考えられる京都系土師器3期の皿と繊維の付着した銭種不明の銅銭1枚が出土した。

火災処理土坑

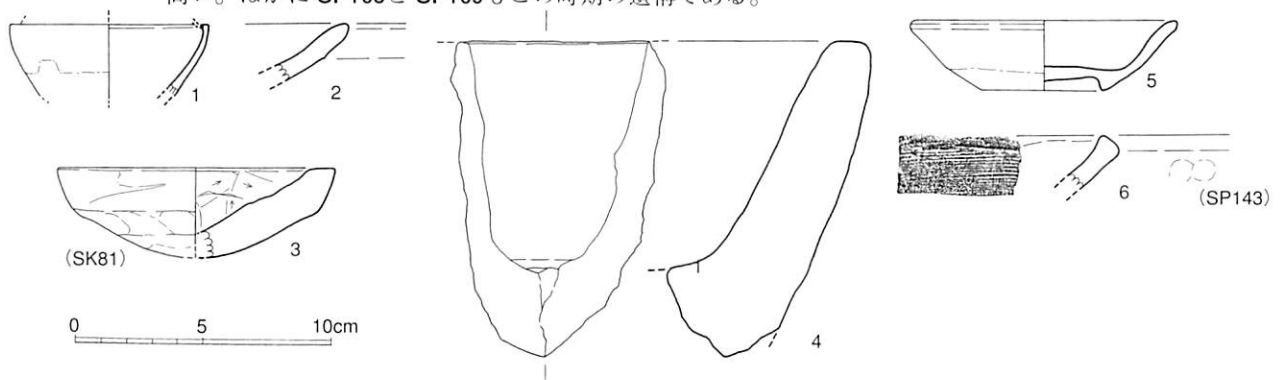
**SK81**(F地区) L44区(西2区画)のA層上面で検出した土坑で、炭焼土を多量に含む軟らかい暗褐色土からなり、焼けた礫や炭・焼土のブロックが大量に混じる。長さ0.9m、幅0.7m以上。第1焼土層の火災処理土坑と考えられる。1596年の火災直後の遺構であろう。1は瀬戸美濃産の小鉢、2は京都系土師器2期の皿口縁、3は土製の埴塙あるいは鋳型の小片、4は安山岩質凝灰岩製の大型の石製鉢である。ほかに中国景德鎮窯系青花皿B群、瓦質の鉢、底部糸切の在り系土師器、土師質の鍋、鉄釘の破片が出土している。

**SP142**(F地区) L43区(西3区画)で検出した円形柱穴で、A層上面から掘り込まれたと推定される。埋土はSP140と同じだが焼土のブロックがまとまっている。

**SP143**(F地区) L43区(西3区画)で検出した長円形の柱穴で、A層上面から掘り込まれたと推定される。内部に焼土のブロックがまとまっている。5は瀬戸美濃産大窯3期の碁笥底の皿、6は瓦質掃鉢の口縁部で河野D2類。ほかに底部糸切の在り系土師器、京都系土師器1期の皿の破片が出土している。

**SP144**(F地区) L43区(西3区画)で検出した円形の柱穴で、A層上面またはII層上面から掘り込まれたと推定される。内部に焼土のブロックがまとまっている。

以上のSP142～144は内部に焼土ブロックが多いので、第1焼土層の上から掘り込まれた可能性が高い。ほかに**SP168**と**SP169**もこの時期の遺構である。



第3-102図 16世紀第4四半期③(1596年以後)の遺構出土遺物(1/3)  
まとめ(第3-103図)

焼土層と生活面を境界にして、以下の3小期に区分可能であった。

#### ①第2焼土層形成以前の16世紀第4四半期(推定1575～1587年)

短冊型地割

西1～4区画の4つの宅地が上市町の道路SF70に直交する形で分割される。その境界は整地層の段差あるいは柱穴列として認識され、各区画の内部には掘立柱建物のほか礎石が認められる。道路から離れるにつれて土坑が増加するが、調査範囲内には井戸は発見されなかった。上市町の第1南北街路の両側に道路に間口を向けた短冊型地割が第3四半期につづいて設定される。

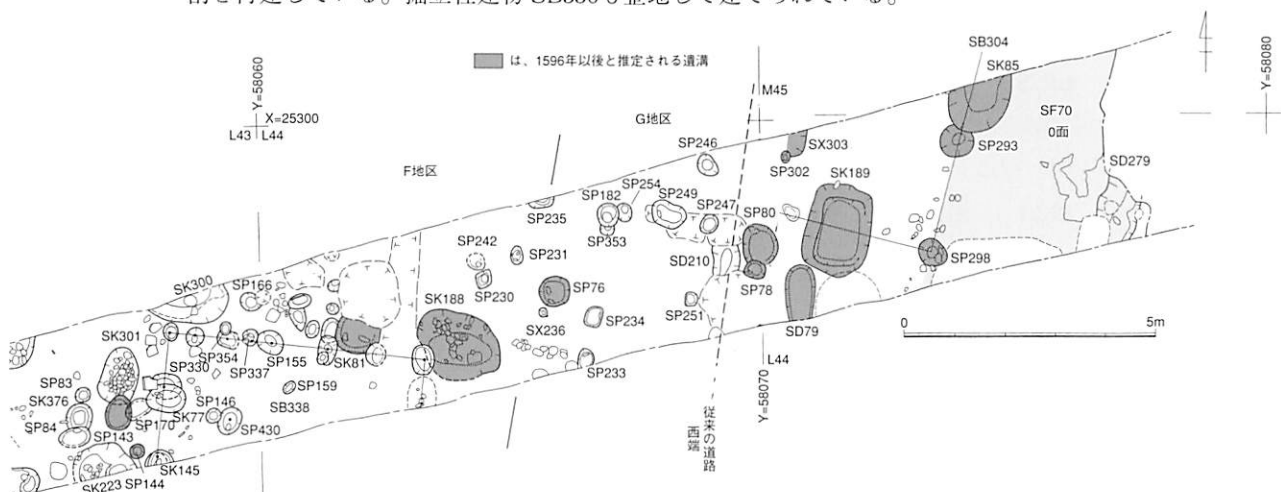
#### ②第2焼土層以後の16世紀第4四半期(推定1587～1596年)

SX287のように西2区画と西3区画との境界の段差を再生する石列がもうけられたり、SP235、SP182、SP249、SP247のような道路と直交する方向に柱穴がならぶので、第2焼土層形成の火災



積土整地

後の復興における、新たな整地高上げの際にも西1区画と西2区画は同じ位置に再生されている。火災処理に際して焼土層を除去するのではなく、その上に整地層を積み増して高上げし、短冊型地割を再建している。掘立柱建物 SB336も整地して建てられている。



第3-103図 上市町西側の1587年の戦災復興後の遺構 (1/150)

③第1焼土層以後の16世紀第4四半期 (推定1596~1602年直後)

最後の復興

この時期に特定できる遺構は限られている。しかし境界施設は設けられなかったようで、短冊型地割は認められない。しかし1596年の火災後放棄されたわけではなく、火災処理土坑 SK188のような遺構が作られており、火災後の再建行為が行われているが、しかし再建は一部に限られ、道路に面した区画はかなり前代とは異なっていたようである。

VI. 包含層・整地層出土の遺物 (第3-104図)

I層・II層：出土遺物省略。

**第1焼土層** 1596年の慶長大地震による火災層。1は中国景德鎮窯系青花皿E群。2は翡翠釉の青釉陶器小皿。3は外面に刻印のある瓦質火鉢口縁。4はやや変形の京都系土師器4期の小皿。5は銅を溶かした京都系土師器転用のるつぽ。6は鉄振動板巻きの小柄の柄。

華南三彩

**A層**：1587年の火災後の整地層。7は白磁皿E2群。8は白磁小坏底部。9は中国五彩。10は中国景德鎮青花碗E群いわゆる饅頭心碗。11は景德鎮青花皿E群。12は下部出土の毛彫りの中国景德鎮窯系青花皿。13は華南三彩の鳥形水注の羽の破片。14は火を受けて変色した中国製黒釉陶器の小壺でSK72出土破片と接合 (図版50)。15は中国褐釉陶器壺いわゆるルソン壺。16はタイメナムノイ窯産四耳壺。17は瓦質土器碗の底部。18は土師質火鉢口縁。19は京都系土師器2期の皿。20と21はいずれも煤が付着し灯明皿として使用された京都系土師器2期の小皿。22は京都系土師器3期の皿。23は在地系土師器転用のるつぽ。24~26は管状土錘A類小型。以下は完形の中国銅銭。27は祥符通寶 (北宋1008年初鑄)。28と29は皇宋通寶 (北宋1038年初鑄)。30は治平元寶 (北宋1064年初鑄)。31は元祐通寶 (北宋1086年初鑄)。32は用途不明の青銅製品で、先端部は中空である。33は鉄製の大型の針か。34と35は鉄製の金具。36は硯。

ほかに景德鎮青花皿B1群1点。同じく青花皿E群、タイ産黒褐釉陶器壺1点 (D区S122出土破片と接合)。斜めすり目の近世1期の備前焼播鉢1点。瓦質土器1点。底部糸切の在地系土師器1点。京都系土師器2期の皿1点・小皿1点。京都系土師器3期の皿1点。鉄斧1点。以上の破片が出土している。

**第2焼土層**：1587年の火災層。37は15世紀後半の中国龍泉窯青磁碗B-IV類の口縁。38は同じく14世紀の青磁盤口縁。39~45は中国景德鎮窯系青花。39は青花碗C群 (蓮子碗) 底部。40は碁筒

漳州窯青花

底の青花皿C群。41～43は青花皿E群。44は16世紀後半の青花小杯。45は毛彫りの青花碗。46～48は中国漳州窯系青花。46は漳州青花碗。47は漳州青花皿。48は碁筒底のC群模倣青花皿。49は中国黒釉陶器壺の肩部把手。50は中国褐釉陶器の茶入れ壺。51は中国焼締陶器の鉢底部。52は近世1b期の備前焼播鉢口縁。53は一对の雷文の刻印のある瓦質火鉢口縁。54は瓦質火鉢脚部。55は底部糸切の在り系土師器坏。56は京都系土師器2期の皿。57～59は京都系土師器2期の小皿(57と59は灯明皿で破碎されている)。60は管状土錘A類。61は土製るつばあるいは鋳型。62は銅製の飾り金具。以下は完形の中国銅銭。63と64は景祐通寶(北宋1024年初鑄)。65と66は皇宋通寶(北宋1038年初鑄)。67と68は灑寧元寶(北宋1068年初鑄)。69は元豊通寶(北宋1078年初鑄)。70は紹聖元寶(北宋1094年初鑄)。71は大観通寶(北宋1107年初鑄)。72と73は洪武通寶(明1368年初鑄)。74は鉄鑿。75は鉄釘。76は鉄板。77は砥石。

ほかに中国景德鎮窯系青花皿E群1点。中国黒褐釉壺1点。古瀬戸の瓶子1点。中世6期の備前焼播鉢1点。斜めすり目の備前焼播鉢2点。備前焼麩底部1点はSK188出土破片と接合。底部糸切の在り系土師器坏1点。底部糸切の在り系土師器1点。内面にロクロ痕を残す土師器皿3点。京都系土師器2期の皿7点。京都系土師器皿1点。完形の中国銅銭の元豊通寶(北宋1078年初鑄)1点。完形の中国銅銭の元祐通寶(北宋1086年初鑄)1点。以上の破片が出土している。

残留遺物。78は摩滅のはげしい古代土師器の甑把手。

**B層上面**：B層上面の生活面直上の遺物。全体に焼けた遺物が多い。79は青磁盤の口縁。80と81は16世紀の白磁皿E2類。82は中国景德鎮窯系青花碗E群の口縁。83は中国漳州窯系窯青花蓋口縁。84は中国漳州窯系青花碗口縁でC群を模倣。85は中国漳州窯青花碗。86は瓦質火鉢の口縁。87は外面底部に格子タタキのある土師質鍋口縁。88は京都系土師器1期の皿。89～91は京都系土師器2期の皿。92～94は京都系土師器2期の小皿(92は口縁に打ち欠きがある)。95と96は京都系土師器3期の皿。97は内面に緑青が付着して硬化した土師器転用のるつば。以下は完形の中国銅銭。98は淳化元寶(北宋990年初鑄)。99は祥符通寶(北宋1008年初鑄)。100は天聖元寶(北宋1023年初鑄)。101は皇宋通寶(北宋1038年初鑄)。102と103は嘉祐通寶(北宋1056年初鑄)。104～108は元豊通寶(北宋1078年初鑄)。109と110は元祐通寶(北宋1086年初鑄)。111は洪武通寶(明1368年初鑄)。112は鉄製の刀子の茎。113は鉄のみか。114は長さ三寸相当の鉄釘。

ほかに白磁皿E群1点。中国焼締陶器播鉢口縁1点。古瀬戸の瓶1点。瀬戸美濃陶器の小皿1点。瓦質火鉢の口縁1点。底部糸切の在り系土師器1点。京都系土師器2期の皿1点。京都系土師器3期の皿3点。完形の中国銅銭1点。「元」一字のみが残る中国銭貨片1点。以上の破片が出土している。

**B層**：1587年の火災前の整地層(16世紀第4四半期)。115は中国景德鎮窯系青花皿B1群。116は同じく青花小坏口縁。117は中世5期の備前焼播鉢口縁で、D層下部出土片と接合。118は瓦質火鉢口縁。119は瓦質鉢口縁。120は京都系土師器を模倣した16世紀後半の底部糸切の在り系土師器皿。121は管状土錘A類。122は鉄製の釘あるいは楔。ほかに朝鮮王朝産陶器碗1点。京都系土師器2期の皿1点。京都系土師器3ないし4期の皿1点。以上の破片が出土している。

**B-2層**：第3焼土層堆積後の最初の整地層(16世紀第3四半期)。123は15世紀の中国龍泉窯産青磁稜花皿口縁。124は中世6b期の備前焼播鉢口縁。125は瓦質火鉢底部。126は瓦質播鉢口縁。127は底部糸切の在り系土師器坏。128～130は京都系土師器1期の皿。131と132は京都系土師器1期の小皿。133は口縁に打ち欠きのある京都系土師器2期の大皿。134～136は京都系土師器2期の皿。137は口縁に打ち欠きのある京都系土師器2期の小皿。138と139は京都系土師器3期の皿と小皿(139は煤が付着した灯明皿)。140は回転糸切の土師器燭台A類。141と142は銅製の刀装具の切羽(図版51)。143は銅製の匙(図版51)。144は「開〇〇寶」と読める銅銭片。以下は完形の中国銅銭。

土師器燭台

145は祥符通寶(北宋1008年初鑄)。146は皇宋通寶(北宋1038年初鑄)。147は嘉祐通寶(北宋1056年初鑄)。148は治平元寶(北宋1064年初鑄)。149と150は紙包みの残る灑寧元寶(北宋1068年初鑄)。151と152は元豊通寶(北宋1078年初鑄)。153は元祐通寶(北宋1086年初鑄)。154は紹聖元寶(北宋1094年初鑄)。155は聖宋通寶(北宋1101年初鑄)。156は鉄釘。157は粘板岩製の仕上げ砥石。158と159は砥石。

ほかに中国景德鎮窯系青花皿F群1点。中国焼締陶器1点。底部糸切の在り系土師器坏1点。内面にロクロ痕を残す土師器1点。京都系土師器2期の皿1点。海部産の平瓦1点。完形の銅銭7点。鉄釘3点の破片が出土している。

B-2層 整地の  
地鎮

**F地区西3区B-2層** 160と161は第3焼土層直上に置かれた京都系土師器1期の皿と底部糸切の在り系土師器のミニチュア(161は煤が付着し、口縁に1箇所打ち欠きがある)。B-2層の整地に先立つ祭祀行為である。

**第3焼土層**：16世紀第Ⅲ四半期の火災層。162はガラス片。163は白磁皿E類。164は中国景德鎮窯系青花碗C群のいわゆる蓮子碗。165は中国漳州窯系青花碗。166は「寿」の銘のある碁笥底の中国漳州窯系青花皿。167は中世6a期の備前焼播鉢口縁。168～172は底部糸切の在り系土師器坏(171は京都系土師器を模倣したもの)。173は底部糸切の在り系土師器小皿。174～176は京都系土師器1期の皿(174は口縁に煤の付着した灯明皿)。177は京都系土師器2期の皿。178と179は平瓦。180は管状土錘A類の超小型完形品。181は土製の鈴。182は銅製の留金具。以下は完形の中国銅銭である。183は景德元寶(北宋1004年初鑄)。184は祥符通寶(北宋1008年初鑄)。185は天聖元寶(北宋1023年初鑄)。186は灑寧元寶(北宋1068年初鑄)。187と188は紹聖元寶(北宋1094年初鑄)。189と190は鉄製火箸の先端部。191と192は鉄製刀子。

ほかに中国漳州窯系青花碗1点。中国焼締陶器鉢底部1点、備前焼播鉢2点、うち1点は放射すり目。底部糸切の在り系土師器3点。内面にロクロ痕を残す土師器1点。京都系土師器1期の皿1点。海部産平瓦1点。平瓦1点。完形の銅銭4点。第3焼土層直上出土の開元通寶と思われる銅銭の破片1点。鉄釘5点。以上の破片が出土している。

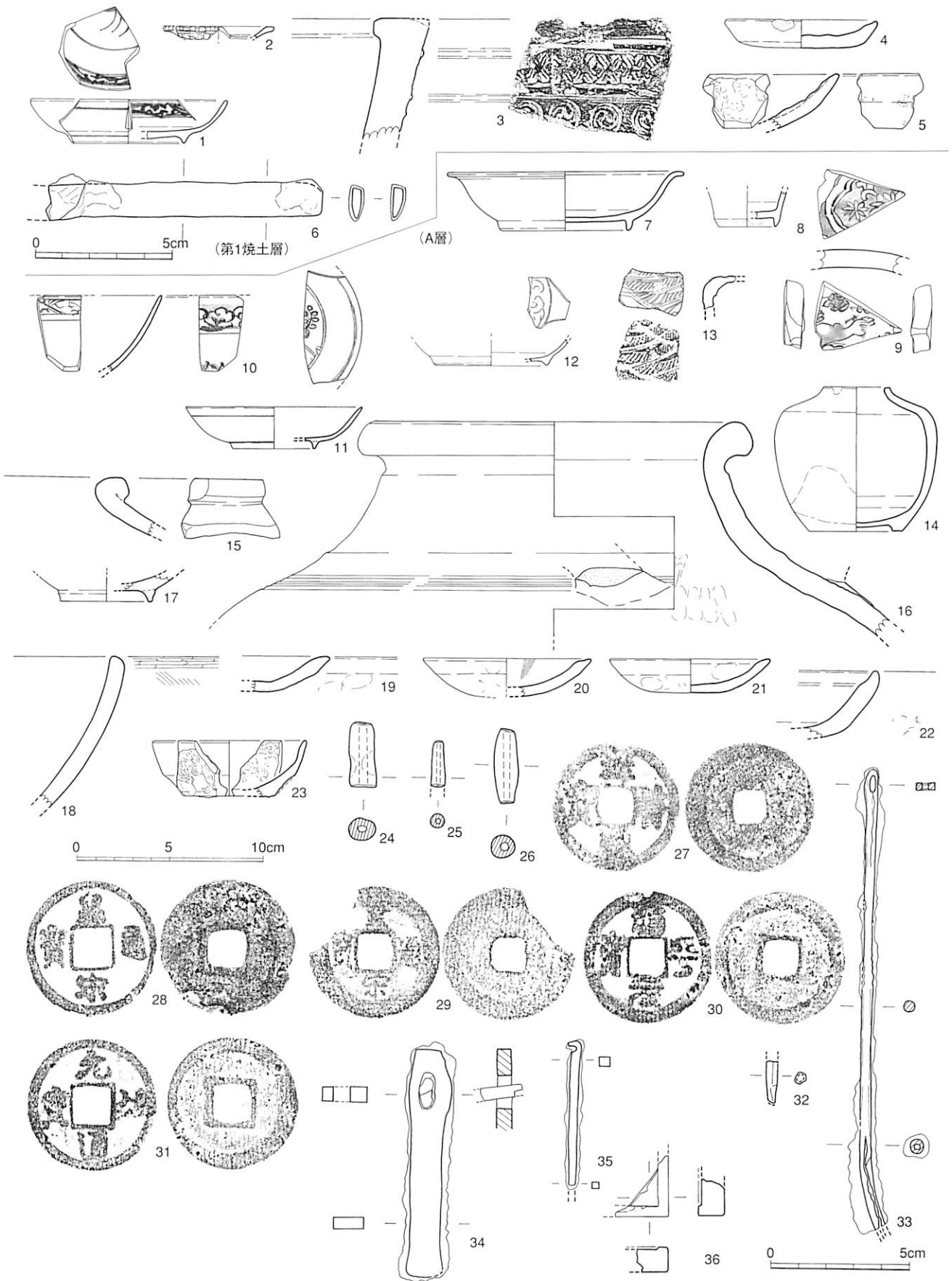
**C層上面**：第3焼土層堆積の直前の遺物(16世紀第3四半期)。193は碁笥底の中国漳州窯系青花皿。194は菊花文の刻印のある瓦質火鉢口縁。195は瓦質鉢口縁。196は外面にヘラケズリのある瓦質播鉢口縁。197は京都系土師器1期の皿口縁。198は京都系土師器2期の皿。199は平瓦。200は土製の鈴。201は完形の中国銅銭の景祐元寶(北宋1004年初鑄)。ほかに丸瓦1点の破片が出土している。

**C層**：16世紀第1四半期の整地層。202と203は内面にロクロ痕を残す土師器皿。204はその小皿。205は穿孔のある鉄金具(図版49下)。以下は完形の中国銅銭。206は皇宋通寶(北宋1038年初鑄)。207は元豊通寶(北宋1078年初鑄)。208は政和通寶(北宋1111年初鑄)。209は正隆元寶(金1157年初鑄)。ほかに放射すり目の備前焼播鉢1点。底部糸切の在り系土師器坏1点・小皿1点。海部産平瓦1点。以上の破片が出土している。残留した210は13世紀の瓦質鍋口縁。

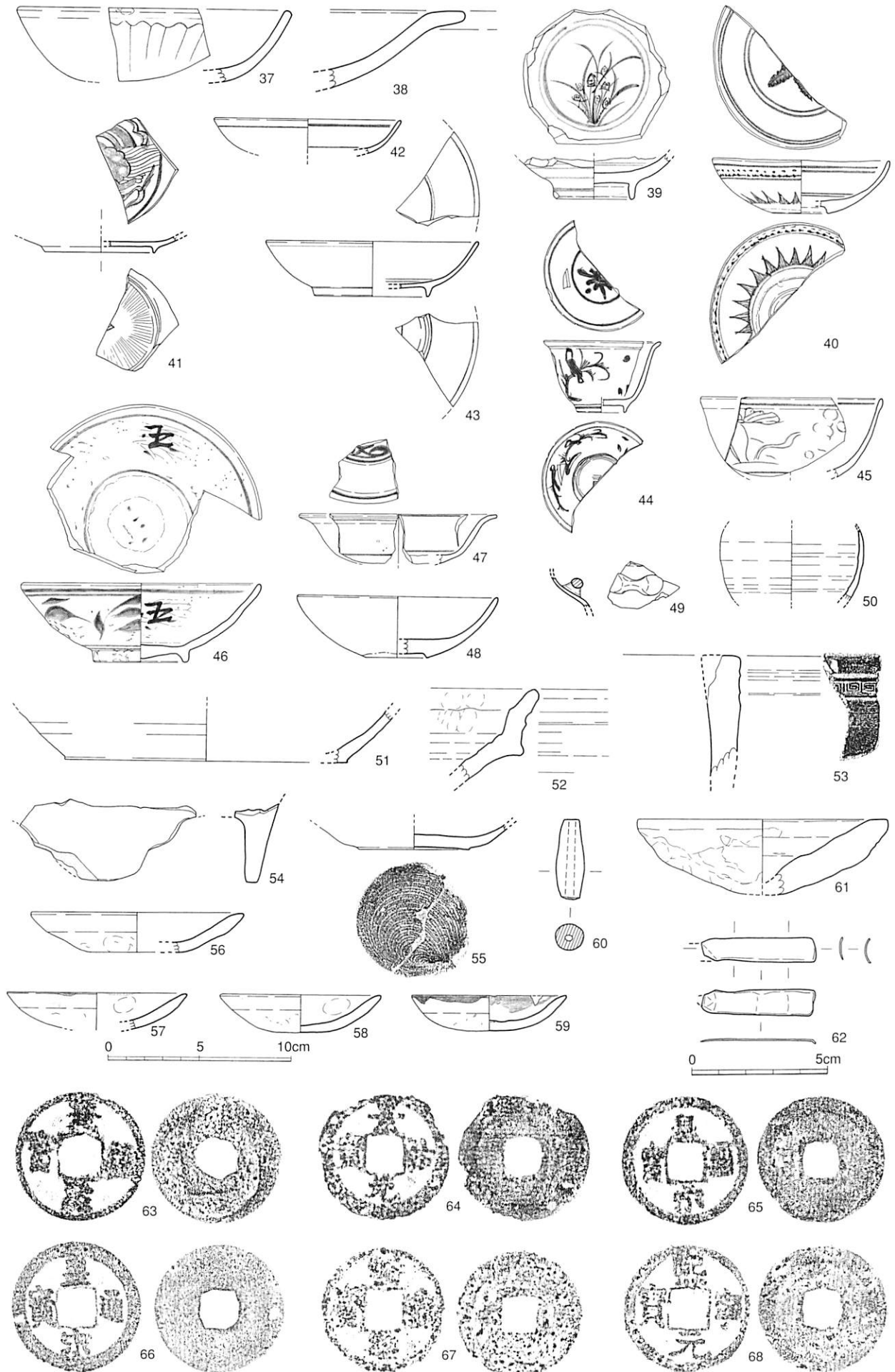
**第4焼土層**：内面にロクロ痕を残す土師器の破片が出土している。

**F・G地区D層上面** 211は内面にロクロ痕を残す土師器皿。ほかに14世紀の鎬蓮弁文の中国龍泉窯産青磁碗1点、中国焼締陶器1点の破片が出土している。

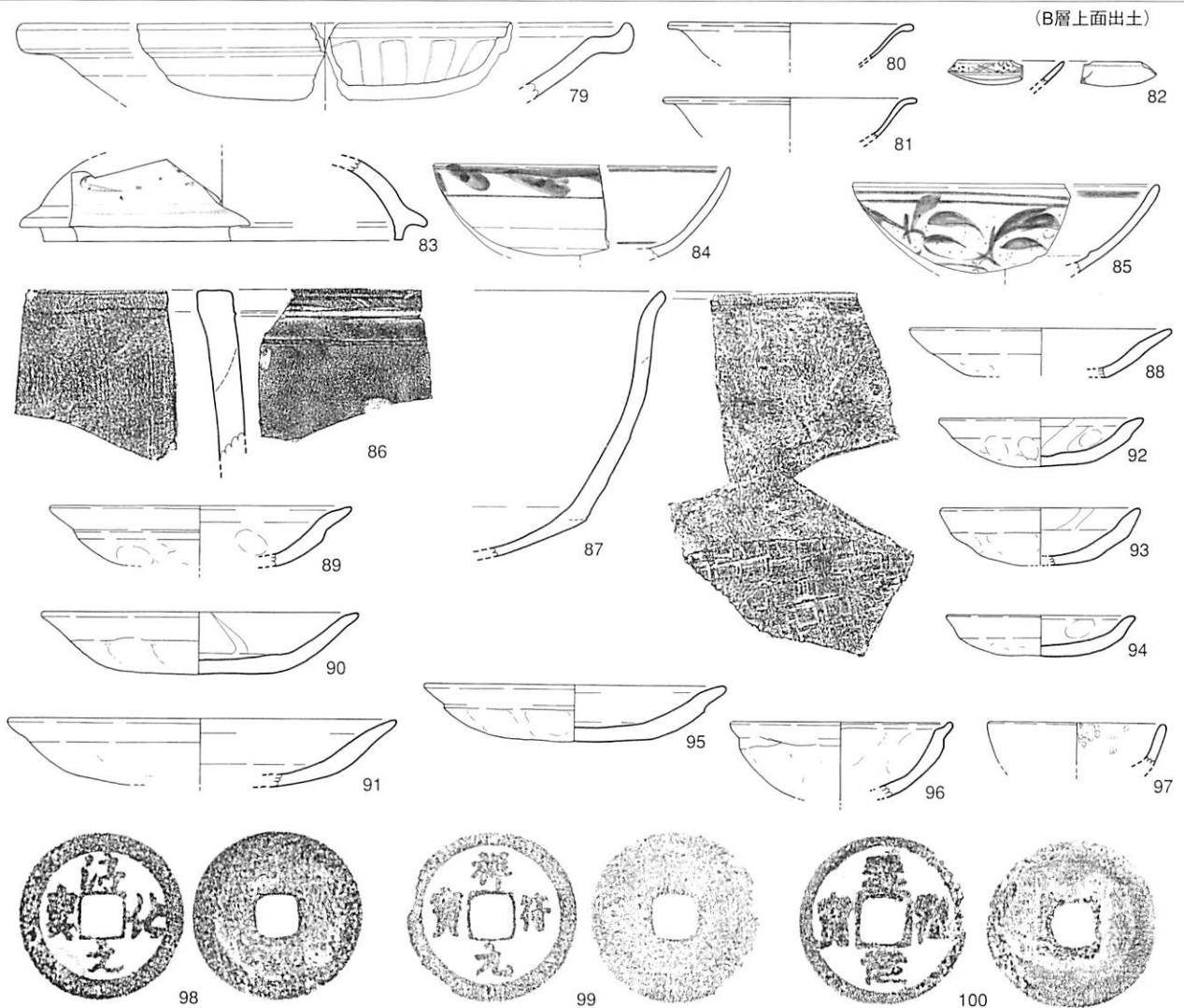
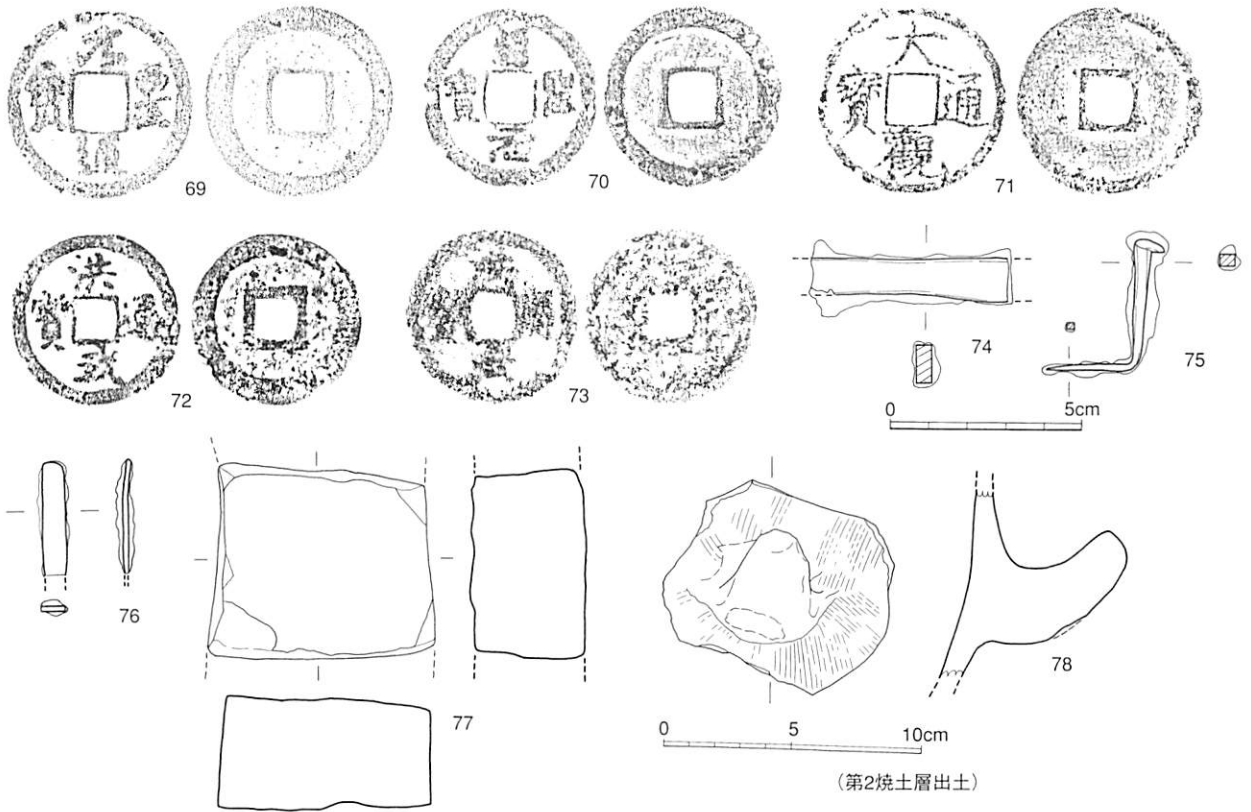
**D層**：15世紀から16世紀第1四半期の包含層。212は下部出土の15世紀の中国龍泉窯青磁碗口縁。213は14世紀後半の備前焼播鉢口縁。214は中世5b期の備前焼播鉢。215は瓦質火鉢脚部。216は河野B-2類の瓦質鍋口縁。217は内面にロクロ痕を残す土師器の小皿。218～220は底部糸切の在り系土師器坏。221は下部出土の底部糸切の在り系土師器小皿。222と223は口縁の低い14世紀形の在り系土師器小皿。224は口縁の高い15世紀の在り系土師器小皿。225は銅製の金具。226は銅製の石突



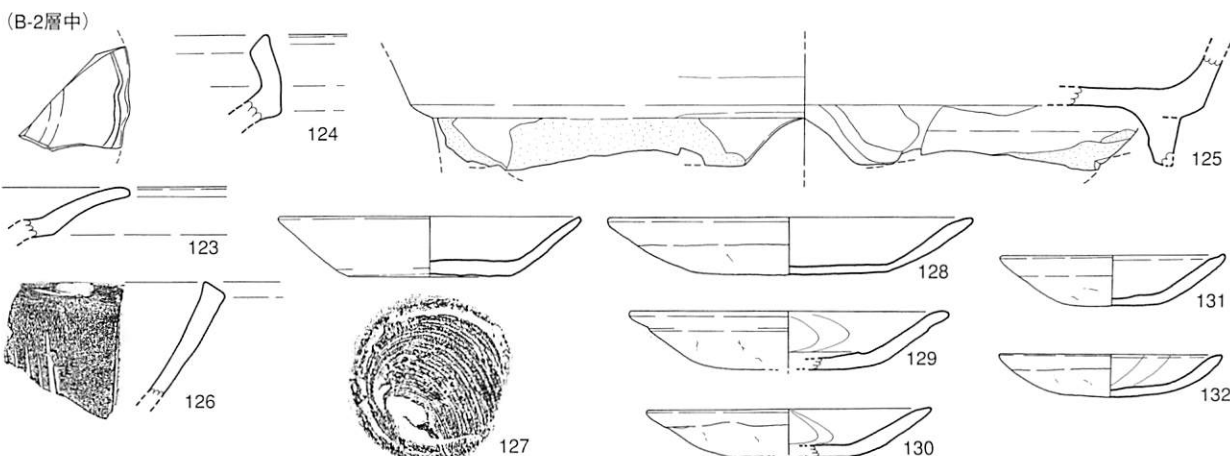
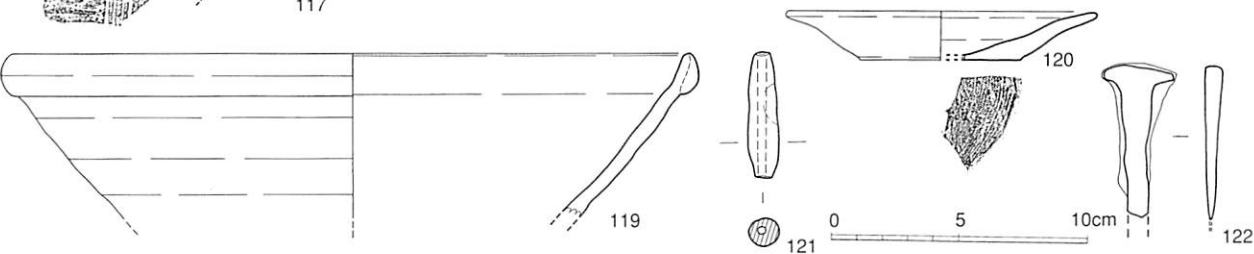
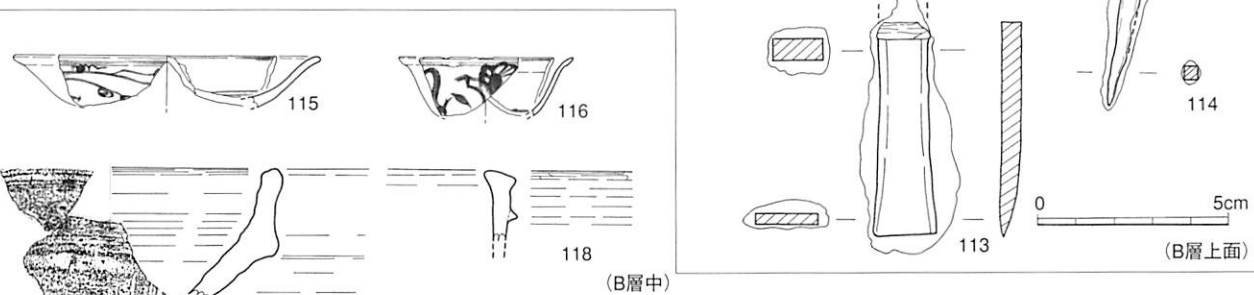
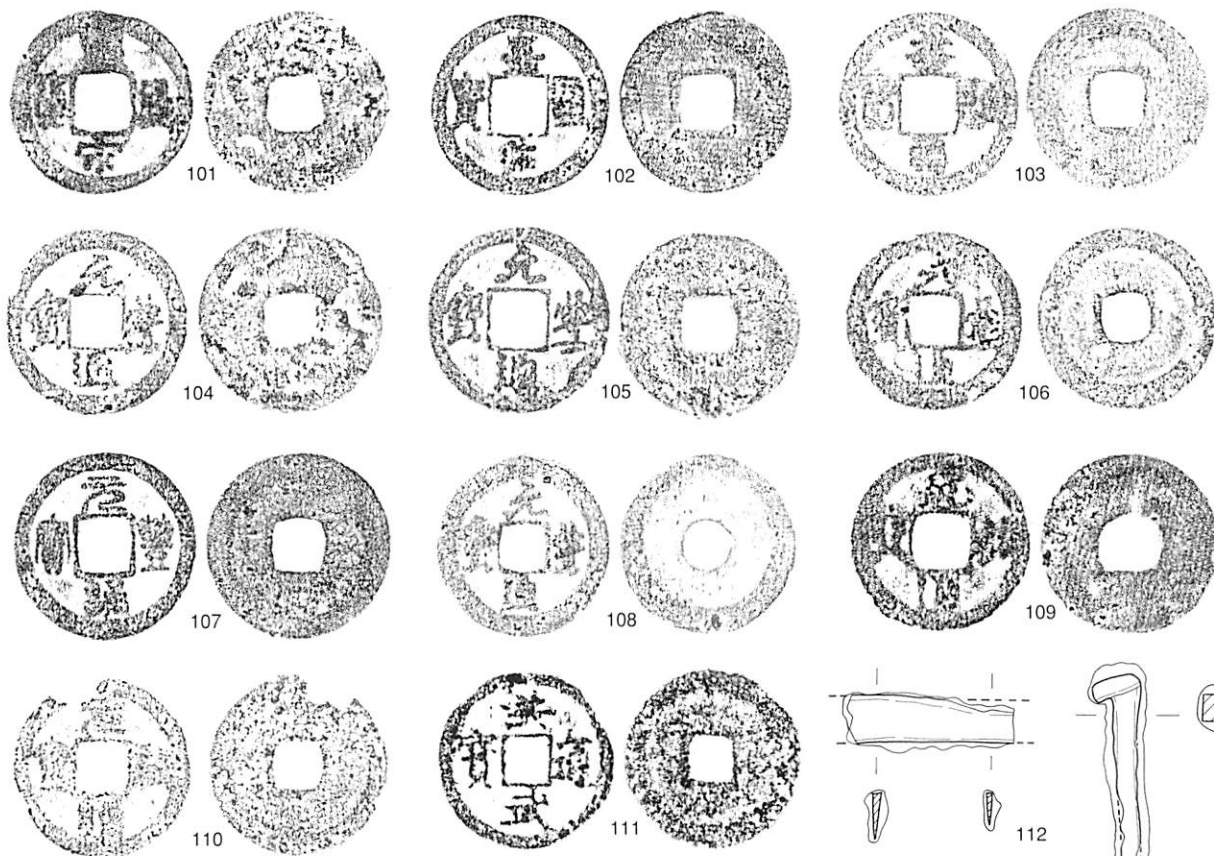
第3-104図① 包含層・整地層出土遺物（第1焼土層、A層）（1~5・7~26・34~36=1/3、6・32・33=1/2、27~31=1/1）



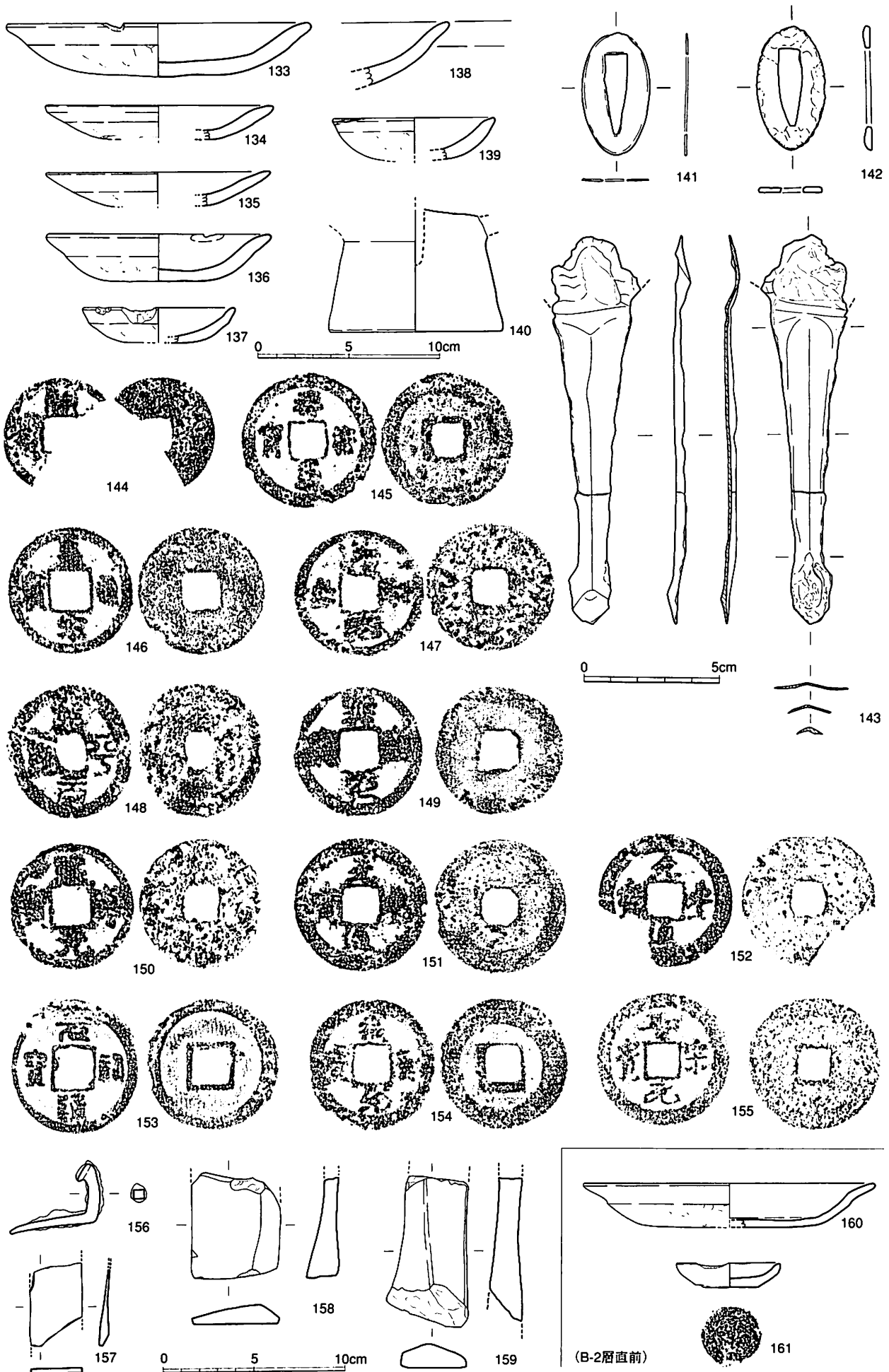
第3-104図② 包含層・整地層出土遺物 (第2焼土層) (37~61=1/3、62=1/2、63~68=1/1)



第3-104図③ 包含層・整地層出土遺物 (第2焼土層、B層上面) (74・75=1/2、69~73・98~100=1/1、それ以外は1/3)

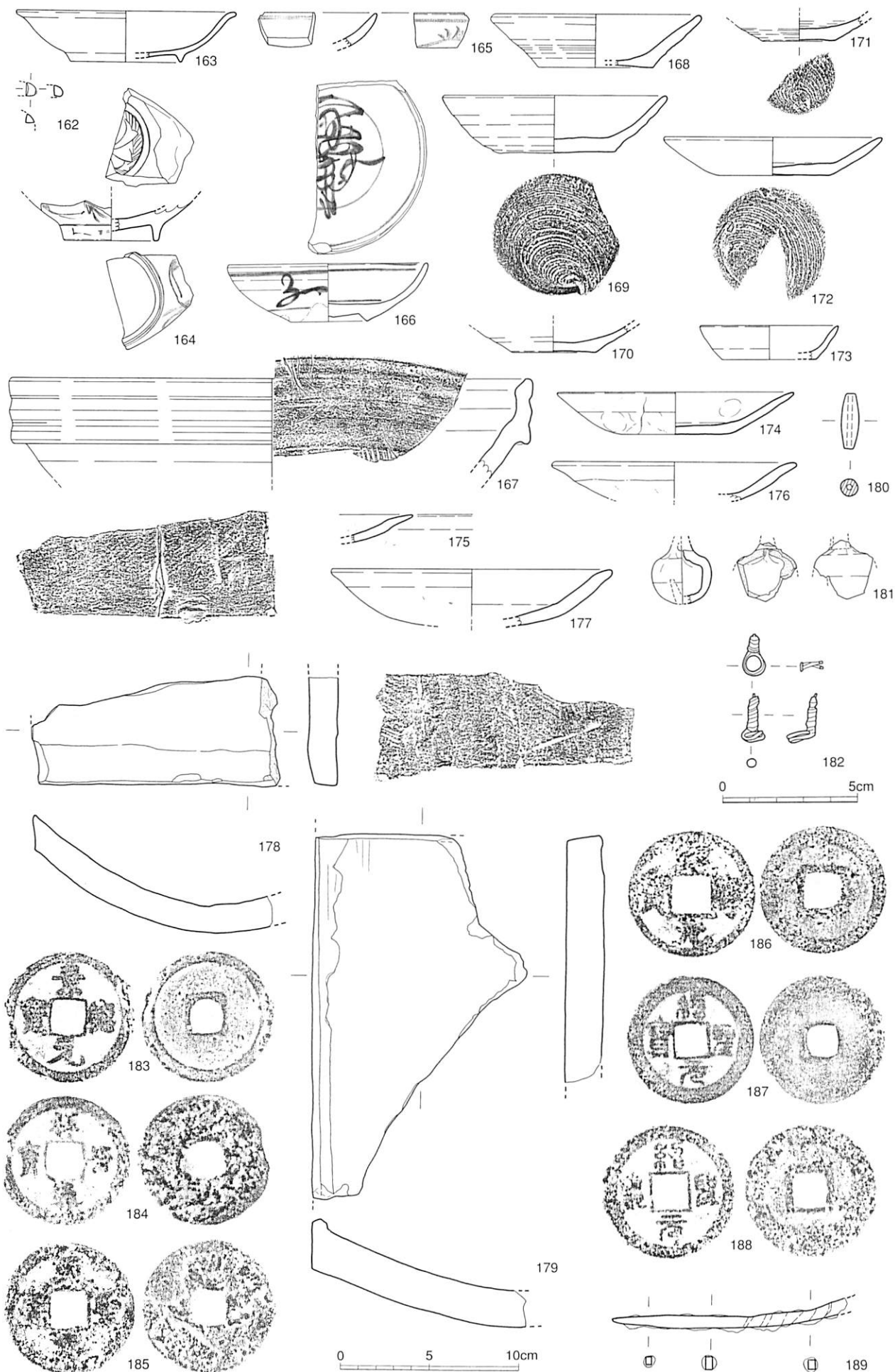


第3-104図④ 包含層・整地層出土遺物 (B面上面、B層、B-2層) (101~111=1/1、112~114=1/2、115~132=1/3)

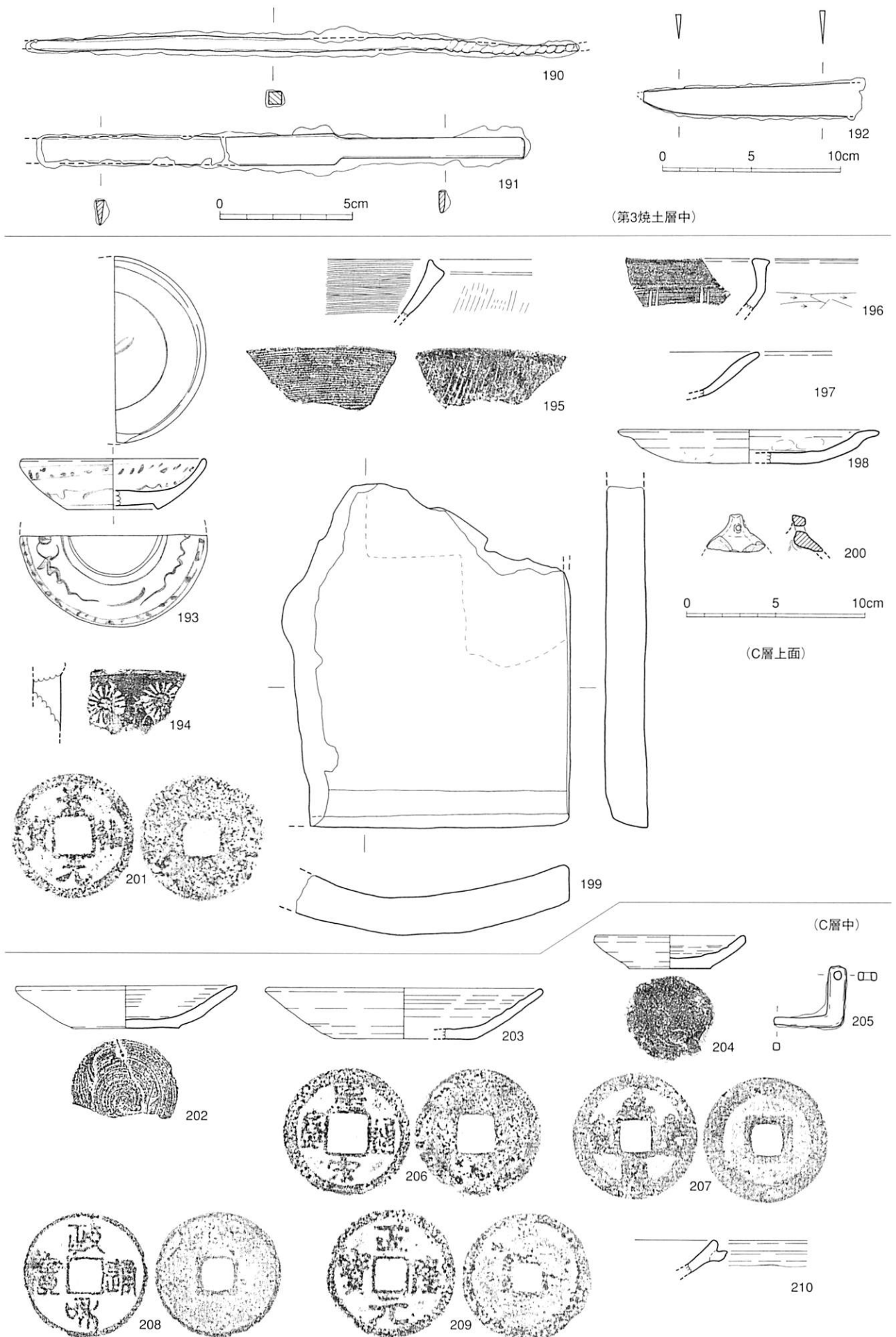


第3-104図⑤ 包含層・整地層出土遺物 (B-2層) (133~140・156~161=1/3、141~143=1/2、144~155=1/1)

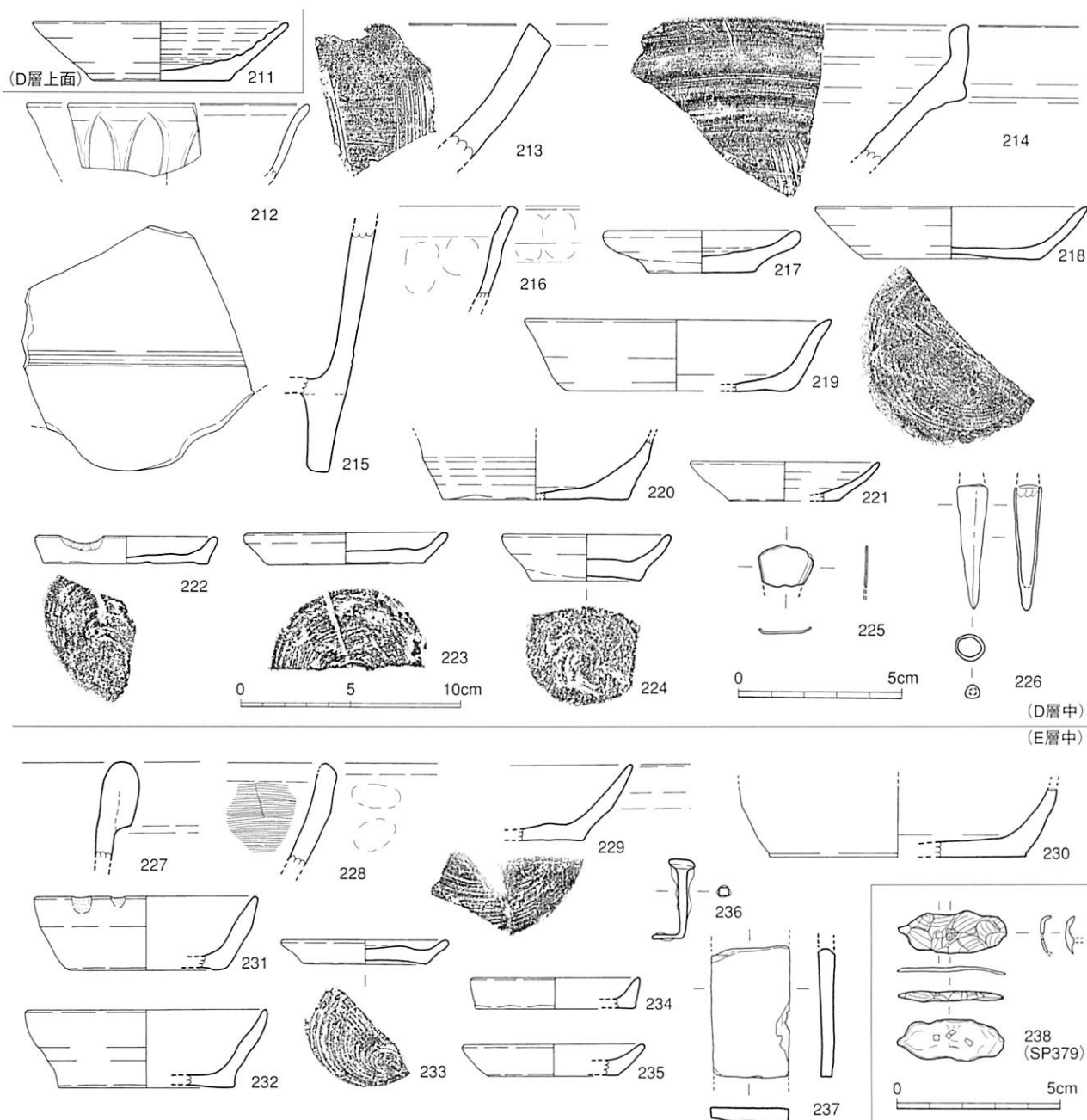




第3-104図⑥ 包含層・整地層出土遺物 (第3焼土層) (162~181・189=1/3、182=1/2、183~188=1/1)



第3-104図⑦ 包含層・整地層出土遺物 (第3焼土層、C面上面、C層)  
 (190・191=1/2、192~200・202~205・210=1/3、201・206~209=1/1)



第3-104図⑧ 包含層・整地層出土遺物 (D層上面、D層、E層、SP379) (211~224・227~237=1/3、225・226・238=1/2)

きか。ほかに底部糸切の在地系土師器坏1点。完形の銅銭2点。F地区西2区の下層トレンチから放射すり目の備前焼播鉢2点を取りあげているが、これらは認識できなかった上からの混入の可能性が高い。

**第5 焼土層**：底部糸切の在地系土師器の破片のみが出土している。15世紀代である。

**E層**：15世紀の包含層。227は中世4ないし5期の備前焼甕口縁。228は瓦質鍋口縁。229と230は底部糸切の在地系土師器坏の大型品。231と232は在地系土師器の坏。233~235は14世紀形の口縁の低い在地系土師器小皿。236は鉄釘。237は仕上げ砥石。ほかに底部糸切の在地系土師器と大内系土師器1点の破片が出土している。

**Ⅲ層**：基盤V層に対応するE地区B層4回目からは、白磁鉢貼り花の破片が出土している。そのほかにSP379から238の銅製の金具が出土している。

第7節 上市町東側の遺構と遺物 (H地区)

I. 遺構と層序の概要 (第3-105図、付図3-4、図版33~35)

H地区の呼称 以下に層序に従ってその概要をのべる。H地区は西よりに撤去された建物のコンクリート基礎によって大きく破壊されていた。その基礎の西側と、その内部、東側の分けて調査した。そのため便宜的に、その3区分をH区西、H区中、H区東とよんだ。以下その区分による位置表示を併用する。

I層：現耕作土

1596年 第1焼土層：1596年の慶長大地震によると推定される火災層。最新の遺物は京都系土師器2期の皿であるが、層序の対応から見て1596年の慶長大地震による火災層である可能性が高い。

A層：1587年の火災後の整地層。A層は1587年の島津氏の豊後侵入による府内炎上後の復興時の整地層であり、その上面から掘られた遺構は1587年から1596年の遺構と考えられる。中国景德鎮窯系青花皿F群や近世1期の斜めすり目の備前焼播鉢がふくまれるが、土師器においては京都系土師器2期の皿が多い。

1587年 第2焼土層：1587年の火災層。中国景德鎮窯系青花碗E群と漳州窯系青花のほかに、京都系土師器2・3期の皿と近世1期の斜めすり目の備前焼播鉢が、この焼土層とそれを除去したB層上面で検出されている。第1南北街路SF70(上市町道路)の第3硬化面上に広がる。第7次調査区の第1焼土層に対応すると考えられる。

B-1層：1587年の火災前の整地された生活面(16世紀第4四半期)。：朝鮮王朝産舟徳利と京都系土師器2期の小皿が最も新しい遺物である。

B-2層：この層の上面でも生活面がある。その年代は第3焼土層の年代第3四半期からB-1層の整地までの1587年の直前。京都系土師器2期の皿がふくまれ、近世1期の備前焼播鉢と京都系土師器3期の皿、景德鎮青花E群と漳州窯青花は含まれない。第3焼土層堆積後の最初の整地層(16世紀第3四半期)と考えられる。なお第3焼土層に対応するが、焼土層でない層をB-3層とした。

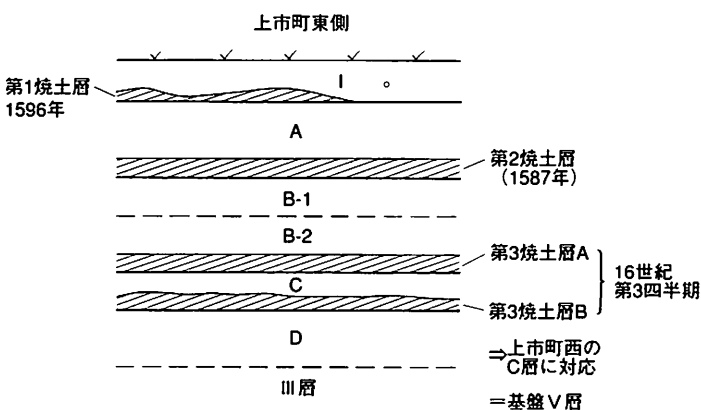
火災層 第3焼土層A：16世紀第3四半期の火災層。道路SF70の第6硬化面上からH地区のB層トレンチのC層上面の全域に広がる焼土層で、薄い間層をはさんで2枚に分かれる。京都系土師器1期の皿が多く、2期の皿も入るが3期の皿は例外である。中国漳州窯系青花は景德鎮窯系青花C群蓮子碗の模倣品である。朝鮮王朝産舟徳利もふくまれ1550~1575年の16世紀第3四半期にあたる。

C層：内面にロクロ目を残す土師器、京都系土師器1期の皿を含む。

第3焼土層B：内面にロクロ目を残す土師器、京都系土師器1期または2期の皿が含まれるので、第3四半期にあたる可能性がある。D層上面に広がる火災層で、道路SF70の第11硬化面上から東側のH地区特にM46区では明瞭にひろがる。

上市町西側の第4焼土層とは異なる時期の焼土層である可能性が高い。

D層：16世紀第1四半期の整地層。この層の上面で生活面が形成されている。掘り下げたのは下層トレンチのみであるが、そこでは糸切りの在り系土師器・内面にロクロ目を残す土師器のみが出土し、土師器には京都系土師器を含まないので1500~25年の第1四半期と考えられる。



第3-105図 上市町東側層序模式図

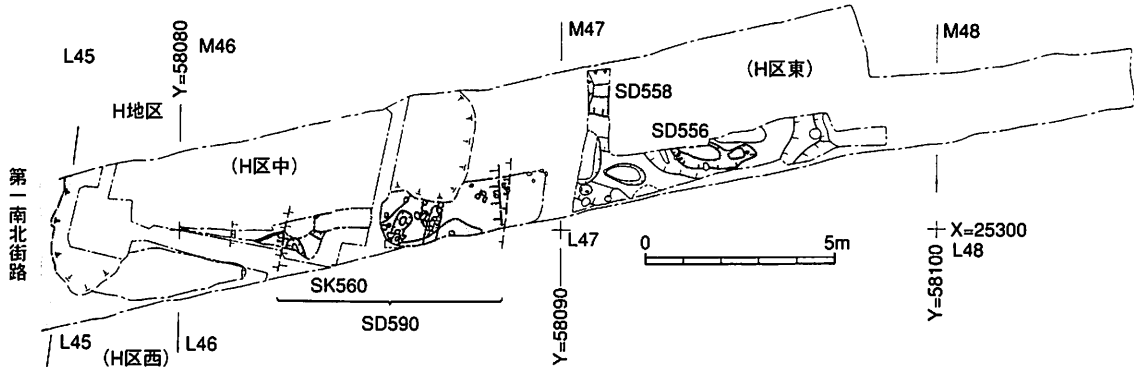
II. 16世紀第1四半期の遺構と遺物

概要 (第3-106図) (第3-107図)

道の埋没と道路の建設

南北方向の大溝 SD590が16世紀初頭に埋没すると、上市町の道路 SF70が建設され始める。その道路の建設に伴って両側に区画が形成される。ただし道路の方向と直交する溝SD556とSD558があり、15世紀代と同じく溝で区画された状態である。ほかには土坑が発見されたのみである。

溝 SD590がまだ存在していた段階までは、道路 SF70の東側には何の遺構も存在せず、SD590が埋没後東西方向の溝 SD558と SD556が掘られている。



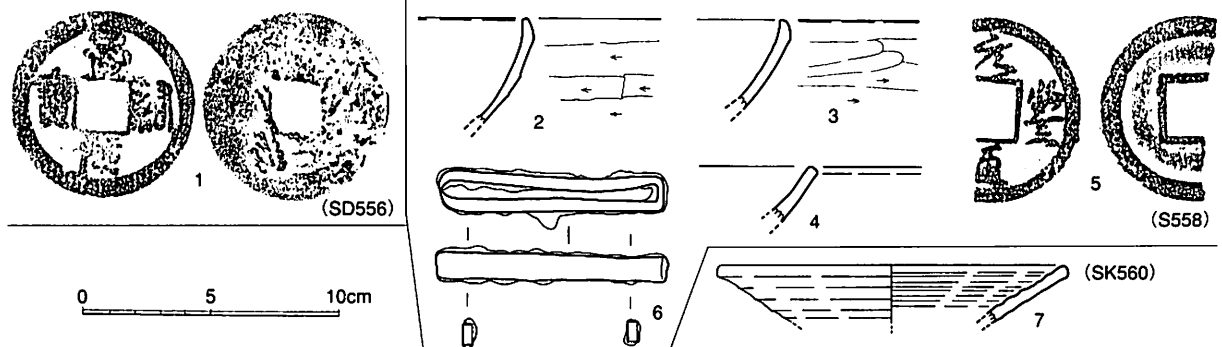
第3-106図 16世紀第1四半期の遺構 (1/200)

**SD556 (H区東)** M47区の東1区トレンチ内でB-3層除去後のC層上で検出した不整な短い溝である。内部はB-3層土が充満し、B層による整地の際に埋め戻されたと考えられる。長さ2.3m以上、幅0.8m。1は完形の中国銭で景祐通寶(北宋1034年初鑄)。ほかには中国龍泉窯系青磁皿、備前焼甕、瓦質播鉢・鍋、内面にロクロ目を残す土師器、糸切りの在地系土師器の小片が含まれるが、京都系土師器はない。

東西溝

**SD558 (H区東)** M47区の東1区トレンチB-3層除去後に検出した落ち込みで、東西方向に伸びる大きな溝の可能性があり。深さは1m以上確認したが底には達していない。2と3は瓦質土師器の碗で、外面にヘラ削りがある。4は糸切りの在地系土師器口縁、5は半分に折れた中国銭の元豊通寶(北宋1078年初鑄)、6は鉄製の毛抜きの完形品。ほかには中国景德鎮窯系青花碗C群、瓦質火鉢、土師質土鍋、平瓦、鉄片と内面にロクロ目を残す土師器・糸切りの在地系土師器のみで京都系土師器はない。

**SK560 (H区中)** ML46区(東2区)の第3焼土層除去後のC層上面で検出した土坑である。大溝SD590の埋没後に掘られ、第3四半期の土坑SK526に切られている。長さ1.9m以上、幅0.9m以上。7は内面にロクロ目を残す土師器口縁で、H地区D層出土の破片と接合した。ほかには端反りの白磁皿E2類、外面が深いカキメを施す瓦質火鉢と内面にロクロ目を残す土師器の破片のみ出土し、京都系土師器はない。



第3-107図 SD556、S558、SK560出土遺物 (1・5=1/1、2~4・6・7=1/3)

### 小結

直前まで上市町の道路の東側に平行して大溝 SD590があり、武家屋敷のような広大な区画が存在したと考えられる。町屋ではなくその内部と想定される溝の東側には明確な遺構を伴わない。

大溝の埋没

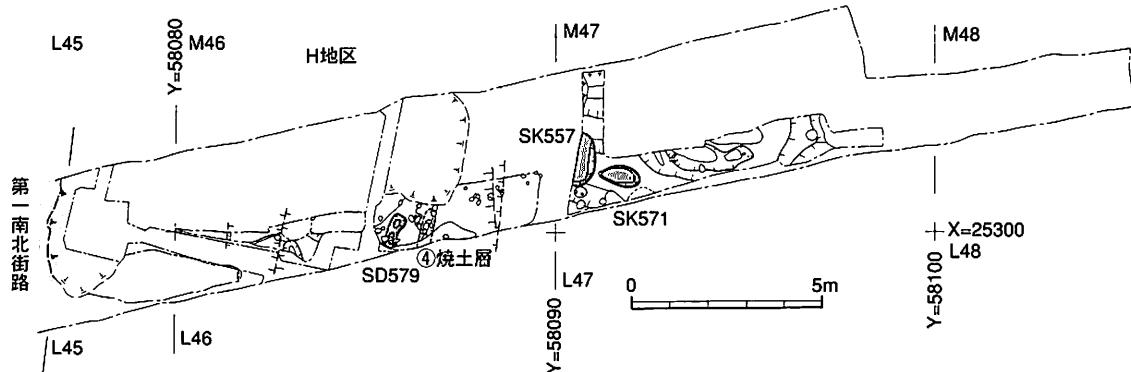
16世紀第1四半期に、その溝が埋没した後は、今度は東西方向の溝が掘られており、区画の変更があったことが確かめられるが、遺構が少ないという内部の状況にかわりはない。

### Ⅲ. 16世紀第2四半期の遺構と遺物

概要（第3-108図、付図3-4参照）

D層上面

16世紀第2四半期とした遺構はD層上面で検出したもので、埋土中に京都系土師器1期の皿を伴い、それより新しい遺物は伴わないものである。この時期には第4焼土層が広がっている。



第3-108図 16世紀第2四半期の遺構（1/200）

**SK557**（H区東）（図版44） M47区の下層トレンチのB-3層除去後に検出した長円形の土坑で、C層あるいはD層上面から掘り込まれている。長さ1.4m以上、幅0.5m以上。埋土はB-3層土と基盤Ⅲ層土の混層である。人為的に埋められたものである。出土遺物は内面にロクロ目を残す土師器・京都系土師器1期の皿の破片のみである。

**SK571**（H区東） M47区の下層トレンチのB-3層除去後に検出した長円形の土坑で、C層あるいはD層上面から掘り込まれている。長さ1.1m、幅0.6m。埋土は5mm大の炭焼土を多く含む暗褐色土=B-3層土と5cm大の黄色土ブロック=基盤Ⅲ層土の混層である。人為的に埋められたものである。出土遺物は土師器の碎片のみである。B-3層が上に重なる状況と埋土が同一で人為的に埋められているので、隣接するSK557とSK571は同じ性格の土坑である。

小溝

**SD579**（H区東） ML46区のD層上面で検出した南北方向の小溝だが、一部第4焼土層上から切っている。出土遺物は底部糸切りの在来系土師器・内面にロクロ目を残す土師器のみで京都系土師器はない。

### 小結

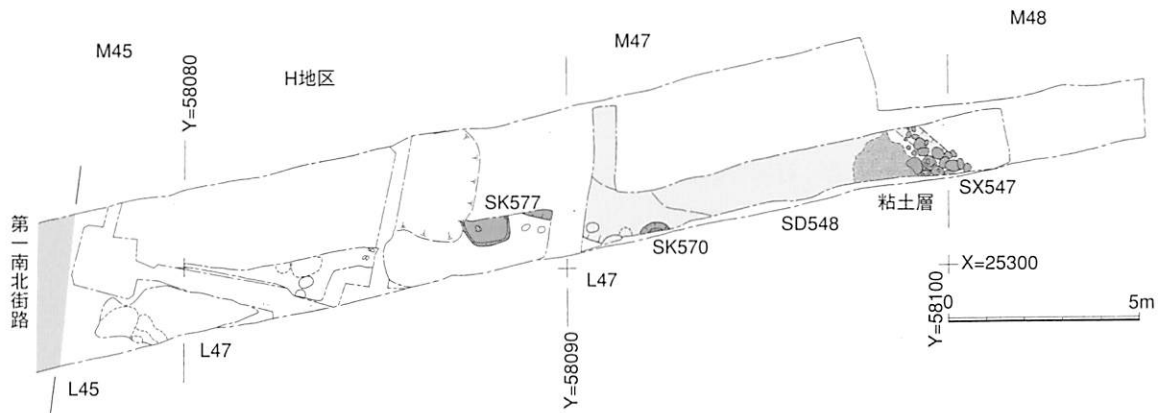
第4焼土層下の遺構は大変少なく、このあたりは前代に引き続き、町屋ではない。別の性格の敷地として利用された可能性が高い。

### Ⅳ. 16世紀第3四半期の遺構と遺物

概要

3焼土の前と後

第3四半期の遺構は、第3焼土層以前のC層上面において掘られた遺構群と、第3焼土層堆積後にその上から掘られた遺構群に分けることができる。また以下の記述の中で16世紀後半とした遺構はB層掘下げ時に検出されたもので、B層中で終わるか、第3焼土層を抜きC層上面の固い整



第3-109図 16世紀第3四半期（第3焼土層以前）の遺構（1/200）

地層に達して止まっている。少なくとも第3焼土層を形成した火災後の復興整地（B層積土）時、すなわち16世紀第3四半期に作られたか、あるいは第2焼土層堆積時には埋没しているので遅くとも1587年までの遺構である。後者と考えられる遺構は16世紀後半と付記した。

①第3焼土層以前の第3四半期（第3-109図）

C層上面

第3焼土層除去後のC層上面で発見されて遺構である。まず中央に東西方向の幅は広いが比較的浅い溝SD548が掘られている。この溝の東斜面には石垣SX547が葺かれている。この溝の範囲が後の東1区画にはほぼ対応する。しかしこの溝はすぐに埋め戻されたようで、第3焼土層形成の火災の際は完全に埋没し、この溝を破壊して土坑が掘られている。

遺構

石積み

**SX547 (H地区)** (第3-110図、図版43・44) M47区(東1区画)のSD548の北斜面に設けられた石積みで、東0区画と東1区画の境界となっている。改修時にSK531に切られる。石積みは下部と上部に別れ、下部の石積みは平坦面に人頭大の円礫による敷石を施した後、斜め上方に立ち上げている。石積みはB-1層上に乗る形で設けられており1587年以前に改修されている。上部石積みは砂混じりの粘土で下部の石積みを被覆した後、やや小さな円礫を積み上げたもので、斜面のみに施されている。B層上面に対応する。

**SX547出土遺物** 1と2は上部石積みの下から出土したもので、1は中国景德镇窯系青花碗C

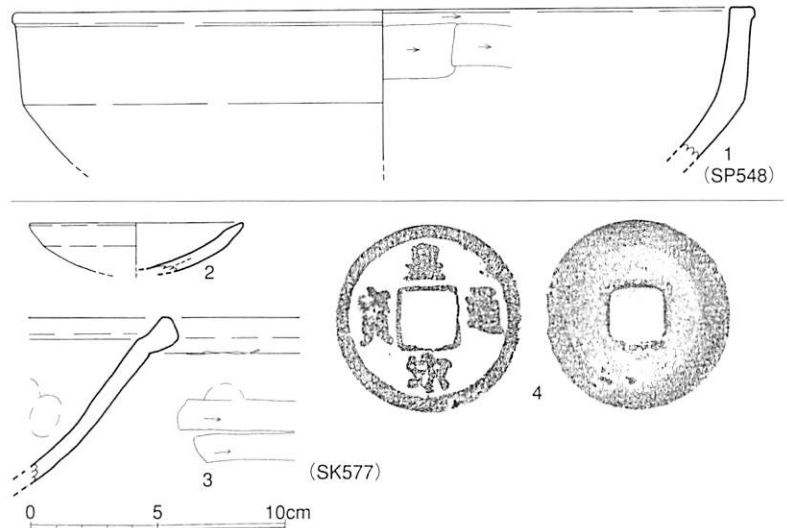


第3-110図 SX547、SK531 (遺構1/40、遺物1/3)

群、2は瓦質土鍋で河野 B-2類の口縁。3は下部石積みの下から出土した京都系土師器 2期の皿。ほかに上部石積みの裏込めからは中世陶器の甕胴部、土師質土鍋の底、鉄釘。下部石積みの裏込めからは底部糸切りの在り系土師器、内面にロクロ目を残す土師器の破片が出土している。

そのほかの遺構 (第3-111図)

SD548 (H区東) ML47区  
の落ち込みで、後の東1区画  
に対応する位置に掘りこまれ  
た東西方向の溝で、幅は5m  
を超える。内部にはB-3層が  
堆積し、途中に第3焼土層が  
堆積している。1は瓦質火鉢  
口縁。SX547は溝 SX548の東  
斜面にしかれた石敷きである。  
人頭大の円礫を配置して  
いる。



第3-111図 SD548、SK577出土遺物 (1~3=1/3、4=1/1)

SK570 (H区東) ML47

区下層トレンチの第3焼土層除去後にC層上面で検出した円形の土坑で、南半分は壁にかかっている。長さ0.8m以上、幅0.3m以上。SD548を切っている。京都系土師器 2期の皿、糸切りの在り系土師器の小片が出土した。

SK577 (H区東) L46区の第3焼土除去後のC層上面で検出した円形の土坑である。長さ1.3m、幅0.7m以上。2は京都系土師器 2期の小皿。3は瓦質鍋の口縁部で外面にヘラケズリが入る河野 B-2類。4は完形の中国銭の皇宋通寶 (北宋1038年初鑄)。ほかに中国漳州窯系青花の小片、備前焼の甕、搬入の薄手白色の京都系土師器、糸切りの在り系土師器の小片出土。土師質火鉢の小片は第3焼土層出土破片と接合。

### 小結

第3焼土層以前のこの時期にはまだ短冊型地割の町屋の区画は形成されていないが、後の区画は溝 SD548をうめたその場所が原型となっており、以前から方向を同じくする境界が存在していたと考えられる。地山の高さは北側に行くほど高いので、SD548を含む北側にはかなり大きな区画の存在が予想される。

### ②第3焼土層

道路 SF70の第6硬化面上からH地区のB層トレンチのC層上面の全域に広がる焼土層で、薄い間層 (C層) をはさんで2枚に分かれる。この焼土層の広がりの高さを追うと、東0区画、東1区画、東2区画に対応する段差を見出すことはできない。したがって第3焼土層が堆積する火災以前には、その後の地割につながる短冊型地割はまだ施工されていなかったといえる。

### ③第3焼土層～1575年 (第3-112図)

H地区のB-2層上面で検出され、遺物の内容から16世紀第3四半期と推定される遺構である。土層観察からこの第3焼土層後の整地造成の際に、道路SF70に面し東に伸びる短冊型の地割が形成され、第16次調査区内では東0区画、東1区画、東2区画の3つの区画が南にいくほど低くなる段

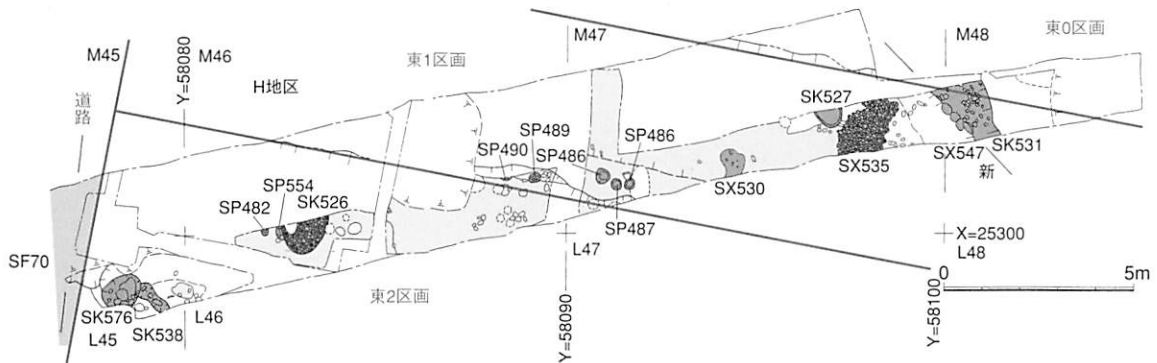
東西溝

大区画

短冊型地割



差をもって区画されている。以下は区画ごとに記述する。



第3-112図 上市町東側 (H地区) の16世紀第3四半期 (第3焼土層以後) の遺構 (1/200)

**東0区画**

遺構面が高くすでにほとんどが削平されている上、調査面積がごく狭いので、この時期の遺構はない。

**東1区画**

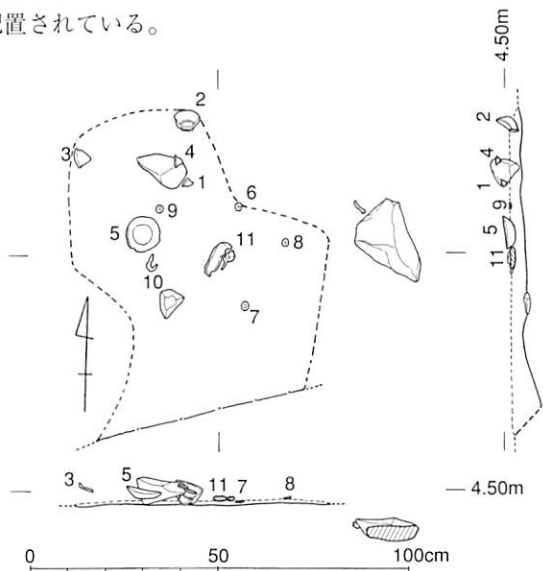
東0区画との境界には段差があり、東1区画側が一段低い。幅は5m弱で、長さは21m以上を検出した。敷地の東側には祭祀遺構とSD548が埋まりきらないまま残ったくぼみが広がり、内部には礫が廃棄される一方、SX547の石垣が再配置されている。

**祭祀遺構**

**SX530 (H区東) (第3-113図、図版43)**

M47区 (東1区) トレンチのB-2層中の間層で検出した炭混じりの砂層のブロックで、長さ幅ともに1m前後の範囲である。第3焼土層より上の整地層中にあり、中央に土師器の完形の小皿が正位に置かれ、その周囲に青花碗、白磁、つり針、鎌、複数の銭貨などが出土した。鉄鎌 (11) を取り巻くように銭貨と土師器皿が置かれているようにもみえる。

第3焼土層後の整地による東1区画造成を行う際の地鎮等の祭祀と考えられる。



第3-113図 SX530 (1/20)

区画造成の地鎮

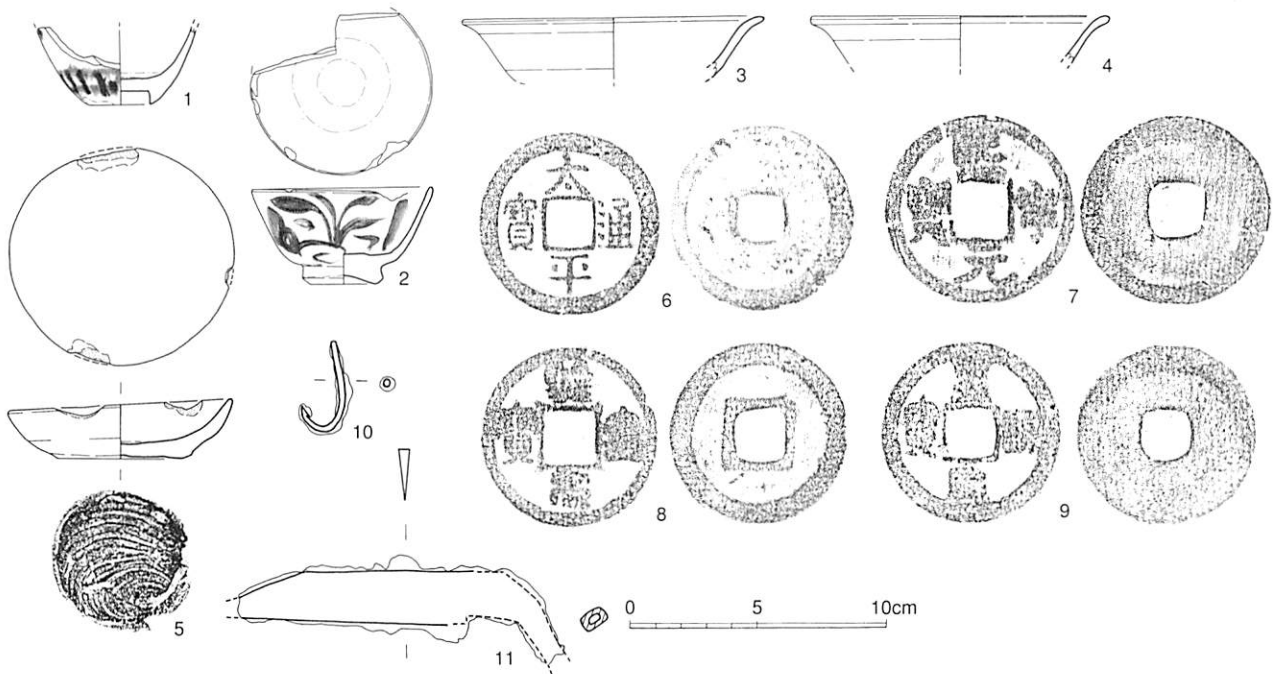
**SX530出土遺物 (第3-114図遺物)**

1は中国景德鎮窯系青花の小坏底部。2は中国漳州窯系青花小坏でH区東B-3層出土破片と接合し、故意に口縁を打ち欠いて破碎している。3と4は白磁碗E2類の口縁。5は内外に煤が付着し被熱した底部糸切りの在地系土師器の坏の完形品である。正位で置かれ、口縁に3箇所の打ち欠きがある。6~9の銅銭5枚はいずれも完形品で、別に1枚は破損している。6は太平通寶 (北宋976年初鑄)。7と8は熙寧元寶 (北宋1068年初鑄)、9は皇宋通寶 (北宋1078年初鑄)。10と11は鉄製品で、10は釣針、11は鎌。ほかに釘2点出土している。第3焼土層形成後の整地すなわち東側区画の造成を示す良好な一括資料である。

**SX535 (H区東) (第3-115図、図版43)**

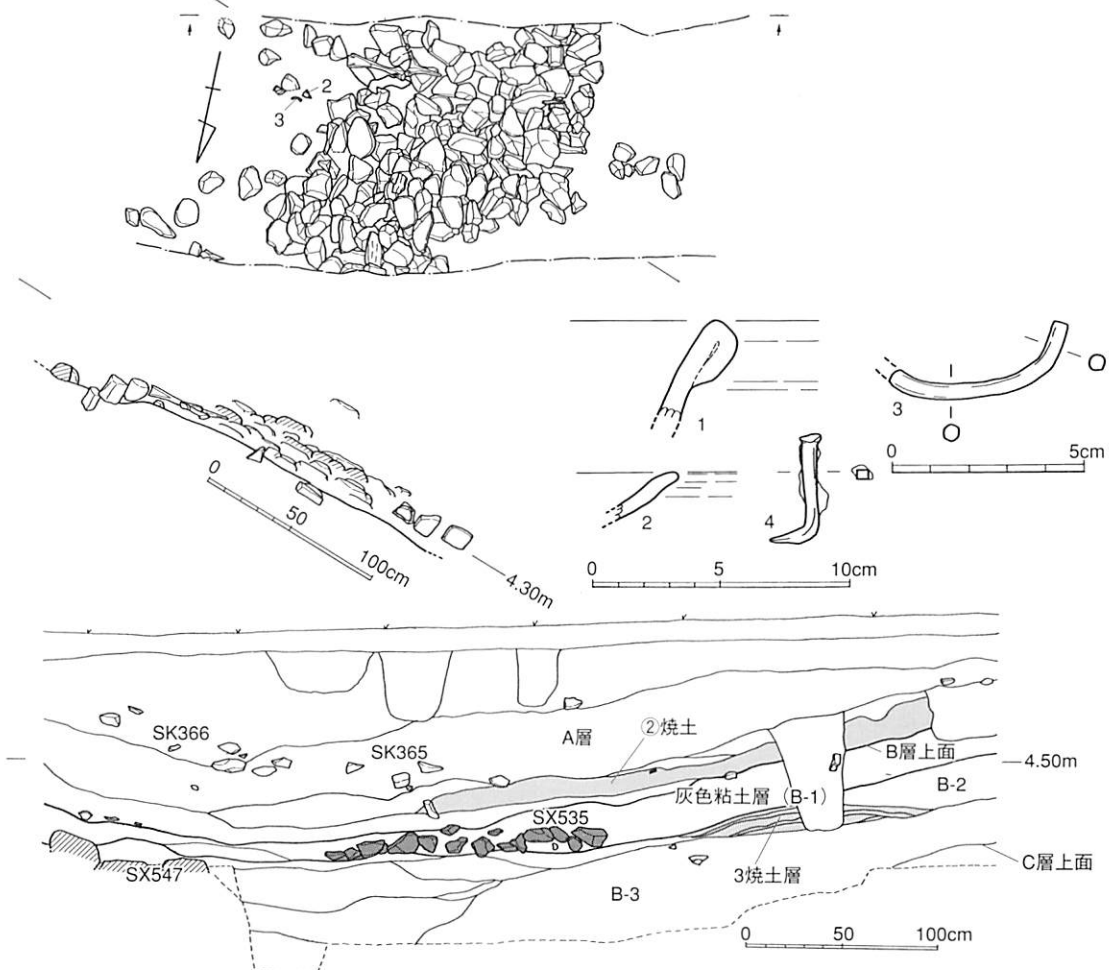
M47区 (東1区) のB層埋没途中の集石遺構である。長さ2.1m、幅1.2mの範囲に置かれる。窪みにたまつたような堆積で、あるいは造成土のブロックかもしれない。白色粘質のB-1層の造成土で埋没している。礫の間からは動物骨が多く出土した。京都系土師器2期の皿が最新の遺物である。

集石遺構



第3-114図 SX530出土遺物 (1~5・10=1/3、6~9=1/1)

**SX535出土遺物** 1は備前焼甕の口縁部で中世6期。2は京都系土師器2期の皿口縁部。3は大きい針金状の屈曲した銅の金具。4は先端が90度曲がった鉄釘の完形品。ほかに白磁皿E2群、えぐりのある新しい形式の瓦質火鉢底部、土師質鍋、京都系土師器1期の皿、糸切りの在地系土師器、内面にロクロ目を残す土師器、鉄釘の破片が出土している。

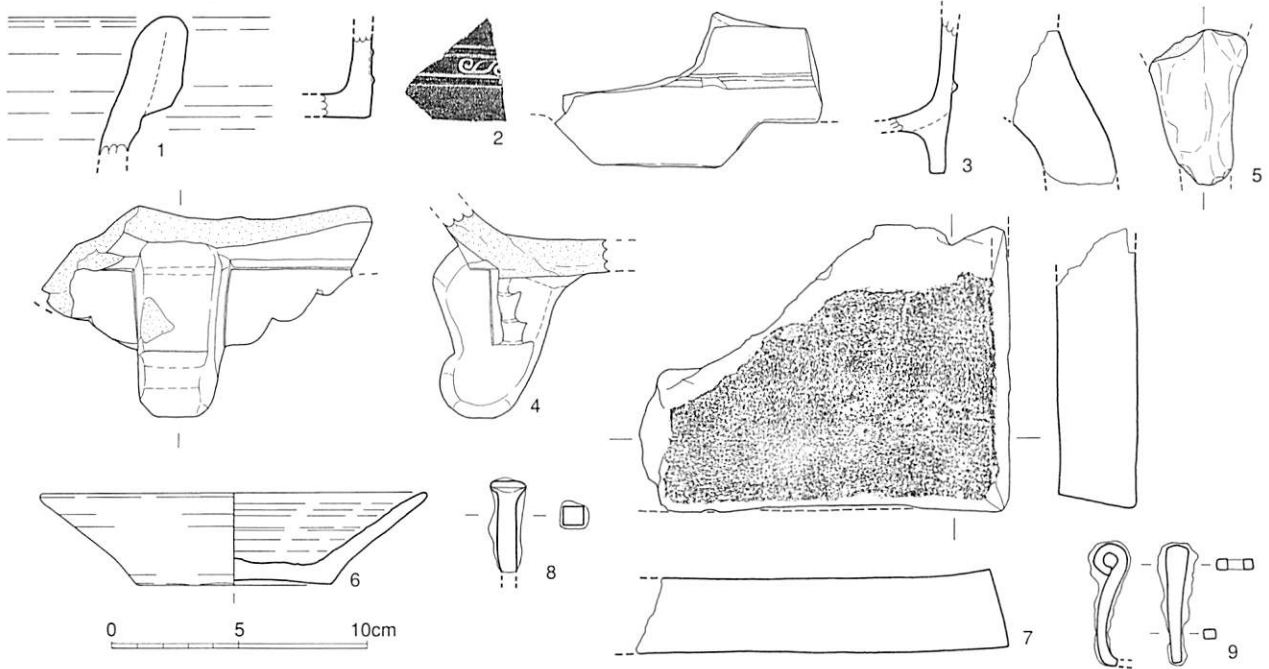


第3-115図 SX535 (遺構1/40、遺物1~2・4=1/3、3=1/2)

土坑

**SK531** (H区東) (第3-110図参照) M47区(東1区画)のB~C層上で検出しSD548の北側に設けられた石垣SX547背後の土坑である。SX547改修時の裏込めのための土坑といえる。背後の掘形はSK525に切られている。出土遺物から時期を判断した。

**SK531出土遺物** (第3-116図) 1は備前甕口縁で中世6期にあたる。2は瓦質火鉢底部で、外面に双頭蕨手流雲文の刻印がある。3と4は瓦質火鉢の底部で、3は脚部の作りは抉りを入れる新しい形式である、4は獣脚である。5は防長系の足鍋の脚部で搬入品である。6は内面にロクロ目を残す土師器の皿であるが、胎土に大量の金雲母を含む。7は塼の破片である。8は大型の鉄釘の頭。9は鉄製の楔か。ほかに備前焼の甕、京都系土師器2期と3期の皿、鉄釘、土壁の破片がある。



第3-116図 SK531出土遺物 (1/3)

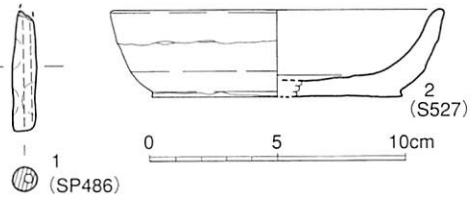
そのほかの遺構 (第3-117図)

**SP486** (H区東) ML47区(東1区)のB-1層除去時に検出した掘形円形の柱穴で、B-1層が覆う。1は管状土錘A類完形の超小型に分類できる。

**SP487** (H区東) ML47区(東1区)のB-1層除去時に検出した掘形円形の柱穴で、B-1層が覆う。

**SP488** (H区東) ML47区(東1区)のB-1層除去時に検出した柱穴で、B-1層が覆う。

**S527** (H区東) ML47区(東1区)トレンチのB-1層中で検出した掘り込み。長さ0.7m、幅0.6m以上。埋土は暗灰黒色土である。2は15世紀の底部糸切の在り系土師器の坏。ほかに内面にロクロ目を残す土師器・瓦質鉢・丸瓦の破片が出土している。



第3-117図 SP486、S527出土遺物 (1/3)

東2区画

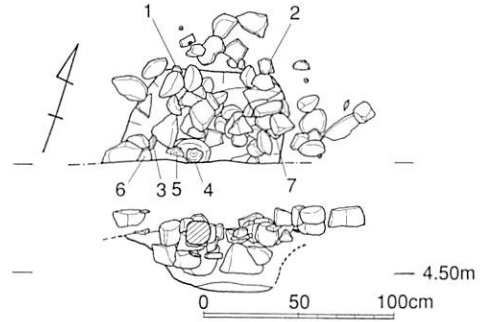
土坑や柱穴が散在するが、調査面積が少ないので、宅地として利用されているという以上のことは言えない。

土坑

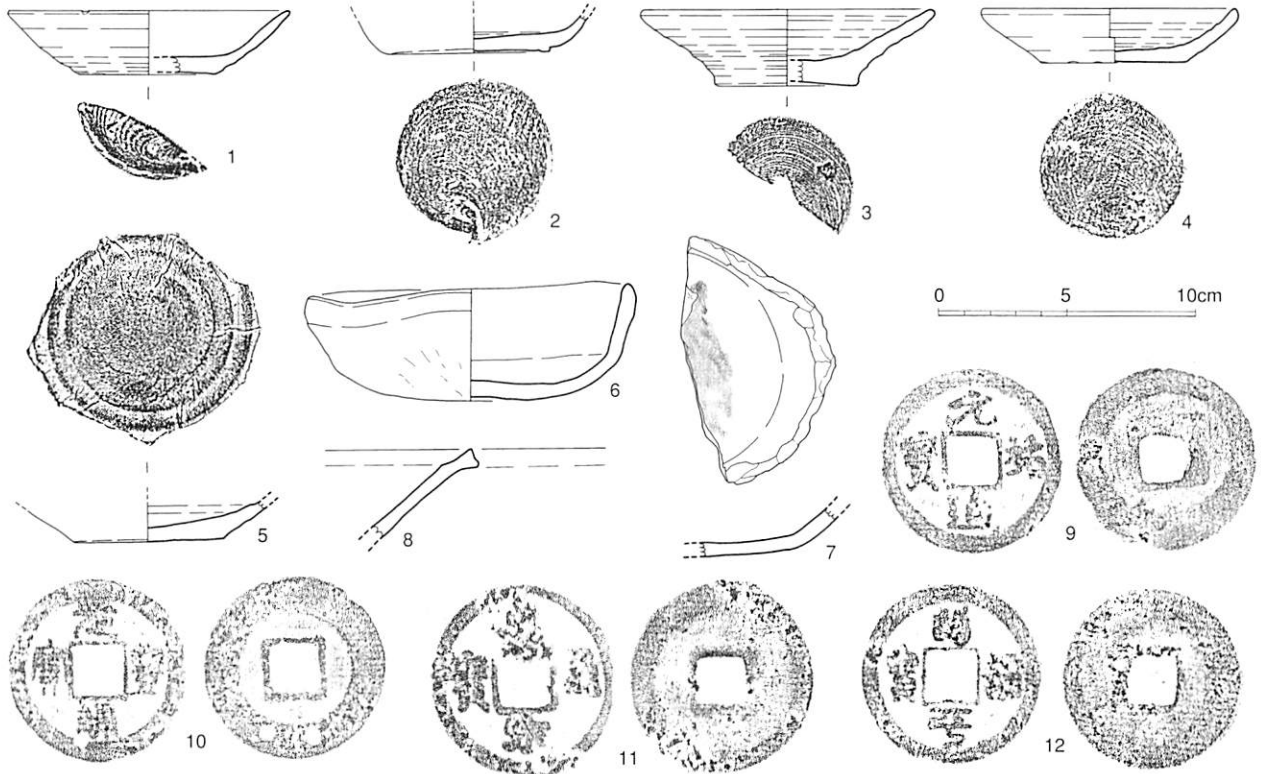
集石土坑

SK526 (H 地区) (第3-118図、図版43) M46区 (東2区画) の第3焼土層上面で検出した集石土坑でSP559を切る。長さ1.2m、幅1.2m以上、深さ40cmの範囲である。円礫が充満し上面はB2砂層が覆っている。遺物は礫に混じる形で多量に出土した。京都系土師器3期の皿が一定量出土した。

SK526出土遺物 (第3-119図) 1は糸切りの在地系土師器坏。2は口縁の全周を打ち欠いた糸切りの在地系土師器底部片。3~5は内面にロクロ目を残す土師器皿 (5は口縁全周を打ち欠く)。6は京都系土師器3期の皿。7は煤の付着した京都系土師器の皿。8は瓦質鍋で外面がナデ調整に退化した河野B-3類。9~12は完形の中国銅銭で、9は元祐通寶 (北宋1086年初鑄)、10は元豊通寶 (北宋1078年初鑄)、11は皇宋通寶 (北宋1038年初鑄)、12は治平通寶 (北宋1064年初鑄)。ほかに大型石英粒を多量に含む海部産の平瓦、火鉢底部の破片が出土している。



第3-118図 SK526 (1/40)



第3-119図 SK526出土遺物 (1~8=1/3、9~12=1/1)

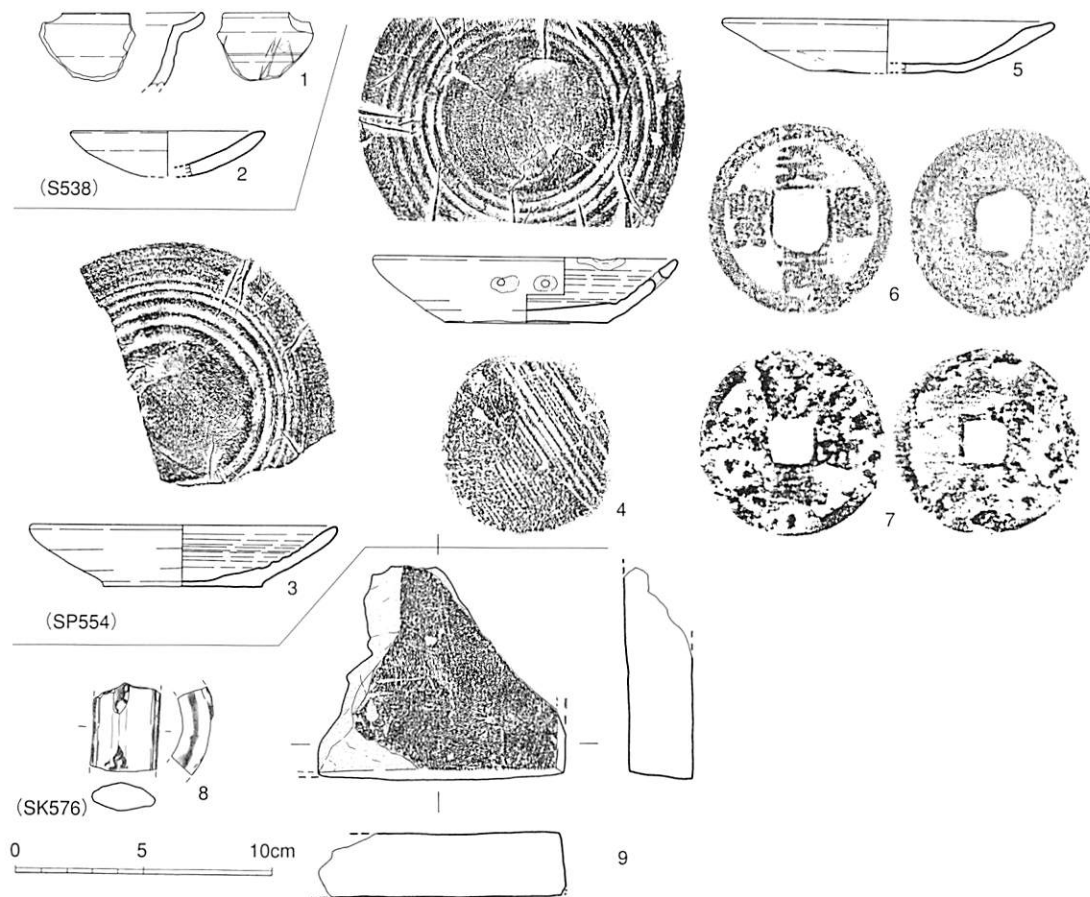
そのほかの遺構 (第3-120図)

SP482 (H 区中) ML46区 (東2区) のB-1層 (砂層2回目後) 除去時に検出した円形の柱穴で、B-1層が覆う。

SP489 (H 区東) ML46区 (東2区) のB-1層除去時に検出した円形の柱穴で、B-1層が覆う。底部に礫が混じる。

SP490 (H 区東) ML46区 (東2区) のB-1層除去時に検出した円形の柱穴で、B-1層が覆う。

S538 (H 区西) M45区 (東2区) の第3焼土層上面で検出した不整な掘り込みである。内部から1の中国龍泉窯系青磁の盤口縁部、2は内面に煤の付着した京都系土師器2期の小皿のほかに糸切りの在地系土師器、内面にロクロ目を残す土師器、鉄釘の破片が出土している。



第3-120図 S538、SP554、SK576出土遺物 (1~5・8・9=1/3、6・7=1/1)

**SP554 (H区中)** ML46区の第3焼土層除去後のC層上面で検出した円形の柱穴で、SK526を切る。3と4は内面にロクロ目を残す土師器皿(4は口縁部を打ち欠いている)。5は内面に煤の付着した京都系土師器1期の皿。6と7は完形の中国銅銭で、6は天聖元寶(北宋1023年初鑄)、7は永樂通寶(明1408年初鑄)。ほかに平瓦片が出土している。

**SK576 (H区西)** 16世紀後半 M45区(東2区)の第3焼土層上面で検出した不整な土坑である。長さ1.1m、幅0.9m。8は中国景德鎮窯系青花の壺の把手。9は磚の破片である。ほかに中国龍泉窯青磁、備前焼の甕、糸切りの在り系土師器の小片が出土している。

## V. 16世紀第4四半期から17世紀初頭の遺構と遺物

### 概要(図版34)

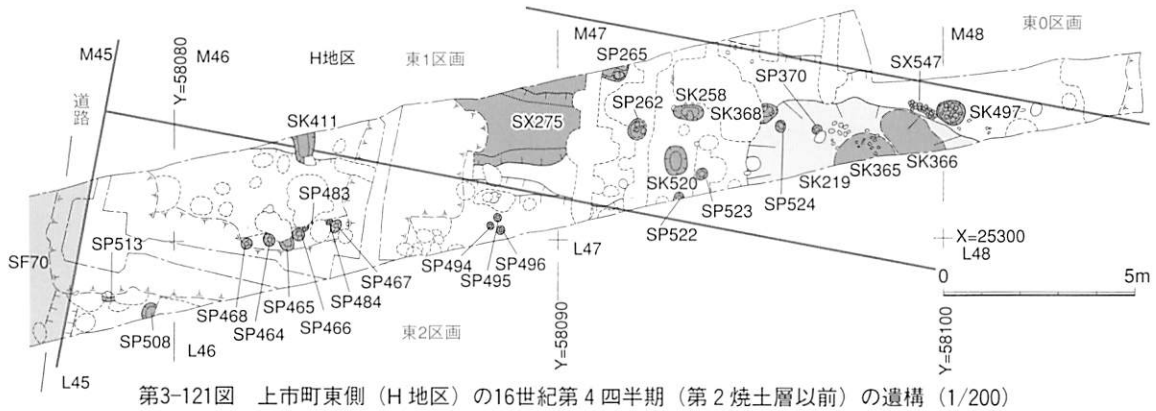
3小期に区分 東0区画と東1区画では、第2焼土層以上とB層整地層の上面がすでに後世の削平をうけているので、そのB層上面で検出された遺構は層序的には、1587年以前、1587年以後、1596年以後のⅢ時期の可能性をのこしている。以下3時期に分けて記述する。

#### ①第2焼土層以前の第4四半期(第3-121図)

B層上面 B層上面で検出された遺構である。上市町の道路より東側全体が整地層による遺構であり、東0区画、東1区画、東2区画の3つの区画が南にいくほど低くなる段差をもって区画されている。整地は区画毎に別個になされたのではなく、調査区内の3つの区画は同時に一括して造成されたものと考えられる。以下は区画ごとに記述する。

#### 東0区画(第3-122図)

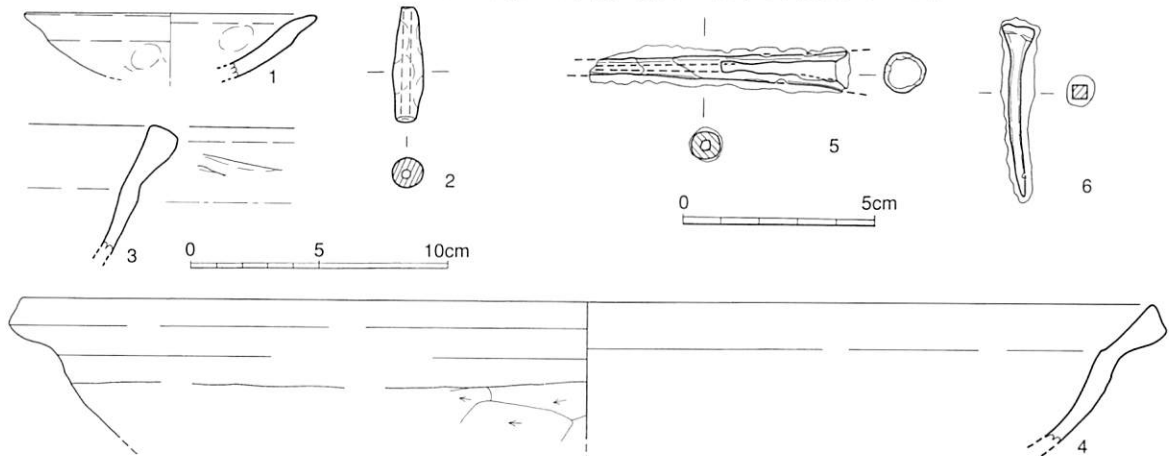
調査区内で発見された区画のうち最も高い位置にある区画である。そのため逆にもっとも後世の



第3-121図 上町東側（H地区）の16世紀第4四半期（第2焼土層以前）の遺構（1/200）

削平をうけており、整地層以外にこの時期と特定できる遺構は極めて少ない。

**SP497**（H区東） ML48区（東0区）のB-1層除去時に検出した柱穴である。東1区画との境界に位置している。16世紀第3四半期の土坑SK531を切る。1は京都系土師器2期の皿口縁部、2は管状土錘A類で完形の小型に分類される。3と4は瓦質鍋の口縁部、ともに河野B1類で16世紀前半の製品。5は鉄製の石突のような小型品。6は鉄釘。ほかに備前焼掃鉢の底部、糸切りの在地系土師器、内面にロクロ目を残す土師器、鉄釘の小片が出土している。



第3-122図 SP497出土遺物（1~4=1/3、5・6=1/2）

### 東1区画

短冊型地割

東西に長く伸びる短冊型の区画である。東0区画とは整地層の段差を作り、東1区画の方が低くなっている。幅はほぼ4.8mである。東2区画との境界も段差があり東1区画の方が高いが、東2区画の端には柱穴列があり、建物あるいは塀で境をなしていたものと考えられる。

内部には整地層の一部であるSX275のほかに大きな窪みSX219・277があり、その埋没過程で、石列SX547上部が作られている。ほかには柱穴が多数検出されたが、掘立柱建物を推定するまよりは少ない。

### 土坑

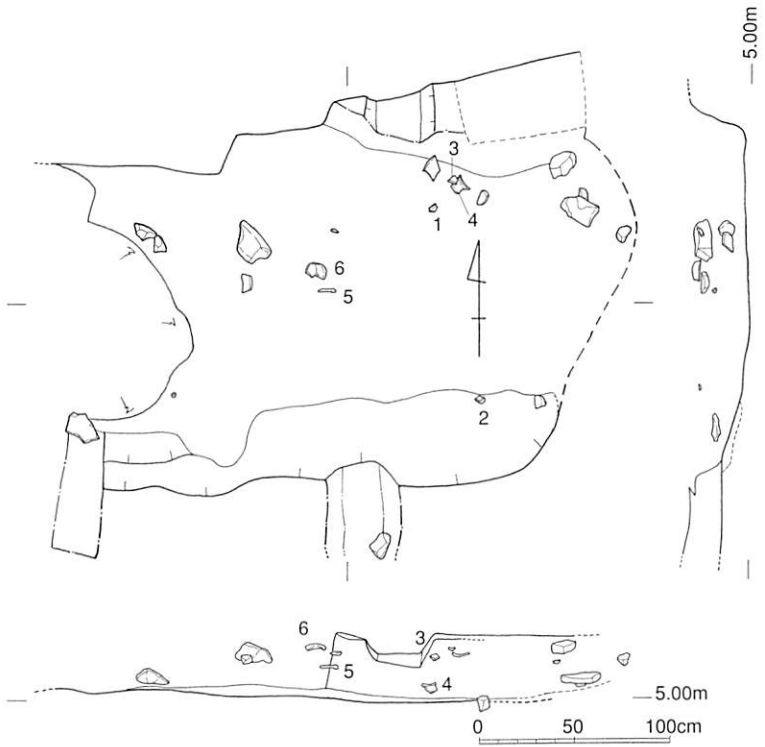
整地層

**SX275**（H区東）（第3-123図、図版40） M46・47区（東1区画）のB層上面の整地層を構成する一単位の造成土である。長さ4m以上、幅2m、深さ40cm。上面に敷かれたはずのB層上部に当たる粘土層の床土はすでに削平されていた。そのため最初は大きな土坑として掘下げていた。埋土は粗砂混じりの軟らかい暗褐色土で、土器片や礫は少ない。以下の1587年以後の土坑SK98、SK103、SK104に切られている。最上部の中央に京都系土師器2期の完形の皿（6）が正位で埋置き

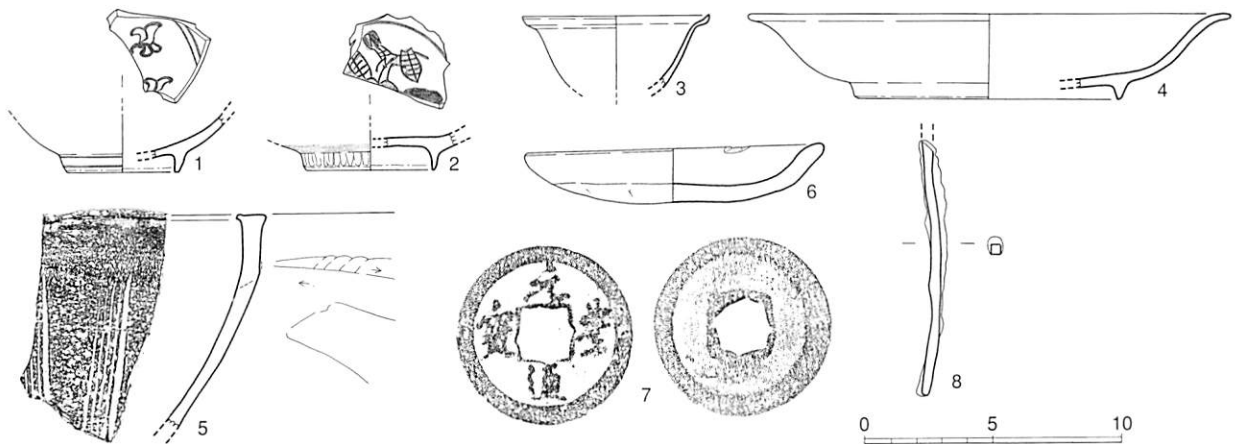
土師器埋置

れていた。東1区画のB層整地の際の遺構である。第3焼土層形成後、1587年以前の遺構である。

**SX275出土遺物 (第3-124図)** 1と2は中国景德鎮窯系青花碗で、C群とE群。3は受け口口縁の白磁小坏。4は被熱した白磁皿E2群。5は瓦質插鉢口縁部。6は京都系土師器2期の皿。7は中国銭の元豊通寶(北宋1078年初鑄)で、星形孔をもつ。8は鉄製の火箸である。ほかに中国龍泉窯系青磁碗、中国漳州窯系青花底部、備前焼壺・甕、瓦質火鉢・土鍋、土師質土鍋・壺、内面にロクロ目を残す土師器、京都系土師器2・3期の皿、銭種不明の銅銭、土壁の破片が出土している。



第3-123図 SK275 (1/40)



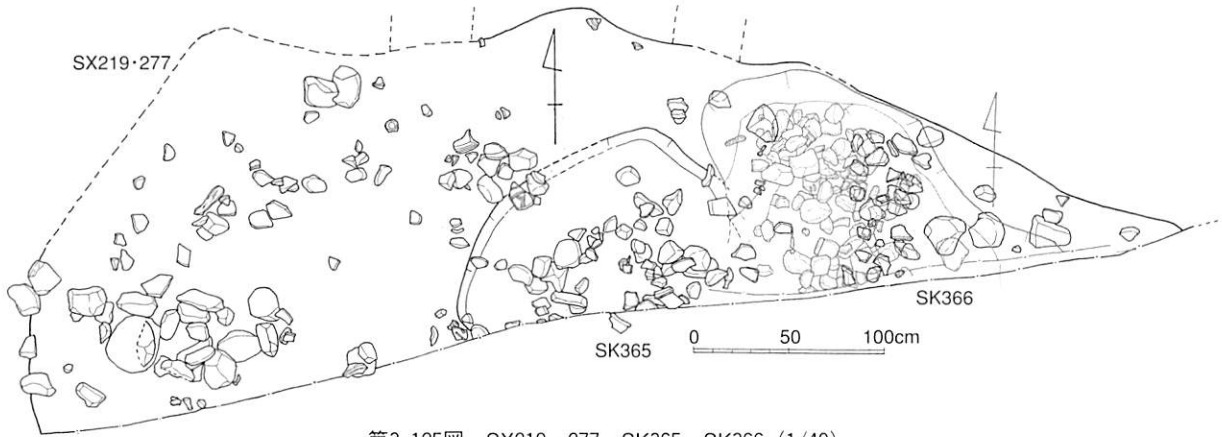
第3-124図 SK275出土遺物 (1~6・8=1/3、7=1/1)

掘り込み

**SX219・277 (H区東) (第3-125図、図版41・44)** SX219はM47区(東1区画)のB層上面で検出した土坑でA層上からの掘り込みらしいが輪郭ははっきりしない。長さ6m以上、幅3m以上、深さ0.8m。礫の集中が認められる。SX277は東1区画に沿った落ち込みで、SK115・SP116、SK365、SK366に切られる。西側に排水溝らしい石組みが存在したが、調査中の降雨で崩壊し記録を残せなかった。内部からは備前焼の斜めすり目の挿鉢が出土している。同一の落ち込みを別の遺構として掘ったので、SX219出土遺物は上層、SK277は底部に堆積した第2焼土層を中心とした下層出土遺物である。

土師器燭台

**SX219・277出土遺物 (第3-126図)** 上層のSX219から、1の中国景德鎮窯系青花皿B1群の口縁。2の中国漳州窯系青花大皿には、高台畳付に糊殻が付着している。3は中国産焼締陶器の壺底部。4は瀬戸美濃産皿の口縁。5は瓦質土鍋の口縁で河野B1類。6は土師器の燭台で、穿孔は貫通せず底部は回転糸切り離して、ロクロ目の残る土師器と同じ製作技法であるA2類。7は鉄製の

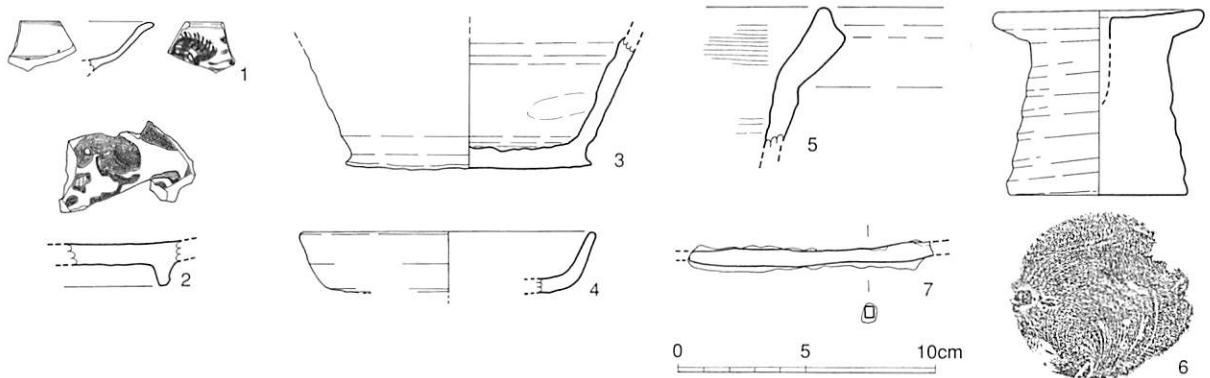


第3-125図 SX219・277、SK365、SK366 (1/40)

火箸。ほかに底部内面は蛇の目釉剥ぎのある中国景德鎮系青花碗C群1点と分類不能の青花1点、漳州窯系青花皿1点、備前焼2点、瓦質火鉢底部1点、瓦質甕胴部1点・鍋1点、糸切りの在り系土師器1点、京都系土師器1期の皿1点、丸瓦2点・平瓦1点、鉄の鏝1点、などの破片が出土している。

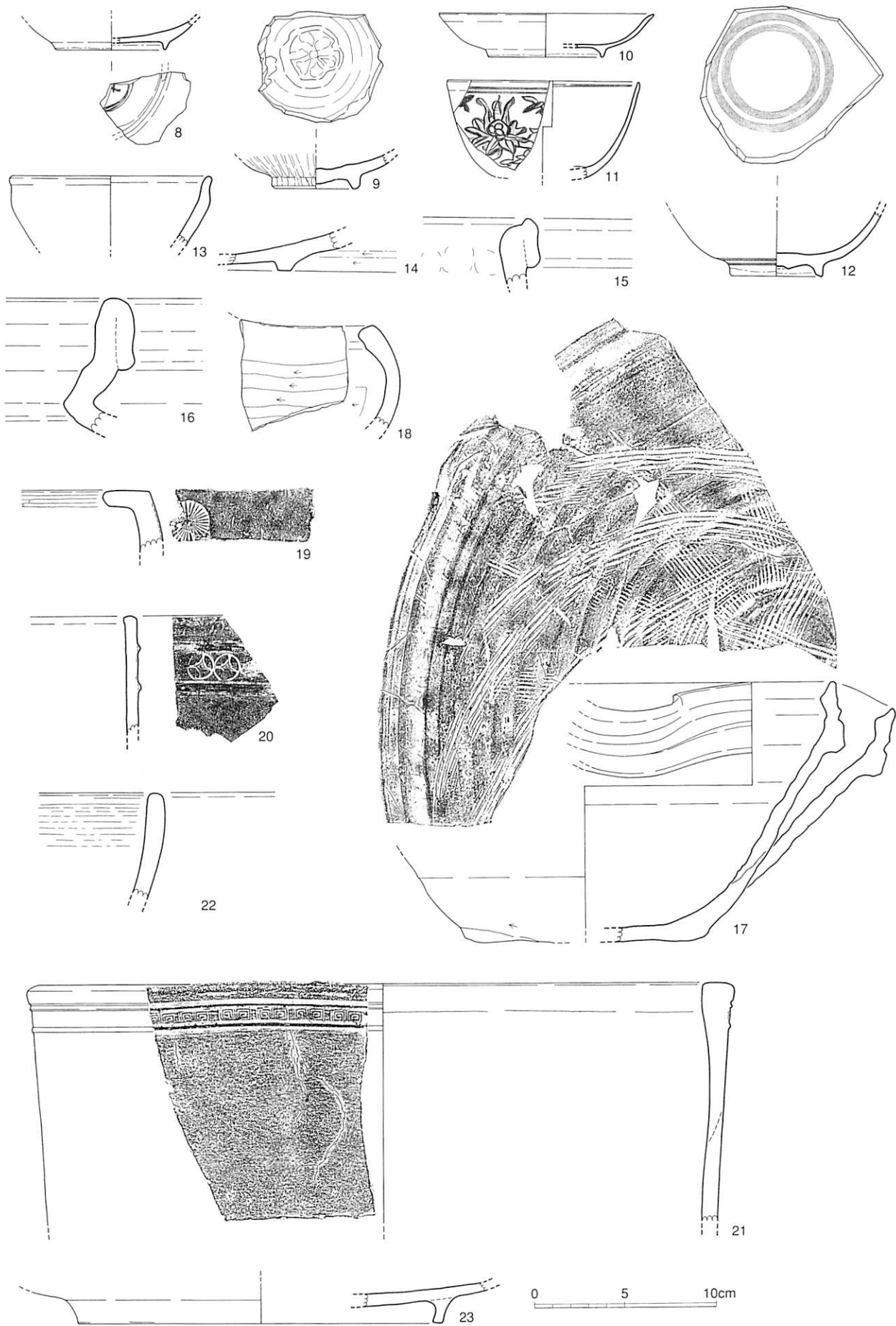
2 焼土層の堆積

下層のSX277には第2焼土層が落ち込んでおり、第2焼土層の年代を決定する良好な一括資料である。以下はその下層出土遺物である。8と9は白磁E-4類の菊花皿。8の外底の銘は「天下泰平」か。10は白磁皿E群。11は中国景德鎮青花碗E群の饅頭心碗。12は中国漳州窯青花碗底部。13は瀬戸美濃産天目碗。14は備前焼の鉢の可能性の高い陶器皿の底部。15は常滑焼の甕口縁。16は中世6期の備前焼播鉢で、SK365出土破片と接合。17は斜め揺り目の近世1a期の備前焼播鉢。18は瓦質釜口縁。19は外面に菊花文の刻印のある瓦質火鉢口縁。20は外面に七宝文の刻印のある瓦質火鉢。21は一對の雷文の刻印のある瓦質火鉢口縁。22は瓦質火鉢の口縁。23は瓦質火鉢の底部。24と25は瓦質鍋の河野B-1類口縁。26は瓦質鍋口縁で、SK261出土破片と接合。27は瓦質鍋口縁で、SK221とM47区A層出土破片と接合。28は土師質播鉢口縁。29は土師質鍋口縁で、SK365出土破片と接合。30と31は京都系土師器期2期の皿。32は京都系土師器2期の小皿。33は京都系土師器3期の大皿。34は京都系土師器3期の皿。35は平瓦の二次加工したメンコ。36は磚。37は半分に折れた管状土鍾中型B類。38は打ち出し細工の青銅製の金具。39は安山岩製の石皿の下臼。ほかに中国龍泉窯青磁1点。中国景德鎮窯系青磁皿1点。白磁1点。中国景德鎮窯系器種不明青花2点と青花碗3点。中国漳州窯青花碗3点。中国褐釉陶器2点(底部1)。朝鮮灰青釉陶器1点。中世陶器甕胴部1点。備前焼壺7点(胴部3、底部2)・甕14点(胴部10、底部4)・播鉢1点・徳利1点。瓦質火鉢10点(胴部1、底部2)・播鉢1点・鍋胴部1点。土師質鍋口縁1点。糸切りの在り系土師器2点。平瓦2点。完形の銭貨1枚。鉄釘4点。以上の破片が出土している。

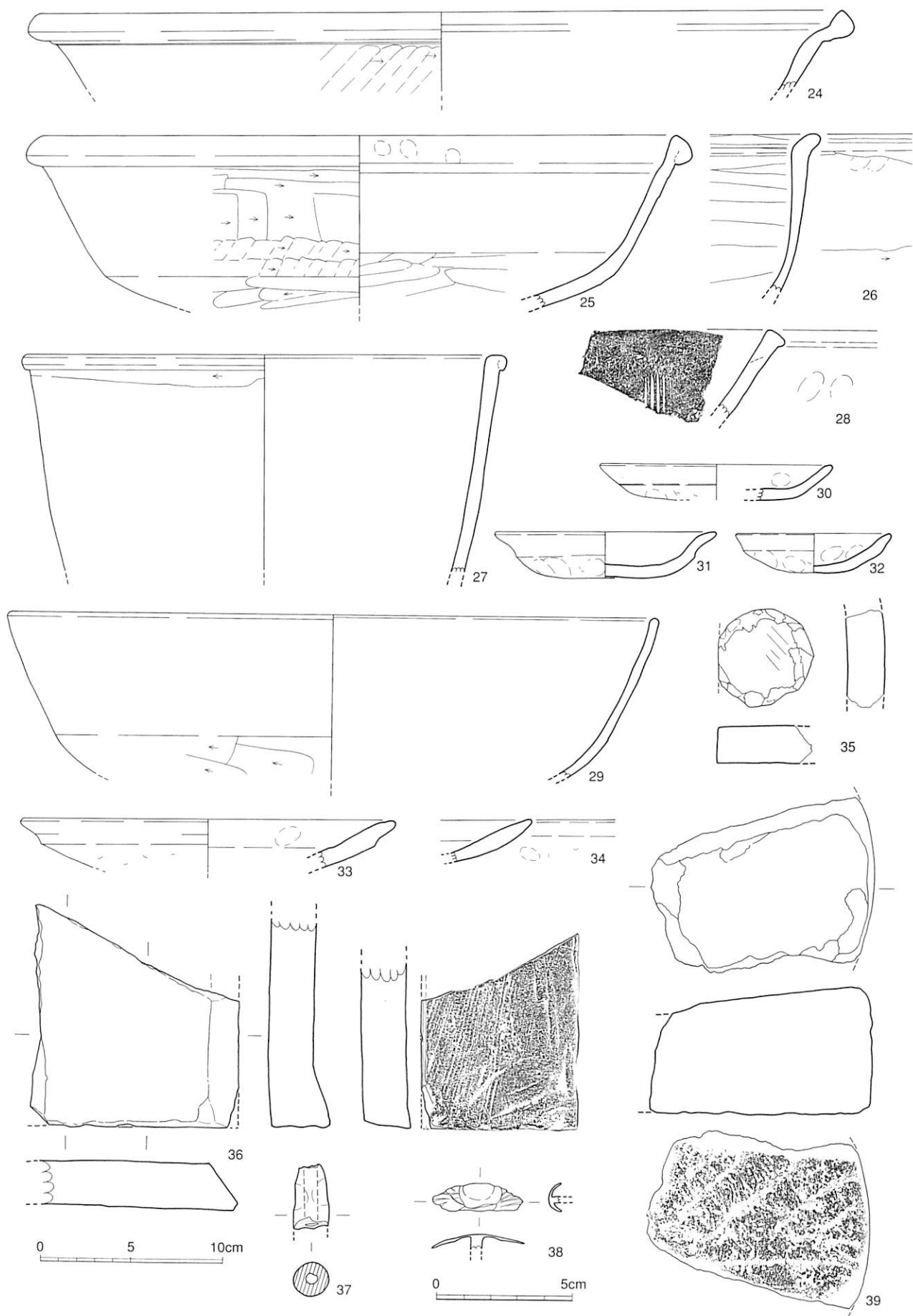


第3-126図① SX219・277上層出土遺物 (1/3)





第3-126図② SX219・277下層出土遺物 (1/3)

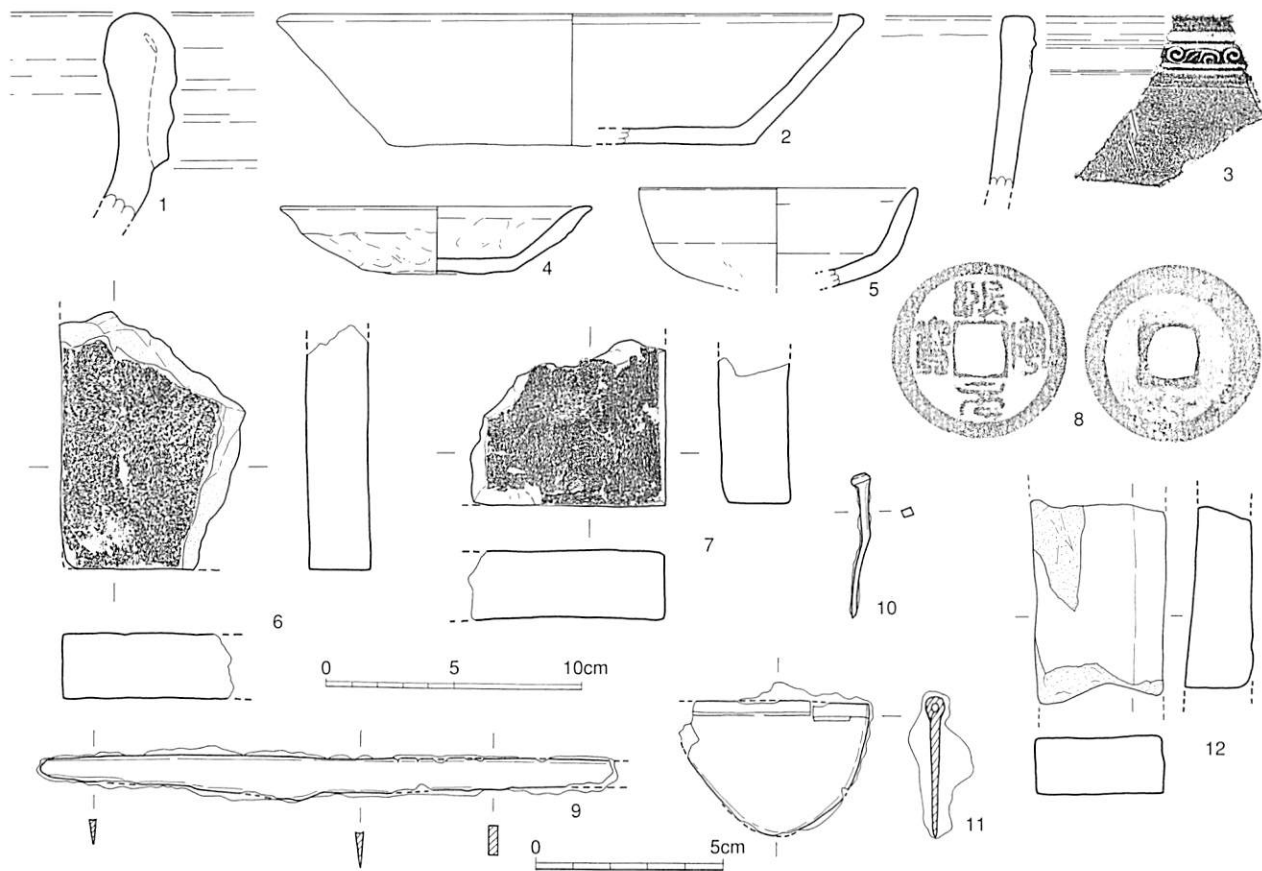


第3-126図③ SX219・277下層出土遺物 (24~37・39=1/3、38=1/2)

以下の3つの遺構はこの窪みSX277の埋没過程で掘られた遺構である。

**SK365 (H区東) (第3-125図参照、図版42)** M47区 (東1区画) のSX277を掘下げ途中で検出した円形皿状の集石土坑で、礫の下には炭の層が堆積していた。SK366に切られる廃棄土坑である。遺物の出土状態は破片が被熱した礫の間に混じるように入っていた。

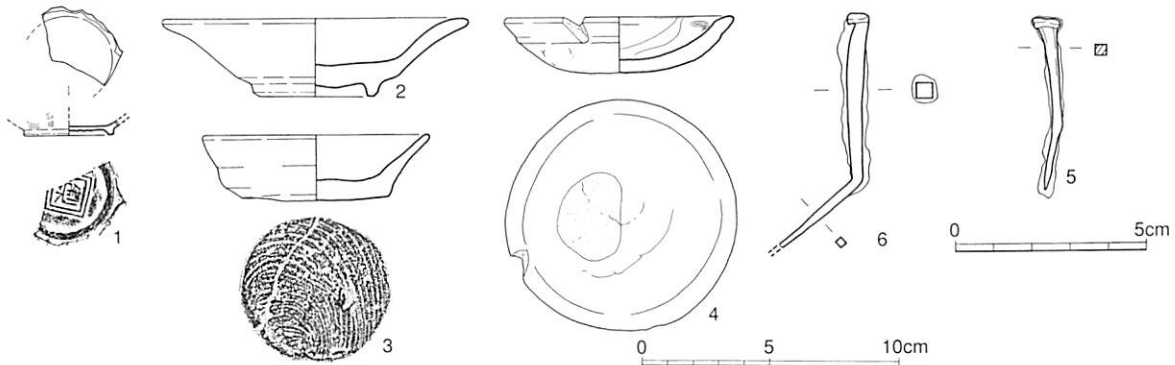
**SK365出土遺物 (第3-127図)** 1は1570年以後の近世1期の備前焼口縁部。2は浅めの瓦質火鉢口縁。3は瓦質火鉢の口縁部で、双頭蕨手流雲文の刻印がある。4は京都系土師器2期の皿。5は京都系土師器3期の皿。6と7は塼の破片。8は中国銅銭の熙寧元寶(北宋1068年初鑄)である。9は鉄製刀子の刃部。10は2寸の鉄釘の完形品。11は下端の尖った鉄製の金具。12は砥石。ほかに備前焼壺・甕、土師質火鉢、糸きり土師、平瓦の破片が多く混じる。また食物の残滓と思われる大型の巻貝が3点出土した。いずれもサザエ類であった。



第3-127図 SK365出土遺物 (1~7・10・12=1/3、8=1/1、9・11=1/2)

**SK366 (H区東) (第3-125図参照)** M47区 (東1区画) のSX277を掘下げ途中で検出した不整形皿状の集石土坑で、SK365を切る。長さ1.9m以上、幅1.2m。SX277の埋没過程でのひとつの廃棄単位である可能性もある。遺物の出土状態は遺物の破片が被熱した礫の間に混じるように入っていた。

**SK366出土遺物 (第3-128図)** 1は翡翠釉の青釉陶器小皿の底部で、外底に型押し銘がある。2は中国龍泉窯青磁の稜花皿で15世紀後半の産。3は糸切りの在り土師器小皿。4は京都系土師器2期の小皿の完形品。灯明皿として使用され、被熱による剥離があり、廃棄時に口縁を打ち欠いている。5と6は鉄釘の完形品。ほかに備前焼の甕、瓦質火鉢底部・土鍋、糸切りの在り土師器底部、京都系土師器3期の皿、平瓦の破片が出土している。

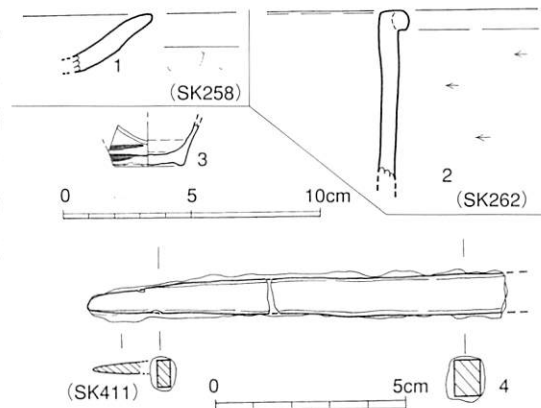


第3-128図 SK366出土遺物 (1~4・6=1/3、5=1/2)

## そのほかの遺構 (第3-129図)

**SK258** (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した不整長円形の小土坑で、埋土は10mm大の炭焼土を多く粗砂混じりの暗褐色軟質土である。長さ0.8m、幅0.4m。中央上部に浮いて一個の礎石風の大型礫があった。出土遺物は1の京都系土師器2期の皿のみである。

**SK262** (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した平面円形の小土坑で、1596年以後の土坑SK106に切られる。長さ0.6m、幅0.5m。内部には被熱礫が充満した廃棄土坑である。埋土は5mm大の炭焼土を少量含む砂礫混じり暗褐色土である。遺物は礫に混じって破片の状態に混じりこむ。2は瓦質火鉢口縁部、ほかに瓦質土鍋、土師質火鉢、鉄釘の破片が出土している。



第3-129図 K258、SK262、SK411出土遺物 (1~3=1/3、4=1/2)

集石土坑

方形柱穴  
根石

**SP265** (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した方形柱穴で、区画の方向と一致する。中央に柱の根石と見られる礫が置かれていた。埋土からは京都系土師器2期の小皿片が出土している。

**SK368** (H区東) M47区(東1区画)のB層より上から掘り込まれた小土坑で、1587年以後の土坑SK261に切られている。長さ0.5m、幅0.4m以上。埋土は1cm大の炭焼土とB層土のブロックを含む暗褐色土である。出土遺物は土師質土鍋の底のみである。

**SP370** (H区東) M47区(東1区画)のSX277の底面で検出した円形の柱穴である。

**SK411** (H区中) ML46区(東1区画)のB層上面で検出した溝状の土坑で、埋没後礎石が置かれている。長さ0.8m以上、幅0.7m。3の中国景德鎮産青花小坏底部は16世紀のもの。4は鉄製の鑿か。ほかに瓦質鉢が出土している。16世紀後半。

以下のSP522~524は検出層位と埋土が類似し同一時期の遺構である。

**SP522、SP523、SP524** (H区東) 16世紀後半 ML47区(東1区画)のB層上面から掘り込まれた円形の柱穴である。埋土は1mm大の炭焼土を多く含む暗茶褐色軟質土の単一層である。

このほかに層序から見て**SK520**もこの時期と考えられる。

## 小結

SX275を整地層の一単位とする全体的な整地により東1区画が造成される。東端に大きな窪みSK277が掘られ、ながく窪んだままであったと推定される。排水溝のような石組みが取り付け、埋没の過程でSK365・SK366のような土坑が途中でほられたり、堆積したりする。この窪みSX277

の北側の検出ラインと東0-1区画の境界ラインが平行し、かつ1mほどの空間がある。内部には窪みのほかに柱穴が散在するが、明確な建物はない。

**東2区画（第3-130図）**

段差による境界

東西に伸びる区画だが、道路 SF70に接する間口の部分は深い攪乱のためどうなっていたか不明である。また南限も調査区内では把握できていない。北限にあたる東1区画との境界は造成時には段差で表現されている。

内部は柱穴がかなり密集し、土坑はすくない。以下の柱穴はすべて掘形円形である。

**SP464**（H区中）16世紀後半 ML46区（東2区画）のB-1層除去時に検出した柱穴で、中央に柱痕がのこる。第3焼土層の火災後の整地層上からの掘り込み。

**S465**（H区中）16世紀後半 ML46区（東2区画）のB-1層除去時に検出した浅い掘り込みで、埋土は砂層に若干黄色粘土ブロックが混じる。

**SP466**（H区中）16世紀後半 ML46区（東2区画）のB-1層除去時に検出した柱穴で、中央に柱痕がのこる。埋土は砂層に若干黄色粘土ブロックが混じる。出土遺物は糸切りの在地系土師器の小片のみである。

**SP467**（H区中） ML46区（東2区画）のB-1層除去時に検出した柱穴で中央に柱痕がのこる。

**SP468**（H区中） ML46区（東2区画）のB-1層除去時に検出した柱穴で中央に柱痕がのこる。

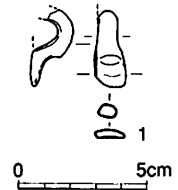
**S483**（H区中） ML46区（東2区画）のB-1層除去時に検出した小ピットである。

**SP484**（H区中） ML46区（東2区画）のB-2層上面で検出した柱穴で、B-1層が覆う。

以下のSP494～496は埋土形態ともよく似て近接する。

**SP494、SP495、SP496**（H区東） M46区（東2区画）の段差の下のB層上面で検出した浅いピットで、単なる窪みの可能性もある。第2焼土層が上に乗るので1587年以前の遺構である。

**SP508**（H区西）16世紀後半 ML45区（東2区画）の第2焼土層除去後のB層上面で検出した柱穴である。SP513と同じ。1は中国褐釉陶器のいわゆるルソン壺の把手。ほかに京都系土師器1期の皿、糸切りの在地系土師器、瓦質鍋、土壁が出土している。



第3-130図 SP508  
出土遺物（1/3）

**SP513**（H区西）16世紀後半 ML45区（東2区画）の第2焼土層除去後のB層上面で検出した柱穴である。SP508と同じ。中央に被熱した人頭大の円礫が置かれている。柱穴の根石であろうか。糸切りの在地系土師器の小片のみ出土。

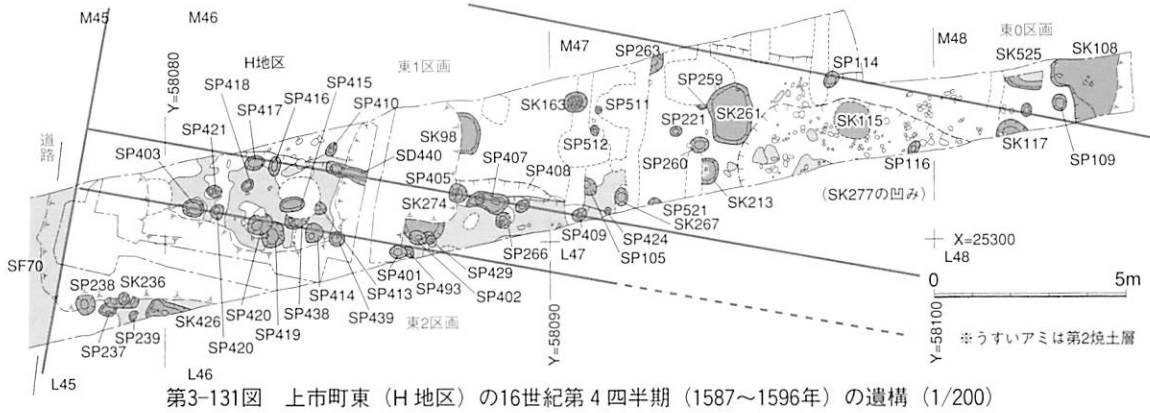
**小結**

柱穴が多いが、土坑が少ないという遺構の分布状態から見て、掘立柱建物が存在していた可能性が大きい。短冊型の区画のなかで道路に近い位置に建物が建つ点で、町屋遺構の状況と一致する。

**②第2焼土層以後の16世紀第4四半期（第3-131図、図版35）**

A層上面

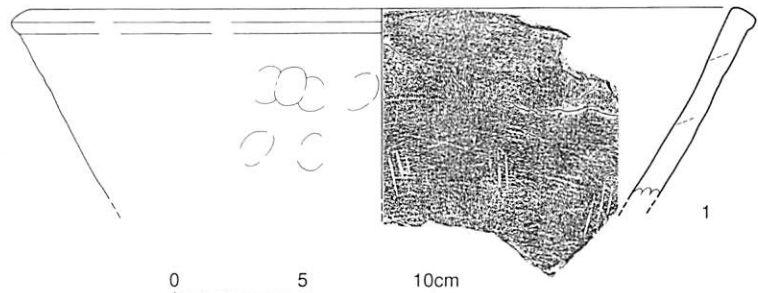
1587年の戦災に由来すると考えられる第2焼土層の直上から掘り込まれた遺構と、その上の整地による復興面であるA層上面から掘り込まれた遺構を、この時期と推定する。別にA層上面に分布する1596年の慶長大地震に由来すると想定される第1焼土層よりも上から掘られた遺構は分離した。



### 東0区画 (第3-132図)

南限にあたる東1区画との境界となっていた整地層の段差はすでに削平で失われているが、遺構がほとんどなくなる点で、前代の東1区画と同じ状況なので、1587年後復興時にもこの区画は再現されたと推定される。

**SK108** (H 区東) M48区 (東0区画) のA層上部から掘り込まれた不整形の土坑で、断面も半円形をなす。長さ1.8m以上、幅2m以上。内部にはB層土のブロックと土器の碎片が少量混じり、



第3-132図 SK108出土遺物 (1/3)

掘削してすぐに埋め戻された状況である。1は瓦質土鍋口縁の河野B3類。ほかに放射すり目の備前焼播鉢、瓦、糸切りの在り系土師器の坏と小皿の破片が出土している。

**SP109** (H 区東) M48区 (東0区画) のB層上面で検出した掘形円形の柱穴だが、A層中から掘り込まれた可能性高い。出土遺物はない。

**SK525** (H 区東) M48区 (東0区画) のB層上面で検出した土坑で、西半分は近世の侵食で消失している。長さ1m以上、幅0.4m以上。内部に第2焼土層に対応するブロックの堆積があり、その上にはA層の整地層がのっているため、1587年の戦災復興時の火災処理土坑の遺構である。下層から糸切りの在り系土師器、鉄釘、土壁の破片などが出土している。

火災処理土坑

### 小結

この部分にも本来火災による焼土層が広がっていたことは、火災処理土坑と考えられるSK525の存在からわかる。その後土坑SK108がほられているが、柱穴は極めて少ない。おそらく東0区画のなかでも、この付近は道路から15~20m隔たっているため、建物が建っていたのではなく、その裏側の空閑地の部分であったと考えられる。

### 東1区画

削平のためこの時期の生活面は失われている。そのため東0区画との境界は不明瞭となっている。東2区画とは段差が残り明瞭に境界を指摘できる。東0区画との境に存在した路地はこの段階では消失したらしく、路地にあたる場所に土坑が掘られている。

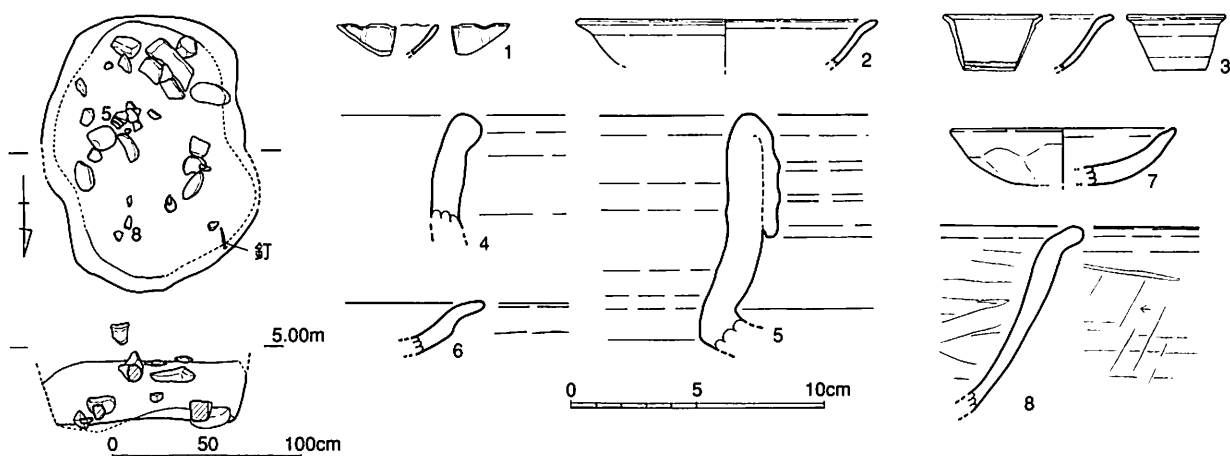
内部にはSK261のような何らかの施設が設けられている。その西では柱穴が散在するが土坑は

ない。一方東側では土坑が多くなる。

### 土坑

**SK261** (H区東) (第3-133図) M47区(東1区画)のB層上面で検出した不整長円形の土坑で、1587年以前の土坑SK368を切り、1596年以後の遺構SP112とSP227に切られる。長さ1.6m、幅1.2m、深さ40cm。第2焼土層上から掘り込まれたもので東2区画の地割の方向に一致し、底面も平坦にほられており、宅地内の穴倉等の施設として設けられた遺構である。内部には被熱した礫が多く、安山岩の川原石のほか凝灰岩礫が混じる。埋土は上下に別れ、下層は1~2cm大の炭焼土を多量に含む暗黄褐色土層で、ところどころ粗砂ブロックを含む。中央には粘土ブロックと焼土炭層が堆積し、火災処理土坑に転用されたことを示している。京都系土師器3期の皿を最新の遺物とする。1587年後の復興時に掘られ1596年に廃棄か。

火災処理に転用



第3-133図 SK261 (遺構1/40、遺物1/3)

**SK261出土遺物** 1は中国製白磁皿E4群の菊花皿。2と3は白磁皿E-2群。4は備前焼壺の口縁で14~15世紀代の製品。5は備前焼甕の口縁部で近世1期のもの。6は京都系土師器2期の皿口縁。7は京都系土師器3期の小皿。8は外面へラケズリの在在系土師器の瓦質土鍋の口縁部。ほかに中国景德鎮窯系青花碗、朝鮮王朝産舟徳利、中国産焼締陶器、瓦質火鉢、大型完形の鉄釘の破片が出土している。

### そのほかの遺構 (第3-134図遺物)

**SK98** (H区東) M46区(東1区画)のB層上面で検出した円形土坑で、断面も円形になる。長さ1.1m、幅0.6m以上。1587年以前の遺構SX275を切る。埋土は上下二層に別れ、上層は炭焼土を多く含む暗褐色砂礫層、下層は茶褐色土のブロックが堆積する。遺物は小片が散在する状況である。出土遺物は1の外面へラケズリの瓦質土鍋口縁。2は完形の中国銭の熙寧元寶(北宋1068年初鑄)。3は長さ3寸の鉄釘完形品。ほかに中国漳州窯系青花皿、備前焼の甕、大内系土師器、糸切りの在在系土師器の破片が出土している。

**SK103** (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した平面円形の土坑で、B層の整地層の一部である1587年以前の遺構SX275を切る。長さ0.7m、幅0.5m、深さ50cm。内部には被熱礫が充満し、凝灰岩礫と結晶片岩礫が混じる廃棄土坑である。埋土は炭焼土の多い暗褐色土である。遺物は礫に混じって破片の状態に混じりこむ。中国龍泉窯系青磁碗、備前焼播鉢の破片が出土している。

集石土坑

**SP105** (H区東) M47区(東1区画)で検出した柱穴だが、東1区画は上面が削平されている

ため、さらに上の層からの掘り込みの可能性があるが、埋土に大粒の炭焼土ブロックを含むところから第2焼土層を切る遺構と判断した。4の被熱した京都系土師器2期の小皿口縁部が出土している。口縁に煤の付着した灯明皿である。

**SP114 (H区) M47区 (東1区画)** で検出したが、A層中から掘り込まれたと推定される掘形円形の柱穴である。埋土は、B層上部の整地層に由来する黄灰色土のブロックが入る。5の煤の付着した京都系土師器2期の皿口縁部片は、隣接するSK115出土破片と接合した。ほかに中国景德鎮窯系青花、土師質土鍋、糸切りの在来系土師器の小片が出土している。

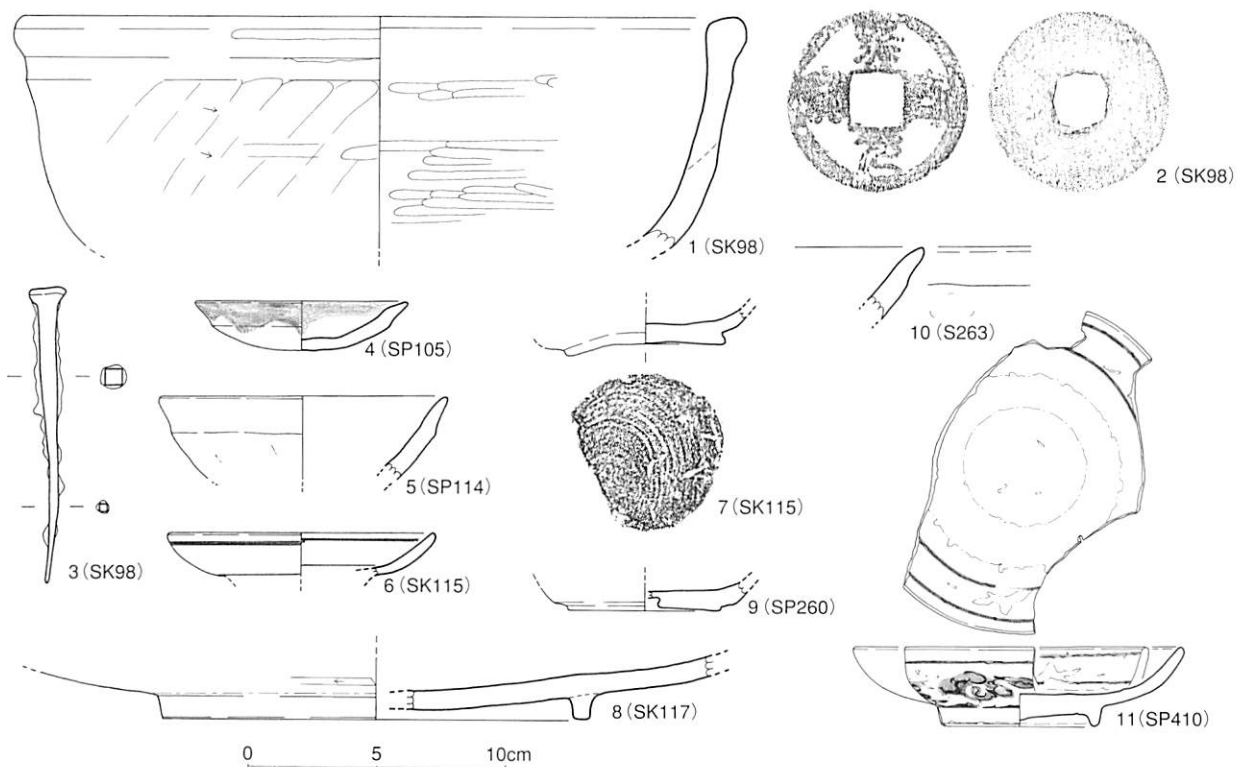
**SK115 (H区東) M47区 (東1区画)** で検出した平面円形断面皿状の土坑である。長さ1.1m、幅0.9m。完全に埋没したSX219を切っているところからA層中からほりこまれたと推定される。埋土は1cm大の炭焼土を多く含む暗茶褐色軟質土の単一層である。遺物はいずれも破片が散在する状況である。6は中国景德鎮窯系青花皿E群。7は糸切りの在来系土師器坏底部。ほかに中国産褐釉陶器のいわゆるルソン壺底部、瀬戸美濃大窯3期の小皿口縁部、備前焼壺肩部・甕・播鉢、瓦質火鉢・土鍋、瓦質土器底部、京都系土師器2期の皿、鉄釘などの小片が出土している。

以上のSP114とSK115は出土遺物が接合するので、同時期の遺構と見られる。

**SP116 (H区東) M47区 (東1区画)** のA層上面から掘り込まれた柱穴である。完全に埋没したSX219を切っているところからこの時期と推定される。中国漳州窯系青花碗、瓦質土器、塼の破片が出土している。

火災処理土坑

**SK117 (H区) M48区 (東1区画)** のB層上面で検出した円形の土坑で、東0区画との境界付近に位置し南壁にかかる。長さ0.9m、幅0.4m以上。断面は半円形で、埋土は灰炭焼土を多量に含む暗茶褐色軟質土の単一層であるところから第2焼土層の火災処理土坑であると推定される。だとすれば1587年直後の遺構である。8は瓦質火鉢の底部。ほかに瓦質土器、糸切りの在来系土師器、京都系土師器1期の皿、土壁の破片が出土している。



第3-134図 そのほかの遺構出土遺物 (1・3~11=1/3、2=1/1)



**SK213**（H区東） M47区（東1区画）のA層下部1回目掘り下げ後に検出した長円形の小土坑で、内部には焼土ブロックと灰色粘土・砂がまとまって堆積していた。長さ0.7m、幅0.5m。鉄釘の破片が出土している。

**SP221**（H区東） M47区のA層1回目後で検出したピットで。1点の瓦質鍋口縁はSK219出土破片と接合。ほかに瓦質火鉢1点。糸切りの在地系土師器2点の破片が出土している。

**SP259**（H区東） M47区（東1区画）のB層上面で検出した掘形円形の柱穴である。

**SP260**（H区東） M47区（東1区画）のB層上面で検出した掘形円形の柱穴である。出土遺物は9の15世紀代の糸切りの在地系土師器の小皿のみである。底部外面に窪みがある。

**S263**（H区東） M47区（東1区画）のB層上面で検出した掘り込みで、性格不明。内部から10の京都系土師器3期ないし4期の皿の口縁部が発見され、ほかに青磁の小片が出土している。

**SP410**（H区中） M46区（東1区画）のB層上面で検出した柱穴で、埋土の内容からA層中から掘り込まれたと推定される。埋土はB層上部の整地層に由来する黄灰色土のブロックが入る。11の中国漳州窯系青花皿が出土し、その破片は第2焼土層出土品と接合したので掘削の際の混入である。

**SP511**（H区東） M47区（東1区画）のB層南北サブトレで検出した掘形円形の柱穴で、SX275を切る。

**SP512**（H区東） M47区（東1区画）のB層南北サブトレで検出した掘形円形の柱穴で、SX275を切る。京都系土師器2期の皿の破片が出土した。

**SP521**（H区東）16世紀後半 ML47区（東1区画）のA層上面から掘り込まれた円形の柱穴である。

### 小結

火災後の整地

第2焼土層が堆積した1587年の火災層を片付けるためにSK117が掘られて、同時に整地が行われて、整地層に高低の段差をつけることで区画を造成している。区画内には中央に掘られたSK261は穴倉等の何らかの建物に伴う施設と考えられる。その遺構の西側には柱穴が散在し、土坑が少ない状況から掘立柱建物が道路に面した間口からSK261付近まで立てられていたものと推定される。一方東側では土坑はあるが柱穴は少なく、建物のない空地であったとみられる。

### 東2区画

柱穴列

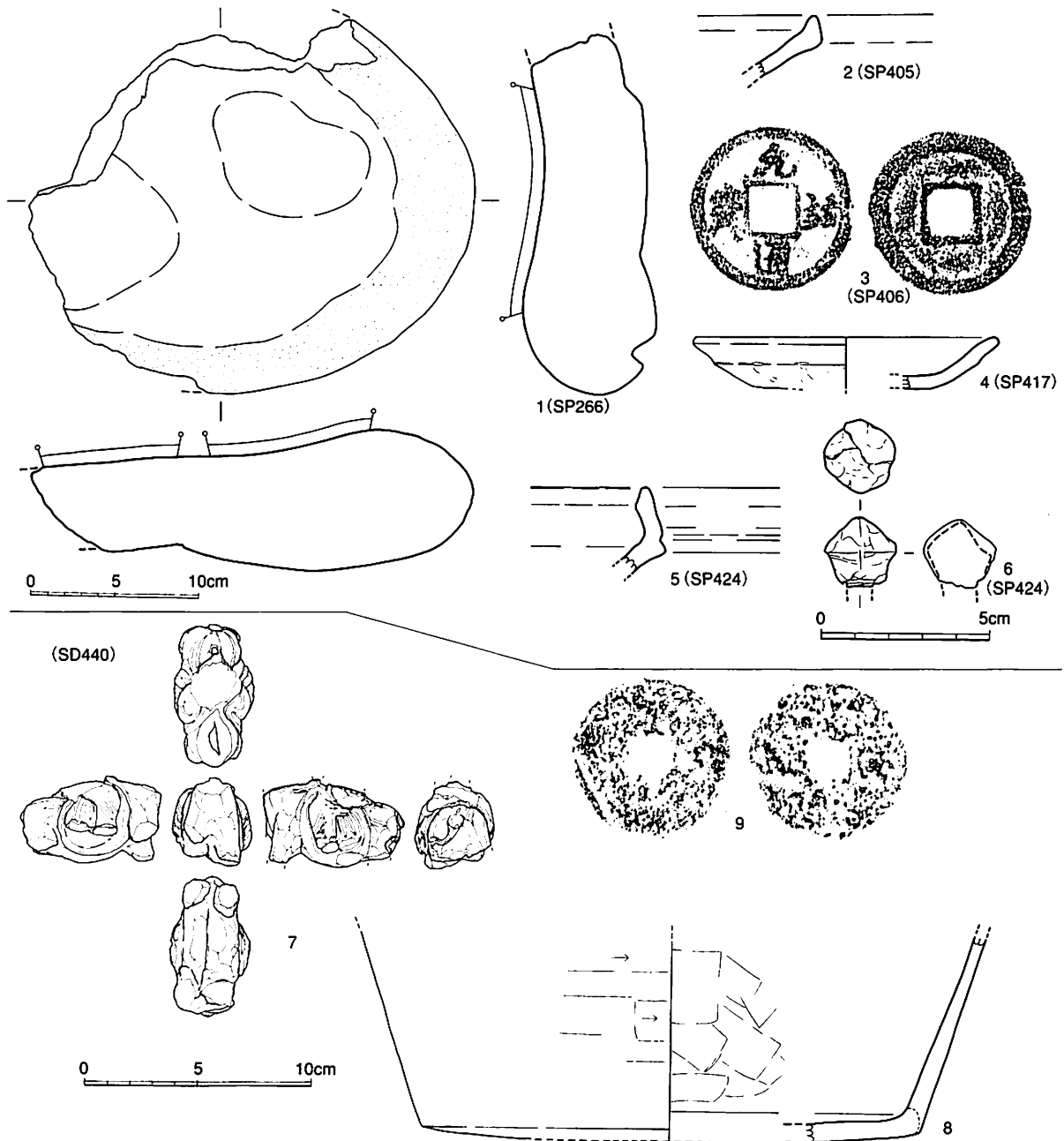
道路に面する部分と南限ははっきりしないが、東1区画と接する北限は明瞭で、段差を持つと同時に、境界線の東2区画側に、柱穴列が密に発見されている。またその並びから2mほど南に平行して柱穴列が認められる。北限は柵列による区画が行われていた可能性が高い。

以下の柱穴は1587年の火災後の復興時の東1区画と東2区画の境界の段下に設けられた柱列である。（第3-135図） SP266～SP409・SP424、SD440からなり、柱穴の掘形はすべて円形である。

**SP266**（H区東） L46区（東2区画）のA層中で検出した柱穴で、第1焼土層の火災処理土坑であるSK100に切られる。埋土は大型礫と石皿の破片が埋没していた。1は安山岩製の被熱した石皿である。

**SP405**（H区東） M46区（東2区画）のB層上面で検出した柱穴で、埋土はSP401と同じなので第2焼土層より上から掘り込まれたものである。2の瓦質碗の口縁のほかに、土師器、炭化木材の破片が出土している。

**SP406**（H区東） M46区（東2区画）のB層上面で検出した柱穴で、第2焼土層より上から掘



第3-135図 東1区画と東2区画間の柱穴列出土遺物 (1=1/4、2・4・5・7・8=1/3、6=1/2、3・9=1/1)

り込まれたものである。SP407を切る。3は中国銭の元祐通寶（北宋1086年初鑄）の完形品。ほかに糸切りの在地系土師器、瓦質土器碗口縁、瓦質鍋、残留した須恵器甕胴部の破片が出土している。

**SP407** (H区東) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、第2焼土層より上から掘り込まれたものである。SP406に切られている。埋土はSP401と同じである。

**SP408** (H区東) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、第2焼土層より上から掘り込まれたものである。埋土はSP401と同じである。

**SP409** (H区東) M47区(東2区画)で検出した柱穴で、第2焼土層より上から掘り込まれたものである。埋土はSP401と同じである。

**SP416** (H区中) M45区(東2区画)で検出した柱穴で、埋土はSP401と同じである。埋土の内容からA層上から掘り込まれたと推定される。層序からこの時期とした。

**SP417** (H区中) M45区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、第2焼土層上からの掘り込みである。4は京都系土師器2期の皿で、第2焼土層出土の破片と接合した。したがって第2焼土上から掘り込んだ際の混入品である。

**SP424** (H区東) M47区(東2区画)で検出した柱穴で、A層から掘り込まれたものである。埋土はSP401と同じである。5は備前焼播鉢口縁部で中世6期。6は銅製の金具の頭部片。ほかに京都系土師器1期皿の破片が出土している。

小溝

**SD440** (H区中) M45区(東2区画)のB層上面で検出した東西方向の小さな溝で、境界の方向と並行する。埋土はSP401と同じである。埋土の内容から第2焼土層上から掘り込まれたと推定される。その層序からこの時期とした。7は中国褐釉陶器馬形水注(図版50)。8は瓦質火鉢底部。9は完形の銅銭で銭文はさびで読めない。ほかに糸切りの在り系土師器、京都系土師器1期の皿、土師器土鍋や壺、鉄釘の破片が出土している。

馬形水注

### 東2区画の内部を区画する柱穴列(第3-136図)

柱穴列

**SP401~SP439** 柱穴のすべて掘形は円形である。以下の柱穴には切り合い関係があり、1587年後にもさらに建替え改修が行われたことを示す。

**SP493** (H区東) L46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、第2焼土層より上から掘り込まれたものである。SP401に切られている。遺物は残留した須恵器坏片のみである。

**SP401** (H区東) L46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、埋土の内容から第2焼土層より上から掘り込まれたものと考えられる。埋土は3~5cm大の焼土ブロックと、1cm大の炭焼土を多量に含む粗砂と暗黄色土ブロック(B層上面整地層)混じりの暗褐色土の単一層である。1は鉄製の金具。ほかに土師器の破片が出土している。

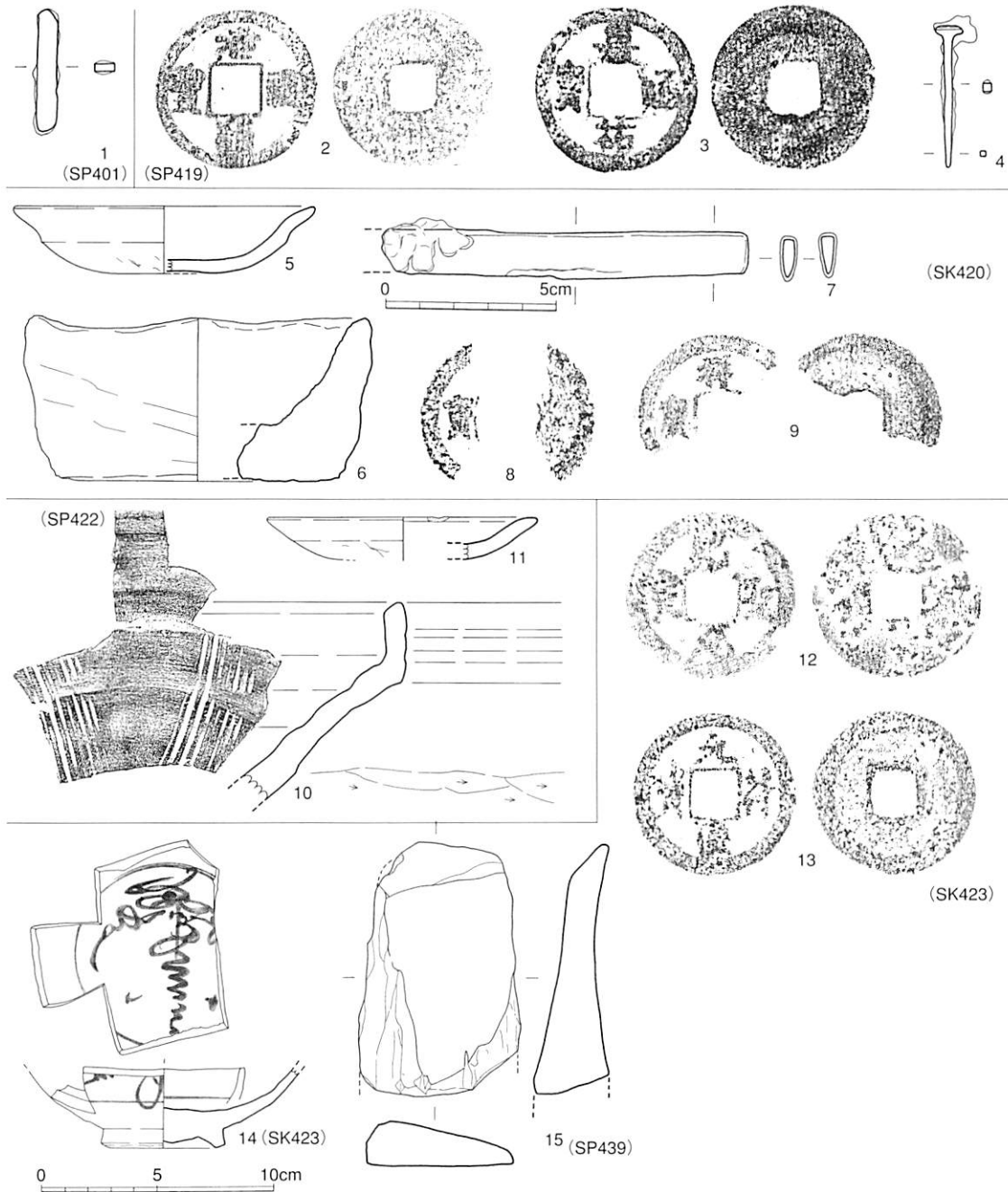
**SP414・241** (H区中) L46区(東2区画)のSK172に切られて、その底面で検出した柱穴である。埋土はSP401とよく似ている。埋土の内容から第2焼土層を切って掘り込まれたと推定される。京都系土師器1期の皿口縁片と鉄釘の破片が3点出土した。

**SP419** (H区中) L46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、SP420に切られている。埋土はSP417と同じである。埋土の内容から第2焼土層を切って掘り込まれたと推定される。2と3の中国銭2枚はともに完形品、2は元祐通寶(北宋1086年初鑄)、3は嘉祐通寶(北宋1056年初鑄)。4は完形の2寸の鉄釘。ほかに中国景德鎮窯系青花碗、備前焼甕胴部、瓦質火鉢底部の破片が出土している。

**SK420** (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した小土坑で、SP419を切る。柱穴の可能性もある。埋土はSP401と同じである。埋土の内容から第2焼土層を切って掘り込まれたと推定される。層序と中国漳州窯系青花碗が出土した点からこの時期とした。5は京都系土師器2期の皿。6は凝灰岩製の小型の石鉢の破片。7は銅板をまいた小柄の柄。8と9は銅銭破片2枚で、8は「宝」のみが読める。9は「祥」「宝」がよめる。ほかに四方禪文を描く中国景德鎮窯系青花碗E群、青磁稜花皿、瓦質火鉢胴部、土師質火鉢底部、京都系土師器1・2期の皿、鉄滓の破片が出土している。

**SP422** (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、埋土は基本的にSP417と同じである。中央に底面から浮いて円礫が出土した。精査の結果、第2焼土層を切って掘り込まれたと推定される。層序からこの時期とした。10は放射すり目の備前播鉢口縁部で中世6a期(1500~1530年頃)、東1区画の第2焼土層中発見の破片と接合している。11は京都系土師器2期の皿。

**SK423** (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した小土坑で、柱穴の可能性もある。埋土はSP401と同じである。A層上から掘り込まれたと推定される。12と13は完形の中国銭で、



第3-136図 東2区画内の柱穴列出土遺物 (1・4~6・10・11・14・15=1/3、7=1/2、2・3・8・9・12・13=1/1)

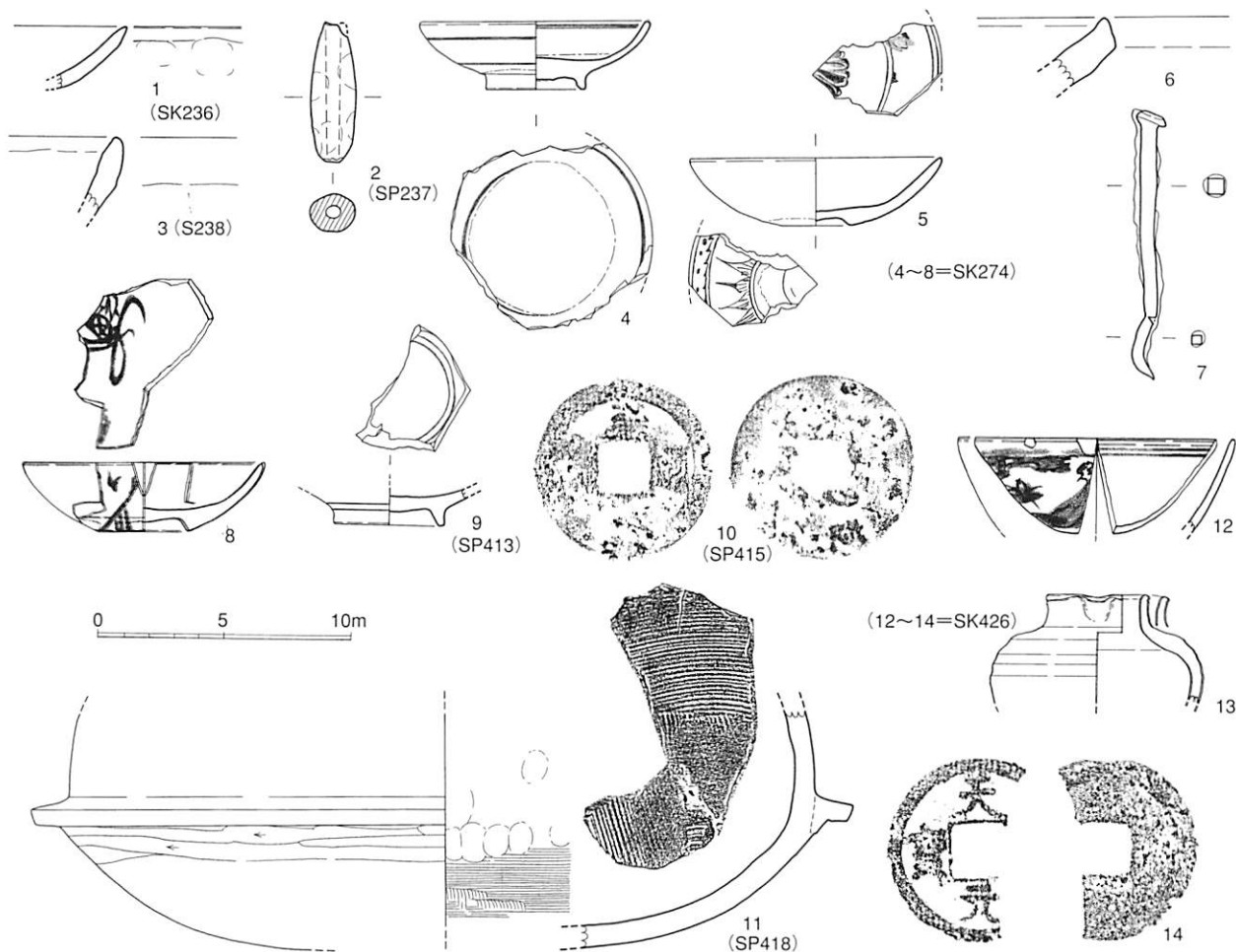
12は接合した紹聖通寶（北宋1094年初鑄）、13は元符通寶（北宋1098年初鑄）、ほかに糸切りの在地系土師器小皿底部と鉄釘の破片が出土している。

**SP439** (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、埋土はSP401と同じである。埋土の内容から第2焼土層を切って掘り込まれたと推定される。層序と中国漳州窯系青花碗が出土した点からこの時期とした。14は中国漳州窯系青花碗底部。15は結晶片岩製の砥石片。ほかに備前焼甕の胴部の破片が出土している。

そのほかの遺構 (第3-137図)

以下の遺構はA層上面から掘り込まれて層位的に、この時期と考えられる遺構である。

**SK236** (H区西) L46区(東2区画)のA層上面から掘り込まれた円形の土坑で、北半はすで



第3-137図 そのほかの遺構出土遺物 (1~9・11~13=1/3、10・14=1/1)

に消失していた。長さ0.8m以上、幅0.5m以上。SP237とSD437を切る。埋土は暗褐色土と黄色土ブロックの互層である。短期間に埋没している。1は京都系土師器2期の小皿。ほかに中国景德鎮窯系青花碗口縁、白磁皿E2群の破片が出土している。

**SP237** (H区西) L46区(東2区画)で検出した柱穴で、SD437を切るが、SK236に切られている。埋土はB層上部の整地層である白色粘土のブロックを多量に含む。2は小型完形の管状土錘B類。ほかに土師質土鍋、糸切りの在地系土師器の破片が出土している。

**S238** (H区西) L45区(東2区画)で検出したほりこみで、埋土は1~2mm大の炭焼土を多く含む砂礫の互層である。B層上面を覆う砂礫層と同質の土で、1587年の火災以後の復興整地の際に掘られたものである。性格は不明。3の京都系土師器3期ないし4期の皿口縁のほかに、備前焼の甕、京都系土師器2期の皿の小片が出土している。

**SX269** (H区東) L46区(東2区画)の第2焼土層の堆積で、SK101に切られる。1587年に形成されたと推定される。

**SK274** (H区東) L46区(東2区画)で検出した不整形の浅い小土坑で、SP402を切り、SP273=402に切られる。長さ1.1m、幅0.6m以上。埋土は炭焼土を多く含む暗茶褐色土の単一層である。口縁を打ち欠いた中国漳州窯系青花の碗が中央上部に浮いて置かれていた。出土遺物は4の口縁の全周を打ち欠いた中国漳州窯系青花碗、5の中国景德鎮産碁筭底の青花皿C群(SK100出土破片と接合)で、両者はともに焼けている。6は瓦質土鍋の口縁部である。7は鉄釘の先端部。ほかに中国産褐釉陶器のいわゆるルソン壺、糸切りの在地系土師器、京都系土師器1期2期の皿、鉄釘の破片が出土している。なおSK402(H区東)はSK274の下部と考えられる。その底部から8の碁

箭底の中国漳州窯系青花皿が出土している。

**SP492** (H区東) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、第2焼土層を切る。SP404に切られる。京都系土師器1期の皿口縁部の破片が出土している。

**SP273・404** (H区) L46区(東2区画)で検出された柱穴で、SK274を切る。柱痕埋土は暗黄褐色土の単層、掘形埋土はSP401と同じである。A層からの掘り込み。

**SP413** (H区中) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、SK257に切られる。埋土はSP401と同じである。A層上から掘り込まれたと推定される。9は中国景德镇窯系青花碗C群(蓮子碗)。

**SP415** (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、SK257に切られる。埋土はSP401と同じである。A層上から掘り込まれたと推定される。10は中国銭の至和通寶(北宋1054年初鑄)の完形品。ほかに瓦質火鉢、京都系土師器2期の皿、鉄釘の破片が出土している。

**SP418** (H区中) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、埋土はSP417と同じである。埋土の内容から第2焼土層上から掘り込まれたと推定される。11は土師質釜で、第2焼土層出土の破片と接合した。したがって第2焼土層上から掘り込んだ際の混入品である。

**SP421** (H区東) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、埋土はSP401と同じである。埋土の内容から第2焼土層上から掘り込まれたと推定される。中国景德镇窯系青花碗、京都系土師器2期の皿の破片が出土している。

**SK426** (H区西) L45・L46区(東2区画)のA層上面から掘り込まれた土坑で、南半は調査区外になる。12は中国景德镇窯系青花碗E群(饅頭心碗)。13は備前焼の小壺口縁。14は中国銭で「天〇元寶」と読み、天聖元寶か。ほかに瓦質土器、鉄釘の破片が出土している。

**SP438** (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、埋土はSP401と同じである。埋土の内容から第2焼土層上から掘り込まれたと推定される。内部には被熱した円礫が入っていた。

### 小結

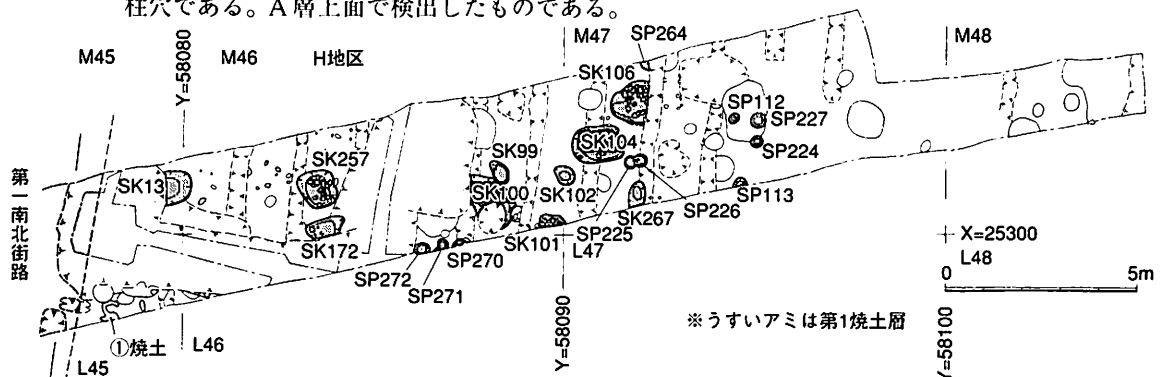
短冊型地割

第2焼土層をそのまま埋めて整地している。東1区画との境界には柱穴を用いる板塀が建てられ、さらに内部には北限境界線に平行した柱穴列があるところから、道路に接した掘立柱建物が建てられていた可能性が高い。建物と北側に通路という構成は、西1区画と西2区画でも認められた。

### ③第1焼土層以後(1596~1602直後)(第3-138図)

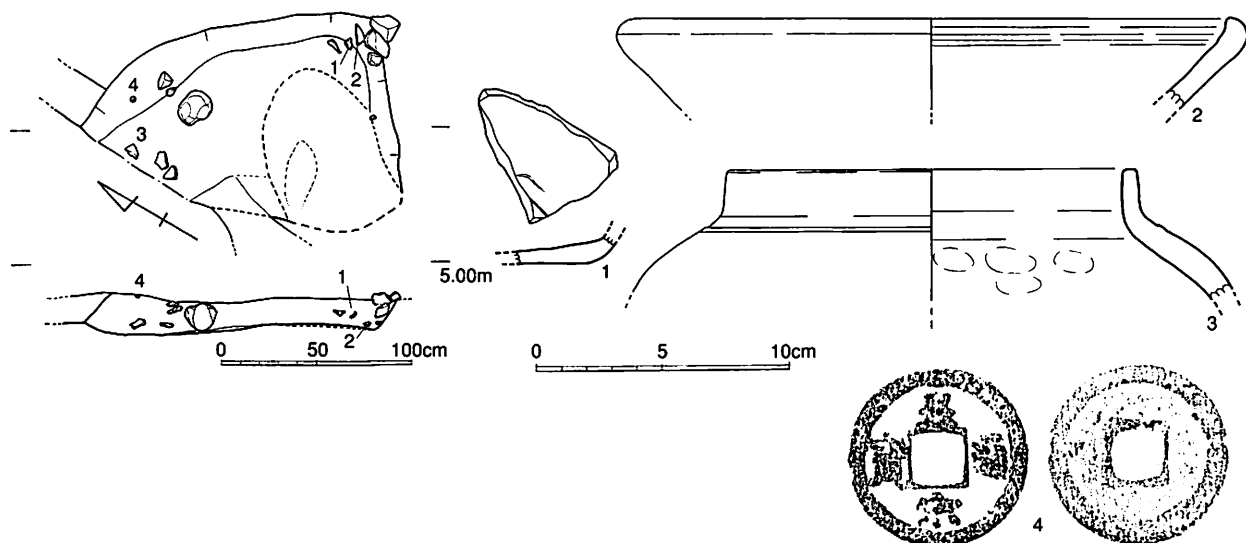
A層上面

第1焼土層以後の最終段階では東0~2区画の境界はなくなっている。遺構の大半は廃棄土坑と柱穴である。A層上面で検出したものである。



### 土坑

**SK100** (H区東)(第3-139図) M46区のA層上面で検出した不整形の土坑で、SP266を切る。



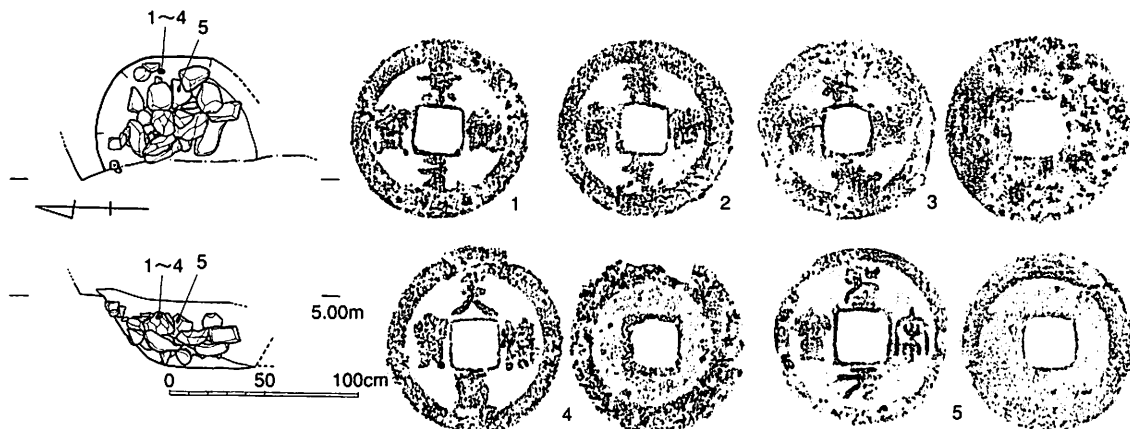
第3-139図 SK100 (遺構1/40、遺物1~3=1/3、4=1/1)

長さ1.7m以上、幅1.1m、深さ25m。近代の攪乱と重なったため、正確な形状は不明である。下部に焼土層が広がり、被熱した礫と多量の遺物が含まれ、第1焼土層上から掘り込まれた火災処理土坑である。埋土は1~2cm大の炭焼土と黄色土ブロックを多く含む暗茶褐色軟質土の単一層である。

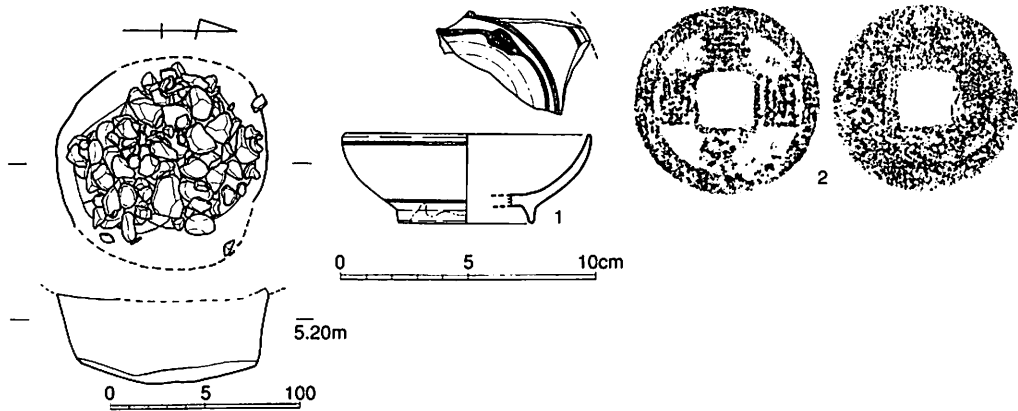
**SK100出土遺物** 1は華南三彩の盤底部。2は備前焼鉢の口縁部。3は土師器の壺口縁、SD440出土品と似る。4は中国銭の皇宋通寶(北宋1038年初鑄)の完形品。ほかに中国景德鎮窯系青花碗と青花皿E群、白磁皿、備前焼甕胴部、底部糸切りの在り系土師器、土師質火鉢、平瓦、土壁、鉄片の破片が出土している。そのうち1点の中国景德鎮窯系青花皿C群(碁笥底)はSK274出土破片と接合した。

**SK163 (H区中) (第3-140図)** M46区のA層上面で検出した不整形の土坑で、断面も半円形をなす。長さ0.8m、幅0.7m以上、深さ0.4m。内部には被熱した礫が充満し、あわせて銭貨5枚が出土したが、土坑の形状と大きさ、さらに礫廃棄による廃棄土坑としての利用から、墓ではないと考えられる。埋土は下部に焼土を多く含む砂混じり暗茶褐色土が堆積し、礫群をはさんで上部に1cm大の炭焼土を多く含む暗茶褐色土が堆積し、銭貨5枚は礫群の上に位置する。銭貨埋納遺構である。礫の大半は凝灰岩で被熱して破碎している。

**SK163出土遺物** 1~5は完形の中国銭で、1~4は5枚セットで銹着していた。1は景德通寶(北宋1004年初鑄)、2と3は祥符通寶(北宋1008年初鑄)、4は天禧通寶(北宋1017年初鑄)、5は聖宋通寶(北宋1101年初鑄)である。ほかに備前焼の甕胴部、京都系土師器1期の皿、鉄釘、土壁、砥石の破片が出土している。



第3-140図 SK163 (遺構1/40、遺物1/1)



第3-141図 SK257 (遺構1/40、遺物1=1/3、2=1/1)

集石土坑

**SK257 (H区中)** (第3-141図、図版40) M46区のA層中で検出した不整形の土坑で、断面も半円形をなす。長さ1.2m、幅1.1m、深さ0.5m。SP415を切る。埋土は暗褐色軟質土の単一層である。内部には被熱した礫が充満し、遺物や食物残渣が混じっているため廃棄土坑として利用されたものである。安山岩の被熱礫に混じり、凝灰岩と結晶片岩の礫と焼土ブロックが多い。層序からこの時期とした。

**SK257出土遺物** 1は中国漳州窯系青花碗の底部。2は中国銭の皇宋通寶(北宋1038年初鑄)の完形品、大型の巻貝が出土している。巻貝はすべてサザエおよびサザエ類である(第4章第2節参照)。ほかに備前焼の壺・甕底部、瓦質火鉢・播鉢、土師質土鍋底部、鉄釘の破片が出土している。

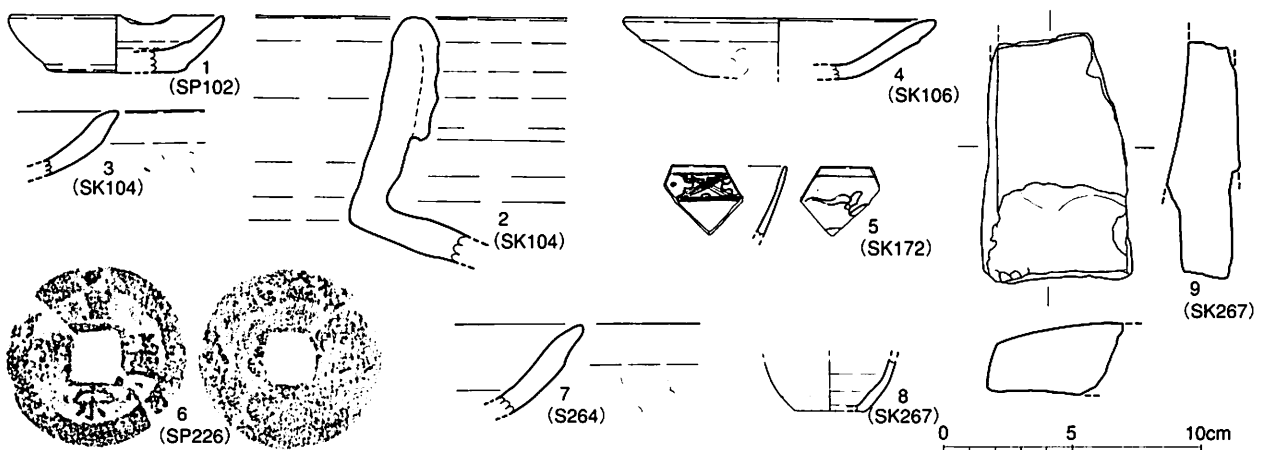
そのほかの遺構 (第3-142図)

**SK99 (H区東)** M46区(東1区画)で検出された不整形の小土坑であるが、A層上面から掘り込まれた可能性ある。長さ0.7m、幅0.4m。埋土は3~4ミリ大の炭焼土と掘り込まれたB層土の白色粘土がブロック上に混じる砂混じりの茶褐色土である。斜めすり目の備前焼播鉢と甕の破片が出土している。

廃棄土坑

**SK101 (H区東)** L46区(東2区画)のA層上面から掘り込まれた廃棄土坑である。長さ0.7m、幅0.3m以上。第2焼土層の東2区画での広がりであるSX269を切っている。層序から最も新しい遺構のひとつと考えられる。内部には被熱した礫が充満している。備前焼の甕胴部、瓦質火鉢底部、糸切りの在地系土師器、京都系土師器1期の皿の小片が礫の間に入り込んでいた。

**SP102 (H区東)** M46・47区(東1区画)のB層上面で検出した掘形円形の柱穴である。出土遺物は1の15世紀代の糸切りの在地系土師器小皿のみである。口縁に打ち欠きがある。



第3-142図 そのほかの遺構出土遺物 (1~5・7~9=1/3、6=1/1)



**SK104** (H区東) M47区のA層上面で検出した不整長円形の土坑で、底面も整っていないので  
 廃棄土坑 廃棄土坑として掘られたものと推定される。長さ1.4m、幅1m。埋土は1cm大の炭  
 焼土を多量に含む砂混じり暗褐色軟質土層で、A層上部の粘土ブロックを多く含む。2は備前焼の  
 甕口縁部で近世1期にあたる。3は京都系土師器3ないし4期の皿の口縁部。ほかに中国景德鎮窯  
 系青花皿、備前焼の甕胴部、平瓦、土壁の破片が出土している。

**SK106** (H区東) M47区のA層上面で検出した不整円形の土坑で、底面も整っていないので  
 集石土坑 集石土坑として掘られたものと推定される。長さ1m以上、幅1.2m。内部には被熱  
 した礫が集中し、埋土は5mm大の炭焼土を多く含む砂混じり暗褐色土層の単一層である。4は京  
 都系土師器2期の皿。ほかに白磁皿E1群・E2群、景德鎮窯系青花、漳州窯系青花、中国産焼締  
 陶器、備前焼の甕胴部、瓦質火鉢、糸切りの在地系土師器、鉄釘の破片が出土している。

**SP112** (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出したがA層中から掘り込まれたと推  
 定される掘形円形の柱穴である。SK261を切る。瓦質火鉢の胴部片が出土している。

**SP113** (H区) M47区(東1区画)のA層上部で検出した掘形円形の柱穴で、南壁にかかって  
 いる。白磁皿E2群の口縁部片が出土している。

**SK172** (H区中) L46区(東2区画)のA層1回目掘下げ後に検出したおおよそ不整円形の  
 廃棄土坑 小土坑で、底面は平坦になっている。A層上面から掘り込まれたものと考えられる。長さ1.1m、幅  
 0.5m以上。廃棄土坑と考えられるが遺物は少ない。埋土は1cm大の炭焼土を多量に含む茶褐色  
 軟質土の単一層で、第2焼土層を掘りぬいているため焼土ブロックを多量に含む。遺物はいずれも  
 破片が散在する状況である。5は中国景德鎮窯系青花碗E群。ほかに京都系土師器3期の皿口縁  
 部片が出土している。

**SP224** (H区東) M47区のA層上面で検出した掘形円形のピットで、1596年以前の土坑SK261  
 を切る。埋土は同時期の土坑SK104とSK106と同じである。京都系土師器2期皿の口縁の破片が  
 出土している。

**SP225** (H区東) M47区のB層上面で検出した掘形円形の柱穴で、SP226に切られる。第1焼  
 土層を切っていると見られるのでA層中からの掘り込みと考えられる。

**SP226** (H区東) M47区で検出した掘形円形の柱穴で、SP225を切る。第1焼土層を切ってい  
 ると見られるのでA層中からの掘り込みと考えられる。6は中国銭の皇宋通寶(北宋1038年初鑄)  
 の完形品。

**SP227** (H区東) M47区のA層中で検出した掘形円形の柱穴で、1596年以前の土坑SK261を  
 切る。内部には礫と焼土の堆積があったが、遺物はない。切り合い関係からこの時期とした。

**S264** (H区東) M47区のB層上面で検出した掘り込みで、内部から7の京都系土師器3ない  
 し4期の皿口縁が出土した。口縁を打ち欠いた上に破砕している。ほかに白磁の破片が出土してい  
 る。

**SK267** (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した長円形の小形土坑で、第2焼土層  
 の一部であるSX268を切る。長さ0.4m、幅0.3m。おそらくA層上からの掘り込み。8は中国産  
 陶器茶入れ小壺の底部。9は結晶片岩製の砥石。ほかに中国漳州窯系青花碗底部1点、京都系土師  
 器1期皿1点の破片が出土している。

このほかに掘形円形のピットである**SP270**、**SP271**、**SP272**もこの時期の遺構と考えられる。

## 小結

第1焼土層以前に存在していた東0区画、東1区画、東2区画の境界の段差はなく、柱穴列等  
 は、認められない。

## まとめ 3小期に区分可能

## ①推定1575～1587年 第2焼土層以前

短冊型地割 上市町の道路より東側全体が整地層による遺構であり、東0区画、東1区画、東2区画の3つの  
同時に整地 区画が南にいくほど低くなる段差をもって区画されている。整地は区画毎に別個になされたのでは  
なく、調査区内の3つの区画は同時に一括して造成されたものと考えられる。東1区画は東西に長  
く伸びる短冊型の区画である。東0区画とは整地層の段差を作り、東1区画の方が低くなってい  
る。幅はほぼ4.8mである。東2区画との境界も段差があり東1区画の方が高いが、東2区画の端  
柱穴列 には柱穴列があり、建物あるいは柵列で境をなしていたものと考えられる。東2区画は、柱穴が多  
いが土坑が少ないという遺構の分布状態から見て、掘立柱建物が存在していた可能性が大きい。短  
冊状の区画のなかで道路に近い位置に建物が建つ点で、町屋遺構の状況と一致する。

## ②推定1587～1596年 第2焼土層以後

短冊型地割 継続して、東0区画、東1区画、東2区画の3つの区画が維持されている。第1焼土層が堆積す  
る火災を受けている。この焼土層は中世大友府内町第4次調査の第1焼土層に対応するものと推定  
される。東0区画にも本来火災による焼土層が広がっていたことは、火災処理土坑の存在からわか  
る。その後土坑がほられているが、柱穴は極めて少ない。おそらく東0区画は、道路から15～20m  
隔たっているので、裏側の空閑地の部分であったと考えられる。東2区画では第2焼土層をそのま  
ま埋めて整地している。東1区画との境界には柱穴を用いる柵列が建てられ、さらに内部には北限  
境界線に平行した柱穴列があるところから、道路に接した掘立柱建物が建てられていた可能性が高  
い。

## ③推定1596～1620直後 第1焼土層以後

第1焼土層以後の最終段階では東0～2区画の境界はなくなっている。遺構の大半は廃棄土坑と  
柱穴である。最終段階まで町屋として使用されたものと推定される。第1焼土層以前に存在してい  
た東0区画、東1区画、東2区画の境界の段差はなく、柱穴列等は認められない。

## VI. 包含層・整地層出土の遺物（第3-143図）

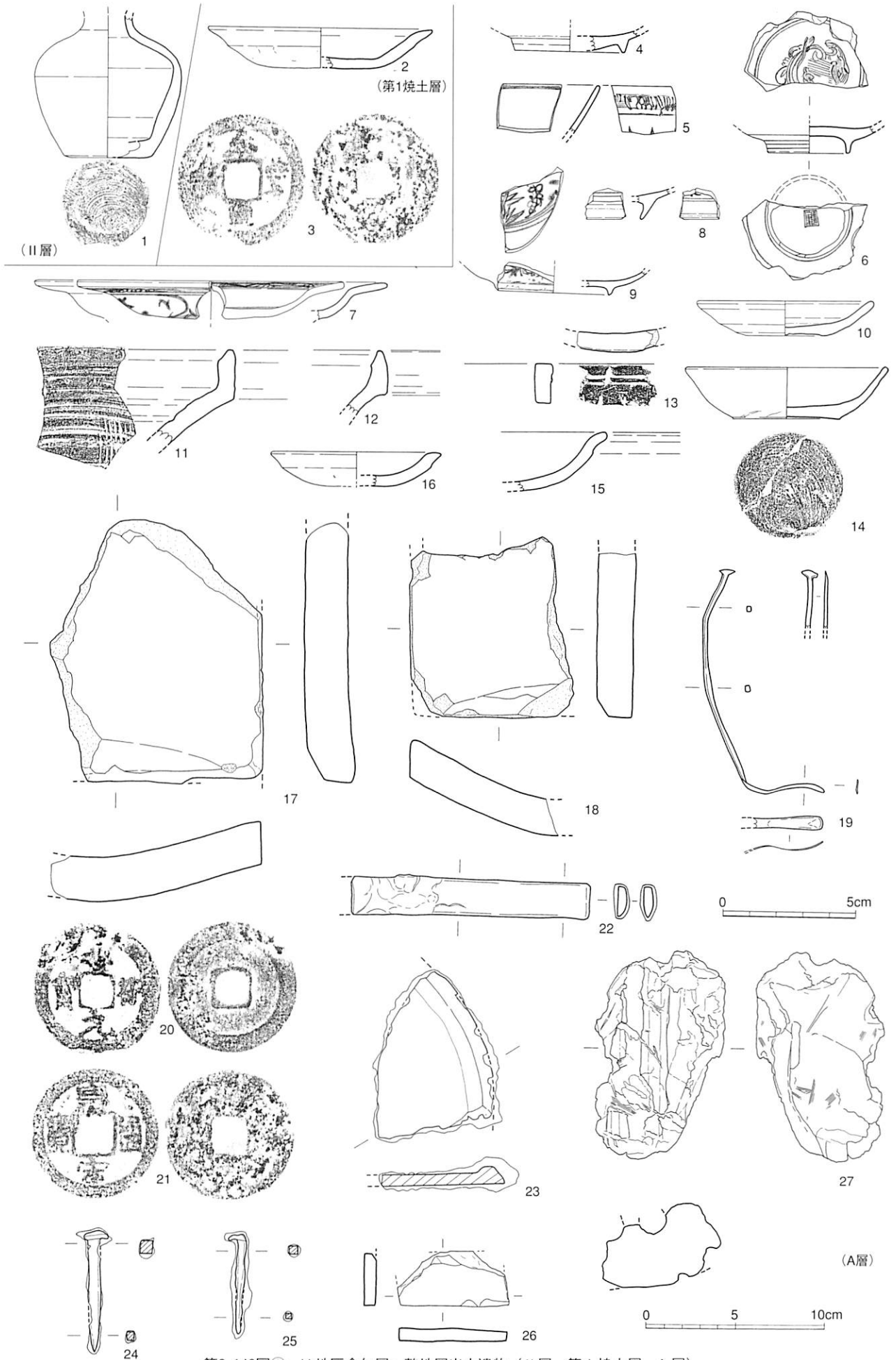
Ⅱ層：（H地区I B表土層下層）1は備前焼の茶入れ小壺。

1596年 第1焼土層：1596年の慶長大地震による火災層。2は京都系土師器2期の皿。3は完形の中国銅  
銭の元豊通寶（北宋1078年初鑄）。

青花E-F群 A層：1587年の火災後の整地層。4は16世紀後半の白磁碗。5は中国景德鎮窯系青花碗C群の  
蓮子碗。6は中国景德鎮系青花碗E群の饅頭心碗。7は中国景德鎮系青花皿F群口縁。8は中国  
近世1期播鉢 五彩碗口縁。9は中国五彩皿底部。10は大窯3期の瀬戸美濃産小皿。11は中世6b期の備前焼の播  
鉢。12は近世1a期の備前焼の播鉢口縁。13は瓦質の把手か。14は口縁に打ち欠きのある完形の糸  
切りの在在系土師器の坏。15は内面に煤の付着した京都系土師器2期の皿。16は京都系土師器2期  
の小皿。17と18は平瓦。19は長さ十数cmの銅製の小匙あるいは耳搔きか。20は完形の中国銅銭の  
祥符通寶（北宋1008年初鑄）。21は完形の中国銅銭の皇宋通寶（北宋1038年初鑄）。22は鉄芯銅板巻  
きの小柄の柄。23は鉄製農具のへら先。24と25は完形の鉄釘。26は仕上げ砥石。27は竹の痕の残る  
土壁。

ほかに中国景德鎮窯系青花碗C群1点。瀬戸美濃大窯3期の皿。斜めすり目の近世1期の備前  
焼の播鉢5点。瓦質火鉢底部の1点はSK11出土破片と接合。内面にロクロ目を残す土師器皿1  
点。京都系土師器2期の皿1点。完形銅銭1点。さびで銭種不明の完形の銅銭1点。銅銭の破片4  
点。以上の破片が出土している。

1587年 第2焼土層：1587年の火災層。28は16世紀の瓦質土器碗底部。29は京都系土師器1期の皿。30は



第3-143図① H地区包含層・整地層出土遺物 (II層、第1焼土層、A層)  
 (3・20・21=1/1、19・22~25=1/2、そのほかは1/3)

完形の中国銅銭の元祐通寶（北宋1086年初鑄）。31は鉄釘。32は砥石。ほかに中国漳州窯系皿1点はSK410出土破片と接合。完形の京都系土師器1点が出土している。

**B層上面** 33は白磁皿。34は中国五彩皿底部。35は近世1b期の備前焼播鉢口縁。36は京都系土師器3期に近い2期の皿。37は管状土錘B類の超小型品。38と39は完形の鉄釘。40は完形の仕上げ砥石。41は用途不明の石製品。

ほかに中国景德鎮系青花皿B2群1点。斜めすり目の近世1期の備前焼の播鉢1点。京都系土師器1点はSK417出土破片と接合。

**B-1層**：1587年の火災前の整地された生活面（16世紀第4四半期）。42は中国龍泉窯青磁瓶口縁。43は白磁皿E-2群。44は朝鮮王朝産舟德利。45は瓦質播鉢河野C-2類口縁。46は京都系土師器2期の小皿。47は京都系土師器転用のるつぽ。

**B-2層**：第3焼土層堆積後の最初の整地層（16世紀第3四半期）。48は剣先蓮弁文の中国龍泉窯青磁瓶口縁。49は中世6a期の備前焼播鉢。50は口縁全周を打ち欠いて破砕した糸切りの在り系土師器の坏、51は九州型の丸瓦。

**第3焼土層直上**（ほとんど第3焼土層に含まれる）：52は内面が露胎の16世紀の白磁皿。53は中国景德鎮青花碗C群の蓮子碗口縁。54と55は京都系土師器1期の皿。56は京都系土師器1期ないし2期の皿。57は口縁に煤の付着した灯明皿として使用された京都系土師器2期の小皿。58は口縁に打ち欠きのある京都系土師器のミニチュアの完形品。59は胎土が海部産の平瓦。60～63は完形の中国銅銭。60は祥符通寶（北宋1008年初鑄）。61は治平元寶（北宋1064年初鑄）。62は元豊通寶（北宋1078年初鑄）。63は2枚鑄着した完形の銅銭で、1枚は元祐通寶（北宋1086年初鑄）。ほかに白磁皿E2類1点。錯で銭種不明の完形の銅銭1点が出土している。

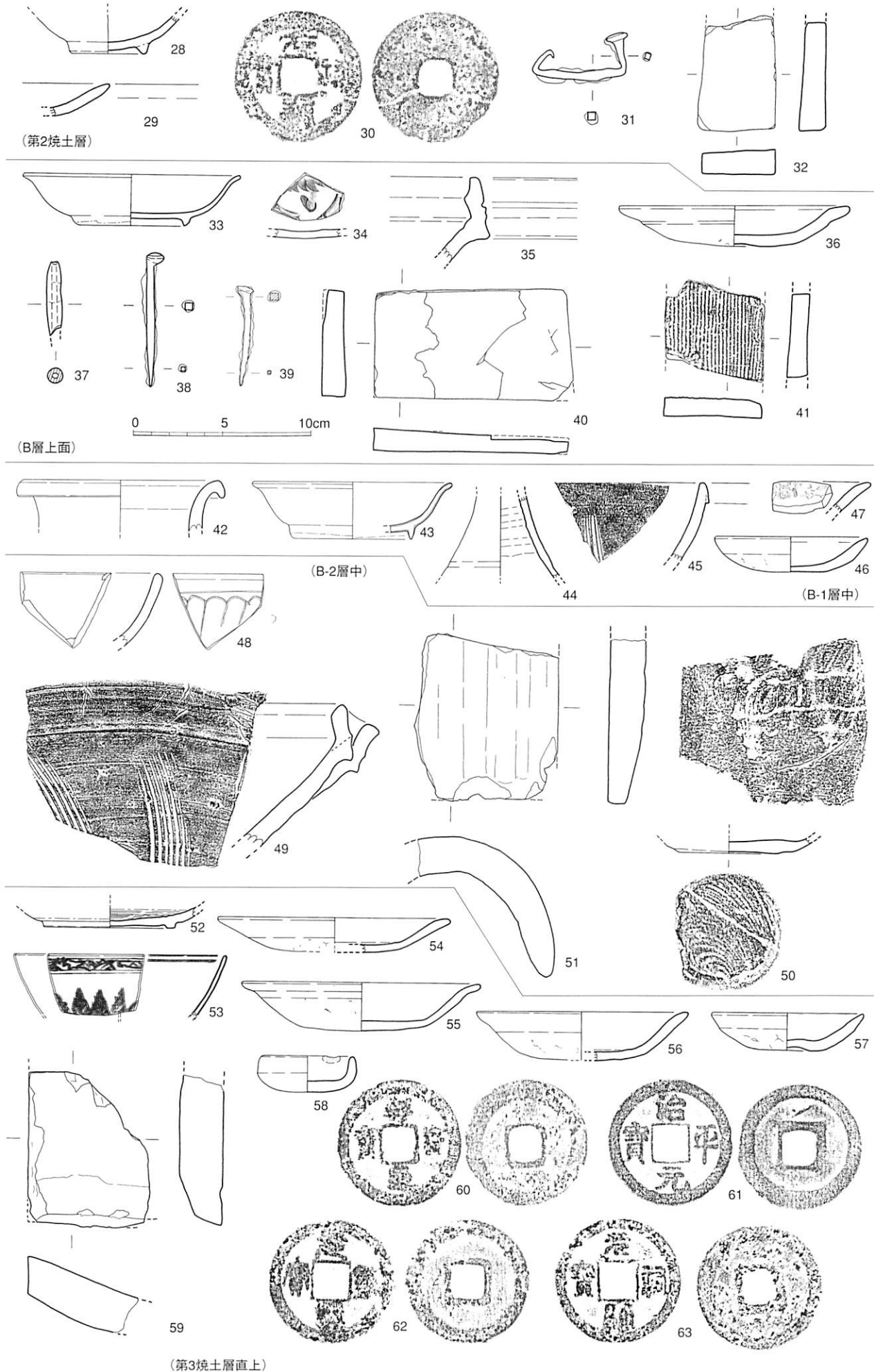
## 第3四半期

**第3焼土層A**：16世紀第3四半期の火災層。64は中国景德鎮系青花皿B1群。65は蓮子碗模倣の中国漳州窯系青花碗。66は13世紀の中国磁窰窯黄釉鉄絵陶器、67は朝鮮王朝産陶器舟德利底部。68は中世6b期の備前焼播鉢口縁。69は双頭蕨手流雲文の刻印のある瓦質火鉢口縁。70～72は瓦質鍋口縁。73は瓦質土器碗の底部。74は糸切りの在り系土師器。75はロクロ痕をナデ消した本来はロクロ目を残す土師器の皿。76は内面にロクロ目を残す土師器の小皿。77～80は京都系土師器1期の皿。81は京都系土師器1期の小皿口縁。82は京都系土師器2期の皿。83は京都系土師器3期の皿。84は灯心押さえに使用した土製有孔円盤。85は完形の管状土錘A類小型。86は完形の管状土錘A類。87は土器片を転用したメンコ形土製品。88は鉄芯銅板巻きの小柄の柄。89は銅製の金具。以下は完形の中国銅銭である。90は開元通寶（唐621年初鑄）。91は天聖元寶（北宋1023年初鑄）。92は皇宋通寶（北宋1038年初鑄）。93と94は灑寧元寶（北宋1065年初鑄）。95は元豊通寶（北宋1078年初鑄）。96は元符通寶（北宋1098年初鑄）。97は政和通寶（北宋1111年初鑄）。98は永樂通寶（明1408年初鑄）。99は「○祐○寶」と読める中国銅銭の破片。100は「○祐元○」と読める中国銅銭である。101は端部が環頭で、90度に曲がる鉄製品。

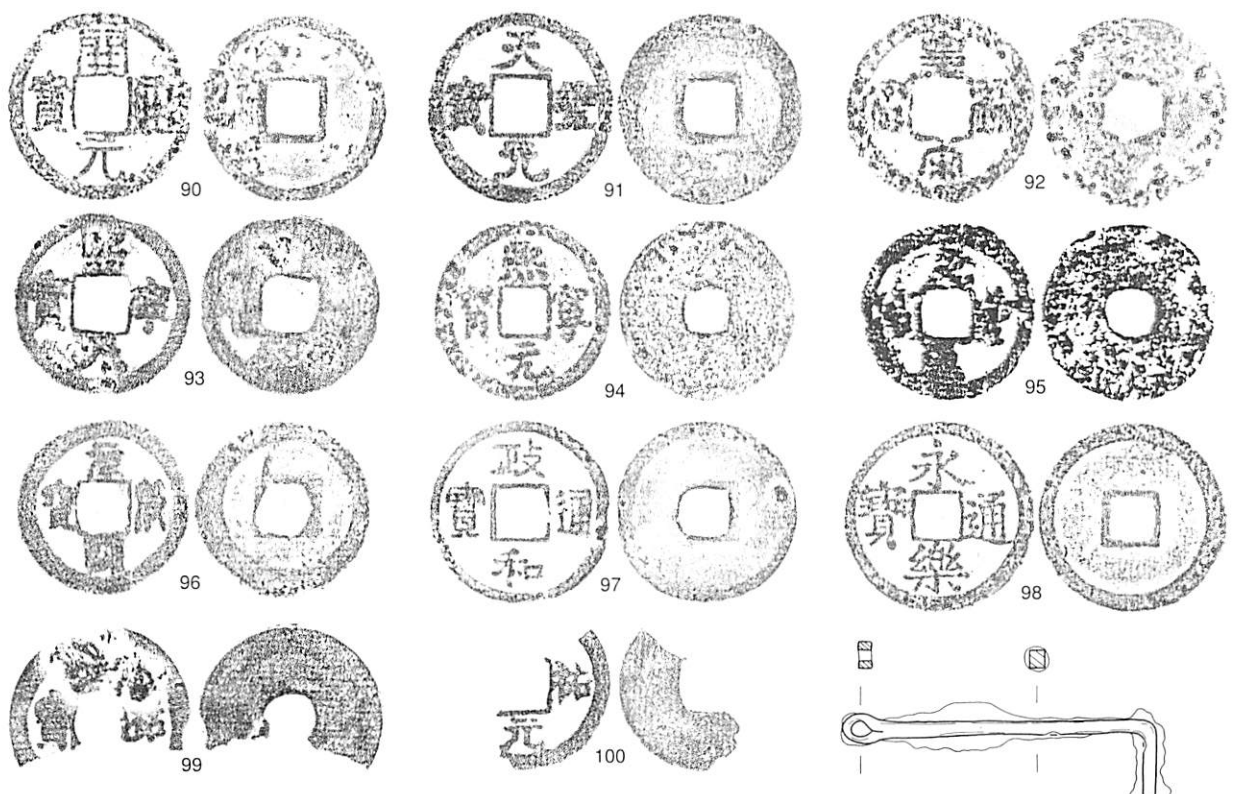
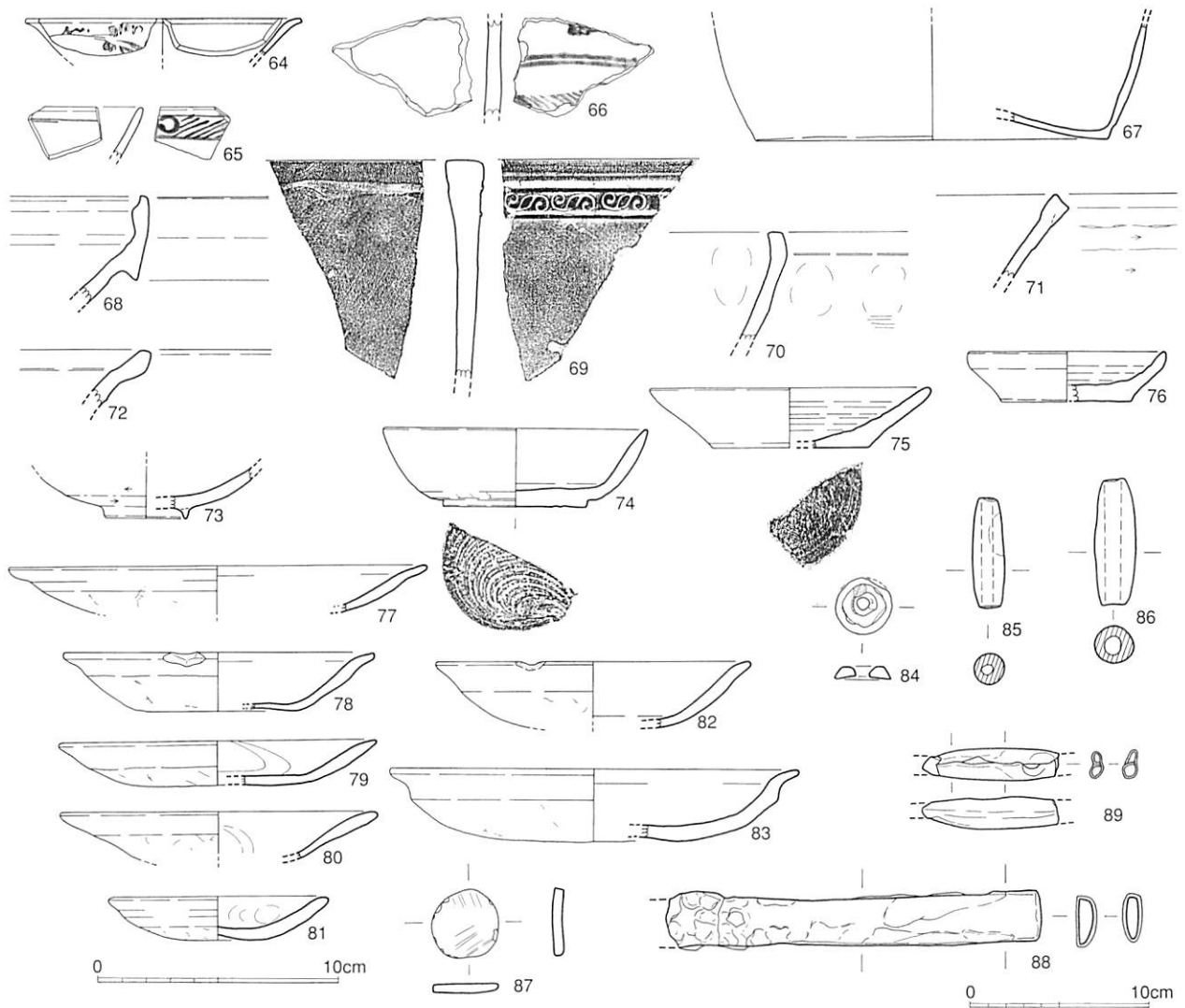
ほかに中国龍泉窯系青磁1点。16世紀の白磁皿1点。中国漳州窯系青花1点。備前焼の甕1点・播鉢1点、瓦質火鉢7点・播鉢3点・鍋2点。糸切りの在り系土師器の坏3点。糸切りの在り系土師器3点。大内系土師器1点。内面にロクロ目を残す土師器3点。京都系土師器1期の皿6点。京都系土師器2期の皿4点。分類不能の京都系土師器1点。埴1点。錯で銭種不明の完形の銅銭6点。銭貨2枚。鉄釘多数。残留遺物として須恵器甕1点。以上の破片が出土している。

**C層上面**：102は中国製焼締陶器壺胴部。103は「○平通寶」と読める中国銅銭の完形品。

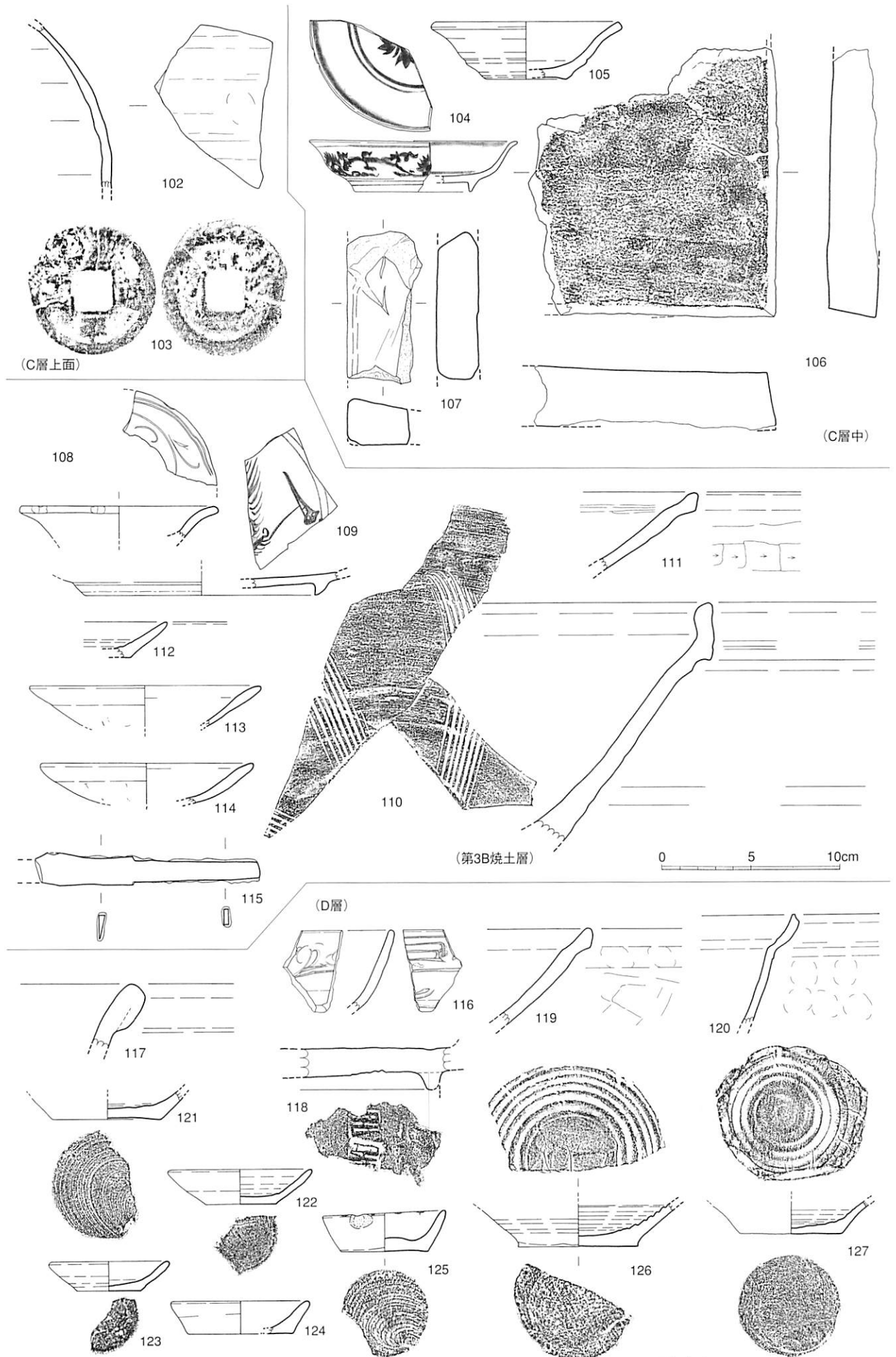
**C層**：104は中国景德鎮窯系青花皿B1群。105は糸切りの在り系土師器小皿の大型品。106は埴。107は砥石。ほかに錯で銭種不明の完形の銅銭1点が出土している。



第3-143図② H地区包含層・整地層出土遺物 (第2焼土層、B層上面、B-1層、B-2層、第3焼土層直上)  
 (30・60~63=1/1、そのほかは1/3)



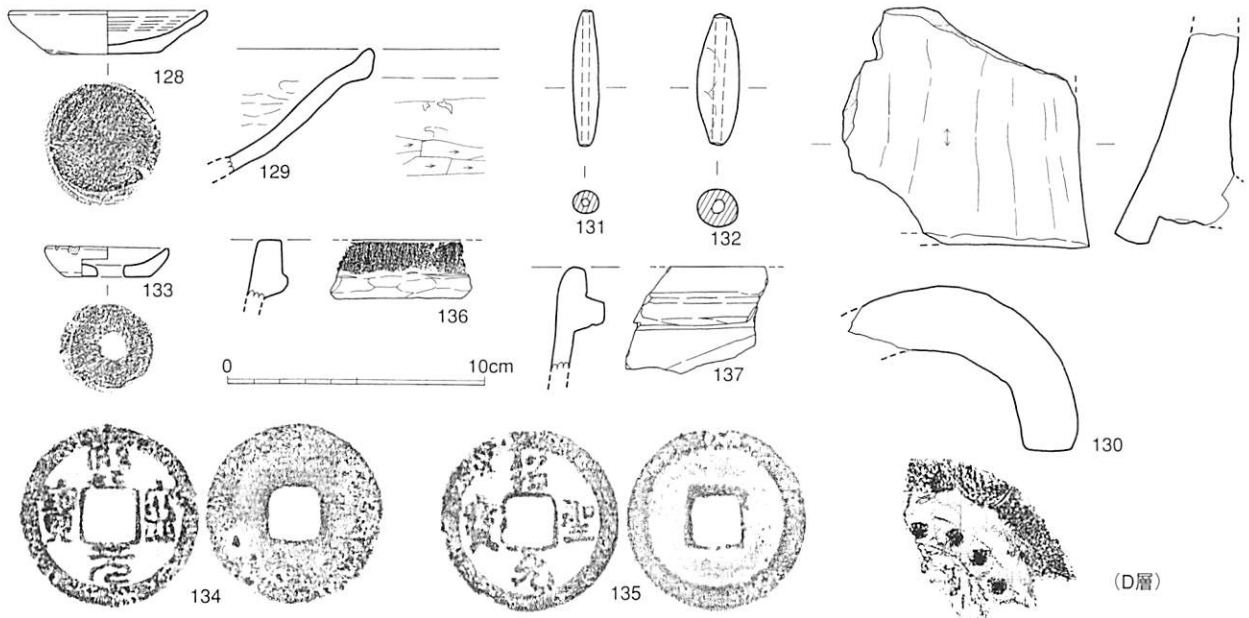
第3-143图③ H地区包含層・整地層出土遺物(第3A焼土層)(64~87=1/3、88・89・101=1/2、90~100=1/1)



第3-143図④ H地区包含層・整地層出土遺物 (C層上面、C層、第3B焼土層、D層) (1/3、103=1/1)

**第3焼土層 B**：108は15世紀の中国龍泉窯青磁稜花皿。109は中国景德鎮窯系青花皿 B 群。110は摩滅した中世 6a 期の備前焼播鉢口縁。111は瓦質鍋口縁。112は内面にロクロ目を残す土師器の小皿。113は京都系土師器 1 期の皿。114は京都系土師器 2 期の皿。115は鉄製刀子の先端。ほかに糸切りの在り系土師器の坏 1 点。1590~1610年の唐津碗 1 点は混入か。京都系土師器 1 期の皿 1 点。銅で銭種不明の完形の銅銭 2 点。以上の破片が出土している。

**D 層**：116は15世紀の中国龍泉窯青磁碗 C 3 類。117は15世紀の備前焼甕口縁。118は底部外面に刻印のある瓦質火鉢。119は瓦質鍋口縁の河野 B-2 類。120は瓦質鍋口縁。121は糸切りの在り系土師器の坏底部。122~125はいずれも口縁に打ち欠きのある糸切りの在り系土師器の小皿（125は煤の付着した灯明皿）。126と127は内面にロクロ目を残す土師器の皿（127は口縁全周を打ち欠く）。128は口縁を打ち欠いた上破砕した、完形の内面にロクロ目を残す土師器の小皿。129は河野 B-2 類の瓦質鍋口縁。130は軒丸瓦。131と132は完形の管状土錘 B 類小型品。133は底部に焼成後の穿孔を施して紡錘車に転用した可能性の高い糸切り土師器の小皿で、口縁に打ち欠きがある。134は完形の中国銅銭の滌寧元寶（北宋1068年初鑄）。135は完形の中国銅銭の紹聖元寶（北宋1094年初鑄）。136と137は滑石製石鍋の口縁。ほかに埴 1 点、銅で銭種不明の完形の銅銭 1 点が出土している。



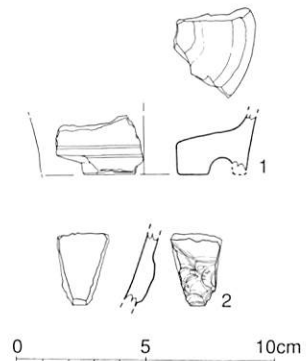
第3-143図⑤ H 地区包含層・整地層出土遺物 (D 層) (128~133・136・137=1/3、134・135=1/1)

**その他の遺物 (第3-144図)** ここであふれる遺物は、耕作土や近現代の畑遺構や攪乱内から採集した遺物のうちから、選択した遺物である。

1 は青磁香炉底部。2 は中国産褐釉陶器貼り花龍文壺胴部片。

**第16次調査区出土遺物の補遺 (第3-145図)**

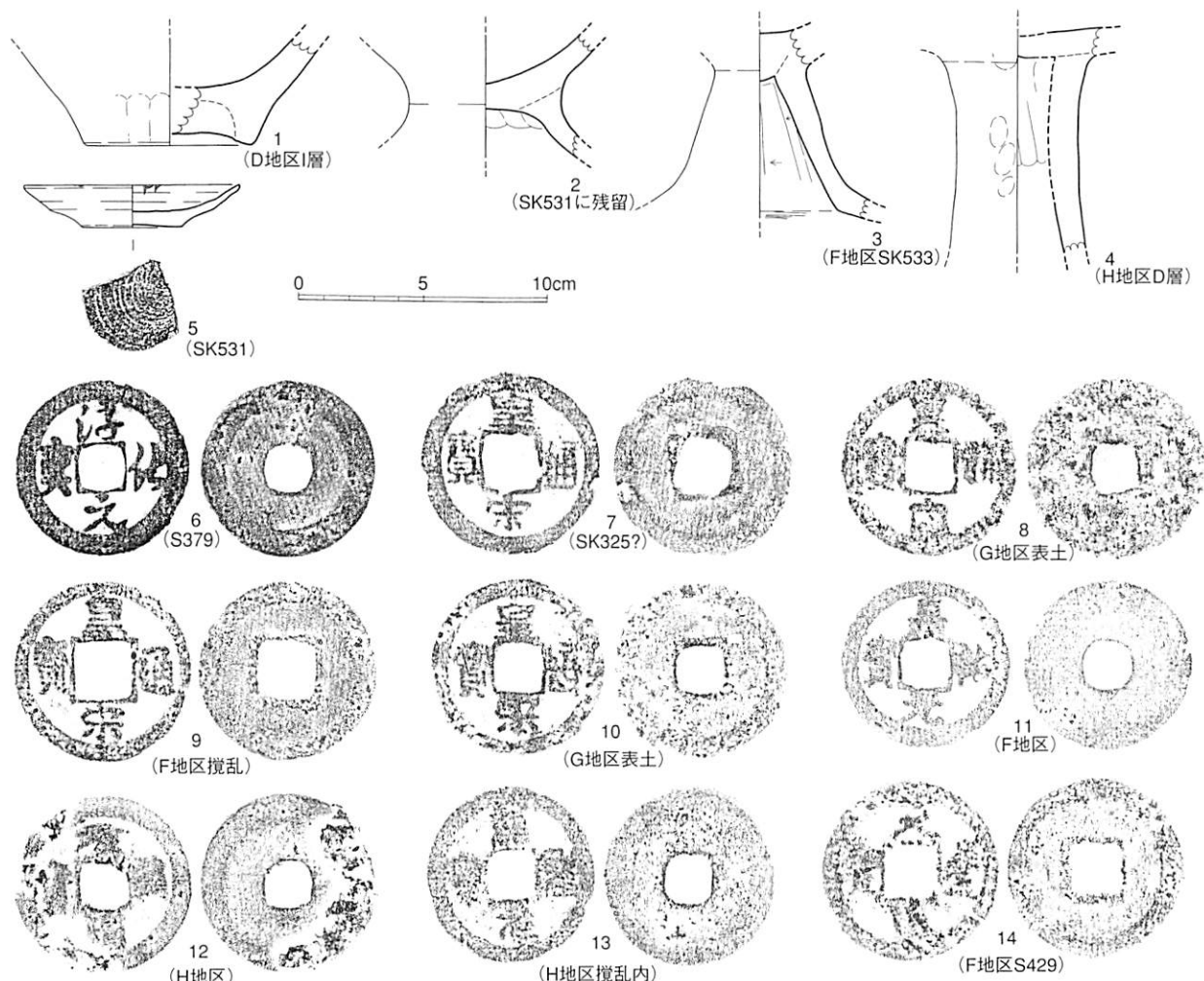
以下に記述する遺物は、包含層や新しい遺構に残留した遺物である。1 は結晶片岩を胎土に含む海部産の弥生時代前期末の甕底部。2 は H 地区 SK531 出土の弥生時代後期末の台付鉢。3 は古墳時代前期の土師器高坏の脚部。4 は弥生時代中期の高坏脚部で、坏部と脚部は別つくり。5 は H 地区 SK531 出土の在り系の糸切り土師器で、口縁に 1 回のみ煤の付着した灯明皿。6 は F 地区 SK379 出土の淳化通寶（北宋990年初鑄）。7 は F 地区 SK325 出土の皇宋通寶（北宋1038年初鑄）。8 と10は G 地区近世溝出土



第3-144図 そのほかの遺物 (1/3)



の皇宋通寶 (北宋1038年初鑄)。9はF地区攪乱坑出土の皇宋通寶 (北宋1038年初鑄)。11はF地区SK188近くの壁面から採集した嘉祐通寶 (北宋1056初鑄)。12はH地区東1区画出土の元祐通寶 (北宋1086年初鑄)。13はH地区攪乱坑出土の紹聖元寶 (北宋1094年初鑄)。14はF地区西3区SK429出土の元寶通寶か。



第3-145図 第16次調査区出土遺物補遺 (1~5=1/3、6~14=1/1)

## 第8節 小結

### I. 遺構の変遷

各時期の遺構の変遷については、各節の小結において述べたが、ここでは要点をまとめておきたい。古代の遺構についてはSK31以外にまとまった遺構はないので、ここでは中世の遺構をまとめる。

#### 15世紀の遺構

大溝 SD18 A・B 地区において、のちに御所小路の道路が造られるラインの北側に、並行する東西方向の大溝SD18が存在する。おそらく第7次調査区の第1南北街路の東西で発見された大溝SD192やSD295と同一の性格の大規模な区画溝であろう。そのように考えてよければ、15世紀の段階でいちやくその後御所小路が造られる位置に、道路あるいは何らかの境界が存在した可能性が高い。

第1南北街路 両側は区画溝 第1南北街路 両側は区画溝 第1南北街路の遺構をSF70として確認した。この道路は第7次調査区のSF183に対応するもので、SF183に比べてより上層まで残っていたため、少なくとも16面の道路舗装面を確認することができた。同時にSF70の下には南北方向の大小の溝が平行して掘られていることが確認され、そのうちSD565は15世紀前半までさかのぼり、第7次調査区のSD192に対応する可能性がある。またSD597とSD598にはさまれた空間にはSF70の最初の掘削で削平された整地層があり、第7次調査区のC地区のⅦ層整地層に近似する。この整地層はおそらく第7次調査区C地区の15世紀後半の道路跡SF293と対応するものであろう。以上のように、この周辺では第7次調査区同様、第1南北街路はすでに存在しているが、両側は溝で区画された状態である。その内部と考えられる場所には同時代の遺構は非常にすくない。したがって商工業者が集住しのに「上市町」と呼ばれる町屋が、15世紀に成立していたとはどういおもえない。

#### 16世紀前半の遺構

第1南北街路の付替 まず最も重大な変化は、その後17世紀初頭まで使われることになる道路遺構SF70が初めて建設されることである。この道路面の下層道路の積土の中にはロクロ目を残す土師器が含まれないので、15世紀にさかのぼる可能性を残している。その点は、第7次調査区のSF183と同じである。

舗装道路 幅7～8m 上市町の道路遺構については、掘り下げて版築状に積み土を重ねて造成された豊後大友型道路と考えられてきたものであるが、実際には一単位の舗装が何度も繰り返された結果としてそうなるにすぎない。一単位の舗装とは通常砂を敷き、貝殻を混ぜた粘土を路面とする舗装道路である。時代が新しくなるにつれて粘土に砂利混じりが多くなる傾向がある。道幅は当初から、幅7～8mで1596年の慶長大地震のころまでは道幅は維持されている。

上市町西 上市町東 道路の東西では、前代まで繰り返し掘られていた道路に並行する溝がほぼ埋没し、その後あらたに掘られることはなくなる。西側にはD層とした整地層が認められる。遺構の密度こそ少ないが、第7次調査区と同様に道路に面して入り口を持って、溝によって閉ざされていない町屋が出現したものと考えられる。一方東側にはSD590などがあり、まだ15世紀と同じ状況がつづいている。御所小路側では南北溝SD17が、第1南北街路に平行してから西に約70m隔てて掘られている。この溝は2005年発掘の第58次調査区（大分市教委）のSD020と方向と時期が一致するので、同一のものと考えてよい。

以上のように第2四半期までは、第7次調査区の状況ときわめてよく似ている。溝による区画はなくなり、新たに第1南北街路が建設され、それに伴った両側に整地が行われている。このように16世紀の初頭に都市整備のひとつの画期がある。

#### 16世紀後半の遺構

短冊型地割 この時期の特徴は短冊型地割の形成である。第3焼土層堆積後の復興時の16世紀第3四半期に上市町の両側に短冊状の地割が出現する。その後第2焼土層復興後にも再生されるが、最終段階にあ

たる17世紀初頭の、おそらく上市町の道路が狭められる段階では、東西両側にはこの地割はなくなる。特に第1南北街路の東西では、間口2間と考えられる短冊型地割が出現する。これは第3焼土層を形成する火災の復興時の整地に伴うもので、道路もSF70第5硬化面として舗装されている。短冊型地割は、整地の際に段差を伴い、境界には柱穴列が設けられている。施設の配置や景観などの町屋の内容をうかがう資料には乏しいが、西1区画では銅工房と考えられる床面を発見している。また瓦と礎石らしき石がこの時期から増えてくることから、おそらく短冊型地割の導入にともなって一定の礎石立ち瓦葺の建築様式の導入がなされたものと推定される。

段差と柵列

一方御所小路町では、16世紀第3四半期の道路遺構（側溝SD278、SD21・22と3面の舗装面）が発見されている。道路の北側の一部を調査したのみなので、道路の建設がさらにさかのぼる可能性も否定できないが、16世紀初頭に造られる第1南北街路SF70や、SF183より後出することは明らかである。この道路の建設に伴って御所小路町の北側にも区画が設定されたもようであるが、上市町と清忠寺町の町屋とは異なっている。

境界

上市町と御所小路町の境界は、第3四半期には整地層A層の有無でたどることができるが、第4四半期にはSD110によって区分できる。しかしこの溝は北西-東南方向に斜行しており、なおその性格を見定めがたい。

武家と町人

以上のように16世紀後半を通して、御所小路町と上市町はまったく性格の異なる町並みとして推移したことは明白である。あえていえば、御所小路町は武家屋敷、上市町は町人屋敷と考えられる。特に上市町の両側の短冊型地割は1587年と推定される第2焼土層堆積後も、整地をして再び同じ位置に地割を行っている。さらにその上には、その後におこった1596年の慶長大地震の火災と推定される第1焼土層が堆積している。その復興後には、短冊型地割を形成していた整地の段差も柵列も認められなくなり、厳密な意味での復興はなされなかった可能性が高い。それを傍証するように第1南北街路SF70の道路の最終路面と考えられる第0硬化面は、これまでの道路幅の半分以下の3mに狭まり、西側から建物SB304が張り出してくる。ある程度の復興は行われているが、島津侵攻後の復興が大友義統による従来の位置での都市再建をめざしたものと考えられるので、復興の規模方法も大規模かつ復興前の関係を復活するものであったが、慶長大地震後においては大友氏はすでに除国されている。豊臣氏蔵入地として奉行の支配する時代の府内では、復興も極めて安易なものになっていたと考えられる。

最終段階

## II. 焼土層の時期と対応関係

すでに本文中に記述したことであるが、府内町跡第16次調査区とくに上市町の第1南北街路とその両側において、繰り返し火災が発生し焼土層が形成されていることが判明した。当時小規模な火災は絶えず発生したであろうが、局地的な火災の多くは焼土を含めて除去され、府内町跡でも大小の火災処理土坑が存在する。しかし大規模で一定の広さが火災にあった場合には火災による焼土層を除去せず、その上に整地を行ってあらたな生活面を形成して復興している。第16次調査区では、上市町西側のG・F地区において5回の焼土層とそれに対応する整地層を確認し、上市町東側では4回の焼土層と整地層を確認した。その対応関係は西側の15世紀の焼土層である第5焼土層を除くと、道路SF70の道路の舗装面との関係から以下のように推定できる。

火災と復興

焼土層

層序との対応

- ・上市町西側第4焼土層（D層上面）＝SF70第11硬化面＝上市町東側では対応する焼土なし。
- ・上市町西側第3焼土層AとB（C層上面）＝SF70第6硬化面＝上市町東側第3焼土層AとB（D層上面）。第3焼土層は上下2つの堆積として認識できるが、その間の整地層は生活面を形成していないので、別の火災焼土層と考えるよりもB層整地の際の移動によるものとする。
- ・上市町西側第2焼土層（B層上面）＝SF70第3硬化面＝上市町東側第2焼土層（B層上面）。

・上市町西側第1焼土層（A層上面）＝SF70第1硬化面＝上市町東側第1焼土層（A層上面）。

さてこの焼土層形成の火災の年代を考えるために、焼土層とその直後に行われた整地層に含まれる遺物を検討してみよう。

ロクロ目土師器

**第4焼土層とC層整地層** まず土師器の組成では、内面にロクロ目を残す土師器が主体で、在地系土師器を含むが、京都系土師器は含まない。備前焼も中世5期ないし6期ものである。内面にロクロ目を残す土師器が主体となる点を重視して16世紀第1四半期と考える。

16世紀第1四半期

京都系土師器

**第3焼土層とB-2層整地層** 土師器には京都系土師器1期の皿が多く、京都系土師器2期の皿が一定量ふくまれるが、3期の皿はほとんどない。中国景德鎮窯系青花ではC群の碗皿が主体で、E群はほとんどない。朝鮮王朝産舟徳利と中国漳州窯系青花が出現する。漳州窯青花は、中国景德鎮窯系青花のC群の蓮子碗と碁笥底の皿を模倣したものに限られる。備前焼播鉢は中世6b期が多く、斜めすり目の近世1期の播鉢は含まない。以上の特徴から16世紀第3四半期の比較的新しい時期と考えておきたい。

16世紀第3四半期

16世紀第4四半期

**第2焼土層とA層整地層** 土師器は京都系土師器2期皿が主体でと3期の皿が一定量含まれる。中国景德鎮窯系青花はC群よりE群の饅頭心碗が主体、五彩も含まれる。また中国漳州窯系青花がかなり含まれるようになる。中国や東南アジア産の黒褐釉陶器や焼締陶器、華南三彩も目立つようになる。備前焼は近世1期の甕と斜めすり目の近世1期の播鉢が主体。この第2焼土層が各焼土層の中でもっとも厚くかつ広がりを持つところから、16世紀第4四半期のものと考えられる。

16世紀末

**第1焼土層** 陶磁器と土器の組成としては第2焼土層とほとんど変わらないが、SF70の第0硬化面に伴う遺構からは、中国景德鎮窯系青花F群の皿と唐津焼灰釉陶器の皿が加わるほかに、京都系土師器4期の皿といってもよい厚手のものが出現する。したがって16世紀の末、1590年代と考えられる。

第4焼土層

以上の年代観にあてはまる具体的な歴史的イベントを考えると、16世紀第1四半期の第4焼土層の前後の時期については、府内に関わる騒乱記事は多い。まず明応3（1494）年の田原親宗による府中襲撃。明応5（1496）年の御所の辻合戦、府内騒乱と伝える永正13（1516）年の朽網親満の乱、府内来迎寺で一族75人が族滅された大永2（1522）年の大神親照の成敗、府内市の町の武家屋敷を襲った享祿3（1530）年の府内における氏姓遺恨事件などがその候補である。今のところ具体的に指摘する手がかりがないので今後の研究をまちたいが、氏姓遺恨事件の記事からみて1530年に市の町すなわち上市町ないし下市町など第1南北街路沿いに、武家屋敷が存在したことを推測させることは重要である。

第3焼土層

第3四半期と推定した第3焼土層について、府内の一部が焼亡した可能性があるのは次の2つの事件である。ひとつは天文22（1553）年の一万田鑑相・宗像鑑久・服部右京助の反乱で、その際火災が発生し、商人と武家の屋敷約300戸が消失したという。もうひとつは弘治2（1556）年の小原鑑元の乱で、府内の町で多数の死者がでる騒乱となっている。1540年代から1570年代で文献に記録されて火災を伴う騒乱はこの2回しかない。さしあたりこの1550年代の騒乱による火災の可能性を考えておきたいが、出土遺物の組成とは、必ずしも合致しない。

第2焼土層

第1焼土層

第4四半期の第2焼土層は、従来から言われているように、1587年の烏津侵攻時の火災に、第1焼土層は河野史郎氏が考えたように1596年の慶長大地震にともなう火災を考えるのが妥当であろう<sup>(注2)</sup>。

道路舗装  
8年一造

ところでこの実年代観を検証するために、焼土層の間に道路が舗装された回数を考えてみよう（第3-44図）。まず道路SF70の舗装面については、部分的な硬化面はさらに多いが、側溝まで整備されるような道路の舗装は、第0から15硬化面までの16回を明確に認識できた。この道路遺構の開始は15世紀末から16世紀初頭の一時点で、終末は1602年の近世府内城下町建設から数年のうちで

あるから、ほぼ100年強の間に15回道路面の更新がなされていることになる。単純に割り算をしても6年ないし7年に1回という計算となる。ただしその間に焼土層が堆積する面が4回あるので、その場合は舗装の直後でも両側の整地に合わせて舗装しなおしているから、4回の使用年数は平均の半分（ $4 \div 2 = 2$ ）として計算すると、100年強で13回（15回－2回）の造り直しであるから、約8年に一度の舗装したこととなる。等間隔に計画的に道路が舗装されたとは到底考えられないが、仮にそう仮定して考えてみよう。

1596年以後　まず1596年の火災のあと第0硬化面の舗装をして復興して以来、舗装が行われていないのは、近世城下町への移転が始まる年代が1602年と、火災の6年後であり、残ったとしても移転が間近であるので、道路の整備は行わないからであろう。

1587～1596年　次に、1587年と推定した第2焼土層の直後には第2硬化面が舗装され、その後第1硬化面が舗装されて、その面で1596年の火災を迎えると考えられるので、1587年と1596年の間に1回更新されるのは、8年に1回の計算に合致する。

第3焼土層　その下の第3四半期と推定した第3焼土層と、第2焼土層の間には、直後に第5硬化面のあと第4と第3の2回の更新がある。8年1回では長く見ても23年（ $8 \text{年} \times 2 \text{回} + 7 \text{年} = 23 \text{年}$ ）であるから1564年ということになる。それも長く見た場合で、短く見れば16年（ $8 \text{年} \times 2 \text{回} + 0 \text{年} = 16 \text{年}$ ）で1571年ということになり、8年一舗装の仮定で計算した場合第3焼土層の年代は1564年から1571年の間ということになる。同様の計算を第2焼土層＝1587年を起点におこなうと、第1焼土層の年代は1524年から1531年ということになる。別に9年一舗装と仮定すると第3焼土層は1561～69年、第4焼土層は1516～1524年となり、SF70の構築開始年代は1488年以前となる。10年一舗装と仮定すると第3焼土層は1558～67年、第4焼土層は1509～1517年となり、SF70の構築開始年代最も新しく見て1477年以前となる。

以上のような仮定の計算では8年一舗装がもっともよく合致するが、必ずしも文献による事件と一致しない。しかし道路の舗装が定期的におこなわれたという保証もない。実際には時期によって道路の舗装が短期間に繰り返されたり、長期にわたって同じ路面が使われることがあったのが実情であろう。したがって以上の計算はあくまでも試算にすぎず、ここでは大雑把に想定される年代幅に対応して道路の更新の回数が多いという事実を確認しておきたい。

以上の検討から、筆者は第1焼土層と第2焼土層の年代観は、道路の更新の状況ともよく合致すると考えるが、第3焼土層と、第4焼土層についてはなお検討の余地があり、あくまでも仮説的な考えを述べたに過ぎないことを断っておきたい。

最後に第7次調査区の焼土層との対応で出土遺物の内容が類似するのは以下のとおりである。

- ・第7次調査区第3焼土層＝SF183第6硬化面上＝16次調査区第4焼土層⇒16世紀第1四半期
- ・第7次調査区第2焼土層＝SF183第4硬化面上＝16次調査区第3焼土層⇒16世紀第3四半期
- ・第7次調査区第1焼土層＝SF183第3硬化面上＝16次調査区第2焼土層⇒1587年

また、第4次調査区との対応はⅣ期の焼土層が第16次調査区の第2焼土層に、Ⅴ期の焼土層が第1焼土層に対応する<sup>(註2)</sup>。

註2 河野史郎「大友府内」4、2002、大分市教育委員会

## 第4章 自然科学的分析

### 第1節 中世大友府内町跡第7次調査出土人骨について

石川健・田中良之\*

(\*九州大学大学院比較社会文化研究院)

#### 1. はじめに

2000～2001年に大分県教育委員会によって大分県大分市に位置する中世大友府内町跡の第7次調査が行われ、人骨が出土した。そのため、九州大学大学院比較社会文化研究院基層構造講座に人骨調査の依頼があり、田中・石川らが現地に赴き、発掘・観察・取り上げを行った。その後、人骨は九州大学に搬送され、本講座において整理・分析を行った。以下にその結果を記載・報告する。なお、人骨は九州大学大学院比較社会文化研究院考古人類学資料室に保管されている。

#### 2. 出土状態

##### 2-1 E地区 ST135出土人骨

頭部が墓壙東側に位置し、頸椎・胸椎・腰椎・寛骨がほぼ北東-南西方向に沿って位置する。頭蓋骨は、頭頂部を下にし頭蓋底・下顎下面が上を向いた状態である。顎関節は関節した状態を保持する。

頸椎は頭蓋骨の西側に近接して位置し、その西南の延長線上に胸椎及び腰椎・寛骨が残存する。頸椎から腰椎にかけての椎骨はいずれも棘突起を上面にした状態である。

上肢骨は、右の肩甲骨・上腕骨が頭蓋骨の西側に位置し、関節状態を保つ。上腕骨はほぼ南北に長軸をとり、前腕骨は尺骨が上腕骨と関節した状態を維持し、肘をほぼ90度曲げて、手を回内した状態である。また肘関節の部分は右膝関節の上のついた状態である。左上腕骨は、骨体部のみ遺存するが、長軸をほぼ東西にとり、左肋骨及び椎骨より上位に位置する。右上肢骨と同様に肘を90度近く折り曲げた状態である。

下肢骨は、寛骨が墓壙西側に位置し外側を上面にした状態であり、また整理時に精査した結果、左寛骨腸骨翼上に、左右は不明であるが手指骨がのった状態であった。大腿骨は、寛骨と関節した状態であり、左右共に近位がほぼ西側、遠位がほぼ東側に位置する。遠位端は脛骨と関節状態を保つ。脛骨・腓骨は左右共に遠位を西側にとり、大腿骨の下位に位置する。

以上から、頭蓋骨が頸椎と外れた状態である他は、ほぼ関節状態を保ち、埋葬時の状態を保持しているものと考えられる。椎骨が後面を上にした状態であり、また寛骨も外側が上面を向くことから上体を前面に倒した姿勢であると考えられる。上肢骨は、左右ともに肘をほぼ直角に折り曲げ右上肢は回内した状態であり、レベル的には右は下肢骨の上位、左も肋骨や椎骨より高いレベルから出土していることから、左右の上肢が躯幹背面に回っていた可能性が高い。また、下肢骨は大腿骨と脛骨・腓骨が長軸をほぼそろえ上下に重なった状態であることから、正座した状態と考えられる。これらから、本人骨は埋葬時、正座した状態で後ろ手に縛られた状態で埋葬されていた可能性が高いものと考えられる。頭蓋骨に関しては二つの可能性が考えられる。一つは軟部組織の腐朽後に転落した可能性である。ただ、その場合顎関節が関節した状態であることから、埋葬後かなり早い段階で転落したことになる。もう一つは、埋葬時に体部とは別に、頭蓋のみ下にした状態でおかれた可能性である。出土位置や正座して後ろ手に縛られていたという特異な埋葬姿勢を勘案すると、より可能性があるかに思えるが、頸椎の保存が悪いこともあり、頭部を離断した証拠は得られていない。

##### 2-2 G地区 ST748出土人骨

頭位を南にした右側臥屈肢葬である。頭蓋骨は後頭部が南側木棺推定位置に接して位置し、顔面を北に向けた

状態である。上下の歯牙は咬合した状態であることから、顎関節が関節した状態と考えられる。

躯幹骨は、肋骨は頭蓋の西側に位置し、その南側から肩甲骨が出土している。墓壁西壁にほぼ並行して胸椎から腰椎・寛骨がほぼ関節した状態で出土している。寛骨から肋骨が遺存する部分までは、ほぼ墓壁西壁に並行しているが、肋骨あるいは肩甲骨あたりから頭蓋へ至る部位は東西に背を強く曲げた状態である。

上肢は、左上腕骨が背面を上面にし、近位側が頭蓋側に位置し長軸を南北にした状態である。前腕骨は顔面北側に長軸を東西にした状態である。上腕骨との位置関係から関節状態を保持しており、肘をほぼ直角に曲げた状態である。

下肢は、大腿骨近位が寛骨付近に位置し、大腿骨と脛骨が左右とも関節状態を保持し、強屈した状態である。右腓骨も右脛骨の南側から出土し、原位置を保った状態である。

以上のような埋葬姿勢及び人骨の出土範囲から50～60cm×100cm程度の箱形木棺に埋葬されていたと考えられる。棺内からは銭が出土しており、足下で棺底に置かれた状態である。また、寛骨東側から土器が出土するが、人骨下端よりやや浮いた位置から割れた状態で出土していることから、棺上に置かれたものが、棺蓋の腐朽により転落したと考えられる。さらに釘も出土しているが、人骨下端より浮いた位置あるいは人骨上に乗った状態であることから、棺の腐朽により棺内に転落したものと考えられる。

### 3. 人骨所見

#### 3-1 E地区 ST135出土人骨

##### 【保存状態】

本人骨の保存状態はあまり良好ではない。頭蓋骨は、頭頂骨右後方から右側頭骨、左鱗状縫合・冠状縫合付近の頭頂骨・側頭骨を欠く。後頭骨はラムダ状縫合及び外後頭隆起付近が一部残存する。前頭骨は左右の眉弓から眼窩上縁が失われている他はほぼ遺存する。頬骨は、左右とも遺存するが、右頬骨弓・左眼窩周辺部は失われている。上顎骨は右上半と左歯槽部が一部遺存する。下顎骨はほぼ完存する。頭蓋主縫合はいずれも内板・外板ともに一部閉じている。残存歯牙の歯式は、以下の通りである。

M <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	P <sup>1</sup>	C	I <sup>2</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>1</sup>	/	/	/	P <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>
M <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>1</sub>	C	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	×	/	/	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>

歯牙の咬耗度は栃原の2°aである（栃原1957）。

上肢骨は、左右上腕骨・橈骨、および右尺骨が遺存する。右上腕骨は骨体中位から遠位端まで遺存し、左上腕骨は骨体中位のみ遺存する。三角筋粗面はやや発達している。右橈骨及び尺骨は近位端付近が遺存し、左橈骨は骨体中位が遺存する。その他に中手骨1、基節骨片1、指骨3が遺存する。いずれも遺存状況は良くなく左右は不明である。

躯幹骨は頸椎・胸椎・腰椎・左右肋骨が遺存する。頸椎は椎体片が遺存するが、胸椎は遺存状況が悪く詳細は不明である。腰椎は椎体片と、椎弓板4が遺存する。

下肢骨のうち寛骨は、右が腸骨翼片、仙腸関節付近から寛骨臼にかけて遺存し、左は恥骨以外はほぼ遺存する。大坐骨切痕角は大きい。右大腿骨は骨頭部・骨体中位・遠位端付近が遺存し、左大腿骨は大転子・遠位端付近を除きほぼ遺存する。右膝蓋骨上半が遺存する。脛骨及び腓骨は左右とも骨体中位が遺存する。大腿骨粗線はやや発達する。大腿骨・脛骨ともに骨体は華奢である。足指骨は10個が遺存するが、左右・部位など詳細は不明である。

##### 【年齢・性別】

年齢は、歯牙咬耗度がやや進行していることや頭蓋主縫合の癒合状況から、成年後半と推定される。性別は、大坐骨切痕角が大きく、下肢骨が華奢であることから、女性の可能性が高いと考えられる

##### 【計測値】

本人骨は遺存状況がよくないことから、いずれの部位も計測は不能であったが、顔面については顔高が高く若

干面長な印象であった。また、上下顎も咬合した取り上げ時の観察から、中世人に一般的とされる、歯槽性突顎が認められた。

#### 【特記事項】

本人骨は、出土状況において記載したとおり、後ろ手で正座した状態で埋葬されており、また、頭蓋については、軟部組織腐朽後の転落の可能性に加え、離断した頭を埋葬時に置かれた可能性も考えられた。そのため頸椎における刀創などの受傷の痕跡が認められるかどうか注目されたが、頸椎は椎体片が遺存するのみであり、受傷の有無については不明であった。

### 3-2 G地区 ST748出土人骨

#### 【保存状態】

本人骨の保存状態は悪い。頭蓋骨は前頭骨前頭鱗右上半・頭頂骨右半部及び矢状縫合付近の頭頂骨左側と、後頭骨ラムダ縫合から外後頭隆起付近及び左右後頭顆付近が遺存する。下顎骨は左歯槽部がわずかに遺存する。外後頭隆起は発達している。頭蓋主縫合は矢状縫合外板が一部閉じかけである。残存歯牙の歯式は以下の通りである。

/	/	/	/	/	/	/	△	I <sup>1</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>2</sup>	C	P <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	/	/
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	I <sub>2</sub>	C	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>

歯牙咬耗度は栢原 2°b である（栢原1957）。

躯幹骨は、胸椎9、腰椎片、及び肋骨片多数が遺存する。

上肢は右上腕骨近位側の骨体部、左上腕骨体中位から遠位端にかけてが遺存する。前腕は左右とも一部残存するが遺存状態が悪いことから、詳細な部位については不明である。上腕三角筋粗面は発達している。

下肢骨は、左寛骨腸骨翼、大坐骨切痕付近が遺存する。大腿骨は左右とも骨端部付近を除く骨体部が遺存する。脛骨は左右とも骨体部が遺存し、腓骨は右腓骨近位端付近の骨体部が遺存する。大腿骨粗線はやや発達し、大腿骨・脛骨とも骨体は太い。足骨は痕跡のみが遺存するため詳細は不明である。

#### 【年齢・性別】

年齢は、歯牙咬耗度から熟年と推定される。性別は、外後頭隆起、上腕三角筋粗面が発達し、大腿骨粗線がやや発達し、下肢の骨体も太いことなどから、男性と判定される。

### 5. おわりに

以上、出土人骨についての記載・報告を行ってきた。本遺跡からは2体の人骨が出土した。これらの人骨は保存状態が不良で、計測に耐えうるものはなく、したがって形質的比較を行える個体は得られなかった。ただし、ST135号墓出土人骨は、顔が高い印象であり、歯槽性突顎が認められた。

埋葬姿勢については、ST748出土人骨は、右側臥屈肢葬であり、このような埋葬姿勢は近隣地域では久住遺跡や神ノ原遺跡、九州以外では吉母浜遺跡などの中世墓においてみられる埋葬姿勢と共通するものである（板倉2005、下関市教育委員会1985）。

一方、ST135出土人骨は、正座して後ろ手に縛られていた可能性が高い。また、頭蓋については、軟部組織腐朽後に転落した可能性とともに、頭骨の出土位置や特異な埋葬姿勢である点などから、頭を離断した後に検出時の位置に置かれた可能性が考えられた。しかし頸椎・頭蓋底の遺存状況が悪いことから、刀創などの受傷痕の有無が不明であることから、確証を得ることはできなかった。

最後に、本報告にあたり、大分県教育委員会の田中裕介氏にはご便宜を賜り、かつご迷惑をおかけした。感謝したい。

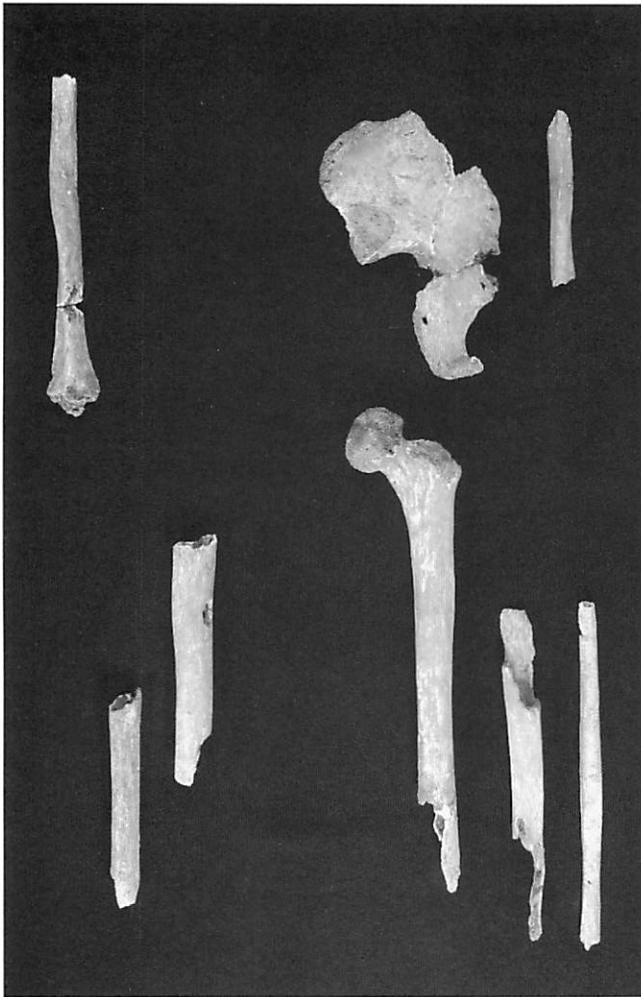


参考文献

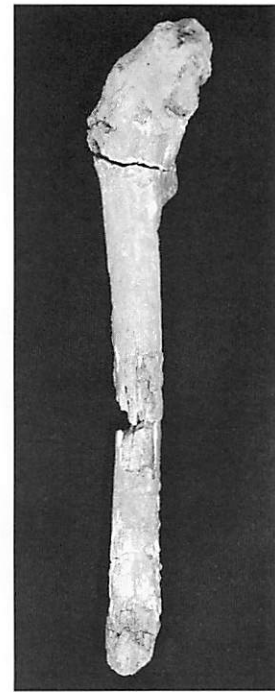
板倉有大・田中良之, 2005: 5. 久住遺跡出土人骨について. 久住町教育委員会編, 久住遺跡 (久住御茶屋跡).

下関市教育委員会, 1985: 吉母浜遺跡.

柄原博, 1957: 日本人歯牙咬耗に関する研究. 熊本医学会雑誌, 31, 補冊4.



ST135出土人骨 四肢骨



ST748出土人骨 右大腿骨

## 第2節 中世大友府内町跡第7・16次調査区出土遺物の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

大分市中世大友府内城下町跡は、市内中心部に所在し、鎌倉時代から戦国時代まで豊後守護として君臨した大友氏の本拠地である。今回は、主に4つの調査課題を設定し、分析調査を実施する。まず、その出土状況から、当時の食糧や道路構築材として用いられたと考えられる貝類の同定を行う。また、中世道路構築面の構造や構築材の由来を調べる目的で、珪藻分析、土壤理化学分析、貝類同定を実施する。さらに、焼土から検出された炭化材の同定を行い、当時の建築用材に関する情報を得る。最後に、燭台とされる土器に付着した黑色物質の由来を知る目的で、付着物の脂質分析と、顕微鏡による表面観察を実施する。

### 1. 試料

貝類同定を行う試料は、第7次調査E地区のSK112、SK114、SK126、SK133、SK136、SK40、D地区のSF183、SD192、SK196、SE19、P171 (SA312)、P237、D地区下層トレンチ、G地区のSK712、SD791、第16次調査F地区・G地区のSF70、H地区のSK257、H地区のSK365、Ib表土下層、K39区No.2 (B層上面)、L45区No.3 (SF70第2硬化面上) からそれぞれ採取されている。これらの試料は、1試料中に複数の貝類が認められる試料や土塊状の試料がみられる。試料の詳細は結果と併せて示す。珪藻分析、土壤理化学分析、胎土薄片作成に用いるのはSF70 (道路遺構) の硬化面と、貝混じり層の2点である。試料は、F地区、F・G地区、G地区、H地区の第2焼土層および第3焼土層から出土した炭化材8点である。脂質分析ならびに顕微鏡観察は、燭台とされる土器2点 (第7次調査区G地区SD791No.138、SK104No.8) を用いる。その他比較試料として、当時のろうそくの原材料として一般的であったハゼノキの実と、現在市販されている和ろうそくを比較対照試料として分析する。

### 2. 分析方法

#### (1) 貝同定

試料に付着した泥分を水に浸した筆で静かに除去する。自然乾燥後、一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合を行う。試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。なお、貝類の生態については、奥谷編著 (2000) に基づく。

#### (2) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリユウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する (化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、原口ほか (1998)、Krammer (1992)、Krammer & Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991a, 1991b) などを参照し、分類体系は Round et al. (1990) に従った。

同定結果は、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度 (pH)・流水に対する適応能を示す。また、環境指標種はその内容を示す。産出個体数100個体以上の試料は、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境を解析するにあたって、海水～汽水生種は小杉 (1988)、淡水生種は安藤 (1990)、陸生珪藻は伊藤・堀内 (1991)、汚濁耐性は、Asai & Watanabe (1995) の環境指標種を参考とする。

### (3) 土壤理化学分析

土壤硬化の要因は、乾湿の繰り返しによる脱水収縮や踏圧などの物理的要因、塩分や石灰などの反応による化学的要因など様々である。ここでは、硬化土壌の特性を調査するために、土壤硬化の化学的要因について調査を行う。調査は、基本項目である pH、電気伝導度 (EC) のほか、塩分や石灰がどの程度含まれているか確認する項目として全カルシウム (Ca)、全マグネシウム (Mg)、水溶性塩素イオン濃度 ( $\text{Cl}^-$ ) について行う。

pH ( $\text{H}_2\text{O}$ ) はガラス電極法、電気伝導度 (EC) は白金電極法、全カルシウム、マグネシウムは硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法、水溶性塩素は水抽出-イオン電極法 (土壤環境分析法編集委員会, 1997) でそれぞれ行った。以下に各項目の操作工程を示す。

#### ・分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して 2 mm の篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉碎し、0.5mm 篩を全通させ、粉碎土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で 4 時間乾燥し、分析試料水分を求める。

#### ・pH ( $\text{H}_2\text{O}$ )

風乾細土 10.0g を秤量し、25ml の蒸留水を加えてガラス棒で攪拌する。30分間放置後、再びガラス棒で懸濁状態とし、pH メーター (ガラス電極法) で pH ( $\text{H}_2\text{O}$ ) を測定する。

#### ・電気伝導度 (EC)

風乾細土 10.0g を秤量し、50ml の蒸留水を加えて 1 時間振とうする。振とう後、すみやかに EC メーター (白金電極法) で電気伝導度を測定する。

#### ・全カルシウム、マグネシウム

粉碎土試料 1.0g ケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸 ( $\text{HNO}_3$ ) 約 5 ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸 ( $\text{HClO}_4$ ) 約 10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で 100ml に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計 (AAS) によりカルシウム (Ca) 及びマグネシウム (Mg) を定量し、試料中の全カルシウム、マグネシウム量 (%) を求める。

#### ・水溶性塩素イオン

風乾細土試料 10g をポリエチレン瓶に秤量し、5 倍量の蒸留水を加え、1 時間振とう後、乾燥濾紙で濾過する。濾液を回収し、酢酸緩衝液を加え、塩化物イオン電極を用いて電位差を測定し、塩素イオンを定量する。この定量値と加熱減量法で求めた試料中の水分から、水溶性塩素イオン濃度 ( $\text{mg}/100\text{g}$ ) を求める。

### (4) 胎土薄片作製鑑定

薄片は、試料の一部を樹脂による固化の後、ダイヤモンドカッターで切断、正確に 0.03mm の厚さに研磨して作製する。薄片は岩石学的手法を用いて観察し、胎土中に含まれる砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を明らかにする。また、胎土の基質は、孔隙の分布する程度と砂の配列や孔隙などの方向性の確認や、基質を構成する粘土が焼成の結果、どの程度ガラス化してどの程度粘土鉱物として残存しているか、酸化鉄などの鉄分の含まれる程度について定性的に記載する。

### (5) 炭化材同定

試料を自然乾燥させた後、木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、鳥地・伊東 (1982) および Wheeler 他 (1998) を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林 (1990)、伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

### (6) 脂肪酸分析

分析は、坂井ほか (1996) に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。土器の黒色部分が浸るに十分なクロロホルム：メタノール (2 : 1) を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポ

レーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸-メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップバックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム (ULBON, HR-SS-10, 内径0.25mm, 長さ30m) を装着したガスクロマトグラフィー (GC-14A, SHIMADZU) を使用した。注入口温度は250℃、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。ステロールの分析は、キャピラリーカラム (J&W SCIENFIC, DB-1, 内径0.36mm, 長さ30m) を装着する。注入口温度は320℃、カラム温度は270℃恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

### (7) 顕微鏡写真撮影

燭台に付着した炭化物の状況を確認するため、表面を双眼実体顕微鏡による観察を行い、同時に写真撮影を実施する。

## 3. 結果

### (1) 貝同定

検出された分類群の一覧を表1に示す。また、海棲貝類の分布・生息域等について、表2に示す。以下、第16次調査 SF70と第7次調査 SK112・SK196、およびそれ以外の遺構について述べていく。

表1 検出分類群一覧

軟体動物門	Phylum Mollusca
腹足綱	Class Gastropoda
前鰓垂綱	Subclass Prosobranchia
古腹足目	Order Vetigastropoda
ニシキウズガイ科	Family Trochidae
イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>
サザエ科	Family Turbinidae
サザエ	<i>Turbo (Batillus) cornutus</i>
盤足目	Order Discopoda
ウミニナ科	Family Batillariidae
ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>
イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i>
フトヘナタリ科	Family Potamididae
ヘナタリ	<i>Cerithidea (Cerithideopsis) cingulata</i>
新腹足目	Order Neogastropoda
アッキガイ科	Family Muricidae
レイシガイ亜科	Subfamily Rapaninae
アカニシ	<i>Rapana venosa</i>
ムシロガイ科	Family Nassariidae
アラムシロ	<i>Reticunassa festiva</i>
有肺垂綱	Subclass Pulmonata
柄眼目	Order Sylommatophora
曲輪尿管亜目	Suborder Sigmurethra
マイマイ類	Fam. et. gen. indet.
二枚貝綱	Class Bivalvia
扇形垂綱	Subclass Pteriomophia
フネガイ目	Order Arcoida
フネガイ科	Family Arcidae
サルボウガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>
異歯垂綱	Order Heterodonta
マルスダレガイ目	Order Veneroida
マルスダレガイ科	Family Veneridae
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
脊椎動物門	Phylum Vertebrata
硬骨魚綱	Class Osteichthysse
条鰭垂綱	Subclass Actinopterygii
ニシン目	Order Clupeiformes
ニシン科	Family Clupeidae
イワシ類	Gen. et. sp. indet.
スズキ目	Order Perciformes
スズキ亜目	Suborder Percoidei
タイ科	Family Sparidae
マダイ亜科	Subfamily Pagrinae
マダイ	<i>Pagrus major</i>
哺乳綱	Class Mammalia
ウシ目 (偶蹄目)	Order Artiodactyla
ウシ科	Family Bovidae
ウシ?	<i>Bos taurus?</i>

表2 出土海棲貝類の分布と棲息域

イボキサゴ	北海道南部～九州	潮間帯付近および砂底～砂泥底
サザエ	北海道南部～九州・朝鮮半島	潮間帯下部～水深20m
ウミニナ	北海道南部～九州までの日本各地	大きな湾の干潟・潮間帯の泥底上
イボウミニナ	北海道南部以南のインド・西太平洋域	やや開放的な内湾の潮間帯中部～下部の泥底
ヘナタリ	房総半島・山口県北部以南・インド・西太平洋域	汽水域・潮間帯・内湾の干潟
アカニシ	北海道南部～台湾・中国沿岸	水深30m 以浅の砂泥底
アラムシロ	北海道南部以南の西太平洋	潮間帯砂底
サルボウガイ	東京湾～有明海、沿海州南部～韓国・黄海・南シナ海	潮下帯上部から水深20mの砂泥底
アサリ	サハリン・北海道～九州・朝鮮半島・中国大陸沿岸	潮間帯中部から水深10mの砂礫泥底

・第16次調査 SF70および第7次調査 SK112・SK196

結果を表3に示す。いずれの遺構もイボキサゴ・キサゴ類が多く検出される。保存状態が悪く、表面が剥離しているものをキサゴ類としたが、大半がイボキサゴと思われる。これに次いで、サザエ類の破片が少量みられる。ただし、SK196とSK112は、SF70と出現傾向が若干異なり、両遺構ともにマイマイ類を伴う。さらに、SK112は、これらの種類に加えて、ウミニナ・イボウミニナ・ヘナタリ・アカニシ・アラムシロ・マイマイ類・サルボウガイが検出され、またイワシ類の椎骨など魚骨片も僅かにみられる。

表3 第16次調査 SF70および第7次調査 SK112・SK196における貝類等同定結果

調査	地区	遺構	試料	イボキサゴ・キサゴ類	サザエ	サザエ類	ウミニナ	イボウミニナ	ヘナタリ	アカニシ	アラムシロ	マイマイ類	腹足綱	サルボウガイ	二枚貝綱	貝類	イワシ類	魚類					
				破片	殻	蓋	破片	殻	破片	殻	殻	破片	殻	破片	破片	破片	殻	殻	尾椎	椎骨	破片	鱗	
7次	D地区	G44区 SK196	No.1-2	多								13											
			道中	49+																			
	E地区	SK112	No.10					1								1	3		4				
			No.11①				1			1									2	1			
			No.11②				2			1								1					
			No.11～12				1															1	
			No.12			1	1					1					1	11					
			No.12	多										84+									
			No.13			13																1	
			No.19		1																		
			No.20								1												
			下部貝層				2	1	1			2	1		2								ウミニナ1点は幼貝
下部貝層														1	2	4	2	1	1	7	1		
16次	G地区	SF70	第1間層	7+																			
			No.4			1+																	
			第1間層	20														2					
			第2間層	10+																			
			第4間層	21+																			
			第5間層	多		2+																	
			第6硬化面上 No.4				4+																
			第6間層 貝				23+																
			第6～8間層	多	1		2																
土中の貝	3+																				土塊状		
土中の貝	*																				土塊 (印象化石)		

・第16次調査 SF70および第7次調査 SK112・SK196を除く遺構

結果を表4に示す。第7次調査区では、SF183でイボキサゴ・キサゴ類が、SD192でアサリとウシ?白歯片が、SE19でサザエ類が、P171 (SA312) で貝類片が、P237でアサリが、D地区下層トレンチで腹足綱が、SK114でサザエ類が、SK126でアカニシ?と貝類片が、SK133でアカニシ?が、SK136で貝類片が、SK40でイボキサゴ・キサゴ類が、SK712でアカニシ?が、SD791でマダイ上後頭骨の焼骨が確認される。第16次調査区では、SK

表4 各遺構における貝類等同定結果（表3掲載分を除く）

調査次	地区	遺構	試料	イボキサゴ・キサゴ類	サザエ	サザエ類	アカニシ?	腹足綱	アサリ			貝類	マダイ	ウシ?			
				破片	殻	破片	破片	破片	合貝	左殻	右殻	破片	殻片	頭上骨後		片臼歯	
7次	D地区	SF183	(道)土手第3~4硬化面まで	11													
		SD192	最下層						2		6					接合試料有	
		SE19	抜きとり穴下層			1										1	
		P171										6					
		P237	No.1						2	1	1	1					
									2	6	3	19				接合試料有	
									1	1		2					
	D地区	下層トレンチ	No.1(G43.d)					1									
		SK114	土手			1											
		SK126	No.40				2										
			No.43				3										
			No.92									2				土塊状	
												1				土塊状	
		SK133	No.1				11										
	SK136	No.17									1						
	SK40	No.26	19														
G地区	SK712	ヘルト上層 No.31				1											
	SD791	No.412											1				
16次	H地区	SK257	No.1			1											
			No.2			5+											
			No.3			1											
			No.3			2											
			No.4														礫等34
			No.4			5+											
			No.5		1	1											
		No.6			1												
		SK365	No.23			1											
			No.24			1											
	No.25				1												
		Ib表土下層							5	4	1						
		K39区	No.2	多												B層上面	
	L45区	No.3			7										SF70第2硬化面上		

257・SK365でサザエ類が、Ib表土下層でアサリが、K39区でイボキサゴ・キサゴ類が、L45区でサザエ類が確認される。なお、H地区中SK257のNo.4の内1試料は、貝類がみられず、礫である。

(2) 珪藻分析

結果を表5、図1に示す。また、珪藻化石の生態性区分や環境指標種群の説明を表6に示す。2試料とも珪藻化石が産出する。完形殻の出現率は、70%前後である。産出分類群数は、合計で26属54分類群である。試料別に珪藻化石群集の特徴を述べる(図版1)。

第13硬化面の試料は、陸上のコケや土壌表面など好気的環境に耐性のある陸生珪藻が約70%と優占する。主な産出種は、陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻A群の *Amphora montana*, *Diadsmis contenta var. biceps*, *Hantzschia amphioxys*, *Luticola mutica* が15%前後産出する。また水生珪藻としては、止水性で湖沼浮遊性種群の *Aulacoseira nipponica*, *Cyclotella radiosa* 等が産出する。湖沼浮遊性種群の *Aulacoseira nipponica* は、これまで *Melosira solida* あるいは *Melosira solida var. nipponica* として同定されてきた種で

あるが、近年琵琶湖固有種であることが判明し、別種とされた種である。

表5 珪藻分析結果

種 類	生態性			環境 指標種	SF70	
	塩分	pH	流水		硬化面	土中の貝
Nitzschia inconspicua Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind		1	1
Nitzschia palea (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	4	3
Pseudostaurosira brevistriata (Grun.)Williams & Round	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	-	1
Pseudostaurosira subsalina (Hust.)Morales	Ogh-Meh	al-il	ind		2	-
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	1	-
Achnanthes subhudsonis Hustedt var. subhudsonis	Ogh-ind	ind	r-ph	T	1	1
Achnanthidium minutissimum (Kuetz.)Czarn.	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1
Amphora copulata (Kuetz.)Schoeman et R.E.M.Archibald	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	28	-
Amphora pediculus (Kuetz.)Grunow var. pediculus	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	5
Aulacoseira alpigena (Grun.)Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N,U	3	3
Aulacoseira nipponica (Skvortzow) Tuji	Ogh-unk	al-il	l-ph	M,T	16	24
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	2	-
Cocconeis euglypta Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	2	4
Cocconeis placentula Ehr. var. placentula	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	2
Cocconeis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1
Cyclotella ocellata Pantocsek	Ogh-ind	al-il	l-bi		1	2
Cyclotella radiosa (Grun.)Lemm.	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	14	3
Cyclotella spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	1
Diademsia confervacea Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	-	1
Diademsia contenta (Grun.ex Van Heurck) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	6	2
Diademsia contenta var. biceps (Arnott ex Grunow) Hamilton	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	26	1
Diademsia perpusilla (Grun.)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve var. ovalis	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-
Encyonema minutum (Hilse ex Rhabenhorst) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	1
Encyonema silesiacum (Bleisch) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	1	1
Epithemia adnata (Kuetz.)Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		1	1
Fragilaria capucina Desmazieres var. capucina	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-
Geissleria decussis (Oestrup) Lange-B. et Metzeltin	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	1
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	1	1
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	1
Gomphonema parvulum (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	2	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	17	2
Luticola cohnii (Hilse) D.G.Mann	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	1	-
Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	33	7
Navicula protracta (Grun.)Cleve	Ogh-hil	ind	ind	U	-	1
Navicula tridentula Krasske	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	1
Navicula sp.-1	Ogh-unk	unk	unk		7	11
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	4
Nitzschia amphibia Grunow var. amphibia	Ogh-ind	al-bi	ind	S-U	-	1
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	1	-
Nitzschia parvuloides Cholnoky	Ogh-ind	ind	ind	U	1	-
Nitzschia perminuta (Grun.)Peragallo	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-
Nitzschia solgensis Cleve-Euler	Ogh-ind	ind	ind	U	1	-
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	2
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	4	-
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	2	-
Pinnularia schoenfelderii Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	3	-
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-
Pinnularia silvatica Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	2	-
Pinnularia subcapitata var. paucistriata (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	O,U	2	-
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1
Planothidium lanceolatum (Breb.)Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	4	9
Planothidium rostratum (Oestrup) Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1
Reimeria sinuata (W.Greg.)Kociolek et Stoermer	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	1
Rhoicosphenia abbreviata (C.Agardh) Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	-	2
Stauroneis borrichii (Pet.)Lund	Ogh-ind	ind	ind	RI	9	1
Stauroneis japonica H.Kobayasi	Ogh-ind	ac-bi	r-ph	T	-	1
Stephanodiscus spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1
海水生種					0	0
海水～汽水生種					0	0
汽水生種					0	0
淡水～汽水生種					7	5
淡水生種					201	104
珪藻化石総数					208	109

凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性

Ogh-Meh : 淡水～汽水生種

Ogh-hil : 貧塩好塩性種

Ogh-ind : 貧塩不定性種

Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種

Ogh-unk : 貧塩不明種

pH : 水素イオン濃度に対する適応性

al-bi : 真アルカリ性種

al-il : 好アルカリ性種

ind : pH不定性種

ac-il : 好酸性種

ac-bi : 真酸性種

unk : pH不明種

C.R. : 流水に対する適応性

l-bi : 真止水性種

l-ph : 好止水性種

ind : 流水不定性種

r-ph : 好流水性種

r-bi : 真流水性種

unk : 流水不明種

環境指標種群

K : 中～下流性河川指標種, M : 湖沼浮遊性種, N : 湖沼沼沢湿地指標種,

O : 沼沢湿地付着性種 (以上は安藤, 1990), S : 好汚濁性種, U : 広域適応性種,

T : 好清水性種 (以上は Asai and Watanabe, 1995)

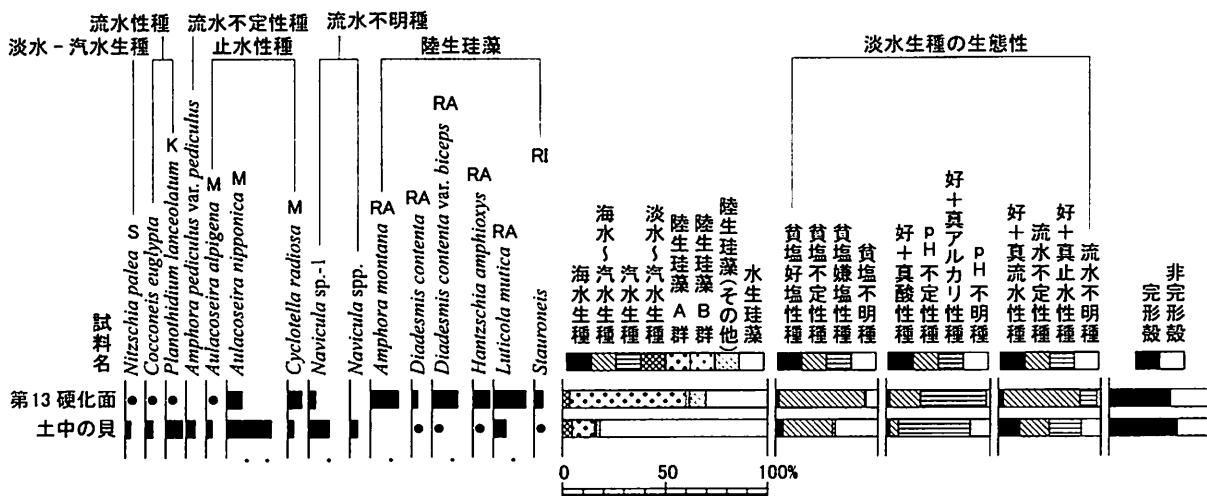


図1 主要珪藻化石群集

海水—汽水—淡水生産産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2%未満の産出を示す。

環境指標種群

- K：中～下流性河川指標種、M：湖沼浮遊性種（安藤，1990）
- S：好汚濁性種、U：広域適応性種、T：好汽水性種（Asai and Watanabe, 1995）
- R：陸生珪藻（RA：A群、RB：B群、RI：未区分、伊藤・堀内，1991）

土中の貝試料では、水生珪藻が約80%と優占し、陸生珪藻を伴う。淡水性種の生態性（塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能）の特徴は、貧塩不定性種、真+好アルカリ性種、真+好流水性種～真+好止水性種が多産する。主な産出種の特徴は、止水性で湖沼浮遊性種群の *Aulacoseira nipponica* が多産し、流水性で中～下流性河川指標種群の *Planothidium lanceolatum*、流水不定性の *Amphora pediculus var. pediculus*、種不明の *Navicula sp.-1*、それに陸生珪藻 A 群の *Luticola mutica* を伴う。

(3) 土壤理化学分析

結果を表7に示す。両試料とも、土壌 pH (H<sub>2</sub>O) は中性～微アルカリ性を示す。臨海地など海水の影響を受けた土壤に、普通に見られる範囲内の pH 値である。また、全カルシウムは1.0%程度、マグネシウム量も0.3%程度と一般的な範囲にあり、過剰な石灰が存在している状態にもないことから、石灰が膠着剤として土壤硬化に寄与している可能性は考えにくい。

一方、塩類濃度の指標となる電気伝導度 (EC) と塩素イオン濃度に関しても、電気伝導度は低く、かつ塩素イオン濃度も1.0mg/100g程度と少ないことから、土壤中の塩類が土壤硬化に寄与しているとも考えにくい。

(4) 胎土薄片作製鑑定

結果を表8に示す。2点の試料は、主体となる砂粒の種類構成が互いに類似する（図版2）。鉍物片の主体は斜長石であり、これに少量または微量の石英と不透明鉍物を伴い、他にカンラン石、斜方輝石、単斜輝石、角閃石、黒雲母などの鉍物片が微量含まれる。岩石片の主体は安山岩であり、これに少量の流紋岩・デイサイトと微量の花崗岩類および少量または微量の火山ガラスが含まれる。また、SF70土中の貝試料には、少量の軽石と頁岩、凝灰岩、スコリア、溶結凝灰岩、ひん岩、粘板岩などの岩石片も微量認められる。

一方、砂粒の種類構成は類似するものの、その粒径と含有量については、硬化面試料と土中の貝試料との間で差異が認められた。すなわち、硬化面試料では、土中の貝試料に比べて、砂粒が全体的に細粒であり、また、砂粒間を埋める基質の粘土量が多い傾向が看取された。また、硬化面試料の基質には、非晶質の酸化鉄が比較的多く含まれていることも特徴である。

(5) 炭化材同定

樹種同定結果を表9に示す。第16次調査区のF・G地区第2焼土層中とG地区第2焼土層中の試料には2種



表6 珪藻化石の生態性区分および環境指標種群

		塩分濃度に対する区分 Lowe (1974) による
海水生種	強塩性種	塩分濃度40.0%以上の高濃度海水域に生育する種
	真塩性種 (海水生種)	塩分濃度40.0~30.0%に生育する種
汽水生種	中塩性種 (汽水生種)	塩分濃度30.0~0.5%に生育する種
淡水生種	貧塩性種 (淡水生種)	塩分濃度0.5%以下に生育する種
淡水生種の生態性区分		
塩分	貧塩好塩性種	少量の塩分がある方が良く生育する種
	貧塩不定性種	少量の塩分があってもこれに良く耐えることができる種
	貧塩嫌塩性種	少量の塩分にも耐えることができない種
	広域塩性種	淡水~汽水域まで広い範囲の塩分濃度に適応できる種
pH	真酸性種	pH7.0以下に生育し、特に pH5.5以下の酸性水域で最も良く生育する種
	好酸性種	pH7.0付近に生育し、pH7.0以下の水域で最も良く生育する種
	pH 不定性種	pH7.0付近の中性水域で最も良く生育する種
	好アルカリ性種	pH7.0付近に生育し、pH7.0以上の水域で最も良く生育する種
Hustedt (1937-38)による	真アルカリ性種	pH7.0以上に生育し、特に pH8.5以上のアルカリ性水域で最も良く生育する種
流水	真止水性種	止水域にのみ生育する種
	好止水性種	止水域に特徴的であるが、流水域にも生育する種
	流水不定性種	止水域にも流水域にも普通に生育する種
	好流水性種	流水域に特徴的であるが、止水域にも生育する種
Hustedt (1937-38)による	真流水性種	流水域にのみ生育する種

主に海水域での指標種群 (小杉, 1988による)	
外洋指標種群 (A)	塩分濃度が約35%の外洋水中で浮遊生活するもの
内湾指標種群 (B)	塩分濃度35~26%の内湾水中で浮遊生活することからそのような環境を指標することのできる種群
海水藻場指標種群 (C1)	塩分濃度35~12%の海域で海藻(草)に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
汽水藻場指標種群 (C2)	塩分濃度12~4%の汽水域で海藻(草)に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
海水砂質干潟指標種群 (D1)	塩分濃度35~26%の砂底の砂に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
汽水砂質干潟指標種群 (D2)	塩分濃度26~5%の砂底の砂に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
海水泥質干潟指標種群 (E1)	30~12%の閉鎖性の高い塩性湿地など泥底の泥に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
汽水泥質干潟指標種群 (E2)	塩分濃度12~2%の汽水化した塩性湿地などの泥に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
淡水底生種群 (F)	2%以下の淡水域の底質の砂、泥、水生植物などに付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
淡水浮遊生種群 (G)	塩分濃度2%以下の湖沼などの淡水域で浮遊生活することからそのような環境を指標することのできる種群
河口浮遊生種群 (H)	塩分濃度20~2%の河口域で浮遊生活、あるいは付着生活することからそのような環境を指標することのできる種群
主に淡水域での指標種群 (安藤, 1990による)	
上流性河川指標種群 (J)	河川上流部の峡谷部に集中して出現することから上流部の環境を指標する可能性の大きい種群
中~下流性河川指標種群 (K)	河川中~下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群
最下流性河川指標種群 (L)	最下流部の三角州の部分に集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群
湖沼浮遊性種群 (M)	水深が約1.5m以上ある湖沼で浮遊生活する種群で湖沼環境を指標する可能性の大きい種群
湖沼沼沢地指標種群 (N)	湖沼における浮遊生種としても沼沢地の付着生種としても優勢に出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群
沼沢湿地付着生種群 (O)	沼よりも浅く水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や更に水深の浅い湿地で優勢な出現の見られることからそのような環境を指標する可能性の大きい種群
高層湿原指標種群 (P)	ミズゴケを主体とした環境や泥炭が形成される環境に集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群
陸域指標種群 (Q)	水中でなく、多少の湿り気のある土壌表面、岩の表面、コケなど常に大気に曝された好気的環境(陸域)に集中して生育することからそのような環境を指標する可能性の大きい種群
陸域での指標種群 (伊藤・堀内, 1991による)	
陸生珪藻 A 群 (RA)	陸生珪藻の中でも、分布がほぼ陸域に限られる耐乾性の高い種群
陸生珪藻 B 群 (RB)	陸生珪藻 A 群に随伴し、陸域にも水中にも生育する種群
未区分陸生珪藻 (RI)	陸生珪藻に相当すると考えられるが、乾湿に対する適応性の不明なもの

類が認められた。これらの炭化材は、広葉樹2種類(コナラ属コナラ亜属クヌギ節・サカキ)とイネ科タケ亜科に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す(図版3)。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射方向に配列する。道

表7 土壌理化学分析結果

試料名	土性	土色	pH (H <sub>2</sub> O)	電気伝導度 (EC) (mS/cm)	全カルシウム (Ca) (%)	全マグネシウム (Mg) (%)	水溶性塩素イオン (Cl <sup>-</sup> ) (mg/100g)
SF70 (土中の貝)	LS	5Y3/2 オリーブ黒	7.3	0.06	1.02	0.32	1.4
SF70硬化面	SL	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	7.2	0.05	1.05	0.31	0.9

注.(1) 土色:マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修,1967)による。

(2) 土性:土壌調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編,1984)の野外土性による。

SL…砂壤土(粘土0~15%、シルト0~35%、砂65~85%)

LS…壤質砂土(粘土0~15%、シルト0~15%、砂85~95%)

表8 胎土薄片観察結果

試料番号	試料名	砂粒		砂粒の種類構成																	備考												
		全体量	最大径	鉱物片							岩石片							他															
				石英	カリ長石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	白雲母	黒雲母	緑泥石	ジルコン	不透明鉱物	頁岩	凝灰岩	軽石	スコリア	溶結凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	ひん岩	粘板岩	変質安山岩	火山ガラス	植物珪酸体	孔隙度	方向性	粘土残存量	含鉄量		
1	SF70硬化面	◎×	2.5	+	○	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	△	○	+											火山ガラスは、バブルウォール型および軽石型の両者が認められ、淡褐色を示すものが多い。
2	SF70 (土中の貝)	◎×	3.7	△	+	○	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	△	○	+	+	+	+	+	+	○	×	△	+	硬化面試料と比較し、碎屑物の粒径は粗粒で、基質粘土の量が少ないという特徴が認められる。共通に含まれる碎屑片の特徴は酷似する。	

量比 ◎:多量 ○:中量 △:少量 +:微量 ×:なし

程度 ◎:強い ○:中程度 △:弱い ×:なし

表9 樹種同定結果

地区	地点	層位	樹種
F地区		第2焼土層	イネ科タケ亜科
F・G地区		第2焼土層	イネ科タケ亜科
		第2焼土層	サカキ イネ科タケ亜科
G地区		第2焼土層	サカキ イネ科タケ亜科
H地区中	西2区画トレンチ	第3焼土層	イネ科タケ亜科
	西2区画	第3焼土層	イネ科タケ亜科
		第2焼土層	イネ科タケ亜科
	東2区画	第3焼土層	コナラ属コナラ亜属クヌギ節

管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2-3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列~階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1-20細胞高。

・イネ科タケ亜科 (Gramineae subfam. Bambusoideae)

試料は細い板状~角棒状を呈する。横断面では維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱が認められ、放射組織は認められない。

(6) 脂肪酸分析

結果を表10、図2に示す。脂肪酸組成は、第7次調査G地区SD791No.138、SK104No.8ともにパルチミン

酸が多く、ステアリン酸、ミスチリン酸がこれに次いで多い。その他の脂肪酸も少量含むが、第7次調査区G地区SD791No.138の方が検出される脂肪酸の種類が多い。ステロール組成をみると、第7次調査区G地区SD791No.138では、動物性であるコプロスタノールとコレステロールの割合が高く、菌類由来のエルゴステロール、植物由来のカンベステロール、スティグマステロールが少量検出される。SK104No.8は、コレステロールのみが検出される。

当時のろうそくの原料であるハゼノキの果実を果皮と種子に分け、比較試料としてそれぞれ分析を行った。果皮、種子ともにパルチミン酸が最も多く検出される。種子では、オレイン酸、 $\alpha$ リノレン酸が次いで多いが、果皮においては、オレイン酸が多い。ステロールは種子のみ検出され、シトステロールが多くみられる。

さらに、比較の意味で現在市販されている和ろうそくについても、同様の分析を実施した。組成は、ステアリン酸とパルチミン酸がともに35%程度、エライジン酸とオレイン酸がともに15%程度含む。また、ステロールは動物由来のステロール（コプロスタノール、コレステロール）が半分以上を占め、菌類由来のエルゴステロールも40%近く含まれる。日本古来のろうそくは、全て植物原料から作られているが（動物油脂から作られるようになったのは明治以降）、この市販品は、動物油脂がかなりの割合で混じっている。また、生物が合成できないエライジン酸を含む。このことから、比較試料として分析を行った市販品の和ろうそくは、動物油脂を原料に化学合成を行って人工的に作られた脂質が混ざっていると判断されるため、今回の参照資料とはしないことにする。

表10 脂質分析結果

種 類	SD791-138	SK104-8	ハゼの実 中身	ハゼの実 外皮	和ろうそく
脂肪酸組成					
ミリスチン酸 (C14)	7.1	19.2	0.4	4.1	1.7
パルミチン酸 (C16)	38.0	46.5	57.9	66.3	32.9
パルミトレイン酸 (C16: 1)	1.7	2.9	0.3	0.4	1.5
ステアリン酸 (C18)	28.2	24.9	4.6	5.1	36.3
エライジン酸 (C18: 1 trans)	—	—	—	—	12.3
オレイン酸 (C18: 1 cis)	2.5	—	12.7	21.0	14.3
リノール酸 (C18: 2)	0.8	—	22.3	1.2	0.5
$\alpha$ リノレン酸 (C18: 3)	—	—	0.4	0.3	0.1
アラキジン酸 (C20)	2.9	2.8	1.0	1.2	0.4
イコセン酸 (C20: 1)	0.8	—	0.1	0.2	—
アラキドン酸 (C20: 4)	—	—	—	—	—
ベヘン酸 (C22)	1.7	3.7	0.3	0.2	—
ドコセン酸 (C22: 1 trans)	—	—	—	—	—
エルカ酸 (C22: 1 cis)	—	—	—	—	—
イコサペンタエン酸 (C20: 5)	2.4	—	—	—	—
リグノセリン酸 (C24)	—	—	—	—	—
テトラコセン酸 (C24: 1)	13.9	—	—	—	—
ドコサヘキサエン酸 (C22: 6)	—	—	—	—	—
ステロール組成					
コプロスタノール	23.4	—	—	—	30.3
コレステロール	43.3	100.0	—	—	28.5
エルゴステロール	12.2	—	19.1	—	36.3
カンベステロール	15.8	—	7.0	—	—
スティグマステロール	5.3	—	2.2	—	4.8
シトステロール	—	—	71.7	—	—

### (7) 電子顕微鏡写真撮影

黒色部分の写真を図版4に示す。第7次調査区G地区SD791No.138は、表面に煤が全面に付着しているほか、一部に厚さ1mm程度の「おこげ」状炭化物が厚く付着している。これらは発泡しており、形状から元の物質を推定することは困難である。「おこげ」状炭化物の表面には炭化した植物遺体が数個付着する。最大のものは、長さ15mm、幅1.5mm程度である。イネ科などの草本類の破片にも見えるが、はっきりしたことは不明である。SK104No.8は、全体の2/3煤が付着している。煤は薄く付着しているのみで、構造等はみられない。

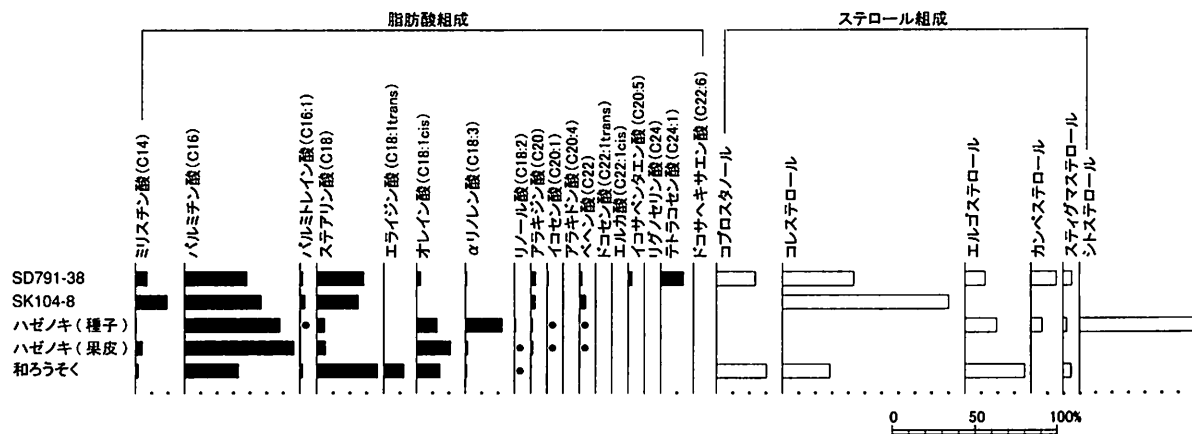


図2 脂肪酸・ステロール組成

#### 4. 考察

##### (1) 貝類の種類構成

中世（16世紀代）の道路遺構とされる第16次調査区 SF70では、イボキサゴ・キサゴ類が多産し、サザエ類を伴う組成であり、他の種類が検出されない。これに対し、同時期の遺構である第7次調査区の SK196・SK112では、イボキサゴ・キサゴ類が多産し、サザエ類を伴うことで共通するが、ウミニナ・イボウミニナ・ヘナタリ・アカニシ・アラムシロ・サルボウガイ、魚骨、さらに陸産貝類のマイマイ類など、他の貝類・魚骨等が認められる点が特徴である。

このことからみて、道路遺構 SF70では、イボキサゴ・キサゴ類を主体として、サザエ類を選択的に集めて道路面に混ぜていたと考えられる。一方、同時期の土坑 SK196および SK112では、陸産棲のマイマイ類が検出されている。これは、遺構が埋積される段階で、周辺から混入したものであろう。すなわち、両遺構ともにある程度の期間、開口していたと思われる。

さらに、SK112は、選択されていない状態のもので埋積されていると考えられる。僅かに検出されたウミニナ・イボウミニナ・ヘナタリ・アラムシロなどは、採取された段階から紛れ込んでいたのであろう。イボキサゴ・キサゴ類を初めとして他の種類は、生態性から考えて周辺にみられた潮間帯付近、おそらく別府湾沿岸部などから採取されたと推測される。なお、土坑内にみられたアカニシ、サルボウガイ、イワシ類、魚骨などは、食糧資源等として遺跡内に持ち込まれ、食用後に廃棄されたものと思われる。これらの種類も、周辺の内湾で漁獲されたと考えられる。

第16次調査区 SF70および第7次調査区 SK112・SK196を除く遺構の内、SF183、SK40、K39区 No.2は、イボキサゴ・キサゴ類のみが検出されており、他の種類がみられない。このような状況を考慮すると、これらの遺構も道路遺構と関連している可能性もある。この点については、考古学的な所見も含めて検討する必要があると思われる。今後の検討課題として残される。

他の遺構では、サザエ類、アカニシ？、アサリなどの貝類、マダイの上後頭骨、ウシ？の臼歯片がみられた。二枚貝類であるアサリは、合貝の状態も確認される。いずれも当時、上述したサルボウガイ、イワシ類などとともに食糧資源等として利用され、廃棄されたと考えられる。特に、多数の種類が混在しない点から、人為的な影響を色濃く反映しているとも考えられ、また比較的短期間の内に埋積した可能性もある。哺乳類では、ウシ？がみられたが、これがどのように利用されていたか、臼歯片のみであるため詳細不明である。

##### (2) 道路面の構造

薄片観察の結果、硬化面試料および土中の貝試料もともに砂粒の種類構成は、大分平野背後の地質と整合する。大分平野背後の地質については、日本の地質「九州地方」編集委員会（1992）や吉岡ほか（1997）により確認することができる。これらの記載によれば、岩石片の主体を占める安山岩は、新第三紀鮮新世から第四紀更新世にかけて噴出した火山岩類を主体とする碩南層群や大分層群および中期更新世に噴出した小鹿山火山の噴出物

などに由来すると考えられ、流紋岩・デイサイトとした岩石片も、同じ碩南層群や大分層群中のデイサイト質の火山噴出物や小鹿山の後に噴出した高崎山火山のデイサイト質の噴出物、さらには後期更新世に噴出した阿蘇火山の火砕流堆積物などにも由来すると考えられる。この阿蘇火山の火砕流堆積物は、また、両試料中に認められた火山ガラスの給源とも考えられる。両試料に微量認められた花崗岩類については、おそらく、大分川上流域の山地に分布する白亜紀の花崗岩類に由来すると考えられる。今回分析を行った砂粒の種類構成からは、硬化面を構成している土の地質学上の特異性は認められない。上述したように、薄片観察で認められた硬化面試料と土中の貝試料との違いは、砂の粒径と基質の粘土の量および基質に含まれる酸化鉄であった。これらのことから、おそらく「硬い」という性質は、粘土分の硬化と酸化鉄の生成に起因する可能性がある。

珪藻分析の結果、硬化面試料からは陸生珪藻 A 群が優占して検出され、これに伴って湖沼浮遊性種群を含む止水性種等や流水指標種が産出する。一方土中の貝試料では、陸生珪藻が少なかった他は珪藻化石群集が硬化面試料に近似していた。よって、硬化面、土中の貝両試料ともに母材の一部に河川性の堆積物が使われていることがわかる。このことは、薄片観察や土壤理化学性からみても、両者にほとんど差がないことが確かめられており、調和的である。唯一の違いは陸生珪藻の産出傾向であるが、これは硬化面試料が地表に曝されていたため、陸生珪藻が表面に発生したこと由来するとみられる。

一方、土壤の化学的見地から土壤硬化の要因を見いだすことを試みたが、一般的な土壤の範囲内であり、特異性を見いだすことは難しい。また、貝同定の結果、SF70ではイボキサゴ・キサゴ類を主体として、サザエ類を選択的に集めて道路面に混ぜていたと考えられる。

日本建築の土間などに使われた三和土（たたき）には、河川砂、赤土など粘土分の多い土、にがり（塩化マグネシウム等）、貝灰（水酸化カルシウム）などの石灰、等の混和物が使われる。SF70では、珪藻分析等から河川性の堆積物が母材の一部として利用されたと推測され、シルト、粘土分も比較的多く含まれていることから、突き固めれば硬化面を形成可能と思われる。貝は石灰の代わりに入れられた可能性もあるが、焼成していない貝は、消石灰とは化学構造が異なるので、硬化に関して効果があるかどうかは不明である。今後民族事例なども含めて検討していく必要がある。なお、SF70の中でも硬化面と貝を含む部分とでは、構造等の顕著な違いは認められなかった。おそらく、両者の違いは土壤の母材や化学性の違いによるのではなく、表面を物理的に突き固めたことが主要因と思われる。

### （3）炭化材の樹種

各地区の焼土層は、道路の構築層と考えられている。炭化材は、構築層から出土しており、炭化していることから何らかの理由により火を受けていることが明らかであるが、炭化した理由や構築層中に混入された背景は不明である。

炭化材は、第2焼土層と第3焼土層から出土しているが、いずれもタケ亜科が多い。木材は、第2焼土層から常緑広葉樹のサカキ、第3焼土層から落葉広葉樹のクヌギ節が出土している。これらの結果から、第2焼土層と第3焼土の炭化材は、タケ亜科を主とし、木材が若干混じる構成であったことが推定される。

クヌギ節とサカキは、いずれも重硬で強度が高い。タケ亜科も比較的硬いことから、硬い木材を選択している傾向がある。サカキは暖温帯常緑広葉樹林の構成種、クヌギ節は二次林構成種として、現在の本地域でも沖積地・丘陵・低山に普通にみられる種類であり、本遺跡周辺に生育していた木材を利用した可能性がある。

### （4）土師器燭台付着物の検証

燭台の観脂質分析の結果、脂肪酸組成では、パルミチン酸、ステアリン酸、ミスチリン酸の順に割合が高く、第7次調査区 G 地区 SD791No. 138ではテトラコセン酸が含まれる。今回分析を行ったハゼノキの結果をみると、パルチミン酸が最も多く、次いでオレイン酸が多い。また、種子には $\alpha$ リノレン酸も比較的多く含まれる。ハゼノキから採取された木蠟の脂肪酸組成は、栽培品種によって違いがみられるものの、パルミチン酸が非常に多く(60-70%)、オレイン酸、リノール酸、ステアリン酸、アラキジン酸の順で少なくなる(徐・河内, 1988)。これらの結果を比較すると、燭台から抽出された脂質と木蠟との間には、パルチミン酸が多いなどの共通点のみ

られるほか、第7次調査区G地区SD791No.138では、木ロウを構成する脂肪酸の全てが含まれている。一方、植物に多く含まれ、木ロウ中にも多く含まれるオレイン酸が燭台にはほとんど含まれないといった違いもみられる。脂肪酸の分解は、炭素原子(C)が2つずつ失われることによって進み、不飽和脂肪酸については、その際二重結合が一つずつ少なくなっていく(丸山, 1999など)。このような経過をたどることにより、遺物の分析においては、パルチミン酸など化学的に安定な脂肪酸が相対的に増加する(坂井・小林, 1995など)。今回燭台においてパルチミン酸が高いのは、黒色物質に多く含まれていた可能性以外に、経年変化により化学的に安定な脂肪酸が相対的に増加したことも理由の一つとして考えられる。また、オレイン酸がほとんど含まれないのは、本来含まれていなかった可能性以外に、二重結合を持つ脂肪酸は化学的に不安定なため、経年変化により分解された可能性も推測される。

ステロール組成をみると、第7次調査区G地区SD791No.138、SK104No.8ともに動物性のステロール(コプロスタノールとコレステロール)の割合が高い。先にも述べたように、当時のろうそくの原料は植物であることから、分析対象とした黒色物が全てロウ由来するならば、動物性のステロールは検出されないはずである(ハゼノキのステロール組成参照)。また、ハゼノキの種実によく含まれるシトステロールは、燭台からは検出されていない。これらのことから、炭化物の中に動物性のものが多く混じっていたか、あるいは使用、廃棄、埋没、出土等、燭台がたどった履歴の中で、動物(人?)の油脂が付着したことが推測される。

ところで、顕微鏡観察の結果、「おこげ」状炭化物の表面に草本類?の植物遺体が付着していた。現在行われている伝統的な和ろうそくの灯心には、和紙とイグサの茎が使われることから、草本類が付着していることは、燭台としての用途と照らし合わせてみても、矛盾しない。

今回の分析の結果、脂肪酸組成は経年変化により化学的に安定な脂肪酸が多くなっており、オレイン酸などは、仮に含まれていたとしても経年変化により激減したと推測される。No.138については、割合は異なるが木ロウ中に含まれる主要な脂肪酸を全て含んでいることから、炭化物の中に木ロウが含まれている可能性がないとはいえない。そうであれば、その中に含まれる植物片は灯心の一部であった可能性もある。しかし、ステロール組成において、動物由来のステロールの割合が高いことと矛盾し、炭化物が動物由来の可能性もある。

脂質分析や顕微鏡観察で得られた結果は、遺物がたどってきたさまざまな履歴が最終的に混じり合ったものを見ていることになる。このため、燭台として使われていたときの残存物が最小限の変質のみで残っていたかどうかや、廃棄後に汚染の影響を打ち消すほど高濃度で付着していたかが重要になる。今回の試料の場合、火災によって形成された焼土層なども基本層序にみられることから、本来燭台として燃焼されたときの付着物に加え、火災などによる後天的な付着物の形成も充分想定されるところである。さらに経年変化による変質などの条件が加わることにより、燭台で燃焼されていた物質の特定はさらに難しいこととなり、今回は様々な可能性を指摘するにとどまった。今後は、調査事例を増やして類例の脂肪酸組成を蓄積していくとともに、ロウの原料となる物質(たとえば西洋で主流であった蜜ロウなど)についても、可能性のある比較資料について情報を集めていく必要がある。

## 引用文献

安藤 一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.

Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, 35-47.

土壤環境分析法編集委員会編, 1997, 土壤環境分析法. 博友社, 427p.

原口 和夫・三友 清史・小林 弘, 1998, 埼玉の藻類 珪藻類. 埼玉県植物誌, 埼玉県教育委員会, 527-600.

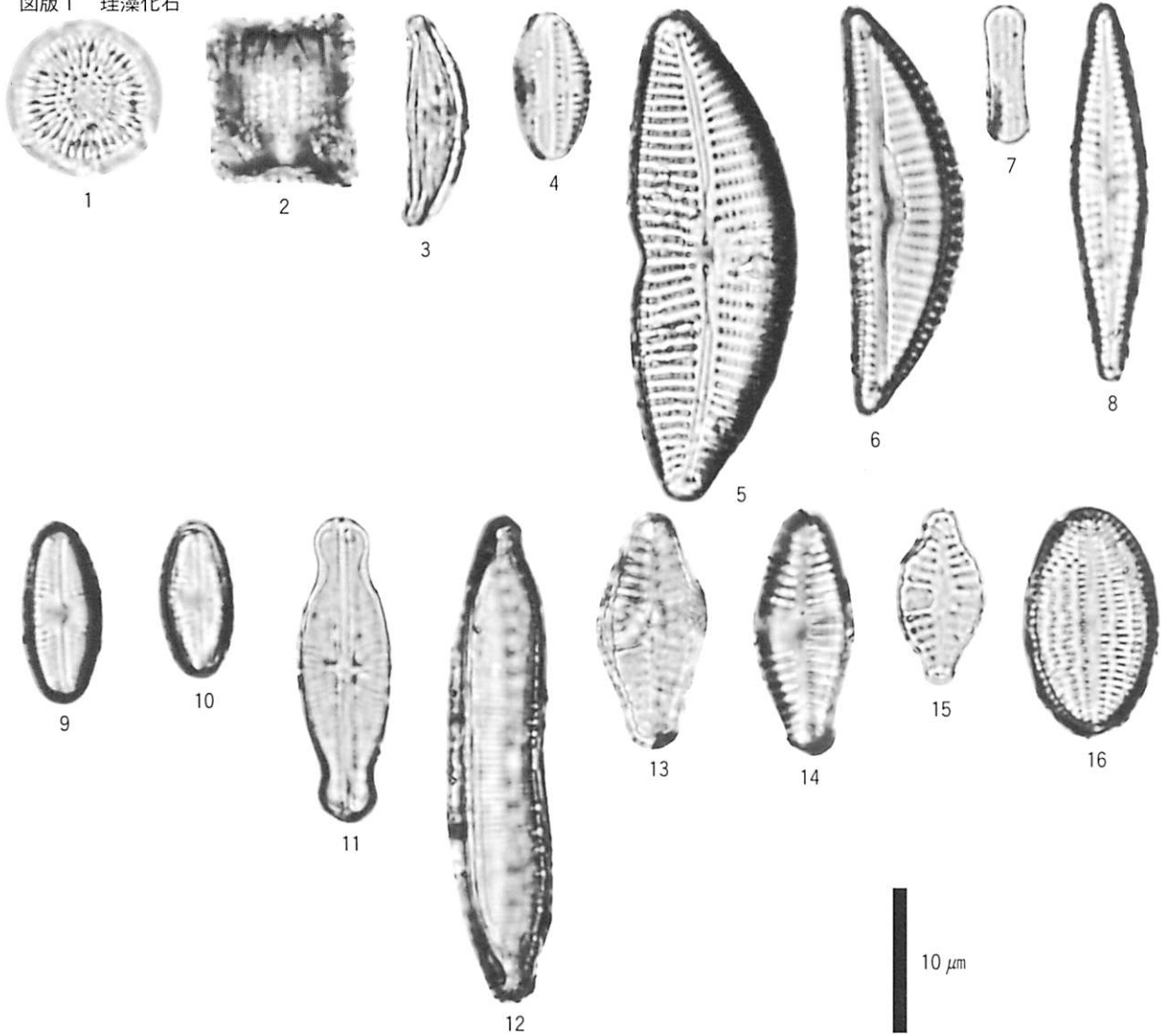
林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

Hustedt, F., 1937-1938, *Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra*. Nach dem Material der Deutschen limnologischen Sunda-Expedition, Teil I

～Ⅲ, Band. 15, p. 131-506, Band. 16, p. 1-155, 274-394.

- 伊藤 良永・堀内 誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, 23-45.
- 伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 小杉 正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.
- Krammer, K., 1992, *PINNULARIA. eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26*. J. CRAMER, 353p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1986, *Bacillariophyceae. 1. Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/1*. Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1988, *Bacillariophyceae. 2. Teil: Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/2*. Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991a, *Bacillariophyceae. 3. Teil: Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/3*. Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991b, *Bacillariophyceae. 4. Teil: Achnantheaceae, Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/4*. Gustav Fischer Verlag, 248p.
- Lowe, R.L., 1974, *Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms*. 334p. In Environmental Monitoring Ser. EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.
- 丸山 工作, 1999, 生化学入門. 188p., 裳華房.
- 日本の地質「九州地方」編集委員会, 1992, 日本の地質9 九州地方, 共立出版, 371p.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修, 1967, 新版標準土色帖.
- 奥谷 喬司・窪寺 恒己・黒住 耐二・斎藤 寛・佐々木 猛智・土田 英治・土屋 光太郎・長谷川 和範・濱谷 巖・速水 格・堀 成夫・松隈 明彦, 2000, 日本近海産貝類図鑑. 奥谷喬司編, 東海大学出版会, 1173p.
- ベドロジスト懇談会編, 1984, 土壌調査ハンドブック. 博友社, 156p.
- Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G. 1990, *The diatoms. Biology & morphology of the genera*. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
- 坂井 良輔・小林 正史, 1995, 脂肪酸分析の方法と問題点. 考古学ジャーナル, 386, 9-16, ニューサイエンス社.
- 坂井 良輔・小林 正史・藤田 邦雄, 1996, 灯明皿の脂質分析. 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 第7集 梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)第二分冊, 財団法人富山県文化振興財団, 24-37.
- 徐 金森・河内 進策, 1988, Characteristics of Major Fatty Acid Components of Haze Wax from Different Cultivars and Habitats. Mokuzai Gakkaishi, 34(5), 436-442.
- 島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].
- 吉岡敏和・星住英夫・宮崎一博, 1997, 大分地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所, 65p.

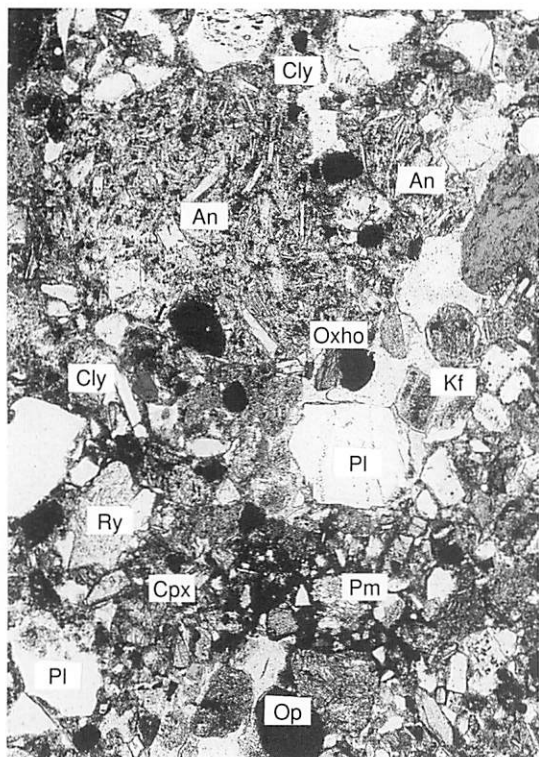
図版1 珪藻化石



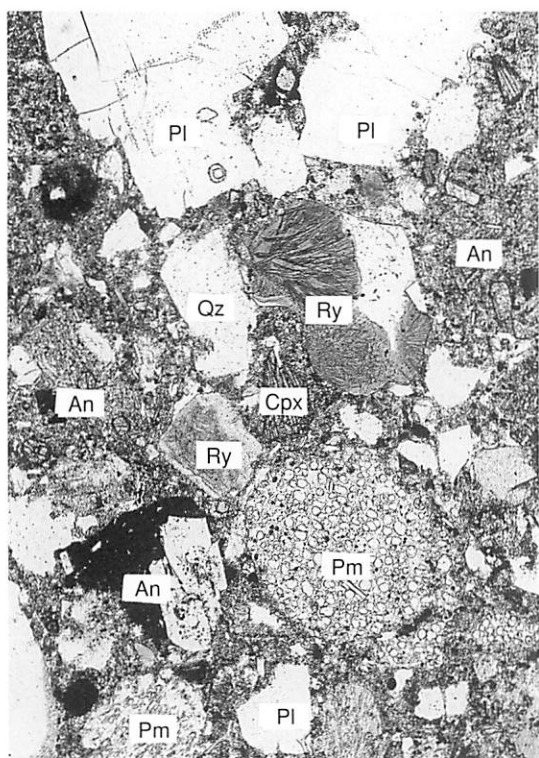
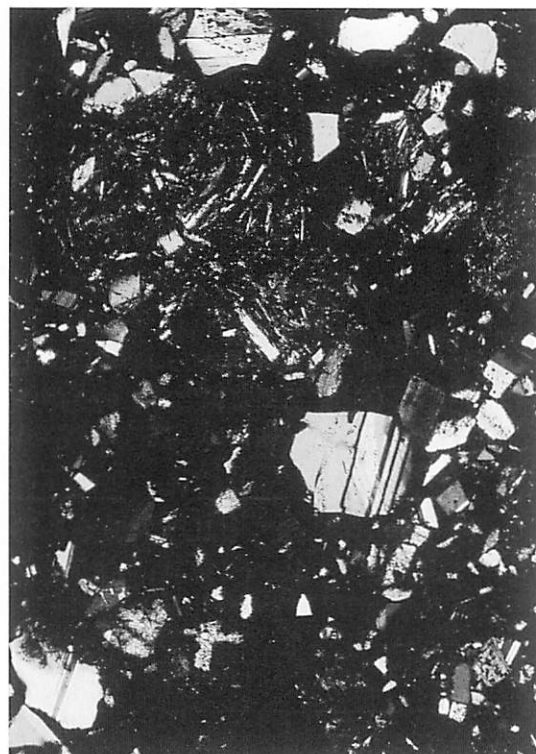
1. *Cyclotella radiosa* (Grun.) Lemm. (SF70 ; 13硬化面)
2. *Aulacoseira nipponica* (Skvortzow) Tuji (SF70 ; 13硬化面)
3. *Amphora montana* Krasske (SF70 ; 13硬化面)
4. *Amphora pediculus* (Kuetz.) Grunow (SF70 ; 土中の貝)
5. *Cymbella turgidula* Grunow (SF70 ; 土中の貝)
6. *Encyonema silesiacum* (Bleisch) D.G.Mann (SF70 ; 土中の貝)
7. *Diadesmis contenta* var. *biceps* (Arnott ex Grunow) Hamilton (SF70 ; 13硬化面)
8. *Gomphonema gracile* Ehrenberg (SF70 ; 土中の貝)
9. *Luticola mutica* (Kuetz.) D.G.Mann (SF70 ; 13硬化面)
10. *Luticola mutica* (Kuetz.) D.G.Mann (SF70 ; 13硬化面)
11. *Stauroneis japonica* H.Kobayasi (SF70 ; 土中の貝)
12. *Hantzschia amphioxys* (Ehren.) Grunow (SF70 ; 13硬化面)
13. *Planothidium lanceolatum* (Breb.) Round et Bukhtiyarova (SF70 ; 13硬化面)
14. *Planothidium lanceolatum* (Breb.) Round et Bukhtiyarova (SF70 ; 13硬化面)
15. *Planothidium rostratum* (Oestrup) Round et Bukhtiyarova (SF70 ; 土中の貝)
16. *Cocconeis euglypta* Ehrenberg (SF70 ; 土中の貝)



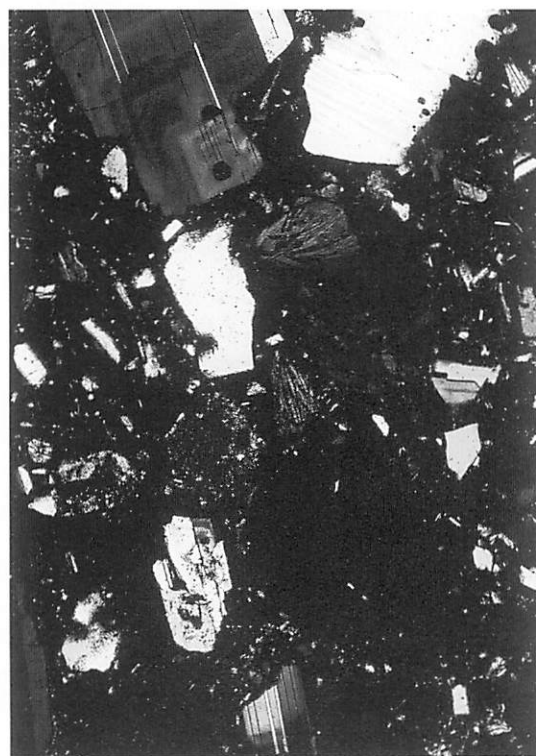
図版2 胎土薄片



1. 16次 G地区 SF70 第13硬化面



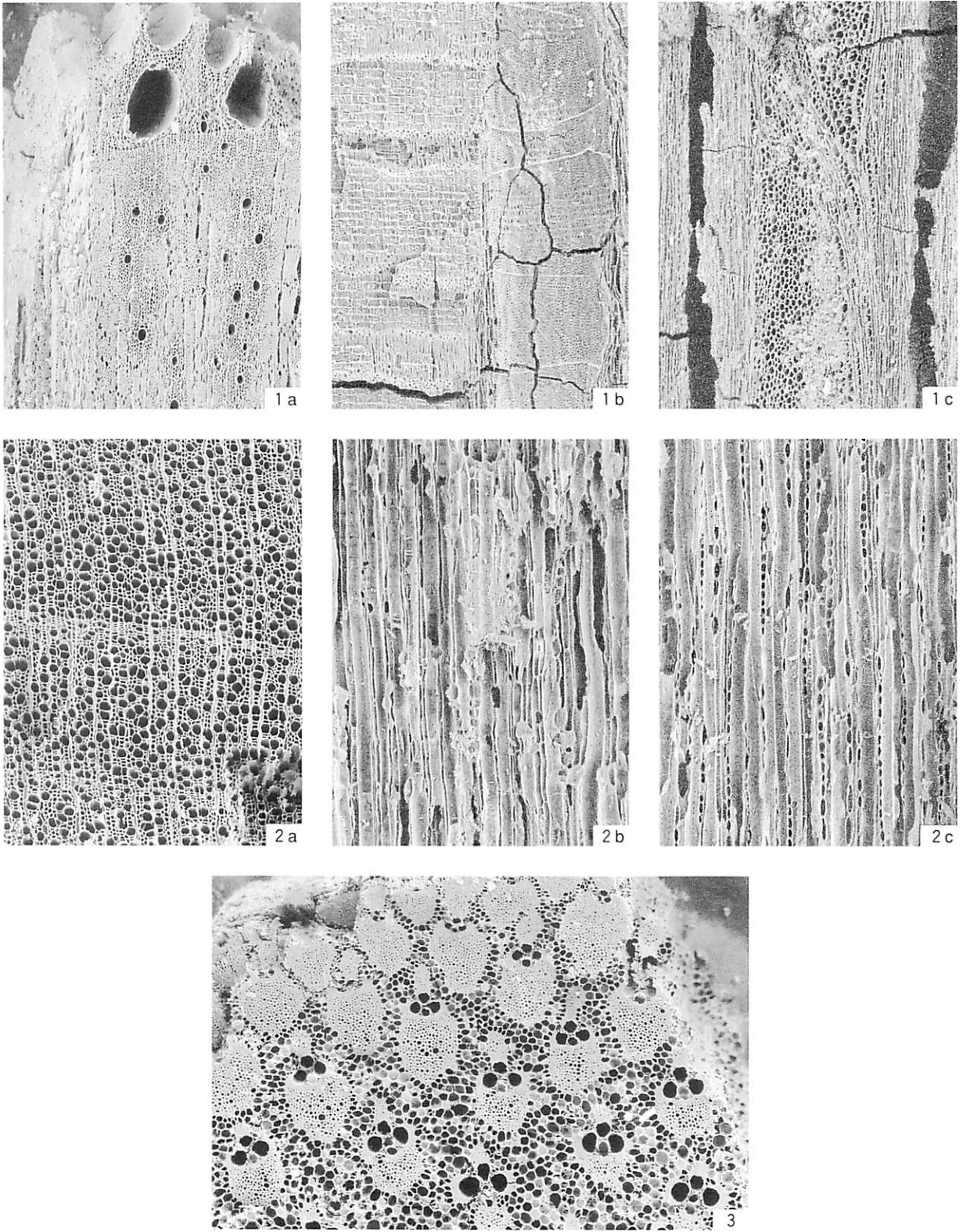
2. 16次 SF70 (土中の貝)



Qz: 石英 PI: 斜長石 Kf: カリ長石 Cpx: 単斜輝石 Oxho: 酸化角閃石  
 Op: 不透明鉱物 Ry: 流紋岩 An: 安山岩 Pm: 軽石 Cly: 粘土  
 写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

図版3 炭化材

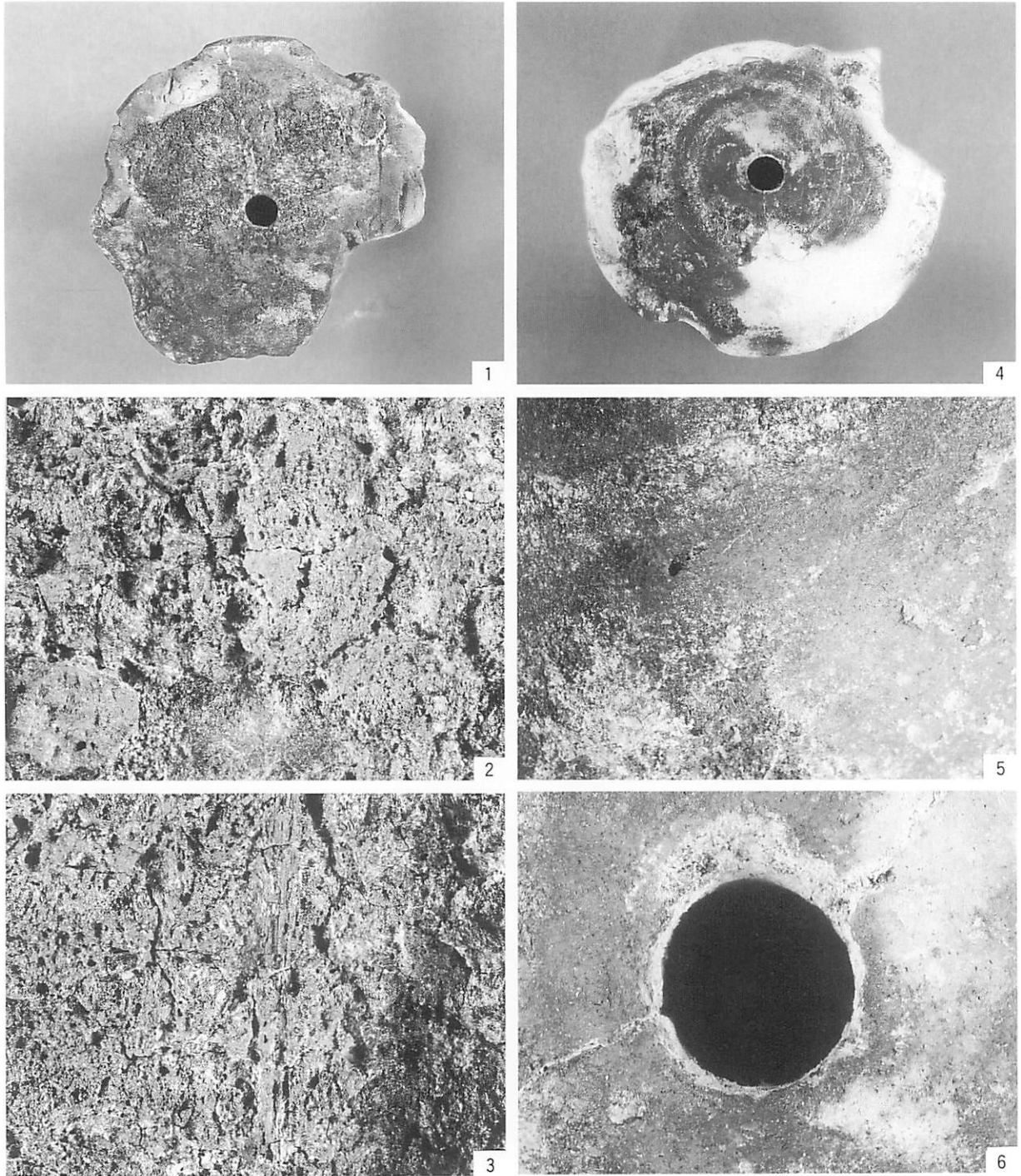


200  $\mu\text{m}$  : 1-2a, 3

200  $\mu\text{m}$  : 1-2b, c

1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (H区中東2区画; 第3焼土層) a: 木口, b: 柎目, c: 板目
2. サカキ (F・G地区; 第2焼土層中) a: 木口, b: 柎目, c: 板目
3. イネ科タケ亜科 (H地区中; 第2焼土層中) 横断面

図版4 土器（燭台）



1 cm 5 mm  
(1,4) (2,3,5,6)

1. 燭台 (SD791-138)
2. 燭台 (SD791-138)
3. 燭台 (SD791-138)
4. 燭台 (SK104-8)
5. 燭台 (SK104-8)
6. 燭台 (SK104-8)

## 第5章 総括

東西大トレン  
チ

JR日豊・豊肥線の高架化事業に伴う中世大友城下町跡の発掘調査は1999年度に開始され、2002年度に現場での作業はほぼ終了した。発掘調査区は、東は大分川の河畔から大友氏館の南側を通り、西は「府内古図」の西側にあたる低湿地部におよび、その間は約700mであり、中世都市「豊後府内」を東西に横断する形状となった。本書はその2冊目の調査報告書である。掲載された調査位置は、「府内古図」上で、西は大友氏館前を南北に貫く街路（第2南北街路）の東側から、東は第1南北街路を経由して、大分川の旧河川敷までである。この発掘調査範囲は、いずれの「府内古図」でも、御所小路町、上市町と清忠寺町にあたり、なかでも第1南北街路そのものが検出されることが想定された。

第1南北街路

短冊型地割

調査の結果、この調査範囲のなかから、14世紀から17世紀初頭にいたる遺構が継続的に認められた。特に第1南北街路の道路遺構は推定どおりの位置に発見された。同時に「府内古図」に描かれた16世紀後葉の遺構として、府内町跡第7次調査区において第1南北街路の東西に清忠寺町の地割を、府内町跡第16次調査区では上市町の地割を確認した。いずれも間口2間を最小とする短冊型地割であることから、この付近が町人町であったという推定を裏付けた。一方の御所小路町でも、東西に伸びる道路の一端と、その南北に連なる区画を確認し、この町が武家屋敷からなることを推定した。

古代官衙

さらに第7次調査区の下層からは、8世紀末から9世紀中葉の掘立柱建物群を確認し、その建物群を大分川をわたる渡河点に設けられた古代官衙関連施設であることを推定した(第2章第10節)。また新しいところでは、太平洋戦争末期の高射機関砲陣地を発見している。

以下に第7次調査と第16次調査に共通するいくつかの問題を指摘し、将来の調査・検討に備えた

### 1) 中世以前の府内

縄文時代

古代の大規模な遺跡が第7次調査区を中心に広がることはすでに、第2章で詳述したが、その前後をふくめて大分川西岸の微高地の土地利用の歴史をふり返ることが必要であろう。

まず縄文時代後期ないし晩期の遺物が府内跡第7次調査区や府内跡第5次調査区で見つまっている。いずれも包含層や中世の遺構に残留したものであるが、そのほとんどは摩滅している。第7次調査区では井戸の底の標高1m前後にあたる透水層の砂礫堆積から縄文土器片が出土しているので、本来そのような標高の低い位置に存在していた遺物が、後世の井戸や溝の掘削で上に上がってきたものと考えられる。

弥生～古墳時  
代

同様に弥生時代から古墳時代前期の遺物も遺構を伴っていない。多くは、中世の遺構に残留した遺物であって、一部は中世の溝や土坑の壁面にかかって採集されたものである。いずれも標高3～4mの暗褐色の粘土層（基盤V層と呼んだ堆積）から出土したものである。遺構は明確ではないが、古代や中世の遺構検出面のかなり下に、弥生時代から古墳時代の生活面あるいは包含層が存在している可能性がある。そこで、その時期をやや詳しく見ると、土器は弥生時代前期末の甕に始まり、下城式土器の甕、後期の安国寺式の壺、古墳時代前期の高坏・甕など、ほぼ時期的に途絶えることなく遺物が採集されている。したがってその時期には比較的安定した微高地が形成され、規模は不明だが集落が形成され継続していたものと考えられる。

集落の進出

砂層

ところが以上の包含層の上には1mあまりの砂層（基盤Ⅲ層あるいはⅣ層とした無遺物層）がある。おそらく微高地が不安定となって大分川の洪水に繰り返し遭遇したものと推定される。それ

を裏付けるように古墳時代中後期から7世紀の遺物がほとんど発見されなくなる。特にこの時期の指標となる須恵器と土師器はほとんどない。わずかに府内跡第5次調査区で土師器の甑が出土しているに過ぎない(『豊後府内1』P206第248図8)。おそらく微高地の不安定化に伴って、集落は撤退し、この場所は荒野となり、それまでの土地利用のありかたが変化した可能性が高い。かわりに注目される遺物は、円筒埴輪である。第7次調査区F地区の中世溝SD538に残留した円筒埴輪の底部片(第2-63図57)は、中期後半から後期前半の近畿南部に起源する淡輪型埴輪の底部によく似ている。さらに第5次調査区B区からは突帯が低くなった後期前半の円筒埴輪の胴部片2点がいずれも中世の遺構に残留して発見されている(『豊後府内1』P206第248図8)。この2種の埴輪は明らかに時期が異なるので、少なくとも2基の古墳からもたらされたものである。後者に類似する川西編年V期の円筒埴輪<sup>(註1)</sup>は、大分川を隔てた対岸の下郡遺跡第99次調査区でも発見されている(『下郡遺跡群』Ⅲ、P221第181図SX057-001、2005、大分市教育委員会)。今近隣にこの埴輪を樹立した古墳を見出すことができないが、おそらく近接地の古墳から流出したものと考えられる。出土した、埴輪はそれほど摩滅していないので、比較的近くから移動したものと推定される。したがってこの微高地付近に埴輪を有する古墳が存在した可能性が高いのである。だとすれば荒野と化したこの地は、墓地として利用されていた可能性がでてくる。

その後再び集落がこの微高地に進出するのは、8世紀から9世紀にかけてである。この時期には豊後国府から海部郡衙に向かう「海部路」とよんだ古代道路がこの微高地上に存在したことが想定され、第7次調査区ではその道路の渡河点に関わる官衙的遺跡を発見している。ほかに府内町跡第6次調査区や第10次調査区では同時代の井戸が発見されているので、道路や官衙のみではなく集落もまた進出していることは明らかである(『南蛮都市・豊後府内』2001、大分市教委・中世都市研究会)。遺物の面でも8世紀後半の須恵器と土師器、9世紀の土師器のほか、黒色土器A類碗、緑釉陶器、越州窯青磁などが出土している。古代の道路を設けることが可能であったことから考えると、再びこの微高地は安定化したものと考えられる。

しかし、その後不思議なことに、この場所は10世紀から13世紀の遺構をほとんど見出すことができなくなる。遺物は少数ながらその時期の白磁・青磁が発見されているので、人の出入りがあったことは確実であるが、集落やまして都市が存在した可能性は極めて少ない。事実この付近は11世紀の文献資料では「勝津留島」として記載され、後世に都市府内となるほとんど全域が「荒野空間の地」として開発の申請が行われているのである(木村幾多郎「高国府・勝津留考」『大分・大友土器研究』18・19、1997、大分・大友土器研究会)。当時の開発申請が桑島などを意図したもので、水田開発でないことは明らかであり、11世紀の遺構遺物がほぼ存在しない調査成果とよく符合する。

そして14世紀ごろからは中世府内全域で、密度と内容の差がありながら、多数の遺構や遺物を見出すことができるようになる。おそらく徳治元(1306)年の万寿寺建設が開発の端緒となった可能性がたかい。飯沼賢治氏によれば、万寿寺は中世府内で最古の寺院であり、寺院を中心として都市に発展する姿は博多とよく似ているという。しかしそう考えると11世紀の文献にみえる「田中寺」や1242年の府内を対象とした都市法「新御成敗状」の記載とはなはだ矛盾することとなる。万寿寺以前の遺構がほとんどないところからみて、「新御成敗状」は13世紀中ごろのこの遺跡の実態にあった法令ではない。13世紀の府内がこの場所ではないと考えない限り、1242年の豊後府内には発達した町場が展開していた可能性が低いという山村亜希氏の見解<sup>(註2)</sup>が妥当性を持っていると言えるだろう。

註1 川西宏幸「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』64-2、1978、日本考古学会

註2 山村亜希「中世前期都市の空間構造と都市像」『人文地理』54-6、2002、

## 2) 16世紀初頭における都市府内の画期

第7次調査区と第16次調査区の成果として、16世紀の第3四半期に起こった火災後の復興時に、清忠寺町と上市町に短冊型地割が導入され、それまでの区画を分割ないしは再区分した、いわば都市整備が行われたことが明らかになった。それは中世都市府内の歴史の上でも大きな画期というが、それ以前の15世紀末から16世紀の初めごろにも大規模な都市整備が行われている。まず、第1南北街路がSF70とSF183という新しい道路として付け替えられ、その工事に伴って両側では新たな整地が行われている。その時点での都市整備の要点は①やや西に幅7m強の新たな第1南北街路を建設する。②第1南北街路の両側に整地を行う。③その結果15世紀までの道路に並行する溝が埋没し、道路に面して開かれた宅地が区画される。道路に並行する溝がなくなることで、道路に面した区画の一辺が、町屋として利用できるようになる。したがって16世紀初頭の府内整備の特色は第1南北街路の両側に道路に面した両側町が建設されたことにあると推定される。おそらく清忠寺町・上市町などの16世紀後半の両側町の形成は、この時点にさかのぼると考えられることである。

さらにその時期の府内の都市整備は第1南北街路とその周辺の清忠寺町や上市町のみでなく、府内跡第5次B調査区では、林小路町とのこぎり町と第4南北街路の接点となる三叉路（SD151、SD153、SD413など）が整備されている<sup>註3</sup>。それだけでなく、第4南北街路に入口を設ける寺院を調べると、臨済宗南禅寺派の大智寺は、はじめ14世紀に海部郡の丹生郷に建てられた後、大友義右が明応2（1493）年に現在地に再興したものである。同じく大雄院は大友義右創建とも大友義長が永正年中（1504～1521年）に建立したものともしいう。また横小路と西小路も、そこに入口が取り付く浄土宗来迎寺が大友親治によって文亀年中（1501～1504）年に創建されている。こうしてみると15世紀の末から16世紀の初めごろは、中世都市府内における寺院成立の画期でもあることがわかる。しかもこれらの寺院は、それまで寺院のなかった第4南北街路や、同じく西小路・横小路に初めて造られたことが注目される。おそらく寺院建設に先立って、あるいはほぼ同時に、第1南北街路と同様な道路整備が行われて、そこに面して寺院を配置したと考えられる。したがってこの15世紀末から16世紀初頭の都市府内の整備は、第2と第3南北街路を除く、第1南北街路と第4南北街路と林小路町に通じる東西の街路、横小路と西小路に及ぶ広範囲のものであった可能性が高い。

以上のように、16世紀初頭前後のこの段階ではほぼ戦国時代の都市府内の主要街路の骨格ができあがったものと推定される。その意味で、中世府内の歴史の中でもこの時期は注目すべき画期と考えられる。

註3 吉田寛「中世大友府内町跡第5次調査A区」『豊後府内』1（大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告1）2005、大分県教育庁埋蔵文化財センター

# 遺構一覽表



第7次調査区遺構一覧表①

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
第1 焼土層	SS- 1	焼土層	C 地区 (C 5 区)	G45区	1587年	豊薩戦争時	240
第2 焼土層	SS- 2	焼土層	C 地区 (C 4 ~ 6 区)	G44~G45区	16世紀第3 四半期	—	235
第3 焼土層	SS- 3	焼土層	C 地区 (C 4 ~ 6 区)	G44~G45区	16世紀第1 四半期	—	
SB301	SB- 1	掘立柱建物	C 地区 (C 5 ~ 6 区)	G44b~G45a 区	現代	—	263
SB302	SB- 2	掘立柱建物	G 地区	F35区	16世紀第4 四半期	—	61
	P-984	柱穴	G 地区	F35a 区		—	61
	P-939	柱穴	G 地区	F35C 区		—	61
	P-982	柱穴	G 地区	F35C 区		—	61
	P-941	柱穴	G 地区	F35c 区		—	61
	P-937	柱穴	G 地区	F35C 区		—	61
	P-934	柱穴	G 地区	F35d 区		—	61
	P-935	柱穴	G 地区	F35d 区		—	61
	P-814	柱穴	G 地区	F35d 区		—	61
	P-983	柱穴	G 地区	F35b 区		—	61
SB303	SB- 3	掘立柱建物	G 地区	F35区	16世紀第4 四半期	—	62
	P-922	柱穴	G 地区	F35d 区		—	62
	S-707	柱穴	G 地区	F35ab 区		—	62
	P-822	柱穴	G 地区	F35c 区		—	62
	S-760	柱穴	G 地区	F35c 区		—	62
	P-816	柱穴	G 地区	F35d 区		—	62
	P-977	柱穴	G 地区	F35d 区		—	62
	P-933	柱穴 (=P1005)	G 地区	F35d 区		—	62
	P-955	柱穴	G 地区	F35d 区		—	62
	P-805	柱穴	G 地区	F35d 区		—	62
SB304	SB- 4	掘立柱建物	G 地区		古代	—	20
	S-708	柱穴	G 地区	F35b	古代	—	20
	S-767	柱穴	G 地区	F35b		—	20
	S-768	柱穴	G 地区	F35d		—	20
	S-769	柱穴	G 地区	F35d		—	20
SB305	SB- 5	掘立柱建物	G 地区	E32	古代	側柱建物	15
	P-1026	柱穴	G 地区	E32		根石あり	15
	P-1027	柱穴	G 地区	E32		根石あり	15
	P-1028	柱穴	G 地区	E32		根石あり	15
	P-1029	柱穴	G 地区	E32		根石あり	15
	P-1030	柱穴	G 地区	E32		根石あり	15
SB306	SB- 6	掘立柱建物	G 地区	F33、E33、F34、E34	古代	8 ~ 9 世紀、2 回の建て替え	16
SB306A	P-1079	柱穴	G 地区	F33c	古代	柱痕、側面に小腰坑	16
	P-1073	柱穴	G 地区	F33c	古代	柱痕、側面に小腰坑	17
	SP-787	柱穴	G 地区	F33c	古代	側面に小腰坑、土師器小壺埋納。祭祀遺構	17
	SP-785	柱穴	G 地区	E33a	古代	下部、側面に小腰坑。	17
	SP-786	柱穴	G 地区	E33a	古代	根石あり	19
	SP-788	柱穴	G 地区	E33a	古代	根石あり	20
SB306B	P-1052	柱穴	G 地区	F33c	古代	柱痕あり	20
	P-1044	柱穴	G 地区	F33c	古代	柱痕あり	20
	P-1053	柱穴	G 地区	F33c・E33a	古代	柱痕あり	20
	SP-785	柱穴	G 地区	E33a	古代	上部、根石あり。	20
	P-1078	柱穴	G 地区	F33b	古代	柱痕不明	20
	P-1075	柱穴	G 地区	F33d	古代	柱痕あり	20
	P-1067	柱穴	G 地区	F33d	古代	柱痕あり	20
	S-808	柱穴	G 地区	E33b	古代	根石あり	22
	S-774	柱穴	G 地区	E33b	古代	柱痕あり、土師器破壊碎廃棄	22
SB306C	P-1051	柱穴	G 地区	F33c	古代	柱痕あり	23
	P-1043	柱穴	G 地区	F33c	古代	柱痕あり	23
	P-1054	柱穴	G 地区	F33a	古代	—	23
	S-804	柱穴	G 地区	E33a	古代	—	23
	S-783	柱穴	G 地区	E33a	古代	柱痕あり	23
	S-778	柱穴	G 地区	E33b	古代	柱痕あり	23
	S-777	柱穴	G 地区	E33b	古代	根石あり	23
	P-1074	柱穴	G 地区	F33d	古代	柱痕あり	23
	S-795	柱穴	G 地区	F33d	古代	柱痕あり	23
	SP-809	柱穴	G 地区	E33b	古代	柱痕あり	23
	P-1033	柱穴	G 地区	E33b	古代	柱痕あり	23
	P-1068	柱穴	G 地区	F34c	古代	柱痕あり	23
	P-1037	柱穴	G 地区	F34c	古代	根石あり	23
	SP-807	根石	G 地区	F34c	古代	—	23
	SP-806	根石	G 地区	E34a	古代	—	23
	SP-805	根石	G 地区	E34a	古代	—	23
SB307	SB- 7	掘立柱建物	G 地区	G32d	古代	—	16
	P-925	柱穴	G 地区			根石あり	16
	P-928	柱穴	G 地区			根石あり	16
SB308	SB- 8	掘立柱建物	G 地区	F33、E33区	中世 (15世紀)	—	36
	S-742	柱穴	G 地区	F33c 区	15世紀	P1069と同じ。	36
	S-784	柱穴	G 地区	E33a 区	15世紀	—	36
	P-1031	柱穴	G 地区	E33a 区	15世紀	柱痕あり	36
	P-1062	柱穴	G 地区	E33c 区	15世紀	—	36



第7次調査区遺構一覧表②

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
	S-779	柱穴	G地区	E33a区	15世紀	柱痕あり	37
	P-1011	柱穴	G地区	E33c区	15世紀	—	37
	S-781	柱穴	G地区	E33a区	15世紀	—	37
	P-1036	柱穴	G地区	E33b区	15世紀	—	37
	P-1032	柱穴	G地区	E33b区	15世紀	—	39
	P-1034	柱穴	G地区	E33b区	15世紀	—	39
SB309	SB-9	獨立柱建物	F地区		古代	—	28
	P-714	柱穴	F地区	G37d	古代	柱痕あり	28
	P-713	柱穴	F地区	F37b	古代	柱痕あり	28
	P-712	柱穴	F地区	F37b	古代	柱痕あり	28
	P-706	柱穴	F地区	F37b	古代	柱痕あり	28
	P-705	柱穴	F地区	F37d	古代	柱痕あり	28
	P-704	柱穴	F地区	F37d	古代	柱痕あり	28
	P-701	柱穴	F地区	G37d	古代	柱痕あり、黒書土器(「宅」)出土	28
	P-700	柱穴	F地区	G38c	古代	柱痕あり	28
	P-703	柱穴	F地区	F37d	古代	柱痕あり	28
	P-702	柱穴	F地区	F37d	古代	柱痕あり(=P611)	29
	P-699	柱穴	F地区	G38c	古代	柱痕あり(=P657)	29
	P-698	柱穴	F地区	F38a	古代	柱痕あり(=P651)	29
	P-697	柱穴	F地区	F38a	古代	柱痕あり	29
	P-696	柱穴	F地区	F38c	古代	柱痕あり(=P641)	30
	P-695	柱穴	F地区	F38c	古代	柱痕あり(=P643)	30
	P-694	柱穴	F地区	F38c	古代	柱痕あり(=P680)	30
	P-711	柱穴(庇)	F地区	F38a	古代	柱痕あり	30
	P-710	柱痕(庇)	F地区	F38a	古代	—	30
	P-693	柱穴(庇)	F地区	F38c	古代	柱痕あり	30
	S-567	柱穴(庇)	F地区	F38c	古代	柱痕あり(=P639)	30
SA311	SA-1	桐列	G地区	E32~33区	16世紀第1四半期	焼失	48
	P-1020	柱穴	G地区	E32d	々	—	48
	P-1018	柱穴	G地区	E32d	々	—	48
	P-913	柱穴	G地区	E32d	々	—	48
	P-912	柱穴	G地区	E32d	々	—	48
	P-911	柱穴	G地区	E32d	々	炭化した柱痕	48
	P-910	柱穴	G地区	E33c区	々	炭化した柱痕	48
	P-909	柱穴	G地区	E33c区	々	炭化した柱痕	48
	P-908	柱穴	G地区	E33c区	々	炭化した柱痕	48
	P-902	柱穴	G地区	E33c区	々	—	48
	P-900	柱穴	G地区	E33d区	々	—	48
	P-1059	柱穴	G地区	E33d区	々	炭化した柱痕	48
SA312	SA-2	柱穴列	D地区	G43ab区	16世紀後半	何度も再建された区画施設	137
	SK173	土坑	D地区	G43a区	16世紀第4四半期	—	138
	P-135	(人為)ピット	D地区	G43a区	16世紀後半	—	138
	P-136	柱穴	D地区	G43a区	中世	糸切土師1点	138
	P-137	柱穴	D地区	G43a区	中世	青磁鉢	138
	P-138	柱穴	D地区	G43a区	16世紀第4四半期	完形土師器坏、京都系土師器3期1点	138
	P-139	柱穴	D地区	G43a区	中世	—	138
	P-140	(人為)ピット	D地区	G43a区	中世	銭貨1枚、糸土師	138
	P-114	P140の柱痕	D地区	G43a区	近世	糸切土師1点。S145を切る	138
	P-141	柱穴	D地区	G43a区	中世	—	138
	P-142	柱穴	D地区	G43a区	中世	—	138
	P-143	柱穴	D地区	G43a区	16世紀後半	—	139
	P-144	柱穴	D地区	G43a区	16世紀後半	—	139
	P-145	柱穴	D地区	G43ab区	16世紀後半	完形土師器正位で埋置。	139
	P-164	(人為)	D地区	G43a区	16世紀第4四半期	—	139
	P-168	柱穴	D地区	G43b区	中世	糸切土師	139
	P-169	柱穴	D地区	G43b区	中世	糸切土師	139
	P-170	柱穴	D地区	G43b区	中世	備前焼甕1点。	139
	P-171	柱穴	D地区	G43b区	中世	糸切土師	139
	P-172	柱穴	D地区	G43b区	中世	糸切土師ほか。	139
	P-173	柱穴	D地区	G43b区	中世	—	139
	P-174	柱穴	D地区	G43b区	中世	糸切土師ほか。	139
	P-179	柱穴	D地区	G43b区	16世紀	糸切土師1点、銭貨5枚埋置の祭祀	139
	P-180	(人為)ピット	D地区	G43b区	中世	—	139
	P-181	柱穴	D地区	G43b区	中世	—	139
	P-182	(人為)ピット	D地区	G43b区	中世	—	139
	P-183	(人為)ピット	D地区	G43b区	中世	—	139
	P-187	(人為)ピット	D地区	G43b区	中世	—	139
	P-189	(人為)ピット	D地区	G43b区	中世	—	139
	P-190	(人為)ピット	D地区	G43b区	中世	—	139
	P-195	柱穴	D地区	G43a区	中世	—	139
	P-196	(人為)ピット	D地区	G43b区	16世紀	糸切土師、ロクロ目土師ほか	139
	P-197	(人為)ピット	D地区	G43b区	中世	—	139
	P-198	(人為)ピット	D地区	G43b区	16世紀第3四半期	柱穴列の一つ	139
	P-205	(人為)ピット	D地区	G43b区	中世	—	139
SA313	SA-3	柱穴列	D地区	G42/43区	16世紀後半	—	139

第7次調査区遺構一覧表③

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
	P-82	(人為)	D地区	G42d区	16世紀	—	139
	P-83	柱穴	D地区	G43c区	中世	—	139
	P-84	柱穴	D地区	G43c区	不明	古代土師器1点	139
	P-88	柱穴	D地区	G42d区	16世紀後半	—	139
	P-90	柱穴	D地区	G43c区	中世	—	139
	P-132	(人為) ビット	D地区	G42d区	不明	—	139
	P-133	(人為) ビット	D地区	G42d区	不明	—	139
	P-158	(人為)	D地区	G43c区	中世	—	139
	P-193	(人為) ビット	D地区	G43c区	不明	—	139
	P-194	(人為) ビット	D地区	G43c区	中世	—	139
SA314	SA-4	柱穴列	C地区		16世紀第3四半期	—	234
	P-216	(人為) ビット	C地区	G45a区	16世紀第3四半期	—	235
	P-217	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	IV層上面。遺物なし。	235
	P-218	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	IV層上面。遺物なし。	235
	P-227	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列。青花1点。	235
	P-228	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列。白磁皿2点	235
	P-229	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列、*銅製鍵(ツ3)	235
	P-230	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	235
	P-251	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	235
	P-252	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	235
	P-253	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	235
	P-256	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	235
	P-257	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	235
	P-274	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	235
	P-297	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	235
SD321	SD-1	溝	D地区	G41~44区	近現代	—	263
SD322	SD-2	2つの土坑	D地区	G42区	17世紀	SK140とSK141に解消。	195
SE331	SE-1	井戸	D地区	G41~F41区	16世紀第4四半期	井筒は桶と凝灰岩板石の組み合わせ。	179
	SX-1	浅いIII層上面のくぼみ	C地区 (C6区)	G44b区	1587年	⇒第1焼土層	
SX342	SX-2	浅い窪み	C地区	G44d区	近代以後	—	265
SX343	SX-3	性格不明	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第4四半期	—	240
SX344	SX-4	高射砲台座	E地区	G40・F40区	1945	塹壕と接続	263
SX345	SX-5	廃棄坑	E地区	F38bd区	1945	廃棄土坑	264
SX346	SX-6	整地層の一部・多くの土坑の上部。S-111・114・126・127・128・135・136に分解。	E地区	G38・39区、F39区	16世紀第4四半期		163
SX347	SX-7	3つの土坑	E地区	F39a区	1596~17世紀初頭	—	189
SX348	SX-8	不明	E地区	F39b区	不明	—	
SX349	SX-9	整地層の一部	E地区	F38d区		遺構ではない	
SX350	SX-10	土坑	E地区	G39a区	16世紀後半	—	149
SK1	SK-1	土坑	C地区 (C1・2区)	G46b~G47a区	16世紀第2四半期	火災処理土坑	232
SK2	SK-2	土坑	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	火災処理土坑	240
SK3	SK-3	土坑	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	—	240
SK4	SK-4	長方形土坑	C地区 (C4区)	G45b区	1596~17世紀初頭	—	246
SK5	SK-5	土坑	C地区 (C6区)	G44b区	1587年~	火災処理土坑	245
SK6	SK-6	土坑	C地区 (C6区)	G44b区	17世紀初頭	—	246
SK7	SK-7	小土坑	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第4四半期	—	240
SK8	SK-8	土坑	C地区	G44b区	16世紀第4四半期	—	240
SK9	SK-9	土坑	D地区	G43d区	16世紀第1四半期	銅銭9枚と土師器を埋置した祭祀遺構	125
	SK-10	浅いくぼみ	D地区		欠番	掘下げ中に消失	
SK11	SK-11	集石土坑	D地区	F41a区	16世紀第4四半期	廃棄土坑。礫集中廃棄	151
SK12	SK-12	土坑	D地区	G41d区	16世紀第3四半期	廃棄土坑	145
SK13	SK-13	祭祀のち廃棄坑	D地区	G43a区	16世紀第4四半期(1587直後)	京都系土師器小皿3枚埋置	188
SK14	SK-14	集石	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀後半	遺物なし。	
	SK-15	⇒SK184	C地区 (C4区)	G45d区			
	SK-16	—	C地区 (C4区)	G45c区	—	遺構ではない	
SK17	SK-17	廃棄坑	D地区	G41b区	16世紀第3四半期	廃棄土坑	145
SK18	SK-18	土坑	D地区	G42cd区	16世紀第4四半期	廃棄土坑。礫集中廃棄	151
SE19	SE-19	井戸	D地区	G41bd区	16世紀第3四半期	井筒は桶使用。抜き取り痕。	146
SK20	SK-20	土坑	D地区	G43d区	16世紀	糸切土師器小皿1枚逆さに埋置	203
SK21	SK-21	土坑	D地区	G43d区	16世紀	—	203
SK22	SK-22	土坑	E地区	F39c区	1596~17世紀初頭	—	190
	SK-23	(自然)	E地区			遺構ではない	
SK24	SK-24	土坑	E地区	F39b区	16世紀第4四半期	—	174
SK25	SK-25	土坑	E地区	F39a区	不明	—	
SK26	SK-26	土坑	E地区	F39a区	中世	糸切土師のみ	
SK27	SK-27	土坑	E地区	F39c区	近現代	—	265
SK28	SK-28	土坑	E地区	F39b区	中世	瓦質火鉢片1点。	
	SK-29	整地層の一部	E地区			遺構ではない	
SK30	SK-30	土坑	E地区	G39cd区	16世紀後半	—	149
SK31	SK-31	土坑	E地区	G39d区	16世紀第2四半期	—	136
SK32	SK-32	土坑	E地区	G39c区	不明	遺物なし。SK33を切る。	
SK33	SK-33	土坑	E地区	G39c区	16世紀	—	202
SK34	SK-34	土坑	E地区	G39d~G40c区	16世紀第3四半期	—	140
SK35	SK-35	土坑	E地区	G39d区	16世紀第4四半期	—	184
SK36	SK-36	土坑	E地区	G39d区	16世紀第4四半期	—	163

第7次調査区遺構一覧表④

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
SK37	SK-37	土坑	E地区	G39cd区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	161
SK38	SK-38	土坑	E地区	G39d区	16世紀第3四半期	—	141
SK39	SK-39	土坑	D地区	G42d区	17世紀初頭	廃棄土坑	201
SK40	SK-40	土坑	E地区	G40cd区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	158
SK41	SK-41	廃棄坑	E地区	F41a区	16世紀第4四半期	糸切土師器2枚埋置後、廃棄土坑に転用。	155
SK42	SK-42	土坑	E地区	G39d区	不明	—	
SK43	SK-43	集石土坑	E地区	F41a区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	
SK44	SE108内部土坑	土坑	E地区	G41c区	17世紀初頭	廃棄土坑	191
SK45	SE331内部土坑	土坑	D地区	G42d～F41b区	17世紀初頭	廃棄土坑	194
SK101	SK-101	土坑	E地区	G40d区	16世紀第3四半期	廃棄土坑	149
SK102	SK-102	土坑	E地区	G40d区	16世紀第2四半期	廃棄土坑に転用	133
SK103	SK-103	土坑	E地区	G40c～G41a区	16世紀後半	廃棄土坑	149
SK104	SK-104	廃棄坑	E地区	G40d区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	159
SK105	S-105	土坑	E地区	G40d～G41c区	16世紀第3四半期	京都系土師器小皿1枚埋置	141
SK106	SK-106	土坑	E地区	F39c区	1596～17世紀初頭	—	190
SK107	SK-107	土坑	E地区	F40a区	1935～1945	戦争遺跡	265
SE108	SE-108	井戸	E地区	G41c・F41a区	16世紀第4四半期	井筒は桶使用。抜取り痕。	175
SK109	SK-109	廃棄坑	E地区	F40b～F41a区	16世紀第4四半期(1575～1587)	廃棄土坑	153
SK110	SK-110	廃棄坑	E地区	F41a区	16世紀後半	廃棄土坑	142
SD111	SD-111	溝	E地区	G39c～F39ac区	16世紀第2四半期	南北溝	134
SK112	SK-112	廃棄坑	E地区	G40c区	16世紀第4四半期	貝類の廃棄土坑	156
SK113	SK-113	土坑	E地区	G40d区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	159
SK114	SK-114	廃棄坑	E地区	G39c～F39a区	16世紀第4四半期	廃棄土坑、青花水注把手、16次SP311と接合	163
SK115	SK-115	廃棄坑	D地区	G43c区	16世紀	15世紀の土坑 SK119を切る	
SK116	SK-116	土坑	D地区	G42d～43c区	不明	3つの小土坑の重複	
SK117	SK-117	土坑	D地区	G42d区	不明	P85を切る。	
SK118	S-118	土坑	D地区	G42d区	14～15世紀	—	115
SK119	S-119	土坑	D地区	G42d～G43c区	15世紀	—	114
	S-120	遺構でないかも	D地区	G43c区		糸切土師1点	
	S-121	(人為)	D地区	G43cd区	現代	攪乱	
SP122	S-122	柱穴	E地区	G40c区	中世	中世陶器片1点。	
SK123	SK-123	土坑	E地区	F38b区	16世紀	ロクロ目土師1点の破片が出土	
SK124	S-124	土坑	E地区	GF40～41区	16世紀前半	3つの小土坑の重複	130
SK125	S-125	土坑	D地区	G41d区	16世紀第2四半期	廃棄土坑	133
SK126	SK-126	廃棄坑	E地区	G38d～G39c区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	171
SK127	SK-127	土坑	E地区	G39c区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	167
SK128	SK-128	土坑	E地区	G39c区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	174
SK129	SK-129	埋納坑	E地区	F40a区	16世紀第3四半期	京都系土師器小皿1枚埋置	142
SK130	SK-130	土坑	E地区	G39c区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	169
SK131	S-131	土坑	E地区	G40d区	16世紀第3四半期	—	149
SK132	SK-132	土坑	E地区	G40d区	16世紀第3四半期	糸切土師2枚埋置	145
SK133	SK-133	土坑	E地区	G40c区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	157
SK134	S-134	土坑	D地区	G41d区	16世紀第2四半期	廃棄土坑	133
ST135	S-135	墓	E地区	G39c区	16世紀第3四半期	桶棺による座葬。	148
SK136	SK-136	土坑	E地区	G38d区	16世紀第4四半期	—	171
SK137	SK-137	土坑	E地区	G40c区	16世紀第3四半期	—	140
SK138	S-138	土坑	D地区	G41d区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	153
SK139	S-139	方形土坑	D地区	G41c区	近現代	地下倉	263
SK140	S-140	石組み土坑	D地区	G42c区	1596～17世紀初頭	廃棄土坑	196
SK141	SK-141	便所?	D地区	G42c区	1596～17世紀初頭	地下倉あるいは便所	198
SK142	SK-142	土坑	E地区	G41d	古代	—	31
SK143	S-143	整地層	D地区	G42bd～G43c区	16世紀第2四半期	生活面のくぼみを埋めた整地層。	131
SK144	S-144	土坑	D地区	G42d区	16世紀第1四半期	ロクロ目土師皿1枚埋置	128
S145	S-145	整地した床面	D地区	G42b区～G43a区	16世紀第4四半期	1587年以前	184
SK146	SK-146	火災処理坑	D地区	G43b区	16世紀第4四半期	1587年直後	185
SK147	S-147	土坑	D地区	G42a区	16世紀第3四半期	廃棄土坑	150
SK148	SK-148	廃棄坑	D地区	G42a区	16世紀第2四半期	廃棄土坑	133
SK149	S-149	廃棄土坑	D地区	G42a区	15世紀か	—	114
SK150	S-150	土坑	D地区	G42b区	16世紀第1四半期	—	129
SK151	SK-151	土坑	D地区	G42d～G43c区	16世紀第1四半期	ロクロ目土師皿2枚埋置	129
	SK-152	土坑	D地区	G43～44区	攪乱		105
SE153	S-153	土坑	D地区	G42b区	15世紀	—	115
SK154	SK-154	小土坑	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第4四半期～1587	—	238
SK155	S-155	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第4四半期	—	240
SK156	S-156	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第4四半期～1587	—	246
SK157	S-157	土坑	D地区(C4区)	G45a区	17世紀初頭	—	247
SK158	S-158	船底形土坑	D地区(C4区)	G45ab区	1596～	土取り坑、最上位に焼土層	243
SK159	SK-159	土坑	D地区	G42bd区	16世紀第1四半期	廃棄土坑	128
SK160	SK-160	土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	—	241
SK161	S-161	(整地層)	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	—	239
SK162	S-162	土坑	C地区(C6区)	C44d区	16世紀第1四半期	—	209
SK163	S-163	土坑	C地区(C3区)	G46c区	16世紀第1四半期	土師器皿1枚埋置後廃棄土坑に	210
SK164	S-164	土坑	C地区	G46b区	15世紀	—	114
SK165	SK-165	土坑	C地区(C3区)	G46a区	16世紀第4四半期	—	238
SK166	SK-166	方形土坑	C地区	G46b区	16世紀第4四半期	円礫充填	238

第7次調査区遺構一覧表⑤

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
SK167	S-167	整地層	D地区	G42d区	16世紀第2四半期	生活面のくぼみを埋めた整地層。	133
SK168	SK-168	土坑	D地区	G42d～G43a区	16世紀第1四半期	廃棄土坑	127
SK169	SK-169	土坑	D地区	G42d～G43a区	16世紀第1四半期	廃棄土坑	127
SK170	S-170	土坑	C地区(C3区)	G46a区	1587～1596	—	245
SK171	S-171	土坑	C地区(C2区)	G46b区	中世	青磁1点、糸切土師3点。	
SK172	SK-172	祭祀坑	D地区	G43a区	16世紀第1四半期	クワ目土師皿2枚埋置	125
	S-173	⇒SA312	D地区	G43a区	16世紀第4四半期	—	
SK174	S-174	土坑	D地区	G43a区	16世紀第2四半期	クワ目土師皿1枚埋置	134
SD175	SD-175	溝	C地区(C2～4区)	G45b～G46区	16世紀第3四半期	礫廃棄	234
SK176	SK-176	船底形土坑	C地区(C3区)	G46a区	1587以後	—	245
SK177	SK-177	土坑	C地区(C3区)	G46a区	16世紀第2四半期	—	232
SK178	SK-178	土坑	C地区(C5区)	G46b区	16世紀第3四半期～1587	—	236
SK179	SK-179	土坑	E地区	G41a区	16世紀後半	—	150
SK180	S-180	土坑	C地区(C3区)	G46a区	16世紀後半	—	236
SK181	S-181	土坑	D地区	G43bd区	16世紀	—	203
SK182	S-182	土坑	D地区	G43cd区	16世紀	—	203
SF183	S-183	道路	D地区	G44区	16世紀	10面	118
SK184	S-184	方形土坑	C地区(C4区)	G45d区	1587～1596	—	241
SK185	S-185	土坑	D地区	G43c区	16世紀	—	203
SK186	S-186	土坑	C地区(C2区)	G46b区	中世	瓦質鍋1点。糸切土師3点。	
SK187	S-187	土坑	D地区	G43d区	16世紀第1四半期	—	124
SK188	S-188	土坑	C地区	G46a区	15世紀	—	115
SK189	S-189	土坑	C地区(C3区)	G46c区	15世紀	4層上面。	115
	S-190	⇒SK170	C地区(C3区)	G46a区		(遺構ではない)	
	S-191	⇒SK164	C地区				
SD192	SD-192	溝	D地区	G43・G44区	15世紀	大規模な掘りなおしあり。	103
SK193	SK-193	土坑	C地区(C6区)	G44d～G45c区	16世紀第2四半期	—	233
SK194	SK-194	土坑	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	—	233
	S-195		C地区			遺構ではない	
SK196	SK-196	小土坑	D地区	G44c区	16世紀	道SF183第6硬化面上。	119
SK197	SK-197	土坑	C地区(C3区)	G45区	16世紀	瓦質鍋2点。糸切土師2点。	
SK198	SK-198	土坑	C地区(C1区)	G47a区	16世紀後半	—	236
SK199	SK-199	土坑	C地区(C4区)	G45b区	17世紀初頭	埋め戻し	247
	SK-200	⇒SK263	C地区				
SK201	SK-201	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第1～2四半期	土取り坑	224
SK202	SK-202	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	土取り坑	224
	S-203	⇒SK189	C地区				
SK204	SK-204	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	—	222
SK205	SK-205	小土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	祭祀行為を伴う廃棄土坑。	226
SK206	SK-206	小土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	廃棄土坑	227
SK207	SK-207	小土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	祭祀行為を伴う廃棄土坑。	227
	SK-208	⇒SK184	C地区(C4区)	G45d区			
SK209	S-209	土坑	D地区	G44c区	15世紀	SF183の付属施設か。	115
SK210	S-210	土坑	C地区	G45b区	16世紀第2四半期	—	233
SK211	S-211	土取り坑	C地区(C4区)	G45a区	16世紀第1四半期	—	218
	SK-212	土坑	C地区(C3区)	G46a区		遺構ではない	
SK213	SK-213	土坑	C地区				
SK213	S-213	土坑	D地区	G43b区	15世紀	SD192の西側テラスで検出。	109
SK214	SK-214	土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀	V層上面で検出。青磁1点。漳州窯系青花1点の破片が出土	
SK215	S-215	土坑	C地区(C6区)	G44b区	16世紀	糸切土師のみ出土	
	S-216	⇒SK5の下部	C地区(C6区)	G44b区			
SK217	SK-217	長方形土坑	C地区	G44b～G45a区	16世紀第1四半期	—	227
SK218	S-218	土坑	C地区(C2区)	G45b区	中世	糸切土師環1点	
SK219	SK-219	土坑	C地区	G45a区	16世紀第1四半期	—	228
SK220	SK-220	土坑	C地区(C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	—	228
SK221	SK-221	土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	—	226
SK222	SK-222	土坑	C地区(C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	廃棄土坑、礫多量廃棄。	226
SK223	S-223	土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀	糸切土師1点の破片	
SK224	SK-224	土坑	C地区(C6区)	G44b～G45a区	16世紀第1四半期	—	228
SK225	S-225	土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	—	217
SK226	SK-226	小土坑	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	—	228
SK227	SK-227	土坑	C地区(C5区)	G45ac区	16世紀第1四半期	—	210
SK228	SK-228	土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	SK234と同じ	225
SK229	SK-229	土坑	C地区(C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	廃棄土坑	222
	S-230	整地層のある面	C地区			(遺構ではない)	228
S231	S-231	不明	C地区(C6区)	G44d区	時期不明	—	
SK232	SK-232	小土坑	C地区(C3区)	G44b区	16世紀第1四半期	—	215
SK233	S-233	土坑	C地区	G44ad区	15世紀	—	115
	SK-234	⇒SK228	C地区				
SK235	S-235	土坑	C地区(C3区)	G44d区	16世紀第1四半期	—	215
	S-236	ビット2つ	C地区(C6区)				
	S-237		C地区			別の遺構	
SK238	S-238	土坑	C地区	G44bd区	15世紀	—	115
SK239	S-239	土坑	C地区(C6区)	G44d区	中世	備前焼壺1点、糸切土師1点。	
S240	S-240	浅いくぼみ	C地区(C6区)	G44d区	中世	糸切土師1点。	

第7次調査区遺構一覧表⑥

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
SK241	S-241	土坑	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	—	215
SK242	S-242	土坑	C地区(C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	—	215
	S-243		C地区(C6区)			(遺構ではない)	
	S-244		C地区			(遺構ではない)	
SK245	S-245	土坑	C地区	G44b区	15世紀	—	115
	S-246		C地区			(遺構ではない)	
	S-247		C地区			(遺構ではない)	
SK248	SK-248	土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	—	223
SK249	S-249	土坑2基	C地区(C4区)	G45ac区	16世紀第1四半期	廃棄土坑-	213
SK250	S-250	土坑	C地区	G45a区	15世紀後半	S-273の一部か	115
SK251	S-251	小土坑	C地区(C3区)	G46a区	中世	青花1点、瓦質鉢1点	
	S-252		C地区			自然のしみ	
	S-253		C地区			(遺構ではない)	
SK254	S-254	土坑	C地区	G45c区	15世紀	—	115
SK255	SK-255	土坑	C地区(C3区)	G45a区	16世紀第1四半期	土坑内に炉をつくっている。	214
S256	S-256	ピット	C地区(C3区)	G45b区	16世紀第4四半期	—	241
SK257	S-257	土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	—	229
SK258	S-258	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	—	229
SK259	S-259	土坑	C地区(C5区)	G45区	16世紀	糸切土師小皿1点	
S260	S-260	不明	C地区(C6区)	G44a区	16世紀	銭貨1点	
SK261	S-261	炉	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	土坑内に炉をつくっている。	212
	S-262	V B層のくぼみ	C地区				
SK263	SK-263	土坑	C地区(C3・4区)	G45b~G46a区	16世紀第1四半期	土坑内に炉をつくっている。祭祀行為	216
SP264	S-264	柱穴	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第2四半期	—	233
S265	S-265	不明	C地区(C3区)	G46a区	時期不明	—	
SD266	SD-266	溝	C地区(C3区)	G46a区	16世紀第2四半期	区画溝	234
SK267	Sx-267	土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	—	223
SK268	SK-268	土坑	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	廃棄土坑-	213
	SK-269	土坑	C地区			遺構ではない	
SK270・271	S-270・271	土坑	C地区	G45c区	15世紀	—	115
SK272	SK-272	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	—	229
S273	S-273	不明	C地区(C5区)	G45a区	時期不明	瓦質播鉢1点、鉄釘1点。	
SK274	S-274	土坑	C地区(C3区)	G46a区	16世紀第1四半期	—	229
S275	S-275	ピット	C地区(C3区)	G46a区	時期不明	糸切土師1点。	
SK276	SK-276	方形土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	土師器2枚埋置後廃棄土坑に。	212
SK277	SK-277	土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	廃棄土坑-	210
SK278	S-278	土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第2四半期	廃棄土坑-	211
SK279	S-279	土坑	C地区(C5区)	G45c区	16世紀	遺物なし	
	S-280		C地区(C4区)	G45b区		遺構ではない	
	S-281	段落ち	C地区			遺構ではない	
SK282	S-282	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀	遺物なし	
SK283	S-283	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀	遺物なし	
	S-284		C地区(C5区)	G45a区		V層上面の窪み	
S285	S-285	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀	遺物なし	
SK286	S-286	土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	—	211
SK287	S-287	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀	糸土師1点	
SK288	S-288	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀	遺物なし。	
SK289	S-289	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	⇒SK258	
	S-290		C地区			自然のしみ	
	S-291	⇒S239	C地区				
SD292	SD-292	溝	C地区	G44b区	15世紀	SF293の道路側溝	113
SF293	S-293	溝	C地区	G44~G45区	15世紀	道路	113
SD294	SD-294	溝	C地区	G45区	15世紀	底面に土坑が二基掘られる。	110
SD295	SD-295	溝	C地区	G45b区	15世紀	薬研堀	109
SK296	S-296	掘り込み	C地区(C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	道路下の遺構	119
SK297	S-297	掘り込み	C地区(C6区)	G45b区	16世紀第1四半期	道路下の遺構	119
	S-298	(欠番)	C地区				
SK501	S-501	土坑	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
SK502	S-502	土坑	F地区	E36b区	16世紀第1四半期	—	52
SK503	SK-503	祭祀坑	F地区	F36c区	15世紀	土師器環を正位に埋置	43
	S-504	(人為)	F地区		現代	掘乱	
SK505	S-505	土坑	F地区	F37c区	16世紀	瀬戸美濃灰陶器皿口縁1点と古代土師器環2点の破片が出土	
	S-506	(人為)	F地区	F37c区	現代	掘乱	
SK507	S-507	土坑	F地区	F37c区	古代	—	30
SK508	S-508	方形竪穴	F地区	G36C・F36a区	16世紀第4四半期	—	96
SK509	S-509	土坑	F地区	G36d区	16世紀第4四半期	廃棄土坑、祭祀行為あり	95
SK510	S-510	土坑	F地区	G36d区	16世紀第4四半期	—	97
SK511	SK-511	土坑	F地区	G36d区	16世紀第4四半期	廃棄土坑、祭祀行為あり	85
	S-512	⇒SK542	F地区				
	S-513	⇒SK542	F地区				
	S-514	(人為)	F地区		現代	掘乱	
SK515	S-515	廃棄坑	F地区	F37a区	16世紀	瀬戸土師器(赤・瓦質土師)(赤・瓦質土師)(赤・瓦質土師)1点、赤土師1点、鉄釘1点。	
SD516	SD-516	溝	F地区	F37区	現代	畑の境界溝	
SD517	SD-517	溝	F地区	G37・F38区	現代	畑の境界溝	
SK518	S-518	土坑	F地区	F37b区	中世	糸切土師器1点。	

第7次調査区遺構一覧表⑦

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK519	S-519	土坑	F地区	F37d区・G37b区	16世紀後半	—	59
SD520	SD-520	溝	F地区	G37・F38区	現代	畑の境界溝	
SK521	S-521	土坑	F地区	G38c区	古代	—	31
SK522	S-522	土坑	F地区	G38c区	中世	糸切土師器2点。	
SK523	S-523	土坑	F地区	G37d区	16世紀後半	—	59
SK524	S-524	柱穴	F地区	F37b区	16世紀後半	—	60
SK525	S-525	土坑	F地区	F37b区	中世	鉄釘1、古代土師片2	
SK526	S-526	土坑	F地区	F37b・d区	不明	古代土師器多い	
SK527	S-527	土坑	F地区	E38c区	16世紀第1四半期	—	52
SK528	S-528	土坑	F地区	G38c区	16世紀第4四半期	—	98
	S-529	⇒SK541	F地区	G38c区	16世紀第4四半期	—	
S530	S-530	土坑	F地区	F38a区	16世紀後半	SD563をきる	
S531	S-531	小土坑	F地区	F38a区	16世紀後半	SD563をきる長円形の小土坑	
SE532	SE-532	井戸	F地区	F38a区	16世紀第3四半期	小型の井筒	58
SK533	S-533	土坑	F地区	F38a区	16世紀第4四半期	—	97
S534	S-534	浅い窪み	F地区	F38b区	16世紀第4四半期	—	97
	S-535	土坑	F地区	F38b区	現代	攪乱	
SK536	S-536	土坑	F地区	F36b	9世紀	一気に埋没	30
SK537	S-537	土坑	F地区	F38a区	15世紀	—	44
SD538	SD-538	溝	F地区	E36・F36区	16世紀第4四半期	—	73
SK539	S-539	土坑	F地区	G38c区	16世紀第4四半期	—	98
SK540	S-540	土坑	F地区	E37a区	16世紀第1四半期	—	52
SE541	SE-541	井戸	F地区	G38cd区	16世紀第4四半期	井筒は桶使用の小型	78
SK542	S-542	土坑	F地区	F36b区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	84
S543	S-543	土坑	F地区	F36d	15世紀以前	古代土師器1点	
SK544	S-544	土坑	F地区	F36d	古代	15世紀の遺構に切られる	30
	S-545	⇒SD538	F地区				
SD546	S-546	土坑	F地区	F37a区	現代	畑の境界溝	
SK547	S-547	土坑	F地区	F36a区	16世紀	16世紀の青花皿と古代土師器の破片が出土	
	S-548		F地区			遺構ではない	
	S-549	集石	F地区		16世紀第4四半期	SD538内のブロック	77
	S-550		F地区			欠番	
	S-551	土坑	F地区			欠番	
SK552	S-552	土坑	F地区	F36a区	16世紀後半	—	59
SK553	S-553	土坑	F地区	F36a区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	80
SK554	S-554	土坑	F地区	F36ac区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	80
	S-555		F地区			遺構ではない	
SK556	S-556	土坑	F地区	F36ac区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	80
SK557	SK-557	土坑	F地区	F36c区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	81
SE558	SE-558	井戸	F地区	F36a区	16世紀第2四半期	小型	56
	S-559		F地区			SD538内の廃棄単位	77
SK560	S-560	土坑	F地区	F37c区	中世	—	
SK561	S-561	土坑	F地区	F37c区	古代	—	31
SK562	S-562	土坑	F地区	F37c区	古代	—	31
SD563	SD-563	溝	F地区	F38区	16世紀第2四半期	南北溝	55
SK564	S-564	土坑	F地区	G38c区	16世紀第2四半期	—	57
S565	S-565	土坑	F地区	F37d区	不明	—	
SK566	S-566	土坑	F地区	F37b	古代	—	31
	S-567	SB-9の柱穴	F地区				
S568	S-568	土坑	F地区	F38c区	中世	薄い包含層か。	
SK569	S-569	土坑	F地区	G38d区	1587～	—	98
SK570	S-570	土坑	F地区	G38d区	1587～	—	98
SK571	S-571	土坑	F地区	F36c・E36a区	16世紀第4四半期	廃棄土坑	86
	S-572	⇒包含層のしみ	F地区	F36区			
SK669	P-669	(人為)	F地区	F37c	古代	小土坑	31
SK701	S-701	土坑	G地区	E35b区	16世紀第3四半期	廃棄土坑	59
SK702	S-702	土坑	G地区	F35d区	近世	18世紀前半の肥前染付	
SK703	S-703	土坑	G地区	E35b区	16世紀第4四半期	—	96
	S-704	土坑(⇒S762)	G地区		奈良		
SK705	S-705	土坑	G地区	F35d区	16世紀第1四半期	廃棄土坑に転用	50
SK706	S-706	土坑	G地区	F35b区	16世紀第4四半期	—	96
	S-707	SB303の柱穴	G地区				
	S-708	土坑	G地区			SB304の柱穴	
S709	S-709	土坑	G地区	F35	16世紀後半	自然か、P911に切られる。ロクロ目土師、京系土師器口の破片が出土	
SD710	SD-710	溝	G地区	F35・E35・E34	古代	—	26
SD711	S-711	土坑	G地区	F35c区	中世	糸切土師器環	
SK712	S-712	土坑	G地区	E35a区	16世紀第1四半期	ロクロ目土師大量廃棄	51
SK713	S-713	土坑	G地区	E34d区	不明	—	
SK714	S-714	土坑	G地区	E34b区・E35a区	15世紀	—	43
S715	S-715	小土坑	G地区	E34d区	不明	—	
S716	S-716	土坑	G地区	E35a区	中世	糸切土師器環	
S717	S-717	土坑	G地区	F34b区	不明	遺物なし	
SK718	S-718	土坑	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	
SK719	S-719	土坑	G地区	F34b・E34b区	16世紀後半	SD766をきる	
SK720	SK-720	火災処理坑	G地区	F34b区	16世紀第4四半期	—	97

第7次調査区遺構一覧表⑧

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
SK721	S-721	土坑	G地区	F34b区	16世紀第4四半期	—	97
SK722	S-722	土坑	G地区	F34b区	16世紀後半	—	60
SK723	S-723	土坑	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる方形土坑。	
SK724	S-724	土坑	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる長円形の土坑	
SK725	S-725	土坑	G地区	F34c区	16世紀後半	—	60
SK726	S-726	小土坑	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる小型長円形の土坑	
SK727	S-727	土坑	G地区	E34a区	16世紀後半	SD766をきる。	
SK728	S-728	土坑	G地区	F34c区	中世	礫が中央に集中、備前焼	
SK729	S-729	土坑	G地区	F34a区	中世	系切土器器坏	
S730	S-730	SE773の一部	G地区				
SK731	S-731	土坑	G地区	E33b区	奈良	SB306周辺	26
SK732	S-732	土坑	G地区	E34a区	16世紀後半	SD775をきる。	
S733	S-733	小土坑	G地区	F34c区	不明	遺物なし	
SK734	S-734	土坑	G地区	F33区	16世紀第4四半期	1587年の火災処理土坑	88
	S-735	(誤認)	G地区				
SK736	S-736	土坑	G地区	F33d区	16世紀第4四半期	火災処理土坑	94
SK737	S-737	土坑	G地区	E33d区	16世紀後半	SD775をきる。	
SK738	S-738	土坑	G地区	E33a区	近世?	遺物なし。S778とP1036を切る	
SK739	S-739	土坑	G地区	E33a区	近世?	遺物なし。P1032を切る	
S740	S-740	土坑	G地区	F33c区	古代	SB309の柱穴に解消。	24
SK741	S-741	土坑	G地区	F33c区	16世紀後半	SD775をきる。	
S742	S-742	土坑	G地区	F33c区		SB308の柱穴	
S743	S-743	ピット	G地区	F32d区	不明	遺物なし	
S744	S-744	土坑	G地区	E32bd区	不明	遺物なし	
	S-745		G地区			遺構ではない	
	S-746		G地区			遺構ではない	
	S-747		G地区			遺構ではない	
ST748	S-748	墓	G地区	E32b区	16世紀第1四半期	木棺墓。南頭位の横臥屈肢。土器器副葬。	50
	S-749		G地区	E35b区		遺構ではない	
S750	S-750	ピット	G地区	E34a区	16世紀代	15世紀の井戸SE775を切る	
S751	S-751	包含層	G地区	F32・E32区	16世紀代	遺構ではない	
S752	S-752	浅いほり込み	G地区	E32区	16世紀代	—	
S753	S-753	小土坑	G地区	E31d区	近世	SD791を切る。	
	SD-754	⇒SD757	G地区				
SD755	SD-755	溝	G地区	E31区	18世紀後半	宅地境界溝	262
S756	S-756	土坑	G地区	E31b区	現代	—	
SD757	SD-757	溝	G地区	E31区	18世紀後半	宅地境界溝	262
	S-758	しみ	G地区			遺構ではない	
	S-759	しみ	G地区			遺構ではない	
	S-760	SB303の柱穴	G地区				
S761	S-761	土坑	G地区	F35c区	不明	系切土器器坏	
SK762	S-762	土坑	G地区	F35cd	9世紀	S-704の本来の形	28
SK763	S-763	土坑	G地区	F34b区	不明	遺物なし	
SK764	S-764	土坑	G地区	E34b区	16世紀第1四半期	—	52
SK765	S-765	土坑	G地区	E34d区	不明	須恵器坏身	
SD766	SD-766	溝	G地区	F34・E34区	15世紀	大溝	39
	SP-767	柱穴	G地区			⇒SB304	
	SP-768	柱穴	G地区			⇒SB304	
	SP-769	柱穴	G地区			⇒SB304	
SK770	S-770	土坑	G地区	F35c区	16世紀第1四半期	—	50
S771	S-771	土坑	G地区	F35c区	16世紀	SK705を切る。	
SK772	S-772	土坑	G地区	F34a区	16世紀第4四半期	1587年の火災処理土坑	95
SE773	SE-773	井戸	G地区	E33区	15世紀	水位が高い。	45
	SP-774	柱穴	G地区			⇒SB306B	
SD775	SD-775	溝	G地区	F32~F34区	15世紀後半	区画溝	41
S776	S-776	土坑	G地区	F35b区	中世	系切土師	
	S-777	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	S-778	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	S-779	柱穴	G地区			⇒SB308	
	S-780		G地区			欠番	
	S-781	柱穴	G地区			⇒SB308	
SK782	S-782	土坑	G地区	E33b区	奈良	SB306周辺	25
	S-783	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	SP-784	柱穴	G地区			⇒SB308	
	SP-785	柱穴	G地区			⇒SB306A	
	SP-786	柱穴	G地区			⇒SB306A	
	SP-787	柱穴	G地区			⇒SB306A	
	SP-788	柱穴	G地区			⇒SB306A	
S789	S-789	土坑	G地区	E33a区	不明	遺物なし	
SD790	SD-790	溝	G地区	F32、E31、E32区	16世紀第1四半期	16世紀末まで利用される。	46
SD791	S-791	溝	G地区	F31、E31、G31区	16世紀第4四半期	最終埋没は17世紀初め	62
	S-792		G地区			遺構ではない	
	S-793		G地区			遺構ではない	
SK794	S-794	土坑	G地区	E31d区	16世紀第4四半期	SD791の一部か	73
	S-795	SB-6の柱穴	G地区				

第7次調査区遺構一覧表⑨

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
SK796	S-796	土坑	G地区	F34a区	16世紀第1四半期	—	52
SK797	S-797	土坑	G地区	F34d~35c	古代	土師器坏完形品を正位に埋置	27
SK798	S-798	土坑	G地区	F34d	古代		27
S799	S-799	土坑	G地区		不明	製塩土器	
SE800	SE-800	井戸	G地区	E32区	15世紀	水位が高い。	44
SK801	S-801	土坑	G地区	F33c区	8世紀後半	P-1061から変更、SB306周辺	24
	S-802	(=SD791)	G地区	F31d区	16世紀第4四半期	廃棄単位	73
	S-803	(=SD791)	G地区	F32d区	16世紀第4四半期	廃棄単位	73
	S-804	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	SP-805	根石	G地区			⇒SB306C	
	S-806	根石	G地区			⇒SB306C	
	S-807	根石	G地区			⇒SB306C	
	S-808	柱穴	G地区			⇒SB306B	
	S-809	柱穴	G地区				
SP810	SP-810	柱穴	G地区	F33a区	古代	SB306周辺	24
SK811	S-811	土坑	G地区	F34d区	古代	SB306周辺	26
	S-812	S-775の掘り残し	G地区				
	S-813		G地区			欠番	
SK814	S-814	土坑	G地区	F34c区	古代	SB306周辺	26

第7次調査区遺構一覧表(P番号)①

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
	P-1	(自然)	C地区(C6区)	G44b区		(遺構ではない)	
P2	P-2	(人為)ビット	C地区(C6区)	G44b区	1587~	京都系土師器2期皿1点	
P3	P-3	(人為)ビット	C地区(C6区)	G44b区	1587~	SK8とP4とP5に切られる。中国銅銭片1	
P4	P-4	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	—	246
P5	P-5	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	P3を切りP4に切られる。	
	P-6	(自然)	C地区(C6区)	G44b区		自然のしみ	
P7	P-7	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	—	
	P-8	(自然)	C地区(C6区)	G44b区		(遺構ではない)	
	P-9	(自然)	C地区(C6区)	G44b区		(遺構ではない)	
P10	P-10	(人為)ビット	C地区(C6区)	G44b区	近世	18世紀前半唐津陶胎染付碗1点の破片が出土	
P11	P-11	(人為)ビット	C地区(C6区)	G44b区	1587~	P12に切られる	
P12	P-12	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	P11を切る	
P13	P-13	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	糸切土師と京都系土師器の破片が出土	
P14	P-14	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~		
	P-15	(自然)	C地区(C6区)	G44b区		自然のしみ	
P16	P-16	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	—	
P17	P-17	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	—	
P18	P-18	柱穴	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第4四半期	瓦質鍋口縁と糸切土師器3点の破片が出土	
P19	P-19	(人為)ビット	(人為)ビット	(人為)ビット	16世紀後半		
P20	P-20	(人為)ビット	C地区(C6区)	G44b区	近現代	—	
P21	P-21	柱穴	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第4四半期	京都系土師器3期皿2点の破片が出土	
P22	P-22	(人為)ビット	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第4四半期	瀬戸美濃天目碗1点、糸土師3点、ロクロ目土師1点の破片が出土	
	P-23	(自然)	C地区			木の根	
P24	P-24	(人為)ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	朝鮮船徳利1点	
P25	P-25	(人為)ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半		
P26	P-26	(人為)ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第3四半期	—	236
P27	P-27	(人為)ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	遺物なし。	
P28	P-28	(人為)ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	遺物なし。	
P29	P-29	(人為)ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	遺物なし。	
P30	P-30	(人為)ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	遺物なし。	
P31	P-31	柱穴	C地区(C5区)	G45b区	16世紀後半	遺物なし。	
	P-32	浅いくぼみ	C地区			(遺構ではない)	
P33	P-33	(人為)	C地区	G45d区	16世紀後半	丸瓦1点、瀬戸美濃1点。	
	P-34		C地区			(遺構ではない)	
P35	P-35	(人為)ビット	E地区	F38d区	中世	—	
P36	P-36	(人為)ビット	E地区	F38d区	不明	—	
P37	P-37	(人為)ビット	E地区	F39c区	近現代	SK106を切る	
P38	P-38	(人為)ビット	E地区	F39c区	近現代	SK106を切る	
P39	P-39	(人為)ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P40	P-40	(人為)ビット	E地区	F39c区	不明	—	
	P-41	(人為)	E地区			攪乱	
P42	P-42	(人為)ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P43	P-43	(人為)ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P44	P-44	(人為)ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P45	P-45	(人為)ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P46	P-46	(人為)ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P47	P-47	(人為)ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P48	P-48	(人為)ビット	E地区	F39a区	不明	—	
	P-49	(欠番)	E地区				



第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ②

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
P50	P-50	(人為) ビット	E地区	F39b区	不明	—	
P51	P-51	(人為) ビット	E地区	F39b区	不明	—	
P52	P-52	(人為) ビット	E地区	F39b区	不明	—	
P53	P-53	(人為) ビット	E地区	F39b区	不明	—	
P54	P-54	(人為) ビット	E地区	F39d区	不明	炭焼土多量	
P55	P-55	(人為) ビット	E地区	F39d区	不明	—	
	P-56		E地区			攪乱	
P57	P-57	(人為) ビット	E地区	E39b区	16世紀	京都系土師器の破片が出土	
P58	P-58	(人為) ビット	E地区	E39b区	中世	—	
P59	P-59	(人為) ビット	E地区	E39b区	不明	—	
P60	P-60	(人為) ビット	E地区	E39b区	不明	—	
	P-61	(自然)	E地区			自然のしみ	
	P-61	(人為)	E地区		現代	攪乱	
	P-62	(人為)	E地区		現代	攪乱	
	P-63	(人為)	E地区		現代	攪乱	
P64	P-64	柱穴	E地区	G39d区	古代	—	31
P65	P-65	(人為) ビット	E地区	G39d区	中世	SK38に切られる	
P66	P-66	(人為) ビット	E地区	G39d区	中世	SK36に切られる	
P67	P-67	(人為) ビット	E地区	G39d区	中世	骨出土。	
P68	P-68	(人為) ビット	E地区	G39d区	中世	—	
P69	P-69	柱穴	E地区	G40b区	不明	—	
P70	P-70	(人為) ビット	E地区	F40a区	16世紀末	II層上面からの掘り込み	
P71	P-71	(人為) ビット	E地区	F40b区	近現代	—	
P72	P-72	(人為) ビット	E地区	F40a区	中世	糸切土師1点	
P73	P-73	(人為) ビット	E地区	F40a区	不明	古代土師器1点	
P74	P-74	(人為) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
P75	P-75	(人為) ビット	E地区	F40a区	16世紀代	京都系土師器O期皿の破片が出土	
P76	P-76	(人為) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
P77	P-77	(人為) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
	P-78	自然の凸凹	E地区				
P79	P-79	(人為) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
P80	P-80	(人為) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
P81	P-81	(人為) ビット	E地区	F40a区	中世	糸切土師1点	
P81	P-81	柱穴・埋納	E地区	G40c区	16世紀第3四半期	抜取り時に土器埋納	150
	P-82	⇒SA313	D地区	G42d区	16世紀	—	
	P-83	⇒SA313	D地区	G43c区	中世	—	
	P-84	⇒SA313	D地区	G43c区	不明	古代土師器1点	
P85	P-85	(人為) ビット	D地区	G41b区	不明	炭焼土多量。SK117に切られる。	
P86	P-86	柱穴	D地区	G41d区	不明	—	
	P-87	(自然)	D地区			自然のしみ	
	P-88	⇒SA313	D地区	G42d区	16世紀後半	—	
	P-89	(人為)	D地区	G42d区	16世紀後半	S143を切る。	
	P-90	⇒SA313	D地区				
	P-91	(自然)	D地区			自然のしみ	
	P-92	(自然)	D地区			自然のしみ	
	P-93	(自然)	D地区			木の根	
P94	P-94	(人為) ビット	D地区	G41b区	不明	—	
P95	P-95	(人為) ビット	D地区	G41d区	不明	炭焼土多い。	
P96	P-96	柱穴	E地区	G40c区	中世	糸切土師1点	
P97	P-97	柱穴	E地区	G40c区	16世紀	糸切土師1点、ロクロ目土師1点が出土	
P98	P-98	(人為) ビット	E地区	G40c区	不明	—	
P99	P-99	(人為) ビット	E地区	G40c区	16世紀	16世紀の糸切土師1点の破片が出土	
P100	P-100	柱穴	E地区	G40c区	不明	—	
P101	P-101	(人為)	E地区	G40c区	不明	—	
	P-102	(自然)	E地区				
P103	P-103	柱穴	E地区	G40c区	不明	—	
P104	P-104	柱穴	E地区	G41c区	16世紀第3四半期	京都系土師器2期皿の破片が2点出土	
P105	P-105	(人為) ビット	D地区	G41d区	16世紀第4四半期	—	
P106	P-106	(人為) ビット	E地区	F40b区	近世	唐津陶器碗17世紀後半が出土。	
P107	P-107	(人為) ビット	E地区	F40b区	不明	備前焼土1点	
P108	P-108	(人為) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
P109	P-109	(人為) ビット	D地区	G41d区	16世紀第3四半期	井戸SE19の井筒が完全に埋没した後に掘り込まれている	150
	P-110	柱穴	D地区				
	P-111	(人為)	D地区		現代	攪乱	
P112	P-112	(人為) ビット	D地区	G43b区	時期不明	—	
P113	P-113	(人為) ビット	D地区	G43b区	時期不明	—	
P114	P-114	P140の柱痕	D地区	G43a区	近世	糸切土師1点。S145を切る	
	P-115	(人為)	D地区	G43a区		浅いくぼみ	
	P-116	(人為)	D地区	G43a区		浅いくぼみ	
P118	P-118	柱穴	D地区	G42d区	16世紀	15世紀の遺構 SK119を切る	
P119	P-119	柱穴	D地区	G42d区	16世紀	—	
P120	P-120	(人為) ビット	D地区	G43b区	中世	S143に切られる。	
P121	P-121	(人為) ビット	D地区	G43b区	中世	S143に切られる。	
P122	P-122	(人為) ビット	D地区	G43b区	中世	S143に切られる。	
P123	P-123	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	遺物なし。	

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ③

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
P124	P-124	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	備前焼壺1点、ロクロ目土師1点	
P125	P-125	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	遺物なし。	
P126	P-126	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	遺物なし。	
P127	P-127	柱穴	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第4四半期	⇒SA314	
P128	P-128	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第4四半期	⇒SA314	
P129	P-129	小土坑	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第4四半期	⇒SA314	
P130	P-130	ビット	E地区	F39b区	古代	—	31
P131	P-131	ビット	E地区	F39b区	中世	—	
	P-132	⇒SA313	D地区	G42d区			
	P-133	⇒SA313	D地区	G42d区	不明	—	
P134	P-134	(人為) ビット	D地区	G42b区	不明	—	
	P-135	⇒SA312	D地区	G43a区	16世紀後半	—	
	P-136	⇒SA312	D地区	G43a区	中世	糸切土師1点	
	P-137	⇒SA312	D地区	G43a区	中世	青磁鉢	
	P-138	⇒SA312	D地区	G43a区	16世紀	完形土師器環、京都系土師器3期1点	
	P-139	⇒SA312	D地区	G43a区	中世	—	
	P-140	⇒SA312	D地区	G43a区	中世	銭貨2枚、糸切土師	
	P-141	⇒SA312	D地区	G43a区	中世		
	P-142	⇒SA312	D地区	G43a区	中世		
	P-143	⇒SA312	D地区	G43a区	16世紀後半	—	
	P-144	⇒SA312	D地区				
	P-145	⇒SA312	D地区				
P146	P-146	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	瓦質鍋1点。糸切土師1点。	
P147	P-147	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	遺物なし。	
P148	P-148	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	遺物なし。	
P149	P-149	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	青花襷C群1点、瓦質火鉢1点、京都系土師器小皿1点、平瓦1点、鉄釘1点。	
P150	P-150	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀第IV四半期	IV層上面、土師器1点	241
P151	P-151	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	遺物なし。	
P152	P-152	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	遺物なし。	
P153	P-153	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	遺物なし。	
P154	P-154	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	遺物なし。	
P155	P-155	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	S161を切る。	
P156	P-156	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	S161を切る。瓦質鍋1点。糸切土師2点。鉄釘1点。	
P157	P-157	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀第IV四半期	柱痕内糸切土師環1点。	
	P-158	⇒SA313	D地区				
P159	P-159	(人為) ビット	D地区	G43c区	16世紀	磚、1点。	
P160	P-160	柱穴	D地区	G43c区	16世紀後半	京都系土師器1期皿の破片が出土	
P161	P-161	(人為) ビット	D地区	G43c区	不明	—	
	P-162		D地区	G43c区		遺構ではない。	
	P-163	(人為)	D地区		現代	攪乱	
	P-164	⇒SA312	D地区	G43a区	16世紀第4四半期	—	
P165	P-165	小土坑	C地区 (C4区)	G45d区	16世紀第4四半期(1587年以後)	SK184を切り、SK158に切られる。糸切土師2点。京都系土師器1期皿2点。	
P166	P-166	(人為)	D地区	G43d区	15世紀以前	糸切土師1点。	
P167	P-167	(人為)	D地区	G44d区	15世紀以前	出土遺物なし。	
	P-168	⇒SA312	D地区				
	P-169	⇒SA312	D地区				
	P-170	⇒SA312	D地区				
	P-171	⇒SA312	D地区				
	P-172	⇒SA312	D地区				
	P-173	⇒SA312	D地区				
	P-174	⇒SA312	D地区				
P175	P-175	(人為) ビット	D地区	G43c区	16世紀	—	
P176	P-176	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	糸切土師環2点。	
P177	P-177	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	糸切土師環4点。	
P178	P-178	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	糸切土師環2点。	
	P-179	⇒SA312	D地区				
	P-180	⇒SA312	D地区				
	P-181	⇒SA312	D地区				
	P-182	⇒SA312	D地区				
	P-183	⇒SA312	D地区				
P184	P-184	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層中、白磁合子1点、糸切土師4点、鉄刀子1点。	116
P185	P-185	(人為) ビット	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	IV層中、糸切土師環3点、大内系土師器1点。	
P186	P-186	(人為) ビット	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	IV層中、糸切土師環1点。	
	P-187	⇒SA312	D地区				
	P-188	⇒P198	D地区				
	P-189	⇒SA312	D地区				
	P-190	⇒SA312	D地区				
P191	P-191	(人為) ビット	D地区	G44区	16世紀	—	
	P-192	⇒P83と同じ	D地区				
	P-193	⇒SA313	D地区				
	P-194	⇒SA313	D地区		古代		
	P-195	⇒SA312	D地区				
	P-196	⇒SA312	D地区				
	P-197	⇒SA312	D地区				
	P-198	⇒SA312	D地区				

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ④

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
P199	P-199	(人為) ビット	D地区	G44a区	近世	道路SR183上のビット。近世陶胎染付1点	
P200	P-200	(人為) ビット	D地区	G44a区	16世紀	道路SR183上のビット。	
P201	P-201	(人為) ビット	D地区	G44a区	16世紀	道路SR183上のビット。糸切土師1点の破片が出土	119
P202	P-202	(人為) ビット	D地区	G44a区	16世紀	道路SR183上のビット。	119
P203	P-203	(人為) ビット	D地区	G44a区	16世紀	道路SR183上のビット。	119
	P-205	⇒SA312	D地区				
P206	P-206	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前	236
P207	P-207	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前	236
P208	P-208	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前、P212切る。	236
P209	P-209	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前	236
P210	P-210	くぼみ	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前、須恵器1点	236
P211	P-211	柱穴	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前	236
P212	P-212	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前	236
P213	P-213	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前、P208に切られる。	236
P214	P-214	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前	236
P215	P-215	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	IV層上面。瓦質茶釜1点。砥石1点。	
P216	P-216	⇒SA314	C地区	G45a区	16世紀第3四半期	—	
P217	P-217	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	IV層上面。遺物なし。	
P218	P-218	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	IV層上面。遺物なし。	
P219	P-219	(人為)	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層5回目後。糸切土師2点。	116
P220	P-220	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層5回目後。糸切土師5点。	
P221	P-221	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層5回目後。糸切土師6点。	
P222	P-222	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀	IV層5回目後。京都系土師器1期1点。	
	P-223	(自然)	C地区			自然のしみ	
P224	P-224	柱穴	C地区 (C5区)	G45d区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	
P225	P-225	柱穴	C地区 (C5区)	G45d区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	
P226	P-226	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45b区	16世紀第3四半期	IV層上面。	
P227	P-227	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列。青花1点。	
P228	P-228	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列。白磁皿2点	
P229	P-229	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列。銅製鍵	
P230	P-230	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。ビット列	
P231	P-231	小土坑	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面。華南三彩1点。	236
P232	P-232	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層5回目後。糸切土師3点。	
P233	P-233	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層5回目後。瓦質火鉢1点。糸切土師5点。	
P234	P-234	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層5回目後	
P235	P-235	柱穴	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	IV層5回目後	
P236	P-236	(人為) ビット	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	口縁を打ち欠いた糸切土師坏底部1点	116
P237	P-237	(人為) ビット	D地区	G44区	16世紀	—	
P238	P-238	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44区	16世紀	—	
P239	P-239	(人為) ビット	C地区	G44区	16世紀	—	
	P-240	(自然)	C地区			木の根	
P241	P-241	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	IV層1回目後。遺物なし。	
P242	P-242	柱穴	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層1回目後。遺物なし。	
P243	P-243	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層1回目後。遺物なし。瓦質鍋1点。糸切土師1点。ロクロ目土師1点。	
P244	P-244	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層1回目後。糸切土師1点。	
P245	P-245	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	SK201を切る。斜めすり目の近世1期の備前焼燗鉢	
P246	P-246	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層1回目後。遺物なし。	
P247	P-247	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層1回目後。遺物なし。	
P248	P-248	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層1回目後。遺物なし。	
P249	P-249	柱穴	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層1回目後。糸切土師1点。壁土1点。	
P250	P-250	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層1回目後。遺物なし。	
	P-251	⇒SA314	C地区				
	P-252	⇒SA314	C地区				
	P-253	⇒SA314	C地区				
P254	P-254	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	—	236
P255	P-255	柱穴	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層1回目後。糸切土師1点。壁土4点。	
	P-256	⇒SA314	C地区				
	P-257	⇒SA314	C地区				
P258	P-258	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層7回目後。銭貨1点。	241
P258	P-258	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	IV層1回目後。	
P259	P-259	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層1回目後。糸切土師4点。備前焼燗1点/燗鉢1点。	
P259	P-259	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層7回目後。	
P260	P-260	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層7回目後。糸切土師4点。鉄釘1点。	
P261	P-261	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層7回目後。青磁1点。糸切土師6点	
P262	P-262	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層7回目後。	
P263	P-263	小土坑	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層7回目後。糸切土師。ロクロ目土師10点。瓦質鍋1点。	
P264	P-264	(人為) ビット	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	IV層7回目後。白磁1点。糸切土師2点	
P265	P-265	(人為) ビット	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	IV層7回目後。糸切土師坏2点	
P266	P-266	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層7回目後。糸切土師坏4点	
P267	P-267	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層7回目後。	
P268	P-268	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層7回目後。	
P269	P-269	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層2回目後。遺物なし。	
P270	P-270	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前	236
P271	P-271	(人為) ビット	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	V層上面で検出。糸切土師、ロクロ目土師の破片が出土	
P272	P-272	(人為) ビット	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	V層上面で検出	

第7次調査区遺構一覧表（P番号）⑤

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
P273	P-273	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第2四半期	京都系土師器1期皿口縁1点	
	P-274	⇒SA314	C地区				
P275	P-275	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層2回目後。遺物なし。	
P276	P-276	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層7回目後、	
P277	P-277	(人為) ビット	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	IV層7回目後、宍形系土師器1点埋納、瓦質鉢B2類1点、備前焼1点。	116
P278	P-278	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	3層中から	
P279	P-279	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	3層中から	
P280	P-280	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	3層中から、備前焼燗胴部1点、京都系土師器1期皿1点。	
P281	P-281	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	3層中から。糸切土師1点。	
P282	P-282	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	—	236
P283	P-283	(人為) ビット	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	第3焼土層除去後に検出	
P284	P-284	(人為) ビット	C地区	G44d区	16世紀第1四半期	第3焼土層除去後に検出	
P285	P-285	(人為) ビット	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	第3焼土層除去後に検出	
P286	P-286	(人為) ビット	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	第3焼土層除去後に検出	
P287	P-287	(人為) ビット	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	糸切土師1点。V層最下部	
P288	P-288	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層上面。	
P289	P-289	(人為) ビット	C地区	G45a区	16世紀第1四半期	V層上面検出、ロクロ目土師1点の破片が出土	
P290	P-290	柱穴	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	IV層上面、瓦質鉢口縁1点、瓦質土師1点、糸切土師1点、ロクロ目土師1点の破片が出土	
P291	P-291	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀後半	III層上面	
P292	P-292	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	IV層上面。瓦質鉢1点、糸切土師2点。	
P293	P-293	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	III層上面。糸切土師1点。	
P294	P-294	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	III層上面。	
P295	P-295	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	III層上面。青磁1点	
P296	P-296	⇒P251	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層上面。	
	P-297	⇒SA314	C地区				
P298	P-298	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層上面。平瓦1点。	
P299	P-299	(人為) ビット	C地区	G45a区	16世紀第1四半期	V層上面検出、糸切土師1点、ロクロ目土師1点、鉄刀子片2点の破片が出土	
P300	P-300	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	IV層上面。糸切土師1点、鉄釘1点。	
P301	P-301	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	IV層上面。青花皿B1群	
P302	P-302	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	IV層上面。平瓦1点。	
P303	P-303	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	IV層上面。遺物なし。	
P304	P-304	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀	V層上面検出、平瓦1点の破片が出土	
P305	P-305	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層上面。壁土1点。	
P306	P-306	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層除去後。中国天目1点、瓦質鉢2点、糸切土師環1点。	
P307	P-307	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層除去後。	
P308	P-308	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層除去後。	
P309	P-309	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層除去後。糸切土師1点、ロクロ目土師1点。	229
P310	P-310	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層除去後。	
P311	P-311	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層除去後。SK226を切る。青磁1点。	
P312	P-312	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層除去後。	
P313	P-313	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層除去後。	
	P-314	⇒P309の下部	C地区 (C5区)	G45a区			
P315	P-315	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層除去後。鉄釘1点。	
P316	P-316	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層除去後。遺物なし。	
P317	P-317	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層除去後。遺物なし。	
P318	P-318	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層除去後。ロクロ目土師一枚埋置。	229
	P-319	(自然)	C地区			(遺構ではない)	
P320	P-320	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層除去後。遺物なし。	
P321	P-321	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層除去後。糸切土師2点。	
P322	P-322	柱穴	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀	Va層3回目後	
P323	P-323	浅いくぼみ	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀	Va層3回目後	
P324	P-324	柱穴	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	Va層3回目後、瓦質火鉢1点、糸切土師1点。	
P325	P-325	柱穴	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	Va層3回目後	
P326	P-326	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	III層上面。	
P327	P-327	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀	Va層2回目後、糸切土師1点。	
P328	P-328	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層上、遺物なし。	
P329	P-329	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層上、遺物なし。	
P330	P-330	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層上、糸切土師1点	
P331	P-331	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層上、遺物なし。	
P332	P-332	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層上、糸切土師1点	
P333	P-333	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層上、青磁1点、白磁1点、糸切土師3点。	
P334	P-334	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層上、遺物なし。	
P335	P-335	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層上、遺物なし。	
P335	P-335	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀	Va層3回目後	
P336	P-336	柱穴	C地区	G45c区	16世紀第1四半期	Va層掘下げ後に検出、糸切土師、ロクロ目土師、瓦質土器の破片が出土	
P337	P-337	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層上、備前焼燗1点。	
P339	P-339	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	Va層3回目後	
P340	P-340	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	Va層2回目後、ロクロ目土師皿1点の破片が出土	
P341	P-341	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	Va層3回目後	
P342	P-342	柱穴	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	Va層3回目後、糸切土師1点。鉄釘1点。	
P343	P-343	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後	
P344	P-344	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、糸切土師環1点。	
P348	P-348	小土坑	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	Vb層1回目後、糸切土師1点	
P349	P-349	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	Vb層1回目後、糸切土師2点	
P350	P-350	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層上面。SK255を切る。	

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ⑥

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
	P-351	⇒P271	C地区				
P352	P-352	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	V層上面検出、糸切土師、ロクロ目土師の破片が出土	
	P-353	⇒P271	C地区				
P354	P-354	C地区 (C6区)	C地区 (C6区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層掘下げ後に検出、瓦質鍋1点と糸切土師4点、ロクロ目土師3点出土	
P355	P-355	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	Va層から	
P356	P-356	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	Va層から、平瓦1点	
P357	P-357	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、糸切土師1点。	
P358	P-358	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀前半	Vb層1回目後、	
P359	P-359	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀前半	Vb層1回目後、	
P360	P-360	C地区 (C6区)	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	Vb層2回目除去後に検出、糸切土師1点、ロクロ目土師1点の破片が出土	
P361	P-361	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、銭貨1点	
P362	P-362	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、遺物なし。	
P363	P-363	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、遺物なし。	
P364	P-364	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、土鐘1点、糸切土師	
P365	P-365	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、遺物なし。	
P366	P-366	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、遺物なし。	
P367	P-367	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、遺物なし。	
P368	P-368	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、遺物なし。	
P369	P-369	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、古代土師器1点。	
P370	P-370	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、遺物なし。	
P371	P-371	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、遺物なし。	
P372	P-372	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、糸切土師3点。	
P374	P-374	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀	IV層上面。鉄鏝1点。	
P375	P-375	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀	IV層上面。ロクロ目土師1点。	
P376	P-376	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀	IV層上面。	
P377	P-377	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	中世	—	
P378	P-378	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	中世	糸切土師2点。	
P379	P-379	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層2回目後、遺物なし。	
P380	P-380	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層2回目後、遺物なし。	
P381	P-381	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	中世	Vb層2回目後、弥生土器1点。糸切土師坏1点。	
P382	P-382	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	中世	Vb層2回目後、遺物なし。	
P383	P-383	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	Vb層2回目後、遺物なし。	
P384	P-384	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	Vb層2回目後、遺物なし。	
P385	P-385	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	中世	Vb層2回目後、糸切土師3点。大内系土師器1点。	
P386	P-386	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	中世	Vb層2回目後、遺物なし。	
P387	P-387	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	中世	Vb層2回目後、須恵器1点。糸切土師坏1点、平瓦1点。	
P388	P-388	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀	Vb層2回目後、瓦質鍋1点/鉢1点。鉄釘1点。	
P389	P-389	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀	IV層7回目後	
P390	P-390					土師器3点	
P391	P-391	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G45a区	15世紀	Vb層4回目後、遺物なし。	
P392	P-392	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G45a区	15世紀	Vb層4回目後、糸切土師1点。	
P393	P-393	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G45a区	15世紀	Vb層4回目後、遺物なし。	
P394	P-394	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G45a区	15世紀	Vb層4回目後、遺物なし。	
P395	P-395	(人為) ビット	C地区 (C3区)	G45a区	15世紀	Vb層4回目後、須恵器壺1点、糸切土師坏1点。	
P396	P-396	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	中世	Vb層3回目後、糸切土師1点。	
P-396		(自然)	C地区 (C5区)	G45c区		木の根	
P397	P-397	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	1587～	第1焼土層上	
P398	P-398	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	1587～	第1焼土層上	
P399	P-399	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	1587～	第1焼土層上	246
P400	P-400	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	1587～	第1焼土層上、糸切土師1点の破片が出土	
P401	P-401	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	1587～	第1焼土層上	
P402	P-402	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第3四半期	第2焼土層以前土坑 SK193を切る。	
P403	P-403	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	貼り床のブロック	
P404	P-404	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	中世	糸切土師1点	
P405	P-405	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G46b区	中世	瓦質土器1点。糸切土師1点。	
P406	P-406	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	—	
P408	P-408	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	瓦質土器1点。	
P409	P-409	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	銅銭1点	
P410	P-410	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	遺物なし。埋土砂。	
P411	P-411	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	糸切土師4点。	
P-412		整地層のブロック	C地区 (C5区)	G45a区			
P413	P-413	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層②下部除去後	
P-414		(自然)	C地区			木の根	
P415	P-415	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層②下部除去後、遺物なし	
P416	P-416	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層②下部除去後、糸切土師1点。	
P-417		整地層のブロック	C地区 (C5区)	G45a区			
P-418		整地層のブロック	C地区 (C5区)	G45a区			
P419	P-419	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層②下部除去後	
P420	P-420	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層②下部除去後	
P421	P-421	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層②下部除去後	
P422	P-422	柱穴	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層②下部除去後、糸切土師4点	
P-423		⇒P411	C地区				
P424	P-424	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Vb層4回目後、SK277を切る。糸切土師2点。鉄釘1点。	
P425	P-425	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G46b区	16世紀	Vb層4回目後、	
P426	P-426	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層④除去後	

第7次調査区遺構一覽表 (P番号) ⑦

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
P427	P-427	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	V a層④除去後	
P428	P-428	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	V a層④除去後	
P429	P-429	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	V a層④除去後	
P430	P-430	柱穴	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	V a層④除去後、糸切土師1点。	
P431	P-431	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	V a層④除去後、糸切土師1点。	
P432	P-432	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	V b層上面	
P433	P-433	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	V b層上面	
P434	P-434	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	V b層上面	
P435	P-435	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	V b層上面	
P437	P-437	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	15世紀	VI層上面	
P438	P-438	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	15世紀	VI層上面	
P439	P-439	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	15世紀	VI層上面	
P440	P-440	(人為) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	15世紀	V b層1回目後、糸切土師4点。	
P441	P-441	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V b層4回目後、	
P442	P-442	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G46b区	現代	スレート出土。	
P443	P-443	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	V b層上面	
P444	P-444	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	VI層掘下げ後、糸切土師1点。	
P445	P-445	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	VI層掘下げ後	
P446	P-446	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区		V b層中、鉄釘1点。	
P447	P-447	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区		V b層中	
P448	P-448	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区		V b層中	
P449	P-449	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区		V b層中	
P450	P-450	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区		V b層中、古代土師器1点。	
P451	P-451	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区		V b層中	
P451	P-451	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	VI層掘下げ後	
P452	P-452	柱穴	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	VI層掘下げ後、糸切土師1点。	
P453	P-453	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	VI層掘下げ後	
P454	P-454	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	VI層掘下げ後	
P455	P-455	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	VI層掘下げ後	
P456	P-456	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	VI層掘下げ後	
P457	P-457	柱穴	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	VI層掘下げ後、大内系土師器1点。	
P458	P-458	柱穴	C地区 (C6区)	G44d区	15世紀	VI層掘下げ後	
P459	P-459	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	15世紀	—	
P460	P-460	小土坑	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	VI層掘下げ後、中世陶器甕1点、瓦質鍋1点。	
	P-466		C地区			—	
P467	P-467	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	鉄片1点。	
P468	P-468	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	須恵器環蓋1点。	
P469	P-469	(人為) ビット	C地区 (C4区)	G45c区	15世紀	中世陶器1点。	
P470	P-470	(人為) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	道路下、糸切土師1点。	
P601	P-601	(人為) ビット	F地区		中世	備前甕	
P602	P-602	(人為) ビット	F地区	E36b区	不明	遺物なし	
P603	P-603	(人為) ビット	F地区	F36d区	中世	糸切土師坏	
P604	P-604	(人為) ビット	F地区	F36d区	古代	古代土師器の破片が出土	
P605	P-605	(人為) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P606	P-606	(人為) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P607	P-607	(人為) ビット	F地区	F36d区	中世	備前甕	
P608	P-608	(人為) ビット	F地区	F36d区	中世	糸切土師坏	
P609	P-609	(人為) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P610	P-610	(人為) ビット	F地区	F36b区	古代	古代土師器の破片が3点出土	
P611	P-611	P702の柱痕	F地区			⇒SB309	
P612	P-612	(人為) ビット	F地区	F36b区	16世紀第4四半期	—	
P613	P-613	(人為) ビット	F地区	F36b区	16世紀第4四半期	—	
P614	P-614	(人為) ビット	F地区	F36b区	16世紀第4四半期	—	
P615	P-615	(人為) ビット	F地区	F36b区	16世紀第4四半期	—	
P616	P-616	(人為) ビット	F地区	F36a区	16世紀第4四半期	—	
P617	P-617	(人為) ビット	F地区	F36a区	16世紀第4四半期	—	
P618	P-618	(人為) ビット	F地区	F36a区	16世紀第4四半期	SK508を切る。龍泉窯鎮連弁の青磁碗、京都系土師器の破片が出土	
P619	P-619	(人為) ビット	F地区	G36d区	16世紀第4四半期	P620を切る。	
P620	P-620	(人為) ビット	F地区	G36d区	16世紀第4四半期	SK511を切り、P619に切られる。糸切土師の細片3点出土	
	P-621	⇒SK542	F地区				
	P-622	⇒SK542	F地区				
P623	P-623	(人為) ビット	F地区	F36b区	不明	遺物なし	
P624	P-624	(人為) ビット	F地区	F37a区	16世紀	16世紀第1四半期の土坑SK540を切る。京都系土師器1期目の破片が出土	
P625	P-625	(人為) ビット	F地区	F37c区	中世	糸切土師坏	
P626	P-626	(人為) ビット	F地区	F37c区	8世紀末	—	
P627	P-627	(人為) ビット	F地区	F37c区	古代	P665を切る。古代の土師器の破片が数点出土	31
P628	P-628	(人為) ビット	F地区	F37c区	不明	遺物なし	
P629	P-629	(人為) ビット	F地区	F37c区	不明	遺物なし	
P630	P-630	(人為) ビット	F地区	F37d区	中世	土師器碗	
	P-631	自然の凸凹	F地区	F37d区			
P632	P-632	(人為) ビット	F地区	G37d区	中世	土師器鍋	
P633	P-633	(人為) ビット	F地区	E37d区	16世紀後半	完形土師器坏	57
P634	P-634	(人為) ビット	F地区		16世紀後半	京都系土師器転用埴塼、瓦質火鉢の破片が出土	
P635	P-635	(人為) ビット	F地区	F38b区	16世紀後半	SD563をきる。中国製褐釉陶器と糸切土師の破片が出土	
P636	P-636	(人為) ビット	F地区	F38b区	16世紀後半	SD563を切り、大内系土師器と備前焼播鉢の破片が出土	

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ⑧

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
P637	P-637	(人為) ビット	F地区	F38c区	中世	糸切土師環	
P638	P-638	(人為) ビット	F地区	F38c区	不明	土師器	
P639	P-639	S567の柱痕	F地区			⇒SB309	
P639	P-639	(人為) ビット	F地区	F38d区	16世紀後半	SD563をきる	
P640	P-640	(人為) ビット	F地区	F38c区	中世	糸切土師環	
P641	P-641	P696の柱痕	F地区			⇒SB309	
P-642		自然の凸凹	F地区	F38c区			
P643	P-643	P695の柱痕	F地区			⇒SB309	
P644	P-644	(人為) ビット	F地区	F38d区	16世紀後半	SD563をきり、糸切土師の破片が出土	
P645	P-645	(人為) ビット	F地区	F38d区	16世紀後半	SD563をきる	
P646	P-646	(人為) ビット	F地区		16世紀後半	—	
P647	P-647	(人為) ビット	F地区	F37b区	不明	遺物なし	
P648	P-648	(人為) ビット	F地区	G38c区	16世紀第2四半期	京都系土師器1期の皿と糸切土師器の破片が出土	57
P649	P-649	(人為) ビット	F地区	G38c区	不明	遺物なし	
P650	P-650	(人為) ビット	F地区	G38c区	中世	糸切土師環	
P651	P-651	P698の柱痕	F地区			⇒SB309	
P652	P-652	(人為) ビット	F地区	F38a区	不明	遺物なし	
P653	P-653	(人為) ビット	F地区	F38b区	16世紀後半	SD563をきる	
P654	P-654	(人為) ビット	F地区	F38b区	不明	遺物なし	
P655	P-655	(人為) ビット	F地区	F38b区	16世紀後半	SD563をきる	
P656	P-656	(人為) ビット	F地区	F38b区	16世紀後半	SD563をきる	
P657	P-657	P699の柱痕	F地区	G38c区	古代	⇒SB309	
P658	P-658	(人為) ビット	F地区	F38a区	16世紀第3四半期	16世紀第3四半期のSE532を切る。ロクロ目土師の破片1点が出土	
P659	P-659	(人為) ビット	F地区		不明	古代土師器	
P660	P-660	(人為) ビット	F地区	E36b区	不明	遺物なし	
P661	P-661	(人為) ビット	F地区	F37c区	不明	遺物なし	
P662	P-662	(人為) ビット	F地区	F37c区	古代	古代土師器底部の破片が出土	
P663	P-663	(人為) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P664	P-664	(人為) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P665	P-665	(人為) ビット	F地区	F37c区	古代	P627に切られ、古代土師器の破片が3点出土	
P666	P-666	(人為) ビット	F地区	E37a区	古代	古代土師器の破片が数点出土	
P667	P-667	(人為) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P668	P-668	(人為) ビット	F地区	F37c区	古代	P627に切られ、古代土師器の破片が2点出土	
P-669						⇒SK669	
P670	P-670	(人為) ビット	F地区	F37c区	不明	遺物なし	
P671	P-671	(人為) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P672	P-672	(人為) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P673	P-673	(人為) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P674	P-674	(人為) ビット	F地区	F37b区	古代	古代土師器口縁部片が1点出土	
P-675			F地区			欠番	
P676	P-676	(人為) ビット	F地区	F36c区	不明	遺物なし	
P677	P-677	(人為) ビット	F地区	F36a区	16世紀後半	京都系土師器II期皿と、古代土師器底部の破片が出土	
P678	P-678	(人為) ビット	F地区	F36a区	古代	土師器の破片が1点出土	
P679	P-679	(人為) ビット	F地区	F36a区	不明	遺物なし	
P680	P-680	(人為) ビット	F地区	F38c区	不明	遺物なし	
P-680		P694の柱痕	F地区			⇒SB309	
P682	P-682	(人為) ビット	F地区	F36a区	16世紀後半	SE558をきる	
P683	P-683	(人為) ビット	F地区	F36a区	不明	遺物なし	
P684	P-684	(人為) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P685	P-685	(人為) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P686	P-686	(人為) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P687	P-687	(人為) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P688	P-688	(人為) ビット	F地区	F37c区	古代	—	
P689	P-689	(人為) ビット	F地区	F37d区	不明	遺物なし	
P-690		(自然)	F地区			木の根	
P691	P-691	柱穴	F地区	F37d区	中世	備前焼	
P692	P-692	(人為) ビット	F地区	F38a区	16世紀後半	SD527をきる	
P-693		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-694		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-695		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-696		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-697		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-698		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-699		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-700		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-701		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-702		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-703		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-704		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-705		柱穴	F地区			⇒SB309	
P-706		柱穴	F地区			⇒SB309	
P707	P-707	(人為) ビット	F地区	G38c区	不明	遺物なし	
P708	P-708	(人為) ビット	F地区	F38d区	中世	糸切土師環	
P709	P-709	(人為) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P-710		柱穴	F地区			⇒SB309	

第7次調査区遺構一覧表（P番号）⑨

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
	P-711	柱穴	F地区			⇒SB309	
	P-712	柱穴	F地区			⇒SB309	
	P-713	柱穴	F地区			⇒SB309	
	P-714	柱穴	F地区			⇒SB309	
P715	P-715	柱穴	F地区	G37d区	中世	糸切土師坏	
P716	P-716	(人為)	F地区	F36a区	近世	—	
P717	P-717	(人為)	F地区	F36a区	近世	—	
P801	P-801	(人為) ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし	
P802	P-802	(人為) ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし	
P803	P-803	(人為) ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし	
P804	P-804	(人為) ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし	
	P-805	柱穴	G地区			⇒SB303	
P806	P-806	(人為) ビット	G地区	F35a区	15～16世紀	備前焼裏胴部	
P807	P-807	(人為) 掘り込み	G地区	E35d区	16世紀第2四半期	祭祀遺構あるいは乳見墓か。	57
P808	P-808	(人為) ビット	G地区	F35b区	不明	—	
P809	P-809	(人為) ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし	
P810	P-810	(人為) ビット	G地区	F35b区	16世紀代	16世紀第1四半期のSK705を切る	
P811	P-811	(人為) ビット	G地区	F35b区	16世紀後半	16世紀第1四半期のSK705を切る	
P812	P-812	(人為) ビット	G地区	F35b区	16世紀代	京都系土師器2期皿1点が出土。	
P813	P-813	(人為) ビット	G地区	F35d区	16世紀代	鉄製小刀(16世紀の青花碗1点と瓦質火鉢1点の破片が出土	
	P-814	柱穴	G地区			⇒SB302	
P815	P-815	(人為) ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし	
	P-816	柱穴	G地区			⇒SB302	
P817	P-817	(人為) ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし	
P818	P-818	(人為) ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし	
P819	P-819	(人為) ビット	G地区	F35b区	不明	—	
P820	P-820	(人為) ビット	G地区	F35d区	不明	須恵器	
P821	P-821	(人為) ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし	
	P-822	柱穴	G地区			⇒SB303	
P823	P-823	(人為)	G地区	F35b区	16世紀代	京都系土師器1期皿の破片が出土	
	P-824	(自然)	G地区				
P825	P-825	(自然)	G地区	F35b区	古代	自然のしみ? 古代の土師器碗片が出土	
P826	P-826	(人為) ビット	G地区	F35a区	不明	古代土師器	
P827	P-827	(人為) ビット	G地区	F35a区	不明	糸切土師坏	
P828	P-828	(人為) ビット	G地区	F35c区	古代	土師器坏の破片が1点出土	
P829	P-829	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	—	
P830	P-830	(人為)?	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P831	P-831	(人為) ビット	G地区	F35c区	中世	中国黒褐釉陶器	
P832	P-832	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	—	
P833	P-833	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	—	
P834	P-834	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし	
P835	P-835	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P836	P-836	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	—	
P837	P-837	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P838	P-838	(人為) ビット	G地区	F35c区	16世紀	ロクロ目土師	
P839	P-839	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし	
P840	P-840	(人為) ビット	G地区	F35c区	古代	古代土師器の小片が4点出土	
P841	P-841	(人為) ビット	G地区	E34d区	15～16世紀	遺物なし	
P842	P-842	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし	
P843	P-843	(人為) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	—	60
P844	P-844	(人為) ビット	G地区	F35c区	16世紀代	SD710を切る。中世6期の備前焼裏口縁の破片が出土	
P845	P-845	(人為) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	京都系土師器皿が出土。	
P846	P-846	(人為) ビット	G地区	F34b区	不明	—	
P847	P-847	(人為) ビット	G地区	F34b区	不明	遺物なし	
P848	P-848	(人為) ビット	G地区	F34b区	不明	—	
P849	P-849	(人為) ビット	G地区	F34b区	不明	—	
P850	P-850	(人為)	G地区	F34b区	16世紀代	ロクロ目土師1点と瀬戸美濃天目碗の破片が出土	
P851	P-851	(人為) ビット	G地区	F34b区	古代	—	28
P852	P-852	(人為) ビット	G地区	F34d区	古代	土師器坏の破片が1点出土	
P853	P-853	(人為) ビット	G地区	F34d区	古代	土師器の破片が1点出土	
P854	P-854	柱穴	G地区	F34d区	16世紀代	龍窯からの焼石と赤丹焼土。糸切土師2点・ロクロ目土師小皿1点の破片が出土	
P855	P-855	(人為) ビット	G地区	F34d区	古代	土師器坏の破片が1点出土	
P856	P-856	(人為) ビット	G地区	E34b区	古代	土師器坏の破片が3点出土	
P857	P-857	(人為) ビット	G地区	E34b区	古代	土師器坏の破片が3点出土	
P858	P-858	(人為) ビット	G地区	E34b区	不明	遺物なし	
P859	P-859	(人為) ビット	G地区	E34b区	古代	土師器坏の破片が1点出土	
P860	P-860	(人為)	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる	
	P-861	(人為)?	G地区	F34d区		遺構かどうか不明	
P862	P-862	(人為)?	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる	
P863	P-863	(人為) ビット	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる	
P864	P-864	(人為) ビット	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる	
P865	P-865	(人為) ビット	G地区	F34d区	16世紀後半	—	60
P866	P-866	(人為) ビット	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる	
P867	P-867	(人為) ビット	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる	
P868	P-868	(人為) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	



第7次調査区遺構一覧表（P番号）⑩

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
P869	P-869	(人為) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	
P870	P-870	(人為) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	
P871	P-871	(人為) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	
P872	P-872	(人為) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P873	P-873	(人為) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P874	P-874	(人為) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	
P875	P-875	(人為) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P876	P-876	(人為) ビット	G地区	E34a区	16世紀後半	SD766をきる	
P877	P-877	(人為) ビット	G地区	E34a区	16世紀後半	SD766をきる	
P878	P-878	(人為) ビット	G地区	E34a区	16世紀後半	SD766をきる	
P879	P-879	(人為) ビット	G地区		不明	遺物なし	
P880	P-880	(人為) ビット	G地区		中世	糸切土師	
P881	P-881	(人為) ビット	G地区		中世	糸切土師	
P882	P-882	(人為) ビット	G地区	F34c区	中世	糸切土師	
P883	P-883	(人為) ビット	G地区	E34a区	16世紀後半	SD775をきる	
P884	P-884	(人為) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P885	P-885	(人為) ビット	G地区	F34c区	不明	遺物なし	
P886	P-886	(人為) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P887	P-887	(人為) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P888	P-888	(人為) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P889	P-889	(人為) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P890	P-890	(人為) ビット	G地区	F34a区	16世紀後半	SD766をきる	
P891	P-891	(人為) ビット	G地区	F34a区	中世	糸切土師	
P892	P-892	(人為) ビット	G地区	F34a区	中世	糸切土師	
P893	P-893	(人為) ビット	G地区	F34c区	不明	遺物なし	
P894	P-894	(人為) ビット	G地区	F34c区	不明	遺物なし	
P895	P-895	柱穴	G地区	F33d区	不明	古代土師器	
P896	P-896	柱穴	G地区	F33d区	16世紀後半	SD775をきる	
P897	P-897	柱穴	G地区	E33b区	16世紀後半	SD775をきる	
P898	P-898	(人為) ビット	G地区	E33d区	不明	古代土師器	
P899	P-899	(人為)	G地区	E33d区	16世紀	—	
	P-900	柱穴	G地区			⇒SA311	
P901	P-901	(人為) ビット	G地区	E33C区	古代	—	26
	P-902	柱穴	G地区			⇒SA311	
P903	P-903	柱穴	G地区	E33C区	不明	古代土師器	
P904	P-904	(人為) ビット	G地区	E32a区	中世	糸切土師、動物骨	
P905	P-905	柱穴	G地区	E32b区	不明	遺物なし	
P906	P-906	(人為) ビット	G地区	F33d区	古代	SD775をきる	
P907	P-907	柱穴	G地区	F33d区	16世紀後半	SD775をきる	
	P-908	柱穴	G地区			⇒SA311	
	P-909	柱穴	G地区			⇒SA311	
	P-910	柱穴	G地区			⇒SA311	
	P-911	柱穴	G地区			⇒SA311	
	P-912	柱穴	G地区			⇒SA311	
	P-913	柱穴	G地区			⇒SA311	
P914	P-914	(人為) ビット	G地区	E32b区	不明	遺物なし	
P915	P-915	(人為) ビット	G地区	E32b区	不明	遺物なし	
P916	P-916	(人為) ビット	G地区	F32d区	不明	遺物なし	
P917	P-917	(人為) ビット	G地区	F32d区	16世紀後半	SD775をきる	
P918	P-918	(人為) ビット	G地区	F33c区	16世紀後半	SD775をきる	
	P-919	SD775の一部	G地区				
P920	P-920	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P921	P-921	(人為) ビット	G地区	F35b区	16世紀後半	S709を切る	
	P-922	柱穴	G地区			⇒SB302	
P923	P-923	(人為) ビット	G地区	E32d区	16世紀	—	
P924	P-924	(人為) ビット	G地区	F35a区	不明	遺物なし	
	P-925	柱穴	G地区			⇒SB307	
P926	P-926	(人為) ビット	G地区	E32b区	16世紀第2四半期	京都系土師器1期皿の破片が出土	57
P927	P-927	(人為) ビット	G地区	F34b区	不明	—	
	P-928	柱穴	G地区			⇒SB307	
P929	P-929	(人為) ビット	G地区	E35c区	16世紀第4四半期	SK711を切る。京都系土師器1期口縁、3期口縁が出土	
P930	P-930	ビット	G地区	F35b区	古代	—	28
P931	P-931	(人為) ビット	G地区	F35b区	不明	—	
P932	P-932	ビット	G地区	F35b区	古代	—	28
	P-933	柱穴	G地区			⇒SB303	
	P-934	柱穴	G地区			⇒SB302	
	P-935	柱穴	G地区			⇒SB302	
	P-936	(誤認)	G地区				
	P-937	柱穴	G地区			⇒SB302	
P938	P-938	(人為) ビット	G地区	F35a区	中世	糸切土師	
	P-939	柱穴	G地区			⇒SB302	
P940	P-940	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし	
	P-941	柱穴	G地区			⇒SB302	
P942	P-942	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	—	
P943	P-943	(人為) ビット	G地区	F35c区	不明	—	

第7次調査区遺構一覧表（P番号）①

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
P944	P-944	ビット	G地区	F35c区	古代	—	28
P945	P-945	(人為)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P946	P-946	(人為)ビット	G地区	E34b区	16世紀後半	SD766をきる	
	P-947	(自然)	G地区				
	P-948	(自然)	G地区				
P949	P-949	(人為)ビット	G地区	E34b区	不明	遺物なし	
P950	P-950	(人為)ビット	G地区	F34b区	不明	遺物なし	
P951	P-951	(人為)ビット	G地区	F34b区	16世紀第4四半期	備前焼斜めすり目の播鉢片1点	
P952	P-952	(人為)ビット	G地区	F34b区	16世紀	ロクロ目土師坏	
P953	P-953	(人為)ビット	G地区	F34C区	中世	糸切土師	
P954	P-954	(人為)ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし	
	P-955	柱穴	G地区			⇒SB303	
P956	P-956	(人為)ビット	G地区	F35d区	中世	中国陶磁	
P957	P-957	(人為)ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし	
P958	P-958	(人為)ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	—	
P959	P-959	(人為)ビット	G地区	F34c区	不明	古代土師器	
P960	P-960	(人為)ビット	G地区	E34b区	16世紀後半	SD766をきる	
P961	P-961	(人為)ビット	G地区	F34d区	中世	—	
P962	P-962	(人為)ビット	G地区	E34b区	中世	糸切土師	
P963	P-963	(人為)ビット	G地区	F34b区	中世	銅銭	
P964	P-964	(人為)ビット	G地区	F34b区	不明	古代土師器	
P965	P-965	(人為)ビット	G地区		16世紀後半	青花皿B2類が出土	
P966	P-966	(人為)ビット	G地区	F34b区	中世	—	
P967	P-967	(人為)ビット	G地区	F35c区	古代	ミガキの施された土師器坏の破片が1点出土	
P968	P-968	(人為)ビット	G地区	F34d区	不明	古代土師器	
P969	P-969	(人為)ビット	G地区	F34d区	不明	古代土師器	
P970	P-970	(人為)ビット	G地区	E35d区	不明	古代土師器	
P971	P-971	(人為)ビット	G地区	E34b区	不明	—	
P972	P-972	(人為)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P973	P-973	(人為)ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし	
P974	P-974	(人為)ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし	
P975	P-975	(人為)ビット	G地区	F35b区	古代	古代土師器の小片が4点出土	
P976	P-976	(人為)ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし	
	P-977	柱穴	G地区			⇒SB303	
P978	P-978	(人為)ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし	
P979	P-979	(人為)ビット	G地区	F35a区	不明	遺物なし	
P980	P-980	(人為)ビット	G地区		不明	古代土師器	
P981	P-981	(人為)ビット	G地区	F34d区	不明	古代土師器	
	P-982	柱穴	G地区			⇒SB302	
	P-983	柱穴	G地区			⇒SB302	
	P-984	柱穴	G地区			⇒SB302	
P985	P-985	(人為)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P986	P-986	(人為)ビット	G地区	F35a区	中世	—	
P987	P-987	(人為)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P988	P-988	(人為)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P989	P-989	(人為)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P990	P-990	(人為)ビット	G地区	F35c区	16世紀代	—	
P991	P-991	ビット	G地区	F35c区	不明	自然の凸凹か。	
P992	P-992	(人為)ビット	G地区	F34b区	古代	S763に切られる。土師器の破片が3点出土	
P993	P-993	(人為)ビット	G地区		不明	古代土師器	
P994	P-994	(人為)ビット	G地区	F34a区	中世	糸切土師	
P995	P-995	(人為)ビット	G地区	F35a区	不明	古代土師器	
P996	P-996	(人為)ビット	G地区	E34b区	16世紀後半	京都系土師器出土	
P997	P-997	(人為)ビット	G地区	F34b区	16世紀第4四半期	青花碗C群片1点、京都系土師器3期皿口縁1点	
P998	P-998	柱穴	G地区	F34b区	中世	—	
P999	P-999	(人為)ビット	G地区	F34b区	古代	—	28
P1000	P-1000	(人為)ビット	G地区	F34b区	中世	—	
P1001	P-1001	(人為)ビット	G地区		不明	遺物なし	
P1002	P-1002	(人為)ビット	G地区		不明	古代土師器	
P1003	P-1003	(人為)ビット	G地区	F35a区	不明	遺物なし	
P1004	P-1004	(人為)ビット	G地区		不明	遺物なし	
	P-1005	柱穴	G地区			⇒SB303	
P1006	P-1006	(人為)ビット	G地区	F35a区	不明	—	
P1007	P-1007	(人為)ビット	G地区	F35b区	不明	—	
P1008	P-1008	(人為)ビット	G地区	F36b区	不明	遺物なし	
P1009	P-1009	(人為)ビット	G地区	F35a区	16世紀第4四半期	京都系土師器2～3期皿が1点出土	97
	P-1010	柱穴	G地区			⇒SB308	
	P-1011	柱穴	G地区			⇒SB308	
P1012	P-1012	(人為)ビット	G地区	F33a区	16世紀第4四半期	土師器埋納	97
P1013	P-1013	(人為)ビット	G地区	F33c区	不明	遺物なし	
P1014	P-1014	(人為)ビット	G地区		不明	—	
P1015	P-1015	(人為)ビット	G地区		不明	遺物なし	
P1016	P-1016	(人為)ビット	G地区		不明	遺物なし	
P1017	P-1017	(人為)ビット	G地区		16世紀代	京都系土師器の破片が出土	
	P-1018	柱穴	G地区			⇒SA311	

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ⑫

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
P1019	P-1019	(人為)ピット	G地区		不明	遺物なし	
	P-1020	柱穴	G地区			⇒SA311	
P1021	P-1021	(人為)ピット	G地区		不明	古代土師器	
P1022	P-1022	(人為)ピット	G地区		不明	遺物なし	
P1023	P-1023	(人為)ピット	G地区		不明	古代土師器	
P1024	P-1024	(人為)ピット	G地区		中世	—	
P1025	P-1025	(人為)ピット	G地区		中世	—	
	P-1026	柱穴	G地区			⇒SB305	
	P-1027	柱穴	G地区			⇒SB305	
	P-1028	柱穴	G地区			⇒SB305	
	P-1029	柱穴	G地区			⇒SB305	
	P-1030	柱穴	G地区			⇒SB305	
	P-1031	柱穴	G地区			⇒SB308	
	P-1032	柱穴	G地区			⇒SB308	
	P-1033	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	P-1034	柱穴	G地区			⇒SB308	
	P-1035	(自然)	G地区				
	P-1036	柱穴	G地区			⇒SB308	
	P-1037	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	P-1038	SB-6柱穴	G地区				
	P-1039	(自然)	G地区				
P1040	P-1040	柱穴	G地区	F33C区	古代	SB306周辺	25
	P-1041	P-1043となる	G地区				
	P-1042	P-1043となる	G地区				
	P-1043	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	P-1044	柱穴	G地区			⇒SB306B	
P1045	P-1045	土坑	G地区	F33C区	古代	SB306周辺	25
P1046	P-1046	(人為)ピット	G地区		不明	遺物なし	
P1047	P-1047	(人為)ピット	G地区	F33b区	不明	—	
P1048	P-1048	(人為)ピット	G地区		不明	遺物なし	
P1049	P-1049	(人為)ピット	G地区		不明	遺物なし	
	P-1050	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	P-1051	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	P-1052	柱穴	G地区			⇒SB306B	
	P-1053	柱穴	G地区			⇒SB306B	
	P-1054	柱穴	G地区			⇒SB306C	
P1055	P-1055	柱穴	G地区	F35a区	古代	—	28
P1056	P-1056	(人為)	G地区	E34b区	中世	糸切土師	
P1057	P-1057	(人為)	G地区		不明	—	
P1058	P-1058	土坑	G地区	E34b区	古代	SD710に切られる円形の土坑である。土師器環の破片が出土している。	
	P-1059	柱穴	G地区			⇒SA311	
P1060	P-1060	土坑	G地区	F33d区	古代	SB306周辺	25
	P-1061	S-801に変更	G地区				
	P-1062	SB-8の柱穴	G地区				
P1063	P-1063	(人為)ピット	G地区		不明	遺物なし	
P1064	P-1064	(人為)ピット	G地区		不明	遺物なし	
P1065	P-1065	(人為)ピット	G地区		不明	遺物なし	
P1066	P-1066	(人為)ピット	G地区		不明	遺物なし	
	P-1067	柱穴	G地区			⇒SB306B	
	P-1068	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	P-1069	柱穴	G地区			⇒SB308	
	P-1070	(自然)	G地区				
P1071	P-1071	(人為)	G地区	E34a区	16世紀	—	
P1072	P-1072	(人為)	G地区	F34a区	古代	SB306周辺	26
	P-1073	柱穴	G地区			⇒SB306A	
	P-1074	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	P-1075	柱穴	G地区			⇒SB306B	
P1076	P-1076	土坑	G地区	F34a区	古代	SB306周辺	25
P1077	P-1077	土坑	G地区	F35a区	古代	SB306周辺	25
	P-1078	柱穴	G地区			⇒SB306B	
	P-1079	柱穴	G地区			⇒SB306A	
P1080	P-1080	(人為)ピット	G地区	E33b区	16世紀後半	京都系土師器2期皿の破片が出土	

第16次調査区遺構一覧表①

(ゴチックは、本文あり)

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP 1	S-1	柱穴	A地区(御所小路町北)	J-36区	16世紀	平瓦1点。	
SP 2	S-2	柱穴	A地区(御所小路町北)	J-36区	16世紀	糸切土師2点	
SP 3	S-3	柱穴	A・B地区(御所小路町北)	J-36区	16世紀	底が段になる。	
SK 4	S-4	小土坑	B地区(御所小路町北)	J37区	16世紀第3四半期	浅い	290
SK 5	S-5	小土坑	B地区(御所小路町北)	J37区	16世紀第4四半期	被熱燻充満	295
SP 6	S-6	柱穴	B地区(御所小路町北)	J-37区	16世紀後半	II層上面。瓦質鍋1点。	
SP 7	S-7	SP119の柱痕	B地区(御所小路町北)	J-37区			
SP 8	S-8	柱穴	B地区(御所小路町北)	J-37区	中世	II層上面。遺物なし。	
SK 9	S-9	土坑	B地区(御所小路町北)	J-37区	中世	II層上面。古代土師器	
SP10	S-10	柱穴	C地区(御所小路町北)	J-38区	16世紀	B層上面。備前焼甕1点。ロクロ目土師1点。	
SP11	S-11	柱穴	B地区(御所小路町北)	J-37区	16世紀後半	B層上面。京都系土師器2期皿1点。	
SP12	S-12	柱穴	B地区(御所小路町北)	J-37区	16世紀後半	B層上面。遺物なし。	
SP13	S-13	柱穴	C地区(御所小路町北)	K39区	16世紀後半	II層上面。大内系土師器1点。	
SK14	S-14	土坑	B地区(御所小路町北)	JK38区	16世紀第4四半期	土坑または溝の先端である。祭祀一括、掘りなおしあり。	294
SK15	S-15	廃棄土坑(長円形)	C地区(御所小路町北)	K39区	16世紀第4四半期	底部平坦、二段掘り。廃棄土坑。	295
SK16	S-16	方形土坑	B地区(御所小路町北)	J37区	16世紀第4四半期	用途不明	298
SD17	S-17	溝	B地区(御所小路町北)	J37区	16世紀前半	一括資料	286
SD18	S-18	溝	A・B地区(御所小路町北)	J36・37区	16世紀前半	御所小路の北に並行する大溝	283
SP19	S-19	小土坑	B地区(御所小路町北)	J37区	16世紀後半	B層上面。瓦質鍋1点。	
SK20	S-20	土坑	B地区(御所小路町北)	J37区	16世紀後半	II層上面。古代土師器皿1点。ロクロ目土師皿1点	
SD21・22	S-21、S-22	溝(道路側溝)	A地区(御所小路町北)	J35区	16世紀第3四半期	御所小路の側溝	289
SD23	S-23	溝	A地区(御所小路町北)	J35区	16世紀第4四半期	燻廃棄	293
SP24	S-24	柱穴	C地区(御所小路町北)	K40区	近代の新しいピットか	B層上面以上。	
SK25	S-25	攪乱	C地区(御所小路町北)			極めて軟らかい埋土	
SP26	S-26	柱穴	C地区(御所小路町北)	K40区	不明	B層上面以上。遺物なし。	
SP27	S-27	小ピット	C地区(御所小路町北)	K40区	中世	B層上面以上。瓦質鍋1点。	
SP28	S-28	小ピット	C地区(御所小路町北)	K40区	不明	B層上面。土鍾1点。鉄釘1点。	
S29	S-29	木の根か?	C地区(御所小路町北)			遺構ではない	
SP30	S-30	柱穴	C地区(御所小路町北)	K40区	中世	B層上面以上。土師器1点。	
SK31	S-31	土坑	B地区(御所小路町北)	J37区	9世紀	溝の先端の可能性あり。	280
SP32	S-32	小ピット	C地区(御所小路町北)	K39区	不明	B層上面以上。遺物なし。	
SP33	S-33	小ピット	C地区(御所小路町北)	K39区	不明	B層上面以上。遺物なし。	
SK34	S-34	土坑	C地区(御所小路町北)	K39区	不明	B層上面以上。遺物なし。	
SP35	S-35	柱穴	C地区(御所小路町北)	K39区	16世紀第4四半期	—	298
SK36	S-36	方形土坑	C地区(御所小路町北)	K39区	16世紀第4四半期	用途不明	296
SK37	S-37	土坑	C地区(御所小路町北)	K39区	16世紀第4四半期	—	298
S38	S-38	小ピット	A地区(御所小路町北)	J36区	16世紀後半	B層上面以上。京都系土師器1期1点。	
SP39	S-39	柱穴	B地区(御所小路町北)	K38区	8～9世紀	B層上面以上。古代土師器甕1点。	280
SP40	S-40	小ピット	B地区(御所小路町北)	K38区	不明	B層上面以上。遺物なし。	
SP41	S-41	柱穴	B地区(御所小路町北)	J38区	16世紀第3四半期	—	291
SP42	S-42	柱穴	A地区(御所小路町北)	J36区	16世紀第3四半期	—	290
SP43	S-43	柱穴	B地区(御所小路町北)	J38区	8～9世紀	—	280
SP44	S-44	小ピット	C地区(御所小路町北)	K40区	不明	B-II層上面以上。	
SP45	S-45	ピット	C地区(御所小路町北)	K39区	不明	B-II層上面以上。	
SP46	S-46	ピット	C地区(御所小路町北)	K40区	不明	B-II層上面以上。土器1点。	
SP47	S-47	ピット	C地区(御所小路町北)	K40区	中世	B-II層上面以上。糸切土師3点。	
SP48	S-48	ピット	C地区(御所小路町北)	K40区	中世	B-II層上面以上。白磁1点、糸切土師1点。	
SP49	S-49	ピット	C地区(御所小路町北)	K40区	不明	B-II層上面以上。遺物なし。	
SP50	S-50	ピット	C地区(御所小路町北)	K40区	不明	B-II層上面以上。遺物なし。	
SP51	S-51	ピット	C地区(御所小路町北)	K40区	中世	B-II層上面以上。糸切土師3点。	
SP52	S-52	ピット	B地区(御所小路町北)	K38区	15～16世紀	II層上面。備前焼播鉢1点、糸切土師1点。	
SP53	S-53	ピット	B地区(御所小路町北)	K38区	不明	B-II層上面以上。遺物なし。	
SP54	S-54	柱穴	B地区(御所小路町北)	K38区	8～9世紀	—	280
SP55	S-55	柱穴	B地区(御所小路町北)	K38区	8～9世紀	—	280
SP56	S-56	ピット	D地区(御所小路町北)	K40区	不明	B層上面以上。遺物なし。	
SP57	S-57	ピット	D地区(御所小路町北)	K40区	中世	II層上面以上。瓦質土器1点。	
SP58	S-58	ピット	D地区(御所小路町北)	K40区	不明	B層上面以上。遺物なし。	
SP59	S-59	ピット	D地区(御所小路町北)	K40区	16世紀	B層上面以上。ロクロ目土師1点。	
SK60	S-60	土坑	D地区(御所小路町北)	K40区	16世紀第2四半期	—	
SP61	S-61	ピット	C地区(御所小路町北)	K38区	16世紀後半	SK66=16世紀後半を切る。遺物なし。	
SP62	S-62	ピット	C地区(御所小路町北)	K38区	16世紀後半	SK66=16世紀後半を切る。遺物なし。	
SP63	S-63	ピット	C地区(御所小路町北)	K38区	16世紀後半	SK66=16世紀後半を切る。遺物なし。	
SP64	S-64	ピット	C地区(御所小路町北)	K38区	16世紀後半	SK66=16世紀後半を切る。管状土鍾1点。	
SP65	S-65	ピット	C地区(御所小路町北)	K38区	不明	B層上面以上。遺物なし。	
SX66	S-66	窪みを埋めた整地層	B地区(御所小路町北)	K38区	16世紀第3四半期	—	290
SP67	S-67	ピット	D地区(御所小路町北)	K40区	16世紀	II層上面以上。瓦質鍋1点。糸切土師1点。	
SP68	S-68	ピット	D地区(御所小路町北)	K40区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SP69	S-69	ピット	D地区(御所小路町北)	K40区	不明	B層上面以上。遺物なし。	
SF70	S-70	道路	G地区	L44・45区	16世紀	上市町の道路	309
SK71	S-71	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587～)	—	348
SK72	S-72	廃棄土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587～)	—	346
SP73	S-73	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587～)	隅丸方形	352
SP74	S-74	小ピット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀	A層上面、糸切土師2点。	
S-75	S-75	遺構ではない	F地区				
SK76	S-76	小土坑	G地区(上市町道路上)	L44区	1596～17世紀初頭	—	355

第16次調査区遺構一覧表②

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK77	S-77	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP78	S-78	柱穴	G地区(上市町道路上)	L44区	1596~17世紀初頭	—	317
SD79	S-79	溝	G地区(上市町道路上)	L45区	17世紀初頭	道路廃絶後の遺構	319
SP80	S-80	柱穴	G地区(上市町道路上)	L44区	1596~17世紀初頭	—	317
SK81	S-81	土坑	F地区(上市町西2区画)	L44区	1596~17世紀初頭	—	355
SP82	S-82	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1587~17世紀初頭	—	348
SP83	S-83	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1587~17世紀初頭	—	348
SP84	S-84	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1587~17世紀初頭	—	348
SK85	S-85	廃棄土坑	G地区(上市町道路上)	LM45区	1596~17世紀初頭	礎廃棄	318
SK86	S-86	土坑	G地区(上市町道路上)	LM45区	近現代	—	
SK87	S-87	土坑	G地区(上市町道路上)	LM45区	近現代	—	
SK88	S-88	土坑	G地区(上市町道路上)	LM45区	近現代	—	
	S-89	遺構ではない	H地区				
	S-90	遺構ではない	H地区				
SK91	S-91	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	II層上面。糸切土師8点、瓦質土器1点	
SK92	S-92	ピット	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	B層上面。遺物なし。	
SP93	S-93	ピット	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	B層上面。遺物なし。	
SK94	S-94	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	B層上面。青花皿2点、糸切土師2点。	
SK95	S-95	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀	B層上面。遺物なし。	
SK96	S-96	廃棄土坑	D地区(御所小路町北)	L41区	16世紀第3四半期	—	290
SD97	S-97	小溝	D地区(御所小路町北)	K41区	中世	II層上面。瓦質土器1点	
SK98	S-98	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	386
SK99	S-99	小土坑	H地区東(上市町東)	M46区	1596~17世紀初頭	—	395
SK100	S-100	廃棄土坑	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	火災処理土坑	393
SK101	S-101	廃棄土坑	H地区東(上市町東2区画)	L46区	1596~17世紀初頭	—	395
SP102	S-102	柱穴	H地区東(上市町東)	M46・47区	1596~17世紀初頭	—	395
SK103	S-103	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	礎廃棄	386
SK104	S-104	土坑	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP105	S-105	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	1587~17世紀初頭	—	386
SK106	S-106	土坑	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
S107	S-107		H地区				
SK108	S-108	土坑	H地区東(上市町東0区画)	M48区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	385
SP109	S-109	柱穴	H地区東(上市町東0区画)	M48区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	385
SD110	S-110	溝	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀第4四半期	礎廃棄	294
S-111	S-111	攪乱	H地区				
SP112	S-112	柱穴	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP113	S-113	柱穴	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP114	S-114	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	1596~17世紀初頭	—	386
SK115	S-115	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	1596~17世紀初頭	—	386
SP116	S-116	柱穴	H地区(上市町東1区画)	M47区	1587~17世紀初頭	—	386
SK117	S-117	廃棄土坑	H地区東(上市町東1区画)	M48区	1587直後	火災処理土坑	386
SP118	S-118	ピット	D地区(御所小路町北)	L41区	16世紀第4四半期	京都系土師器1期1点。	
SP119	S-119	柱穴	B地区(御所小路町北)	J37区	16世紀後半(SD17を切る)	II層上面。青花碗E群1点、土師鍋2点、ロクロ目土師1点。	
	S-120	S122と同じ	D地区(御所小路町北)				
SP121	S-121	柱穴	B地区(御所小路町北)	J37区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SK122	S-122	土坑	E地区(上市町西4区画)	L41区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	297
SK123	S-123	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	337
SP124	S-124	柱穴	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半(SK123を切る)	遺物なし。	
S-125	S-125	(欠番)	E地区(上市町西)				
SP126	S-126	小土坑	E地区(上市町西)	—	不明	B層上面。遺物なし。	
SP127	S-127	土坑	E地区(上市町西)	L42区	中世	B層上面。遺物なし。	
SP128	S-128	柱穴	E地区(上市町西)	L42区	16世紀第3四半期	—	328
SP129	S-129	柱穴	E地区(上市町下層)(上市町西)	L42区	15世紀?	B層上面。糸切土師4点。京都系土師器0期1点。	
SP130	S-130	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352
SP131	S-131	ピット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面。遺物なし。	
SP132	S-132	ピット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	B層上面。糸切土師2点。	
SK133	S-133	小土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352
SK134	S-134	小土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352
SK135	S-135	土坑	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	B層上面。糸切土師2点。	
SP136	S-136	ピット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面。遺物なし。	
SP137	S-137	ピット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面。土製品1点。	
SK138	S-138	土坑	E地区(上市町西)	L42区	16世紀第3四半期	B層上面。糸切土師2点。	328
SP139	S-139	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP140	S-140	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP141	S-141	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP142	S-142	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1596~17世紀初頭	—	355
SP143	S-143	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1596~17世紀初頭	—	355
SP144	S-144	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1596~17世紀初頭	—	355
SK145	S-145	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP146	S-146	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP147	S-147	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP148	S-148	ピット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面。遺物なし。	
SP149	S-149	ピット	E地区(上市町西)	L42区	中世	B層上面。備前焼壺1点。	
S150	S-150	浅い窪み	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	339
SP151	S-151	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352

第16次調査区遺構一覧表③

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK152	S-152	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352
SK153	S-153	小土坑	F地区(上市町西3区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
S154	S-154	(不明)	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	—	
SP155	S-155	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP156	S-156	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP157	S-157	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層中から	344
SP158	S-158	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層中から	344
SP159	S-159	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SX160	S-160	(不明)	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	包含層のしみか	348
SP161	S-161	ピット	C地区(御所小路町北)	K39区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SP162	S-162	ピット	C地区(御所小路町北)	K39区	16世紀	II層上面以上。青磁碗1点。	
SK163	S-163	土坑	H地区中(上市町東)	M45区	1596~17世紀初頭	銭貨埋納遺構→廃棄土坑	394
SP164	S-164	ピット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面。遺物なし。	
SP165	S-165	ピット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半(SK165を切る。)	B層上面。糸切土師3点。	
SP166	S-166	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP167	S-167	ピット	F地区(上市町西)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	B層上面。遺物なし。	
SP168	S-168	ピット	E地区(上市町西)	L42区	17世紀初頭	A層上面。遺物なし。	355
SP169	S-169	ピット	E地区(上市町西)	L42区	17世紀初頭	A層上面。備前焼1点、糸切土師小皿1点、京都系土師器1期皿1点。	355
SP170	S-170	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP171	S-171	柱穴	E地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	A層中から	348
SK172	S-172	土坑	H地区中(上市町東)	L46区	1596~17世紀初頭	—	396
SK173	S-173	土坑	E地区(上市町西)	L42区	16世紀第3四半期	—	328
SK174	S-174	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	礎廃棄	352
SP175	S-175	ピット	E地区(上市町西)	L42区	17世紀初頭	A層上面。ロクロ目土師あり。	353
SP176	S-176	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	339
SP177	S-177	ピット	B地区(御所小路町北)	J37・38区	16世紀第4四半期(SK14・20を切る。)	II層上面。遺物なし。	
SP178	S-178	ピット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀(SK135に切られる)	B層上面。遺物なし。	
SX179	S-179	(不明)	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP180	S-180	ピット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面。遺物なし。	
S-181		(欠番)	F地区				
SP182	S-182	柱穴	G地区(上市町西1・2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	1587年後の復興面の建物の一部=SP243	341
S-183		(欠番)	H地区				
SP184	S-184	柱穴	D地区(御所小路町北)	J40区	16世紀後半	—	291
SK185	S-185	土坑	D地区(御所小路町北)	K40区	16世紀(S67に切られる)	B層上面。瓦質鉢1点、糸切土師坏1点。	
S-186		土坑 S281の上部	D地区(御所小路町北)				
SK187	S-187	土坑	G地区	LM45区	近代	—	
SK188	S-188	土坑	F地区(上市町西)	L44区	16世紀第4四半期(1596~)	銭貨土師器埋納。礎廃棄。	353
SK189	S-189	方形土坑	G地区(上市町道路上)	LM45区	1596~17世紀初頭	廃棄土坑	319
SK190	S-190	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	350
SK191	S-191	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352
SP192	S-192	ピット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀	B層上面。糸切土師1点。	
SK193	S-193	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀(SD110とSP95に切られる)	B層上面。備前焼1点。	
SK194	S-194	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀第3四半期	—	291
SK195	S-195	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀(SD110に切られる)	B層上面。遺物なし。	
SP196	S-196	ピット	D地区(御所小路町北)	—	不明	B層上面。遺物なし。	
S197	S-197	浅い窪み	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀第3四半期	—	291
SP198	S-198	柱穴	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	S197に付属	291
SK199	S-199	小土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	—	291
SP200	S-200	ピット	E地区(上市町西)	L42区	—	SK316に。	
SP201	S-201	ピット	E地区(上市町西)	L42区	—	SK316に。	
S-202	S-202	ピット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	A層中。遺物なし。	
SP203	S-203	ピット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	A層中。焼土廃棄。鉄釘1点。	
S-204	S-204	⇒SK173	E地区(上市町西)	L42区			
SP205	S-205	ピット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	A層中。炭廃棄。	
S206	S-206	ピット	E地区(上市町西)	L42区	—	SK316に。	
SP207	S-207	ピット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面。遺物なし。	
S208	S-208	ピット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀	B層上面。京都系土師器1期皿1点。	
S209	S-209	ピット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	B層上面。漳州碗2点。	
SK210	S-210	土坑	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
S-211		土坑 SK315と同じ	E地区			S-315と同じ	
S-212		土坑(=S-316)	E地区			S-316と同じ	
SK213	S-213	小土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
SK214	S-214	小土坑	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	火箸・土師器埋納	343
SP215	S-215	ピット	H地区東(上市町東)	M48区	不明	B層上面。遺物なし。	
SP216	S-216	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
S217	S-217	浅い窪み	F地区(上市町西)	L44区	16世紀後半	B層上面。京都系土師器2期皿1点。	
SP218	S-218	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	349
S219	S-219	(=SX277)					
S220	S-220	攪乱	H地区				
SP221	S-221	ピット	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~)	—	388
SK222	S-222	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	礎廃棄	346
SK223	S-223	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	349
SP224	S-224	ピット	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP225	S-225	柱穴	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP226	S-226	柱穴	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396

第16次調査区遺構一覧表④

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP227	S-227	柱穴	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SX228	S-228	小溝	F地区(上市町西4区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	353
SX229	S-229	石列	F地区(上市町西)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	SB338に伴うか。	346
SP230	S-230	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP231	S-231	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP232	S-232	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP233	S-233	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP234	S-234	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP235	S-235	柱穴	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	342
SK236	S-236	小土坑	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	391
SP237	S-237	柱穴	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	392
S238	S-238	(不明)	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	392
SP239	S-239	ビット	H地区(上市町東)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	A層上。遺物なし。	
SP240	S-240	ビット	H地区(上市町東)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	第1焼土層より下。	
	S-241	SP414と同じ	H地区中				
SX242	S-242	埋納坑	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	土師器皿、かんざし埋納	343
	S-243	⇒SP182	G地区				
SK244	S-244	土坑	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	335
S245	S-245	浅い窪み	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	335
SP246	S-246	柱穴	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	341
SP247	S-247	柱穴	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	西1区画と西2区画の境界	342
SP248	S-248	柱穴	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	西1区画と西2区画の境界	335
SP249	S-249	柱穴	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	西1区画と西2区画の境界	342
SP250	S-250	ビット	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層上。遺物なし。	
SP-251	S-251	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP252	S-252	ビット	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層上。鉄錠1点。	
SP253	S-253	ビット	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層上。口クロ目土師1点。	
SP254	S-254	ビット	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層上。焼土充滿。	342
SP255	S-255	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	西1区画と西2区画の境界	342
	S-256	(欠番)					
SK257	S-257	廃棄土坑	H地区中(上市町東)	M46区	1596~17世紀初頭	—	395
SK258	S-258	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
SP259	S-259	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
SP260	S-260	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
SK261	S-261	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	火災処理土坑に転用	386
SK262	S-262	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
S263	S-263	(不明)	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	288
S264	S-264	(不明)	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP265	S-265	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
SP266	S-266	柱穴	H地区東(上市町東2区画)	L46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	388
SK267	S-267	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	396
SX268	S-268	焼土層の堆積	H地区東(上市町東2区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587)	第2焼土層	
SX269	S-269	焼土層の堆積	H地区東(上市町東2区画)	L46区	16世紀第4四半期(1587)	第2焼土層	392
SP270	S-270	ビット	H地区(上市町東)	L46区	1596~17世紀初頭	A層上。糸切土師環1点。	
SP271	S-271	ビット	H地区(上市町東)	L46区	1596~17世紀初頭	A層上。遺物なし。	
SP272	S-272	ビット	H地区(上市町東)	L46区	1596~17世紀初頭	A層上。青花碗1点。	
SP273	S-273	SP404の柱痕	H地区東(上市町東2区画)	L46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SK274	S-274	土坑	H地区東(上市町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	392
SX275	S-275	整地層ブロック	H地区東(上市町東1区画)	M46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	377
SX-276	S-276	攪乱	G地区				
SX277	S-277	窪み	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	378
SD278	S-278	溝(道路側溝)	A地区(御所小路町北)	J37区	16世紀第4四半期	御所小路の側溝。礫廃棄。	289
SD279	S-279	溝(道路側溝)	H地区西(上市町道路上)	LM45区	1587~1596	SF70道路第1硬化面に伴う。掘りなおしあり。	317
SP280	S-280	ビット	D地区(御所小路町北)	K41区	不明	B2層上。遺物なし。	
SP281	S-281	ビット	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀	B層上面。礫廃棄。	
SK282	S-282	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	不明	B2層上。遺物なし。	
SK283	S-283	小土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	15世紀	—	284
SK284	S-284	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	15世紀	—	284
SK285	S-285	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	15世紀	—	284
SX286	S-286	石列	F地区(上市町西2・3区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層造成時に西2区画と西3区画の段差に設置された石列。	345
SX287	S-287	床面の堆積物	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	上市町の道路に面した金属工房	334
SK288	S-288	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	15世紀	—	284
SP289	S-289	ビット	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀前半以前	遺物なし。	
	S-290	(木の根)	D地区(御所小路町北)	L41区			
SP291	S-291	柱穴	D地区(御所小路町北)	L41区	中世	遺物なし。	
SP292	S-292	柱穴	D地区(御所小路町北)	L41区	16世紀第4四半期	—	298
SP293	S-293	柱穴	G地区(上市町道路上)	L45区	1596~17世紀初頭	SB304を構成する柱穴	318
SP294	S-294	ビット	G地区(上市町西)西1区画		不明	B層上面。	
SP295	S-295	ビット	G地区(上市町西)西1区画		不明	B層上面。	
SP296	S-296	柱穴	G地区(上市町西)西1区画		不明	B層上面。	
SP297	S-297	柱穴	D地区(御所小路町北)	K41区	15~16世紀	底部に石を置く。	
SP298	S-298	柱穴	G地区(上市町道路上)	L45区	1596~17世紀初頭	SB304を構成する柱穴	318
SK299	S-299	土坑	F地区(上市町西2区画)	L43・44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	336
SK300	S-300	土坑	F地区(上市町西2区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587)	第2焼土層の火災処理土坑	342
SK301	S-301	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	礫廃棄	346

第16次調査区遺構一覧表⑤

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
S302	S-302	小ピット	G地区(上市町道路上)	L45区	1596~17世紀初頭	SF70道路第1硬化面上	317
SX303	S-303	(不明)	G地区(上市町道路上)	L45区	1596~17世紀初頭	SF70道路第1硬化面上	318
SB304	S-304	掘立柱建物	G地区(上市町道路上)	L45区	1596~17世紀初頭	SF70道路第1硬化面上	318
SP305	S-305	ピット	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀後半	B層上面。遺物なし。	
SK306	S-306	集石土坑	F地区(上市町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	339
SK307	S-307	集石土坑	F地区(上市町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	339
SK308	S-308	集石土坑	F地区(上市町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	
S309	S-309	掘り込み	F地区(上市町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	
SK310	S-310	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀後半	B層上面、糸切土師2点、京都系土師器1期1点、京都系土師器2期1点。	
SP311	S-311	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	青花水注は、7次SK114と接合	347
SX312	S-312	石列	F地区(上市町西3、4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	西3区画と西4区画の間の通路か	336
SP313	S-313	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	350
SP314	S-314	ピット	F地区(上市町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	B層上面。瓦質鉢1点。	353
SK315	S-315	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	SK211	340
SK316	S-316	廃棄土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	SK212	349
SP317	S-317	ピット	F地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀後半	B層上面。備前焼壺1点。	
SP318	S-318	柱穴	F地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	353
SP319	S-319	ピット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層中。遺物なし。	
SP320	S-320	浅い窪み	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層中。遺物なし。	
SP321	S-321	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SP322	S-322	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SP323	S-323	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SK324	S-324	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	353
SK325	S-325	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	350
SK326	S-326	小土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	SK325の一部の可能性あり。	353
SP327	S-327	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SP328	S-328	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
—	S-329	—	F地区(上市町西)	—	—	大内系土師1点	
SP330	S-330	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	SB338を構成する柱穴	
SP331	S-331	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀後半	—	
SP332	S-332	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀後半	—	
SP333	S-333	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀後半	—	
SP334	S-334	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	
SP335	S-335	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	掘立柱建物SB-338	
SP336	S-336	ピット	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀後半	遺物なし。	
SP337	S-337	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	SB338を構成する柱穴、京都系土師器2期皿埋置。	346
SB338	S-338	掘立柱建物	F地区(上市町西3区画)	L43・44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	345
SP339	S-339	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	—	336
SP340	S-340	ピット	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀後半	B-1層除去後、銭貨1点。	
SK341	S-341	土坑	E地区(上市町西)	L42区	16世紀前半以前	—	327
SK342	S-342	土坑	E地区(上市町下層)	L42区	15世紀	B-2層上面で検出した長円形の土坑。B層上面の整地の際にはすでに埋没している。在地産糸切土師破片のみが出土している。	307
SK343	S-343	土坑	E地区(上市町西)	L42区	不明	B-1層除去後、遺物なし。	
SP344	S-344	ピット	E地区(上市町西)	—	—	—	
SP345	S-345	柱穴	E地区(上市町西)	L42区	16世紀第2四半期	—	327
SP346	S-346	方形柱穴	E地区(上市町下層)	L42区	15世紀	B層2回目掘り下げ後に検出した不整形の柱穴で、柱の位置に磚を置く。出土遺物は在地産糸切土師のみで14世紀宮内系土師器破片が出土している。	308
SP347	S-347	ピット	E地区(上市町西)	L42区	中世	B-1層除去後、遺物なし。	
SP348	S-348	ピット	E地区(上市町西)	L42区	中世	B-1層除去後、糸切土師1点。	
SP349	S-349	ピット	E地区(上市町西)	L42区	中世	B-1層除去後、瓦質鉢1点。	
SP350	S-350	ピット	E地区(上市町西)	L42区	中世	A層上面。遺物なし。	
SP351	S-351	ピット	E地区(上市町西)	L42区	中世	B-1層除去後、遺物なし。	
SP352	S-352	柱穴	E地区(上市町下層)	L42区	15世紀	B層2回目掘り下げ後に検出した柱穴。SP347と同じ埋土で、掘入品の薄手白色の京都系土師器破片が出土している。	307
S353	S-353	—	E地区(上市町西)	L42区	中世	青花1点	
SP354	S-354	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	掘立柱建物SB-338	346
SP355	S-355	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	掘立柱建物SB-338	
SP356	S-356	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	掘立柱建物SB-338	
SP357	S-357	ピット	E地区(上市町西)	L42区	中世	B-1層除去後、糸切土師1点。	
SK358	S-358	土坑(=S-458)	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SK359	S-359	(欠番)	F地区				
SP360	S-360	ピット	F地区(上市町西)	—	16世紀	B層上面、京都系土師器1期1点。	
SP361	S-361	ピット	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀後半	B層上面、京都系土師器2期2点。	
SP362	S-362	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	336
SK363	S-363	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	B層上面。青花小坏1点。	336
SP364	S-364	ピット	H地区東(上市町東1区画)	M47区	—	—	
SK365	S-365	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	廃棄土坑	382
SK366	S-366	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	廃棄の一単位か。	382
SP367	S-367	ピット	H地区東(上市町東1区画)	M47区	不明	—	
SK368	S-368	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
SP369	S-369	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	
SP370	S-370	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
	S-371	整地層	H地区東		#NAME?	遺構ではない	
SP372	S-372	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SP373	S-373	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340



第16次調査区遺構一覧表⑥

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP374	S-374	ビット	G地区(上町道路上)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	第3硬化面上	
SP375	S-375	ビット	G地区(上町道路上)	L45区		第4硬化面上	
SK376	S-376	土坑	F地区(上町西)西3区画	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	350
SK377	S-377	土坑	F地区(上町西)3区画	L43区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	S462と同じ	332
SK378	S-378	土坑	E地区(上町西)4区画	L42区	16世紀第4四半期(~1587)	—	338
SP379	S-379	ビット	E地区(上町西)トレンチ	L42区	16世紀以前	—	
SD380	S-380	石組道路側溝	G地区(上町道路上)	M44・45区	16世紀第4四半期(1575~1587)	道路に面する建物への入口	317
SP381	S-381	ビット	F地区(上町西)	—	16世紀	B層1回目後。糸切土師4点、京都系土師器1期1点。	
SK382	S-382	小土坑	E地区(上町西)4区画	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	集石土坑	340
SP383	S-383	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。青花碗1点	
SP384	S-384	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。遺物なし。	
SP385	S-385	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。遺物なし。	
SP386	S-386	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。遺物なし。	
SP387	S-387	ビット	H地区(上町東)	M47区	16世紀	銭貨1点。古代土師器1点。	
SP388	S-388	ビット	H地区(上町東)	M47区	16世紀	糸切土師1点、青花碗1点。	
SP389	S-389	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。遺物なし。	
SP390	S-390	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。遺物なし。	
SP391	S-391	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。遺物なし。	
SP392	S-392	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。遺物なし。	
SP393	S-393	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。遺物なし。	
SP394	S-394	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。遺物なし。	
SP395	S-395	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。糸切土師4点。大内系土師器1点。	
SP396	S-396	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。遺物なし。	
SP397	S-397	ビット	E地区(上町西)	L42区	16世紀	B-II層上面。瓦質鍋1点。	
SK398	S-398	土坑	F地区(上町西)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	329
SK399	S-399	土坑	F地区(上町西)	L43区	16世紀第1四半期	完形土師器皿埋置	324
SK400	S-400	小土坑	F地区(上町西)	L43区	16世紀第2四半期	—	327
SP401	S-401	柱穴	H地区(上町東)東(上町東2区画)	L46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
	S-402	SK274の下部	H地区東・東2区				
	S-403	SP271の下部	H地区(上町東)東・東2区	L46区			
SP404	S-404	柱穴(=SP273)	H地区東(上町東2区画)	L46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP405	S-405	柱穴	H地区東(上町東2区画)	L46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	388
SP406	S-406	柱穴	H地区東(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	388
SP407	S-407	柱穴	H地区東(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	389
SP408	S-408	柱穴	H地区東(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	389
SP409	S-409	柱穴	H地区東(上町東2区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	389
SP410	S-410	柱穴	H地区東(上町東1区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
SK411	S-411	土坑	H地区中(東1区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
	S-412	(欠番)	H地区中・東2区				
SP413	S-413	柱穴	H地区中(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP414	S-414	柱穴(=SP241)	H地区東(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
SP415	S-415	柱穴	H地区中(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP416	S-416	柱穴	H地区中(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	389
SP417	S-417	柱穴	H地区中(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	390
SP418	S-418	柱穴	H地区中(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP419	S-419	柱穴	H地区東(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
SK420	S-420	土坑あるいは柱穴	H地区東(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
SP421	S-421	柱穴	H地区中(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP422	S-422	柱穴	H地区東(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
SK423	S-423	土坑あるいは柱穴	H地区東(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
SP424	S-424	柱穴	H地区東(上町東2区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	390
SP425	S-425	ビット	H地区中(上町東2区画)	M45区	16世紀後半	B層上面。青花碗B群1点。	
SK426	S-426	土坑	H地区西(上町東2区画)	L46・47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP427	S-427	ビット	F地区(上町西)3区画	—	不明	B層中。遺物なし。	
SP428	S-428	ビット	F地区(上町西)3区画	—	中世	B層中。糸切土師1点。	
SK429	S-429	土坑	F地区(上町西)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	330
SP430	S-430	柱穴	F地区(上町西)3区画	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	SB338を構成する柱穴	346
SX431	S-431	一時的な炉	F地区(上町西)3区画		16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	329
SP432	S-432	ビット	E地区(上町西)	L42区	中世	SK378に切られる。	
SK433	S-433	土坑	E地区(上町西)	L42区	16世紀	SK378に切られる。	
SK434	S-434	土坑	E地区(上町西)4区画	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
S435	S-435	土坑	E地区(上町西)	L42区	中世	SK434に切られる。遺物なし。	
SX436	S-436	(不明)	F地区(上町下層)	L43区	15世紀	C層上面からの不整な掘り込みである。SK389とSK400(16世紀第2四半期)に切られる。出土土師器は糸切土師のみ。	308
SD437	S-437	溝	H地区(上町東)	L45区	不明	SK236/237に切られる。	
SP438	S-438	柱穴	H地区中(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP439	S-439	柱穴	H地区東(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	391
SD440	S-440	土坑	H地区東(上町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界小溝	390
SP441	S-441	ビット	E地区(上町西)	L44区	15世紀	糸切土師1点、	
SP442	S-442	柱穴(=SP544)	F地区(上町西)3区画	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	336
SP443	S-443	ビット	F地区(上町西)	L43区	16世紀	C層上面、ロクロ目土師1点	
SP444	S-444	ビット	G地区	L44区	16世紀	B層中。	
SK445	S-445	土坑	F地区(上町西)3区画	L43区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	—	332
SP446	S-446	柱穴	F地区(上町西)3区画	L43区	16世紀第3四半期	—	332
SP447	S-447	柱穴	F地区(上町西)4区画	L43区	16世紀第4四半期(1575~2焼土層)	—	336

第16次調査区遺構一覧表⑦

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
	S-448	⇒SK71	F地区				
SP449	S-449	ピット	F地区(上市町西3区)	L43区	16世紀	C層上面、遺物なし。	
SP450	S-450	柱穴	G地区	L44区	16世紀後半	すべてB層上面の柱	
SP451	S-451	柱穴	G地区	L44区	16世紀後半	すべてB層上面の柱	
SP452	S-452	柱穴	G地区	L44区	16世紀後半	すべてB層上面の柱	
SP453	S-453	柱穴	G地区(上市町西)	L44区	16世紀後半	—	
SP454	S-454	柱穴	G地区(上市町西)	L44区	16世紀後半	—	
SP455	S-455	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L43区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	—	336
SP456	S-456	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	336
SP457	S-457	ピット	C地区(御所小路町北)	K39区	16世紀	B層上面、瓦質土器碗1点。	
	S-458	(⇒SK-358)					
SP459	S-459	ピット	B地区(御所小路町北)	J37区	不明	遺物なし。	
SP460	S-460	ピット	E地区(上市町西)	L42区	中世	A層上面。遺物なし。	
SP461	S-461	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
	S-462	(=SK377)	F地区・西3区				
	S-463	⇒SP335	F地区・西3区				
SP464	S-464	柱穴	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	384
S465	S-465	(不明)	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	384
SP466	S-466	柱穴	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	384
SP467	S-467	柱穴	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	384
SP468	S-468	柱穴	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	384
SX469	S-469	石列	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(~1587)	SK378の一部	
SP470	S-470	ピット	B地区(御所小路町北)	J37区	15世紀以前	遺物なし。	
SP471	S-471	ピット	B地区(御所小路町北)	J37区	中世	Ⅲ層上面。遺物なし。	
	S-472	攪乱	A地区(御所小路町北)				
SP473	S-473	ピット	B地区(御所小路町北)	J37区	中世	Ⅲ層上面。遺物なし。	
SP474	S-474	ピット	B地区(御所小路町北)	J37区	中世	Ⅲ層上面。遺物なし。	
SP475	S-475	ピット	B地区(御所小路町北)	J37区	中世	Ⅲ層上面。遺物なし。	
SP476	S-476	ピット	B地区(御所小路町北)	J37区	中世	Ⅲ層上面。遺物なし。	
SP477	S-477	(不明)	A地区(御所小路町北)	J35区	16世紀第4四半期	—	298
SP478	S-478	(不明)	A地区(御所小路町北)	J35区	16世紀第4四半期	—	298
SP479	S-479	ピット	A地区(御所小路町北)	J35区	中世	Ⅲ層上面。遺物なし。	
SP480	S-480	ピット	B地区(御所小路町北)	J37区	中世	Ⅲ層上面。遺物なし。	
SP481	S-481	ピット	B地区(御所小路町北)	J37区	中世	Ⅲ層上面。遺物なし。	
SP482	S-482	柱穴	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第3四半期(第3焼土層~1575)	—	375
S483	S-483	小ピット	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	384
SP484	S-484	(不明)	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	
S485	S-485	(不明)	F地区(上市町西)				
SP486	S-486	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第3四半期(第3焼土層~1575)	—	374
SP487	S-487	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第3四半期(第3焼土層~1575)	—	374
SP488	S-488	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第3四半期(第3焼土層~1575)	—	374
SP489	S-489	柱穴	H地区東(上市町東2区画)	L47区	16世紀第3四半期(第3焼土層~1575)	—	375
SP490	S-490	柱穴	H地区東(上市町東2区画)	L47区	16世紀第3四半期(第3焼土層~1575)	—	375
SP491	S-491	ピット	H地区東(上市町東2区画)	L47区	16世紀第3四半期(第3焼土層~1575)	B-1層除去後。遺物なし。	
SP492	S-492	柱穴	H地区(上市町東2区画)	M46区	1587~17世紀初頭	—	393
SP493	S-493	柱穴	H地区東(上市町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
SP494	S-494	(不明)	H地区(上市町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(~1587)	—	384
SP495	S-495	(不明)	H地区(上市町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(~1587)	—	384
SP496	S-496	(不明)	H地区(上市町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(~1587)	—	384
SP497	S-497	柱穴	H地区東(上市町東0区画)	L48区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	377
SP498	S-498	柱穴	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	C層中から検出した柱穴である。出土遺物は糸切師の破片のみが出土している。	308
SP499	S-499	ピット	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	C層中。遺物なし。	
SP500	S-500	ピット	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	C層中。土師器2点。	
SP501	S-501	ピット	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	C層上。遺物なし。	
SP502	S-502	ピット	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	C層上。遺物なし。	
SP503	S-503	ピット	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	C層上。遺物なし。	
SK504	S-504	廃棄土坑	F地区(上市町西3区画)	L44区	16世紀第3四半期(3焼土層~)	—	331
SP505	S-505	ピット	H地区(上市町東1区画)	L46区	16世紀	B-1層除去後。遺物なし。	
SP506	S-506	ピット	H地区(上市町東)	L46区	16世紀後半	B層上面	
SP507	S-507	ピット	H地区(上市町東)	L46区	16世紀後半	B層上面	
SP508	S-508	柱穴	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	384
SK509	S-509	小土坑	F地区(上市町西)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	329
SK510	S-510	廃棄土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第3四半期(3焼土層~1975)	下層土師器埋置上層礫集中。上層遺物は第4四半期。	332
SP511	S-511	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
SP512	S-512	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
SP513	S-513	柱穴	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	384
S514	S-514	礫集中分布	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	SK534の一部	
SK515	S-515	土坑	F地区(上市町西)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	330
SK516	S-516	小土坑	F地区(上市町西)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	329
SX517	S-517	浅い窪み	F地区(上市町西)	L44区	16世紀第2四半期	—	
SK518	S-518	土坑	F地区(上市町西)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	329
SK519	S-519	土坑	G地区(上市町道路上)	L45区	16世紀第3四半期(3焼土層以後)	SF70第6硬化面上で検出	316
SP520	S-520	ピット	H地区(上市町東)	M47区	16世紀	B-1層除去後。遺物なし。	383
SP521	S-521	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	1587~17世紀初頭	—	388
SP522	S-522	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383

第16次調査区遺構一覧表⑧

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP523	S-523	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
SP524	S-524	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
SK525	S-525	土坑	H地区東(上市町東0区画)	M48区	16世紀第4四半期(1587直後)	火災処理土坑	385
SK526	S-526	廃棄土坑	H地区(上市町東2区画)	M46区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	火災処理の埴土土坑	375
S527	S-527	掘りこみ	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	—	374
SP528	S-528	柱穴	H地区(上市町東)	M46区	16世紀	B-1層除去後。遺物なし。	
SD529	S-529	溝	F地区(上市町西)	L43区	16世紀第1四半期	南北方向	322
SK530	S-530	祭祀ブロック	H地区(上市町東1区画)	L47区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	東区画造成時の地鎮遺構	372
SK531	S-531	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	—	374
SP532	S-532	ビット	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第III四半期	道路第6硬化面上	
SK533	S-533	土坑	F地区(上市町西)	L43区	16世紀第1四半期	—	324
SK534	S-534	土坑	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	土砂採取坑	307
SK535	S-535	埴石	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	SK547改修時の土坑	372
SK536	S-536	小土坑	H地区(上市町東2区画)	—	16世紀第3四半期	第3焼土層上。京都系土師器2期1点。	
SK537	S-537	小土坑	E地区(上市町下層)	L42区	15世紀	基壇4層上で検出した円形の埴土で16世紀第3四半期の土坑SK530に切られる	308
S538	S-538	(不明)	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	—	375
SP539	S-539	柱穴	F地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	西1区画と西2区画の境界	335
SP540	S-540	柱穴	F地区(上市町西)	L43区	16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	329
SP541	S-541	ビット	F地区(上市町西)	L43区	16世紀	D層上面、遺物なし。	
SP542	S-542	ビット	F地区(上市町西)	L43区	16世紀後半	D層上面、遺物なし。	
SP543	S-543	土坑?	E地区(上市町西)	L42区	16世紀	D層上面、遺物なし。	
	S-544	(=SP442)	F地区				
SP545	S-545	ビット	H地区(上市町東2区画)	—	不明	—	
S-546	S-546	ビット	H地区(上市町東1区画)	—	不明	—	
SK547	S-547	石垣	H地区東・東0区と東1区の間	M47区	16世紀第3四半期(1550~3焼土)	SD548の立ち上がりに築く、3焼土後に改修。	370
SD548	S-548	大溝	H地区(上市町東)	M46・47区	16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	370
SP549	S-549	柱穴	G地区(上市町西3区画)	L44区	16世紀第3~4四半期(3焼土層~1587)	—	332
SP550	S-550	ビット	H地区(上市町東)	M47区	16世紀後半	B層上面、遺物なし。	
SK551	S-551	小土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	京都系土師器3期の皿埋納	332
SK552	S-552	土坑	F地区(上市町下層)	L44区	15世紀	D層上面で検出された円形の土坑である。16世紀第1四半期の溝SD529に切られる。出土遺物は糸切土師のみである。	308
SK553	S-553	土坑	F地区(上市町下層)	L44区	15世紀	2つの土坑からなる	308
SP554	S-554	柱穴	H地区(上市町東)	L46区	16世紀第3四半期(3焼土層~1575)	—	376
S555	S-555	小溝	H地区(上市町東)	M47区	16世紀代	—	
SD556	S-556	溝	H地区(上市町東)	M47区	16世紀第1四半期	—	368
SK557	S-557	土坑	H地区(上市町東)	M47区	16世紀第2四半期	—	369
SD558	S-558	溝か?	H地区(上市町東)	M47区	16世紀第1四半期	—	368
SP559	S-559	ビット	H地区(上市町東)	M47区	16世紀第1四半期	第4焼土層を切る。	
SK560	S-560	土坑	H地区中(上市町東)	M46区	16世紀第1四半期	—	368
SP561	S-561	ビット	H地区(上市町東)	M46区	中世	—	
SP562	S-562	ビット	H地区(上市町東)	M46区	中世	—	
S563	S-563	—	H地区(上市町東)	M46区	中世	—	
S564	S-564	—	H地区(上市町東)	M46区	中世	—	
SD565	S-565	溝	G地区(上市町下層)	L44区	15世紀	大量の土師器一括廃棄	302
SK566	S-566	土坑	F地区(上市町西)	L43区	16世紀第1四半期	—	326
SP567	S-567	ビット	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	D層上面、	
SK568	S-568	土坑	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	切り合い最古の遺構で、出土遺物は糸切土師のみである。	308
SP569	S-569	ビット	G地区(上市町下層)	L43区	15世紀	—	
SK570	S-570	土坑	H地区東(上市町東)	M47区	16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	370
SK571	S-571	土坑	H地区東(上市町東)	M47区	16世紀第2四半期	—	369
SP572	S-572	ビット	H地区(上市町東)	—	中世	—	
SP573	S-573	ビット	G地区(上市町西)	—	中世	—	
SP574	S-574	ビット	G地区(上市町西)	—	中世	—	
SP575	S-575	ビット	G地区(上市町西)	—	中世	—	
SK576	S576	土坑	H地区西(上市町東2区画)	M45区	16世紀第3~4四半期(3焼土層~1575)	—	376
SK577	S-577	土坑	H地区西(上市町東)	L46区	16世紀第3四半期(1550~3焼土層)	—	371
SP578	S-578	ビット	H地区(上市町東)	—	中世	—	
SD579	S-579	小溝	H地区東(上市町東)	M46区	16世紀第2四半期	—	369
S580	S-580	(不明)	F地区(上市町西)	L43区	16世紀第1四半期	—	
SK581	S-581	小土坑	F地区(上市町西)	L43区	16世紀第2四半期	土師器埋納	327
	S-582	⇒SD565	G地区				
SP583	S-583	ビット	G地区(上市町下層)	L44区	15世紀?	—	
S584	S-584	不明	G地区(上市町西)	L44区	不明	—	
S585	S-585	不明	F地区(上市町西)	L43区	不明	—	
SD586	S-586	小溝	G地区(上市町下層)	L44区	15世紀?	—	
SK587	S-587	土坑	H地区(上市町東)	ML45~46区	15世紀	船底形。D層上面除去後に検出した東西に長い不整な船底型の土坑。溝SD600の埋没後に掘られている。出土遺物はロクロ目土師・京都系土師器を含まない。	308
S588	S-588	不明	G地区(上市町西)	L44区	不明	—	
S589	S-589	〃	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第3四半期	—	330
SD590	S-590	大溝	H地区(上市町東)	M45・46区	15世紀から16世紀第1四半期	南北方向	306
S591	S-591	不明	H地区(上市町東)	M46区	15世紀	—	308
S592	S-592	不明	H地区(上市町東)	ML45~46区	不明	—	
S593	S-593	(不明)	H地区(上市町東)	ML45~46区	15世紀	の基壇3層上で検出したビット。SD600を切る。糸切土師と薄手白色の大内系土師器の小片が出土している。	308

第16次調査区遺構一覧表⑨

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
S594	S-594	不明	G地区(上市町西)	L43区	不明	—	
SD595	S-595	溝	G地区(上市町下層)	L44区	15世紀	—	306
SP596	S-596	ピット	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第1四半期	道路 SF70の第14硬化面上。	312
SD597	S-597	溝	G地区(上市町下層)	L45区	15世紀	—	305
SD598	S-598	溝	G地区(上市町下層)	L45区	15世紀	—	306
SD599	S-599	溝	H地区(上市町下層)	ML45・46区	15世紀	—	305
SD600	S-600	溝	H地区(上市町下層)	ML45・46区	15世紀	—	305

# 遺物觀察表

第7次調査区観察表①(土器・陶磁器類)

挿図 No.	器 種	生産地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.	
			口径	底径	器高				
第2-4図1	古代土師器	坏	在地	(12.6)	—	—	SB305	P1026	
第2-8図1	古代土師器	坏蓋	在地	—	—	—	SB306A	P1079	
第2-8図2	古代土師器	盤	在地	(16.8)	—	1.9	SB306A	P1079掘形内	
第2-8図3	古代土師器	甌	在地	—	—	—	SB306A	P1073 甌の取手	
第2-8図4	古代土師器	製塩土器	—	—	—	—	SB306A	P1073 六連式焼塩用 胎土北九州産か	
第2-8図5	古代土師器	製塩土器	—	—	—	—	SB306A	P1073 六連式焼塩用 胎土北九州産か	
第2-8図6	古代須恵器	坏身	在地	(19.7)	—	—	SB306A	S787	
第2-8図7	古代須恵器	坏身	在地	—	—	—	SB306A	S787 ヘラ切り	
第2-8図8	古代土師器	高台付小壺	在地	7.3	6.8	6.9	SB306A	S787 高台打ち欠き	45
第2-8図9	古代土師器	皿	在地	16.5	9.1	3.0	SB306A	S787 歪みあり	45
第2-8図10	古代土師器	坏	在地	(13.2)	—	—	SB306A	S787	
第2-8図11	古代須恵器	坏蓋	在地	(14.7)	—	—	SB306A	S785下部	
第2-8図12	古代須恵器	坏蓋	在地	(17.8)	—	—	SB306A	S785下部	
第2-8図13	古代土師器	皿	在地	(16.6)	—	—	SB306A	S785下部	
第2-8図14	古代土師器	皿	在地	(15.8)	—	1.9	SB306A	S785下部	
第2-8図15	古代須恵器	甌	在地	—	—	—	SB306A	S788	
第2-10図1	古代土師器	皿	在地	—	(13.6)	—	SB306B	P1052	
第2-10図2	古代土師器	坏	在地	(18.4)	—	—	SB306B	P1078	
第2-10図3	古代土師器	小型の甌	在地	(11.2)	—	—	SB306B	P1075	
第2-10図4	古代須恵器	坏蓋	在地	(18.5)	—	—	SB306B	P1067	
第2-10図5	古代須恵器	皿	在地	(16.6)	(14.0)	—	SB306B	S808	
第2-10図6	古代土師器	坏	在地	(14.6)	7.5	3.6	SB306B	S774	
第2-10図7	古代土師器	坏	在地	(15.6)	—	—	SB306B	S774	
第2-10図8	古代土師器	坏身	在地	—	—	—	SB306B	S774	
第2-10図9	古代土師器	坏	在地	(15.6)	—	4.2	SB306B	S774	
第2-10図10	古代土師器	坏	在地	(15.6)	—	4.2	SB306B	S774	
第2-10図11	古代土師器	皿	在地	(16.0)	—	(1.8)	SB306B	S774	
第2-10図12	古代土師器	皿	在地	(18.2)	(16.0)	1.5	SB306B	S774	
第2-12図1	古代土師器	坏	在地	—	(9.2)	—	SB306C	P1043掘形内 口縁全周打ち欠き	
第2-12図2	古代土師器	甌	—	—	—	—	SB306C	P1043 企救型	
第2-12図3	古代土師器	製塩土器	—	(11.8)	—	—	SB306C	P1043 六連式焼塩用	
第2-12図4	古代土師器	坏	在地	—	—	—	SB306C	P1054	
第2-12図5	古代土師器	製塩土器	—	—	—	—	SB306C	P1054 六連式焼塩用	
第2-12図6	古代土師器	盤	在地	(26.0)	—	—	SB306C	S778掘形内	
第2-12図7	古代土師器	高台付皿	在地	—	(6.8)	—	SB306C	S778掘形内	
第2-12図8	古代土師器	皿	在地	—	—	—	SB306C	P1074柱痕内	
第2-12図9	古代土師器	坏	在地	—	—	—	SB306C	P1074柱痕内	
第2-12図10	古代土師器	坏	在地	(18.0)	—	—	SB306C	S809	
第2-12図11	古代土師器	坏蓋	在地	—	—	—	SB306C	S809	
第2-12図12	古代須恵器	坏	在地	(13.2)	(9.2)	—	SB306C	P1068	
第2-13図1	古代土師器	製塩土器	—	—	—	—	SB306周辺	S740 六連式焼塩用 胎土北九州産	
第2-13図2	古代須恵器	坏身	在地	17.9	11.8	6.4	SB306周辺	SK801	
第2-13図3	古代須恵器	坏身	在地	(14.0)	(9.0)	—	SB306周辺	SK801 ヘラ切り	
第2-13図4	古代土師器	坏	在地	—	(8.0)	—	SB306周辺	SK801	
第2-13図5	古代土師器	坏	在地	—	(7.4)	—	SB306周辺	SK801	
第2-13図6	古代土師器	坏	在地	14.2	8.0	4.1	SB306周辺	P1045 瓜斑?	
第2-13図7	古代土師器	製塩土器	—	—	—	—	SB306周辺	P1045 六連式焼塩用	
第2-13図8	古代土師器	製塩土器	—	—	—	—	SB306周辺	P1045 六連式焼塩用 被熱	
第2-13図9	古代土師器	坏	在地	—	—	—	SB306周辺	P1060	
第2-13図10	古代須恵器	甌	在地	—	—	—	SB306周辺	P1040	
第2-13図11	古代須恵器	坏蓋	在地	—	—	—	SB306周辺	SK782	
第2-13図12	古代須恵器	坏蓋	在地	—	—	—	SB306周辺	SK782	
第2-13図13	古代須恵器	坏蓋	在地	(17.9)	—	—	SB306周辺	SK782	
第2-13図14	古代須恵器	坏蓋	在地	(15.9)	—	—	SB306周辺	SK782	
第2-13図15	古代土師器	坏蓋	在地	—	—	—	SB306周辺	SK782	
第2-15図1	古代須恵器	皿	在地	14.0	—	—	SD710		
第2-15図2	古代土師器	皿	在地	(16.8)	(13.0)	2.8	SD710		
第2-15図3	古代土師器	皿	—	(16.4)	(12.0)	2.1	SD710	赤色系胎土	
第2-15図4	古代土師器	坏	在地	(15.0)	(9.2)	4.0	SD710		
第2-15図5	古代土師器	製塩土器	—	(8.4)	—	—	SD710	六連式焼塩用 内面ヒビ割れ 被熱	
第2-15図6	古代土師器	製塩土器	—	(13.2)	—	—	SD710	六連式焼塩用 被熱	
第2-15図7	古代土師器	製塩土器	—	(8.4)	—	—	SD710	六連式焼塩用	
第2-15図10	在地系土師器	小皿	在地	8.3	6.4	1.3	SD710	口縁部に打ち欠き	
第2-15図11	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD710		
第2-15図12	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD710		
第2-17図1	古代土師器	坏	—	14.2	7.5	4.1	SD710周辺	SK797	
第2-17図2	古代土師器	皿	—	(16.6)	—	—	SD710周辺	SK798	
第2-17図3	黒色土器	碗	—	(16.4)	—	—	SD710周辺	SK762 A類	
第2-17図4	黒色土器	碗	—	—	—	—	SD710周辺	SK762 A類	
第2-17図5	古代土師器	坏	在地	(11.0)	(5.0)	3.7	SD710周辺	P944	
第2-17図6	古代土師器	皿	在地	—	—	—	SD710周辺	P828	
第2-17図7	古代土師器	高台付坏身	在地	(14.0)	(9.6)	4.0	SD710周辺	P825	
第2-19図1	古代土師器	坏蓋	在地	—	—	—	SB309	P714	
第2-19図2	古代須恵器	坏蓋	在地	(14.6)	—	—	SB309	P701 外面上部に壘母「宅」	巻頭6
第2-19図3	古代土師器	坏蓋つまみ	在地	—	—	—	SB309	P701柱痕内	

第 7 次調査区観察表② (土器・陶磁器類)

押図 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-19図4	古代土師器	坏身	—	—	—	—	SB309	P701	
第2-19図5	古代須恵器	高台付盤	在地	—	(18.8)	—	SB309	P700	
第2-19図6	古代土師器	盤	在地	—	—	—	SB309	P702	
第2-19図7	古代須恵器	盤	在地	(16.1)	(14.6)	—	SB309	P698	
第2-19図8	古代土師器	坏	在地	—	—	—	SB309	P694	
第2-20図1	線釉陶器	碗	—	—	5.2	—	SB309周辺	SK536	古代 被熱
第2-20図2	古代土師器	壺	在地	—	—	—	SB309周辺	SK536	
第2-20図3	古代土師器	壺	在地	—	—	—	SB309周辺	SK562	
第2-20図4	古代須恵器	高台付大皿	在地	—	—	—	SB309周辺	SK669	
第2-26図1	陶器	槽鉢	偏前	(26.4)	—	—	SD766		
第2-26図2	瓦質土器	火鉢	—	(35.0)	—	13.0	SD766		
第2-26図3	瓦質土器	壺	—	—	—	—	SD766		
第2-26図4	瓦質土器	壺	—	—	—	—	SD766		
第2-26図5	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SD766		
第2-26図6	瓦質土器	碗	—	(10.8)	4.5	4.8	SD766	高台貼り付け 外面ヘラケズリ	
第2-26図7	在地系土師器	坏	—	(11.3)	7.5	3.4	SD766	胎土海部産	
第2-26図8	在地系土師器	坏	在地	12.7	9.5	3.6	SD766		
第2-26図9	在地系土師器	坏	在地	12.4	10.0	3.2	SD766		
第2-26図10	在地系土師器	坏	在地	12.5	9.2	3.9	SD766		
第2-26図11	在地系土師器	坏	在地	—	(7.0)	—	SD766		
第2-26図12	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	—	—	SD766		
第2-26図13	在地系土師器	坏	在地	13.0	9.5	3.1	SD766		
第2-26図14	在地系土師器	小皿	在地	(8.8)	(8.0)	2.3	SD766		
第2-26図15	口ク目土師器	皿	在地	(12.0)	(5.0)	2.1	SD766		
第2-26図16	京都系土師器	小皿	在地	—	—	—	SD766		
第2-26図17	京都系土師器	皿	在地	13.3	—	2.3	SD766	1期	
第2-26図18	土師質土器	鍋	—	—	—	—	SD766	3足 防長系 被熱?	
第2-26図19	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	SD766		
第2-26図20	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	SD766		
第2-26図21	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	SD766		
第2-26図29	古代須恵器	円面硯	在地	—	—	—	SD766	古代	45
第2-26図30	線釉陶器	皿	—	—	—	—	SD766		
第2-26図31	線釉陶器	皿	周防	—	—	—	SD766	周防産 削り出し高台?	
第2-26図32	古代須恵器	壺	在地	—	—	—	SD766		
第2-26図33	古代須恵器	壺	在地	—	—	—	SD766		
第2-26図34	古代土師器	甌	在地	—	—	—	SD766		
第2-26図35	古代土師器	碗	在地	—	(5.4)	—	SD766		
第2-26図36	古代土師器	坏	—	(16.0)	(9.0)	5.2	SD766		
第2-26図37	古代土師器	高台付皿	在地	(21.8)	(17.0)	2.1	SD766	高台貼り付け	
第2-26図39	古代土師器	坏蓋	在地	(10.4)	—	1.6	SD766		
第2-26図40	古代土師器	壺	在地	(22.8)	—	—	SD766		
第2-26図41	古代土師器	鉢	在地	—	—	—	SD766	口縁部に打ち欠き	
第2-26図42	古代土師器	製塩土器	—	(7.0)	—	—	SD766	六連式焼塩用	
第2-28図1	陶器	壺	—	(45.2)	—	—	SD775	中世	
第2-28図2	陶器	槽鉢	偏前	—	—	—	SD775	15世紀前半	
第2-28図3	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD775	一部にスス付着	
第2-28図4	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	(7.0)	3.1	SD775		
第2-28図5	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	(9.0)	3.1	SD775		
第2-28図6	在地系土師器	小皿	在地	7.2	4.6	1.2	SD775	内面に二次被熱のスス付着	
第2-28図7	在地系土師器	小皿	在地	(8.8)	4.8	2.3	SD775	15世紀	
第2-28図8	京都系土師器	小皿	—	—	—	—	SD775	搬入品	
第2-28図9	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	SD775		
第2-28図13	古代土師器	小壺	在地	(6.6)	—	—	SD775	ミニチュア土器 古墳時代	
第2-28図14	古代土師器	皿	在地	(16.4)	(14.0)	1.9	SD775		
第2-28図15	古代土師器	坏蓋	在地	—	—	—	SD775		
第2-28図16	古代土師器	甌	在地	—	—	—	SD775	甌の取手	
第2-29図1	在地系土師器	小皿	在地	8.2	6.4	1.2	SK714	14世紀	
第2-29図2	在地系土師器	小皿	在地	(9.2)	(8.0)	1.3	SK714	14世紀	
第2-30図1	在地系土師器	坏	在地	11.6	6.9	2.4	SK503	破碎 口縁部打ち欠き	
第2-31図1	古代須恵器	坏	—	—	(10.0)	—	SE800	搬入品	
第2-31図2	古代土師器	高台付坏	在地	—	(8.4)	—	SE800		
第2-33図4	古代土師器	坏蓋つまみ	在地	—	—	—	SE773		
第2-33図5	古代土師器	坏	在地	(14.2)	—	—	SE773	9世紀	
第2-33図6	古代土師器	皿	在地	(15.0)	(11.8)	—	SE773		
第2-33図7	古代土師器	甌	在地	—	—	—	SE773		
第2-36図1	五彩	碗	中国	—	—	—	SD790		
第2-36図2	焼締陶器	注口付壺	中国	(8.5)	(9.2)	—	SD790	水差し	
第2-36図3	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.3)	—	—	SD790		
第2-36図4	陶器	槽鉢	偏前	(30.6)	—	—	SD790	中世6b期 口縁部に付着物	
第2-36図5	陶器	槽鉢	偏前	—	—	—	SD790	近世1a期 斜めスリ目	
第2-36図6	陶器	碗	唐津	—	—	—	SD790	削り出し高台	
第2-36図7	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD790	菊花文	
第2-36図8	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD790		
第2-36図9	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	(7.2)	2.3	SD790		
第2-36図10	口ク目土師器	皿	在地	12.2	6.4	3.4	SD790	口縁部スス付着 灯明皿	

第7次調査区観察表③(土器・陶磁器類)

挿図 No.	器 種	生産地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.	
			口径	底径	器高				
第2-36図11	ロクロ目土師器	皿	在地	11.9	6.5	2.9	SD790	口縁部打ち欠き	
第2-36図12	ロクロ目土師器	小皿	在地	(10.0)	(7.2)	2.2	SD790	口縁部打ち欠き	
第2-36図13	ロクロ目土師器	小皿	在地	7.6	4.8	2.0	SD790	スス付箱 灯明皿	
第2-36図14	京都系土師器	皿	在地	13.4	6.6	2.4	SD790	1期	
第2-36図15	京都系土師器	皿	在地	(14.0)	—	2.2	SD790	1期 黒斑	
第2-36図16	京都系土師器	小皿	在地	(9.4)	—	2.2	SD790	1期 スス付箱	
第2-36図17	京都系土師器	小皿	在地	(9.2)	(3.8)	1.7	SD790	1期 スス付箱 灯明皿	
第2-36図18	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	—	—	SD790	2期	
第2-36図19	京都系土師器	特小型皿	在地	5.4	3.2	1.9	SD790	2期 ミニチュア土器	
第2-37図1	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	(8.6)	3.4	SA311	P1020	
第2-39図1	ロクロ目土師器	皿	在地	13.3	7.2	3.5	ST748		
第2-39図2	ロクロ目土師器	皿	在地	13.5	7.4	3.3	ST748		
第2-41図1	瓦質土器	釜	—	—	—	—	SK705		
第2-41図2	在地系土師器	坏	在地	—	—	—	SK705		
第2-41図5	古代土師器	坏	在地	15.9	9.2	3.7	SK705		
第2-41図6	古代土師器	甕	在地	—	—	—	SK705		
第2-41図7	陶器	釜	狼投	—	—	—	SK705		
第2-43図1	陶器	甕	備前	30.3	—	—	SK712	中世5期	
第2-43図2	在地系土師器	坏	在地	—	—	—	SK712		
第2-43図3	在地系土師器	坏	在地	—	—	—	SK712		
第2-43図4	ロクロ目土師器	皿	在地	13.3	7.1	3.3	SK712		
第2-43図5	ロクロ目土師器	皿	在地	(13.0)	(7.2)	3.1	SK712	わら状圧痕 外面側部から底部によごれ	
第2-43図6	ロクロ目土師器	皿	在地	(12.8)	6.5	2.8	SK712	破砕してのち廃棄	
第2-43図7	ロクロ目土師器	皿	在地	(12.6)	—	—	SK712	内面スス付箱 灯明皿	
第2-43図8	ロクロ目土師器	皿	在地	(12.6)	(6.4)	3.0	SK712	板状圧痕	
第2-43図9	ロクロ目土師器	皿	在地	(12.6)	(6.8)	3.5	SK712	内面スス付箱 灯明皿	
第2-43図10	ロクロ目土師器	皿	在地	—	6.8	—	SK712		
第2-43図11	ロクロ目土師器	皿	在地	(12.2)	(7.2)	2.6	SK712		
第2-43図12	ロクロ目土師器	皿	在地	12.4	5.9	3.2	SK712	灯明皿	
第2-43図13	ロクロ目土師器	皿	在地	12.1	6.0	2.8	SK712	板状圧痕	
第2-43図14	ロクロ目土師器	皿	在地	11.6	5.9	3.2	SK712		45
第2-43図15	ロクロ目土師器	皿	在地	11.7	6.3	2.8	SK712	口縁部打ち欠き	45
第2-43図16	ロクロ目土師器	皿	在地	(11.2)	(6.1)	2.5	SK712	板状圧痕	
第2-43図17	ロクロ目土師器	皿	在地	(11.8)	(5.4)	2.9	SK712		
第2-43図18	ロクロ目土師器	皿	在地	(11.6)	(6.0)	3.2	SK712	板状圧痕	
第2-43図19	ロクロ目土師器	皿	在地	(11.4)	(6.0)	2.9	SK712		
第2-43図20	ロクロ目土師器	皿	在地	11.0	6.2	2.7	SK712	内面スス付箱 灯明皿	
第2-43図21	ロクロ目土師器	皿	在地	11.2	6.0	2.7	SK712		
第2-43図22	ロクロ目土師器	皿	在地	10.2	6.0	2.8	SK712	板状圧痕	
第2-43図23	ロクロ目土師器	皿	在地	—	5.2	—	SK712	板状圧痕	
第2-43図24	ロクロ目土師器	皿	在地	—	6.5	—	SK712		
第2-43図25	ロクロ目土師器	皿	在地	—	5.7	—	SK712	円盤状に変形	
第2-43図26	ロクロ目土師器	皿	在地	—	5.7	—	SK712		
第2-43図27	ロクロ目土師器	皿	在地	—	(6.0)	—	SK712	板状圧痕	
第2-43図28	ロクロ目土師器	皿	在地	—	(6.4)	—	SK712	板状圧痕	
第2-43図29	ロクロ目土師器	小皿	在地	10.0	5.8	2.1	SK712	板状圧痕 黒斑 胎土大分川流域	
第2-43図30	ロクロ目土師器	小皿	在地	10.2	6.0	2.5	SK712	板状圧痕 口縁部スス付箱 灯明皿 胎土大分川流域	
第2-43図31	ロクロ目土師器	小皿	在地	9.8	5.6	2.7	SK712	板状圧痕 口唇部打ち欠き スス付箱 特殊灯明皿	
第2-43図32	ロクロ目土師器	小皿	在地	10.1	4.7	2.7	SK712	板状圧痕 スス付箱 灯明皿 口縁部 打ち欠き?	
第2-43図33	ロクロ目土師器	小皿	在地	(10.0)	—	—	SK712	スス付箱 灯明皿	
第2-43図34	ロクロ目土師器	小皿	在地	(8.0)	5.0	2.0	SK712	黒斑 被熱	
第2-43図35	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK712	中世3a期	
第2-45図1	古代須恵器	皿	在地	(14.4)	9.4	2.2	SD563	9世紀 ヘラ切り	
第2-45図2	古代土師器	製塩土器	—	(7.6)	—	—	SD563	六連式焼塩用 内外に製塩によるヒビ割れ	
第2-47図1	陶器	皿	中国	—	(7.7)	—	SE558		
第2-47図2	瓦質土器	碗	—	—	4.2	—	SE558	高台貼り付け	
第2-47図3	京都系土師器	皿	在地	13.4	—	—	SE558	1期 スス付箱?	
第2-47図4	土師質土器	燗台	在地	—	6.8	—	SE558	A1類 口縁全周打ち欠き ロクロ成形左回転	48
第2-47図5	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	SE558	被熱によるあわ状変質 硬化 外面に銅付箱	
第2-47図9	陶器	坏	瀬戸	(12.4)	—	—	SE558	古瀬戸 14世紀	
第2-48図1	陶器	播鉢	備前	—	—	—	P807	中世6b期	
第2-48図2	京都系土師器	小皿	在地	8.4	—	2.1	P807	1期	
第2-48図4	京都系土師器	皿	在地	10.6	—	2.2	P633	1期 被熱 内外面ともにスス付箱	
第2-48図5	京都系土師器	皿	在地	10.4	—	2.0	P648	1期	
第2-48図6	京都系土師器	皿	在地	8.5	—	1.8	P926	1期	
第2-51図1	陶器	天目碗	中国	—	6.9	—	SE532	胎土きめ細かい 輪染2度かけ	
第2-51図3	古代土師器	高台付坏	在地	10.2	3.4	7.5	SE532	口縁部全周に打ち欠き	
第2-52図1	京都系土師器	皿	在地	(10.2)	—	2.2	SK701	2期	
第2-53図1	華南三彩	鳥形水注	中国	—	—	—	SK552	鴨の羽根部片	
第2-53図2	華南三彩	鳥形水注	中国	—	—	—	SK552	鴨の羽根部片	
第2-53図3	京都系土師器	皿	在地	(14.0)	—	2.5	SK552	2期	
第2-54図1	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	SK524	京都系土師器2期皿の転用 内面に銅付箱	
第2-55図1	京都系土師器	特小型皿	在地	5.4	—	2.0	SK722	ミニチュア土器	
第2-55図4	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK725		
第2-55図5	ロクロ目土師器	皿	在地	(13.2)	(6.8)	2.8	SK725	16世紀前半 被熱によるスス付箱	



第7次調査区観察表④(土器・陶磁器類)

押図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第2-55図6	口ク目土師器	特小型皿	在地	(6.0)	3.0	0.9	SK725	ミニチュア土器	
第2-60図1	青磁	瓶	中国(龍泉窯)	—	—	—	SD791		
第2-60図2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	(11.6)	—	—	SD791	B-IV' 類刻 先蓮弁文	
第2-60図3	白磁	皿	中国	(13.3)	(7.5)	2.5	SD791	口縁部打ち欠き	
第2-60図4	青花	碗	中国(汝州窯)	—	4.5	—	SD791		
第2-60図5	陶器	天目碗	中国	—	—	—	SD791	軸粟2度がけ	
第2-60図6	黒釉陶器	四耳壺	中国	—	—	—	SD791		
第2-60図7	焼締陶器	鉢	中国	—	(8.1)	—	SD791		
第2-60図8	陶器	天目碗	瀬戸英濃	11.2	4.3	6.1	SD791	削り出し高台	
第2-60図9	陶器	天目碗	瀬戸英濃	12.4	4.3	7.5	SD791	削り出し高台	
第2-60図10	陶器	天目碗	瀬戸英濃	12.2	—	—	SD791		
第2-60図11	鉄釉陶器	瓶	瀬戸英濃	—	—	—	SD791		
第2-60図12	陶器	壺	常滑	—	—	—	SD791	16世紀	
第2-60図13	陶器	壺	備前	—	(8.0)	—	SD791		
第2-60図14	陶器	短頸壺	備前	(10.4)	—	—	SD791		
第2-60図15	陶器	広口壺	備前	—	—	—	SD791	貼り付け突帯	
第2-60図16	陶器	徳利	備前	(5.6)	—	—	SD791		
第2-60図17	陶器	瓶	備前	(5.6)	—	—	SD791		
第2-60図18	陶器	瓶	備前	3.3	—	—	SD791		
第2-60図19	陶器	壺	備前	—	—	—	SD791	中世5期	
第2-60図20	陶器	壺	備前	—	—	—	SD791	中世5期	
第2-60図21	陶器	壺	備前	—	—	—	SD791	中世5期	
第2-60図22	陶器	壺	備前	—	—	—	SD791	近世1期	
第2-60図23	陶器	壺	備前	—	—	—	SD791	近世1期	
第2-60図24	陶器	壺	備前	—	(32.2)	—	SD791		
第2-60図25	陶器	槽鉢	備前	(28.2)	—	—	SD791	中世6b期	
第2-60図26	陶器	槽鉢	—	(29.8)	—	—	SD791	中世6b期	
第2-60図27	陶器	槽鉢	備前	(25.6)	—	—	SD791	近世1b期	
第2-60図28	陶器	槽鉢	備前	(24.0)	—	—	SD791	中世6b期	
第2-60図29	陶器	槽鉢	—	—	13.0	—	SD791	中世6b期	
第2-60図30	陶器	槽鉢(片口)	備前	(26.2)	—	—	SD791	近世	
第2-60図31	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SD791	近世1期 斜めすり目	
第2-60図32	陶器	壺	備前	—	—	—	SD791		
第2-60図33	陶器	槽鉢	備前	—	(10.6)	—	SD791	内面摩耗 16世紀	
第2-60図34	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SD791	近世1b期 斜めすり目	
第2-60図35	陶器	槽鉢	備前	(28.2)	—	—	SD791	近世1b期 斜めすり目	
第2-60図36	陶器	槽鉢	備前	(26.2)	—	—	SD791	中世6b期	
第2-60図37	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SD791	近世1b期	
第2-60図38	陶器	槽鉢	備前	—	(13.0)	—	SD791	近世1b期 斜めすり目	
第2-60図39	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SD791	近世1b期 斜めすり目	
第2-60図40	陶器	槽鉢	備前	(33.0)	—	—	SD791	近世1b期 斜めすり目	
第2-60図41	陶器	槽鉢	備前	—	(12.8)	—	SD791	近世1b期 斜めすり目	
第2-60図42	陶器	槽鉢(片口)	備前	(29.2)	—	—	SD791	近世1a期 斜めすり目	
第2-60図43	陶器	槽鉢	備前	(11.2)	—	—	SD791	近世1b期 斜めすり目	
第2-60図44	陶器	槽鉢	備前	—	(15.0)	—	SD791	近世1b期 斜めすり目	
第2-60図45	陶器	槽鉢	備前	—	(12.0)	—	SD791	近世1b期 斜めすり目	
第2-60図46	陶器	鉢	備前	(18.2)	—	—	SD791		
第2-60図47	陶器	鉢	備前	—	—	—	SD791	茶陶	
第2-60図48	陶器	水差し	備前	(16.7)	—	—	SD791		
第2-60図49	瓦質土器	壺	—	36.0	—	—	SD791		
第2-60図50	瓦質土器	壺	—	(31.0)	—	—	SD791		
第2-60図51	瓦質土器	茶釜	—	(12.2)	—	—	SD791		
第2-60図52	瓦質土器	茶釜	—	—	—	—	SD791	突帯下にス付筋	
第2-60図53	瓦質土器	槽鉢	—	(31.4)	—	—	SD791	内側にス付筋 16世紀半ば	
第2-60図54	瓦質土器	槽鉢	—	—	—	—	SD791	防長系	
第2-60図55	瓦質土器	槽鉢	—	—	—	—	SD791	防長系 内面に黒斑	
第2-60図56	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD791	方形	
第2-60図57	瓦質土器	火鉢	—	(34.5)	—	—	SD791		
第2-60図58	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD791	方形	
第2-60図59	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD791	雷文 貼り付け突帯	
第2-60図60	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD791		
第2-60図61	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD791		
第2-60図62	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD791		
第2-60図63	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD791		
第2-60図64	瓦質土器	鉢	在地	(37.0)	—	—	SD791	河野B-3類 外面にス付筋 口縁部打ち欠きあり	
第2-60図65	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD791		
第2-60図66	瓦質土器	鉢	—	(27.6)	—	—	SD791		
第2-60図67	瓦質土器	火鉢	—	(32.2)	(25.4)	—	SD791		
第2-60図68	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SD791		
第2-60図69	瓦質土器	鍋	—	(34.6)	—	—	SD791		
第2-60図70	土師質土器	脚付鉢	—	(13.0)	—	5.5	SD791	黒斑 3足?	
第2-60図71	土師質土器	控鉢	—	(36.6)	—	—	SD791	内面にコケ付筋	
第2-60図72	在地系土師器	坏	在地	(14.2)	(8.6)	3.6	SD791	内面黒斑?	
第2-60図73	在地系土師器	坏	在地	(11.4)	6.2	3.3	SD791	胎土雲母を含むか?	
第2-60図74	在地系土師器	小皿	在地	(7.8)	(6.0)	1.3	SD791		

第 7 次調査区観察表⑤ (土器・陶磁器類)

神図 No.	器 種		生産地	法皿 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-60図75	在地系土師器	小皿	—	(8.2)	(6.0)	1.6	SD791	板状圧痕? 滑石多い 搬入品	
第2-60図76	ロクロ目土師器	小皿	在地	9.2	6.0	1.9	SD791	口縁部打ち欠き	
第2-60図77	ロクロ目土師器	皿	在地	(12.2)	6.4	2.6	SD791	板状圧痕	
第2-60図78	ロクロ目土師器	皿	在地	13.2	6.8	3.0	SD791	板状圧痕 口縁部打ち欠き?	
第2-60図79	ロクロ目土師器	皿	在地	(11.8)	6.2	3.3	SD791	板状圧痕 内面スス付着	
第2-60図80	ロクロ目土師器	小皿	在地	(8.6)	(5.2)	1.8	SD791	底部穿孔	
第2-60図81	ロクロ目土師器	小皿	在地	(8.4)	4.8	2.0	SD791	板状圧痕	
第2-60図82	ロクロ目土師器	小皿	在地	(10.0)	(5.8)	1.7	SD791	板状圧痕	
第2-60図83	京都系土師器	皿	在地	13.3	—	2.6	SD791	1期 一部黒斑?	
第2-60図84	京都系土師器	皿	在地	(11.0)	4.5	2.5	SD791	1期	
第2-60図85	京都系土師器	皿	在地	(15.8)	—	2.1	SD791	1期 黒斑?	
第2-60図86	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	—	2.4	SD791	1期 一部黒斑?	
第2-60図87	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	1.8	SD791	1期 スス付着 灯明皿 被熱剥離	
第2-60図88	京都系土師器	小皿	在地	9.1	—	2.3	SD791	1期 口縁部打ち欠き 全体的に歪みあり	
第2-60図89	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	—	SD791	1期 スス付着 灯明皿	
第2-60図90	京都系土師器	小皿	在地	(9.0)	—	2.0	SD791	1期 内外面スス付着 打ち欠きあり	
第2-60図91	京都系土師器	小皿	在地	(9.0)	—	—	SD791	1期 内面スス付着	
第2-60図92	京都系土師器	皿	在地	11.8	—	2.8	SD791	2期 口縁部に小欠損・剥離 歪みあり	
第2-60図93	京都系土師器	皿	在地	13.1	—	2.8	SD791	2期	
第2-60図94	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	—	SD791	2期	
第2-60図95	京都系土師器	小皿	在地	9.1	—	2.6	SD791	2期 口縁部に濃いスス付着 灯明皿	
第2-60図96	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SD791	2期 板状圧痕 スス付着 灯明皿	
第2-60図97	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SD791	2期 内面凹縁部あり 外面黒斑	
第2-60図98	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	(9.8)	2.5	SD791	2期 変形皿	
第2-60図99	京都系土師器	皿	在地	10.6	—	2.6	SD791	2期 一部黒斑 口縁部打ち欠き	
第2-60図100	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.6	SD791	2期 黒斑?	
第2-60図101	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.6	SD791	2期 底部黒斑?	
第2-60図102	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	2.6	SD791	2期 スス付着	
第2-60図103	京都系土師器	小皿	在地	(9.0)	—	2.3	SD791	2期 スス付着 灯明皿	
第2-60図104	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.1	SD791	2期	
第2-60図105	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	—	SD791	2期	
第2-60図106	京都系土師器	小皿	在地	(10.2)	—	2.5	SD791	2期	
第2-60図107	京都系土師器	小皿	在地	9.0	—	2.3	SD791	2期 口唇部スス付着 灯明皿	
第2-60図108	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	1.9	SD791	2期 被熱による赤変	
第2-60図109	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	2.3	SD791	2期 スス付着 灯明皿 灯明芯用打ち欠きあり	
第2-60図110	京都系土師器	小皿	在地	(9.2)	—	—	SD791	2期	
第2-60図111	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	2.1	SD791	2期	
第2-60図112	京都系土師器	皿	在地	(17.6)	—	—	SD791	3期 内外両面に部分的な黒斑 (スス?)	
第2-60図113	京都系土師器	皿	在地	(16.6)	—	—	SD791	3期 内面黒変 スス付着 剥離	
第2-60図114	京都系土師器	小皿	在地	(9.6)	—	1.7	SD791	2期	
第2-60図115	京都系土師器	皿	在地	(17.8)	—	2.8	SD791	3期	
第2-60図116	京都系土師器	皿	在地	12.6	—	2.5	SD791	3期 外面底部に黒斑	
第2-60図117	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	3.0	SD791	3期 内面ススによる黒変 被熱	
第2-60図118	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.6	SD791	3期 内面ススによる黒変	
第2-60図119	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	—	2.3	SD791	3期	
第2-60図120	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	2.4	SD791	3期 黒斑? スス付着	
第2-60図121	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	—	SD791	3期 外面スス付着 被熱による赤変	
第2-60図122	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.5	SD791	3期	
第2-60図123	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	2.8	SD791	3期	
第2-60図124	京都系土師器	皿	在地	12.2	—	2.3	SD791	3期 口唇部打ち欠き	
第2-60図125	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	2.3	SD791	3期	
第2-60図126	京都系土師器	皿	在地	(11.6)	—	2.1	SD791	3期 口縁部打ち欠き 被熱による赤変	
第2-60図127	京都系土師器	皿	在地	(11.2)	—	2.1	SD791	3期	
第2-60図128	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	—	2.1	SD791	3期 板状圧痕	
第2-60図129	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	(6.2)	2.5	SD791	3期	
第2-60図130	京都系土師器	皿	在地	11.7	6.5	3.8	SD791	3期 黒斑 内外面にスス付着 被熱	
第2-60図131	京都系土師器	皿	在地	11.2	—	3.8	SD791	3期	
第2-60図132	京都系土師器	皿	在地	(10.8)	—	—	SD791	3期	
第2-60図133	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	—	3.4	SD791	3期 スス付着 被熱	
第2-60図134	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.6	SD791	2又は3期 変形皿 故意の破砕痕あり	
第2-60図135	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	2.4	SD791	3期 口縁部スス付着 灯明皿	
第2-60図136	京都系土師器	特小型皿	在地	4.9	(3.0)	1.8	SD791	ミニチュア土器	
第2-60図137	在地系土師器	皿	在地	(12.0)	(7.6)	2.3	SD791	板状圧痕 京都系土師器を模倣	
第2-60図138	土師質土器	燗台	—	(7.5)	—	(7.0)	SD791	B類 京都系土師器と同一成形	
第2-60図158	土製品	るつぼ	在地	—	(7.0)	—	SD791	京都系土師器1期皿を転用 内面に銅付着	
第2-60図160	古代須恵器	甕	在地	—	(6.8)	—	SD791		
第2-60図161	古代土師器	坏蓋	在地	(14.8)	—	—	SD791		
第2-60図162	古代土師器	坏蓋	在地	—	—	—	SD791		
第2-60図163	古代土師器	坏蓋	在地	—	—	—	SD791		
第2-60図164	古代土師器	坏蓋	在地	(12.0)	—	2.5	SD791		
第2-60図165	古代土師器	坏蓋つまみ	在地	—	—	—	SD791		
第2-60図166	古代土師器	高台付坏	在地	(14.4)	(10.0)	3.7	SD791	内外面とも黒斑あり	
第2-60図167	古代土師器	高台付坏	在地	—	(6.0)	—	SD791		
第2-60図168	古代土師器	皿	在地	(13.4)	(10.4)	2.0	SD791		
第2-60図169	古代土師器	皿	在地	(16.2)	(12.6)	2.5	SD791		

第7次調査区観察表⑥ (土器・陶磁器類)

挿図 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-60図170	古代土師器	坏	在地	(14.0)	(10.8)	—	SD791		
第2-60図171	古代土師器	甕	在地	—	—	—	SD791	企救型 2次加熱 スス付蝕	
第2-60図172	古代土師器	甕	在地	(23.8)	—	—	SD791	企救型 被熱による赤変	
第2-60図174	古代須恵器	瓶	在地	—	—	—	SD791		
第2-60図175	陶器	広口壺	備前	—	—	—	SD791	貼り付け突帯	
第2-60図176	瓦質土器	火鉢	—	(31.6)	—	—	SD791	双頭煎手流雲文	
第2-60図177	京都系土師器	皿	在地	(11.2)	—	2.2	SD791	2期	
第2-60図178	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.8	SD791	3期	
第2-60図179	古代土師器	製塩土器	—	—	—	—	SD791	六連式焼塩用 被熱による赤変あり	
第2-62図1	青磁	瓜形掛花活け	中国 (龍泉窯)	—	—	—	SD538		46
第2-62図2	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	—	3.7	—	SD538	故意の打ち欠き 削り出し高台	
第2-62図3	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	—	5.6	—	SD538		
第2-62図4	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	—	6.0	—	SD538	C-2b 類 故意の打ち欠き	
第2-62図5	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	—	3.3	—	SD538	見込に朱書き文字「丁」	
第2-62図6	青花	壺	中国 (景德鎮窯)	—	—	—	SD538		
第2-62図7	青花	碗	中国 (景德鎮窯)	(14.1)	5.2	6.1	SD538	C 群	
第2-62図8	青花	碗	中国 (景德鎮窯)	—	5.3	—	SD538	E 群 饅頭心	
第2-62図9	青花	碗	中国 (景德鎮窯)	—	(4.0)	—	SD538	E 群 饅頭心	
第2-62図10	青花	碗	中国 (景德鎮窯)	—	—	—	SD538		
第2-62図11	青花	皿	中国 (景德鎮窯)	(15.6)	(9.0)	—	SD538	B1 群	
第2-62図12	青花	皿	中国 (景德鎮窯)	—	(4.6)	—	SD538	C 群 葎筋底	
第2-62図13	青花	皿	中国 (景德鎮窯)	—	—	—	SD538	E 群 高台内「天下太平」	
第2-62図14	黒褐釉陶器	壺	中国	(13.5)	—	—	SD538	16世紀	
第2-62図15	朝鮮王朝産陶器	碗	朝鮮	—	5.4	—	SD538	黄土色釉 被熱 井戸茶碗か	
第2-62図16	陶器	壺	備前	—	(15.2)	—	SD538		
第2-62図17	陶器	槽鉢	備前	(27.3)	(10.6)	13.4	SD538	中世6b 期	
第2-62図18	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SD538	中世6 期	
第2-62図19	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SD538	中世6 期	
第2-62図20	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SD538	中世6 期	
第2-62図21	陶器	甕	備前	(22.0)	—	—	SD538	中世6 期	
第2-62図22	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD538	雷文	
第2-62図23	瓦質土器	火鉢	—	(27.0)	—	—	SD538		
第2-62図24	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD538		
第2-62図25	瓦質土器	火鉢	—	—	(30.2)	—	SD538		
第2-62図26	瓦質土器	無類壺	—	(16.6)	—	—	SD538		
第2-62図27	在地系土師器	皿	在地	(12.4)	(6.6)	2.5	SD538	被熱による赤変	
第2-62図28	在地系土師器	皿	在地	12.8	7.9	2.8	SD538		
第2-62図29	在地系土師器	小皿	在地	(8.6)	5.6	1.8	SD538		
第2-62図30	在地系土師器	小皿	在地	(8.6)	4.8	1.9	SD538	口縁全周打ち欠き	
第2-62図31	在地系土師器	小皿	在地	(8.6)	4.7	1.9	SD538		
第2-62図32	口ク口目土師器	皿	在地	12.6	6.8	2.2	SD538	板又は草状圧痕	
第2-62図33	口ク口目土師器	皿	在地	—	6.2	—	SD538	口縁全周打ち欠き	
第2-62図34	口ク口目土師器	小皿	在地	(8.4)	(5.2)	1.9	SD538	板状圧痕 スス付蝕 灯明皿	
第2-62図35	京都系土師器	皿	在地	(12.7)	—	2.6	SD538	1期 破砕	
第2-62図36	京都系土師器	皿	在地	13.1	—	2.5	SD538	1期	
第2-62図37	京都系土師器	皿	在地	12.3	—	2.3	SD538	1期 破砕 スス付蝕 灯明皿 被熱	
第2-62図38	京都系土師器	皿	在地	(13.8)	—	—	SD538	1期	
第2-62図39	京都系土師器	皿	在地	12.9	—	2.6	SD538	1期	
第2-62図40	京都系土師器	皿	在地	(10.4)	—	2.1	SD538	1期 破砕 スス付蝕	
第2-62図41	京都系土師器	皿	在地	10.3	—	2.2	SD538	1期	
第2-62図42	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	—	SD538	2期 一部スス付蝕 被熱	
第2-62図43	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.4	SD538	2期	
第2-62図44	京都系土師器	小皿	在地	8.2	—	2.3	SD538	2期 スス付蝕 灯明皿	
第2-62図45	京都系土師器	小皿	在地	8.7	—	1.9	SD538	2期	
第2-62図46	京都系土師器	小皿	在地	8.1	—	1.9	SD538	2期 内面スス付蝕 灯明皿	
第2-62図52	土製品	るつば	—	—	—	—	SD538	銅付蝕	
第2-62図53	土製品	るつば	在地	(13.0)	—	2.1	SD538	京都系土師器 1期皿の転用 銅付蝕	
第2-62図54	土製品	るつば	在地	—	—	—	SD538	京都系土師器 1期皿の転用	
第2-62図55	土製品	るつば	在地	—	—	—	SD538	京都系土師器 2期皿の転用 黄白色の付着物	
第2-62図57	埴輪	円筒	在地	—	—	—	SD538	淡輪型	
第2-62図58	青磁	碗	中国 (越州窯)	—	(5.6)	—	SD538	9世紀	
第2-62図59	黒色土器	碗	—	—	(7.4)	—	SD538	A 類 高台貼り付け	
第2-62図60	黒色土器	碗	—	—	(11.6)	—	SD538	A 類 高台貼り付け	
第2-62図61	古代土師器	坏蓋つまみ	在地	—	—	—	SD538	9世紀 つまみ貼り付け	
第2-62図62	古代土師器	坏身	在地	(13.6)	(7.6)	4.0	SD538	9世紀 ヘラ切り	
第2-62図63	古代土師器	製塩土器	—	—	—	—	SD538	六連式焼塩用	
第2-62図64	白磁	碗	中国	(14.1)	—	—	SD538	11~12世紀	
第2-62図65	瓦質土器	火鉢	—	(19.5)	(12.0)	—	SD538	SK549	
第2-62図66	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD538	SK549 双頭煎手流雲文	
第2-62図67	京都系土師器	皿	在地	(15.6)	—	2.4	SD538	SK549 1期	
第2-62図68	磁器	皿	在地	—	8.7	—	SD538	S559 E4 群 菊花皿 被熱	
第2-62図69	褐釉陶器	壺	中国	(13.5)	—	—	SD538		
第2-62図70	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SD538	近世1期 斜めすり目	
第2-62図71	京都系土師器	皿	在地	13.0	—	2.2	SD538	1期	
第2-62図72	京都系土師器	皿	在地	12.2	—	2.2	SD538	2期 口縁部打ち欠き 破砕	

第7次調査区観察表⑦(土器・陶磁器類)

挿図 No.	器 種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-62図73	古代土師器	甕	在地	(20.2)	—	—	SD538	奈良時代 胴部剥離	
第2-64図1	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SE541掘形内		
第2-64図2	口ク口目土師器	皿	在地	(11.8)	6.4	2.3	SE541掘形内	板状圧痕	
第2-64図3	京都系土師器	皿	在地	(13.2)	—	2.5	SE541掘形内	3期	
第2-64図5	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	—	SE541井筒内	3期	
第2-64図7	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.8)	—	—	SE541中央土坑	鉄軸	
第2-64図8	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	SE541中央土坑	近世1期 斜めすり目	
第2-64図9	口ク口目土師器	皿	在地	—	5.8	—	SE541中央土坑	板状圧痕 口縁全周打ち欠き	
第2-64図10	口ク口目土師器	皿	在地	(11.0)	(5.4)	2.1	SE541中央土坑		
第2-64図11	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	2.1	SE541中央土坑	2期 口縁部打ち欠き スス付箱 灯明皿	
第2-64図12	瓦質土器	甕	—	—	—	—	SE541中央土坑		
第2-64図14	焼締陶器	鉢	中国	—	—	—	SE541	C類	
第2-64図15	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SE541		
第2-64図16	京都系土師器	皿	在地	13.2	—	2.9	SE541	3期	
第2-64図17	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SE541	4期 被熱による剥離	
第2-64図20	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	SE541	京都系土師器1期小皿転用 銅付箱	
第2-66図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	(11.1)	—	—	SK553	C-III類	
第2-66図2	青磁	皿	中国	(11.3)	—	—	SK553		
第2-66図3	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(11.8)	—	SK553	E群	
第2-66図4	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK553	2期	
第2-66図5	京都系土師器	小皿	在地	9.6	—	—	SK553	3期 スス付箱 灯明皿	
第2-66図6	在地系土師器	皿	在地	(12.4)	(7.2)	2.3	SK553	板状圧痕 京都系土師器模倣	
第2-66図7	在地系土師器	皿	在地	(11.2)	(5.8)	2.5	SK553	京都系土師器模倣	
第2-69図1	在地系土師器	皿	在地	—	—	—	SK556	金箔土師器(内面のみ)	
第2-69図2	在地系土師器	皿	在地	—	—	—	SK556	金箔土師器(全面)	
第2-69図3	白磁	小杯	中国	—	2.8	—	SK556	メンコ状 故意の打ち欠き 被熱	
第2-69図4	青磁	瓶	中国(龍泉窯)	—	—	—	SK556	蓮弁文	
第2-69図5	青花	大皿	中国(景德鎮窯)	—	(16.4)	—	SK556	E群	
第2-69図6	青花	小杯	中国	—	(2.1)	—	SK556	蒜筒底	
第2-69図7	京都系土師器	皿	在地	12.0	—	2.6	SK556	1期 破碎	
第2-69図8	京都系土師器	皿	在地	12.0	—	2.1	SK556	2期 内面スス付箱	
第2-69図9	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	2.0	SK556	2期	
第2-69図10	白磁	碗	中国	(10.6)	(5.2)	3.0	SK556	E-4群	
第2-69図11	白磁	小杯	中国	(6.4)	—	—	SK556		
第2-69図12	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	SK556		
第2-71図1	白磁	皿	中国	(12.7)	—	—	SK557(上部)	E群 菊花皿	
第2-71図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	(5.0)	—	SK557(上部)	C群	
第2-71図3	陶器	擂鉢	備前	(29.6)	(12.8)	12.8	SK557(上部)	中世6a期	
第2-71図4	陶器	擂鉢	備前	—	(12.0)	—	SK557(上部)		
第2-71図5	陶器	擂鉢(片口)	備前	—	12.4	—	SK557(上部)	近世1期 斜めすり目	
第2-71図6	瓦質土器	風炉	—	(12.4)	(6.8)	—	SK557(上部)	板状圧痕	
第2-71図7	在地系土師器	杯	在地	(12.6)	—	2.6	SK557(上部)		
第2-71図8	京都系土師器	皿	在地	(11.6)	—	2.3	SK557(上部)	2期 内外面にスス付箱 被熱 破碎	
第2-71図9	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	—	—	SK557(上部)	2期	
第2-71図10	京都系土師器	小皿	在地	(10.2)	—	—	SK557(上部)	2期	
第2-71図11	京都系土師器	小皿	在地	8.8	—	2.0	SK557(上部)	2期 2箇所スス付箱 灯明皿	
第2-71図12	土師質土器	燗台	在地	—	(6.0)	—	SK557(上部)	A2類 受け端部欠損	
第2-71図14	青磁	皿	中国(景德鎮窯)	—	5.8	—	SK557(下部)	菊花皿	
第2-71図15	青磁	盤	中国	(32.2)	—	—	SK557(下部)		
第2-71図16	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	SK557(下部)		
第2-71図17	口ク口目土師器	皿	在地	(11.0)	(6.0)	2.7	SK557(下部)		
第2-71図18	口ク口目土師器	皿	在地	12.4	6.8	2.7	SK557(下部)	板状圧痕	
第2-71図19	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.3	SK557(下部)	1期	
第2-71図20	京都系土師器	皿	在地	11.8	—	2.4	SK557(下部)	1期	
第2-71図21	京都系土師器	皿	在地	16.2	—	2.8	SK557(下部)	2期 スス付箱 被熱	
第2-71図22	在地系土師器	皿	在地	(13.8)	—	1.6	SK557(下部)	京都系土師器模倣	
第2-71図23	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(13.1)	—	—	SK557(一括)	B1群 端反り	
第2-71図24	瓦質土器	擂鉢	—	(22.6)	—	—	SK557(一括)	表面に磨打状の剥離	
第2-71図25	瓦質土器	擂鉢	—	—	—	—	SK557(一括)		
第2-71図26	瓦質土器	碗	—	—	(6.4)	—	SK557(一括)	高台貼り付け	
第2-71図27	京都系土師器	皿	在地	13.4	—	2.4	SK557(一括)	1期 被熱	
第2-71図28	京都系土師器	皿	在地	(10.8)	—	2.1	SK557(一括)	1期	
第2-72図1	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	SK542	中世6期 外面重焼痕	
第2-72図2	京都系土師器	皿	在地	(14.0)	—	—	SK542	2期	
第2-72図3	京都系土師器	皿	在地	(21.6)	—	3.0	SK542	3期	
第2-74図1	青磁	皿	中国(景德鎮窯)	—	(5.5)	—	SK511	菊花皿 釉薬薄緑色 外底白色	
第2-74図2	白磁	皿	中国	(12.4)	—	—	SK511	E-4群 菊花皿	
第2-74図3	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.2)	(3.6)	6.3	SK511		
第2-74図4	青花	碗	中国(漳州窯)	—	6.4	—	SK511	削り出し高台	
第2-74図5	陶器	広口壺	備前	—	—	—	SK511	口縁部隆帯文	
第2-74図6	京都系土師器	皿	在地	13.3	—	2.7	SK511	2期	
第2-74図7	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	—	2.7	SK511	2期	
第2-74図8	京都系土師器	皿	在地	12.0	—	2.7	SK511	2期	
第2-74図9	京都系土師器	小皿	在地	(9.6)	—	2.2	SK511	2期 内外面にスス付箱 外面剥離 被熱	
第2-74図10	京都系土師器	小皿	在地	8.9	—	2.3	SK511	2期 スス付箱 灯明皿 内面一部剥離 被熱	

第 7 次調査区観察表⑧ (土器・陶磁器類)

押図 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-76図1	苜磁	碗	中国 (龍泉窯)	(14.9)	—	—	SK571	錆運弁文 13世紀	
第2-76図2	白磁	四耳登	中国	—	—	—	SK571	14世紀 取手	
第2-76図3	苜花	碗	中国 (景德鎮窯)	(15.7)	—	—	SK571	E 群	
第2-76図4	苜花	碗	中国 (景德鎮窯)	—	4.8	—	SK571	E 群 高台内「萬福攸同」	
第2-76図5	苜花	皿	中国 (景德鎮窯)	—	(7.2)	2.6	SK571	B 1 群	
第2-76図6	苜花	皿	中国 (景德鎮窯)	11.2	3.8	3.1	SK571	C 群 蒜筒底	
第2-76図7	陶器	壺	備前	—	—	—	SK571	中世3~4期	
第2-76図8	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SK571	近世1期	
第2-76図9	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK571		
第2-76図10	土師質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK571	貼り付け突帯	
第2-76図11	口ク口目土師器	小皿	在地	(7.6)	4.4	1.8	SK571	板状圧痕	
第2-76図12	口ク口目土師器	皿	在地	—	6.6	—	SK571	外面底部へラ記号 スス付蓋 被熱 口縁全周打ち欠き	
第2-76図13	京都系土師器	皿	在地	10.5	—	1.9	SK571	1期 スス付蓋 灯明皿	46
第2-76図14	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	1.9	SK571	2期 内面被熱による黒変	
第2-76図15	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	2.4	SK571	2期 破砕	
第2-76図16	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	2.7	SK571	2期 外面スス付蓋 被熱	
第2-76図17	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	—	SK571	2期 外面被熱による黒変	
第2-76図18	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.1	SK571	2期	
第2-76図19	京都系土師器	皿	在地	12.9	—	2.6	SK571	2期 内面被熱による剥離	
第2-76図20	京都系土師器	皿	在地	13.2	—	2.6	SK571	2期	
第2-76図21	京都系土師器	小皿	在地	10.4	—	2.3	SK571	2期 外面底部中央から打撃して破砕	
第2-76図22	京都系土師器	小皿	在地	(8.2)	—	1.9	SK571	2期 内外面にスス付蓋 被熱 灯明皿	
第2-76図23	京都系土師器	皿	在地	12.5	—	2.4	SK571	3期	
第2-78図1	苜磁	碗	中国	(12.2)	—	—	SK734	B-IV類 運弁文	
第2-78図2	苜花	皿	中国 (景德鎮窯)	—	(7.2)	—	SK734	E 群 被熱	
第2-78図3	苜花	皿	中国 (景德鎮窯)	—	(7.6)	—	SK734	E 群	
第2-78図4	苜花	蓋	中国 (景德鎮窯)	(6.8)	—	—	SK734	蓋かえり	
第2-78図5	苜花	碗	中国 (漳州窯)	(33.2)	—	—	SK734		
第2-78図6	苜花	碗	中国 (漳州窯)	—	—	—	SK734		
第2-78図7	瓊南三彩	水注	中国	—	(6.0)	—	SK734		
第2-78図8	黒褐釉陶器	四耳登	中国	(38.6)	(42.4)	—	SK734		
第2-78図9	焼締陶器	鉢	中国	(30.2)	—	—	SK734		
第2-78図10	褐釉陶器	登	中国	(16.4)	—	—	SK734		
第2-78図11	褐釉陶器	登	中国	(10.3)	—	—	SK734		
第2-78図12	焼締陶器	小登	中国	(2.1)	—	—	SK734		
第2-78図13	黒褐釉陶器	四耳登	タイ	—	—	—	SK734	胎土黒色のとけた粒子多い	
第2-78図14	陶器	登	備前	(17.5)	—	—	SK734		
第2-78図15	陶器	登	備前	—	—	—	SK734		
第2-78図16	陶器	壺	備前	(39.2)	(44.7)	—	SK734		
第2-78図17	陶器	登	備前	—	14.4	—	SK734		
第2-78図18	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SK734	内面摩耗	
第2-78図19	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SK734		
第2-78図20	陶器	槽鉢	備前	(22.2)	—	—	SK734	中世6b期	
第2-78図21	陶器	槽鉢	備前	(26.2)	—	—	SK734	近世1b期 斜めすり目	
第2-78図22	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SK734	近世1b期 斜めすり目	
第2-78図23	陶器	槽鉢	備前	(29.6)	(13.0)	14.0	SK734	近世1b期 斜めすり目	
第2-78図24	陶器	徳利	備前	(4.7)	—	—	SK734		
第2-78図25	陶器	壺	備前	—	—	—	SK734	中世6期	
第2-78図26	瓦質土器	壺	—	(30.8)	—	—	SK734		
第2-78図27	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK734	双脚膝手流雲文	
第2-78図28	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK734	双脚膝手流雲文 貼り付け突帯	
第2-78図29	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK734	胎土海部産	
第2-78図30	瓦質土器	火鉢	—	(43.0)	—	—	SK734		
第2-78図31	瓦質土器	火鉢	—	(30.0)	—	—	SK734		
第2-78図32	瓦質土器	火鉢	—	(33.4)	—	—	SK734		
第2-78図33	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK734	菊花文 貼り付け突帯	
第2-78図34	瓦質土器	脚付火鉢	—	(41.2)	40.0	10.8	SK734		
第2-78図35	瓦質土器	火鉢	—	(32.0)	—	—	SK734		
第2-78図36	瓦質土器	鉢	—	(22.0)	—	—	SK734		
第2-78図37	瓦質土器	槽鉢	—	(26.8)	—	—	SK734		
第2-78図38	瓦質土器	鍋	—	(30.8)	—	—	SK734		
第2-78図39	瓦質土器	不明	—	—	5.7	—	SK734		
第2-78図40	瓦質土器	碗	—	(10.0)	—	—	SK734		
第2-78図41	瓦質土器	碗	—	—	5.3	—	SK734	高台貼り付け	
第2-78図42	口ク口目土師器	皿	在地	—	6.6	—	SK734	板状圧痕 故意の打ち欠き	
第2-78図43	京都系土師器	皿	在地	(16.7)	—	—	SK734	1期	
第2-78図44	京都系土師器	皿	在地	(14.0)	—	2.5	SK734	1期	
第2-78図45	京都系土師器	皿	在地	(11.5)	—	2.2	SK734	2期 被熱による赤変	
第2-78図46	京都系土師器	小皿	在地	(9.2)	—	2.1	SK734	2期	
第2-78図47	京都系土師器	小皿	在地	(10.4)	—	1.9	SK734	2期	
第2-78図48	京都系土師器	小皿	在地	(11.5)	—	2.2	SK734	2期 内面被熱による赤変	
第2-78図49	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	—	SK734	2期 スス付蓋 灯明皿	
第2-78図50	京都系土師器	小皿	在地	—	—	—	SK734	2期	
第2-78図51	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	—	SK734	2期 スス付蓋 灯明皿	
第2-78図52	京都系土師器	皿	在地	—	(8.6)	—	SK734	3期 被熱による赤変・剥離	

第7次調査区観察表⑨(土器・陶磁器類)

押図 No.	器 種		生産地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-78図60	古代須恵器	坏身	在地	(16.5)	11.0	5.6	SK734	8世紀末	
第2-78図61	土師器	小甕	在地	(5.2)	—	—	SK734	陶器の生地か	
第2-78図62	古代土師器	皿	在地	(16.7)	—	—	SK734		
第2-78図63	古代土師器	坏	在地	—	(7.6)	—	SK734	ヘラ切り 被熱	
第2-79図1	青花	盤	中国(漳州窯)	—	(11.6)	—	SK736		
第2-79図2	陶器	槽鉢	備前	—	(11.6)	—	SK736	近世1b期 斜めすり目	
第2-79図3	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK736	双脚麻手流盤文	
第2-80図1	陶器	甕	備前	—	—	—	SK772	14世紀	
第2-80図2	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	—	SK772	2期	
第2-81図1	陶器	天目碗	瀬戸美濃	—	—	—	SK509		
第2-81図2	陶器	甕	備前	(17.6)	—	—	SK509		
第2-81図3	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK509	スタンプ文	
第2-81図4	京都系土師器	小皿	在地	8.9	—	2.3	SK509	2期 スス付着か	
第2-83図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(14.1)	—	—	SK508	E群	
第2-83図2	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK508	菊花文	
第2-83図3	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	—	2.0	SK508	2期 内面被熱による黒変	
第2-84図1	陶器	甕	備前	—	—	—	SK720	近世1期	
第2-84図2	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK721		
第2-84図3	瓦質土器	釜	—	—	—	—	SK721		
第2-84図4	京都系土師器	皿	在地	(11.4)	—	2.4	SK539	P1009 2~3期スス付着 灯明皿	
第2-84図6	白磁	皿	中国	—	(9.8)	—	SK528	E群 菊花皿か被熱	
第2-84図7	土師質土器	釜	在地	—	—	—	SK569	内面スス付着	
第2-85図1	在地系土師器	坏	—	11.8	6.6	2.1	包含層1層	胎土海部部 撥入品	
第2-85図2	古代須恵器	高台付碗	在地	(13.5)	(9.8)	4.2	包含層1層	8世紀末 高台貼り付け	
第2-85図3	緑釉陶器	坏	—	—	(8.6)	—	包含層1層	糸切り痕	
第2-85図4	古代土師器	甕	在地	—	—	—	包含層1層	取手 豊後型	
第2-85図5	古代土師器	坏	在地	(13.4)	—	3.2	包含層1層	ヘラ切り	
第2-85図6	古代土師器	坏	在地	(14.0)	—	3.5	包含層1層	ヘラ切り	
第2-85図7	古代土師器	坏	在地	(13.4)	—	4.0	包含層1層	内部押し出し	
第2-85図8	古代土師器	皿	在地	(15.0)	—	1.7	包含層1層		
第2-85図9	白磁	皿	中国	(14.3)	—	—	包含層1層	D群 端反り?	
第2-85図10	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	包含層1層	E群 饅頭心 高台内「天下太平」	
第2-85図11	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(7.7)	—	包含層1層	E群	
第2-85図12	焼締陶器	鉢	中国	(26.4)	—	—	包含層1層	C類	
第2-85図13	朝鮮王朝産白磁	碗	朝鮮	—	4.9	—	包含層1層	削り出し高台	
第2-85図14	陶器	梅瓶	古瀬戸	(6.2)	—	—	包含層1層		
第2-85図15	瓦質土器	碗	—	—	(5.4)	—	包含層1層		
第2-85図16	在地系土師器	小皿	在地	9.3	4.8	1.8	包含層1層		
第2-85図17	京都系土師器	特小型皿	在地	(5.8)	(5.0)	1.5	包含層1層	ミニチュア土器	
第2-85図20	緑釉陶器	碗	—	—	(7.0)	—	包含層1層	古代	
第2-85図21	古代土師器	坏蓋つまみ	在地	—	—	—	包含層1層		
第2-85図22	古代土師器	坏蓋つまみ	在地	—	—	—	包含層1層		
第2-85図23	焼締陶器	小皿	中国	(8.6)	—	—	包含層1層		
第2-85図24	陶器	天目碗	瀬戸美濃	—	4.6	—	包含層1層	口縁全周打ち欠き	
第2-85図25	陶器	天目碗	瀬戸美濃	—	—	—	包含層1層		
第2-85図26	陶器	天目碗	瀬戸美濃	—	—	—	包含層1層		
第2-85図27	陶器	碗	唐津	—	—	—	包含層1層	絵唐津	
第2-85図28	京都系土師器	小皿	在地	(8.4)	—	2.0	包含層1層	2期	
第2-85図33	古代須恵器	瓶	在地	—	4.8	—	包含層1層	ヘラ切り	
第2-85図34	古代土師器	高坏	在地	17.5	12.2	13.1	E34地区	古墳前期後半 口縁部・脚部打ち欠き	
第2-85図35	青磁	碗	中国(越州窯)	—	(7.8)	—	G地区	胎土目	
第2-85図36	灰釉陶器	瓶	—	—	(4.8)	—	G地区	古代	
第2-85図37	黒色土器	碗	在地	—	(7.0)	—	F34地区	A類 ヘラ切り 高台貼り付け	
第2-85図38	黒色土器	碗	在地	—	—	—	F35地区	A類	
第2-85図39	古代土師器	皿	在地	(14.0)	—	—	F32地区	ヘラ切り 黒斑	
第2-85図40	古代土師器	坏身	在地	(15.6)	—	—	F33地区		
第2-85図41	古代土師器	坏身	在地	(13.2)	(10.0)	3.5	F33地区		
第2-85図42	古代土師器	坏身	在地	(12.8)	(7.4)	3.7	E34地区	ヘラ切り	
第2-85図43	古代土師器	坏	在地	—	(8.6)	—	F34地区	板状圧痕 ヘラ切り	
第2-85図44	古代土師器	坏	在地	(14.0)	—	—	F35地区		
第2-85図45	古代土師器	高台付皿	在地	—	(17.6)	—	F34地区	高台貼り付け	
第2-85図46	古代土師器	皿	在地	(16.0)	(12.6)	2.1	F35地区	ヘラ切り	
第2-85図47	古代土師器	坏	在地	(13.4)	(6.8)	3.7	F34地区	ヘラ切り	
第2-85図48	古代土師器	坏蓋つまみ	在地	—	—	—	E34地区		
第2-85図49	古代土師器	坏蓋	在地	(19.6)	—	2.6	F35地区	ヘラ切り	
第2-85図50	古代土師器	製塩土器	—	—	—	—	F33地区	六連式焼塩用 被熱による硬化・灰変・赤変	
第2-85図51	土師質土器	槽鉢	—	—	(13.0)	—	G地区		
第2-85図52	陶器	槽鉢	備前	(35.0)	—	—	G地区	近世1c期	
第2-85図53	瓦質土器	甕	—	—	(15.0)	—	F35地区	被熱により一部赤変	
第2-85図56	黒色土器	碗	—	—	(6.8)	—	P806	A類 高台貼り付け	
第2-85図57	黒色土器	碗	—	—	—	—	SK713	A類 高台貼り付け	
第2-85図58	古代土師器	製塩土器	—	—	—	—	SK713	六連式焼塩用 被熱による硬化・剥離	
第2-85図59	古代土師器	坏蓋つまみ	在地	—	—	—	P826		
第2-85図60	古代土師器	皿	在地	—	—	—	P895		
第2-85図61	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	S568		

第7次調査区観察表⑩（土器・陶磁器類）

押図 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺構名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-85図62	在地系土師器	小皿	在地	(8.8)	(7.4)	1.0	P891		
第2-85図63	土師質土器	火鉢	—	—	—	—	SK560	胎土海部産	
第2-85図64	古代土師器	鍋	在地	—	—	—	P1025	取手	
第2-85図67	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	P643	京都系土師器 2 期皿転用 内面銅付蝕	
第2-85図68	古代土師器	甕	—	(10.6)	—	—	SK526	企救型	
第2-85図69	甕	碗	中国 (龍泉窯)	—	(6.1)	—	S535		
第2-85図70	焼締陶器	鉢	中国	(11.0)	—	—	S550		
第2-85図71	土師質土器	燗台	在地	8.4	8.6	7.4	S504	B 類 スス付蝕 京都系土師器と同一成形	48
第2-88図1	甕	碗	中国 (龍泉窯)	—	(5.4)	—	SD192下層	鍋運弁文	
第2-88図2	甕	碗	中国 (龍泉窯)	—	(5.4)	—	SD192下層	13~14世紀	
第2-88図3	白磁	皿	中国	—	3.3	—	SD192下層	口縁全周打ち欠き	
第2-88図4	白磁	鉢	中国	(11.2)	—	—	SD192下層		
第2-88図5	陶器	甕	備前	—	—	—	SD192下層	中世1期	
第2-88図6	陶器	甕	備前	—	—	—	SD192下層	中世2期	
第2-88図7	瓦器	碗	在地	—	—	—	SD192下層	東国東型 Ⅲ期	
第2-88図8	瓦質土器	甕	在地	2.2	3.5	—	SD192下層	ミニチュア瓦器 口縁全周に小さな打ち欠き	46
第2-88図9	瓦質土器	鉢	—	(31.2)	—	—	SD192下層	搬入品	
第2-88図10	瓦質土器	槽鉢	—	—	—	—	SD192下層		
第2-88図11	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	(8.4)	2.9	SD192下層	破砕 板状圧痕	
第2-88図12	在地系土師器	坏	在地	—	(8.0)	—	SD192下層	破砕 板状圧痕	
第2-88図13	在地系土師器	坏	在地	(12.3)	9.3	2.7	SD192下層		
第2-88図14	在地系土師器	坏	在地	12.1	8.6	3.0	SD192下層	胎土海部産 板状圧痕	
第2-88図15	在地系土師器	坏	在地	12.2	9.0	3.4	SD192下層	破砕	
第2-88図16	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	8.0	2.9	SD192下層		
第2-88図17	在地系土師器	坏	在地	(13.0)	9.0	3.0	SD192下層	板状圧痕?	
第2-88図18	在地系土師器	坏	在地	—	8.1	—	SD192下層	口縁全周打ち欠き	
第2-88図19	在地系土師器	坏	在地	(13.2)	(9.8)	2.7	SD192下層		
第2-88図20	在地系土師器	坏	在地	(14.0)	(9.5)	2.9	SD192下層		
第2-88図21	在地系土師器	坏	在地	12.7	9.3	3.1	SD192下層	板状圧痕	
第2-88図22	在地系土師器	坏	在地	12.5	9.2	3.1	SD192下層	板状圧痕	
第2-88図23	在地系土師器	坏	在地	(12.8)	(7.8)	3.0	SD192下層		
第2-88図24	在地系土師器	坏	在地	(12.8)	(10.0)	3.6	SD192下層		
第2-88図25	在地系土師器	小皿	在地	8.3	6.8	1.8	SD192下層	板状圧痕	
第2-88図26	在地系土師器	小皿	在地	(8.0)	7.0	0.9	SD192下層		
第2-88図27	在地系土師器	小皿	在地	7.7	6.3	1.5	SD192下層	黒斑 スス付蝕	
第2-88図28	在地系土師器	小皿	在地	7.5	5.6	1.4	SD192下層	胎土海部産 破砕	
第2-88図29	在地系土師器	小皿	在地	(8.2)	(5.5)	2.2	SD192下層		
第2-88図30	在地系土師器	小皿	在地	7.2	5.1	2.1	SD192下層		
第2-88図32	陶器	卸皿	瀬戸美濃	—	—	—	SD192上層	中世	
第2-88図33	東播系古代須恵器	鉢	—	—	—	—	SD192上層		
第2-88図34	甕	小鉢	中国	(12.0)	—	—	SD192上層		
第2-88図35	甕	皿	中国 (龍泉窯)	—	—	—	SD192上層	稜花皿 貫入	
第2-88図36	陶器	皿	瀬戸美濃	(10.0)	—	—	SD192上層	被熱?	
第2-88図37	陶器	瓶子	瀬戸	—	10.0	—	SD192上層	古瀬戸 盃付にスス付蝕	
第2-88図38	瓦質土器	甕	—	—	—	—	SD192上層		
第2-88図39	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD192上層		
第2-88図40	瓦質土器	槽鉢	—	(22.4)	—	—	SD192上層		
第2-88図41	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SD192上層		
第2-88図42	瓦質土器	鍋	—	(30.8)	—	—	SD192上層		
第2-88図43	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SD192上層		
第2-88図44	瓦質土器	鍋	—	(31.0)	—	—	SD192上層		
第2-88図45	土師質土器	鍋	—	—	—	—	SD192上層		
第2-88図46	土師質土器	鍋	—	(34.6)	—	—	SD192上層	外面スス付蝕	
第2-88図47	在地系土師器	坏	在地	12.8	9.5	3.0	SD192上層	破砕	
第2-88図48	在地系土師器	坏	在地	(12.6)	(9.6)	3.0	SD192上層	板状圧痕	
第2-88図49	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	(8.8)	2.9	SD192上層	板状圧痕	
第2-88図50	在地系土師器	坏	在地	(13.5)	(10.2)	2.6	SD192上層	板状圧痕	
第2-88図51	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	(9.0)	3.4	SD192上層		
第2-88図53	在地系土師器	坏	在地	(12.7)	(8.4)	2.8	SD192上層		
第2-88図54	在地系土師器	坏	在地	12.3	8.6	3.5	SD192上層	板状圧痕 内面コケ付蝕	
第2-88図55	在地系土師器	坏	在地	13.1	9.0	2.9	SD192上層	板状圧痕	
第2-88図56	在地系土師器	坏	在地	(12.6)	8.5	4.0	SD192上層		
第2-88図57	在地系土師器	坏	在地	(12.6)	8.2	3.5	SD192上層	板状圧痕 破砕	
第2-88図58	在地系土師器	坏	在地	(12.6)	(8.6)	3.5	SD192上層		
第2-88図59	在地系土師器	坏	在地	—	8.2	—	SD192上層		
第2-88図60	在地系土師器	坏	在地	13.0	8.5	3.9	SD192上層	故意の破砕	
第2-88図61	在地系土師器	坏	在地	(13.3)	9.0	3.6	SD192上層	板状圧痕	
第2-88図62	在地系土師器	坏	—	(13.2)	(9.3)	3.5	SD192上層	板状圧痕 破砕 搬入品	
第2-88図63	在地系土師器	坏	在地	—	—	—	SD192上層	口縁部全周打ち欠き	
第2-88図64	在地系土師器	坏	在地	(13.0)	(9.2)	3.3	SD192上層		
第2-88図65	在地系土師器	坏	—	(11.6)	(7.0)	2.8	SD192上層	口唇部スス付蝕 灯明皿 搬入品	
第2-88図66	土師質土器	燗台	在地	—	—	—	SD192上層	底部破片	
第2-88図67	在地系土師器	小皿	在地	8.2	6.0	2.5	SD192上層		
第2-88図68	在地系土師器	小皿	在地	7.8	5.6	1.5	SD192上層		
第2-88図69	在地系土師器	小皿	在地	8.0	6.9	2.5	SD192上層		

第7次調査区観察表①(土器・陶磁器類)

挿図No.	器種		生産地	法皿(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第2-88図70	在地系土師器	小皿	在地	7.9	5.4	2.5	SD192上層		
第2-88図71	在地系土師器	小皿	—	(7.6)	(5.2)	1.8	SD192上層	搬入品	
第2-88図72	在地系土師器	小皿	在地	(7.9)	6.5	2.3	SD192上層	板状圧痕 口縁全周打ち欠き	
第2-88図73	土師質土器	燗台	—	—	6.3	—	SD192上層		
第2-88図74	京都系土師器	皿	—	—	—	—	SD192上層	礎内よりの搬入品	
第2-88図75	京都系土師器	皿	—	—	—	—	SD192上層	搬入品	
第2-88図76	京都系土師器	小皿	—	(10.6)	—	—	SD192上層	搬入品	
第2-88図77	口ノ口目土師器	皿	在地	—	(7.4)	—	SD192上層	板状圧痕 口縁全周打ち欠き	
第2-88図83	白磁	碗	中国	(13.0)	—	—	SD192	玉縁	
第2-88図84	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	SD192	底部褐色に変色(重ね焼き) 口入	
第2-88図85	瓦器	碗	—	—	—	—	SD192		
第2-88図88	青磁	碗	中国(龍泉窯)	(17.2)	—	—	SD192	SK152 B-1類 蓮弁文	
第2-88図89	青磁	香炉	中国	—	—	—	SD192	SK152 獣足台付 口入	
第2-88図90	白磁	碗	中国	(10.0)	—	—	SD192	SK152 口禿	
第2-88図91	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SD192	SK152 高台内「洪武年造」	
第2-88図92	在地系土師器	坏	在地	13.1	10.0	3.0	SD192	SK152	
第2-88図93	在地系土師器	坏	在地	13.0	9.2	3.0	SD192	SK152	
第2-88図94	在地系土師器	坏	在地	12.3	(8.5)	3.5	SD192	SK152	
第2-88図95	在地系土師器	小皿	在地	(8.0)	(5.6)	2.2	SD192	SK152 板状圧痕	
第2-88図96	在地系土師器	小皿	在地	7.8	6.8	1.2	SD192	SK152	
第2-88図97	口ノ口目土師器	小皿	在地	(9.8)	(5.6)	1.8	SD192	SK152 口唇部スス付筥 灯明皿	
第2-88図98	土製品	るつば	—	(5.6)	—	—	SD192	SK152	
第2-90図1	瓦質土器	鍋	—	(31.4)	—	—	SD295		
第2-90図2	瓦質土器	播鉢	—	—	(15.2)	—	SD295	内外面に付着物 摩耗痕	
第2-90図3	在地系土師器	坏	在地	12.4	9.0	3.7	SD295	内外とも部分的に灰色	
第2-90図4	在地系土師器	坏	在地	(12.0)	8.6	3.5	SD295	板状圧痕	
第2-90図5	在地系土師器	小皿	在地	—	—	—	SD295	16世紀代	
第2-92図1	陶器	瓶	瀬戸美濃	(7.5)	—	—	SD294	被熱による変色	
第2-92図2	陶器	壺	備前	—	(7.4)	—	SD294	ヘラ記号	
第2-92図3	陶器	壺	備前	—	—	—	SD294		
第2-92図4	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SD294	14世紀後半 卸し目	
第2-92図5	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SD294		
第2-92図6	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SD294		
第2-92図7	瓦質土器	釜	—	—	—	—	SD294		
第2-92図8	瓦質土器	播鉢	—	—	—	—	SD294		
第2-92図9	土師質土器	播鉢(片口)	在地	(28.2)	11.4	11.1	SD294	胎土海部産	
第2-92図10	土師質土器	鍋	—	—	—	—	SD294		
第2-92図11	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	SD294	河野A類	
第2-92図12	在地系土師器	坏	在地	(13.0)	(9.4)	4.0	SD294	外面被熱による黒変	
第2-92図13	在地系土師器	坏	在地	(13.2)	8.6	2.6	SD294	板状圧痕 破砕	
第2-92図14	在地系土師器	坏	在地	(11.8)	(8.6)	2.8	SD294		
第2-92図15	在地系土師器	坏	在地	13.0	9.0	3.6	SD294	板状圧痕	
第2-92図16	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	(9.2)	3.0	SD294		
第2-92図17	在地系土師器	坏	—	—	8.2	—	SD294	胎土海部産	
第2-92図18	在地系土師器	坏	在地	(13.0)	(8.4)	3.6	SD294		
第2-92図19	在地系土師器	坏	在地	(12.6)	(8.0)	2.9	SD294		
第2-92図20	在地系土師器	小皿	在地	(10.2)	(8.8)	1.5	SD294		
第2-92図21	在地系土師器	小皿	在地	(8.2)	(7.8)	1.3	SD294		
第2-92図22	在地系土師器	小皿	在地	—	—	—	SD294		
第2-92図23	在地系土師器	小皿	在地	—	—	—	SD294		
第2-92図24	在地系土師器	小皿	在地	—	—	—	SD294		
第2-92図25	在地系土師器	小皿	在地	(7.0)	5.0	2.6	SD294		
第2-92図30	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SD294土坑1	中世3b期	
第2-92図31	瓦質土器	播鉢	—	(22.4)	—	—	SD294土坑1		
第2-92図32	瓦質土器	播鉢	—	—	—	—	SD294土坑1		
第2-92図33	在地系土師器	坏	在地	(15.0)	(9.8)	4.1	SD294土坑1		
第2-92図34	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	(10.6)	3.7	SD294土坑1		
第2-92図35	在地系土師器	坏	在地	(13.5)	(8.6)	2.9	SD294土坑2		
第2-92図36	在地系土師器	小皿	在地	(6.8)	(5.4)	1.3	SD294土坑2		
第2-94図1	瓦質土器	釜	—	—	—	—	SF293	口縁貼り付け	
第2-94図2	在地系土師器	小皿	在地	(6.8)	5.2	2.0	SF293		
第2-94図3	陶器	天目碗	中国	(11.8)	—	—	SF293		
第2-97図1	焼締陶器	鉢	中国	(28.4)	(15.2)	—	S149	B類 口縁部折り返し	46
第2-97図2	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	S149	河野B-2類	
第2-97図3	在地系土師器	坏	在地	(11.6)	(7.3)	2.7	S149		
第2-97図4	在地系土師器	小皿	在地	(8.0)	(6.6)	1.3	S149	板状圧痕	
第2-99図2	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK189		
第2-99図3	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	(7.8)	3.5	SK189		
第2-99図4	白磁	瓶	中国	(12.2)	—	—	S271	玉縁	
第2-99図5	在地系土師器	小皿	在地	(7.4)	(5.6)	1.4	S270	灯明皿 スス付筥	
第2-99図6	白磁	合子	中国	—	—	—	P184		
第2-99図7	在地系土師器	坏	在地	—	(9.0)	—	P219	板状圧痕 口縁全周打ち欠き	
第2-99図8	在地系土師器	坏	在地	—	6.2	—	P236	板状圧痕 口縁全周打ち欠き	
第2-99図9	在地系土師器	坏	在地	11.6	8.4	2.8	P277	板状圧痕	
第2-104図1	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SR183	菊花文	



第7次調査区観察表⑫(土器・陶磁器類)

標図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第2-104図3	陶器	盤	中国(磁甕窯)	-	-	-	SR183	口縁一部露胎 口縁部付着物あり	
第2-104図4	青磁	盤	中国(龍泉窯)	-	-	-	SR183		
第2-104図6	口クロ目土師器	皿	在地	(11.2)	(7.4)	2.9	SR183	板状圧痕	
第2-107図1	陶器	撥鉢	備前	-	-	-	SK187	中世2~3期	
第2-107図2	在地系土師器	小皿	在地	(8.2)	(7.0)	1.2	SK187		
第2-109図1	白磁	皿	中国	-	(5.0)	-	SK9		
第2-109図2	青釉陶器	小皿	中国	-	-	-	SK9	菊花皿 翡翠釉	
第2-109図3	瓦質土器	茶釜	-	(14.2)	-	-	SK9		
第2-109図4	瓦質土器	鍋	-	-	-	-	SK9		
第2-109図5	口クロ目土師器	小皿	在地	(9.4)	(5.8)	2.0	SK9	被熱による赤変	
第2-109図6	口クロ目土師器	小皿	在地	-	5.4	-	SK9	板状圧痕 口縁全周打ち欠き	
第2-109図7	口クロ目土師器	小皿	在地	(8.8)	(5.0)	1.7	SK9	板状圧痕	
第2-109図8	口クロ目土師器	小皿	在地	9.9	5.8	2.1	SK9	板状圧痕	
第2-109図9	口クロ目土師器	小皿	在地	(8.8)	(5.6)	2.1	SK9		
第2-109図10	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SK9	1期被熱による剥離	
第2-110図1	口クロ目土師器	皿	在地	12.0	6.5	2.5	SK172	板状圧痕	
第2-110図2	口クロ目土師器	皿	在地	(12.0)	(6.2)	2.4	SK172	板状圧痕	
第2-110図3	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	(7.0)	-	SK172	蓮弁文 貫入	
第2-111図1	瓦質土器	茶釜	-	-	-	-	SK168		
第2-112図1	陶器	壺	備前	-	-	-	SK169	中世3~4期	
第2-112図2	陶器	撥鉢	備前	-	-	-	SK169	中世6期	
第2-113図1	土師質土器	燗台	-	-	(7.1)	-	SK159	A1類 底の方が径小さい	
第2-114図1	口クロ目土師器	皿	在地	-	6.5	-	SK144	板状圧痕 口縁全周打ち欠き	
第2-114図2	口クロ目土師器	皿	在地	11.9	6.4	2.7	SK144	板状圧痕	
第2-115図1	口クロ目土師器	小皿	在地	(9.8)	6.0	1.5	SK150		
第2-115図2	口クロ目土師器	小皿	在地	(8.2)	(4.6)	1.6	SK150	内外に黒斑	
第2-116図1	口クロ目土師器	皿	在地	11.7	6.4	2.5	SK151	板状圧痕	
第2-116図2	口クロ目土師器	皿	在地	-	7.0	-	SK151	板状圧痕 口縁全周打ち欠き	
第2-117図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK124	C群	
第2-120図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(14.2)	-	-	SX143	B1群	
第2-120図2	瓦質土器	鍋	-	-	-	-	SX143		
第2-120図3	口クロ目土師器	皿	在地	-	(6.0)	-	SX143	板状圧痕 口縁全周打ち欠き 被熱	
第2-120図4	口クロ目土師器	小皿	在地	(7.6)	(4.4)	1.5	SX143		
第2-121図1	白磁	皿	中国	(16.3)	(9.5)	2.6	SK102	E-2群 被熱	
第2-122図1	瓦質土器	足鍋	山口	-	-	-	SK134	防長系 撤入品 スス付着	
第2-123図1	陶器	壺	備前	-	-	-	SK148	中世6期	
第2-123図2	瓦質土器	鍋	在地	-	-	-	SK148	河野B-3類	
第2-123図3	在地系土師器	小皿	在地	(8.6)	(3.8)	2.0	SK148		
第2-123図4	京都系土師器	皿	在地	(10.0)	2.0	-	SK148	1期 被熱	
第2-124図1	口クロ目土師器	皿	在地	(13.0)	6.0	2.5	SK174	口縁部打ち欠き	
第2-126図1	白磁	皿	中国	-	(6.7)	-	SD111	E-2群	
第2-126図2	白磁	皿	中国	-	(8.2)	-	SD111		
第2-126図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(10.3)	-	-	SD111	E群	
第2-126図4	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(5.7)	-	SD111	B群 欠損一部が研磨か	
第2-126図5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(6.3)	-	SD111	C群	
第2-126図6	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(5.9)	-	SD111	C群	
第2-126図7	陶器	天目碗	中国	(10.9)	-	-	SD111	口縁部打ち欠き きめが細かい	
第2-126図8	朝鮮王朝産磁器	碗	朝鮮	-	(6.4)	-	SD111		
第2-126図9	陶器	壺	備前	-	(8.2)	-	SD111		
第2-126図10	瓦質土器	火鉢	-	-	-	-	SD111		
第2-126図11	瓦質土器	火鉢(脚付)	-	(38.8)	(33.4)	-	SD111	3足? 菊花文 竹文	
第2-126図12	瓦質土器	碗	-	-	6.0	-	SD111	高台貼り付け	
第2-126図13	瓦質土器	碗	-	-	(6.0)	-	SD111	高台貼り付け	
第2-126図14	瓦質土器	盤	-	(28.4)	(28.2)	4.5	SD111	被熱	
第2-126図15	在地系土師器	坏	在地	13.6	8.0	2.3	SD111	胎土海部産か	
第2-126図16	口クロ目土師器	小皿	在地	7.8	4.6	1.9	SD111	口唇部スス付着 灯明皿 口縁部打ち欠き	
第2-126図17	京都系土師器	皿	在地	(17.0)	-	-	SD111	1期 黒斑	
第2-126図18	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	-	2.1	SD111	1期 黒斑 破砕	
第2-126図19	京都系土師器	皿	在地	(16.2)	-	2.2	SD111	1期	
第2-126図20	京都系土師器	皿	在地	(15.0)	-	2.5	SD111	1期	
第2-126図21	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	-	2.6	SD111	1期	
第2-126図22	京都系土師器	皿	在地	(11.6)	-	2.6	SD111	2期	
第2-126図23	京都系土師器	小皿	在地	8.2	-	1.8	SD111	2期 口縁部打ち欠き	
第2-126図24	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	-	1.9	SD111	1~2期 内面銅付着 破砕してのち廃棄(るつぽか)	
第2-126図25	在地系土師器	小皿	在地	8.9	5.3	1.9	SD111		
第2-126図26	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	(11.4)	2.5	SD111	3期	
第2-126図27	土製品	るつぽ	在地	(9.6)	-	2.1	SD111	京都系土師器1期皿の転用 内面銅付着	
第2-126図29	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	4.8	-	SD111	メンコに転用	
第2-126図30	土製品	るつぽ	在地	(11.2)	-	2.2	SD111	京都系土師器2期小皿転用 底部内面銅付着	
第2-126図31	古代須恵器	壺	-	(28.8)	-	-	SD111		
第2-126図32	古代土師器	坏蓋	在地	-	-	-	SD111		
第2-126図33	古代土師器	製塩土器	-	-	-	-	SD111	胎土海部産又は北九州産	
第2-130図1	土師質土器	鍋	在地	(32.2)	-	-	SA312	SK173 河野B-3類 外面スス付着	
第2-130図2	青磁	鉢	中国(龍泉窯)	(13.0)	-	-	SA312	P137	
第2-130図3	京都系土師器	皿	在地	11.1	-	2.5	SA312	P138 3期 内面スス付着 被熱 灯明皿	

第7次調査区観察表⑬(土器・陶磁器類)

押図 No.	器 種		生産地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-130図4	在地系土師器	坏	在地	(12.8)	—	3.6	SA312	P140	
第2-130図6	京都系土師器	小皿	在地	(9.0)	—	2.4	SA312	P143 1期	
第2-130図7	口ク口目土師器	皿	在地	(11.6)	6.2	2.8	SA312	P179 内外に黒斑 口縁全周打ち欠き	
第2-130図12	瓦質土器	鍋	在地	(40.2)	—	—	SA312	P198 河野B-2類	
第2-130図14	白磁	碗	中国	(15.0)	—	—	SA312	P83	
第2-131図1	青花	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	SK34	鱗蓮弁文	
第2-131図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	(4.2)	—	SK34	B群	
第2-131図3	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK34	2期 被熱による剥離・赤変	
第2-131図4	陶器	皿	—	—	(7.2)	—	SK34	古代か	
第2-132図1	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	—	—	SK34	2期	
第2-134図1	口ク口目土師器	皿	在地	—	7.2	—	SK105	布状圧痕 口縁全周打ち欠き	
第2-134図2	土師質土器	燗台	—	—	(7.8)	—	SK105	A2類 口縁全周打ち欠き	
第2-134図3	京都系土師器	皿	在地	8.2	—	2.1	SK105	2期 スス付燗	
第2-135図1	焼締陶器	鉢	中国	(25.8)	—	—	SK110		
第2-136図1	土師器	坏	—	12.8	—	2.5	SK129	京都系土師器を模倣	
第2-136図3	古代土師器	甕	在地	(16.8)	—	—	SK129	古墳時代 口縁部に黒斑 スス付燗	
第2-136図4	黒色土器	碗	—	(15.8)	—	—	SK129	A類 被熱	
第2-137図1	在地系土師器	坏	—	10.8	7.3	2.9	SK132	撤入品	
第2-137図2	在地系土師器	坏	在地	(12.8)	7.2	3.7	SK132	板状圧痕	
第2-137図3	在地系土師器	坏	—	(12.4)	7.4	2.4	SK132	撤入品 板状圧痕	
第2-139図1	京都系土師器	皿	在地	10.1	—	2.0	SK12	1期 スス付燗 灯明皿	
第2-139図2	京都系土師器	皿	在地	10.7	—	2.4	SK12	1期	
第2-139図3	京都系土師器	皿	在地	10.2	—	2.1	SK12	1期	
第2-139図4	白磁	碗	中国	(18.0)	—	—	SK12		
第2-139図5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK12	B群 波瀾文	
第2-139図6	青花	碗	中国(漳州窯)	(14.6)	—	—	SK12	景德鎮窯C群の模倣	
第2-139図7	朝鮮王朝産陶器	碗	朝鮮	—	4.0	—	SK12		
第2-139図8	陶器	甕	備前	(35.0)	—	—	SK12	中世6期	
第2-139図9	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK12	貼り付け突帯	
第2-139図10	瓦質土器	鍋	在地	(43.4)	—	—	SK12	河野B-2類 外面スス付燗	
第2-139図11	瓦質土器	鍋	—	(34.2)	—	—	SK12	河野B-2類 黒斑スス付燗	
第2-139図12	在地系土師器	坏	在地	(11.4)	(6.6)	2.5	SK12		
第2-139図13	口ク口目土師器	皿	在地	(11.6)	6.4	2.5	SK12		
第2-139図14	口ク口目土師器	特小型皿	在地	—	—	—	SK12	ミニチュア土器	
第2-139図15	土師質土器	燗台	—	—	(6.7)	—	SK12	A2類 金属「棒」を入れたものか	
第2-139図16	京都系土師器	皿	在地	(11.4)	—	—	SK12	1期	
第2-139図17	京都系土師器	皿	在地	(11.2)	—	2.0	SK12	1期 内面被熱による剥離	
第2-139図18	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	2.3	SK12	1期	
第2-139図19	京都系土師器	皿	—	(14.8)	—	2.4	SK12	1期 撤入品	
第2-139図20	京都系土師器	皿	在地	(16.6)	—	2.0	SK12	1期 口縁部打ち欠き	
第2-139図21	京都系土師器	皿	在地	(11.2)	—	2.0	SK12	1期	
第2-139図22	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	1.8	SK12	1期 外面被熱による赤変	
第2-139図23	京都系土師器	小皿	在地	(8.0)	—	1.9	SK12	1期 内外スス付燗 灯明皿	
第2-139図24	京都系土師器	皿	在地	(16.5)	—	2.0	SK12	2期 内外黒斑	
第2-139図25	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK12	3期	
第2-139図26	土師質土器	高台付鉢	—	—	(17.0)	—	SK12	高台貼り付け	
第2-140図1	京都系土師器	皿	在地	(15.6)	—	2.1	SK17	2期	
第2-142図1	口ク口目土師器	小皿	在地	(9.4)	(5.8)	1.8	SE19	内外に薄い黒斑	
第2-142図3	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	SE19		
第2-142図4	瓦質土器	茶釜	—	—	—	—	SE19	菊花文 突帯部スス付燗	
第2-142図7	白磁	碗	中国	—	—	—	SE19		
第2-142図8	朝鮮王朝産陶器	碗	朝鮮	(16.0)	—	—	SE19		
第2-142図9	瓦質土器	甕	—	—	—	—	SE19		
第2-142図10	瓦質土器	碗	—	(14.0)	—	—	SE19		
第2-142図11	在地系土師器	坏	在地	(13.0)	(9.0)	2.6	SE19	板状圧痕 被熱による赤変	
第2-142図12	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	(7.5)	2.1	SE19	京都系土師器模倣 底部内面黒変	
第2-142図13	在地系土師器	小皿	在地	(9.0)	(7.8)	1.3	SE19	板状圧痕	
第2-142図14	在地系土師器	小皿	在地	—	4.5	—	SE19	内外に黒斑 スス付燗被熱	
第2-142図15	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	—	—	SE19	1期 外面被熱による赤変	
第2-142図16	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	—	2.3	SE19	2期	
第2-142図17	京都系土師器	小皿	在地	8.4	—	1.9	SE19	1期	
第2-142図19	弥生土器	甕	在地	(14.4)	—	—	SE19	弥生後期末 安国寺式複合口縁燗	
第2-144図1	青花	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	ST135	E群 被熱	
第2-144図2	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	ST135	河野B-3類	
第2-144図3	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	ST135	河野B-2類	
第2-144図4	在地系土師器	坏	在地	(12.0)	(9.4)	2.3	ST135		
第2-144図5	在地系土師器	坏	在地	—	—	—	ST135		
第2-144図6	京都系土師器	皿	在地	(13.4)	—	—	ST135	1期	
第2-144図7	京都系土師器	皿	在地	(15.4)	—	2.3	ST135	2期 外面黒斑	
第2-144図8	京都系土師器	皿	在地	(13.2)	—	1.9	ST135	2期	
第2-144図9	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.7	ST135	2期	
第2-144図10	京都系土師器	小皿	在地	(5.2)	—	0.2	ST135		
第2-145図1	青磁	碗?	中国(龍泉窯)	—	5.5	—	SX350		
第2-145図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.2)	—	—	SK147	C群	
第2-145図4	在地系土師器	小皿	在地	(10.1)	(5.6)	2.1	SK147	被熱	

第7次調査区観察表⑭(土器・陶磁器類)

押図 No.	器 種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備 考	図版 No.
				口徑	底徑	器高			
第2-145図5	京都系土師器	皿	在地	(16.0)	—	—	SK147	2期	
第2-145図7	土製品	るつぼ	在地	(7.0)	—	—	SK147	銅付着	
第2-145図8	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.5)	(5.5)	—	SK179		
第2-145図9	京都系土師器	皿	在地	(11.2)	—	—	SK179	1期 被熱による赤変	
第2-145図10	京都系土師器	皿	在地	10.2	—	2.2	SK179	2期	
第2-147図1	苜磁	盤	中国(龍泉窯)	(30.0)	—	—	SK11		
第2-147図2	瓦質土器	火鉢	—	(39.4)	—	—	SK11		
第2-147図3	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK11	2期	
第2-148図1	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK18	双頭藤手流盤文	
第2-149図1	口クロ目土師器	皿	在地	(11.6)	(7.4)	2.5	SK138		
第2-149図2	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK138	1期	
第2-151図1	白磁	天目碗	中国	(20.9)	—	—	SK109	桜花血	
第2-151図2	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.9)	4.8	5.7	SK109		
第2-151図3	陶器	擂鉢	備前	(29.0)	—	—	SK109	中世6a期	
第2-151図4	陶器	擂鉢	備前	(32.4)	—	—	SK109	近世1c期 斜めすり目	
第2-151図5	瓦質土器	甕	—	—	—	—	SK109	スタンプ文	
第2-151図6	瓦質土器	擂鉢	在地	(30.0)	(14.0)	12.0	SK109	河野C-1類 スス付着か	
第2-151図7	瓦質土器	鉢	—	(29.4)	—	—	SK109		
第2-151図8	土師質	鉢	在地	(41.2)	—	—	SK109	河野B類	
第2-151図9	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.1	SK109	1期	
第2-151図10	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK109	3期 被熱による赤変	
第2-151図13	古代須恵器	鉢	—	(22.9)	—	—	SK109		
第2-153図1	在地系土師器	坏	在地	12.2	7.8	3.2	SK41	故意の破砕	
第2-153図2	在地系土師器	坏	在地	12.5	8.0	3.0	SK41	故意の破砕	
第2-153図3	苜磁	水注	中国(龍泉窯)	—	—	—	SK41	注ぎ口	
第2-153図4	瓦質土器	茶釜	—	(30.4)	—	—	SK41	外面スス付着	
第2-153図5	在地系土師器	小皿	在地	—	—	—	SK41		
第2-153図6	口クロ目土師器	皿	在地	(13.2)	—	—	SK41		
第2-153図7	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK41	2期	
第2-155図1	苜磁	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	SK112	B-IV類 蓮弁文	
第2-155図2	白磁	碗	中国	—	(5.9)	—	SK112		
第2-155図3	白磁	小坏	中国	—	(2.8)	—	SK112		
第2-155図4	苜花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.3)	—	—	SK112	E群	
第2-155図5	苜花	皿	中国(景德鎮窯)	(12.6)	—	—	SK112	F群 鈔皿	
第2-155図6	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	SK112	中世6A期	
第2-155図7	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	SK112	近世1期	
第2-155図8	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	SK112	近世1a期 斜めすり目	
第2-155図9	在地系土師器	皿	在地	—	7.0	—	SK112	口縁全周打ち欠き	
第2-155図10	京都系土師器	皿	在地	(14.4)	—	—	SK112	2期 被熱による赤変	
第2-155図11	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	—	2.3	SK112	2期	
第2-155図12	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.3	SK112	3期 被熱による赤変・変形	
第2-155図13	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	—	SK112	3期	
第2-155図14	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	1.8	SK112	3期 内面スス付着 灯明皿	
第2-155図16	土製品	るつぼ	—	—	—	—	SK112	内面銅付着	
第2-155図17	土製品	るつぼ	—	—	—	—	SK112	内面銅付着	
第2-155図18	縄文土器	深鉢	在地	—	—	—	SK112	晩期 ローリングはげしい	
第2-155図19	縄文土器	浅鉢	在地	—	—	—	SK112	晩期 ローリングはげしい	
第2-155図20	古代土師器	坏	在地	—	(8.0)	—	SK112	奈良時代	
第2-155図21	緑釉陶器	不明	畿内	—	(6.1)	—	SK112	古代 畿内産	
第2-157図1	苜花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.3)	—	—	SK133	E群	
第2-157図2	在地系土師器	坏	在地	(13.6)	8.8	2.2	SK133	口縁部打ち欠き	
第2-157図3	土製品	るつぼ	—	(4.2)	—	2.1	SK133	銅付着 被熱による硬化・変質	
第2-157図4	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	SK133	京都系土師器2期皿の転用 内面銅付着	
第2-157図5	土製品	るつぼ	在地	(9.6)	—	—	SK133	京都系土師器2期皿の転用 口縁内面に灰黄色付着物	
第2-159図1	苜花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK40	C又はE群	
第2-159図2	焼締陶器	鉢	中国	(18.6)	(9.4)	—	SK40	A類 底部モミガラ痕	46
第2-159図3	陶器	短頸壺	備前	—	—	—	SK40		
第2-159図4	陶器	甕	備前	—	—	—	SK40	近世1-a期	
第2-159図5	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK40	菊花文	
第2-159図6	瓦質土器	火鉢	—	—	(35.6)	—	SK40	葛台貼り付け	
第2-159図7	在地系土師器	坏	在地	(14.4)	(8.4)	3.2	SK40	被熱	
第2-159図8	在地系土師器	坏	在地	(11.4)	(7.6)	2.7	SK40		
第2-159図9	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	7.4	3.0	SK40	内面スス付着	
第2-159図10	在地系土師器	小皿	在地	(7.8)	5.4	2.5	SK40		
第2-159図11	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	—	2.3	SK40	2期 内外スス付着 黒斑	
第2-159図12	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.2	SK40	2期 内外部分的に黒斑 被熱による赤変	
第2-159図13	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	2.1	SK40	3期	
第2-159図14	土師質土器	燗台	—	7.5	6.8	7.2	SK40	A2類 穿孔	48
第2-159図15	古代土師器	坏蓋	在地	(15.0)	—	—	SK40	奈良時代	
第2-162図1	白磁	皿	中国	—	(8.1)	—	SK104	E-1群	
第2-162図2	瓦質土器	鉢	—	(37.8)	—	—	SK104		
第2-162図3	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	—	SK104	2期	
第2-162図4	白磁	碗	中国	—	(6.3)	—	SK104		
第2-162図5	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	SK104	近世1期 斜めすり目	
第2-162図6	在地系土師器	小皿	在地	8.0	5.8	2.0	SK104	故意の破砕	

第7次調査区観察表⑮ (土器・陶磁器類)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第2-162図7	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	1.8	SK104	2期 内外に黒斑か	
第2-162図8	土師質土器	燭台	—	—	(7.8)	7.0	SK104	B類 口縁全周打ち欠き 大変皿い	
第2-162図10	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(11.5)	—	SK104	E群	
第2-164図1	青花	小坏	中国	—	—	—	SK37	16世紀後半 景德鎮窯か	
第2-164図2	白磁	皿	中国	(11.0)	(6.7)	2.1	SK37	E2-b群	
第2-164図3	白磁	皿	中国	—	(9.0)	—	SK37		
第2-164図4	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(6.4)	—	SK37	E群 高台内「富貴長命」	
第2-164図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(7.3)	—	SK37	E群	
第2-164図6	陶器	壺	備前	—	—	—	SK37	中世6b期	
第2-164図7	陶器	槽鉢	備前	(30.6)	—	—	SK37	近世1b期 斜めすり目	
第2-164図8	陶器	槽鉢	備前	(31.0)	(11.4)	11.5	SK37	近世1b期 露茎状圧痕 斜めすり目	
第2-164図9	陶器	槽鉢	備前	(29.4)	—	—	SK37	近世1b期 斜めすり目	
第2-164図10	瓦質土器	茶釜	—	—	—	—	SK37	外面スス付箱	
第2-164図11	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK37	2期	
第2-164図12	京都系土師器	小皿	在地	(8.3)	—	1.5	SK37	2期	
第2-164図13	京都系土師器	小皿	在地	(8.3)	—	2.2	SK37	2期 被熱による赤変・剥離	
第2-165図1	青花	皿	中国(漳州窯)	—	—	—	SK36	景德鎮窯F群の模倣	
第2-165図2	青花	碗	中国	—	(3.8)	—	SK36		
第2-165図3	焼締陶器	鉢	中国	—	—	—	SK36		
第2-165図4	京都系土師器	皿	在地	12.2	—	2.2	SK36	2期 内面スス付箱 打ち欠き	
第2-165図5	京都系土師器	小皿	在地	8.2	—	2.0	SK36	2期 スス付箱 灯明皿	
第2-165図6	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	SK36	京都系土師器1期皿の転用 内面銅付箱	
第2-166図1	青磁	瓶	中国(龍泉窯)	—	—	—	SX346		
第2-166図2	白磁	小坏	中国	(6.3)	—	—	SX346	見込みは蛇の目軸剥ぎ	
第2-166図3	青花	登盤	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SX346		
第2-166図4	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SX346	B1群	
第2-166図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(8.3)	—	SX346	E群	
第2-166図6	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(6.7)	—	SX346	E群	
第2-166図7	青花	皿	中国(漳州窯)	—	(5.3)	—	SX346		
第2-166図8	青花	皿	中国(漳州窯)	(10.8)	—	—	SX346		
第2-166図9	青花	皿	中国(漳州窯)	(19.3)	—	—	SX346	稜花皿	
第2-166図10	瓦質土器	碗	—	(10.6)	(4.6)	4.6	SX346	布目痕 高台貼り付け	
第2-166図11	京都系土師器	皿	在地	(13.5)	—	2.4	SX346	2期 破砕	
第2-166図12	京都系土師器	小皿	在地	(6.0)	—	1.6	SX346	2期	
第2-168図1	青磁	器台	中国(龍泉窯)	—	—	—	SK114		
第2-168図2	白磁	皿	中国	(11.5)	—	—	SK114	稜花皿	
第2-168図3	白磁	皿	中国	(13.9)	—	—	SK114	E-2群	
第2-168図4	白磁	皿	中国	(12.6)	—	—	SK114	E-2群 内外ともに蛇の目軸剥ぎか	
第2-168図5	白磁	皿	中国	(14.4)	(6.3)	3.1	SK114	E-2群	
第2-168図6	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(14.7)	—	—	SK114	E群 饅頭心	
第2-168図7	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.6)	—	—	SK114	E群 饅頭心	
第2-168図8	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	(6.2)	—	SK114	E群 饅頭心	
第2-168図9	青花	碗	中国(漳州窯)	—	—	—	SK114		
第2-168図10	青花	碗	中国(漳州窯)	—	5.5	—	SK114		
第2-168図11	青花	盤	中国(漳州窯)	(31.3)	—	—	SK114		
第2-168図12	青花	大皿	中国(漳州窯)	—	—	—	SK114		
第2-168図13	焼締陶器	壺	中国	—	(7.8)	—	SK114		
第2-168図14	焼締陶器	小壺	中国	—	(5.7)	—	SK114	茶入	
第2-168図15	焼締陶器	坏	中国	10.1	5.0	—	SK114		
第2-168図16	朝鮮王朝産陶器	舟徳利	朝鮮	—	(10.2)	—	SK114		
第2-168図17	陶器	槽鉢	備前	(34.4)	(16.6)	12.6	SK114	近世1b期 斜めすり目	
第2-168図18	陶器	槽鉢	備前	(12.6)	—	—	SK114	近世1期	
第2-168図19	陶器	槽鉢	備前	—	(8.8)	—	SK114	近世1b期	
第2-168図20	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK114		
第2-168図21	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK114	双頭麻手流雲文	
第2-168図22	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK114	雷文	
第2-168図23	瓦質土器	火鉢	—	—	(22.2)	—	SK114		
第2-168図24	瓦質土器	槽鉢	—	—	—	—	SK114		
第2-168図25	瓦質土器	槽鉢	—	—	—	—	SK114	防長系	
第2-168図26	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SK114	河野B-2類	
第2-168図27	京都系土師器	小皿	在地	(9.2)	—	1.7	SK114	1期 口縁部打ち欠き スス付箱	
第2-168図28	京都系土師器	小皿	在地	8.5	—	2.1	SK114	2期	
第2-168図29	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.2	SK114	2期 スス付箱 灯明皿	
第2-168図30	京都系土師器	小皿	在地	8.5	—	1.9	SK114	2期 内外に黒斑	
第2-168図31	京都系土師器	小皿	在地	(8.4)	—	1.9	SK114	2期	
第2-168図32	京都系土師器	小皿	在地	(10.6)	—	2.1	SK114	2期 破砕	
第2-168図33	京都系土師器	皿	在地	(11.6)	—	3.0	SK114	3期	
第2-168図34	京都系土師器	皿	在地	(11.4)	—	3.1	SK114	3期	
第2-168図35	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	—	—	SK114	3期	
第2-168図36	京都系土師器	皿	在地	(11.6)	—	2.1	SK114	3期	
第2-168図43	古代須恵器	壺	—	—	—	—	SK114		
第2-170図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	SK127	蓮弁文	
第2-170図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK127	B1群	
第2-170図3	青花	碗	中国(漳州窯)	(12.6)	—	—	SK127	貫入	
第2-170図4	焼締陶器	鉢	中国	—	(15.0)	—	SK127	B類	

第7次調査区観察表⑩(土器・陶磁器類)

挿図 No.	器 種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-170図5	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK127	中世5期	
第2-170図6	陶器	播鉢	備前	—	(10.2)	—	SK127	中世6期	
第2-170図7	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK127	中世6b期	
第2-170図8	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK127	双頭麻手流雲文 内外に黒斑	
第2-170図9	瓦質土器	火鉢	—	—	(36.2)	—	SK127	双頭麻手流雲文	
第2-170図10	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK127	雷文	
第2-170図11	京都系土師器	皿	在地	(13.4)	—	2.4	SK127	2期 内面黒斑	
第2-170図12	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	—	2.2	SK127	2期	
第2-170図13	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	—	SK127	2期	
第2-170図16	弥生土器	甕	—	—	7.6	—	SK127	前期	
第2-170図17	古代須恵器	鉢	—	—	(11.1)	—	SK127		
第2-171図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.9)	—	2.1	SK130	E群	
第2-171図2	陶器	播鉢	備前	—	(15.0)	—	SK130	近世1b期 斜めすり目	
第2-171図3	土製品	るつぼ	—	—	—	—	SK130	内面銅付着	
第2-171図4	弥生土器	甕	—	—	—	—	SK130	中期 下城式 被熱による赤変	
第2-173図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.3)	—	—	SK136	E群	
第2-173図2	青花	皿	中国(漳州窯)	(11.5)	—	—	SK136	賈入	
第2-173図3	陶器	天目碗	瀬戸英濃	(11.3)	(5.5)	—	SK136		
第2-173図4	陶器	無頸甕	備前	(22.2)	—	—	SK136		
第2-173図5	陶器	播鉢	備前	(33.0)	—	—	SK136	中世6b期	
第2-173図6	陶器	播鉢(片口)	備前	—	—	—	SK136	中世6b期	
第2-173図7	瓦質土器	火鉢	—	(30.6)	—	—	SK136	双頭麻手流雲文	
第2-173図8	瓦質土器	火鉢	—	(36.2)	—	—	SK136	双頭麻手流雲文	
第2-173図9	瓦質土器	火鉢	—	(31.2)	—	—	SK136	双頭麻手流雲文	
第2-173図10	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK136	スタンプ文	
第2-173図11	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SK136	河野B-2類	
第2-173図12	京都系土師器	皿	—	(13.0)	—	2.3	SK136	2期	
第2-173図13	京都系土師器	皿	在地	(13.4)	—	2.1	SK136	2期	
第2-173図14	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	2.5	SK136	3期	
第2-173図15	京都系土師器	小皿	在地	(4.8)	—	1.4	SK136		
第2-173図16	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	SK136	京都系土師器2期皿の転用 内面に付着物	
第2-173図17	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	SK136	京都系土師器2期皿の転用	
第2-173図18	土製品	るつぼ	—	(5.4)	—	—	SK136	口縁部銅付着	
第2-175図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	(7.7)	—	SK126	故意の打ち欠き 加工品か	
第2-175図2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	(15.0)	—	—	SK126	C-11類	
第2-175図3	白磁	皿	中国	(12.0)	(6.2)	—	SK126	E-2群	
第2-175図4	白磁	皿	中国	(13.0)	(7.1)	—	SK126	内面無釉	
第2-175図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(14.0)	(7.6)	2.9	SK126	E群	
第2-175図6	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(14.4)	—	—	SK126	E群	
第2-175図7	青花	小皿	中国(景德鎮窯)	(10.5)	—	—	SK126	B群	
第2-175図8	五彩	皿	中国	—	—	—	SK126		
第2-175図9	青花	瓶	中国(漳州窯)	—	—	—	SK126		
第2-175図10	青花	皿	中国(漳州窯)	(10.0)	(2.9)	2.4	SK126	景德鎮窯C群模倣 葎節底	
第2-175図11	青花	皿	中国(漳州窯)	—	(4.4)	—	SK126	景德鎮窯C群模倣 葎節底	
第2-175図12	朝鮮王朝産陶器	瓶	朝鮮	—	—	—	SK126		
第2-175図13	陶器	播鉢	備前	(20.8)	—	—	SK126	中世6b期	
第2-175図14	陶器	播鉢	備前	(25.6)	(14.0)	10.3	SK126	中世6b期 スス付着	
第2-175図15	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK126		
第2-175図16	瓦質土器	甕	在地	(53.2)	—	—	SK126	胎土海部産	
第2-175図17	在地系土師器	皿	在地	(12.2)	(8.4)	2.2	SK126	京都系土師器模倣	
第2-175図18	瓦質土器	火鉢	—	(30.6)	—	—	SK126	双頭麻手流雲文	
第2-175図19	瓦質土器	火鉢	—	(32.2)	—	—	SK126	雷文	
第2-175図20	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK126	雷文	
第2-175図21	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK126	雷文	
第2-175図22	瓦質土器	播鉢	—	(23.0)	—	—	SK126		
第2-175図23	瓦質土器	火鉢	—	—	(35.8)	—	SK126		
第2-175図24	在地系土師器	坏	在地	12.0	6.6	2.1	SK126		
第2-175図25	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	—	2.2	SK126	1期	
第2-175図26	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.4	SK126	2期	
第2-175図27	京都系土師器	皿	在地	(10.2)	—	2.3	SK126	2期 内外スス付着	
第2-175図28	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	—	2.2	SK126	2期	
第2-175図29	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	—	—	SK126	2期	
第2-175図30	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	1.9	SK126	2期	
第2-175図31	京都系土師器	小皿	在地	(9.2)	—	1.9	SK126	2期 故意の破砕	
第2-175図32	土製品	るつぼ	在地	(8.2)	—	2.3	SK126	京都系土師器2期小皿の転用 内面に付着物	
第2-175図33	京都系土師器	皿	在地	(10.0)	—	—	SK126	3期	
第2-175図34	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	1.9	SK126	3期	
第2-175図35	土師質土器	燗台	—	—	(7.7)	7.3	SK126	B類	
第2-175図42	土製品	るつぼ	—	(9.6)	—	—	SK126	内面銅付着	
第2-175図43	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	SK126	京都系土師器1期皿の転用 内面銅付着	
第2-175図44	土製品	るつぼ	在地	(9.0)	—	—	SK126	京都系土師器1期皿の転用	
第2-175図45	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	SK126	京都系土師器1期皿の転用 内面に付着物	
第2-175図46	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	SK126	京都系土師器1期皿の転用 内面銅付着	
第2-175図47	緑釉陶器	皿	—	—	—	—	SK126	古代	
第2-177図1	青花	鉢	中国(漳州窯)	(14.0)	—	—	SK128		

第7次調査区観察表⑰(土器・陶磁器類)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺物名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第2-177図2	瓦質土器	火鉢	—	(40.6)	—	—	SK128	内面黒斑	
第2-177図3	瓦質土器	播鉢	在地	(24.0)	—	—	SK128		
第2-177図4	瓦質土器	火鉢	—	(41.2)	—	—	SK128	高台貼り付け	
第2-177図5	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	(8.4)	2.9	SK128	打ち欠き	
第2-177図6	在地系土師器	小皿	在地	8.2	5.8	2.1	SK128	内外スス付焼 灯明皿 打ち欠き	
第2-177図7	在地系土師器	小皿	在地	9.0	5.4	1.8	SK128	板状圧痕	
第2-177図8	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	—	SK128	1期 内面スス付焼 灯明皿	
第2-177図9	京都系土師器	皿	在地	(13.2)	—	2.6	SK128	2期 被熱による赤変	
第2-177図10	京都系土師器	皿	在地	(13.4)	—	2.4	SK128	2期 破砕	
第2-177図11	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	—	SK128	2期 被熱による赤変	
第2-177図12	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	1.9	SK128	2期 内外スス付焼 灯明皿	
第2-177図13	京都系土師器	小皿	在地	9.0	—	2.1	SK128	2期 口縁部スス付焼 灯明皿 被熱による赤変	
第2-180図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	SE108	鍋蓮弁文	
第2-180図2	青磁	大皿	中国	31.0	17.3	—	SE108		
第2-180図3	青磁	碗	中国(龍泉窯)	12.8	—	—	SE108	霞文くずれ	
第2-180図4	白磁	皿	中国	—	7.3	—	SE108	E2群	
第2-180図5	白磁	小坏	中国	—	3.1	—	SE108		
第2-180図6	青花	皿	中国(景德鎮窯)	6.6	—	—	SE108	E群	
第2-180図7	五彩	碗	中国	—	—	—	SE108		
第2-180図8	陶器	天目碗	中国	10.2	—	—	SE108		
第2-180図9	瑳南三彩	合子	中国	5.8	—	1.8	SE108	蓋	
第2-180図10	陶器	壺	備前	9.2	—	—	SE108		
第2-180図11	陶器	播鉢	備前	35.6	—	—	SE108	中世6期	
第2-180図12	瓦質土器	火鉢	—	34.6	—	—	SE108	霞文	
第2-180図13	瓦質土器	火鉢	—	44.0	—	—	SE108	スタンプ文	
第2-180図14	瓦質土器	播鉢	—	27.0	10.8	8.0	SE108		
第2-180図15	口ク口目土師器	皿	在地	10.4	5.8	1.8	SE108		
第2-180図16	口ク口目土師器	小皿	在地	8.8	5.4	1.6	SE108	被熱	
第2-180図17	京都系土師器	皿	在地	15.0	—	—	SE108	3期	
第2-180図18	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SE108	るつぽか?	
第2-180図20	青磁	碗	中国(龍泉窯)	16.1	—	—	SE108井筒内	B2類 鍋蓮弁文	
第2-180図21	青磁	碗	中国(龍泉窯)	13.8	—	—	SE108井筒内		
第2-180図22	瓦質土器	火鉢	—	34.8	—	—	SE108井筒内	霞文	
第2-180図23	青花	碗	中国(景德鎮窯)	13.2	—	—	SE108井筒内	C群	
第2-180図24	瓦質土器	鍋	—	48.4	—	—	SE108井筒内		
第2-180図25	京都系土師器	皿	在地	12.6	—	—	SE108井筒内	2期	
第2-180図28	漆器	碗	—	—	7.4	—	SE108井筒内	見込みに「井」の朱文字	
第2-180図29	青磁	碗	中国	13.0	—	—	SE108	C-III類	
第2-180図30	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	5.8	—	SE108	C群 被熱?	
第2-180図31	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	5.2	—	SE108	D群	
第2-180図32	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SE108	角皿	
第2-180図33	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SE108	中世5期	
第2-182図1	青磁	壺	中国(龍泉窯)	—	7.5	—	SE331		
第2-182図2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	11.7	—	—	SE331	B-IV類 細線蓮弁文	
第2-182図3	白磁	皿	中国	—	—	—	SE331	口壳	
第2-182図4	白磁	皿	中国	13.4	—	—	SE331	E-2群 逆反り 外面にスス付焼	
第2-182図5	白磁	皿	中国	—	—	—	SE331	E-2群 端反り	
第2-182図6	白磁	皿	中国	—	6.2	—	SE331	E-2群 端反り	
第2-182図7	白磁	皿	中国	—	6.2	—	SE331		
第2-182図8	白磁	皿	中国	—	7.6	—	SE331	内面無釉	
第2-182図9	白磁	小坏	中国	7.0	—	—	SE331		
第2-182図10	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	SE331	C-III類	
第2-182図11	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.2	—	—	SE331	C群	
第2-182図12	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	5.4	—	SE331	C群	
第2-182図13	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SE331	C群	
第2-182図14	青花	皿	中国(景德鎮窯)	9.2	4.7	2.0	SE331	B1群 端反り	
第2-182図15	青花	皿	中国(景德鎮窯)	20.0	—	—	SE331	E群	
第2-182図16	黒釉陶器	不明	中国	12.4	—	—	SE331		
第2-182図17	黒釉陶器	瓶	中国	15.0	—	—	SE331		
第2-182図18	陶器	天目碗	瀬戸美濃	9.4	—	—	SE331		
第2-182図19	陶器	香炉	備前	—	4.6	—	SE331		
第2-182図20	瓦質土器	壺	—	—	—	—	SE331		
第2-182図21	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SE331	霞文	
第2-182図22	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SE331		
第2-182図23	瓦質土器	播鉢	—	26.3	—	—	SE331		
第2-182図24	瓦質土器	鉢	—	37.0	—	—	SE331		
第2-182図25	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SE331		
第2-182図26	瓦質土器	大鉢	—	—	15.8	—	SE331		
第2-182図27	在地系土師器	坏	在地	13.0	8.6	4.3	SE331		
第2-182図28	口ク口目土師器	小皿	在地	9.8	6.4	2.1	SE331	故意に破砕	
第2-182図29	京都系土師器	皿	在地	10.6	—	2.3	SE331	1期 故意に破砕	
第2-182図30	京都系土師器	皿	在地	17.0	—	2.2	SE331	2期	
第2-182図31	京都系土師器	皿	在地	11.8	—	2.6	SE331	2期	
第2-182図32	京都系土師器	大皿	在地	20.2	—	3.2	SE331	3期 灯明皿 内面にスス付焼	
第2-182図33	京都系土師器	皿	在地	10.6	—	3.2	SE331	3期 被熱による赤変と剥離	

第7次調査区観察表⑩(土器・陶磁器類)

揮図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第2-182図41	白磁	皿	中国	11.0	-	-	SE331井筒内	E-4群 菊花皿	
第2-182図42	瓦質土器	鍋	-	-	-	-	SE331井筒内		
第2-182図43	京都系土師器	皿	在地	12.6	-	2.6	SE331井筒内	3期	
第2-182図45	黒釉陶器	鉢	中国	-	11.3	-	SE331		
第2-182図46	青花	皿	中国(漳州窯)	11.2	5.5	3.5	SE331	景德鎮窯C群模倣 蒜筒底	
第2-182図47	陶器	槽鉢	備前	32.0	10.6	13.3	SE331	近世1b期 斜めすり目	
第2-182図48	瓦質土器	壺	-	25.1	-	-	SE331		
第2-182図49	瓦質土器	壺	在地	-	24.0	-	SE331	被熱による剥離	
第2-182図50	瓦質土器	壺	-	13.0	-	-	SE331	胎土海部産	
第2-182図51	瓦質土器	火鉢	-	23.2	-	-	SE331		
第2-182図52	瓦質土器	火鉢	-	-	38.2	-	SE331	底部内面にスス付着	
第2-182図53	瓦質土器	鉢	-	35.4	-	-	SE331		
第2-182図56	古代土師器	壺	-	11.0	-	-	SE331	布留式	
第2-183図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.8	-	SK35	C群	
第2-183図2	緑釉陶器	碗	-	-	4.5	-	SK35		
第2-183図3	京都系土師器	坏	在地	11.0	-	3.5	S145	3期 灯明皿 口縁部にスス付着	
第2-185図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	10.0	4.0	2.8	SK146	C群 蒜筒底	47
第2-185図2	青花	碗	中国(漳州窯)	12.4	4.6	5.8	SK146	C群 底部外面にもスス付着	47
第2-185図3	陶器	天目碗	瀬戸英濃	9.7	-	-	SK146		
第2-185図4	瓦質土器	火鉢	-	-	-	-	SK146	スタンプ文	
第2-185図5	瓦質土器	鉢	-	-	11.2	-	SK146	底部に板状圧痕	
第2-185図6	瓦質土器	鍋	-	37.6	-	-	SK146	内面に黒斑、外面にスス付着	
第2-185図7	瓦質土器	鍋	-	-	-	-	SK146		
第2-185図8	土師質土器	鍋	在地	-	-	-	SK146		
第2-185図9	在地系土師器	小皿	在地	8.3	6.6	2.0	SK146	底部回転系切り後板状圧痕	
第2-185図10	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	-	SK146	2期 被熱による赤変	
第2-185図11	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SK146	2期	
第2-185図12	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	-	SK146	2期	
第2-185図13	京都系土師器	皿	在地	13.2	-	-	SK146	3期	
第2-187図1	京都系土師器	皿	在地	8.8	-	2.1	SK13	2期	
第2-187図2	京都系土師器	皿	在地	12.5	-	2.6	SK13	3期	
第2-187図3	京都系土師器	坏	在地	11.1	-	3.5	SK13	3期	
第2-187図4	白磁	皿	中国	10.0	3.8	2.8	SK13	E4群 菊花皿 見込みは蛇の目釉刷ぎ	
第2-187図5	瓦質土器	火鉢	-	-	-	-	SK13	霞文 口唇部にスス付着	
第2-187図6	京都系土師器	坏	在地	13.4	-	3.6	SK13	3期	
第2-188図1	京都系土師器	小皿	在地	9.6	-	-	SX347	1期	
第2-188図2	陶器	鉢	福岡	-	-	-	SX347	16世紀末~17世紀初頭	
第2-188図4	古代土師器	壺	在地	13.5	-	-	SX347	被熱	
第2-189図1	白磁	鉢	中国	-	-	-	SK22	12~13C	
第2-189図2	陶器	碗	唐津	-	-	-	SK22	1600年前後	
第2-190図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	5.6	-	SK106	B1群 底部外面に砂付着	
第2-190図2	京都系土師器	皿	在地	14.0	-	-	SK106	3~4期	
第2-190図3	土製品	るつぼ	在地	-	-	-	SK106	京都系土師器3期皿を転用	
第2-192図1	白磁	壺	中国(龍泉窯)	-	7.0	-	SK44		
第2-192図2	白磁	碗	中国	13.1	-	-	SK44		
第2-192図3	青花	瓶	中国(漳州窯)	-	-	-	SK44		
第2-192図4	陶器	槽鉢	備前	-	-	-	SK44	中世3期	
第2-192図5	陶器	槽鉢	備前	30.9	-	-	SK44	近世1b期 斜めすり目	
第2-192図6	陶器	槽鉢	備前	30.6	13.4	11.2	SK44	近世1c期 斜めすり目	
第2-192図7	瓦質土器	小壺	-	9.2	-	-	SK44		
第2-192図8	瓦質土器	火鉢	-	30.2	-	-	SK44		
第2-192図9	瓦質土器	火鉢	-	29.8	-	-	SK44	外面に黒斑	
第2-192図10	瓦質土器	鍋	-	-	-	-	SK44		
第2-192図11	瓦質土器	鉢	在地	-	-	-	SK44	外面にスス付着	
第2-192図12	瓦質土器	鍋	-	33.0	-	-	SK44		
第2-192図13	瓦質土器	鍋	-	-	-	-	SK44		
第2-194図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	4.2	-	SK45		
第2-194図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK45	B1群 端反り	
第2-194図3	黒釉陶器	瓶	中国	14.2	-	-	SK45		
第2-194図4	朝鮮王朝産陶器	舟徳利	朝鮮	-	10.4	-	SK45	第2-194図5と同一個体	
第2-194図5	朝鮮王朝産陶器	舟徳利	朝鮮	-	-	-	SK45	第2-194図4と同一個体	
第2-194図6	瓦質土器	壺	-	16.0	-	-	SK45	外面にスス付着	
第2-194図7	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SK45	全周打ち欠き	
第2-194図8	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.9	SK45	4期 灯明皿 被熱による赤変	
第2-195図1	白磁	皿	中国	15.4	-	-	SD332	E2群	
第2-195図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.6	-	-	SD332	D群	
第2-195図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SD332	E群 饅頭心	
第2-195図4	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SD332	E群	
第2-195図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	10.0	-	-	SD332	E群	
第2-195図6	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SD332	F群 鈔皿	
第2-195図7	陶器	天目碗	瀬戸英濃	10.5	-	-	SD332		
第2-195図8	土師質土器	燗台	在地	-	5.0	-	SD332	A2類	
第2-197図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	11.2	5.0	2.7	SK140	C群 蒜筒底	
第2-197図2	黒釉陶器	蓋	中国	5.0	-	3.3	SK140	16世紀後半	
第2-197図3	陶器	天目碗	瀬戸英濃	10.8	-	-	SK140		

第7次調査区観察表⑨(土器・陶磁器類)

押図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺物名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第2-197図4	陶器	碗	瀬戸美濃	—	6.4	—	SK140	全周打ち欠き	
第2-197図5	陶器	皿	瀬戸美濃	—	6.0	—	SK140		
第2-197図6	陶器	皿	唐津	11.4	—	—	SK140	1600~1630年	
第2-197図7	陶器	甕	備前	—	—	—	SK140	近世1期	
第2-197図8	陶器	播鉢	備前	33.8	—	—	SK140	中世6期	
第2-197図9	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK140	中世6b期	
第2-197図10	陶器	播鉢	備前	27.2	13.4	10.4	SK140	近世1b期 斜めすり目	
第2-197図11	瓦質土器	播鉢	山口	—	—	—	SK140	防長系	
第2-197図12	瓦質土器	甕	—	30.0	—	—	SK140		
第2-197図13	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK140	豊後府内型 双頭煎手流雲文	
第2-197図14	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK140		
第2-197図15	京都系土師器	小皿	在地	8.2	—	—	SK140	2期	
第2-197図16	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK140	4期	
第2-197図17	土師質土器	燭台	在地	8.6	—	6.0	SK140	A2類 受け部にス付煎	
第2-197図23	弥生土器	甕	在地	—	—	—	SK140	後期	
第2-199図1	白磁	皿	中国	10.6	—	—	SK141	E-2類	
第2-199図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	10.2	—	—	SK141	C群	
第2-199図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	14.2	—	—	SK141	C群	
第2-199図4	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	15.0	—	SK141	B1群	
第2-199図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	7.2	—	SK141	E群	
第2-199図6	陶器	甕	備前	—	13.6	—	SK141		
第2-199図7	陶器	播鉢(片口)	備前	29.2	—	—	SK141	近世1期 斜めすり目	
第2-199図8	瓦質土器	茶釜	—	27.2	—	—	SK141	ス付煎	
第2-199図9	瓦質土器	甕	—	37.6	—	—	SK141		
第2-199図10	瓦質土器	鉢	—	31.6	—	—	SK141	被熱による剥離	
第2-199図11	瓦質土器	鉢	—	31.8	—	—	SK141		
第2-199図12	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK141	底部に板状圧痕	
第2-199図13	瓦質土器	火鉢	—	—	12.8	—	SK141		
第2-199図14	瓦質土器	火鉢	—	32.0	21.2	9.7	SK141		
第2-199図15	瓦質土器	台付鉢	—	—	16.6	—	SK141		
第2-199図16	瓦質土器	鍋	—	40.4	—	—	SK141		
第2-199図17	在地系土師器	坏	在地	17.0	10.0	3.1	SK141		
第2-199図18	在地系土師器	坏	在地	12.4	7.8	2.7	SK141		
第2-199図19	口ク口目土師器	皿	在地	11.6	6.4	2.4	SK141	底部回転糸切り後板状圧痕 被熱	
第2-199図20	口ク口目土師器	小皿	在地	5.3	3.2	1.4	SK141	灯明皿 口縁部にス付煎	
第2-199図21	京都系土師器	皿	在地	11.6	—	2.2	SK141	2期	
第2-199図22	京都系土師器	皿	在地	12.6	—	—	SK141	3期 被熱による赤変	
第2-200図1	在地系土師器	皿	在地	10.6	4.6	2.3	SK20	外面ス付煎 被熱による赤変	
第2-200図2	陶器	天目碗	瀬戸美濃	11.0	—	—	SK185		
第2-200図4	在地系土師器	坏	在地	—	—	—	SK182		
第2-200図5	在地系土師器	小皿	在地	8.2	6.8	1.3	SK182		
第2-200図7	口ク口目土師器	皿	在地	—	6.0	—	SK181		
第2-201図1	青花	碗	中国(漳州窯)	—	4.8	—	E地区Ⅰ層		
第2-201図2	京都系土師器	皿	在地	10.8	—	2.2	E地区Ⅰ層	1期 被熱による赤変	
第2-201図3	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	E地区Ⅰ層	京都系土師器1期皿を転用 内面銅付煎	
第2-201図4	白磁	碗	中国	12.7	—	—	E地区Ⅱ層	16世紀	
第2-201図5	青花	碗	中国(漳州窯)	—	5.6	—	E地区Ⅱ層		
第2-201図6	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.1	—	—	E地区Ⅱ層	E群 饅頭心	
第2-201図7	青花	碗	中国(漳州窯)	—	5.2	—	E地区Ⅱ層		
第2-201図8	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	E地区Ⅱ層	京都系土師器1期小皿を転用 内面銅付煎	
第2-201図9	白磁	皿	中国	12.0	—	—	D地区Ⅱ層	E-2群	
第2-201図10	白磁	皿	中国	—	—	—	D地区Ⅱ層	E-2群	
第2-201図11	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	D地区Ⅱ層	B1群	
第2-201図12	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	9.0	—	D地区Ⅱ層	E群 被熱	
第2-201図13	青花	高足坏	中国(漳州窯)	8.2	—	—	D地区Ⅱ層		
第2-201図15	古代土師器	甕	在地	26.0	—	—	Ⅲ層		
第2-201図16	古代土師器	皿	在地	16.0	13.0	—	Ⅲ層	奈良時代 故意の破砕	
第2-201図17	古代土師器	皿	在地	15.8	—	—	Ⅲ層	奈良時代	
第2-201図18	青磁	香炉	中国(龍泉窯)	—	—	—	Ⅲ層	三足の香炉	
第2-201図19	青磁	碗	中国(龍泉窯)	16.3	—	—	Ⅲ層	B-Ⅳ類 細線蓮弁文	
第2-201図20	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	Ⅲ層	E群	
第2-201図21	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	13.9	—	Ⅲ層	E群 外面底部に砂付煎	
第2-201図22	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	Ⅲ層	F群 鈎皿	
第2-201図23	青花	大皿	中国(漳州窯)	—	13.1	—	Ⅲ層	高台にもみ殻	
第2-201図24	青花	碗	中国(漳州窯)	13.2	—	—	Ⅲ層		
第2-201図25	青花	皿	中国(漳州窯)	—	—	—	Ⅲ層		
第2-201図26	青花	碗	中国(漳州窯)	11.9	—	—	Ⅲ層		
第2-201図27	青花	皿	中国(漳州窯)	12.9	6.1	3.4	Ⅲ層		
第2-201図28	青釉陶器	小皿	中国	—	—	—	Ⅲ層		
第2-201図29	陶器	天目碗	瀬戸美濃	12.1	—	—	Ⅲ層		
第2-201図30	陶器	天目碗	瀬戸美濃	11.1	—	—	Ⅲ層	被熱	
第2-201図31	陶器	皿	瀬戸美濃	11.4	—	—	Ⅲ層		
第2-201図32	陶器	播鉢	備前	—	—	—	Ⅲ層	中世3b期	
第2-201図33	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	Ⅲ層	雲文	
第2-201図34	瓦器	碗	—	16.2	7.4	6.1	Ⅲ層	東国東型	



第7次調査区観察表②(土器・陶磁器類)

標図No.	器種		生産地	法皿(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第2-201図35	瓦質土器	碗	—	11.6	5.7	3.7	Ⅲ層	被熱	
第2-201図36	在地系土師器	坏	在地	11.9	7.6	3.5	Ⅲ層		
第2-201図37	在地系土師器	坏	在地	10.8	7.4	3.0	Ⅲ層	外面にスス付着 被熱	
第2-201図38	ロクロ目土師器	小皿	在地	8.8	5.3	1.8	Ⅲ層		
第2-201図39	土師質土器	燗台	—	—	5.8	—	Ⅲ層	胎土海部産	
第2-201図40	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	Ⅲ層	京都系土師器1期皿を転用 内面銅付着	
第2-201図41	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	Ⅲ層	京都系土師器1期皿を転用 内面銅付着	
第2-201図42	土製品	るつぼ	在地	11.6	—	—	Ⅲ層	京都系土師器2期皿を転用 付着物あり	
第2-201図43	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	Ⅲ層	京都系土師器2期皿を転用 内面銅付着	
第2-201図44	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	Ⅲ層	京都系土師器2期皿を転用 内面銅付着	
第2-201図45	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	Ⅲ層	京都系土師器2期皿を転用 内面銅付着	
第2-201図46	土製品	るつぼ	在地	—	—	—	Ⅲ層	京都系土師器2期皿を転用 内面銅付着	
第2-202図1	線釉陶器	盤	中国(磁窯)	—	—	—	—	撥乱	
第2-202図2	青磁	皿	中国(滑州窯)	—	5.2	—	—	撥乱	
第2-202図3	朝鮮王朝産陶器	皿	朝鮮	9.0	3.1	4.2	—	撥乱	胎土目 灰釉 口縁部にスス付着 灯明皿
第2-203図1	古代土師器	甕	在地	21.2	—	—	A地区	古墳時代中頃	48
第2-206図1	ロクロ目土師器	皿	在地	—	7.0	—	—	SK163	
第2-207図1	青磁	皿	中国(龍泉窯)	11.1	4.4	2.6	—	SK227	稜花皿 見込みに蛇の目釉剥ぎ
第2-207図2	朝鮮王朝産陶器	碗	朝鮮	—	4.8	—	—	SK227	見込みに砂目
第2-207図3	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	—	SK227	被熱
第2-207図4	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	—	SK227	菊花文
第2-208図1	陶器	槽鉢(片口)	備前	30.6	14.4	10.6	—	SK277	中世6a期
第2-208図2	瓦質土器	槽鉢	—	—	—	—	—	SK277	
第2-208図3	在地系土師器	小皿	在地	7.6	5.0	2.2	—	SK277	
第2-209図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	12.0	—	—	—	SK278	鍋運弁 碗A類
第2-209図2	ロクロ目土師器	小皿	在地	9.4	5.8	1.9	—	SK278	
第2-212図1	在地系土師器	坏	在地	11.7	8.0	3.5	—	SK276	底部は回転系切り後板状圧痕
第2-212図2	在地系土師器	小皿	在地	7.0	3.8	2.5	—	SK276	
第2-212図3	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	—	SK276	中世6a期
第2-212図4	在地系土師器	皿	在地	13.8	5.6	2.8	—	SK276	
第2-212図5	在地系土師器	小皿	在地	3.5	2.8	1.6	—	SK276	ミニチュア土器
第2-213図1	土師器	小皿	—	5.8	4.6	0.9	—	SK261	大内系
第2-213図2	ロクロ目土師器	皿	在地	17.4	8.8	4.0	—	SK261	板状圧痕
第2-214図1	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	—	SK268	中世3期
第2-214図2	ロクロ目土師器	小皿	在地	6.8	4.0	2.0	—	SK268	灯明皿 口縁部スス付着
第2-215図1	陶器	槽鉢(片口)	備前	28.2	13.2	12.7	—	SK249	中世6a期
第2-217図1	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	—	SK255	
第2-217図2	ロクロ目土師器	皿	在地	—	5.2	—	—	SK255	
第2-217図3	土師器	皿	—	—	6.0	—	—	SK255	大内系 板状圧痕
第2-218図1	瓦質土器	碗	—	10.8	—	—	—	SK242	
第2-218図2	ロクロ目土師器	皿	在地	11.4	5.2	2.9	—	SK242	
第2-220図1	ロクロ目土師器	皿	在地	—	7.2	—	—	SK232	
第2-223図1	青磁	皿	中国(龍泉窯)	10.7	4.2	—	—	SK263	稜花皿
第2-223図2	青磁	皿	中国(龍泉窯)	15.1	—	—	—	SK263	稜花皿
第2-223図3	陶器	天目碗	中国	—	—	—	—	SK263	釉を2度掛け
第2-223図4	陶器	甕	備前	—	—	—	—	SK263	中世5期
第2-223図5	瓦質土器	風炉	—	—	—	—	—	SK263	菊花文
第2-223図6	瓦質土器	火鉢	—	—	29.2	—	—	SK263	脚部
第2-223図7	瓦質土器	碗	—	11.2	—	—	—	SK263	
第2-223図8	瓦質土器	鍋	—	28.6	—	—	—	SK263	
第2-223図9	在地系土師器	皿	在地	11.2	5.0	2.8	—	SK263	
第2-223図10	在地系土師器	小皿	在地	7.4	4.8	1.8	—	SK263	
第2-223図11	在地系土師器	小皿	在地	8.0	3.5	2.3	—	SK263	
第2-223図12	ロクロ目土師器	坏	在地	11.7	3.0	5.3	—	SK263	
第2-223図13	ロクロ目土師器	皿	在地	12.2	7.0	2.5	—	SK263	板状圧痕
第2-223図14	ロクロ目土師器	皿	在地	12.0	7.0	2.3	—	SK263	板状圧痕
第2-223図15	ロクロ目土師器	小皿	在地	7.8	4.4	2.0	—	SK263	被熱
第2-223図17	古代土師器	高坏	在地	—	4.8	—	—	SK263	
第2-224図1	陶器	槽鉢	備前	29.0	—	—	—	SK225	中世5b期
第2-224図2	瓦質土器	鍋	在地	38.4	—	—	—	SK225	内面にヘラ記号
第2-226図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	5.2	—	—	SK211	被熱で高台が変色
第2-226図2	陶器	小壺	中国	5.1	—	—	—	SK211	
第2-226図3	朝鮮王朝産陶器	碗	朝鮮	—	—	—	—	SK211	
第2-226図4	瓦質土器	火鉢	—	34.4	—	—	—	SK211	菊花文
第2-226図5	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	—	SK211	
第2-226図6	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	—	SK211	被熱
第2-226図7	在地系土師器	坏	在地	13.0	2.6	6.0	—	SK211	
第2-226図8	在地系土師器	坏	在地	—	7.0	—	—	SK211	
第2-226図9	在地系土師器	小皿	在地	7.6	3.0	2.5	—	SK211	
第2-226図10	在地系土師器	小皿	在地	5.6	5.0	2.2	—	SK211	灯明皿 口唇部にスス付着
第2-226図11	在地系土師器	小皿	在地	3.6	2.2	1.6	—	SK211	ミニチュア土器
第2-226図12	ロクロ目土師器	皿	在地	12.0	6.6	2.6	—	SK211	板状圧痕
第2-226図13	ロクロ目土師器	小皿	在地	8.6	5.0	1.9	—	SK211	板状圧痕
第2-226図31	陶器	小皿	唐津	12.3	—	—	—	SK211	滑緑皿 砂目 1600~1630年
第2-226図32	京都系土師器	皿	在地	12.4	—	2.3	—	SK211	2期

第7次調査区観察表②(土器・陶磁器類)

標図 No.	器 種		生産地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-228図1	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK229	菊花文	
第2-228図2	瓦質土器	火鉢	—	37.6	—	—	SK229	露文	
第2-228図3	口ク口目土師器	皿	在地	11.0	5.4	3.0	SK229	口縁部にスス付着 灯明皿	
第2-229図1	口ク口目土師器	皿	在地	12.5	6.8	2.5	SK267	板状圧痕	
第2-232図1	瓦質土器	鉢	—	46.0	—	—	SK202	外面にスス付着	
第2-233図1	瓦質土器	風炉	—	—	—	—	SK228		
第2-234図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	12.6	6.5	2.4	SK222	B1群	
第2-234図2	口ク口目土師器	皿	在地	13.5	7.4	2.5	SK222	板状圧痕	
第2-235図1	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SK221		
第2-236図1	在地系土師器	坏	在地	—	6.0	—	SK205		
第2-240図1	青花	碗	中国(龍泉窯)	9.3	—	—	SK217		
第2-240図2	青花	碗	中国(龍泉窯)	11.5	—	—	SK217	B-IV'類 細線蓮弁文	
第2-240図3	朝鮮王朝産陶器	碗	朝鮮	—	—	—	SK217		
第2-240図4	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK217		
第2-240図5	土師質土器	鍋	在地	28.4	—	—	SK217		
第2-240図6	土師器	皿	—	14.0	7.0	3.0	SK217	大内系 板状圧痕	
第2-241図1	口ク口目土師器	小皿	在地	8.8	5.5	1.7	SK219	灯明皿	
第2-243図1	陶器	播鉢	備前	27.0	—	—	SK226	中世5b~6a期 内面にスス付着	
第2-243図2	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SK272	被熱による赤変	
第2-243図3	在地系土師器	小皿	—	—	—	—	SK274	胎土中金雲母多し 撥入品	
第2-243図4	在地系土師器	小皿	在地	—	—	—	SK274		
第2-243図5	在地系土師器	小皿	在地	9.0	7.4	1.4	SK274		
第2-243図6	在地系土師器	坏	在地	—	—	—	SK274		
第2-243図7	瓦質土器	鍋	在地	40.4	—	—	P309	外面にスス付着	
第2-243図8	口ク口目土師器	皿	在地	11.2	5.6	2.8	P318	内外面に薄い黒斑	
第2-246図1	白磁	碗	中国	17.5	—	—	SK1	11~12世紀	
第2-246図2	白磁	皿	中国	10.9	—	—	SK1	E-2群 被熱	
第2-246図3	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK1		
第2-246図4	瓦質土器	碗	—	11.0	6.6	2.8	SK1		
第2-247図1	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SK177		
第2-247図2	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SK177		
第2-249図1	在地系土師器	坏	在地	—	7.6	—	SD266		
第2-250図1	陶器	播鉢	備前	14.0	—	—	SD175	中世6b期	
第2-251図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	14.3	—	—	SA314	P129 B2群 逆反り	
第2-251図3	在地系土師器	小皿	在地	9.0	5.2	2.2	SA314	P227 内面スス付着	
第2-252図1	緑釉陶器	盤	中国(磁甕窯)	—	—	—	P208		
第2-252図2	華南三彩	柑子形水注	中国	—	—	—	P231	被熱による変色	
第2-252図3	青花	皿	中国(漳州窯)	—	4.4	—	P254	葎箱底	
第2-252図4	瓦質土器	鍋	—	39.6	—	—	P282	外面にスス付着	
第2-252図5	陶器	無類壺	備前	—	—	—	SK180		
第2-254図1	京都系土師器	皿	在地	10.2	—	—	SK154	1期 被熱	
第2-256図1	陶器	不明	中国(磁州窯)	19.8	—	—	SK166		
第2-257図1	青花	碗	中国(漳州窯)	14.5	—	—	SK161		
第2-257図2	朝鮮王朝産陶器	皿	朝鮮	9.2	4.3	2.6	SK161	胎土目	
第2-258図1	陶器	天目碗	瀬戸美濃	11.4	—	—	SK7		
第2-258図2	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK155	2期	
第2-258図3	瓦質土器	鍋	—	—	11.8	—	SK156	外面にスス付着	
第2-258図4	白磁	小皿	中国	—	—	—	SK160	変形小皿	
第2-258図5	土師質土器	燭台	在地	—	6.7	—	SK160	A2類	
第2-260図3	褐釉陶器	登	中国	—	—	—	SK184中層		
第2-260図4	瓦質土器	鍋	在地	40.4	—	—	SK184中層		
第2-260図5	土師質土器	鍋	在地	43.6	—	—	SK184中層	外面にスス付着	
第2-260図6	京都系土師器	皿	在地	12.8	—	2.3	SK184中層	2期	
第2-260図7	京都系土師器	皿	在地	14.0	—	2.5	SK184中層	2期	
第2-260図8	京都系土師器	皿	在地	12.4	—	2.3	SK184中層	2期 内外面に黒斑	
第2-260図9	京都系土師器	皿	在地	13.0	—	2.3	SK184中層	2期	
第2-260図10	京都系土師器	小皿	在地	8.7	—	2.2	SK184中層	2期	
第2-260図11	京都系土師器	小皿	在地	8.7	—	2.2	SK184中層	2期	
第2-260図12	京都系土師器	皿	在地	14.0	—	—	SK184中層	3期	
第2-260図13	土師質土器	燭台	在地	7.7	6.7	6.8	SK184中層	B類 京都系土師器と同一技法・胎土	
第2-262図1	青花	碗	中国	12.8	4.8	—	SK158	E群 饅頭心	
第2-262図2	青花	碗	中国(漳州窯)	13.3	4.4	—	SK158	F群 見込みは蛇の目釉剥ぎ	
第2-262図3	瓦質土器	鉢	—	33.2	—	—	SK158		
第2-262図4	白磁	碗	中国	—	5.7	—	SK158	16世紀	
第2-262図5	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK158	近世1b期 斜めすり目	
第2-262図6	瓦質土器	火鉢	—	33.2	23.6	9.2	SK158		
第2-262図7	瓦質土器	鉢	—	26.8	—	—	SK158		
第2-262図8	瓦質土器	鍋	—	37.4	—	—	SK158	外面にスス付着	
第2-262図9	京都系土師器	皿	在地	10.6	—	1.8	SK158	1期	
第2-262図10	京都系土師器	皿	在地	12.0	—	2.3	SK158	2期 内面にスス付着	
第2-262図11	京都系土師器	皿	在地	12.8	—	2.3	SK158	2期 スス付着	
第2-262図12	京都系土師器	坏	在地	11.8	—	3.0	SK158	3期 内外面に黒斑	
第2-263図1	白磁	皿	中国	—	4.4	—	SK170	E-2群	
第2-263図2	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK170		
第2-263図3	瓦質土器	鉢	—	31.0	—	—	SK170		

第7次調査区観察表② (土器・陶磁器類)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第2-263図4	在地系土師器	坏	在地	—	—	—	SK170		
第2-264図1	白磁	碗	中国	6.5	—	—	SK176		
第2-265図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	12.1	—	P4	E1群	
第2-266図1	陶器	瓶	瀬戸美濃	7.6	—	—	SK4		
第2-267図1	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SK6		
第2-267図3	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SK199	外面にスス付	
第2-268図1	青花	皿	中国	4.3	—	—	I層	C群 蒜筒底	
第2-268図2	陶器	碗	唐津	—	4.4	—	I層	刷毛目文様 17世紀後半	
第2-268図3	白磁	坏	—	6.1	3.1	2.2	I層	近代	
第2-268図4	黒釉陶器	甕	中国	16.6	—	—	II層		
第2-268図5	青磁	甕	中国(龍泉窯)	—	6.4	—	II層下部		
第2-268図6	白磁	碗	中国	15.8	—	—	II層下部	玉縁 11~12世紀	
第2-268図7	白磁	皿	中国	10.8	—	—	II層下部		
第2-268図8	陶器	撥鉢	備前	—	—	—	II層下部	近世1a~b期 斜めすり目	
第2-268図9	陶器	鉢	唐津	23.0	—	—	II層下部	刷毛目文様 17世紀後半	
第2-268図10	陶器	大鉢	肥前	36.3	—	—	II層下部	18世紀初頭	
第2-268図11	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	II層下部	4期 被熱による赤変	
第2-268図13	青花	皿	中国(景德鎮窯)	14.8	—	—	SS1	B1群 被熱 端反り	
第2-268図14	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SS1	3期	
第2-268図18	青磁	碗	中国(漳州窯)	—	6.2	—	IIIa・b層		
第2-268図19	青花	碗	中国(景德鎮窯)	10.8	—	—	IIIa・b層	B1群	
第2-268図20	青釉陶器	小皿	中国	6.1	—	—	IIIa・b層	靑翠釉	
第2-268図21	瓦質土器	鍋	—	39.4	—	—	IIIa・b層		
第2-268図22	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	IIIa・b層		
第2-268図23	在地系土師器	小皿	在地	9.4	5.4	1.7	IIIa・b層	内面にスス付	
第2-268図24	京都系土師器	皿	在地	16.5	—	2.0	IIIa・b層	1期 外面に黒斑	
第2-268図25	京都系土師器	皿	在地	12.9	—	2.6	IIIa・b層	2期	
第2-268図26	京都系土師器	小皿	在地	5.1	3.5	1.8	IIIa・b層	2~3期	
第2-268図27	京都系土師器	皿	在地	12.6	—	—	IIIa・b層	2期	
第2-268図28	京都系土師器	皿	在地	11.8	—	2.7	IIIa・b層	2期	
第2-268図29	京都系土師器	皿	在地	11.2	—	2.4	IIIa・b層	2期 故意に破砕 内外面に黒斑	
第2-268図30	京都系土師器	皿	在地	17.6	—	2.3	IIIa・b層	3期	
第2-268図31	土製品	るつぼ	在地	4.4	—	1.5	IIIa・b層	外面に赤色・緑色の付着物	
第2-268図39	朝鮮王朝産陶器	舟徳利	朝鮮	—	11.1	—	SS2		
第2-268図40	陶器	短頸甕	備前	12.8	—	—	SS2	褐釉	
第2-268図41	瓦質土器	火鉢	在地	34.4	28.0	8.9	SS2	被熱による剥離・破砕 内外面に黒斑	
第2-268図42	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SS2		
第2-268図43	在地系土師器	小皿	在地	8.8	7.0	1.5	SS2		
第2-268図44	在地系土師器	小皿	在地	7.5	5.4	2.1	SS2		
第2-268図45	京都系土師器	皿	在地	16.8	—	2.4	SS2	1期 被熱による黒変	
第2-268図46	京都系土師器	皿	在地	10.7	—	2.0	SS2	1期	
第2-268図47	京都系土師器	皿	在地	11.0	—	—	SS2	1期	
第2-268図48	京都系土師器	皿	在地	11.4	—	1.9	SS2	1期	
第2-268図49	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	4.6	SS2	1期	
第2-268図50	京都系土師器	小皿	在地	10.2	—	—	SS2	1期 外面底部にスス付	
第2-268図51	京都系土師器	皿	在地	17.2	—	—	SS2	2期	
第2-268図52	京都系土師器	皿	在地	12.6	—	2.4	SS2	3期	
第2-268図54	土製品	るつぼ	在地	10.4	—	—	SS2	京都系土師器1期小皿を転用	
第2-268図67	ロクロ目土師器	皿	在地	17.6	9.4	4.0	IVa層上面	大型	
第2-268図68	京都系土師器	小皿	在地	8.0	—	1.6	IVa層上面	1期 内外面にスス多量付	
第2-268図69	青磁	碗	中国(龍泉窯)	16.8	—	—	IVa層		
第2-268図70	青花	皿	中国(景德鎮窯)	13.9	—	—	IVa層	B1群	
第2-268図71	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	7.0	—	IVa層	B1群 端反り 外面底部に砂付	
第2-268図72	瓦質土器	香炉	—	10.4	—	—	IVa層	雷文・蓮弁文	
第2-268図73	在地系土師器	小皿	在地	9.0	4.5	1.9	IVa層	灯明皿 内外面にスス付	
第2-268図74	在地系土師器	小皿	在地	9.6	5.6	1.7	IVa層		
第2-268図75	ロクロ目土師器	皿	在地	—	4.6	—	IVa層	板状圧痕 全面にスス付	
第2-268図76	ロクロ目土師器	小皿	在地	5.7	3.4	1.5	IVa層		
第2-268図79	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	IVa層	E群	
第2-268図80	瓦質土器	碗	—	11.4	4.9	4.9	IVa層		
第2-268図81	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	IVa層		
第2-268図82	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	SS3		
第2-268図83	白磁	皿	中国	—	—	—	SS3	見込みは蛇の目釉剥ぎ 内面無釉	
第2-268図84	陶器	不明	志野	—	—	—	SS3	1590~1610年代	
第2-268図85	陶器	撥鉢(片口)	備前	26.1	13.0	12.7	SS3	中世6a~b期	
第2-268図86	瓦質土器	鉢	—	37.6	—	—	SS3		
第2-268図87	ロクロ目土師器	小皿	在地	8.8	5.0	1.5	SS3	灯明皿 口縁部にスス付	
第2-268図88	ロクロ目土師器	耳皿	在地	5.7	3.2	1.5	SS3		
第2-268図91	在地系土師器	坏	在地	—	6.0	—	V層上面	外面に黒斑	
第2-268図92	ロクロ目土師器	小皿	在地	9.6	5.8	1.9	V層上面	底部回転系切り板状圧痕 全面にスス付	
第2-268図93	ロクロ目土師器	坏	在地	10.4	6.0	2.3	V層上面	被熱による赤変・剥離	
第2-268図94	土製品	るつぼ	在地	6.6	—	1.7	V層上面	外面に銅付着 高温による硬化・変色	
第2-268図95	青磁	碗	中国(龍泉窯)	15.0	—	—	Vb層上面	被熱による変色・外面の泡立ち	
第2-268図96	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	7.0	—	Vb層上面		
第2-268図97	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	6.5	—	Vb層上面	見込みは蛇の目釉剥ぎ	

第7次調査区観察表②(土器・陶磁器類)

挿図 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-268図98	青磁	皿	中国 (龍泉窯)	13.4	—	—	Vb 層上面	模花皿 15世紀	
第2-268図99	青磁	皿	中国	11.5	4.1	2.8	Vb 層上面	模花皿 15世紀	
第2-268図100	瓦質土器	釜	—	28.0	—	—	Vb 層上面	被熱による剥離	
第2-268図101	瓦質土器	碗	—	4.8	—	—	Vb 層上面		
第2-268図102	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	Vb 層上面		
第2-268図103	在地系土師器	小皿	在地	7.6	6.6	1.2	Vb 層上面		
第2-268図104	口ク口目土師器	皿	在地	12.2	5.6	2.5	Vb 層上面		
第2-268図105	口ク口目土師器	皿	在地	—	5.8	—	Vb 層上面		
第2-268図106	口ク口目土師器	小皿	在地	7.8	5.0	1.9	Vb 層上面	板状圧痕 全面にスス付着	
第2-268図107	口ク口目土師器	小皿	在地	8.6	4.6	1.8	Vb 層上面	板状圧痕	
第2-268図109	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	18.6	—	—	Vb 層		
第2-268図110	青磁	鉢	中国 (龍泉窯)	—	13.2	—	Vb 層		
第2-268図111	陶器	瓶	瀬戸美濃	5.5	—	—	Vb 層	鉄軸	
第2-268図112	陶器	甕	偏前	—	—	—	Vb 層		
第2-268図113	陶器	甕	偏前	15.9	—	—	Vb 層	褐釉	
第2-268図114	陶器	擂鉢	偏前	—	—	—	Vb 層	中世3期	
第2-268図115	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	Vb 層	菊花文	
第2-268図116	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	Vb 層		
第2-268図117	在地系土師器	小皿	在地	10.0	8.4	1.5	Vb 層		
第2-268図118	在地系土師器	小皿	在地	6.1	4.8	1.7	Vb 層		
第2-268図119	口ク口目土師器	坏	在地	12.0	5.6	3.1	Vb 層	板状圧痕	
第2-268図120	口ク口目土師器	皿	在地	10.2	6.0	1.9	Vb 層	板状圧痕 口唇部にスス付着 灯明皿	
第2-268図123	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	15.6	—	—	VI 層	鍋蓮弁文 13~14世紀	
第2-268図124	陶器	擂鉢	偏前	—	—	—	VI 層		
第2-269図 1	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	15.0	—	—	C1・2・3区	B-IV類 細線蓮弁文	
第2-269図 2	青花	皿	中国 (景德鎮窯)	—	6.9	—	C1・2・3区	B 群	
第2-269図 3	青花	碗	中国 (景德鎮窯)	—	5.2	—	C1・2・3区		
第2-269図 4	青花	皿	中国 (景德鎮窯)	—	—	—	C1・2・3区	E 群 被熱	
第2-269図 5	青花	皿	中国 (景德鎮窯)	—	7.4	—	C1・2・3区	E 群	
第2-269図 6	京都系土師器	皿	在地	13.2	—	2.1	C1・2・3区	1期	
第2-269図 7	京都系土師器	皿	在地	12.6	—	2.1	C1・2・3区	2期	
第2-269図11	白磁	碗	中国	—	6.1	—	C1・2・3区	B 群	
第2-269図12	白磁	小皿	中国	—	—	—	C1・2・3区	変形小皿	
第2-269図13	青花	鉢	中国 (景德鎮窯)	13.1	—	—	C1・2・3区		
第2-269図14	陶器	天目碗	瀬戸美濃	11.6	—	—	C1・2・3区		
第2-269図15	京都系土師器	皿	在地	11.2	—	2.1	C1・2・3区	2期	
第2-269図16	瓦質土器	擂鉢	—	—	—	—	C1・2・3区		
第2-269図17	瓦質土器	擂鉢	—	—	—	—	C1・2・3区		
第2-269図18	京都系土師器	皿	在地	12.2	—	—	C1・2・3区	3期 内外面に黒斑	
第2-269図21	青花	碗	中国 (景德鎮窯)	—	4.2	—	C1・2・3区	E 群 饅頭心	
第2-269図22	陶器	擂鉢	偏前	29.0	—	—	C1・2・3区	中世6b期	
第2-269図23	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	C1・2・3区		
第2-269図24	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	C1・2・3区		
第2-269図25	在地系土師器	坏	—	13.2	9.2	3.5	C1・2・3区	胎土中金雲母多し 搬入品	
第2-269図26	在地系土師器	坏	在地	10.8	7.8	2.8	C1・2・3区		
第2-269図27	在地系土師器	小皿	在地	7.4	5.4	1.4	C1・2・3区	板状圧痕	
第2-269図28	在地系土師器	小皿	在地	7.4	6.2	1.2	C1・2・3区	板状圧痕	
第2-269図31	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	—	—	—	C1・2・3区	鍋蓮弁文 13~14世紀	
第2-269図32	瓦質土器	釜	—	—	—	—	C1・2・3区		
第2-269図33	土師器	小皿	—	9.6	—	—	C1・2・3区	搬入品	
第2-269図34	土師質土器	燗台	—	—	—	—	C1・2・3区	胎土中金雲母多し 搬入品	
第2-269図39	白磁	皿	中国	11.0	—	—	C1・2・3区	口禿 漆塗り	
第2-269図40	青磁	皿	中国 (同安窯)	—	5.9	—	C1・2・3区	櫛櫛電光文	
第2-269図41	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	16.5	—	—	C1・2・3区	鍋蓮弁文 13~14世紀	
第2-269図42	在地系土師器	坏	—	11.6	7.2	3.4	C1・2・3区	板状圧痕 搬入品	
第2-269図43	在地系土師器	小皿	—	7.6	6.0	1.2	C1・2・3区	胎土中金雲母多し 搬入品	
第2-269図44	在地系土師器	小皿	在地	7.6	6.2	1.1	C1・2・3区	板状圧痕	
第2-269図47	瓦質土器	甕	—	29.0	—	—	C1・2・3区		
第2-269図48	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	C1・2・3区		
第2-269図49	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	C1・2・3区	外面にスス付着	
第2-269図50	土師器	碗	吉備	—	4.2	—	C1・2・3区	吉備系	
第2-269図51	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	C1・2・3区	外面にスス付着	
第2-269図52	在地系土師器	坏	—	11.6	7.0	3.4	C1・2・3区	搬入品	
第2-269図53	在地系土師器	小皿	在地	7.2	6.4	1.3	C1・2・3区		
第2-269図54	在地系土師器	小皿	在地	8.6	7.0	1.1	C1・2・3区	板状圧痕	
第2-269図56	土師質土器	鉢	在地	23.0	—	—	C1・2・3区		
第2-270図 2	陶器	無類葺	偏前	13.0	—	—	P123		
第2-270図 3	瓦質土器	茶釜	—	13.4	—	—	P215		
第2-270図 4	在地系土師器	小皿	在地	4.2	3.2	1.6	P243	ミニチュア	
第2-270図 6	弥生土器	甕	在地	—	—	—	P381	下城式	
第2-272図 1	陶胎染付	碗	肥前	—	5.5	—	SD755	被熱 18世紀前半	
第2-272図 2	陶胎染付	碗	肥前	12.0	—	—	SD755	18世紀前半	
第2-272図 3	焼締陶器	鉢	肥前	37.2	—	—	SD755	18世紀代	
第2-272図 4	陶器	甕	肥前	17.4	—	—	SD755	18世紀代	
第2-272図 5	磁器	皿	肥前	13.3	7.2	3.0	SD755	近世 五弁花文 (コンニャク印版)	

第7次調査区観察表②(土器・陶磁器類)

挿図 No.	器 種		生 産 地	法 量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第2-272図6	染付	瓶	肥前	—	—	—	SD755	18世紀代	
第2-272図7	陶器	皿	肥前	—	4.6	—	SD755	18世紀代	
第2-272図8	近世土師器	大甕	—	—	20.6	—	SD755	近世	
第2-272図9	陶器	不明	志野	—	—	—	SD755	17世紀初頭	
第2-272図11	陶器	碗	肥前	10.4	—	—	SD755	17世紀後半	
第2-275図1	陶器	碗	肥前	—	3.9	—	SX345	胎土目	
第2-275図2	青花	小坏	—	5.4	2.4	—	SX345	昭和10年代 国産	
第2-276図1	朝鮮王朝産陶器	碗	朝鮮	—	—	—	SX342		
第2-277図1	弥生土器	甕	—	20.0	—	—	C地区	後期前半	
第2-277図2	古代土師器	高坏	在地	—	—	—	C地区	古墳時代 坏底部に黒斑	
第2-277図3	古代土師器	盤	—	—	15.2	—	C地区 SK2		
第2-277図4	青花	碗	中国(龍泉窯)	14.2	—	—	D地区	B-IV類 細線蓮弁文	
第2-277図5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.6	5.0	4.5	D地区	E群 餹頭心	
第2-277図6	京都系土師器	皿	—	11.8	—	3.0	表探	1期 撥入品	
第2-277図7	古代土師器	甕	—	15.2	—	—	F地区 SE558	古墳時代前期 口縁部に黒斑	
第2-277図8	古代須恵器	坏蓋	—	14.0	—	—	G地区 SD791		
第2-277図9	古代須恵器	高坏?	—	—	—	—	G地区	脚部	
第2-277図10	古代土師器	坏蓋つまみ	—	—	—	—	F地区 SE558		
第2-277図11	古代土師器	甕	—	19.0	—	—	G地区	8世紀 内面 黒斑	
第2-277図12	古代土師器	坏	—	13.6	—	9.4	G地区	胎土海部産	
第2-277図13	古代土師器	坏	—	—	6.6	—	F地区 SK511		
第2-277図14	古代土師器	坏	—	—	9	—	G地区 SD790		
第2-277図15	黒色土器	碗	—	—	7.6	—	G地区 SK705	A類	
第2-277図16	黒色土器	碗	—	—	7.4	—	G地区 SK705	A類 被熱による赤変	
第2-277図17	古代土師器	坏	—	13.8	8.8	3.1	G地区 SK712	8世紀	
第2-277図18	古代土師器	坏	—	14.8	—	—	G地区	8世紀	
第2-277図19	古代土師器	坏	—	14.4	—	—	G地区 SK771	内外面にスス付着	
第2-277図20	古代土師器	坏	—	12.8	—	—	G地区 SK705	9世紀	
第2-277図21	古代土師器	坏	在地	15.0	—	—	G地区 SK705	9世紀	
第2-277図22	古代土師器	坏	—	11.0	—	3.6	F地区 SE558	9世紀	
第2-277図23	古代土師器	坏	—	14.0	—	3.8	G地区 SD790	8~9世紀 胎土海部産	
第2-277図24	古代土師器	皿	在地	14.8	9.4	2.3	G地区 SK705		
第2-277図25	古代土師器	皿	在地	18.6	—	—	G地区 SD766		
第2-277図26	古代土師器	甕	—	16.6	—	—	G地区 SD766		
第2-277図27	古代土師器	高坏	—	—	—	—	G地区 SK712	胎土海部産	
第2-277図28	古代土師器	高坏	—	—	—	—	G地区 SK791	古墳時代	

第7次調査区観察表（土製品）

挿図 No.	品種	材質	部位	寸法（単位cm）					皿量 (g)	遺構名	備考	図版 No.
				長さ	幅	高さ	孔径	厚さ				
第2-15図8	土鐘	土師質		長さ (4.6)	幅 1.4	孔径	(8.3)	SD710	半分に折れている			
第2-15図9	土鐘	土師質		長さ (2.4)	幅 0.9	孔径	—	SD710				
第2-26図22	土鐘	土師質		長さ 5.8	幅 1.5	孔径	12.8	SD766				
第2-26図23	土鐘	土師質		長さ 5.4	幅 1.6	孔径	13.2	SD766				
第2-28図10	土鐘	土師質		長さ (4.3)	幅 (1.0)	孔径	4.8	SD775				
第2-29図3	土鐘	土師質		長さ (2.0)	幅 1.0	孔径	(2.4)	SK714	両端が折れている			
第2-33図1	土鐘	土師質		長さ (3.6)	幅 1.4	孔径	(7.2)	SE773	両端が折れている			
第2-33図2	土鐘	土師質		長さ (2.8)	幅 0.9	孔径	(2.4)	SE773				
第2-33図3	土鐘	土師質		長さ (3.1)	幅 0.9	孔径	(2.7)	SE773				
第2-41図3	土鐘	土師質		長さ 5.6	幅 1.5	孔径	12.6	SK705	A類 両端切断			
第2-41図4	土鐘	土師質		長さ (3.0)	幅 1.7	孔径	(8.0)	SK705	A類 両端切断			
第2-60図139	土鐘	土師質		長さ 5.4	幅 1.8	孔径	13.0	SD791	A類 片面切断			
第2-60図140	土鐘	土師質		長さ (4.1)	幅 1.1	孔径	(5.0)	SD791	両端欠損 黒斑			
第2-60図141	メンコ	陶器		長さ —	幅 —	孔径 —	—	SD791	備前焼転用			
第2-60図142	メンコ	陶器		長さ 4.2	幅 4.1	厚さ 1.3	32.4	SD791	備前焼転用			
第2-60図143	メンコ	陶器		長さ 3.5	幅 4.0	厚さ 1.5	30.4	SD791	備前焼転用			
第2-60図144	メンコ	陶器		長さ 3.1	幅 3.7	厚さ 0.7	15.1	SD791	陶器転用			
第2-60図145	メンコ	土師質		長さ 7.5	短径 7.2	厚さ —	—	SD791	京都系土師器転用 スス付箱?			
第2-60図146	メンコ	瓦質		長さ 4.1	幅 3.8	厚さ 0.8	14.4	SD791	瓦質土師器転用			
第2-60図147	メンコ	瓦質		長さ 6.5	短径 6.4	厚さ 2.4	—	SD791	軒丸瓦転用			
第2-60図157	釉	土製	羽口	長さ —	幅 —	厚さ —	—	SD791	被熱 変質、変色あり			
第2-62図47	土鐘	土師質		長さ 4.3	幅 1.0	厚さ —	5.7	SD538	B類 黒斑			
第2-62図48	土鐘	土師質		長さ (4.0)	幅 1.1	孔径 —	(5.7)	SD538	B類			
第2-62図49	土鐘	土師質		長さ (4.6)	幅 1.0	孔径 —	(5.1)	SD538	B類			
第2-64図18	土鐘	土師質		長さ (3.1)	幅 1.4	孔径 —	(7.5)	SE541一括	両端欠損			
第2-64図19	土鐘	土師質		長さ 5.2	幅 1.5	孔径 —	10.8	SE541一括	A類 両端切断			
第2-76図24	土鐘	土師質		長さ (2.1)	幅 0.7	孔径 —	(1.0)	SK571				
第2-76図25	メンコ	陶器		長さ 3.9	幅 3.8	厚さ 0.7	14.3	SK571	中世陶器転用			
第2-78図54	土鐘	土師質		長さ 5.0	幅 1.5	孔径 —	(9.5)	SK734	A類 管状			
第2-83図4	土鐘	土師質		長さ (3.2)	幅 1.2	孔径 —	(4.2)	SK508	両端欠損			
第2-84図5	犬形土製品	土師質	胴	長さ —	幅 —	厚さ —	—	SK539				
第2-85図18	土鐘	土師質		長さ (5.4)	幅 1.2	孔径 —	(7.4)		包含層Ⅰ層 B類 小型 両端欠損			
第2-85図29	土鐘	土師質		長さ 3.5	幅 1.2	孔径 —	4.5		包含層Ⅱ層 両端切断 黒斑 B類			
第2-85図30	メンコ	陶器		長さ 3.7	幅 4.6	厚さ 1.1	28.4		包含層Ⅱ層 備前焼転用			
第2-85図31	釉	土製	羽口	長さ —	幅 —	厚さ —	—		包含層Ⅱ層 被熱による硬化・変色（赤化）			
第2-85図54	土鐘	土師質		長さ (5.8)	幅 1.1	孔径 —	15.6		包含層Ⅲ層 B類			
第2-85図65	土鐘	土師質		長さ 8.3	幅 5.3	孔径 —	(142.6)		搬入品 有溝			
第2-88図87	土鐘	土師質		長さ (4.1)	幅 1.3	孔径 —	(8.2)	SD192	B類 中型			
第2-98図1	土鐘	土師質		長さ (5.2)	幅 1.9	孔径 —	14.3	SK164	B類 小型			
第2-120図10	土鐘	土師質		長さ 3.9	幅 1.2	孔径 —	4.5	SK143	B類			
第2-120図11	土鐘	土師質		長さ (4.0)	幅 1.0	孔径 —	(4.7)	SK143	A類 黒斑			
第2-126図28	土鐘	土師質		長さ (4.5)	幅 1.3	孔径 —	(7.7)	SD111	A類 小型 黒斑			
第2-127図1	土鐘	土師質		長さ 4.8	幅 1.2	孔径 —	5.7	SK31	A類 小型 両端切断			
第2-142図18	メンコ	土師質		長さ 3.6	幅 3.3	厚さ 0.5	—	SE19	京都系土師器転用			
第2-168図38	メンコ	陶器		長さ 4.0	幅 4.1	厚さ 1.0	—	SK114	備前焼転用			
第2-168図39	犬形土製品	土師質	頭	長さ —	幅 —	厚さ —	—	SK114				
第2-170図14	土鐘	土師質		長さ 4.8	幅 1.0	孔径 —	4.2	SK127	A類 両端切断			
第2-175図36	土鐘	土師質		長さ (4.0)	幅 1.0	孔径 —	(4.0)	SK126	A類 小型 黒斑			
第2-182図37	土鐘	土師質		長さ 3.7	幅 1.0	—	—	SE331	A類 小型			
第2-192図19	土鐘	土師質		長さ 5.1	幅 1.0	—	—	SK44	A類 小型			
第2-192図20	メンコ	陶器		幅 10.4	器高 9.7	—	—	SK44	備前焼を転用			
第2-199図25	土鐘	土師質		長さ 5.1	幅 1.4	—	—	SK141	A類 小型			
第2-199図26	土鐘	土師質		長さ 5.0	幅 1.4	—	—	SK141	A類 小型			
第2-201図48	釉	土製	羽口	—	—	—	—	—	Ⅲb層 被熱による黒変・変質			
第2-212図6	釉	土製	羽口	—	—	—	—	—	SK276			
第2-226図28	灯芯おさえ	土師質		径 2.3	厚さ 0.5	—	—	SK211	土師器皿転用			
第2-226図29	土鐘	土師質		長さ 4.1	幅 1.2	—	—	SK211				
第2-226図30	釉	土製	羽口	—	—	—	—	—	SK211			
第2-231図2	土鐘	土師質		長さ 2.6	幅 1.2	—	—	SK201				
第2-238図1	メンコ	土師質		長さ 3.0	幅 2.9	厚さ 0.5	—	SK207	在地系土師器を転用			
第2-240図7	土鐘	土師質		長さ 4.6	幅 1.3	—	—	SK217	A類 小型			
第2-260図15	土鐘	土師質		長さ 5.7	幅 2.7	—	—	SK184中層	B類 大型			
第2-268図122	釉	土製	羽口	—	—	—	—	—	Vb層 高温被熱による硬化・変色			
第2-269図8	土鐘	土師質		長さ 4.6	幅 1.9	—	—	16.8	C1・2・3区 A類			
第2-269図55	釉	土製	羽口	—	—	—	—	—	C1・2・3区 高温による硬化・変色			
第2-270図8	メンコ	陶器		長さ 2.6	幅 2.4	厚さ 0.9	—	—	C地区 陶器転用			
第2-272図10	犬形土製品	土製		全長 4.8	胴部幅 1.7	高さ 3.5	—	SD755				

第7次調査区観察表(石製品)

挿図No.	品種	材質	寸法(単位cm)							重量(g)	遺構名	備考	図版No.
			部位	長さ	幅	厚さ	口径	底径	口径				
第2-26図26	砥石	結晶片岩	—	長さ	—	幅	7.0	厚さ	5.8	838.0	SD766		
第2-26図27	砥石	—	—	長さ	—	幅	—	厚さ	0.6	16.1	SD766		
第2-26図28	石鍋	滑石	口縁部	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SD766	Ⅲb類(木戸編年) 外面スス付筈	
第2-47図7	碁石	蛇紋岩	—	長さ	1.7	短径	—	厚さ	0.5	2.4	SE558		
第2-51図2	五輪塔	凝灰岩	火輪	軒口高	—	幅	—	—	—	—	SE532		
第2-60図155	茶臼	安山岩	下臼	口径	—	幅	—	器高	—	—	SD791	受け皿部片 スス付筈 被熱	
第2-60図156	茶臼	砂岩	下臼	口径	—	幅	—	器高	—	—	SD791	2次加熱により赤変	
第2-60図159	五輪塔	凝灰岩	風輪	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SD791		
第2-62図56	茶臼	安山岩	上臼	口径	—	幅	—	器高	11.0	—	SD538		
第2-64図13	石臼	安山岩?	上臼	口径	(40.4)	底径	(39.4)	器高	10.4	—	SE541中央土坑		
第2-78図56	茶臼	—	上臼	口径	(19.2)	幅	—	器高	—	—	SK734	摩耗	
第2-78図57	茶臼	砂岩(和泉)	下臼	口径	(25.6)	幅	—	器高	—	—	SK734	受け皿部 被熱による赤変・剥離	
第2-78図58	茶臼	安山岩	上臼	口径	(18.8)	幅	—	器高	—	—	SK734	被熱による赤変・剥離	
第2-78図59	石臼	—	下臼	口径	—	幅	—	器高	—	—	SK734	挽臼	
第2-83図7	碁石	—	—	長さ	2.1	短径	—	厚さ	0.7	4.4	SK508		
第2-88図78	石鍋	滑石	口縁部	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SD192上層	Ⅲb類(木戸編年)	
第2-88図79	不明	滑石	—	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SD192上層	石鍋の転用	
第2-88図86	石鍋	滑石	口縁部	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SD192	Ⅲb類(木戸編年)	
第2-92図29	砥石	—	—	長さ	—	幅	—	厚さ	0.6	14.7	SD294	表面上線刻あり	
第2-104図2	茶臼	安山岩質凝灰岩	下臼	口径	—	幅	—	器高	—	—	SR183	受け皿部片 外面被熱による赤変	
第2-114図3	硯	赤岡石	—	長さ	—	幅	—	厚さ	1.4	219.8	SK144		46
第2-134図5	磨石	砂岩	—	長さ	10.5	幅	7.8	厚さ	3.3	509.7	SK105		
第2-139図33	石臼	安山岩	上臼	口径	—	底径	(34.6)	器高	11.0	1.9	SK12	口縁一部被熱による赤変	
第2-142図5	石鍋	滑石	口縁部	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SE19	11~12世紀 温石として転用か	
第2-147図4	石臼	安山岩	上臼	口径	—	底径	(37.6)	器高	9.8	1.9	SK11	割れたのち被熱 スス付筈	
第2-155図15	竈	安山岩質凝灰岩	羽口	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK112		48
第2-164図14	五輪塔	凝灰岩	空風輪	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK37		
第2-164図15	不明	凝灰岩	—	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK37	器種不明	
第2-168図41	竈	花崗岩	羽口	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK114		48
第2-168図42	石臼	—	上臼	口径	—	底径	(29.2)	器高	10.8	—	SK114	槽面以外スス付筈	
第2-170図15	五輪塔	凝灰岩	空風輪	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK127		
第2-173図19	竈	凝灰岩	羽口	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK136		
第2-175図39	五輪塔	凝灰岩	空風輪	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK126		
第2-175図40	五輪塔	凝灰岩	空風輪	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK126		
第2-180図27	五輪塔	凝灰岩	火輪	—	—	—	—	—	—	—	SE108井筒内		
第2-182図40	不明	—	—	径	2.8	—	—	—	—	9.9	SE331	ボタン状(半球状の形に孔3つ)	46
第2-182図55	石臼	安山岩	上臼	径	28.9	器高	10.3	—	—	—	SE331		
第2-185図27	茶臼	凝灰岩	上臼	上径	21.4	器高	15.0	底径	19.8	—	SK146	挽き手穴あり	48
第2-185図28	石臼	安山岩	上臼	径	28.0	器高	5.5	—	—	—	SK146		
第2-185図29	砥石	結晶片岩	—	長さ	15.3	幅	9.3	厚さ	7.0	1129.2	SK146		
第2-192図24	石臼	安山岩	下臼	径	32.0	器高	6.3	孔径	2.4	—	SK44		
第2-192図25	不明	珪質砂岩	—	—	—	—	—	—	—	—	SK44		
第2-197図20	五輪塔	凝灰岩	風輪	最大径	31.0	上径	25.5	器高	27.0	—	SK140		
第2-197図21	五輪塔	凝灰岩	火輪	長さ	32.0	幅	29.0	器高	15.5	—	SK140		
第2-197図22	砥石	—	—	長さ	10.1	幅	3.7	厚さ	3.8	206.4	SK140		
第2-199図30	石臼	安山岩	上臼	上径	32.4	底径	33.0	器高	6.4	—	SK141		
第2-199図31	石臼	安山岩	上臼	上径	33.0	底径	39.5	器高	12.4	—	SK141	被熱による赤変	
第2-209図3	碁石	—	—	長さ	6.3	幅	3.7	厚さ	1.3	66.1	SK278		
第2-223図16	砥石	滑石	—	長さ	5.2	幅	3.5	厚さ	0.9	49.2	SK263	懸垂孔	
第2-242図1	石臼	玄武岩	—	—	—	—	—	厚さ	5.8	822.4	SK220	被熱による一部赤変	
第2-260図19	砥石	結晶片岩	—	長さ	9.6	幅	6.1	厚さ	1.9	129.6	SK184中層		
第2-268図38	茶臼	凝灰岩	下臼	—	—	—	—	—	—	117.4	—	Ⅲa・b層	
第2-268図66	砥石	結晶片岩	—	長さ	30.0	幅	5.0	厚さ	3.2	1095.6	SS 2		
第2-268図126	石鍋	滑石	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	Ⅵ層	木戸分類ⅢE-1類	
第2-269図10	砥石	結晶片岩	—	長さ	9.5	幅	4.0	厚さ	1.2	74.5	C1-2-3区		
第2-269図30	茶臼	凝灰岩	下臼	—	—	—	—	—	—	308.7	C1-2-3区		

第7次調査区観察表(瓦製品)

挿図No.	品種	寸法(単位cm)						遺構名	遺構名	図版No.
		部位	長さ	幅	厚さ	幅	厚さ			
第2-26図38	平瓦							SD766		
第2-35図20	平瓦		長さ	幅	厚さ			SD790	古代	
第2-47図8	平瓦		長さ	10.7	幅	8.3	厚さ	SE558	古代	
第2-60図148	塼		長さ	6.1	幅	5.8	厚さ	SD791		
第2-60図149	道具瓦		長さ	11.2	幅	9.8	厚さ	SD791		
第2-60図150	塼		長さ	14.5	幅	10.8	厚さ	SD791		
第2-60図173	平瓦		長さ	6.4	幅	4.6	厚さ	SD791	古代 ローリング激しい	
第2-71図13	丸瓦		長さ		幅		厚さ	SK557上部	内面布目	
第2-78図53	軒丸瓦		径	15.2	幅		厚さ	SK734		
第2-84図8	丸瓦		長さ		幅	12.5	厚さ	SK569		
第2-109図11	塼		長さ	15.4	幅	13.5	厚さ	SK9		
第2-120図5	平瓦		長さ	14.6	幅	13.7	厚さ	SX143		
第2-120図6	鬼瓦?		長さ		幅		厚さ	SX143		
第2-120図7	丸瓦	玉縁部	長さ		幅		厚さ	SX143		
第2-120図8	平瓦		長さ	12.3	幅	11.8	厚さ	SX143	胎土海部産	
第2-120図9	平瓦		長さ	20.5	幅	13.3	厚さ	SX143		
第2-134図4	平瓦		長さ		幅		厚さ	SK105		
第2-136図2	平瓦		長さ	23.1	幅	21.4	厚さ	SK129	古代 桶巻き造り	
第2-139図27	平瓦		長さ	19.9	幅	9.6	厚さ	SK12	胎土海部産	
第2-142図2	平瓦		長さ	18.3	幅	11.0	厚さ	SE19		
第2-142図6	平瓦		長さ	20.0	幅	10.6	厚さ	SE19	胎土海部産	
第2-151図11	平瓦		長さ	11.3	幅	6.0	厚さ	SK109		
第2-168図37	平瓦		長さ	11.8	幅	11.4	厚さ	SK114		
第2-175図37	雁振瓦		長さ	12.3	幅	9.3	厚さ	SK126		
第2-175図48	平瓦		長さ		幅		厚さ	SK126	古代	
第2-180図26	平瓦		長さ	14.3	幅	13.4		SE108井筒内		
第2-182図44	塼		長さ	18.1	幅	13.3		SE331井筒内		
第2-182図54	塼		長さ	14.3	幅	11.1		SE331	被熱	
第2-192図14	丸瓦		長さ	12.1	幅	8.9	厚さ	SK44	内面布目	
第2-192図15	平瓦		長さ	27.0	幅	11.0	厚さ	SK44		
第2-192図16	平瓦		長さ	13.9	幅	13.4	厚さ	SK44		
第2-192図17	平瓦		長さ	21.4	幅	11.5	厚さ	SK44		
第2-192図18	平瓦		長さ	21.2	幅	9.3		SK44		
第2-194図9	平瓦		長さ	10.7	幅	9.8		SK45	胎土海部産	
第2-197図18	塼		長さ	9.4	幅	5.0	厚さ	SK140		
第2-197図19	塼		長さ	10.8	幅	7.1	厚さ	SK140		
第2-199図23	塼		長さ	9.2	幅	7.9	厚さ	SK141	胎土海部産	
第2-199図24	塼		長さ	13.2	幅	13.1	厚さ	SK141		
第2-217図4	塼		長さ	6.1	幅	6.5	厚さ	SK255		
第2-220図2	平瓦		長さ	5.6	幅	6.9	厚さ	SK232	古代	
第2-224図3	平瓦		長さ	11.6	幅	8.6	厚さ	SK225	胎土海部産	
第2-224図4	平瓦		長さ	13.6	幅	11.6	厚さ	SK225	胎土海部産	
第2-226図14	軒平瓦	瓦頭部	長さ		幅		厚さ	SK211		
第2-226図15	丸瓦		長さ	11.3	幅	8.6	厚さ	SK211	内面布目と紐痕	
第2-226図16	丸瓦		長さ	9.1	幅	9.0	厚さ	SK211	内面布目 胎土海部産	
第2-226図17	丸瓦	玉縁部	長さ	10.3	幅	9.5	厚さ	SK211	内面布目 胎土海部産	
第2-226図18	丸瓦	玉縁部	長さ	13.5	幅	11.0	厚さ	SK211	内面布目 胎土海部産	
第2-226図19	丸瓦		長さ	12.0	幅	10.2	厚さ	SK211	内面布目と紐痕 胎土海部産	
第2-226図20	平瓦		長さ	9.6	幅	9.5	厚さ	SK211		
第2-226図21	平瓦		長さ	12.0	幅	11.4	厚さ	SK211	胎土海部産	
第2-226図22	平瓦		長さ	10.8	幅	9.5	厚さ	SK211		
第2-226図23	平瓦		長さ	17.0	幅	14.1	厚さ	SK211	被熱による変形 雁振瓦か?	
第2-226図24	平瓦		長さ	9.5	幅	8.8	厚さ	SK211	布目痕	
第2-226図25	平瓦		長さ	15.5	幅	13.0	厚さ	SK211		
第2-226図26	平瓦		長さ	15.8	幅	8.7	厚さ	SK211	胎土海部産	
第2-226図27	塼		長さ	11.3	幅	7.9	厚さ	SK211	胎土中金鷲母を含む	
第2-231図1	平瓦		長さ	19.1	幅	17.2	厚さ	SK201	胎土海部産	
第2-234図3	丸瓦	玉縁部	長さ	13.2	幅	13.1	厚さ	SK222	内面布目と紐痕 胎土海部産	
第2-234図4	塼		長さ	10.0	幅	7.4	厚さ	SK222		
第2-248図1	塼		長さ	27.9	幅	12.9	厚さ	SK210		
第2-254図2	平瓦		長さ	12.1	幅	9.4	厚さ	SK154		
第2-260図14	丸瓦							SK184中層	内面布目	
第2-266図2	平瓦		長さ	14.8	幅	14.6		SK4		
第2-267図2	塼		長さ	17.4	幅	13.5	厚さ	SK6		
第2-269図19	雁振瓦		長さ	11.4	幅	7.5	厚さ	C1・2・3区		
第2-270図1	軒丸瓦	瓦頭部	径	15.0	厚さ	3.1		P33	胎土海部産	



第7次遺物観察表（銭貨）

挿図 No.	銭貨名	初鋳 造年	国・王朝名	重さ (g)	直径 (mm)	書体	遺構名	備 考	図版 No.
第2-28図11	政和通寶	1111	北宋	2.8	27.5	篆書	SD775		
第2-28図12	不明	—	—	3.4	23.6	—	SD775		
第2-47図6	永樂通寶	1408	明	2.3	24.0	—	SE558		
第2-48図3	元祐通寶	1086	北宋	2.7	24.5	行書	P807		
第2-55図3	熙寧元寶	1068	北宋	3.1	24.8	篆書	SK722		
第2-60図153	元祐通寶	1086	北宋	2.9	24.5	行書	SD791		
第2-60図154	元豐通寶	1078	北宋	3.0	23.9	行書	SD791		
第2-62図50	元祐通寶	1086	北宋	2.6	24.2	行書	SD538		
第2-64図6	皇宋通寶	1038	北宋	1.8	—	真書	SE541		
第2-72図4	不明	—	—	1.9	22.9	—	SK542		
第2-76図27	不明	—	—	3.0	23.8	—	SK571		
第2-85図55	紹聖元寶	1094	北宋	2.3	24.4	行書	G地区E34区		
第2-85図66	元豐通寶	1078	北宋	2.1	—	篆書	P963	星形孔	
第2-88図80	開元通寶	621	唐	1.7	—	—	SD192上層		
第2-90図6	不明	—	—	2.4	—	—	SD295		
第2-92図26	皇宋通寶	1038	北宋	2.6	25.2	真書	SD294		
第2-99図1	皇宋通寶	1038	北宋	3.4	24.8	真書	SK188		
第2-107図3	不明	—	—	1.7	23.3	—	SK187		
第2-109図12	天禧通寶	1017	北宋	2.5	24.0	真書	SK9		
第2-109図13	治平元寶	1064	北宋	2.5	2.41	篆書	SK9		
第2-109図14	治平元寶	1064	北宋	3.2	24.6	篆書	SK9		
第2-109図15	熙寧元寶	1068	北宋	3.3	24.2	真書	SK9		
第2-109図16	元豐通寶	1078	北宋	2.6	23.8	篆書	SK9		
第2-109図17	元豐通寶	1078	北宋	2.3	24.2	篆書	SK9		
第2-109図18	元祐通寶	1086	北宋	2.2	24.8	篆書	SK9		
第2-109図19	洪武通寶	1368	明	3.1	24.4	—	SK9		
第2-109図20	不明	—	—	2.6	24.6	篆書	SK9	「元」「寶」のみ判読可	
第2-113図2	無文銭	—	—	2.5	2.27	—	SK159		
第2-120図12	熙寧元寶	1068	北宋	2.4	24.4	篆書	SX143		
第2-130図5	元符通寶	1098	北宋	3.1	23.5	行書	SA312 P140		
第2-130図8	開元通寶	621	唐	3.0	23.9	—	SA312 P179		
第2-130図9	淳熙元寶	1174	南宋	2.9	23.9	真書	SA312 P179	背樹	
第2-130図10	洪武通寶	1368	明	2.8	22.9	—	SA312 P179		
第2-130図11	永樂通寶	1408	明	2.4	25.5	—	SA312 P179		
第2-130図13	不明	—	—	3.0	2.44	—	SA312 P198	星形孔「通」「寶」のみ	
第2-139図28	景德元寶	1004	北宋	2.9	22.9	—	SK12		
第2-139図29	天聖元寶	1023	北宋	2.7	24.8	真書	SK12		
第2-139図30	不明	—	—	1.2	—	—	SK12	「嘉」「元」「寶」のみ	
第2-139図31	熙寧元寶	1068	北宋	3.2	23.6	真書	SK12		
第2-139図32	不明	—	—	1.5	22.3	—	SK12	無文銭?	
第2-145図2	皇宋通寶	1038	北宋	2.4	24.9	篆書	SX350		
第2-145図6	元符通寶	1098	北宋	2.8	23.3	篆書	SK147		
第2-151図12	元祐通寶	1086	北宋	1.1	—	行書	SK109	「元」「祐」のみ	
第2-168図40	元豐通寶	1078	北宋	2.5	24.1	篆書	SK114		
第2-182図34	至和元寶	1054	北宋	3.4	24.1	真書	SE1		
第2-182図35	不明	—	—	2.5	23.2	—	SE1		
第2-182図36	不明	—	—	1.2	—	篆書	SE1	「元」「寶」のみ	
第2-185図14	宣和通寶	1119	北宋	2.4	23.5	真書	SK146		
第2-185図15	元豐通寶	1078	北宋	2.8	25.3	篆書	SK146		
第2-185図16	不明	—	—	3.0	23.5	—	SK146	「豊」「寶」のみ	
第2-185図17	洪武通寶	1368	明	2.6	22.5	—	SK146		
第2-188図3	不明	—	—	2.7	22.6	—	SK7		
第2-192図21	元祐通寶	1086	北宋	2.6	24.1	篆書	SK44		
第2-192図22	聖宋元寶	1101	北宋	2.1	23.7	行書	SK44		
第2-192図23	無文銭	—	—	2.0	22.3	—	SK44		
第2-194図10	元祐通寶	1086	北宋	3.1	24.1	行書	SK45		
第2-199図27	元豐通寶	1078	北宋	3.2	24.0	行書	SD2		
第2-199図28	不明	—	—	2.2	22.4	—	SD2		
第2-200図3	元豐通寶	1078	北宋	3.0	25.3	行書	SK185		
第2-201図14	天聖元寶	1023	北宋	2.6	23.8	真書	D地区II層		
第2-201図47	不明	—	—	1.2	—	—	E地区II層	「符」「通」のみ	
第2-205図1	不明	—	—	2.8	—	—	SK162		
第2-207図5	元符通寶	1098	北宋	2.8	23.9	行書	SK227		
第2-217図5	熙寧元寶	1068	北宋	2.6	23.6	篆書	SK255		
第2-240図8	祥符通寶	1009	北宋	1.7	23.8	—	SK217		
第2-251図2	不明	—	—	2.3	24.0	—	SA314 P129		
第2-251図6	開元通寶	621	唐	2.5	23.5	—	SA314 P274		
第2-256図2	不明	—	—	1.5	23.0	—	SK166		
第2-258図6	開元通寶	621	唐	2.3	23.9	—	P258		
第2-260図2	熙寧元寶	1068	北宋	3.6	24.1	真書	SK184上層		
第2-260図16	景德元寶	1004	北宋	2.4	24.2	—	SK184中層		
第2-260図17	元豐通寶	1078	北宋	3.1	23.9	行書	SK184中層		
第2-260図20	元符通寶	1098	北宋	2.6	24.9	篆書	SK184下層		
第2-262図14	元豐通寶	1078	北宋	2.8	23.7	篆書	SK158上層		
第2-262図15	不明	—	—	2.0	23.0	—	SK158上層		

第7次遺物観察表(銭貨)

挿図No.	銭貨名	初鑄 造年	国・王朝名	重さ (g)	直径 (mm)	書体	遺構名	備考	図版 No.
第2-265図2	不明	—	—	2.4	25.0	—	P4		
第2-268図12	治平元貨	1064	北宋	3.2	22.9	真書	C地区Ⅱ層下部		
第2-268図15	聖宗元貨	1101	北宋	3.0	24.5	篆書	SS1		
第2-268図16	朝鮮通貨	1423	李氏朝鮮	2.7	23.8	—	SS1		
第2-268図17	元豊通貨	1078	北宋	—	—	—	Ⅲa層	10枚張り付いている	
第2-268図33	天聖元貨	1023	北宋	2.9	25.1	篆書	C地区Ⅲa・b層		
第2-268図34	天聖元貨	1023	北宋	2.7	24.8	真書	C地区Ⅲa・b層		
第2-268図35	皇宋通貨	1038	北宋	2.1	23.7	真書	C地区Ⅲa・b層	星形孔	
第2-268図36	不明	—	—	2.3	23.8	—	C地区Ⅲa・b層		
第2-268図55	熙寧元貨	1068	北宋	3.2	24.4	真書	SS2		
第2-268図56	熙寧元貨	1068	北宋	2.5	24.0	篆書	SS2		
第2-268図57	元豊通貨	1078	北宋	2.2	24.5	篆書	SS2		
第2-268図58	元祐通貨	1086	北宋	3.9	24.4	篆書	SS2		
第2-268図59	元祐通貨	1086	北宋	2.6	24.1	行書	SS2		
第2-268図60	聖宗元貨	1101	北宋	2.9	24.2	行書	SS2		
第2-268図61	不明	—	—	3.1	25.6	—	SS2		
第2-268図62	不明	—	—	2.6	24.2	—	SS2		
第2-268図63	不明	—	—	1.4	23.4	—	SS2	無文銭?	
第2-268図77	不明	—	—	1.3	—	—	C地区Ⅳ層	「楽」「寶」のみ	
第2-268図89	元豊通貨	1078	北宋	2.6	24.5	行書	SS3		
第2-268図108	永樂通貨	1408	明	3.4	24.6	—	C地区Ⅴb層		
第2-269図20	不明	—	—	0.7	—	—	C1・2・3区	「寧」のみ	
第2-269図29	元祐通貨	1086	北宋	2.8	24.4	篆書	C1・2・3区		
第2-269図35	天聖元貨	1023	北宋	2.9	24.3	真書	C1・2・3区		
第2-269図36	皇宋通貨	1038	北宋	3.5	24.3	真書	C1・2・3区		
第2-269図37	紹定通貨	1225	南宋	2.1	24.1	—	C1・2・3区	背五	
第2-269図38	不明	—	—	0.8	—	—	C1・2・3区	「武」のみ	
第2-269図45	咸平通貨	998	北宋	2.6	25.0	—	C1・2・3区		
第2-269図46	元豊通貨	1078	北宋	3.4	24.5	篆書	C1・2・3区		
第2-270図7	嘉泰通貨	1201	南宋	2.4	24.5	—	P409	背四	
第2-277図29	至道元貨	995	北宋	1.9	22.4	真書	C地区SK260		
第2-277図30	元祐通貨	1086	北宋	2.4	23.4	篆書	C地区		
第2-277図31	洪武通貨	1368	明	2.3	21.9	—	D地区	背一銭	
第2-277図32	不明	—	—	0.8	—	篆書	C地区P361	「元」「豊」のみ	
第2-277図33	不明	—	—	1.3	—	篆書	C地区P3	「豊」のみ	
第2-277図34	不明	—	—	1.4	23.3	—	C地区		
第2-277図35	不明	—	—	2.6	23.4	—	D地区P109		
第2-277図36	不明	—	—	1.2	—	真書	E地区SK44	「元」のみ	
第2-277図37	不明	—	—	1.8	20.6	—	E地区SX346		

第7次調査区観察表①(金属製品)

押図No.	品 種	材質	部位		寸法 (単位cm)							重量 (g)	遺 構 名	備 考	図版 No.
			部位	部位	長さ	幅	高さ	厚さ	穴径	底径	半径				
第2-13図16	金具	鉄	—	長径	(3.5)	短径	—	器高	1.1	12.0	SB306周辺	SK782 六角形 目釘有り		49	
第2-15図13	飾金具	銅	—	長さ	(4.9)	幅	0.9	厚さ	0.5	1.4	SD710				
第2-15図14	不明	鉄	—	長さ	(5.9)	幅	0.5	厚さ	—	—	SD710				
第2-26図24	鍋?	鉄	—	長さ	—	幅	—	厚さ	0.6	—	SD766				
第2-26図25	火打金	鉄	—	長径	9.0	短径	2.9	厚さ	0.4	45.9	SD766	紐掛穴	49		
第2-39図3	釘	鉄	—	長さ	(4.6)	幅	0.3	厚さ	—	—	ST748	端部欠損			
第2-39図4	釘	鉄	—	長さ	(4.4)	幅	0.4	厚さ	—	—	ST748	端部つぶれている			
第2-39図5	釘	鉄	—	長さ	(5.4)	幅	0.3	厚さ	—	—	ST748	上部打撃によりつぶれている			
第2-39図6	釘	鉄	—	長さ	(4.1)	幅	0.4	厚さ	—	—	ST748	端部欠損			
第2-39図7	釘	鉄	—	長さ	(4.9)	幅	0.3	厚さ	—	—	ST748	上部欠損			
第2-55図2	金具	銅	—	長さ	5.0	幅	0.5	厚さ	0.5	7.2	SK722				
第2-60図151	金具	鉄	—	長さ	(6.0)	幅	1.4	厚さ	—	9.1	SD791	穿孔あり			
第2-60図152	不明	銅	—	長さ	10.0	幅	0.5	厚さ	0.4	4.3	SD791				
第2-62図51	環状飾金具	銅	完形	長さ	1.4	幅	1.4	厚さ	0.2	1.2	SD538				
第2-64図4	金具	銅	—	長さ	(2.7)	幅	0.6	厚さ	0.6	1.3	SE541鋳形内	中空			
第2-71図29	金具	鉄	—	長さ	(4.3)	幅	1.5	穴径	0.4	(7.9)	SK557一括	目釘穴に棒状鉄製品			
第2-74図11	鍋	鉄	口縁部	口徑	—	底径	—	器高	—	(32.6)	SK511				
第2-76図26	鍵	銅	—	長さ	8.8	幅	0.6	厚さ	0.2	20.5	SK571		49		
第2-78図55	鍵	銅	錠前	長さ	(4.5)	幅	1.2	厚さ	2.3	18.0	SK734		49		
第2-83図5	火箸	鉄	—	長さ	(14.9)	径	0.4	穴径	0.2	(24.7)	SK508	中または中空			
第2-83図6	火箸	鉄	—	長さ	(19.8)	幅	0.4	厚さ	0.5	38.7	SK508	先が欠損	49		
第2-85図19	不明	銅	—	長さ	3.3	幅	0.3	厚さ	0.3	0.8	I 層	棒状			
第2-85図31	鉄砲玉	鉛	—	径	1.2	—	—	—	—	9.4	II 層	中世			
第2-85図72	止め金具	銅	—	長さ	1.4	幅	1.4	厚さ	0.2	1.6	G 地区 S752				
第2-88図31	小柄	鉄・銅	—	長さ	9.2	幅	1.5	厚さ	0.6	20.6	SD192下層	鉄芯銅板巻き			
第2-88図81	刀子	鉄	柄	長さ	(6.5)	幅	1.1	厚さ	0.4	(12.6)	SD192上層				
第2-88図82	金具	鉄	—	長さ	(7.9)	幅	0.5	厚さ	—	(19.5)	SD192上層	先端丸く円環をつくる			
第2-92図27	裝飾金具	銅	—	長さ	2.5	幅	2.4	厚さ	0.4	5.1	SD294		51		
第2-92図28	釘	鉄	完形	長さ	6.1	幅	0.7	厚さ	0.5	—	SD294				
第2-104図5	金具	銅	—	長さ	1.7	幅	1.7	厚さ	0.2	1.6	SRI83				
第2-109図21	不明	銅	—	長さ	7.5	幅	0.5	厚さ	0.5	7.4	SK 9	棒状			
第2-109図22	小柄	鉄・銅	柄	長さ	(9.9)	幅	—	厚さ	0.3	22.7	SK 9	鉄芯銅板巻き	46		
第2-109図23	小柄	鉄・銅	柄	長さ	(9.6)	幅	0.8	厚さ	0.4	(29.2)	SK 9	鉄芯銅板巻き	46		
第2-112図3	火箸	鉄	—	長さ	(15.5)	幅	0.5	厚さ	—	(17.4)	SK169				
第2-112図4	火箸	鉄	—	長さ	(8.4)	幅	0.4	厚さ	—	(7.0)	SK169				
第2-115図3	釘	鉄	完形	長さ	8.4	幅	0.5	厚さ	—	—	SK150				
第2-144図11	釘	鉄	完形	長さ	6.6	幅	0.6	厚さ	—	—	SK135				
第2-162図9	不明金具	鉄	完形	長さ	—	幅	—	厚さ	—	34.2	SK104		49		
第2-175図38	飾金具	銅	—	長さ	1.0	幅	3.8	厚さ	0.1	2.0	SK126	目貨?	51		
第2-177図14	刀子	鉄	—	長さ	(9.2)	幅	1.2	厚さ	—	(7.1)	SK128				
第2-180図19	釘	鉄	完形	長さ	4.8	幅	0.6	—	—	—	SE108				
第2-182図38	火箸	鉄	—	長さ	26.0	径	0.5	—	—	28.0	SE331	2ヶ所で大きく折れ曲がる			
第2-182図39	火箸	鉄	—	長さ	8.0	幅	0.6	—	—	20.4	SE331				
第2-185図18	鍋	鉄	完形	長さ	27.3	幅	18.3	厚さ	0.5	1071.7	SK146		47		
第2-185図19	鍋	鉄	—	長さ	31.5	幅	17.6	厚さ	0.6	1400.0	SK146		47		
第2-185図20	包丁	鉄	—	長さ	23.9	幅	4.8	厚さ	0.3	141.6	SK146	鞘の木質付着	47		
第2-185図21	刀子	鉄	—	長さ	11.7	幅	1.3	厚さ	0.2	19.3	SK146				
第2-185図22	釘	鉄	—	長さ	5.6	幅	1.2	厚さ	1.0	—	SK146				
第2-185図23	釘	鉄	—	長さ	7.6	幅	0.6	—	—	—	SK146				
第2-185図24	釘	鉄	—	長さ	7.0	幅	0.6	—	—	—	SK146				
第2-185図25	釘	鉄	完形	長さ	4.3	幅	0.5	—	—	—	SK146				
第2-185図26	釘	鉄	—	長さ	8.9	幅	0.5	—	—	—	SK146				
第2-192図26	楔	鉄	完形	長さ	7.0	幅	2.8	厚さ	1.3	92.2	SK44				
第2-194図11	小柄	鉄・銅	—	長さ	11.8	幅	1.7	厚さ	0.5	22.4	SK45	鉄芯銅板巻き			
第2-194図12	へら	鉄	—	径	6.5	—	—	厚さ	0.3	57.6	SK45				
第2-199図29	不明	鉄	—	長さ	7.4	幅	0.3	—	—	11.3	SK141	刀子か?			
第2-200図6	金具	鉄	—	長さ	4.3	幅	1.1	厚さ	0.3	7.7	SK182				
第2-213図3	不明	鉄	—	長さ	4.4	幅	0.3	外径	0.4	2.1	SK261	管状			
第2-227図1	五徳	鉄	—	径	25.0	幅	1.5	厚さ	0.5	—	SK204				
第2-240図9	釘	鉄	完形	長さ	5.9	幅	0.6	厚さ	0.6	—	SK217				
第2-246図5	小柄	鉄・銅	—	長さ	9.8	幅	1.3	厚さ	0.5	33.3	SK 1	鉄芯銅板巻き			
第2-246図6	小柄	鉄	—	長さ	9.1	幅	1.3	厚さ	0.2	12.2	SK 1				
第2-246図7	楔	鉄	—	長さ	5.8	幅	1.3	厚さ	0.7	27.5	SK 1				
第2-251図4	鍵	鉄	—	長さ	9.6	幅	0.9	厚さ	0.5	19.2	SA314	P229	49		
第2-251図5	鍵	銅	—	長さ	16.4	幅	1.2	厚さ	1.0	61.2	SA314	P256	49		
第2-260図1	小匙	銅	—	長さ	9.7	幅	1.0	厚さ	0.2	3.0	SK184上層				
第2-260図18	鍋	鉄	—	長さ	16.9	幅	16.9	厚さ	0.2	313.5	SK184中層	目釘			
第2-262図13	かんざし	銅	—	長さ	6.2	幅	0.3	厚さ	0.1	1.3	SK158上層				
第2-268図32	鑿	銅	—	長さ	5.4	幅	1.0	厚さ	0.8	14.6	III a・b 層				
第2-268図37	楔	鉄	—	長さ	5.1	幅	1.2	厚さ	0.6	—	III a・b 層				
第2-268図53	鍋?	銅	—	長さ	3.1	幅	3.1	厚さ	0.5	14.5	SS 2				
第2-268図64	和バサミ	鉄	—	長さ	7.4	幅	2.4	厚さ	0.3	13.8	SS 2		49		
第2-268図65	火箸	鉄	—	長さ	10.2	幅	0.5	厚さ	0.4	18.7	SS 2				
第2-268図78	五徳?	鉄	—	径	18.0	幅	2.0	厚さ	0.9	41.8	IV a 層				
第2-268図90	釘	鉄	—	長さ	9.3	幅	0.8	厚さ	0.8	—	SS 3				

第7次調査区観察表②（金属製品）

挿図 No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位cm)						重量 (g)	遺 構 名	備 考	図版 No.
				長さ	9.0	幅	0.7	厚さ	0.7				
第2-268図121	釘	鉄	—	長さ	9.0	幅	0.7	厚さ	0.7	—	Vb層		
第2-268図125	刀子	鉄	—	長さ	10.1	幅	1.0	厚さ	0.2	12.5	VI層		
第2-269図9	不明	銅	—	長さ	6.4	幅	0.8	厚さ	0.3	7.6	C1-2-3区		
第2-270図5	不明	鉄	—	径	25.0	幅	1.8	厚さ	0.3	80.1	P374		
第2-270図9	メダイ様金属製品	銅	—	長さ	1.3	幅	1.2	厚さ	0.3	1.7	C地区	小型	51

第16次調査区遺物観察表①（土器・陶磁器類）

神図 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺構名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第3-3図1	弥生土器	甕	在地	—	(8.0)	—	SD18	胎土在地産	
第3-3図2	弥生土器	甕	在地	(20.6)	—	—	D区		
第3-7図1	甕	碗	中国(越州窯)	—	(9.4)	—	SK31		
第3-7図2	古代土師器	かまど	在地	—	—	—	SK31	胎土在地産	
第3-8図1	黒色土器	内黒碗	—	—	(6.6)	—	Ⅱ層~B層		
第3-8図2	古代土師器	甕	在地	(25.0)	—	—	Ⅱ層~B層	企教型甕 胎土海部産 or 北九州産	
第3-11図1	在地系土師器	小皿	在地	(9.6)	(8.2)	1.1	SD18		
第3-11図2	陶器	甕	備前	—	—	—	SD18	中世2期	
第3-11図3	陶器	甕	中国(越南産)	—	—	—	SD18		
第3-11図4	瓦質土器	播鉢	在地	—	—	—	SD18		
第3-11図5	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SD18		
第3-12図1	京都系土師器	小皿	—	—	—	—	SK284	0期 搬入品	
第3-12図2	京都系土師器	皿	—	(11.6)	—	2.1	S283	0期 搬入品	
第3-15図1	ロクロ目土師器	皿	在地	(15.2)	6.0	4.0	SD17		
第3-15図2	ロクロ目土師器	小皿	在地	(10.2)	(6.0)	2.0	SD17	口縁部スス付 燈明皿	
第3-15図3	陶器	甕	備前	(12.4)	—	—	SD17		
第3-15図4	在地系土師器	皿	在地	—	—	—	SD17		
第3-15図5	在地系土師器	皿	在地	(16.0)	—	—	SD17		
第3-15図6	在地系土師器	皿	在地	—	(5.5)	—	SD17		
第3-15図7	在地系土師器	皿	在地	—	—	—	SD17		
第3-15図8	ロクロ目土師器	皿	在地	—	(7.8)	—	SD17		
第3-15図9	ロクロ目土師器	小皿	在地	10.6	5.8	2.1	SD17		
第3-15図10	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	(5.9)	1.8	SD17	搬入品 0期	
第3-15図11	京都系土師器	皿	在地	(14.4)	—	1.6	SD17	搬入品 0~1期	
第3-17図1	陶器	広口甕	備前	—	—	—	S278	茶瓶	
第3-17図2	黒釉陶器	甕	タイ	—	—	—	S278		
第3-17図3	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	S278	外面剥離あり 被熱か?	
第3-18図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK66	E群	
第3-19図1	五彩	甕	中国(磁州窯)	—	—	—	SK96		
第3-19図2	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	SK96	河野B類	
第3-19図3	在地系土師器	皿	在地	—	7.0	—	SK96	板状圧痕	
第3-19図4	京都系土師器	小皿	在地	(9.4)	—	2.0	SK96	口縁部1ヶ所、打ち欠きあり 1期	
第3-20図1	ロクロ目土師器	皿	在地	(13.0)	—	2.2	SP41	ワラ圧痕	
第3-22図1	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SD23	近世1期 底部十字襷目	
第3-22図2	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SD23	外面にスス付 被熱か? 少し赤変 3期	
第3-24図1	青花	碗	中国	—	(9.0)	—	SD110		
第3-24図2	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SD110		
第3-24図3	瓦質土器	火鉢	在地	(36.0)	—	—	SD110	壺後型	
第3-24図4	瓦質土器	播鉢	在地	—	—	—	SD110		
第3-24図5	在地系土師器	小皿	在地	(8.0)	—	2.0	SD110	板状圧痕?	
第3-24図6	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.5	SD110	3期	
第3-26図1	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK14	近世1b期	
第3-26図2	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK14		
第3-26図3	在地系土師器	皿	在地	—	5.6	1.0	SK14		
第3-26図4	在地系土師器	皿	在地	(12.0)	(7.0)	2.5	SK14		
第3-26図5	在地系土師器	皿	在地	(11.5)	(7.4)	2.5	SK14		
第3-26図6	京都系土師器	皿	在地	10.8	—	2.2	SK14	黒斑あり。1期	
第3-26図7	京都系土師器	皿	在地	11.8	—	2.4	SK14	1期	
第3-26図8	京都系土師器	皿	在地	10.5	—	1.9	SK14	内面に少しスス付 1期	
第3-26図9	京都系土師器	皿	在地	10.2	—	2.1	SK14	2期	
第3-26図11	在地系土師器	るつぼ	在地	(9.4)	—	2.8	SK14	内面に赤褐色と緑色の付着物あり	
第3-26図12	在地系土師器	るつぼ	在地	—	—	—	SK14	内面の口縁部に赤褐色の付着物あり 口縁上部は高熱のため、変質、膨張、変色	
第3-28図1	緑釉陶器	盤	中国(磁州窯)	—	—	—	SK15		
第3-28図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(10.4)	(3.6)	4.9	SK15	E群	
第3-28図3	陶器	舟徳利	朝鮮王朝	—	—	—	SK15		
第3-28図4	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK15	近世1類	
第3-28図5	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK15		
第3-28図6	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SK15	河野B-2類	
第3-28図7	京都系土師器	皿	在地	12.4	—	2.5	SK15	2期	
第3-28図8	京都系土師器	皿	在地	12.2	—	2.3	SK15	2期	
第3-28図9	土師質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK15		
第3-29図1	京都系土師器	皿	在地	(15.6)	—	2.5	SK36	3期	
第3-31図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK122		
第3-31図2	黒釉陶器	甕	タイ	—	—	—	SK122		
第3-31図3	焼締陶器	鉢	華南	—	—	—	SK122		
第3-31図4	陶器	鉢	備前	—	—	—	SK122		
第3-31図5	在地系土師器	坏	在地	(12.8)	(6.8)	3.7	SK122	板状圧痕	
第3-31図6	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	—	2.6	SK122	内面、被熱によりスス付 2期	
第3-32図1	青花	—	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK162	E群	
第3-32図2	陶器	播鉢	備前	(34.0)	—	—	SP292	近世1期	
第3-33図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	Ⅱ層	F群	
第3-33図2	焼締陶器	鉢	中国	—	—	—	Ⅱ層	B類	
第3-33図3	陶器	播鉢	備前	—	—	—	Ⅱ層	近世1C期	
第3-33図4	陶器	播鉢	備前	—	(9.2)	—	Ⅱ層	近世1期	

第16次調査区遺物観察表② (土器・陶磁器類)

挿圖 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第3-33図5	京都系土師器	皿	在地	(10.0)	—	2.3	Ⅱ層	1期	
第3-33図6	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	1.8	Ⅱ層	2期	
第3-33図7	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	Ⅱ層	口縁部打ち欠き 3期	
第3-33図8	在地系土師器	坏	在地	(11.8)	(6.0)	2.9	A層		
第3-33図9	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	—	1.8	A層	2期	
第3-33図10	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	2.2	A層	3~4期	
第3-33図11	在地系土師器	坏	在地	—	(9.0)	2.0	B層		
第3-33図15	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	B2層	河野B-1類	
第3-34図1	緑釉陶器	盤	中国 (磁窯)	—	—	—	A区		
第3-37図1	瓦質土器	鉢	防長系	(23.2)	—	—	SD565		
第3-37図2	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	(10.3)	3.4	SD565	板状圧痕	
第3-37図3	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	(9.8)	3.8	SD565		
第3-37図4	在地系土師器	坏	在地	13.1	7.7	3.5	SD565	口縁部打ち欠き 板状圧痕	
第3-37図5	在地系土師器	坏	在地	(13.6)	(11.4)	3.6	SD565	板状圧痕	
第3-37図6	在地系土師器	小皿	在地	7.3	5.8	1.5	SD565	口縁部打ち欠き 破砕 板状圧痕	
第3-37図7	在地系土師器	小皿	在地	7.6	6.2	1.5	SD565	板状圧痕	
第3-37図8	在地系土師器	皿	—	—	—	—	SD565	大内系	
第3-37図9	在地系土師器	坏	在地	12.2	9.0	3.1	SD565	口縁部打ち欠き 破砕 板状圧痕	
第3-37図10	在地系土師器	坏	在地	(12.8)	(8.0)	3.2	SD565	口縁部打ち欠き 板状圧痕	
第3-37図11	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	(7.6)	3.7	SD565		
第3-37図12	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	(9.6)	2.9	SD565		
第3-37図13	在地系土師器	坏	在地	(12.8)	9.0	3.5	SD565		
第3-37図14	在地系土師器	小皿	在地	(8.2)	(6.0)	1.7	SD565	半分に割られている 板状圧痕	
第3-37図15	在地系土師器	小皿	在地	8.2	5.6	2.0	SD565	口縁部2ヶ所、打ち欠き 破砕 板状圧痕	
第3-37図16	在地系土師器	坏	在地	12.2	8.0	3.8	SD565	口縁部打ち欠き 破砕 板状圧痕	
第3-37図17	在地系土師器	坏	在地	(13.0)	9.0	3.4	SD565	破砕 板状圧痕	
第3-37図18	在地系土師器	坏	在地	12.2	8.0	3.8	SD565	口縁部打ち欠き 破砕 板状圧痕	
第3-37図19	在地系土師器	坏	在地	(11.4)	8.4	3.6	SD565	口縁部打ち欠き 破砕 板状圧痕	
第3-37図20	在地系土師器	小皿	在地	7.6	5.6	1.8	SD565	口縁部打ち欠き 破砕 板状圧痕	
第3-37図21	白磁	皿	中国	—	—	—	SD565		
第3-37図22	瓦質土器	壺	在地	—	—	—	SD565		
第3-37図23	瓦質土器	鍋	在地	(26.6)	—	—	SD565		
第3-37図24	瓦質土器	鍋	在地	(33.6)	—	—	SD565	被熱により赤変 外面スス付筋	
第3-37図25	在地系土師器	坏	在地	(12.8)	9.6	3.8	SD565	内面に赤変 被熱か? 板状圧痕	
第3-37図26	在地系土師器	坏	在地	12.6	9.2	3.2	SD565	口縁部打ち欠き	
第3-37図27	在地系土師器	坏	在地	12.0	8.0	3.8	SD565		
第3-37図28	在地系土師器	坏	在地	(12.0)	(8.4)	4.0	SD565	口縁部打ち欠き 板状圧痕	
第3-37図29	在地系土師器	坏	在地	12.4	3.6	8.4	SD565	口縁部打ち欠き 口縁にスス付筋 灯明皿	
第3-37図30	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	(8.0)	2.9	SD565		
第3-37図31	在地系土師器	坏	在地	(12.0)	7.0	3.3	SD565	撒入品	
第3-37図32	在地系土師器	坏	在地	(13.0)	(6.2)	4.0	SD565	撒入品	
第3-37図33	在地系土師器	坏	在地	(15.6)	—	3.2	SD565		
第3-37図34	在地系土師器	坏	在地	(13.2)	(9.2)	4.3	SD565	板状圧痕	
第3-37図35	在地系土師器	坏	在地	(12.2)	(8.0)	4.4	SD565	板状圧痕	
第3-37図36	在地系土師器	坏	在地	(13.4)	11.2	3.7	SD565	板状圧痕	
第3-37図37	在地系土師器	坏	在地	13.8	10.2	3.7	SD565	板状圧痕	
第3-37図38	在地系土師器	坏	在地	12.6	8.8	3.3	SD565	板状圧痕	
第3-37図39	在地系土師器	坏	在地	(13.0)	9.6	3.5	SD565	板状圧痕	
第3-37図40	在地系土師器	坏	在地	(13.0)	8.8	4.0	SD565	口縁部打ち欠き 板状圧痕	
第3-37図41	在地系土師器	坏	在地	(13.2)	(8.0)	3.1	SD565		
第3-37図42	在地系土師器	坏	在地	(12.9)	(9.0)	3.1	SD565	板状圧痕	
第3-37図43	在地系土師器	坏	在地	(12.6)	(9.4)	3.2	SD565	板状圧痕	
第3-37図44	在地系土師器	坏	在地	(12.8)	(8.4)	3.1	SD565	底部にゆがみあり 板状圧痕	
第3-37図45	在地系土師器	坏	在地	(13.2)	(10.1)	3.2	SD565		
第3-37図46	在地系土師器	坏	在地	(13.0)	(9.9)	3.4	SD565		
第3-37図47	在地系土師器	坏	在地	(11.8)	(8.4)	3.5	SD565		
第3-37図48	在地系土師器	小皿	在地	7.7	6.7	2.3	SD565		
第3-37図49	在地系土師器	小皿	在地	8.2	5.7	2.7	SD565	口縁部打ち欠き	
第3-37図50	在地系土師器	小皿	在地	(7.8)	(6.4)	1.2	SD565		
第3-37図51	在地系土師器	小皿	在地	7.6	6.4	1.6	SD565	外面、底部、被熱 口縁部打ち欠き逆位でつぶれる 胎土 A 撒入品 板状圧痕	
第3-37図52	在地系土師器	小皿	在地	(9.4)	(8.0)	1.4	SD565	胎土撒入品	
第3-37図53	在地系土師器	小皿	在地	8.4	6.8	1.4	SD565	板状圧痕	
第3-37図54	在地系土師器	小皿	在地	(8.2)	(6.4)	1.5	SD565		
第3-37図55	在地系土師器	小皿	在地	(7.6)	(5.8)	1.3	SD565		
第3-37図56	在地系土師器	小皿	在地	(8.0)	(6.6)	1.5	SD565		
第3-37図57	在地系土師器	小皿	在地	(8.2)	(7.0)	1.2	SD565		
第3-37図58	在地系土師器	小皿	在地	7.6	6.0	1.7	SD565	板状圧痕	
第3-37図59	在地系土師器	小皿	在地	(8.0)	(6.0)	1.6	SD565	板状圧痕	
第3-37図60	在地系土師器	小皿	在地	(7.2)	5.8	1.8	SD565	板状圧痕 胎土撒入品	
第3-37図61	在地系土師器	小皿	在地	7.6	6.1	1.0	SD565	板状圧痕	
第3-37図62	在地系土師器	小皿	在地	(7.8)	(6.0)	1.3	SD565	板状圧痕	
第3-37図63	在地系土師器	小皿	在地	(7.8)	(5.0)	1.4	SD565		
第3-37図64	在地系土師器	小皿	在地	(7.8)	(5.6)	1.6	SD565	板状圧痕 胎土撒入品	
第3-37図65	在地系土師器	小皿	在地	(7.4)	—	1.2	SD565		

第16次調査区遺物観察表③(土器・陶磁器類)

押図 No.	器 種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第3-37図66	京都系土師器	皿	—	—	—	—	SD565	大内系	
第3-37図67	在地系土師器	皿	—	—	—	—	SD565	大内系	
第3-37図68	京都系土師器	皿	—	—	—	—	SD565	大内系	
第3-38図1	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SD599	中世3b期	
第3-38図2	在地系土師器	小皿	在地	(7.0)	(5.6)	1.6	SD599		
第3-38図3	在地系土師器	小皿	在地	(8.0)	(5.6)	1.6	SD599		
第3-38図4	瓦質土器	鉢	在地	(23.7)	—	4.3	SD599	胎土海部産	
第3-39図1	在地系土師器	坏	在地	—	(8.0)	—	SD595		
第3-39図2	在地系土師器	小皿	在地	(7.2)	(5.0)	1.9	SD595		
第3-39図3	在地系土師器	小皿	在地	(8.4)	(6.4)	1.4	SD595	内面、被熱により赤変	
第3-40図1	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	SD598		
第3-40図2	在地系土師器	坏	在地	—	—	—	SD598	被熱により赤変	
第3-41図1	苜磁	碗	中国(龍泉窯)	(14.6)	—	—	SD590	貫入あり D類	
第3-41図2	白磁	皿	中国	—	—	—	SD590	A-3群	
第3-41図3	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SD590	河野B-1類	
第3-41図4	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SD590		
第3-41図5	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	SD590		
第3-41図6	土師質土器	鍋	在地	(28.0)	—	—	SD590		
第3-41図7	在地系土師器	耳皿	在地	—	—	—	SD590		
第3-41図8	ロクロ目土師器	皿	在地	—	—	—	SD590		
第3-42図1	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK534	中世6a期	
第3-42図2	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK534		
第3-42図3	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SK534		
第3-42図4	ロクロ目土師器	皿	在地	11.8	6.0	2.1	SK534	被熱により少し赤変 板状圧痕	
第3-43図1	在地系土師器	坏	在地	(14.2)	(11.4)	3.7	SK537		
第3-43図2	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	SX436	胎土海部産	
第3-43図3	土師質土器	鉢	在地	—	—	—	SK553		
第3-43図4	在地系土師器	小皿	在地	8.8	7.6	1.3	SK553	搬入品	
第3-43図5	在地系土師器	小皿	在地	(7.0)	5.8	1.3	SK553		
第3-43図6	在地系土師器	小皿	在地	(8.8)	(7.0)	1.5	SK553		
第3-43図7	在地系土師器	小皿	在地	(7.2)	(6.4)	1.4	SK553		
第3-43図8	京都系土師器	小皿	在地	(8.4)	—	2.2	SK553	被熱により少し赤変 2期	
第3-43図9	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK553		
第3-43図10	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK553	脚部(獣脚)	
第3-43図11	京都系土師器	るつぼ	在地	7.8	—	—	SK553	被熱により変色、硬化 気泡あり	
第3-43図13	在地系土師器	小皿	在地	(7.0)	(4.4)	1.7	SK591		
第3-43図14	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	SK591		
第3-46図1	苜磁	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	SF70	14間層 B類	
第3-46図2	陶器	甕	備前	—	—	—	SF70	14間層	
第3-46図3	瓦質土器	火鉢	在地	—	(24.0)	—	SF70	14間層 胎土海部産	
第3-46図4	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	SF70	14間層	
第3-46図5	在地系土師器	小皿	在地	—	1.2	—	SF70	14間層 胎土A	
第3-46図7	灰青釉陶器	碗	朝鮮王朝	(15.0)	—	—	SF70	13間層	
第3-46図8	瓦質土器	鍋	在地	(45.0)	—	—	SF70	13間層 外面にスス付着 河野B-1類	
第3-46図9	在地系土師器	小皿	在地	(7.4)	(4.5)	1.8	SF70	12硬化面	
第3-46図10	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SF70	12硬化面	
第3-46図12	苜花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SF70	11間層 E群	
第3-46図13	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SF70	11間層	
第3-46図14	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	SF70	11間層	
第3-46図15	瓦質土器	香炉	在地	(8.4)	—	—	SF70	11間層	
第3-46図16	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SF70	11間層 河野B-1類	
第3-46図19	在地系土師器	坏	在地	(11.8)	5.7	2.9	SF70	9間層 板状圧痕	
第3-46図20	在地系土師器	小皿	在地	(8.2)	(6.0)	1.7	SF70	9間層 板状圧痕	
第3-46図21	在地系土師器	小皿	在地	—	3.7	—	SF70	9間層	
第3-46図22	瓦質土器	播鉢	防長系	—	—	—	SF70	8間層	
第3-46図23	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SF70	6間層	
第3-46図24	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SF70	第3焼土層 中世6a期	
第3-46図25	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SF70	第3焼土層 中世6a期	
第3-46図26	在地系土師器	坏	在地	—	5.7	1.9	SK519		
第3-46図27	ロクロ目土師器	皿	在地	—	5.8	—	SF70	5硬化面上 ローリングはげしい	
第3-46図28	ロクロ目土師器	小皿	在地	(6.7)	(4.2)	1.6	SF70	5硬化面上	
第3-46図29	瓦質土器	鉢	在地	(19.6)	—	—	SF70	4間層	
第3-46図30	京都系土師器	皿	在地	(16.2)	—	2.5	SF70	3硬化面 被熱により赤変 3期	
第3-46図31	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SF70	3硬化面	
第3-46図32	ロクロ目土師器	坏	在地	—	5.8	—	SF70	3硬化面 板状圧痕	
第3-46図33	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SF70	3間層	
第3-46図35	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	1.9	S380	1期	
第3-46図36	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	S380	2期	
第3-46図37	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SF70	第2焼土層 1期	
第3-46図38	陶器	小甕	備前	—	4.7	—	SF70	2間層	
第3-46図39	瓦質土器	蓋	在地	—	—	—	SF70	2間層	
第3-46図40	磁器	小碗	朝鮮王朝	—	4.5	—	SX303	内外に貫入	
第3-47図2	陶器	甕	備前	—	—	—	SD304	SP298 近世1期	
第3-49図1	苜花	小盃	中国(景德鎮窯)	—	2.6	—	SK85		
第3-49図2	陶器	鉢	備前	—	—	—	SK85		

第16次調査区遺物観察表④ (土器・陶磁器類)

挿図 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第3-49図3	陶器	槽鉢	備前	(19.6)	—	—	SK85	中世6a期	
第3-49図4	陶器	皿	瀬戸美濃	(10.6)	(6.2)	2.6	SK85	内外に貫入あり 大甍3期	
第3-49図5	京都系土師器	小皿	在地	(9.6)	—	1.6	SK85	口縁部、被熱により少し赤変 2期	
第3-51図1	灰釉陶器	皿	唐津	—	4.4	—	SK189		
第3-51図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK189	F群	
第3-51図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.8)	—	—	SK189		
第3-51図4	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	5.6	—	SK189	被熱によりスス付着	
第3-51図5	白磁	皿	朝鮮王朝	—	—	—	SK189	内外に目跡	
第3-51図6	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK189	2期	
第3-51図7	京都系土師器	皿	在地	(13.3)	—	3.4	SK189	4期	
第3-56図2	在地系土師器	皿	在地	(13.0)	(6.8)	2.8	SD529	ロクロ目土師器に近い	
第3-56図3	在地系土師器	皿	在地	—	(6.4)	2.2	SD529	ロクロ目土師器に近い	
第3-56図4	ロクロ目土師器	皿	在地	(13.6)	(7.0)	2.9	SD529	板状圧痕	
第3-56図5	ロクロ目土師器	小皿	在地	9.0	4.8	1.7	SD529	口縁部半分打ち欠き	
第3-56図6	ロクロ目土師器	小皿	在地	(9.6)	6.0	1.9	SD529	板状圧痕	
第3-56図7	陶器	槽鉢	在地	—	—	—	SD529	中世3b期	
第3-56図8	瓦質土器	香炉	在地	(8.2)	—	4.0	SD529		
第3-57図1	在地系土師器	小皿	在地	8.6	4.5	1.9	SK399	口縁部故意に打ち欠き	
第3-59図1	陶器	壺	備前	—	—	—	SK533/534		
第3-59図2	在地系土師器	小皿	在地	(8.4)	4.8	1.7	SK533/534		
第3-59図3	在地系土師器	小皿	在地	9.6	—	2.1	SK533/534		
第3-59図7	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	SK533		
第3-59図8	ロクロ目土師器	皿	在地	(13.8)	(8.1)	2.6	SK533	底部に穿孔あり 板状圧痕	
第3-59図9	在地系土師器	坏	在地	—	(11.0)	—	SK533		
第3-59図10	在地系土師器	坏	在地	12.0	5.8	2.6	SK533	故意に打ち欠き 割っている	
第3-59図12	ロクロ目土師器	皿	在地	(16.0)	(7.0)	3.4	SK533	内面、被熱による剥離か?	
第3-59図13	在地系土師器	小皿	在地	(9.7)	(5.1)	2.2	SK533		
第3-59図14	在地系土師器	小皿	在地	9.8	4.4	2.1	SK533	河野E類	
第3-59図15	ロクロ目土師器	皿	在地	14.0	7.0	2.6	SK533	被熱により赤変 故意に破砕か?	
第3-59図16	在地系土師器	小皿	在地	(9.6)	(5.3)	1.7	SK533	河野E-2類	
第3-59図17	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(12.0)	—	—	SK533	B1群	
第3-59図18	ロクロ目土師器	小皿	在地	(10.0)	(5.6)	2.0	SK533	底部にスス付着	
第3-59図20	在地系土師器	小皿	在地	9.3	6.0	1.8	SK533	口縁部3ヶ所打ち欠き	
第3-59図21	ロクロ目土師器	皿	在地	(11.6)	(5.8)	2.9	SK533	内面、被熱	
第3-59図22	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	—	SK533	0期	
第3-59図23	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	SK533		
第3-59図24	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	SK533		
第3-59図25	瓦質土器	碗	在地	—	—	—	SK533		
第3-59図26	在地系土師器	皿	在地	(14.2)	(8.0)	3.2	SK533	京都系模倣	
第3-59図27	ロクロ目土師器	皿	—	—	—	—	SK533	大内系	
第3-59図28	在地系土師器	皿	—	(11.9)	—	1.5	SK533	大内系	
第3-59図29	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK533	被熱 0期	
第3-59図30	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK533	1期	
第3-59図31	京都系土師器	小皿	在地	(5.3)	—	1.9	SK533		
第3-60図1	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SK566	中世5b期	
第3-60図2	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SK566	中世5b期	
第3-60図3	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SK566	内面はツルツルに 使用の痕跡残る	
第3-60図4	在地系土師器	皿	—	—	(7.2)	—	SK566	大内系	
第3-60図5	ロクロ目土師器	皿	在地	—	6.0	—	SK566	口縁部、全周を打ち欠く 転用か?	
第3-61図1	在地系土師器	耳皿	在地	—	—	—	SK580		
第3-63図1	在地系土師器	坏	在地	11.4	8.0	3.3	SK581	口縁部に打ち欠き 板状圧痕	
第3-64図1	陶器	天目碗	中国	—	—	—	SP345		
第3-64図2	瓦質土器	—	在地	11.8	—	3.7	SK400	内面は黒く、外面は赤変 被熱か?	
第3-65図1	白磁	小皿	中国	(6.9)	—	—	SK138		
第3-68図1	在地系土師器	皿	在地	—	6.6	—	SK398		
第3-68図2	在地系土師器	台付皿	在地	(8.4)	(9.0)	2.6	SK398	口縁部、1ヶ所打ち欠き	
第3-68図3	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	—	2.2	SK398	1期	
第3-68図5	瓦質土器	鉢	防長系	—	—	—	SX431		
第3-68図6	在地系土師器	小皿	在地	(9.2)	(4.8)	1.7	SX431		
第3-68図7	土師質土器	火鉢	在地	—	—	—	SP540		
第3-68図8	陶器	槽鉢	備前	—	—	—	SK518	内面少しツルツル 中世6期	
第3-68図9	在地系土師器	皿	在地	(13.4)	5.6	3.6	SK518	被熱し、内面剥離の部分あり	
第3-68図10	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	2.4	SK518	2期	
第3-68図12	在地系土師器	るつぼ	在地	—	—	—	SK429	高温による被熱、変色、硬化 内面に黒色の軸状のもの(金属ではない)が付着	
第3-68図13	在地系土師器	小皿	在地	(7.6)	(6.0)	1.4	S589		
第3-68図14	在地系土師器	坏	—	(11.4)	(7.4)	3.7	S589	搬入品	
第3-68図15	在地系土師器	坏	在地	(11.4)	(8.6)	3.0	S589		
第3-70図1	京都系土師器	皿	在地	(10.8)	—	2.0	SK504	破砕 1期	
第3-71図1	京都系土師器	皿	在地	11.9	—	2.4	SK551	3期	
第3-71図2	京都系土師器	皿	在地	11.8	—	2.3	SK551	3期	
第3-72図2	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	2.0	SP549	1期	
第3-74図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(15.4)	—	—	SK510	B1群	
第3-74図2	白磁	鉢	中国	(13.2)	5.0	5.8	SK510		
第3-74図3	在地系土師器	坏	在地	(13.6)	(7.2)	3.3	SK510		



第16次調査区遺物観察表⑤（土器・陶磁器類）

標図 No.	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 No.
			口径	底径	器高			
第3-74図4	在地系土師器	坏	在地	12.4	—	3.2	SK510	底部裏やや赤変 被熱か?
第3-74図5	在地系土師器	坏	在地	—	5.4	—	SK510	
第3-74図6	在地系土師器	坏	在地	(11.6)	(3.4)	3.5	SK510	
第3-74図7	在地系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	1.4	SK510	
第3-74図8	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK510	
第3-74図9	陶器	甕	備前	—	—	—	SK510	中世6期
第3-74図10	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK510	中世5期
第3-74図11	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SK510	河野B-2類
第3-74図12	在地系土師器	坏	在地	(13.6)	—	2.3	SK510	
第3-74図13	京都系土師器	小皿	在地	(8.2)	—	2.1	SK510	2期
第3-74図14	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	2.4	SK510	3期
第3-76図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	5.0	—	S245	口縁部、全周打ち欠き E群
第3-76図3	青花	蓋	中国(景德鎮窯)	(8.6)	—	—	SK244	上部の把手が欠損している C群
第3-76図4	青花	菊花皿	中国	—	—	—	SK244	波状口縁
第3-77図1	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK299	近世1b期
第3-77図3	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.6)	—	—	SP455	B1群
第3-77図4	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	2.2	SP456	内面にスス付着 2期
第3-77図5	京都系土師器	皿	在地	(15.0)	—	2.3	SP456	少し赤変 被熱か? 1期
第3-77図6	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	2.4	SP456	3期
第3-78図1	五彩	碗	中国	(12.8)	—	—	SX312	五彩
第3-78図2	陶器	播鉢	備前	—	14.0	—	SP362	被熱で内面剥離部分あり 1587年?近世1b期
第3-78図3	青花	小坏	中国(景德鎮窯)	—	2.6	—	SK363	C群
第3-78図4	京都系土師器	皿	在地	12.6	—	2.1	SP442	1期
第3-80図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK123	C群
第3-80図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(9.8)	—	—	SK123	B1群
第3-80図3	陶器	鉢	備前	(29.8)	—	—	SK123	
第3-80図4	京都系土師器	皿	在地	(11.4)	—	2.7	SK123	3期
第3-80図5	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK123	3期
第3-80図6	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK123	3期
第3-82図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(9.2)	—	SK378	全体に貫入が入る B群
第3-82図2	白磁	輪花皿	中国	(11.8)	(7.0)	3.0	SK378	E-4群
第3-82図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.6)	—	—	SK378	E群
第3-82図4	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(13.2)	—	—	SK378	E群
第3-82図5	青花	皿	中国(涇州窯)	(10.8)	—	—	SK378	群箱底皿
第3-82図6	青花	皿	中国(涇州窯)	—	—	—	SK378	群箱底皿
第3-82図7	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK378	
第3-82図8	瓦質土器	火鉢	在地	—	(28.0)	—	SK378	板状圧痕
第3-82図9	ロクロ目土師器	坏	在地	(11.4)	6.0	2.8	SK378	
第3-82図10	ロクロ目土師器	小皿	在地	(9.0)	(5.4)	2.3	SK378	
第3-82図11	ロクロ目土師器	小皿	在地	(8.8)	4.8	2.2	SK378	破碎されている。
第3-82図12	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	—	3.4	SK378	3期
第3-83図1	陶器	広口甕	備前	—	—	—	SP176	
第3-83図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.6)	6.4	2.7	SK308	E群 底部に「万福収同」
第3-83図3	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	2.2	SK315	3期
第3-83図4	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SP323	近世1b期
第3-83図5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK358	E群
第3-83図6	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.0)	(6.0)	2.2	SP461	E群
第3-85図1	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	SP243	在地産の最新形式か?
第3-85図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(10.8)	—	—	SP247	C3類
第3-85図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SP249	E群
第3-85図4	青花	椀花皿	中国(龍泉窯)	—	—	—	SP249	内外面に貫入あり 口縁は花卉状に波打つ
第3-85図5	陶器	瓶子	瀬戸	—	—	—	SP249	
第3-86図1	磁器	鉢	中国	21.6	8.8	6.4	SK300	口縁、3ヶ所打ち欠き
第3-86図2	白磁	皿	中国	10.8	4.8	3.0	SK300	E2群
第3-86図3	白磁	小坏	中国	—	3.0	—	SK300	
第3-87図1	京都系土師器	小皿	在地	(8.9)	—	1.8	SK214	1期
第3-87図2	在地系土師器	皿	在地	(10.2)	(4.8)	2.7	SK214	京都系模倣
第3-88図1	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	2.3	SK242	2期
第3-88図2	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	1.8	SK242	被熱 2期
第3-89図1	在地系土師器	るつぼ	在地	—	—	—	SP155	内面から口縁にかけ、黒色の付着物(銅)高温による変質、硬化あり
第3-89図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SP156	D群
第3-89図6	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	—	SP231	3期
第3-90図1	京都系土師器	皿	在地	12.6	—	2.4	SB338	SP337 3期
第3-91図1	青花	皿	中国(涇州窯)	—	—	—	SK72	群箱底皿
第3-91図2	青花	碗	中国(龍泉窯)	(15.8)	—	—	SK72	内外に貫入がある B4類
第3-91図3	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK72	2期
第3-92図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(5.8)	—	SK222	E群
第3-93図1	京都系土師器	皿	在地	(10.0)	—	1.8	SK301	2期
第3-93図2	京都系土師器	小皿	在地	9.0	—	2.6	SK301	被熱 何らかの道具として使用か? 2期
第3-94図1	磁器	水注	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SP311	把手 7次 SK114出土片と接合
第3-95図1	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK71	内面の底部にスス付着 2期
第3-95図2	京都系土師器	小皿	在地	(7.2)	—	2.0	SK71	2期
第3-95図3	在地系土師器	小皿	在地	(6.4)	(4.4)	1.9	SK71	内外面、スス付着 外面剥離あり 灯明皿
第3-95図4	陶器	水注	備前	—	—	—	SK77	

第16次調査区遺物観察表⑥（土器・陶磁器類）

押図 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第3-95図5	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SK77	河野 B-2類	
第3-95図7	瓦質土器	壺	在地	—	—	—	SK153		
第3-95図8	青磁	碗	中国	(11.8)	—	—	SK153	C 3 類	
第3-95図9	在地系土師器	皿	在地	—	(5.0)	—	SK160		
第3-95図10	陶器	播鉢	—	—	—	—	SK316		
第3-95図11	陶器	壺	備前	—	—	—	SK316		
第3-95図12	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK316		
第3-95図13	瓦質土器	碗	在地	(11.2)	—	—	SK316	被熱 口縁部打ち欠き	
第3-95図14	京都系土師器	皿	在地	(9.8)	—	3.5	SK316	2 期	
第3-95図19	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK223	2 期	
第3-95図20	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	SK223	被熱	
第3-96図1	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	SK190		
第3-98図1	青磁	香炉	中国	—	—	—	SK325		
第3-98図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK325	B 群	
第3-98図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.6)	—	—	SK325	E 群	
第3-98図4	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	(4.0)	—	SK325	E 群	
第3-98図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(9.2)	(4.5)	2.1	SK325	B 1 群	
第3-98図6	華南三彩	鳥形水注	中国	—	—	—	SK325		
第3-98図7	褐釉陶器	ルソン壺	中国	—	(15.6)	—	SK325		
第3-98図8	陶器	壺	備前	—	—	—	SK325		
第3-98図9	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK325		
第3-98図10	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	SK325		
第3-98図11	瓦質土器	火鉢	在地	—	(10.2)	—	SK325		
第3-98図12	土師質土器	播鉢	在地	—	—	—	SK325		
第3-98図13	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	SK325		
第3-98図14	京都系土師器	皿	在地	12.2	—	3.1	SK325	2 期	
第3-98図15	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	—	2.2	SK325	被熱 何らかの道具として使用か? 2 期	
第3-98図16	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	1.4	SK325	外面スス付 底部を故意に抜いている? 2 期	
第3-98図17	京都系土師器	小皿	在地	8.8	—	2.5	SK325	口縁部、内外面スス付 灯明皿 2 期	
第3-99図1	陶器	播鉢	備前	—	—	—	SK133		
第3-101図1	青磁	碗	中国	(10.4)	—	—	SK188	C 3 類	
第3-101図2	白磁	皿	中国	—	—	—	SK188	E 2 類	
第3-101図3	白磁	皿	中国	—	(4.8)	—	SK188	E 2 類	
第3-101図4	白磁	菊花皿	中国	(12.0)	(8.8)	3.4	SK188	E 4 群	
第3-101図5	青釉陶器	皿	中国	—	—	—	SK188	靑翠釉	
第3-101図6	青花	皿	中国(漳州窯)	—	3.4	—	SK188		
第3-101図7	在地系土師器	皿	在地	(13.0)	(7.0)	3.1	SK188		
第3-101図8	口ク口目土師器	特小型皿	在地	4.1	2.6	1.3	SK188	口縁部、故意の打ち欠き	
第3-101図9	京都系土師器	皿	在地	(15.0)	—	2.6	SK188	被熱により、内面スス付 2 期	
第3-101図10	京都系土師器	皿	在地	(14.0)	—	2.4	SK188	2 期	
第3-101図11	京都系土師器	小皿	在地	8.8	—	2.4	SK188	2 期	
第3-101図12	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	2.2	SK188	口縁部、スス付 被熱により破砕 灯明皿 2 期	
第3-101図13	京都系土師器	小皿	在地	9.0	—	2.1	SK188	2 期	
第3-101図14	京都系土師器	小皿	在地	(8.4)	—	2.0	SK188	口縁部、内外面スス付 被熱して剥離激しい 灯明皿 2 期	
第3-101図15	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	1.9	SK188	2 期	
第3-101図16	京都系土師器	小皿	在地	(9.1)	—	2.1	SK188	被熱 2 期	
第3-101図17	京都系土師器	小皿	在地	5.8	3.6	1.7	SK188	2 期	
第3-101図18	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	2.6	SK188	3 期	
第3-101図19	在地系土師器	皿	在地	—	(6.6)	1.4	SK188		
第3-101図26	土師質土器	るつぼ	在地	—	—	—	SK188	鍋型か? 内外面に被熱による変色と硬化あり	
第3-102図1	陶器	小鉢	瀬戸美濃	—	—	—	SK81		
第3-102図2	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK81	2 期	
第3-102図3	土師質土器	るつぼ	在地	(10.8)	—	3.4	SK81	鍋型か? 内面が激しく赤変 被熱している	
第3-102図5	陶器	皿	瀬戸美濃	10.4	4.8	2.7	SP143	内外面に貫入 碁笥底皿 大窯 3 期	
第3-102図6	瓦質土器	播鉢	在地	—	—	—	SP143	河野 D-2類	
第3-104図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.6)	(6.1)	2.4	第1 焼土層	E 群	
第3-104図2	青釉陶器	小皿	中国	(5.9)	—	—	第1 焼土層	靑翠釉 波状口縁	
第3-104図3	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	第1 焼土層		
第3-104図4	京都系土師器	小皿	在地	(8.2)	—	1.5	第1 焼土層	4 期	
第3-104図5	京都系土師器	るつぼ	在地	—	—	—	第1 焼土層	外面に緑青の付着物あり 内面に黒色の付着物高温で変質銅製品用皿の転用	
第3-104図7	白磁	皿	中国	12.7	(7.0)	3.2	A 層	E-2群	
第3-104図8	白磁	小坏	中国	—	(3.0)	—	A 層		
第3-104図9	五彩	—	中国	—	—	—	A 層		
第3-104図10	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	A 層	E 群	
第3-104図11	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(9.4)	4.4	—	A 層	E 群	
第3-104図12	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(6.0)	—	A 層	E 群	
第3-104図13	華南三彩	鳥形水注	中国	—	—	—	A 層		
第3-104図14	黒釉陶器	小壺	中国	(3.6)	4.8	—	A 層	外面に剝離と釉の変色が見られる 被熱のためか? 産地不明	50
第3-104図15	褐釉陶器	ルソン壺	中国	—	—	—	A 層	茶道具	
第3-104図16	陶器	四耳壺	(メナムノイ窯)	(21.4)	—	—	A 層		
第3-104図17	瓦質土器	碗	在地	—	(5.0)	—	A 層		
第3-104図18	土師質土器	火鉢	在地	—	—	—	A 層		

第16次調査区遺物観察表⑦(土器・陶磁器類)

挿図 No.	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
			口径	底径	器高			
第3-104図19	京都系土師器	皿	在地	8.5	—	1.8	A層	2期
第3-104図20	京都系土師器	小皿	在地	9.0	—	2.0	A層	被熱のため、スス付着 内面剥離あり? 灯明皿 2期
第3-104図21	京都系土師器	小皿	在地	8.5	—	1.8	A層	スス付着 半分にわたっている 灯明皿 1~2期
第3-104図22	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	A層	被熱により赤変、表面剥離 3期
第3-104図23	在地系土師器	るつぼ	在地	(8.2)	5.0	3.0	A層	付着物は破片についているので、るつぼに転用か?
第3-104図37	青磁	碗	中国(龍泉窯)	(15.0)	—	4.0	第2焼土層	B4群
第3-104図38	青磁	盤	中国(龍泉窯)	—	—	—	第2焼土層	
第3-104図39	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(9.8)	—	—	第2焼土層	C群
第3-104図40	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(9.8)	(3.0)	3.0	第2焼土層	C群
第3-104図41	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(6.2)	0.9	第2焼土層	E群
第3-104図42	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.2)	—	—	第2焼土層	E群
第3-104図43	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.8)	(6.4)	3.0	第2焼土層	E群
第3-104図44	青花	小坏	中国(景德鎮窯)	(6.2)	2.6	3.9	第2焼土層	
第3-104図45	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(9.8)	—	—	第2焼土層	
第3-104図46	青花	碗	中国(漳州窯)	(13.0)	5.0	4.4	第2焼土層	
第3-104図47	青花	皿	中国(漳州窯)	(11.0)	—	—	第2焼土層	
第3-104図48	青花	碗	中国(漳州窯)	(11.1)	(3.4)	3.4	第2焼土層	
第3-104図49	黒釉陶器	壺	中国	—	—	—	第2焼土層	把手
第3-104図50	褐釉陶器	小壺	中国	7.8	—	—	第2焼土層	茶入れ
第3-104図51	焼粉陶器	鉢	華南	—	(15.4)	—	第2焼土層	
第3-104図52	陶器	播鉢	備前	—	—	—	第2焼土層	近世1b期
第3-104図53	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	第2焼土層	
第3-104図54	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	第2焼土層	
第3-104図55	在地系土師器	坏	在地	—	(6.2)	—	第2焼土層	
第3-104図56	京都系土師器	皿	在地	(11.6)	—	2.2	第2焼土層	2期
第3-104図57	京都系土師器	小皿	在地	(9.8)	—	—	第2焼土層	スス付着 破砕されている 灯明皿
第3-104図58	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	2.1	第2焼土層	内外面、被熱 2期
第3-104図59	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	2.0	第2焼土層	故意の破砕 被熱し、内外面剥離 灯明皿
第3-104図61	土師質土器	るつぼ	在地	(13.6)	—	—	第2焼土層	口縁に赤褐色の付着物あり 2次加熱により変色している
第3-104図78	古代土師器	瓶	在地	—	—	—	第2焼土層	把手 周辺のみめつ激しい
第3-104図79	青磁	盤	中国	(25.4)	—	—	B層上面	
第3-104図80	白磁	皿	中国	(10.2)	—	1.5	B層上面	E-2群
第3-104図81	白磁	皿	中国	(10.6)	—	1.7	B層上面	E-2群
第3-104図82	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	B層上面	E群
第3-104図83	青花	壺	中国(漳州窯)	(15.0)	—	3.5	B層上面	
第3-104図84	青花	碗	中国(漳州窯)	(12.4)	—	—	B層上面	C群模倣
第3-104図85	青花	碗	中国(漳州窯)	(12.8)	—	—	B層上面	全体的に気泡が多い
第3-104図86	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	B層上面	
第3-104図87	土師質土器	鍋	在地	—	—	—	B層上面	
第3-104図88	京都系土師器	皿	在地	10.9	—	2.0	B層上面	1期
第3-104図89	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.5	B層上面	被熱により少し赤変 2期
第3-104図90	京都系土師器	皿	在地	(13.2)	—	2.6	B層上面	破砕されている 2期
第3-104図91	京都系土師器	皿	在地	(16.2)	—	2.8	B層上面	破砕されている 2期
第3-104図92	京都系土師器	小皿	在地	8.5	—	2.1	B層上面	口縁部打ち欠き 破砕されている 1期
第3-104図93	京都系土師器	小皿	在地	(8.4)	—	2.4	B層上面	2期
第3-104図94	京都系土師器	小皿	在地	(7.8)	—	1.7	B層上面	2期
第3-104図95	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.4	B層上面	部分的に外面少し赤変。被熱し、剥離 3期
第3-104図96	京都系土師器	皿	在地	(8.2)	—	3.1	B層上面	3期
第3-104図97	在地系土師器	るつぼ	在地	(7.4)	—	—	B層上面	口縁内面に緑青と赤褐色の付着物あり 硬化
第3-104図115	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.8)	—	—	B層	B1群
第3-104図116	青花	小坏	中国(景德鎮窯)	(7.0)	—	—	B層	
第3-104図117	陶器	播鉢	備前	—	—	—	B層	中世5期
第3-104図118	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	B層	
第3-104図119	瓦質土器	鉢	在地	(27.0)	—	—	B層	河野C-2類 胎土海部産
第3-104図120	在地系土師器	皿	在地	(12.1)	(6.3)	1.9	B層	京都系模倣 被熱
第3-104図123	青磁	模花皿	中国	—	—	—	B-2層	
第3-104図124	陶器	播鉢	備前	—	—	—	B-2層	中世6b期
第3-104図125	土師質土器	火鉢	在地	—	—	—	B-2層	2次被熱で破砕
第3-104図126	瓦質土器	播鉢	在地	—	—	—	B-2層	
第3-104図127	在地系土師器	皿	在地	(12.0)	6.2	2.4	B-2層	
第3-104図128	京都系土師器	皿	在地	(14.4)	—	2.2	B-2層	1期
第3-104図129	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.3	B-2層	1期
第3-104図130	京都系土師器	皿	在地	(11.2)	—	1.9	B-2層	1期
第3-104図131	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	2.0	B-2層	1期
第3-104図132	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	1.7	B-2層	1期
第3-104図133	京都系土師器	皿	在地	16.8	—	3.0	B-2層	口縁部3ヶ所打ち欠きあり 3期
第3-104図134	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	1.9	B-2層	2期
第3-104図135	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	1.9	B-2層	2期
第3-104図136	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	—	2.6	B-2層	被熱し、赤変 2期
第3-104図137	京都系土師器	小皿	在地	8.4	—	2.0	B-2層	口縁部打ち欠き 2期
第3-104図138	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	B-2層	3期
第3-104図139	京都系土師器	小皿	在地	(9.0)	—	2.3	B-2層	口縁部にスス付着 灯明皿 3期
第3-104図140	在地系土師器	燗台	在地	—	(8.6)	—	B-2層	
第3-104図160	京都系土師器	皿	在地	(16.0)	—	2.4	B-2層	被熱により赤変 1期
第3-104図161	在地系土師器	特小型皿	在地	5.7	3.1	1.4	B-2層	スス付着 灯明皿

第16次調査区遺物観察表⑧ (土器・陶磁器類)

押図 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第3-104図163	白磁	皿	中国	(12.0)	(6.2)	2.8	第3 焼土層	E 群	
第3-104図164	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	(5.2)	2.2	第3 焼土層	C 群	
第3-104図165	青花	碗	中国(漳州窯)	—	—	—	第3 焼土層		
第3-104図166	青花	皿	中国(漳州窯)	(11.0)	(4.2)	3.3	第3 焼土層	蒜柄底皿	
第3-104図167	陶器	播鉢	備前	(29.0)	—	—	第3 焼土層	中世 6 a 期	
第3-104図168	在地系土師器	坏	在地	(11.6)	(6.4)	2.9	第3 焼土層	内面に少しスス付着 被熱か?	
第3-104図169	在地系土師器	坏	在地	(12.4)	6.8	3.2	第3 焼土層	破砕されている	
第3-104図170	在地系土師器	坏	在地	—	(4.6)	—	第3 焼土層		
第3-104図171	在地系土師器	坏	在地	—	(4.0)	—	第3 焼土層		
第3-104図172	在地系土師器	坏	在地	(12.0)	(6.0)	2.1	第3 焼土層		
第3-104図173	在地系土師器	小皿	在地	(7.6)	(5.2)	1.9	第3 焼土層		
第3-104図174	京都系土師器	皿	在地	13.0	—	2.3	第3 焼土層	スス付着 1 期	
第3-104図175	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	第3 焼土層	1 期	
第3-104図176	京都系土師器	皿	在地	(13.4)	—	2.0	第3 焼土層	被熱し、赤変、剥離 1 期	
第3-104図177	京都系土師器	皿	在地	(15.6)	—	3.1	第3 焼土層	内面、被熱により剥離か? 2 期	
第3-104図193	青花	皿	中国(漳州窯)	(10.5)	(5.0)	2.9	C 層上面		
第3-104図194	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	C 層上面		
第3-104図195	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	C 層上面	河野 D 類	
第3-104図196	瓦質土器	播鉢	在地	—	—	—	C 層上面		
第3-104図197	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	C 層上面	1 期	
第3-104図198	京都系土師器	皿	在地	(14.6)	—	1.9	C 層上面	被熱し、赤変 2 期	
第3-104図202	口ク口目土師器	皿	在地	(12.4)	(6.0)	2.4	C 層		
第3-104図203	口ク口目土師器	皿	在地	(15.6)	(8.0)	2.9	C 層		
第3-104図204	口ク口目土師器	小皿	在地	(8.4)	4.6	1.9	C 層		
第3-104図210	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	C 層		
第3-104図211	口ク口目土師器	皿	在地	(11.6)	6.4	2.8	第4 焼土層	口縁部、全周を打ち欠く 被熱し、赤変 板状圧痕	
第3-104図212	青磁	碗	中国(龍泉窯)	(12.8)	—	—	第4 焼土層	D 群	
第3-104図213	陶器	播鉢	備前	—	—	—	第4 焼土層	中世 3 期	
第3-104図214	陶器	播鉢	備前	—	—	—	第4 焼土層	中世 5 b 期	
第3-104図215	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	第4 焼土層	使用痕あり	
第3-104図216	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	第4 焼土層	河野 B-2 類	
第3-104図217	口ク口目土師器	小皿	在地	(9.0)	(5.0)	2.0	第4 焼土層	板状圧痕	
第3-104図218	在地系土師器	坏	在地	12.3	8.1	2.4	第4 焼土層	板状圧痕	
第3-104図219	在地系土師器	坏	在地	(14.0)	(10.0)	3.2	第4 焼土層	板状圧痕	
第3-104図220	在地系土師器	坏	在地	—	(6.8)	—	第4 焼土層	板状圧痕	
第3-104図221	在地系土師器	小皿	在地	(8.6)	(5.0)	1.8	第4 焼土層		
第3-104図222	在地系土師器	小皿	在地	(8.3)	(7.4)	1.3	第4 焼土層	口縁部 2ヶ所、打ち欠きあり 板状圧痕	
第3-104図223	在地系土師器	小皿	在地	(9.2)	(6.0)	1.4	第4 焼土層	破砕されている 板状圧痕	
第3-104図224	在地系土師器	小皿	在地	(7.8)	(5.0)	2.1	第4 焼土層		
第3-104図227	陶器	甕	在地	—	—	—	E 層	中世 4 ~ 5 期	
第3-104図228	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	E 層		
第3-104図229	在地系土師器	坏	在地	—	3.4	—	E 層		
第3-104図230	在地系土師器	坏	在地	—	11.6	3.2	E 層		
第3-104図231	在地系土師器	坏	在地	(10.2)	(7.4)	3.4	E 層		
第3-104図232	在地系土師器	坏	在地	(11.0)	(8.0)	3.5	E 層		
第3-104図233	在地系土師器	小皿	在地	(7.6)	(5.6)	1.1	E 層	板状圧痕	
第3-104図234	在地系土師器	小皿	在地	(7.8)	(7.4)	1.4	E 層		
第3-104図235	在地系土師器	小皿	在地	(8.4)	(6.0)	1.5	E 層		
第3-107図 2	瓦質土器	碗	在地	—	—	—	S558		
第3-107図 3	瓦質土器	碗	在地	—	—	—	S558		
第3-107図 4	在地系土師器	坏	在地	—	—	—	S558		
第3-107図 7	口ク口目土師器	皿	在地	(13.8)	—	2.3	S558		
第3-110図 1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SX547	C 群	
第3-110図 2	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SX547	河野 B-2 類	
第3-110図 3	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SX547	被熱し、赤変 2 期	
第3-111図 1	瓦質土器	火鉢	在地	(29.2)	—	—	SD548		
第3-111図 2	京都系土師器	小皿	在地	(8.4)	—	1.9	SK577	被熱し、剥離部分あり 2 期	
第3-111図 3	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SK577	河野 B-2 類	
第3-114図 1	青花	小坏	中国(景德鎮窯)	—	(2.4)	—	SX530		
第3-114図 2	青花	小坏	中国(漳州窯)	6.9	2.6	3.8	SX530		
第3-114図 3	白磁	碗	中国	(11.8)	—	—	SX530	E 2 類	
第3-114図 4	白磁	皿	中国	(11.4)	—	—	SX530	E 2 類	
第3-114図 5	在地系土師器	坏	在地	(8.8)	(4.3)	2.4	SX530	被熱により、内外面スス付着 口縁部打ち欠き	
第3-115図 1	陶器	甕	備前	—	—	—	SX535	中世 6 期	
第3-115図 2	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SX535	2 期	
第3-116図 1	陶器	甕	備前	—	—	—	SK531	中世 6 期	
第3-116図 2	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK531	双頭磁手	
第3-116図 3	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK531		
第3-116図 4	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK531	獸脚	
第3-116図 5	瓦質土器	鍋	防長系	—	—	—	SK531	被熱し、赤変 使用痕	
第3-116図 6	在地系土師器	皿	—	(15.0)	7.6	3.6	SK531	搬入	
第3-117図 2	在地系土師器	坏	在地	13.0	9.9	3.4	SS27		
第3-119図 1	在地系土師器	坏	在地	(11.0)	(5.2)	2.5	SK526	被熱により、赤変	
第3-119図 2	在地系土師器	皿	在地	—	6.0	—	SK526	口縁部、全周を打ち欠く	
第3-119図 3	口ク口目土師器	皿	在地	(8.4)	(5.4)	3.0	SK526	板状圧痕	

第16次調査区遺物観察表⑨ (土器・陶磁器類)

博図No.	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
			口徑	底徑	器高			
第3-119図4	口ク口目土師器	皿	在地	(10.0)	5.6	2.1	SK526	口縁部3ヶ所、故意に打ち欠く 板状圧痕
第3-119図5	口ク口目土師器	皿	在地	—	6.0	—	SK526	口縁部全周打ち欠く 板状圧痕
第3-119図6	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	4.6	SK526	被熱により赤変、剥離あり 破碎 3期
第3-119図7	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK526	被熱により、内面に赤変、剥離 板状圧痕
第3-119図8	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SK526	河野 B-3類
第3-120図1	青磁	盤	中国(龍泉窯)	—	—	—	S538	
第3-120図2	京都系土師器	小皿	在地	(7.6)	—	1.8	S538	内面にスス付着 灯明皿 2期
第3-120図3	口ク口目土師器	皿	在地	12.0	6.2	2.4	SP554	被熱により、赤変 板状圧痕
第3-120図4	在地系土師器	坏	在地	12.1	6.5	2.6	SP554	被熱により、内面スス付着 2つ穿孔あり 板状圧痕
第3-120図5	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	2.1	SP554	被熱により、内面スス付着、外面剥離あり 1期
第3-120図8	青花	壺	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK576	把手
第3-122図1	京都系土師器	皿	在地	(11.4)	—	1.5	SP497	2期
第3-122図3	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SP497	河野 B-1類
第3-122図4	瓦質土器	鍋	在地	(44.4)	—	—	SP497	外面にスス付着 河野 B-1類
第3-124図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	(4.4)	—	SX275	C群
第3-124図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	(5.0)	—	SX275	E群
第3-124図3	白磁	小碗	中国	(7.4)	—	—	SX275	
第3-124図4	白磁	皿	中国(景德鎮窯)	(18.8)	(10.4)	3.3	SX275	E2群
第3-124図5	瓦質土器	摺鉢	在地	—	—	—	SX275	
第3-124図6	京都系土師器	皿	在地	11.8	—	2.1	SX275	口縁部打ち欠き 破碎されている 2期
第3-126図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SX219	B1群
第3-126図2	青花	皿	中国(漳州窯)	—	—	—	SX219	
第3-126図3	焼締陶器	壺	中国南部	—	(9.6)	—	SX219	
第3-126図4	陶器	皿	瀬戸美濃	(11.6)	—	—	SX219	
第3-126図5	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SX219	河野 B-1類
第3-126図6	土師質土器	燗台	在地	(8.2)	7.0	7.2	SX219	
第3-126図8	白磁	菊花皿	中国	—	6.0	—	SX277	高台裏に「天下太平」の文字か? E-4類
第3-126図9	白磁	菊花皿	中国	—	4.5	—	SX277	E-4類
第3-126図10	白磁	皿	中国	(11.8)	(6.4)	2.4	SX277	E群
第3-126図11	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(10.4)	—	—	SX277	E群
第3-126図12	磁器	碗	中国(漳州窯)	—	5.0	—	SX277	高台に1~3mmの石突が多く付着 外底に親指状の指圧 or 欠損がある
第3-126図13	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.0)	—	—	SX277	
第3-126図14	陶器	鉢	備前	—	—	—	SX277	
第3-126図15	陶器	甕	常滑	—	—	—	SX277	
第3-126図16	陶器	甕	備前	—	—	—	SX277	中世6期
第3-126図17	陶器	摺鉢	備前	(13.2)	—	—	SX277	近世1a期
第3-126図18	瓦質土器	釜	在地	—	—	—	SX277	
第3-126図19	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SX277	
第3-126図20	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SX277	
第3-126図21	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SX277	
第3-126図22	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SX277	
第3-126図23	瓦質土器	火鉢	在地	—	(20.0)	—	SX277	内面被熱
第3-126図24	瓦質土器	鍋	在地	(44.0)	—	—	SX277	河野 B-1類
第3-126図25	瓦質土器	鍋	在地	(34.8)	—	—	SX277	河野 B-1類
第3-126図26	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SX277	
第3-126図27	瓦質土器	鍋	在地	(26.6)	—	—	SX277	
第3-126図28	土師質土器	摺鉢	在地	—	—	—	SX277	
第3-126図29	土師質土器	鍋	在地	(35.2)	—	—	SX277	外面被熱のため、スス付着
第3-126図30	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.0	SX277	2期
第3-126図31	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	—	2.5	SX277	2期
第3-126図32	京都系土師器	小皿	在地	(8.4)	—	2.2	SX277	2期
第3-126図33	京都系土師器	皿	在地	(20.4)	—	2.7	SX277	被熱? 3期
第3-126図34	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SX277	3期
第3-127図1	陶器	甕	備前	—	—	—	SK365	近世1期
第3-127図2	瓦質土器	火鉢	在地	(23.0)	(14.4)	5.2	SK365	口縁部付近にスス付着
第3-127図3	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SK365	
第3-127図4	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	—	2.6	SK365	被熱により赤変 2期
第3-127図5	京都系土師器	皿	在地	(11.0)	—	3.8	SK365	3期
第3-128図1	青釉陶器	小皿	中国	—	3.4	—	SK366	口縁部全周打ち欠く
第3-128図2	青磁	椀花皿	中国(龍泉窯)	(11.8)	4.4	3.1	SK366	
第3-128図3	在地系土師器	小皿	在地	—	—	—	SK366	
第3-128図4	京都系土師器	小皿	在地	9.0	—	2.2	SK366	口縁部スス付着 被熱により剥離 灯明皿 2期
第3-129図1	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK258	2期
第3-129図2	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SK262	河野 B-1類
第3-129図3	青花	小坏	中国(景德鎮窯)	—	2.6	—	SK411	
第3-130図1	陶器	ルンソウ壺	中国南部	—	—	—	SP508	把手
第3-132図1	瓦質土器	摺鉢	在地	—	—	—	SK108	河野 B-3類
第3-133図1	白磁	菊花皿	中国	—	—	—	SK261	E4群
第3-133図2	白磁	皿	中国	(11.8)	—	—	SK261	E2群 貫入あり
第3-133図3	白磁	皿	中国	—	—	—	SK261	E2群
第3-133図4	陶器	壺	備前	—	—	—	SK261	
第3-133図5	陶器	甕	備前	—	—	—	SK261	近世1期
第3-133図6	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK261	2期
第3-133図7	京都系土師器	小皿	在地	(8.8)	—	2.2	SK261	底部、被熱により円盤状に剥離 3期

第16次調査区遺物観察表⑩ (土器・陶磁器類)

挿圖 No.	器 種		生産地	法量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第3-133図 8	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SK261		
第3-134図 1	瓦質土器	鍋	在地	(28.7)	—	—	SK98		
第3-134図 4	京都系土師器	小皿	在地	(8.2)	—	1.9	SP105	スス付燗 灯明皿 2期	
第3-134図 5	京都系土師器	坏	在地	(11.2)	—	3.2	SP114	内面スス付燗 2期	
第3-134図 6	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.4)	—	—	SK115	E群	
第3-134図 7	在地系土師器	坏	在地	—	6.2	—	SK115	板状圧痕	
第3-134図 8	瓦質土器	鍋	在地	—	(16.8)	—	SK117		
第3-134図 9	在地系土師器	小皿	在地	—	(6.0)	—	SK260		
第3-134図10	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	S263	3~4期	
第3-134図11	青花	皿	中国(漳州窯)	—	(6.0)	3.0	SP410		
第3-135図 2	瓦質土器	碗	在地	—	—	—	SP405		
第3-135図 4	京都系土師器	皿	在地	(13.4)	—	2.3	SP417	2期	
第3-135図 5	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	SP427		
第3-135図 7	褐釉陶器	水注	中国	—	—	—	SD440	馬形	
第3-135図 8	瓦質土器	火鉢	在地	—	(22.2)	—	SD440		
第3-136図 5	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	3.0	SK420	2期 被熱により、赤変 剥離部分もあり	
第3-136図10	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	SP422	内面まめつ 中世6a期	
第3-136図11	京都系土師器	皿	備前	(11.7)	—	1.8	SP422	2期 内面、被熱により赤変	
第3-136図14	青花	碗	中国(漳州窯)	—	(4.6)	—	SP439		
第3-137図 1	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK236	2期	
第3-137図 3	京都系土師器	小皿	在地	—	—	—	S238	3~4期	
第3-137図 4	青花	碗	中国(漳州窯)	(9.0)	4.0	2.7	SK274	口縁部全周打ち欠き	
第3-137図 5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(9.9)	(2.6)	2.7	SK274	C群	
第3-137図 6	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	SK274		
第3-137図 8	青花	皿	中国(漳州窯)	(9.4)	(3.7)	2.7	SX402	碁箱底	
第3-137図 9	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	(4.4)	—	SK274	C群	
第3-137図11	土師質土器	釜	在地	(30.0)	—	—	SP418	内面、被熱により変色	
第3-137図12	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(10.8)	—	—	SK426	E群	
第3-137図13	陶器	小登	備前	4.0	—	—	SK426		
第3-139図 1	華南三彩	盤	華南	—	—	—	SK100		
第3-139図 2	陶器	鉢	備前	(23.2)	—	—	SK100		
第3-139図 3	土師質土器	登	在地	(16.0)	—	—	SK100		
第3-141図 1	青花	碗	中国(漳州窯)	(9.6)	(5.2)	3.5	SK257	1次または2次被熱により、露胎部分が赤茶けている	
第3-142図 1	在地系土師器	小皿	在地	(8.4)	(5.5)	2.2	SP102	口縁部を打ち欠き	
第3-142図 2	陶器	甕	備前	—	—	—	SK104	近世1期	
第3-142図 3	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	SK104	内面、被熱によりスス付燗 3~4期	
第3-142図 4	京都系土師器	皿	在地	(15.2)	—	2.3	SK106	被熱により赤変 2期	
第3-142図 5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	SK172	E群	
第3-142図 7	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	S264	口縁部を打ち欠き 破砕されている 3期	
第3-142図 8	陶器	甕	中国	—	(2.8)	—	SK267	茶入れ	
第3-143図 1	陶器	登	備前	—	(4.9)	—	II層	茶入れ	
第3-143図 2	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	—	2.3	第1焼土層	被熱により赤変 2期	
第3-143図 4	白磁	碗	華南	—	(6.2)	—	A層		
第3-143図 5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	—	—	A層	C群	
第3-143図 6	青花	碗	中国(景德鎮窯)	—	(4.6)	—	A層	E群	
第3-143図 7	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(19.2)	—	—	A層	F群	
第3-143図 8	五彩	皿	中国	—	—	—	A層		
第3-143図 9	五彩	皿	中国	—	(6.2)	—	A層		
第3-143図10	陶器	小皿	瀬戸美濃	(10.0)	(4.4)	1.9	A層	大甕3期	
第3-143図11	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	A層	中世6b期	
第3-143図12	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	A層	近世1a期	
第3-143図13	瓦質土器	—	在地	—	—	—	A層	把手	
第3-143図14	在地系土師器	坏	在地	(11.4)	(6.0)	2.9	A層	口縁部打ち欠き 被熱により赤変	
第3-143図15	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	A層	内面スス付燗 2期	
第3-143図16	京都系土師器	小皿	在地	(9.6)	—	1.9	A層	黒斑あり 2期	
第3-143図28	瓦質土器	碗	在地	—	(4.4)	—	第2焼土層	はりつけ高台	
第3-143図29	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	第2焼土層	1期	
第3-143図33	白磁	皿	中国(景德鎮窯)	(12.2)	6.0	2.9	B層上面		
第3-143図34	五彩	—	中国	—	—	—	B層上面		
第3-143図35	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	B層上面	近世1b期	
第3-143図36	京都系土師器	皿	在地	13.0	—	2.4	B層上面	故意に口縁部を打ち欠き 破砕被熱により赤変、スス付燗 2期	
第3-143図42	青磁	瓶	中国	(11.0)	—	—	B1層		
第3-143図43	白磁	皿	中国	(11.5)	(6.8)	3.2	B1層	E2群	
第3-143図44	陶器	舟徳利	朝鮮王朝	—	—	—	B1層		
第3-143図45	瓦質土器	擂鉢	在地	—	—	—	B1層	河野C-2類	
第3-143図46	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	2.0	B1層	2期	
第3-143図47	京都系土師器	るつぼ	在地	—	—	—	B1層	内面に赤褐色の付着物あり 高温による変色、硬化激しい転用か?	
第3-143図48	青磁	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	B2層		
第3-143図49	陶器	擂鉢	備前	—	—	—	B2層	中世6a期	
第3-143図50	在地系土師器	坏	在地	—	5.6	—	B2層	口縁部全周打ち欠き 破砕されている	
第3-143図52	白磁	皿	中国	—	(7.4)	—	第3焼土層直上		
第3-143図53	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.8)	—	—	第3焼土層直上	C群	
第3-143図54	京都系土師器	皿	在地	(13.2)	—	1.9	第3焼土層直上	1期	

第16次調査区遺物観察表①(土器・陶磁器類)

押図No.	器 種		生 産 地	法 量 (単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 No.
				口径	底径	器高			
第3-143図55	京都系土師器	皿	在地	(13.6)	—	2.8	第3焼土層直上	1期	
第3-143図56	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	—	2.8	第3焼土層直上	被熱により赤変 1~2期	
第3-143図57	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	2.2	第3焼土層直上	口縁部にスス付着 灯明皿	
第3-143図58	京都系土師器	特小型皿	在地	5.2	—	2.1	第3焼土層直上	口縁部1ヶ所打ち欠き 焼塩登の蓋に転用	
第3-143図64	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.6)	—	—	第3焼土層	B1群	
第3-143図65	青花	碗	中国(漳州窯)	—	—	—	第3焼土層		
第3-143図66	黄釉鉄絵陶器	—	中国(磁甌窯)	—	—	—	第3焼土層		
第3-143図67	陶器	舟徳利	朝鮮王朝	—	(14.6)	—	第3焼土層		
第3-143図68	陶器	摺鉢	備前	—	—	—	第3焼土層	中世6b期	
第3-143図69	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	第3焼土層		
第3-143図70	瓦質土器	鉢	在地	—	—	—	第3焼土層		
第3-143図71	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	第3焼土層	河野B-2類	
第3-143図72	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	第3焼土層		
第3-143図73	瓦質土器	碗	在地	—	(3.4)	—	第3焼土層	被熱により赤変	
第3-143図74	在地系土師器	坏	在地	(11.0)	(6.0)	3.3	第3焼土層		
第3-143図75	ロクロ目土師器	皿	在地	(11.6)	(6.5)	2.5	第3焼土層		
第3-143図76	ロクロ目土師器	小皿	在地	(8.2)	(5.4)	2.1	第3焼土層		
第3-143図77	京都系土師器	皿	在地	(17.4)	—	1.9	第3焼土層	1期	
第3-143図78	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	2.5	第3焼土層	口縁部打ち欠き 1期	
第3-143図79	京都系土師器	皿	在地	(13.2)	—	1.9	第3焼土層	1期	
第3-143図80	京都系土師器	皿	在地	—	—	—	第3焼土層	1期	
第3-143図81	京都系土師器	小皿	在地	(9.1)	—	1.8	第3焼土層	1期	
第3-143図82	京都系土師器	皿	在地	(13.2)	—	—	第3焼土層	口縁部打ち欠き 2期	
第3-143図83	京都系土師器	皿	在地	(17.0)	—	3.0	第3焼土層	破砕されている 3期	
第3-143図102	焼締陶器	甕	越南	—	—	—	C層上面		
第3-143図104	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.8)	(6.6)	2.9	C層	B1群	
第3-143図105	在地系土師器	小皿	在地	(10.4)	(4.6)	3.2	C層		
第3-143図108	青花	椀花皿	中国(龍泉窯)	(11.2)	—	—	第3B焼土層		
第3-143図109	青花	皿	中国(景德鎮窯)	—	—	—	第3B焼土層	B群	
第3-143図110	陶器	摺鉢	備前	—	—	—	第3B焼土層	内面、まめつ、ツルツルあり 中世6a期	
第3-143図111	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	第3B焼土層	河野B-2類	
第3-143図112	ロクロ目土師器	小皿	在地	—	—	—	第3B焼土層	被熱により赤変	
第3-143図113	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	—	—	第3B焼土層	1期	
第3-143図114	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	—	—	第3B焼土層	被熱より少し赤変、剥離あり 2期	
第3-143図116	青花	碗	中国(龍泉窯)	—	—	—	D層	C3類	
第3-143図117	陶器	甕	備前	—	—	—	D層		
第3-143図118	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	D層		
第3-143図119	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	D層	河野B-2類	
第3-143図120	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	D層	外面スス付着	
第3-143図121	在地系土師器	坏	在地	—	(6.2)	—	D層	口縁部全周打ち欠き 破砕されている	
第3-143図122	在地系土師器	小皿	在地	(8.1)	(4.0)	2.0	D層		
第3-143図123	在地系土師器	小皿	在地	(6.8)	(3.7)	1.7	D層	口縁部打ち欠き	
第3-143図124	在地系土師器	小皿	在地	(7.8)	(6.0)	1.9	D層	口縁部打ち欠き	
第3-143図125	在地系土師器	小皿	在地	7.0	5.0	2.3	D層	被熱により赤変 口縁部打ち欠き 灯明皿	
第3-143図126	ロクロ目土師器	皿	在地	—	8.8	—	D層		
第3-143図127	ロクロ目土師器	皿	在地	—	5.8	—	D層	口縁部全周打ち欠く	
第3-143図128	在地系土師器	小皿	在地	7.8	4.2	1.7	D層	口縁部打ち欠き 破砕されている	
第3-143図129	瓦質土器	鍋	在地	—	—	—	D層	河野B-2類	
第3-143図133	在地系土師器	小皿	在地	4.8	3.3	1.2	D層	口縁部打ち欠き 紡錘車に転用か?	
第3-144図1	青花	香炉	中国	—	(8.0)	—	近代溝		
第3-144図2	褐釉陶器	甕	越南	—	—	—	近代溝	褐色貼花龍文甕	
第3-145図1	弥生土器	甕	在地	—	(6.6)	—	その他	胎土海部産	
第3-145図2	弥生土器	台付鉢	在地	—	—	—	SK531	頸部径6.2cm	
第3-145図3	土師器	高坏	在地	—	—	—	その他	古墳前期	
第3-145図4	弥生土器	高坏	在地	—	—	—	その他	弥生中期	
第3-145図5	在地系土師器	小皿	在地	(8.6)	(4.0)	1.7	SK531	口縁部スス付着 灯明皿	
第3-143図57	京都系土師器	小皿	在地	8.6	—	2.2	第3焼土層直上	口縁部スス付着 灯明皿 2期	
第3-143図58	京都系土師器	小皿	在地	5.2	—	2.1	第3焼土層直上	口縁部1ヶ所、打ち欠き 焼塩登蓋としても使用?	

第16次調査区遺物観察表①(金属製品)

挿図 No.	品 種	材質	寸法 (単位cm)							重量 (g)	遺 構 名	備 考	図版 No.
			部位	長さ	幅	厚さ	穴径	内径	外径				
第3-20図2	銅製品	銅		長さ	4.5	幅	6.0	厚さ	1.0	4.6	S197	両端に取り付け部を持つ	
第3-24図7	釘	鉄		長さ	9.6	幅	0.8	厚さ	0.8	—	SD110		
第3-31図8	火箸?	鉄		長さ	4.5	幅	0.7	厚さ	0.5	9.6	SK122		
第3-33図13	鉄鍔	鉄		長さ	(7.3)	幅	1.2	厚さ	0.7	20.3	B層	上部欠損	
第3-33図14	火箸	鉄		長さ	(16.9)	幅	0.6	厚さ	0.6	19.9	B層	上下欠損 ねじれあり	
第3-34図2	小柄	鉄・銅		長さ	5.3	幅	1.6	厚さ	5.0	7.4	D区	おれている 芯は鉄	
第3-37図69	火箸	鉄		長さ	9.8	幅	8.0	厚さ	7.0	17.6	SD565		
第3-46図11	釘	鉄		長さ	8.2	幅	5.0	厚さ	5.0	14.1	SF70	12硬化面	
第3-46図18	釘	鉄		長さ	7.3	幅	6.0	厚さ	5.0	12.6	SF70	11同層	
第3-46図34	金具	—		長さ	8.3	幅	1.5	厚さ	3.0	14.2	SF70	3硬化面	
第3-47図1	釘	鉄		長さ	7.1	幅	5.0	厚さ	5.0	10.7	SB304	SP293	
第3-56図9	刀子	鉄		長さ	8.2	幅	1.1	厚さ	0.3	10.1	S529		
第3-56図10	釘	鉄		長さ	7.8	幅	0.5	厚さ	—	—	S529		
第3-65図2	釘	鉄		長さ	6.4	幅	0.5	厚さ	—	—	SK173		
第3-72図1	火箸?	鉄		長さ	(9.2)	幅	2.0	厚さ	5.0	17.1	SK445		
第3-74図17	釘	鉄		長さ	3.6	幅	0.4	厚さ	—	—	SK510		
第3-74図18	釘	鉄		長さ	10.4	幅	0.6	厚さ	—	—	SK510		
第3-74図19	刀子	鉄		長さ	22.3	幅	1.2	厚さ	0.2	25.0	SK510		
第3-76図1	分銅	銅		長さ	1.1	幅	1.2	厚さ	5.0	3.5	SX287		49
第3-77図7	青銅製品	青銅		長さ	6.2	幅	1.4	厚さ	4.0	17.6	SP456		
第3-87図3	火箸	鉄		長さ	32.6	幅	0.9	穴径	0.3	50.9	SK214		
第3-88図3	かんざし	銅		長さ	18.9	幅	1.2	厚さ	3.0	20.7	SK242		51
第3-95図6	金具	鉄		長さ	3.7	幅	1.0	穴径	0.4	4.6	SK77		
第3-104図6	小柄	鉄・銅		長さ	10.0	幅	1.2	厚さ	0.5	29.4	第1焼土層	鉄の柄に銅版をまく	
第3-104図32	青銅製品	青銅		長さ	1.5	幅	4.0	厚さ	4.0	0.4	A層		
第3-104図33	針	鉄		長さ	(16.7)	幅	0.4	厚さ	0.3	22.3	A層		
第3-104図34	金具	鉄		長さ	13.0	幅	1.6	厚さ	0.7	125.5	A層	用途不明	
第3-104図35	金具	鉄		長さ	7.8	幅	0.6	厚さ	—	—	A層	先端部欠損	
第3-104図62	飾金具	青銅		長さ	4.2	幅	9.0	厚さ	1.0	1.9	第2焼土層		
第3-104図74	鑿	鉄		長さ	5.2	幅	0.9	厚さ	0.4	15.3	第2焼土層		
第3-104図75	釘	鉄		長さ	5.7	幅	0.4	厚さ	0.3	—	第2焼土層	直角に曲がる	
第3-104図76	鉄板	鉄		長さ	4.5	幅	0.9	厚さ	0.2	6.4	第2焼土層		
第3-104図112	刀子	鉄		長さ	4.3	幅	1.2	厚さ	0.2	5.2	B層上面		
第3-104図113	鑿	鉄		長さ	5.6	幅	1.2	厚さ	0.5	31.2	B層上面		
第3-104図114	釘	鉄		長さ	8.2	幅	0.7	厚さ	0.7	—	B層上面		
第3-104図122	釘	鉄		長さ	5.9	幅	0.9	厚さ	0.2	22.0	B層	先端部欠損 模の可能性も	
第3-104図141	刀装具	銅	切羽	長さ	4.5	幅	2.5	厚さ	0.1	3.9	B-2層		51
第3-104図142	刀装具	銅	切羽	長さ	4.5	幅	2.5	厚さ	0.3	8.1	B-2層	全周に刻みがある、厚手のもの	51
第3-104図143	匙	銅		長さ	14.4	幅	3.1	厚さ	0.2	16.3	B-2層		51
第3-104図156	釘	鉄		長さ	7.3	幅	1.2	厚さ	0.5	—	B-2層		
第3-104図182	留金具	銅		長さ	1.8	幅	0.9	厚さ	0.4	1.1	第3焼土層		
第3-104図189	火箸	鉄		長さ	13.0	幅	0.7	厚さ	0.4	19.9	第3焼土層		
第3-104図190	火箸	鉄		長さ	21.0	幅	0.5	厚さ	0.5	34.9	第3焼土層		
第3-104図191	刀子	鉄		長さ	18.3	幅	0.8	厚さ	0.2	31.5	第3焼土層		
第3-104図192	刀子	鉄		長さ	(12.4)	幅	1.9	厚さ	0.4	39.3	第3焼土層		
第3-104図205	金具	鉄		長さ	6.6	幅	1.1	穴径	0.4	10.0	C層	穿孔あり	49
第3-104図225	銅製品	銅		長さ	1.3	幅	1.7	厚さ	0.5	0.5	D層		
第3-104図226	石突き	銅		長さ	3.8	幅	0.9	厚さ	0.3	3.4	D層		
第3-104図236	釘	鉄		長さ	4.9	幅	0.5	厚さ	0.5	3.8	E層	直角に折れる	
第3-104図238	金具	銅		長さ	3.3	幅	1.1	厚さ	0.3	1.7	E層	SP379	
第3-107図7	毛抜き	鉄		長さ	9.0	幅	0.8	厚さ	0.5	22.9	S558		51
第3-114図10	釣り針	鉄		長さ	3.6	幅	0.2	厚さ	0.2	0.2	SX530		
第3-114図11	鎌	鉄		長さ	(12.9)	幅	2.1	厚さ	0.4	57.7	SX530		
第3-115図3	金具	銅		長さ	4.6	幅	0.4	厚さ	0.4	5.5	SX535		
第3-115図4	釘	鉄		長さ	5.7	幅	0.5	厚さ	0.4	5.2	SX535		
第3-116図8	釘	鉄		長さ	3.7	幅	0.8	厚さ	0.8	13.8	SK531	先端部欠損	
第3-116図9	模	鉄		長さ	4.8	幅	1.4	厚さ	0.4	11.7	SK531		
第3-122図5	石突き	鉄		長さ	6.7	外径	1.1	内径	0.8	18.7	SP497		
第3-122図6	釘	鉄		長さ	4.6	幅	0.4	厚さ	0.4	—	SP497		
第3-124図8	火箸	鉄		長さ	10.0	幅	0.4	厚さ	0.7	12.1	SX275		
第3-126図7	火箸	鉄		長さ	9.5	幅	0.5	厚さ	0.4	15.1	SX219		
第3-126図38	金具	青銅		長さ	3.4	幅	1.0	厚さ	0.1	1.7	SX277		
第3-127図9	刀子	鉄		長さ	(15.1)	幅	1.7	厚さ	0.2	15.1	SK365		
第3-127図10	釘	鉄		長さ	5.6	幅	0.4	厚さ	0.4	3.1	SK365		
第3-127図11	鉄製品	鉄		長さ	3.6	幅	4.7	厚さ	0.5	25.2	SK365		
第3-128図5	釘	鉄		長さ	4.6	幅	0.3	厚さ	0.3	—	SK366		
第3-128図6	釘	鉄		長さ	10.6	幅	0.6	厚さ	0.6	17.7	SK366		
第3-129図4	鑿	鉄		長さ	(10.9)	幅	1.0	厚さ	0.7	24.1	SK411		
第3-134図3	釘	鉄		長さ	11.5	幅	0.7	厚さ	0.5	18.4	SK98		
第3-135図6	金具	銅		長さ	2.0	幅	2.1	厚さ	2.1	22.5	SP424	鉛が多い 灰色かかる	
第3-136図1	金具	鉄		長さ	5.3	幅	0.9	厚さ	0.3	6.7	SP401		
第3-136図4	釘	鉄		長さ	6.1	幅	0.4	厚さ	0.4	6.1	SP419		
第3-136図7	小柄	鉄・銅		長さ	10.7	幅	1.4	厚さ	0.6	36.4	SK420		
第3-137図7	釘	鉄		長さ	10.7	幅	0.7	厚さ	0.7	16.9	SK274		
第3-143図19	小匙	青銅		長さ	8.4	幅	0.5	厚さ	0.2	2.8	A層		



第16次調査区遺物観察表②（金属製品）

押図No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位cm)					重量 (g)	遺 構 名	備 考	図版 No.	
				長さ	幅	厚さ	長さ	幅					厚さ
第3-143図22	小柄	鉄・銅		長さ	9.1	幅	1.4	厚さ	0.6	25.7	A層	鉄芯	
第3-143図23	ヘラ	鉄		長さ	(5.6)	幅	(4.1)	厚さ	0.5	61.2	A層		
第3-143図24	釘	鉄		長さ	4.6	幅	0.5	厚さ	0.5	—	A層		
第3-143図25	釘	鉄		長さ	3.8	幅	0.3	厚さ	0.3	—	A層		
第3-143図31	釘	鉄		長さ	9.4	幅	0.5	厚さ	0.5	9.5	第2焼土層		
第3-143図38	釘	鉄		長さ	7.6	幅	0.4	厚さ	0.4	6.6	B I層		
第3-143図39	釘	鉄		長さ	5.7	幅	0.5	厚さ	0.4	—	B I層		
第3-143図88	小柄	鉄・銅		長さ	10.5	幅	1.3	厚さ	0.6	25.3	第3焼土層	鉄芯	
第3-143図89	金具	銅		長さ	3.8	幅	0.9	厚さ	0.4	1.6	第3焼土層	表面にさびていない部分あり	
第3-143図101	鉄製品	鉄		長さ	10.0	幅	0.4	厚さ	0.4	15.6	第3焼土層		
第3-143図115	刀子	鉄		長さ	12.7	幅	1.4	厚さ	0.3	30.8	第3 B 焼土層		

第16次調査区遺物観察表（土製品）

押図No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位cm)					重量 (g)	遺 構 名	備 考	図版 No.	
				縦	横	厚さ	縦	横					厚さ
第3-7図3	竈	土製	羽口	—	—	—	—	—	—	—	SK31		
第3-31図7	メンコ	土師質		縦	6.0	横	5.7	厚さ	8.0	—	SK122	京都系土師器底部を転用	
第3-33図12	土鐘	土師質		長さ	4.8	幅	1.3	—	—	—	B層	B類	
第3-56図1	メンコ	土師質		縦	—	横	—	厚さ	—	—	SD529	ロク口目土師器底部を転用	
第3-59図4	土鐘	土師質		長さ	6.0	幅	1.7	—	—	17.8	SK533/534		
第3-59図11	メンコ	土師質		縦	5.2	横	5.9	厚さ	0.9	—	SK533	糸切り土師器底部の転用	
第3-68図11	土鐘	土師質		長さ	3.4	幅	1.1	—	—	4.7	SK518	A類	
第3-95図16	土鐘	土師質		長さ	4.5	幅	1.5	—	—	9.6	SK316	A類	
第3-98図18	土鐘	土師質		長さ	2.8	幅	1.2	—	—	5.4	SK325	棒状	
第3-104図24	土鐘	土師質		長さ	3.4	幅	1.5	—	—	6.8	A層	A類	
第3-104図25	土鐘	土師質		長さ	2.5	幅	0.8	—	—	1.6	A層	A類	
第3-104図26	土鐘	土師質		長さ	4.1	幅	1.3	—	—	7.6	A層	A類	
第3-104図60	土鐘	土師質		長さ	4.3	幅	1.5	—	—	10.1	第2焼土層	A類	
第3-104図121	土鐘	土師質		長さ	4.9	幅	1.2	—	—	7.0	B層	A類	
第3-104図180	土鐘	土師質		長さ	3.0	幅	1.0	—	—	3.1	第3焼土層	A類	
第3-104図181	土鈴	土製		胴径	(3.2)	—	—	—	—	—	第3焼土層	穿孔あり	
第3-104図200	土鈴	土製		—	—	—	—	—	—	—	C層上面		
第3-117図1	土鐘	土師質		長さ	4.7	幅	1.0	—	—	4.8	SP486	A類	
第3-122図2	土鐘	土師質		長さ	4.5	幅	1.3	—	—	6.4	SP497	A類	
第3-126図35	メンコ	瓦質		縦	5.3	横	5.0	厚さ	2.0	—	SX277	平瓦転用	
第3-126図37	土鐘	土師質		長さ	3.4	幅	2.0	—	—	11.6	SX277	B類	
第3-137図2	土鐘	土師質		長さ	5.5	幅	1.8	—	—	16.0	SP236		
第3-143図27	土壁	土製		長さ	(11.0)	幅	6.6	—	—	—	A層		
第3-143図37	土鐘	土師質		長さ	4.1	幅	0.9	—	—	3.2	B I層	B類	
第3-143図84	灯しんおさえ	土製		縦	2.3	横	2.3	厚さ	5.5	—	第3焼土層	土板に穿孔、土器片転用ではない	
第3-143図85	土鐘	土師質		長さ	4.6	幅	1.3	—	—	9.2	第3焼土層	A類	
第3-143図86	土鐘	土師質		長さ	5.2	幅	1.7	—	—	12.4	第3焼土層	A類	
第3-143図87	メンコ	土師質		縦	2.8	横	2.7	厚さ	4.5	—	第3焼土層	土器片転用	
第3-143図131	土鐘	土師質		長さ	5.3	幅	1.0	—	—	4.8	D層	B類	
第3-143図132	土鐘	土師質		長さ	5.1	幅	1.6	—	—	12.5	D層	B類	

第16次調査区遺物観察表（石製品）

挿図 No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位cm)					重量 (g)	遺 構 名	備 考	図版 No.	
				径	—	高さ	—	—					
第3-22図3	石臼	安山岩		径	—	高さ	—	—	—	244.5	SD23	粗い成形在地で模倣したものか？	
第3-28図11	石皿	安山岩		長さ	16.7	幅	8.4	厚み	4.9	1,044.5	SK15		
第3-37図70	石臼	凝灰岩		—	—	—	—	—	—	—	SD565		
第3-49図7	石臼	砂岩	下臼	—	—	—	—	—	—	201.4	SK85		
第3-59図6	砥石	粘板岩		長さ	(1.8)	幅	(2.5)	厚み	0.4	3.1	SK533/534		
第3-70図2	石臼	安山岩		径	30.0	高さ	5.7	—	—	3,700.0	SK504		
第3-85図6	砥石	粘板岩		長さ	(4.5)	幅	(4.8)	厚み	0.6	22.9	SP249	被熱	
第3-89図4	アカスリ	軽石		長さ	5.5	幅	4.2	厚み	1.6	11.2	SP216		
第3-90図2	砥石	結晶片岩		長さ	(11.3)	幅	(5.7)	厚み	2.4	314.7	SB338	SP337	
第3-95図17	茶臼	和泉砂岩		径	—	高さ	—	—	—	211.7	SK316		
第3-95図18	茶臼	和泉砂岩		径	—	高さ	—	—	—	268.2	SK316		
第3-102図4	石臼	凝灰岩		径	—	高さ	—	—	—	—	SK81	安山岩質凝灰岩	
第3-104図36	硯	—		長さ	(3.3)	幅	(2.8)	厚さ	1.3	—	A 層		
第3-104図77	砥石	—		長さ	(7.4)	幅	(8.7)	厚さ	4.3	497.1	第2焼土層	被熱	
第3-104図157	砥石	粘板岩		長さ	4.2	幅	2.9	厚さ	0.3	6.4	B II 層		
第3-104図158	砥石	粘板岩		長さ	5.8	幅	4.8	厚さ	0.9	55.5	B II 層		
第3-104図159	砥石	—		長さ	(8.1)	幅	(3.6)	厚さ	1.4	78.0	B II 層		
第3-104図237	砥石	—		長さ	(5.9)	幅	3.5	厚さ	0.6	29.4	E 層		
第3-126図39	石臼	安山岩	下臼	径	—	高さ	—	—	—	2,700.0	SX277		
第3-127図12	砥石	—		長さ	(7.8)	幅	(5.2)	厚さ	2.3	159.2	SK365		
第3-135図1	石皿	安山岩		縦	(21.2)	横	(26.2)	厚さ	6.2	5,800.0	SP266	被熱	
第3-136図6	鉢	凝灰岩		口径	(14.2)	底径	(12.0)	器高	7.1	—	SK420		
第3-136図15	砥石	結晶片岩		長さ	(11.0)	幅	(6.3)	厚さ	1.6	233.5	SP439		
第3-140図5	砥石	—		長さ	(7.8)	幅	(2.9)	厚さ	(1.9)	62.4	SK163		
第3-142図9	砥石	結晶片岩		長さ	(12.1)	幅	(6.6)	厚さ	3.3	591.5	A 層		
第3-143図26	砥石	—		長さ	(6.2)	幅	(3.0)	厚さ	0.7	21.7	A 層		
第3-143図32	砥石	—		長さ	(6.2)	幅	(4.3)	厚さ	1.3	65.2	第2焼土層		
第3-143図40	砥石	—		長さ	11.2	幅	5.9	厚さ	1.4	144.4	B 層上面	被熱により剥離	
第3-143図41	石製品	—		長さ	(4.7)	幅	5.5	厚さ	1.0	59.3	B 層上面		
第3-143図107	砥石	—		長さ	(8.2)	幅	(3.6)	厚さ	2.3	98.7	C 層		
第3-143図136	石鍋	滑石		—	—	—	—	—	—	—	D 層		
第3-143図137	石鍋	滑石		—	—	—	—	—	—	—	D 層		

第16次調査区遺物観察表（瓦）

挿図 No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位cm)					遺 構 名	遺 構 名	図版 No.	
				長さ	幅	高さ	—	—				
第3-11図6	平瓦			長さ	11.3	幅	8.1	厚さ	1.6	SD18	胎土海部産	
第3-26図10	平瓦			長さ	7.2	幅	5.8	厚さ	1.2	SK14		
第3-28図10	平瓦			長さ	6.9	幅	7.8	厚さ	1.6	SK15		
第3-43図12	丸瓦			長さ	12.8	幅	7.4	厚さ	2.3	SK587		
第3-49図6	丸瓦			長さ	10.6	幅	6.5	厚さ	2.3	SK85		
第3-59図19	丸瓦			長さ	(8.1)	幅	(6.4)	厚さ	2.8	SK533		
第3-95図15	丸瓦			長さ	16.2	幅	10.1	厚さ	3.2	SK316		
第3-104図178	平瓦			長さ	5.9	幅	13.3	厚さ	1.6	第3焼土層		
第3-104図179	平瓦			長さ	19.8	幅	11.9	厚さ	2.0	第3焼土層		
第3-104図199	平瓦			長さ	19.3	幅	16.1	厚さ	2.1	C 層上面		
第3-116図7	塼			長さ	(8.8)	幅	(13.5)	厚さ	3.0	SK531	被熱によりスス付着	
第3-120図9	塼			長さ	8.3	幅	9.7	厚さ	2.5	SK576		
第3-126図36	塼			長さ	12.1	幅	11.4	厚さ	2.5	SX277		
第3-127図6	塼			長さ	10.0	幅	7.1	厚さ	2.5	SK365		
第3-127図7	塼			長さ	6.5	幅	7.7	厚さ	2.6	SK365		
第3-143図17	平瓦			長さ	14.4	幅	11.7	厚さ	2.5	A 層		
第3-143図18	平瓦			長さ	9.2	幅	8.3	厚さ	2.0	A 層		
第3-143図51	丸瓦			長さ	9.1	幅	7.0	厚さ	2.0	B II 層		
第3-143図59	平瓦			長さ	8.5	幅	6.3	厚さ	2.4	第3焼土層直上		
第3-143図106	塼			長さ	13.6	幅	13.5	厚さ	3.4	C 層	被熱により破損	
第3-143図130	軒丸瓦			長さ	9.6	幅	9.2	厚さ	2.9	D 層		

第16次調査区遺物観察表（その他）

挿図 No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位cm)					重量 (g)	遺 構 名	備 考	図版 No.
				縦	横	厚さ	—	—				
第3-82図13	砥石	ガラス		縦	2.3	横	2.3	厚さ	0.7	5.5	SK378	
第3-104図162	不明	ガラス		長さ	(0.7)	幅	(0.5)	厚さ	0.5	0.2	第3焼土層	

第16次調査区遺物観察表① (銅銭)

挿図 No.	銭貨名	初鋳 造年	国・王朝名	重さ (g)	直径 (mm)	書体	遺構名	備考	図版 No.
第3-11図7	元祐通寶	1086	北宋	2.7	25.0	行書	SD18		
第3-46図6	元豐通寶	1078	北宋	3.4	26.0	篆書	SP596		
第3-46図17	不明	—	—	1.1	—	—	SE70	半分欠損 「開」「通」のみ	
第3-59図5	不明	—	—	1.3	—	行書	SK533、534上層	半分欠損 「紹」「聖」のみ	
第3-67図1	不明	—	—	1.1	—	—	SK509	半分欠損 「開」「通」のみ	
第3-67図2	嘉祐通寶	1056	北宋	2.7	2.5	真書	SK509		
第3-68図4	元符通寶	1098	北宋	2.7	2.4	行書	SK398		
第3-74図15	開元通寶	621	唐	2.6	24.5	真書	SK510		
第3-74図16	元祐通寶	1086	北宋	1.9	2.3	行書	SK510		
第3-77図1	不明	—	—	1.8	2.4	篆書	SK299	半分欠損 「平」「元」「寶」のみ	
第3-86図4	不明	—	—	1.2	—	行書	SK300	半分欠損 「元」「祐」のみ	
第3-89図3	景德元寶	1004	北宋	2.5	24.5	真書	SK210		
第3-89図5	元祐通寶	1086	北宋	2.6	24.0	篆書	SP230		
第3-90図3	大觀通寶	1107	北宋	2.6	24.5	真書	SB338	SP354 背右月	
第3-98図19	不明	—	—	1.2	—	行書	SK325	半分欠損 「元」「寶」のみ	
第3-101図20	熙寧元寶	1068	北宋	3.2	24.0	真書	SK188		
第3-101図21	元豐通寶	1078	北宋	3.3	25.0	篆書	SK188		
第3-101図22	元豐通寶	1078	北宋	2.4	24.0	篆書	SK188		
第3-101図23	聖宗元寶	1101	北宋	2.7	24.5	篆書	SK188		
第3-101図24	洪武通寶	1368	明	2.9	2.3	—	SK188		
第3-101図25	洪武通寶	1368	明	1.8	2.3	—	SK188		
第3-104図27	祥符通寶	1008	北宋	2.6	24.0	真書	A層		
第3-104図28	皇宋通寶	1038	北宋	2.8	25.0	真書	A層		
第3-104図29	皇宋通寶	1038	北宋	2.2	24.5	真書	A層		
第3-104図30	治平元寶	1064	北宋	3.5	24.0	篆書	A層		
第3-104図31	元祐通寶	1086	北宋	3.0	24.5	行書	A層		
第3-104図63	景祐元寶	1034	北宋	2.4	25.0	真書	第2焼土層		
第3-104図64	景祐元寶	1034	北宋	2.6	25.0	篆書	第2焼土層		
第3-104図65	皇宋通寶	1038	北宋	2.8	24.0	真書	第2焼土層		
第3-104図66	皇宋通寶	1038	北宋	2.5	24.5	真書	第2焼土層		
第3-104図67	熙寧元寶	1068	北宋	2.6	24.0	篆書	第2焼土層		
第3-104図68	熙寧元寶	1068	北宋	2.2	24.5	真書	第2焼土層	星形孔	
第3-104図69	元豐通寶	1078	北宋	3.7	25.0	行書	第2焼土層		
第3-104図70	紹聖元寶	1094	北宋	3.1	24.0	篆書	第2焼土層		
第3-104図71	大觀通寶	1107	北宋	3.2	25.0	真書	第2焼土層		
第3-104図72	洪武通寶	1368	明	2.9	23.0	真書	第2焼土層		
第3-104図73	洪武通寶	1368	明	4.0	24.0	—	第2焼土層		
第3-104図98	淳化元寶	990	北宋	2.5	24.0	草書	B層上面		
第3-104図99	祥符元寶	1008	北宋	2.2	25.0	真書	B層上面		
第3-104図100	天聖元寶	1023	北宋	2.4	24.5	篆書	B層上面		
第3-104図101	皇宋通寶	1038	北宋	2.5	24.5	真書	B層上面		
第3-104図102	嘉祐通寶	1056	北宋	2.6	24.0	真書	B層上面		
第3-104図103	嘉祐通寶	1056	北宋	2.3	24.5	篆書	B層上面		
第3-104図104	元豐通寶	1078	北宋	2.7	24.5	行書	B層上面		
第3-104図105	元豐通寶	1078	北宋	2.6	25.0	行書	B層上面		
第3-104図106	元豐通寶	1078	北宋	2.6	24.0	行書	B層上面		
第3-104図107	元豐通寶	1078	北宋	3.2	25.0	篆書	B層上面		
第3-104図108	元豐通寶	1078	北宋	2.6	24.0	行書	B層上面		
第3-104図109	元祐通寶	1086	北宋	3.3	24.0	行書	B層上面		
第3-104図110	元祐通寶	1086	北宋	3.1	24.0	篆書	B層上面		
第3-104図111	洪武通寶	1368	北宋	2.6	24.0	真書	B層上面		
第3-104図144	不明	—	—	1.1	—	—	BⅡ層	「開」「寶」のみ	
第3-104図145	祥符通寶	1008	北宋	3.0	25.0	—	BⅡ層		
第3-104図146	皇宋通寶	1038	北宋	2.5	24.0	真書	BⅡ層		
第3-104図147	嘉祐通寶	1056	北宋	2.3	24.5	真書	BⅡ層		
第3-104図148	治平元寶	1064	北宋	3.4	2.5	篆書	BⅡ層		
第3-104図149	熙寧元寶	1068	北宋	2.8	25.0	篆書	BⅡ層		
第3-104図150	熙寧元寶	1068	北宋	3.4	24.0	真書	BⅡ層		
第3-104図151	元豐通寶	1078	北宋	2.3	25.0	行書	BⅡ層		
第3-104図152	元豐通寶	1078	北宋	2.4	25.0	行書	BⅡ層		
第3-104図153	元祐通寶	1086	北宋	2.6	24.5	篆書	BⅡ層		
第3-104図154	紹聖元寶	1094	北宋	3.0	24.5	行書	BⅡ層		
第3-104図155	聖宗元寶	1101	北宋	3.8	25.0	行書	BⅡ層		
第3-104図183	景德元寶	1004	北宋	3.2	25.0	真書	第3焼土層		
第3-104図184	祥符通寶	1008	北宋	1.9	25.0	行書	第3焼土層		
第3-104図185	天聖元寶	1023	北宋	3.3	25.0	真書	第3焼土層		
第3-104図186	熙寧元寶	1068	北宋	3.4	24.0	真書	第3焼土層		
第3-104図187	紹聖元寶	1094	北宋	3.3	24.0	篆書	第3焼土層		
第3-104図188	紹聖元寶	1094	北宋	3.7	25.0	篆書	第3焼土層		
第3-104図201	景祐元寶	1034	北宋	2.7	24.0	真書	C層上面		
第3-104図206	皇宋通寶	1038	北宋	2.8	24.5	真書	C層		
第3-104図207	元豐通寶	1078	北宋	1.7	24.0	行書	C層		
第3-104図208	政和通寶	1111	北宋	3.0	24.5	篆書	C層		
第3-104図209	正隆元寶	1157	金	2.6	25.0	真書	C層		
第3-107図1	景祐元寶	1034	北宋	2.7	25.0	真書	SD556		

第16次調査区遺物観察表② (銅銭)

挿図 No.	銭貨名	初鑄年	国・王朝名	重さ (g)	直径 (mm)	書体	遺構名	備考	図版 No.
第3-107図5	元豊通寶	1078	北宋	1.7	25.0	行書	S558	半分欠損	
第3-111図4	皇宋通寶	1038	北宋	2.4	25.0	真書	SK577		
第3-114図6	太平通寶	976	北宋	2.7	24.5	—	SX530		
第3-114図7	熙寧元寶	1068	北宋	3.0	25.0	真書	SX530		
第3-114図8	熙寧元寶	1068	北宋	3.4	24.0	篆書	SX530		
第3-114図9	皇宋通寶	1038	北宋	3.0	24.0	篆書	SX530		
第3-119図9	元祐通寶	1086	北宋	3.4	24.5	行書	SK526		
第3-119図10	元豊通寶	1078	北宋	3.4	24.5	篆書	SK526		
第3-119図11	皇宋通寶	1038	北宋	3.8	25.0	真書	SK526		
第3-119図12	治平通寶	1064	北宋	3.3	24.0	篆書	SK526		
第3-120図6	天聖元寶	1023	北宋	3.3	25.0	篆書	S554		
第3-120図7	永樂通寶	1408	北宋	3.7	25.0	—	S554		
第3-124図7	元豊通寶	1078	北宋	3.2	24.0	行書	SX275	星形孔	
第3-127図8	熙寧元寶	1068	北宋	2.7	24.0	篆書	SK365		
第3-134図2	熙寧元寶	1068	北宋	3.0	24.5	篆書	SK98		
第3-135図3	元祐通寶	1086	北宋	3.1	25.0	行書	SP406		
第3-135図9	不明	—	—	3.3	24.0	—	SD440	鑄付跡のため判読不可	
第3-136図2	元祐通寶	1086	北宋	3.2	24.0	篆書	SP419		
第3-136図3	嘉祐通寶	1056	北宋	2.7	25.0	真書	SP419		
第3-136図8	不明	—	—	0.7	—	—	SK420	「寶」の部分のみ	
第3-136図9	不明	—	—	1.2	—	—	SK420	半分欠損 「祥」「寶」のみ	
第3-136図12	紹聖元寶	1094	北宋	2.9	25.0	行書	SP423		
第3-136図13	元符通寶	1098	北宋	3.3	24.0	行書	SP423		
第3-137図10	至和通寶	1054	北宋	3.4	24.5	真書	SP415		
第3-137図14	不明	—	—	2.2	25.0	真書	SK426	1/3欠損 「天」「元」「寶」のみ	
第3-139図4	皇宋通寶	1038	北宋	2.8	24.5	真書	SK100		
第3-140図1	景德元寶	1004	北宋	5.3	2.5	—	SK163	2枚重なっている	
第3-140図2	祥符元寶	1008	北宋						
第3-140図3	祥符元寶	1008	北宋	6.1	25.0	—	SK163	2枚重なっている	
第3-140図4	天禧通寶	1017	北宋	2.9	24.0	真書	SK163		
第3-140図5	聖宗元寶	1101	北宋	3.0	24.0	篆書	SK163		
第3-141図2	皇宋通寶	1038	北宋	4.1	25.0	真書	SK257		
第3-142図6	皇宋通寶	1038	北宋	2.2	24.0	真書	SP226		
第3-143図3	元豊通寶	1078	北宋	2.9	25.0	行書	M46、L46		
第3-143図20	祥符元寶	1008	北宋	3.4	25.0	—	M46、L46		
第3-143図21	皇宋通寶	1038	北宋	2.5	25.0	真書	M46、L46		
第3-143図30	元祐通寶	1086	北宋	2.1	25.0	篆書	M46 第2煨土層		
第3-143図60	祥符通寶	1008	北宋	2.6	24.0	—	M46 第3煨土層直上		
第3-143図61	治平元寶	1064	北宋	3.1	24.5	真書	M46 第3煨土層直上	背上月	
第3-143図62	元豊通寶	1078	北宋	3.3	25.0	篆書	M46 第3煨土層直上		
第3-143図63	元祐通寶	1086	北宋	8.0	24.5	篆書	M46 第3煨土層直上	2枚重なっている	
第3-143図90	開元通寶	621	唐	3.0	25.0	—	M46 第3煨土層		
第3-143図91	天聖元寶	1023	北宋	3.2	25.5	真書	M46 第3煨土層		
第3-143図92	皇宋通寶	1038	北宋	2.6	25.0	篆書	M46 第3煨土層		
第3-143図93	熙寧元寶	1068	北宋	2.3	24.0	真書	M46 第3煨土層		
第3-143図94	熙寧元寶	1068	北宋	2.5	24.0	真書	M46 第3煨土層		
第3-143図95	元豊通寶	1078	北宋	2.3	2.4	行書	M46 第3煨土層		
第3-143図96	元符通寶	1098	北宋	2.8	24.0	篆書	M46 第3煨土層		
第3-143図97	政和通寶	1111	北宋	2.8	24.5	真書	M46 第3煨土層		
第3-143図98	永樂通寶	1408	明	3.1	25.0	—	M46 第3煨土層		
第3-143図99	不明	—	—	1.8	25.0	行書	M46 第3煨土層	下部欠損 「祐」「寶」のみ判読可	
第3-143図100	不明	—	—	1.0	—	真書	M46 第3煨土層	上部欠損 「祐」「元」のみ	
第3-143図103	不明	—	—	2.3	24.0	—	M47 C層上面	「平」「通」「寶」のみ判読可	
第3-143図134	熙寧元寶	1068	北宋	2.7	24.0	篆書	M46 D層		
第3-143図135	紹聖元寶	1094	北宋	3.4	24.0	行書	M46 D層		
第3-145図6	淳化元寶	990	北宋	2.3	24.0	篆書	SK379		
第3-145図7	皇宋通寶	1038	北宋	2.8	25.0	真書	SK325	星形孔	
第3-145図8	皇宋通寶	1038	北宋	3.4	24.5	篆書	G区 (家跡)		
第3-145図9	皇宋通寶	1038	北宋	3.2	25.0	真書	F区 南北攪乱溝		
第3-145図10	皇宋通寶	1038	北宋	2.1	25.0	真書	G区 (家跡)		
第3-145図11	嘉祐元寶	1056	北宋	2.8	23.5	真書	SK188		
第3-145図12	元祐通寶	1086	北宋	3.0	24.0	篆書	M47		
第3-145図13	紹聖元寶	1094	北宋	3.1	24.0	篆書	H区 攪乱坑内		
第3-145図14	元豊通寶	1078	北宋	2.7	24.5	行書	SK429		

# 写 真 图 版



E 地区、D 地区、C 地区（上空より）



G 地区、F 地区（上空より）



A 地区 (西から)

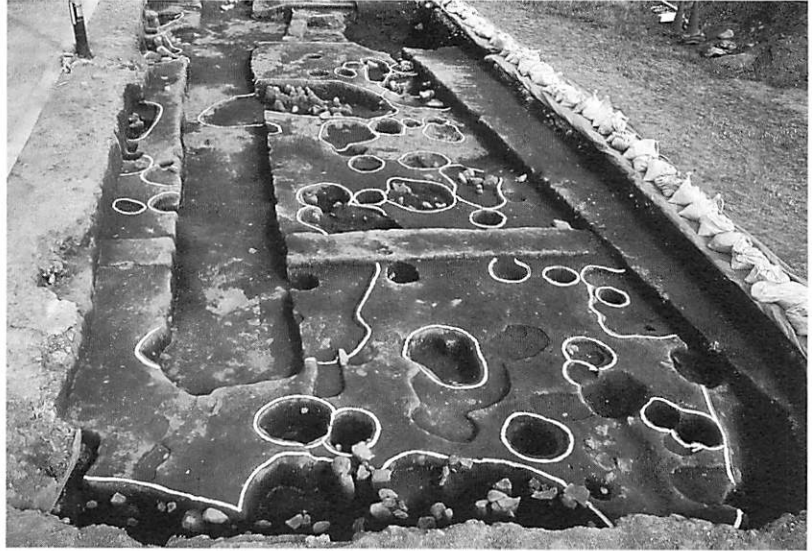


A 地区 (南から)



C 地区 (上層)

C 地区  
Ⅱ層上面



C 地区 Ⅲ層上面



C 地区 Va層上面



C 地区 Vb層上面

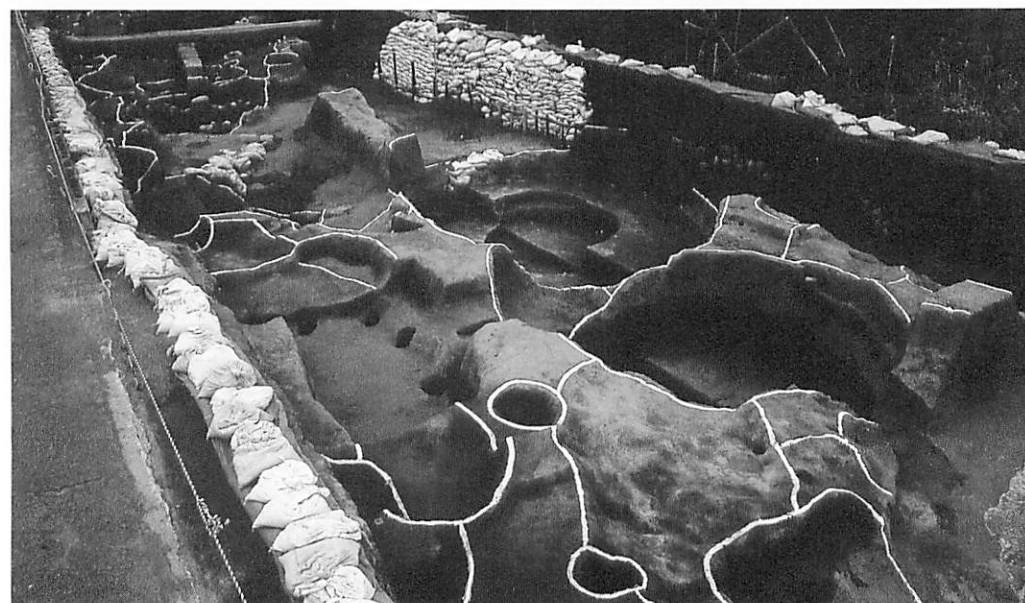


Vb層下部





C 地区  
東 1、2 区画  
(南から)



D 地区・E 地区  
全景 (西から)



D 地区全景  
(西から)



D 地区上層遠景  
(東から)



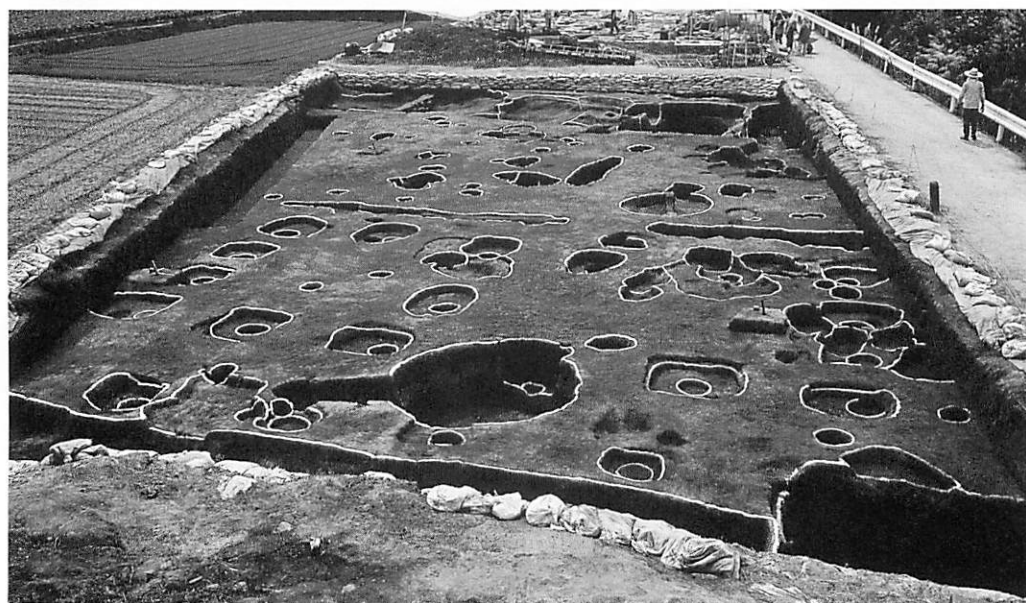
D 地区  
西 1、2 区画  
(東から)



E・D 地区遠景  
(西から)



E 地区  
ST135周辺



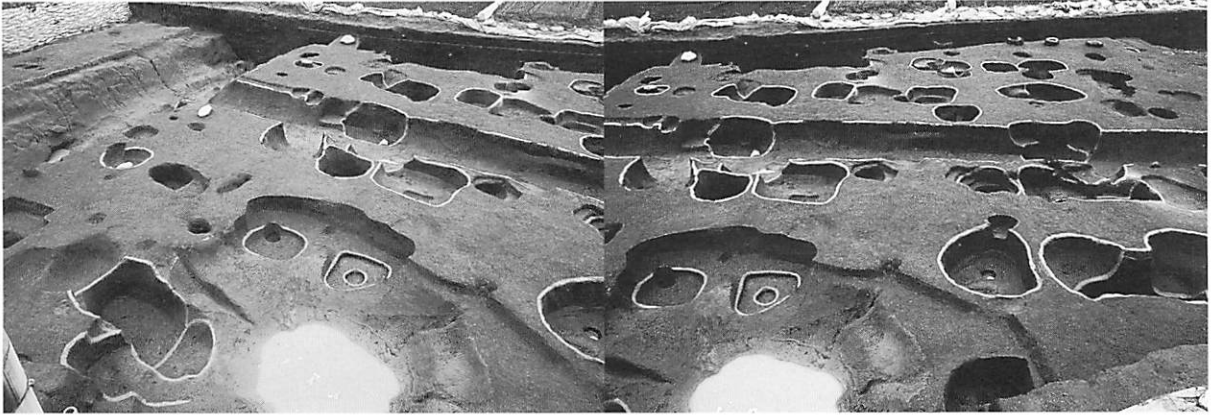
F 地区全景  
(東から)



調査風景①C 地区

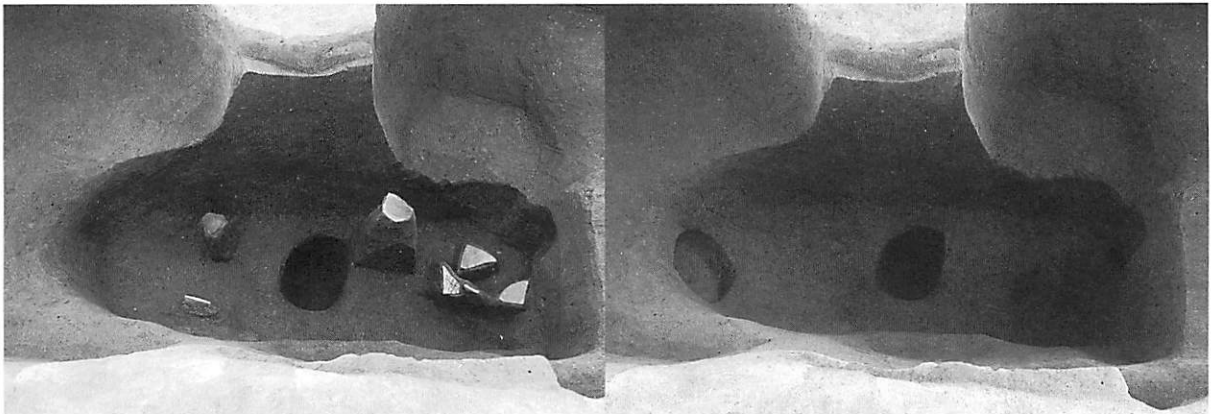


調査風景②骨の検出作業



G 地区 SB306①

SB306②



P1079 (SB306A) 出土状況

P1079 (SB306A) 完掘状況



P1073 (SB306A) 出土状況

S787 (SB306A) 完掘状況



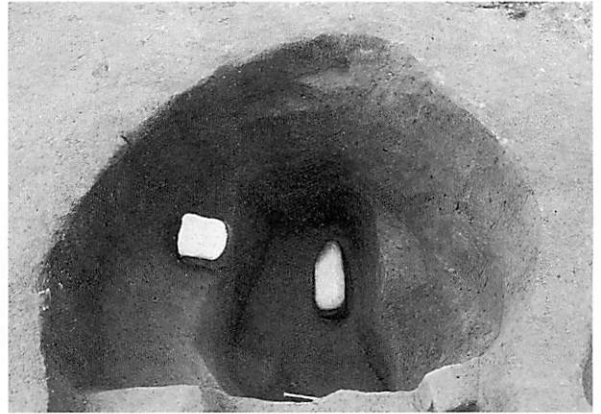
S787 (SB306A) 出土状況



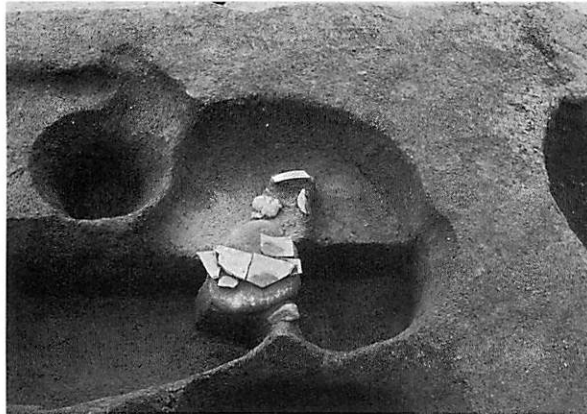
S787 (SB306A) 出土状況細部



G 地区 S787(SB306) 完掘状況



同左



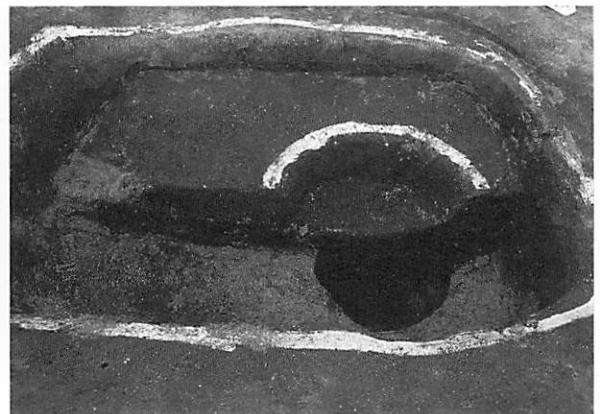
S786 (SB306A) 出土状況



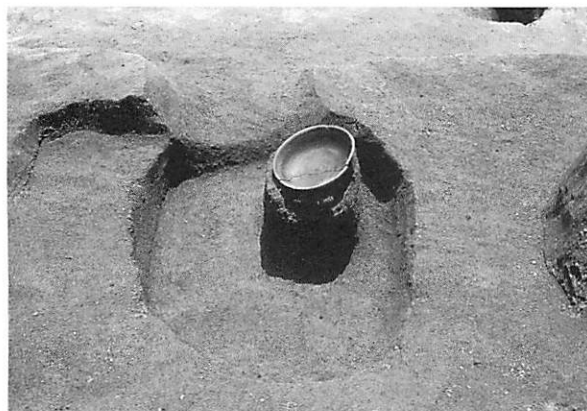
SB307



SB309



P696 (SB309)



G 地区 SK797



G 地区 P1045



C地区 SK1



SK4



D地区 SK11



SK12



SK13



E地区 SK40



SK41



SK41細部



E地区 SK44①



SK44②



D地区 SK45



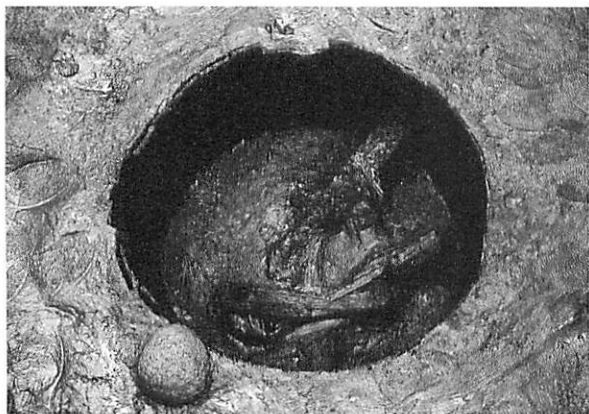
SK104



SK105



SE108



SE108井筒内出土状況



SE108井筒の桶痕跡



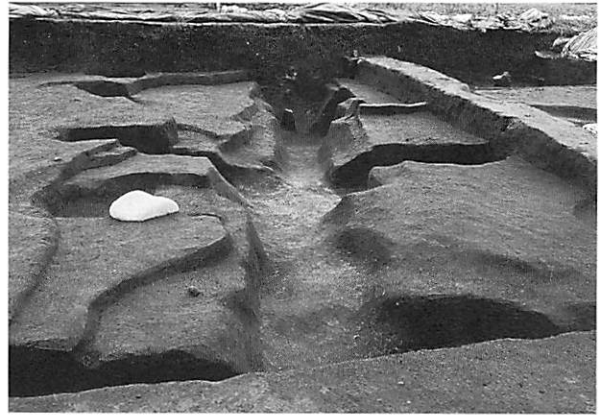
E地区 SK109



SK110



SD111出土状況 (南から)



SD111完掘状況 (北から)



SD112貝層断面



SD112貝ブロック出土状況



SD112出土状況





E地区 SK114出土状況



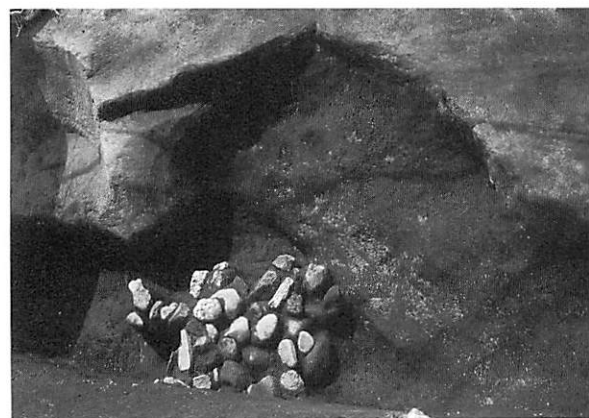
SK114完掘状況



D地区 SK119



E地区 SK126出土状況



SK128



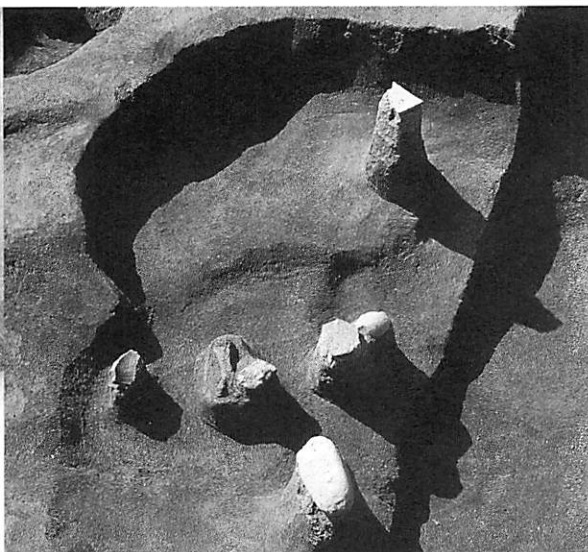
SK129の瓦出土状況



SK129土師皿出土状況



E地区 SK133



SK134



ST135①人骨出土状況



ST135②細部



ST135③細部



E 地区 SK136



D 地区 SK140



SK141出土状況 (南から)



SK141石積露出状況



SK141完掘状況杭跡



SX143



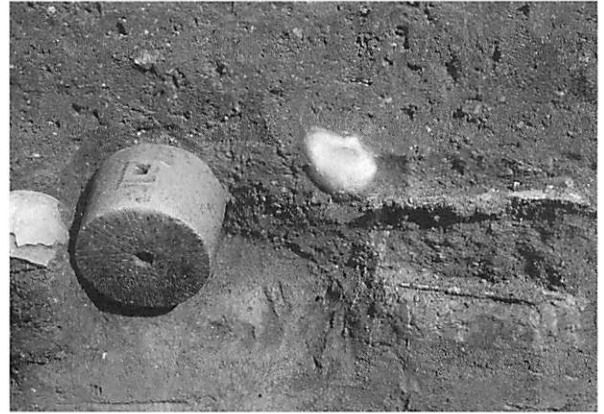
SK144



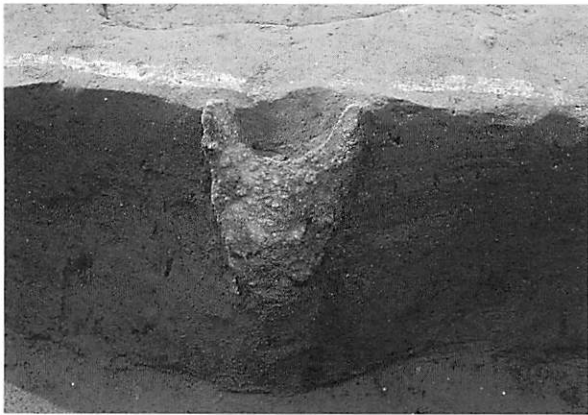
D 地区 P145



D地区 SK146



SK146出土状況細部①



SK146出土状況細部②



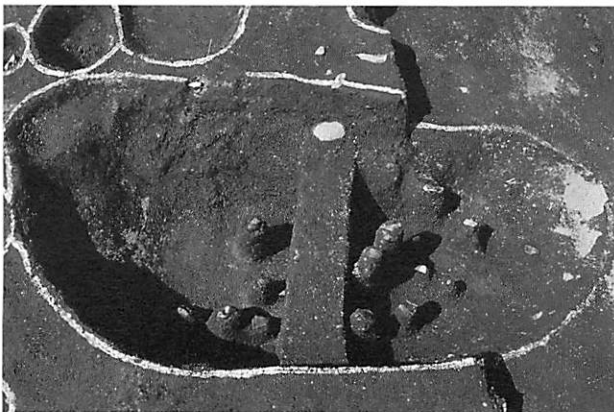
SK150



SK151出土状況



SK151断面



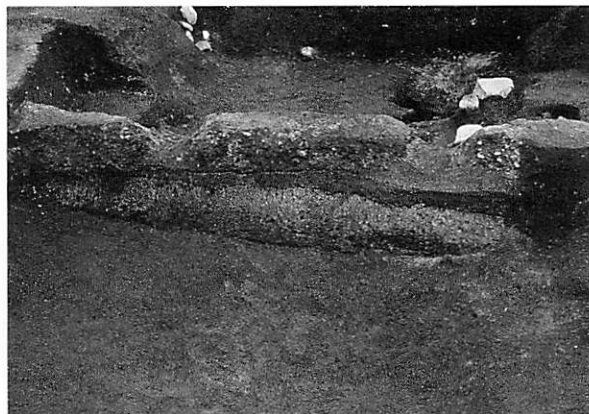
C地区 SK158



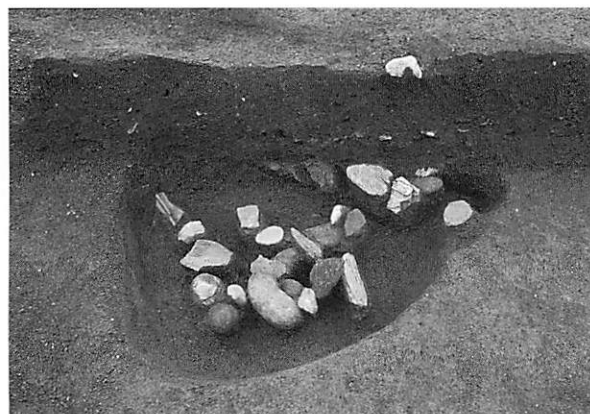
調査風景  
—井戸をほる—



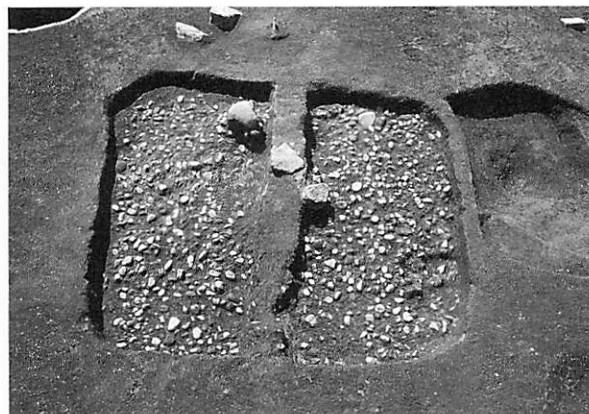
C 地区 SX161



SX161断面



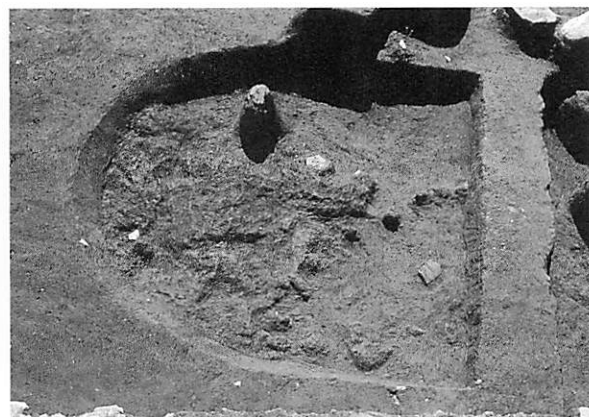
SK163



SK166出土状況



D 地区 SK172



C 地区 SK177



D 地区 SF183 10面のわだち



SF183第5硬化面



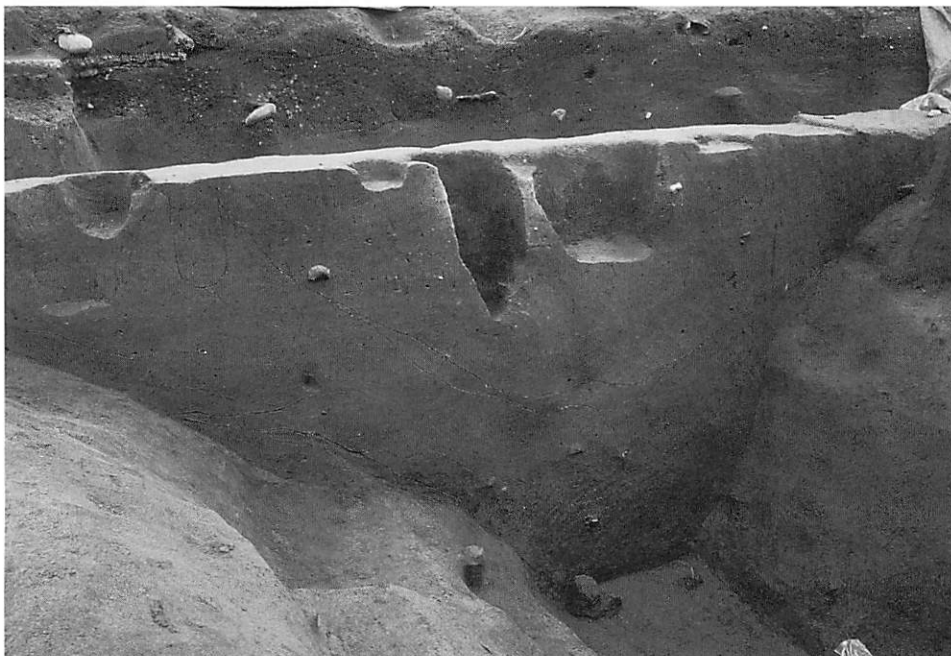
D地区 SF183土層断面



SK196 (SF183第5硬化面上)



D地区  
SD192



SD192  
断面



C地区 SK211断面



SK211出土状況



SK211完掘状況



SK211底部の土取り痕



SK217



SK221



SK222



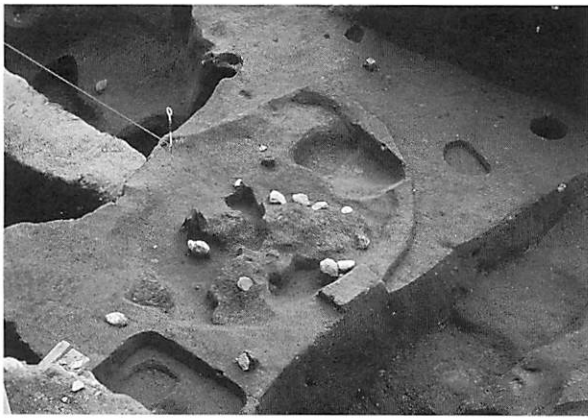
SK228



C地区 SK255



E・D地区調査風景



SK261



SK261の炉



SK263



SK263出土状況



SK267



SK268





SK276上部出土状況



SK276下部出土状況



SK276細部



SK277



SK286



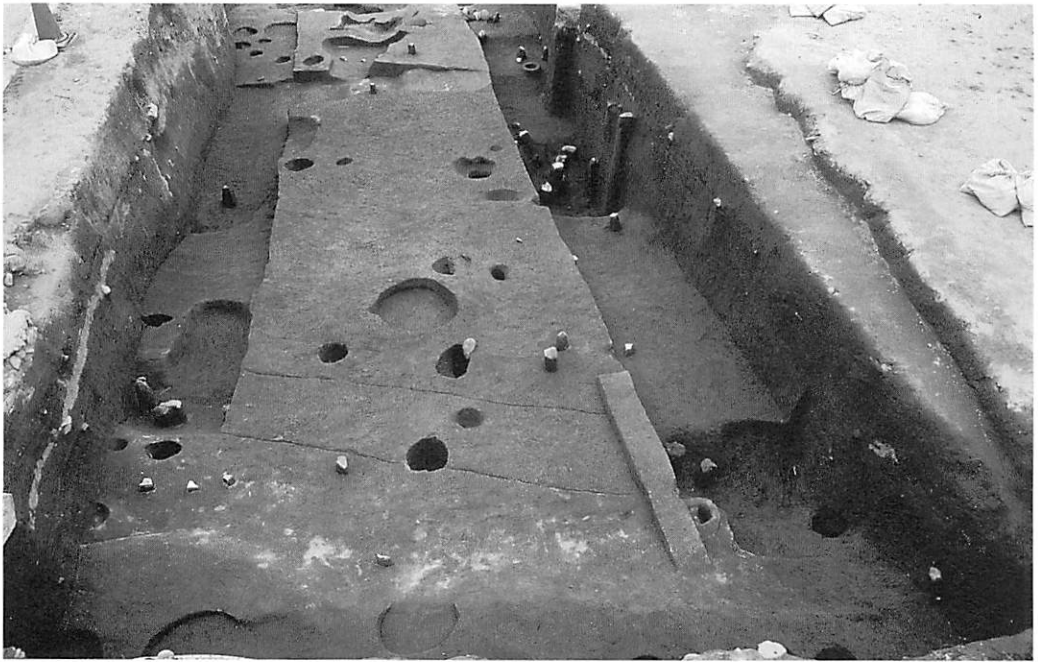
E 地区 P81



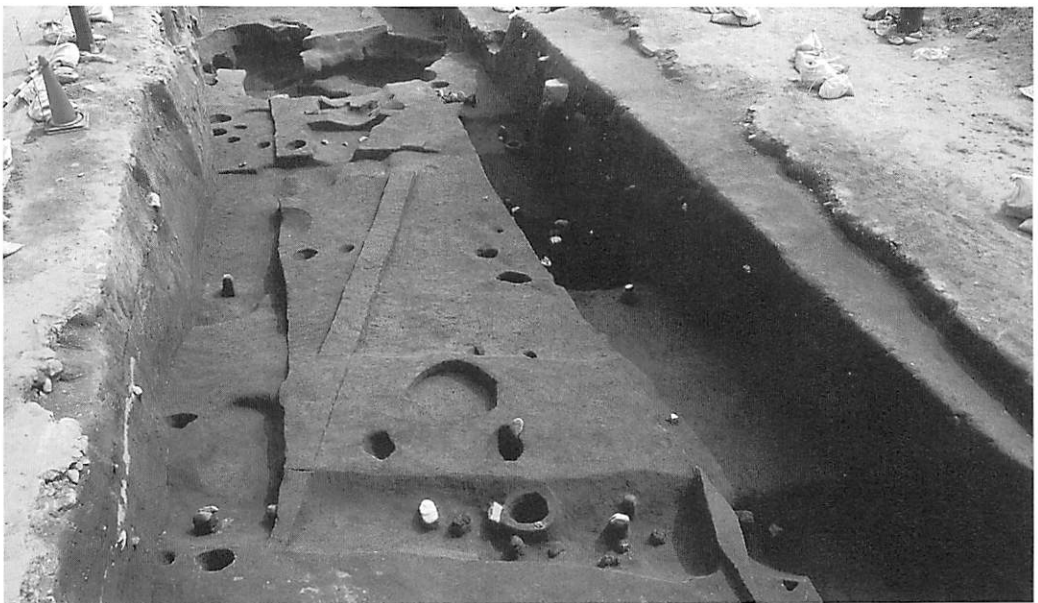
P227



P229 (SA314) 出土状況



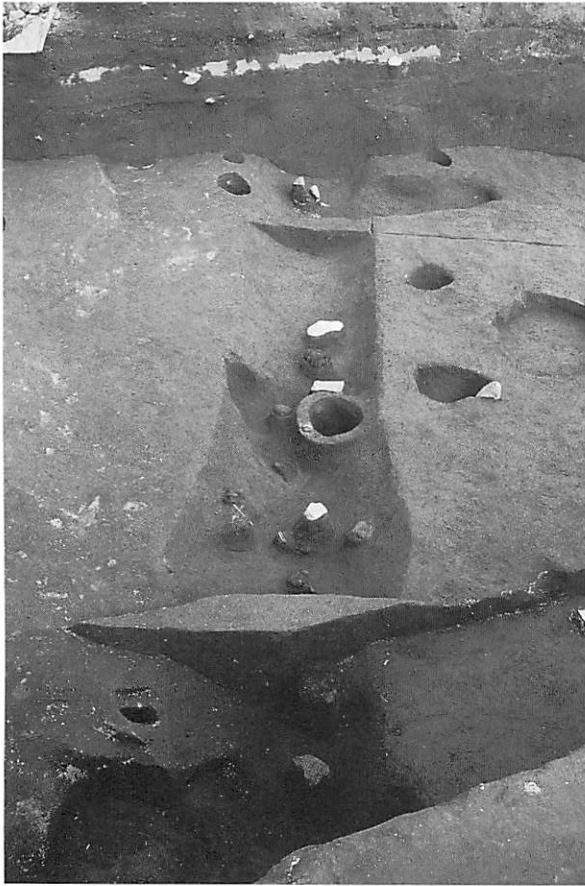
C 地区  
SF293上面



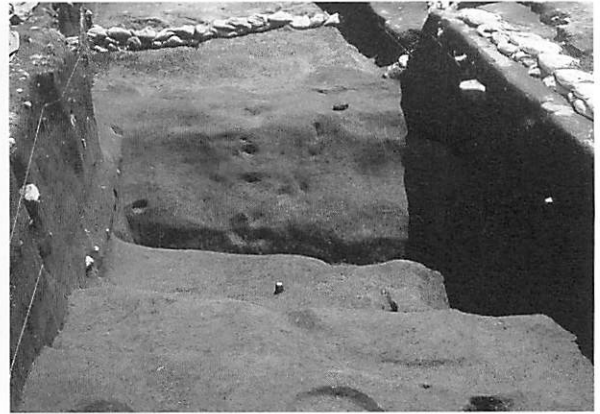
SD292と  
SF293下面



SD294掘り下げ後  
(西から)



C 地区 SD292



SD295完掘状況



SD294、295断面



SD295



F 地区  
SB302



SB308 (南から)

G 地区  
SA311 (東から)



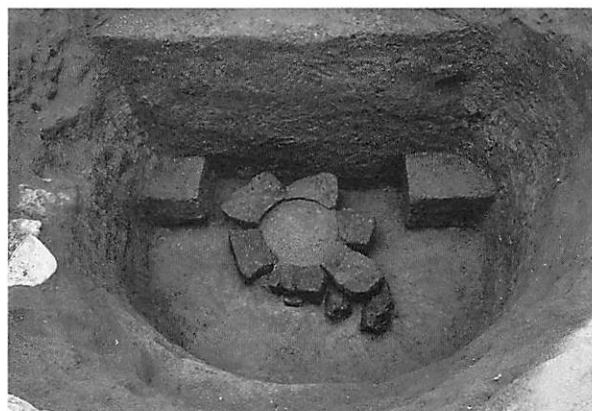
D 地区 SE331 抜取痕と井筒上部



SE331 石組半裁



SE331 石組の全体



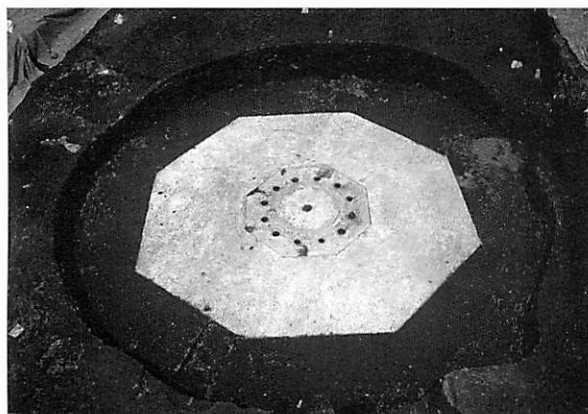
SE331 石組の基礎



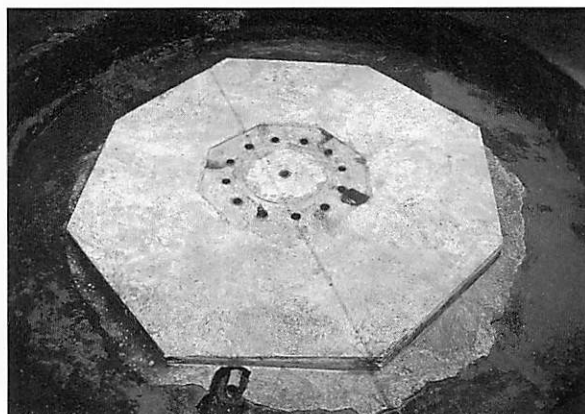
D 地区 SE331木桶



D 地区真夏の調査風景 (2000年)



E 地区 SX344



SX344



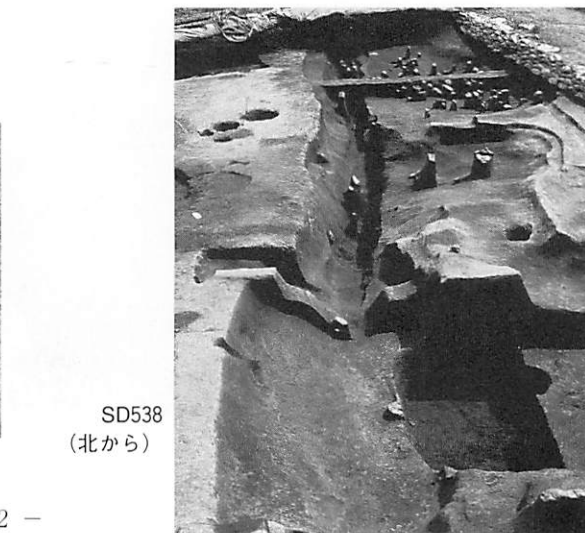
SK508



F 地区 SE532



SK533



SD538  
(北から)



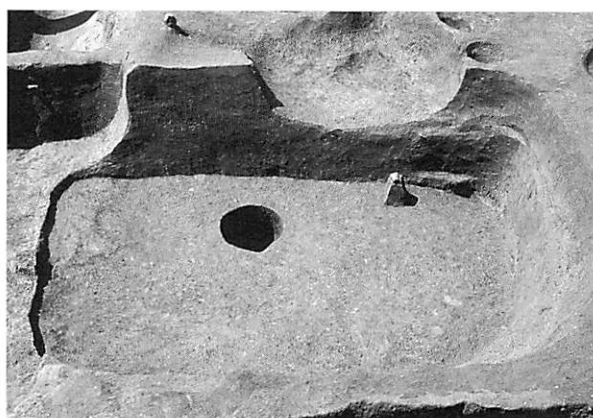
F 地区 SE541



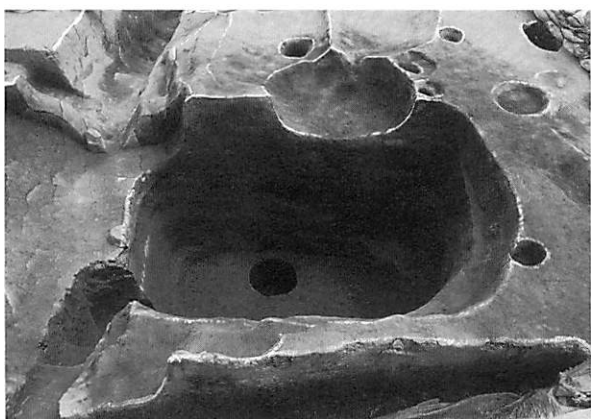
SK552



SK553



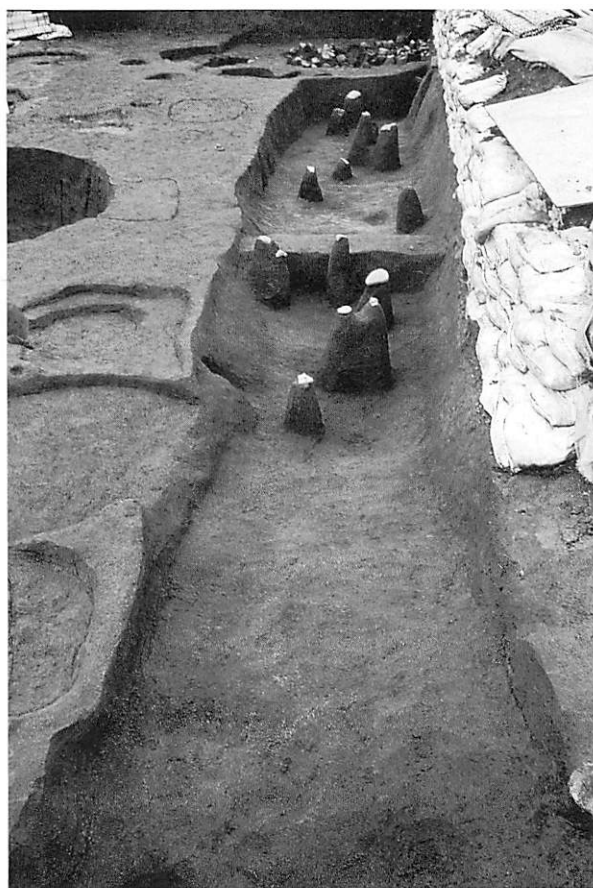
SE558検出状況



SE558



FK571



SD563 (南から)



G 地区 SD710



SK712



SK712出土状況



SK714



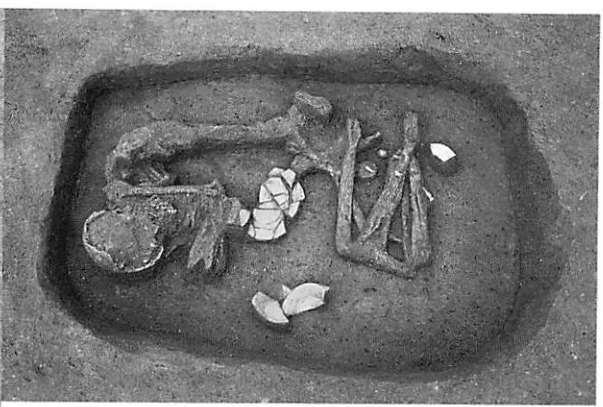
SK734出土状況①



SK734と SK736



SK736



ST748



G地区 ST748細部①



細部②





G地区 SD755、757



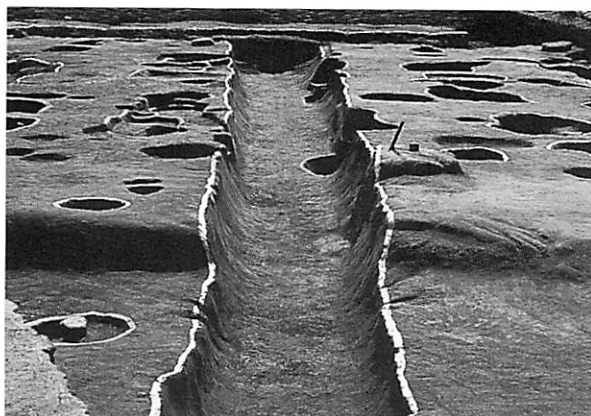
SD766



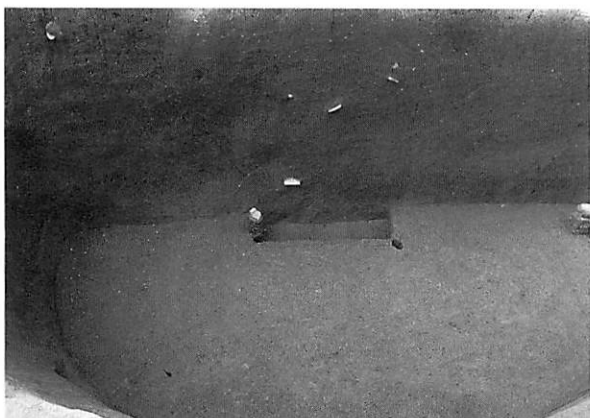
SD766とSD775



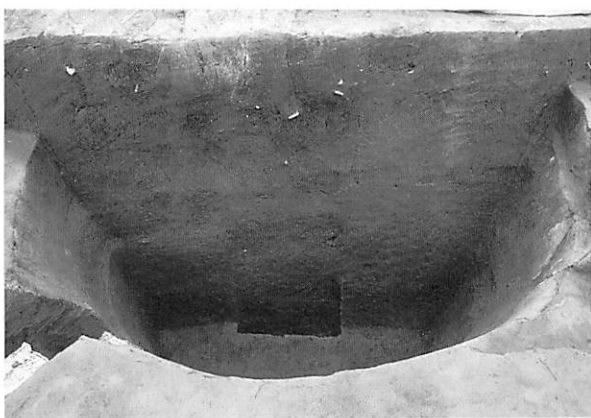
G地区 SD766出土状況



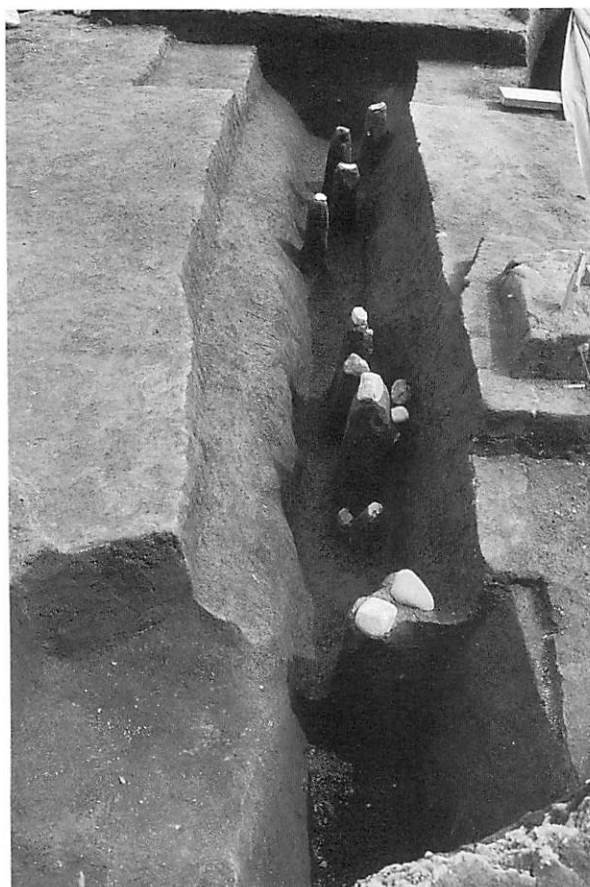
SD775 (西から)



SE773井筒出土状況



SE773全景



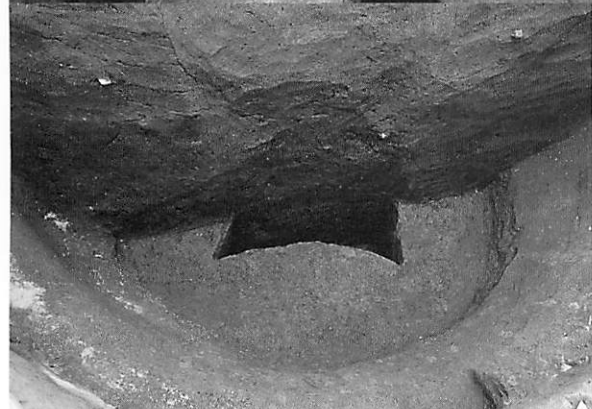
SD790 (北から)



SD790完掘状況



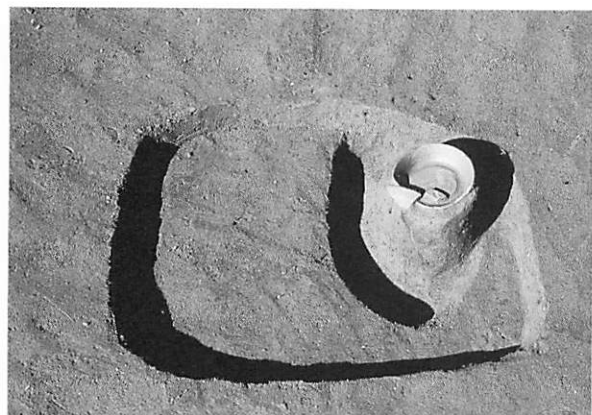
G 地区  
SD790と SD791  
(北から)



SE800



調査風景 (2001年夏)



C 地区 P277



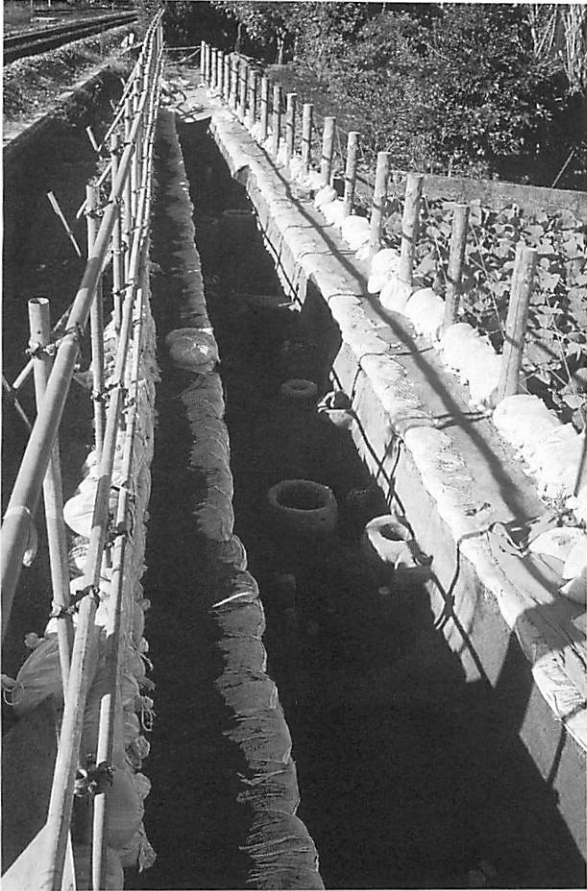
C 地区 P318



C 地区 P256 (SA314) 鍵出土状況



C 地区第2 焼土層中の壁土出土状況



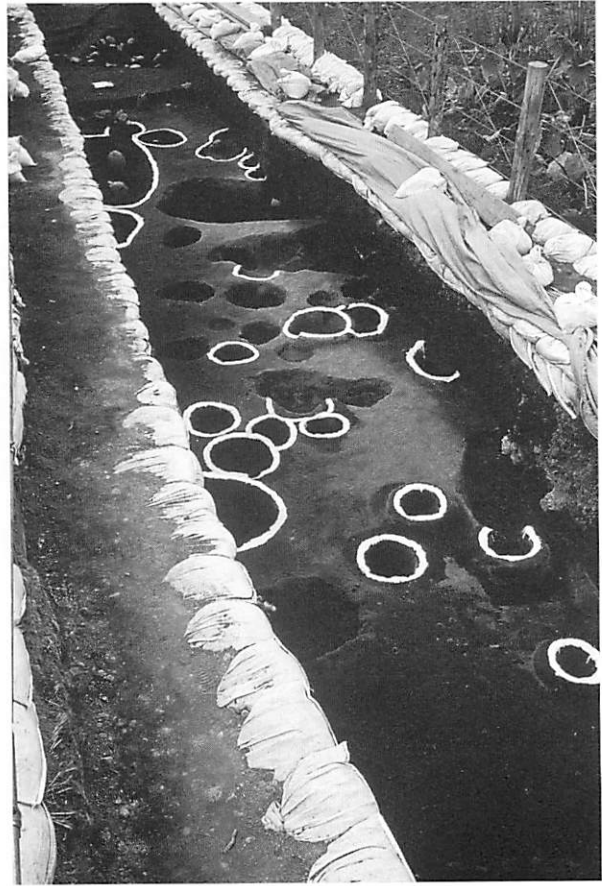
A・B地区



C地区



C地区 B層上面



D地区



E 地区  
B 層上面



F 地区  
B 層上面



F 地区  
B 層上面



F・G 地区  
西1、2区画  
(南西から)



F・G 地区  
西1、2区画  
近景 (南から)



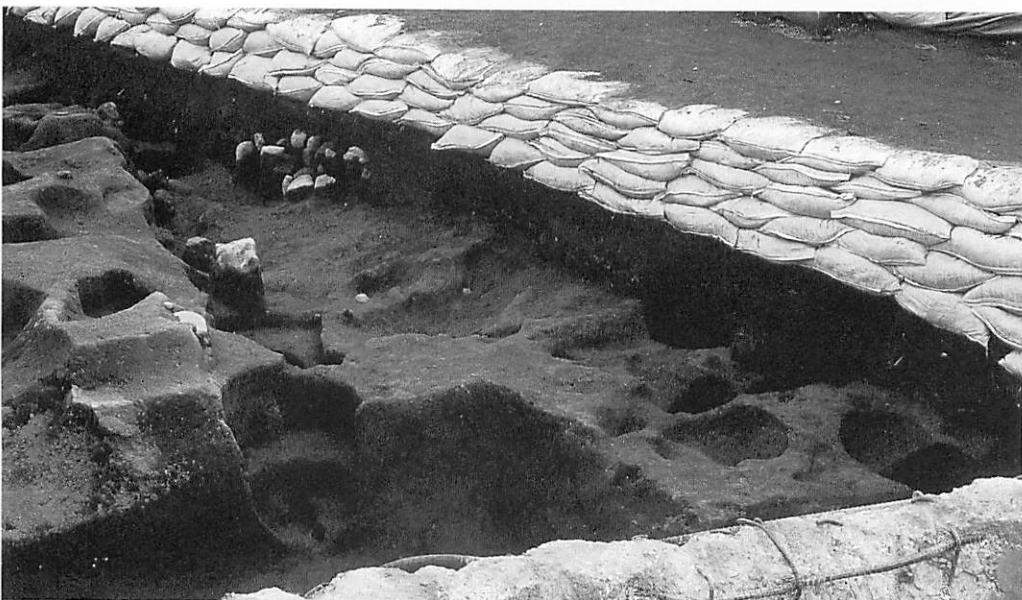
H 地区と  
河岸段丘



H地区  
東1、2区画の  
段差（西から）



H地区  
東0、1、2区画  
（西から）



H地区  
東2区画  
（西から）



H地区  
東2区画の柱穴列  
(南から)

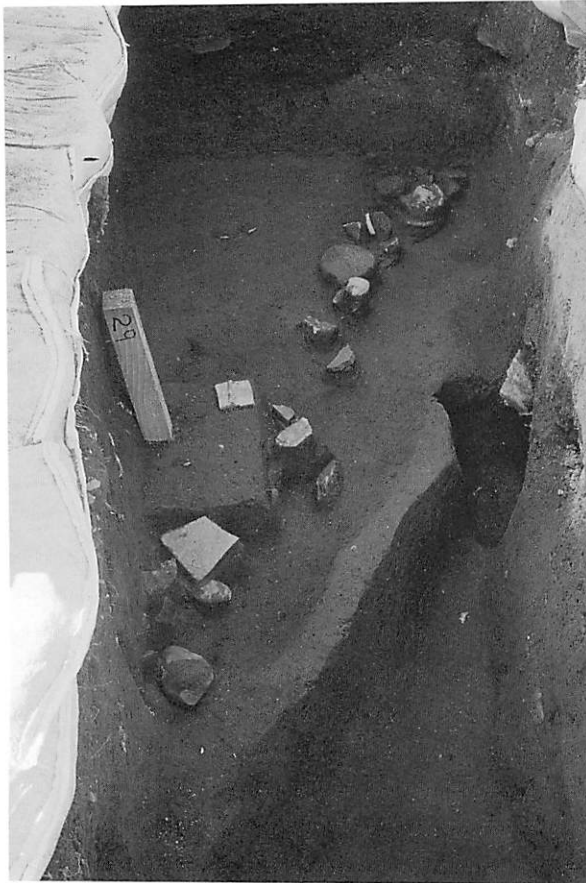


東2区画  
第2焼土層  
出土状況①

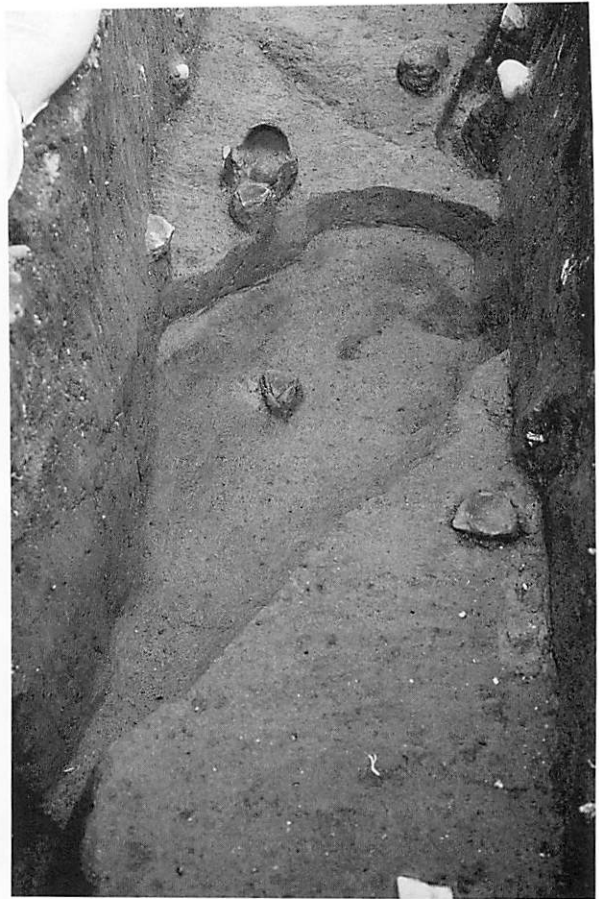


東2区画  
第2焼土層  
出土状況②





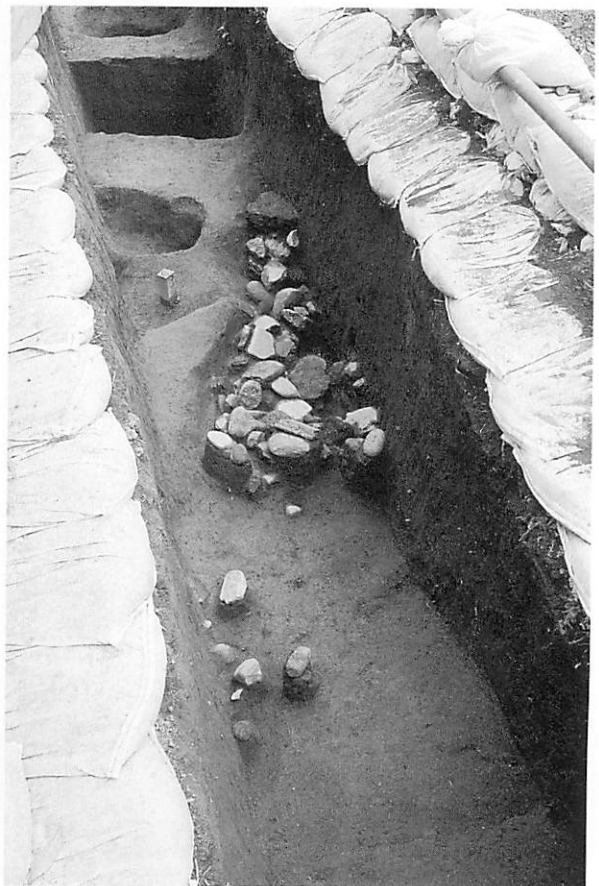
A地区 SD278 (御所小路側溝)



SD21、SD22 (御所小路)



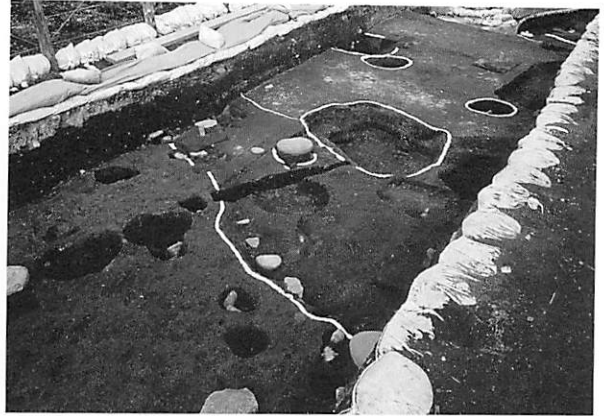
SD23出土状況



SD23下部出土状況



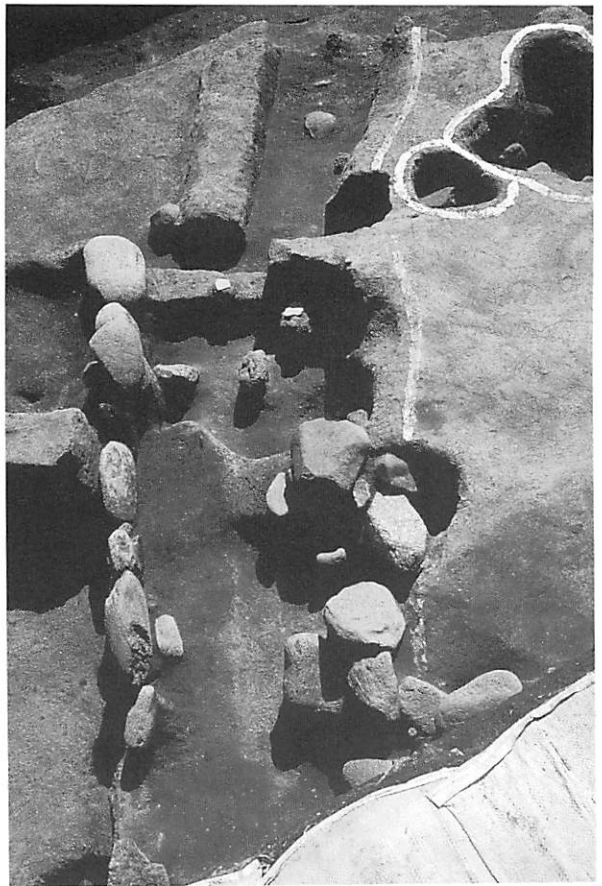
G地区 SF70第1硬化面上の遺構（西から）



SF70第3硬化面①（西から）



SF70第3硬化面②（東から）



SD380（SF70の側溝）



SD380（西から）



SD380と西1区画



G 地区  
SF70断面①



SF70  
断面②



SF70  
断面③



B 地区 SK14出土状況



SK14完掘状況



C 地区  
SK15



B 地区  
SD17



A 地区  
SD18



B 地区  
SK31



G 地区 SK85 (SF70上)



D 地区 SD110



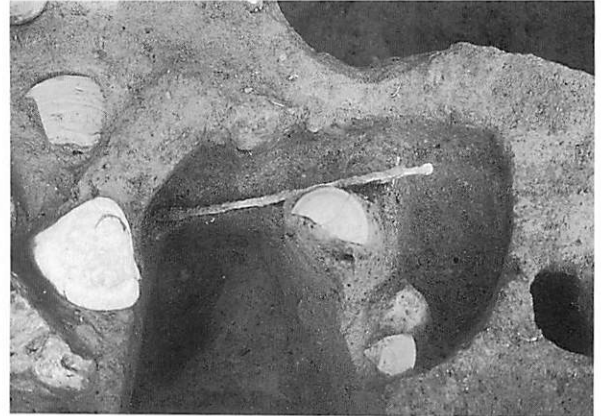
F 地区 SP155



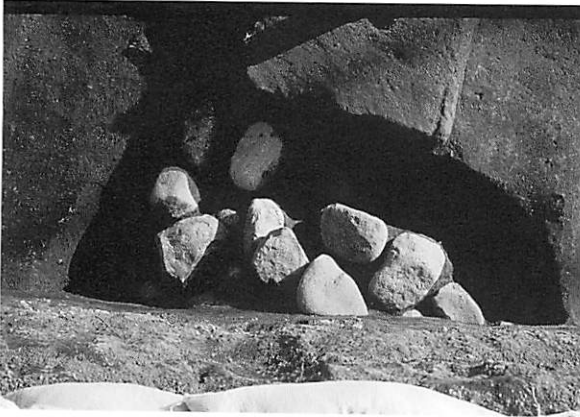
SK188



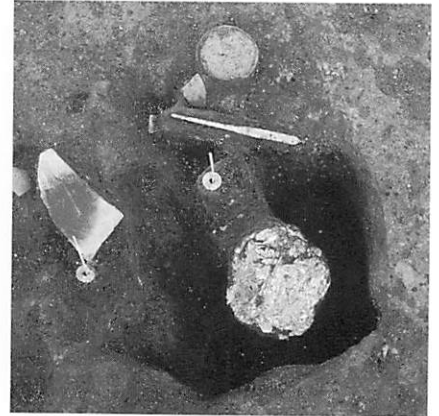
G 地区 SK189 (SF70上)



F 地区 SK214



SK222



SX242



H 地区 SK257



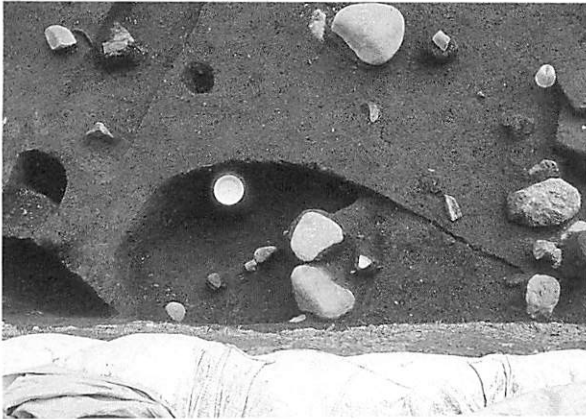
SX275



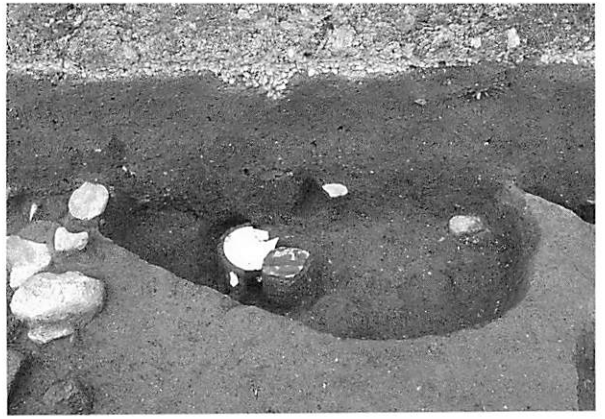
H地区 SX277



F地区 SX286



SK300出土状況



SK300完掘状況



SK301



F地区 SP311出土状況



E地区 SK325



SP337 (SB338)



F 地区 SB338 (南西から)



SB338 (西から)



E 地区 SK358



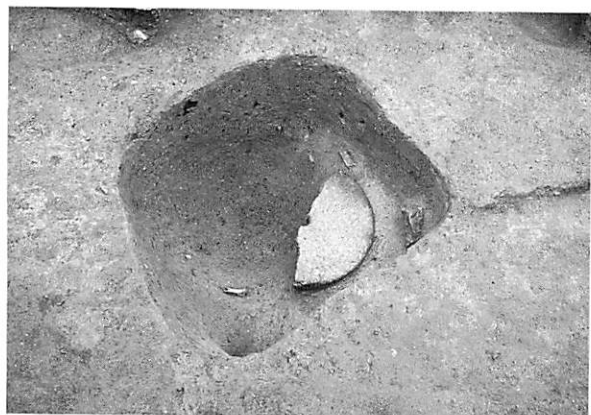
H 地区 SK365



E 地区 SK378



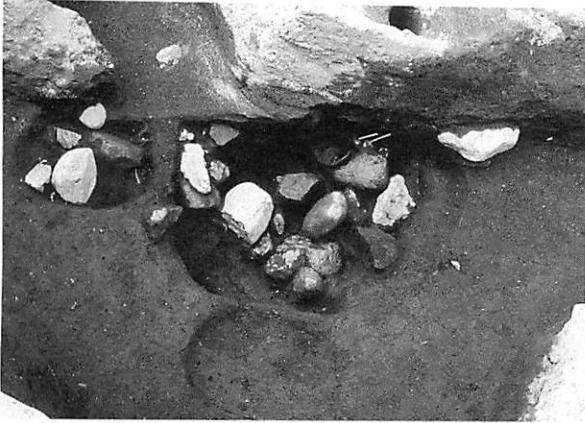
F 地区 SX431



F 地区 SK504



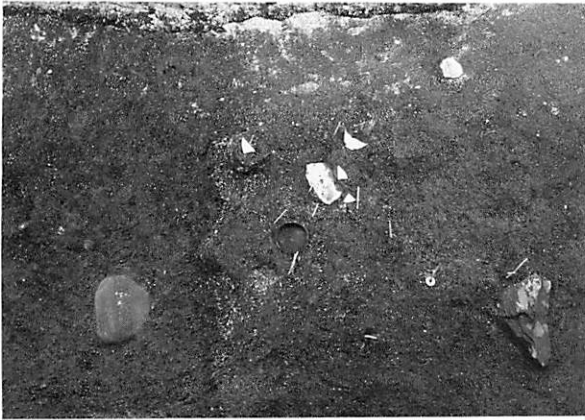
E 地区 SK510



H地区 SK526



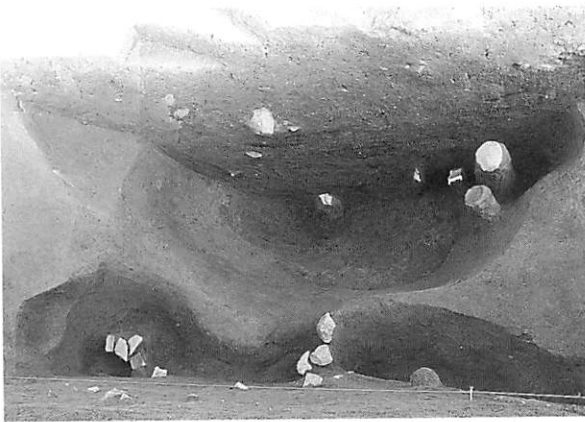
F地区 SD529



H地区 SX530



F地区 SK534



SK533、SK534



H地区 SX535



SX535細部



SX547上層





H地区 SX547下部



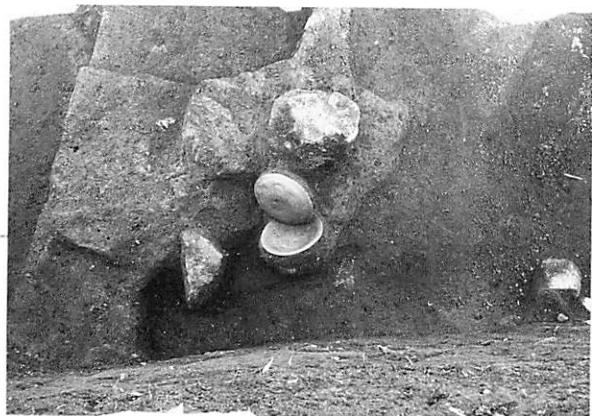
SX547下部



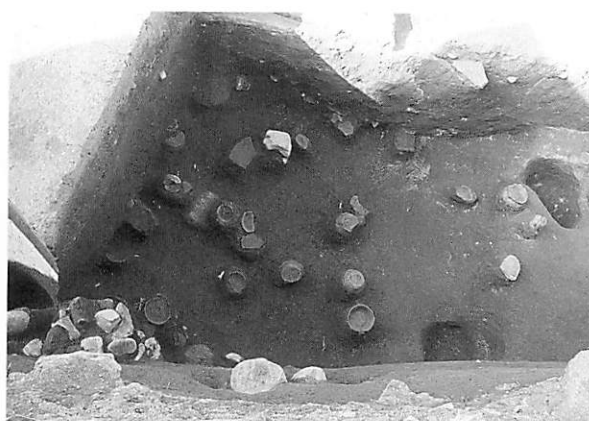
H地区南壁



H地区 SX277下層



SK557



F地区 SD565出土状況



SD565



SK581

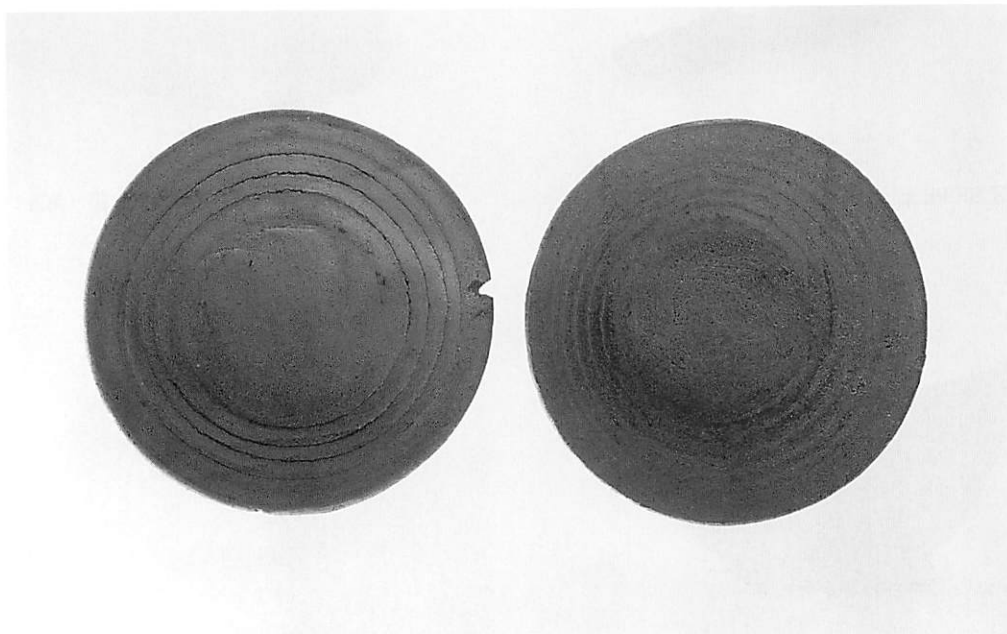


G 地区 SB306A 柱穴 S787出土埋納土師器 (第2-8図8・9)

G 地区 SD766出土 須恵器円面硯  
(第2-26図②-29)



内面にロクロ目を残す土師器 上：C 地区 IVa 層上面出土の大皿 (第2-268図③-67)  
下：G 地区 SK712出土の皿 (第2-43図①-14・15)



内面にロクロ目を残す土師器皿の内面 (第2-43図①-14・15)  
※中心の指ナデと、周縁のロクロ目



F地区 SD538出土 青磁瓜形掛け花活け  
(第2-62図1)



F地区 SK571出土 京都系土師器皿 (灯明皿) (第2-76図13)



D地区 SD192出土 瓦質の小壺 (高さ3.5cm)  
(第2-88図①-8)



D地区 SK149出土 中国南部産焼締陶器鉢 (第2-97図1)



D地区 SK9出土 小柄の柄 (第2-109図22・23)



D地区 SK144出土 赤間石製の方形硯 (第2-114図3)



E地区 SK40出土 中国南部産焼締陶器の鉢 (第2-159図2)



D地区 SE331掘形内出土 ボタン状石製品 (第2-182図40)

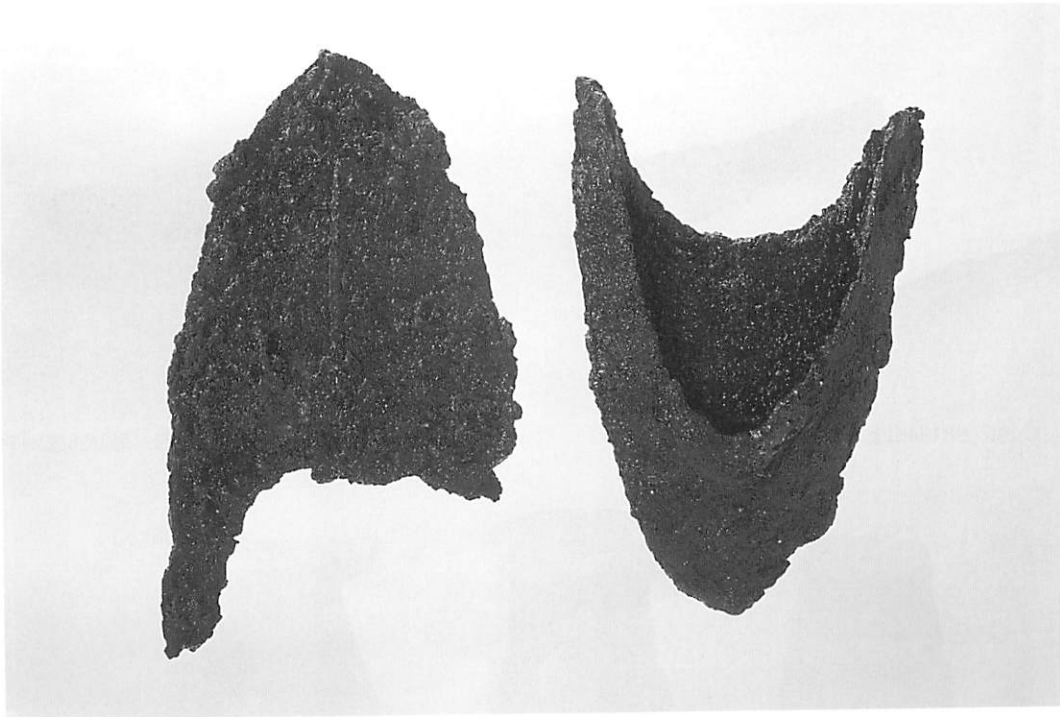
(※SK146は、火災処理土坑)



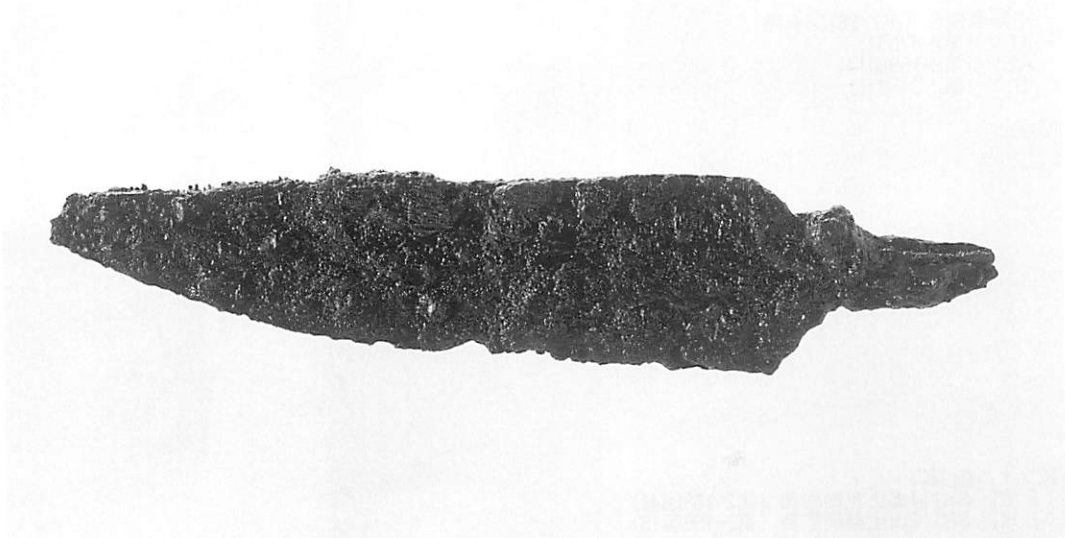
D地区 SK146出土 青花皿 C 群 (第2-185図①-1)



D地区 SK146出土 漳州窯青花碗 (第2-185図①-2)



D地区 SD146出土 鉄鋤 2 点 (第2-185図①-18・19)



D地区 SD146出土 鉄製包丁 (第2-185図②-20)



D地区 SK146出土 茶臼上臼  
(第2-185図③-27)



D地区出土 朝鮮王朝産灰釉陶器皿(第2-202図3)



C地区 SK184出土 鉄鋤(第2-260図18)



C地区 Vb層上面出土青磁稜花皿(第2-268図④-99)



A1

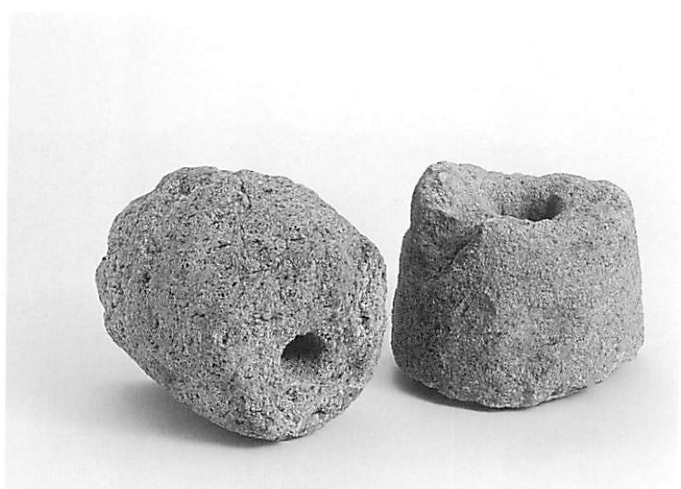
A2

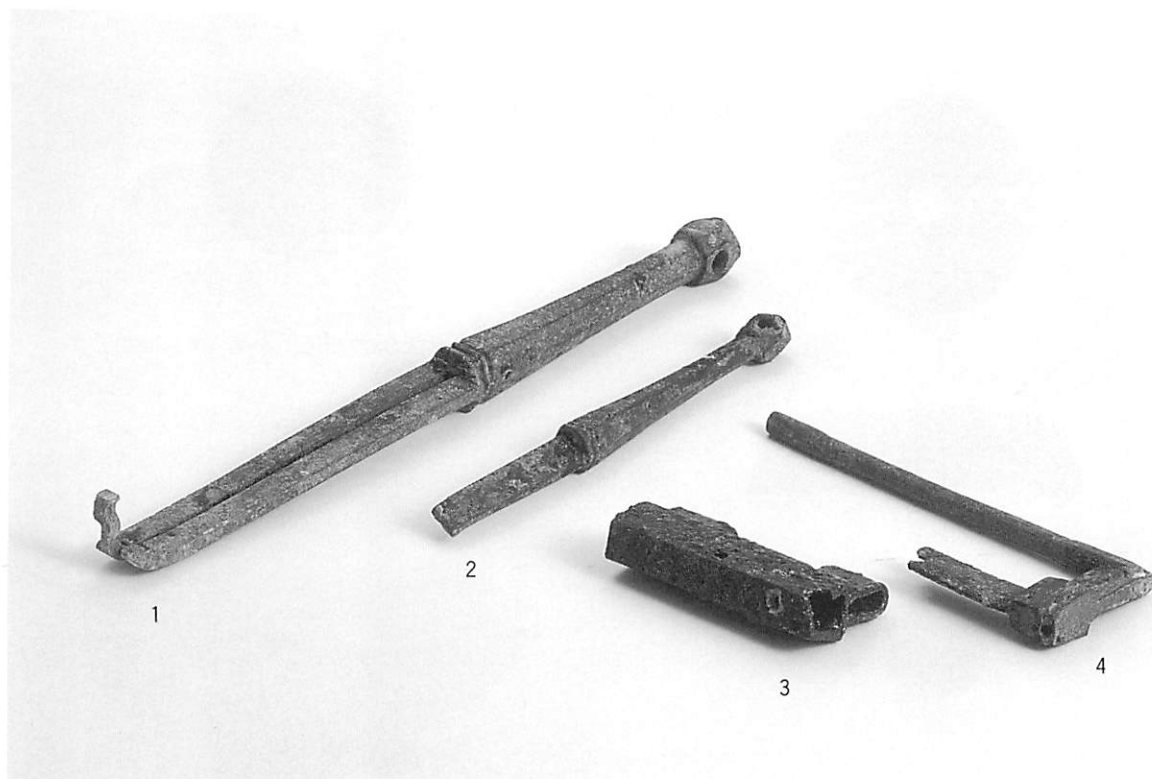
B

土師器燭台(第2-281図参照)  
A1: (第2-47図4)  
A2: (第2-159図14)  
B: (第2-85図71)

石製フィゴの羽口

左: E地区 SK114出土花崗岩製(第2-168図41)  
右: E地区 SK112出土凝灰岩製(第2-155図15)

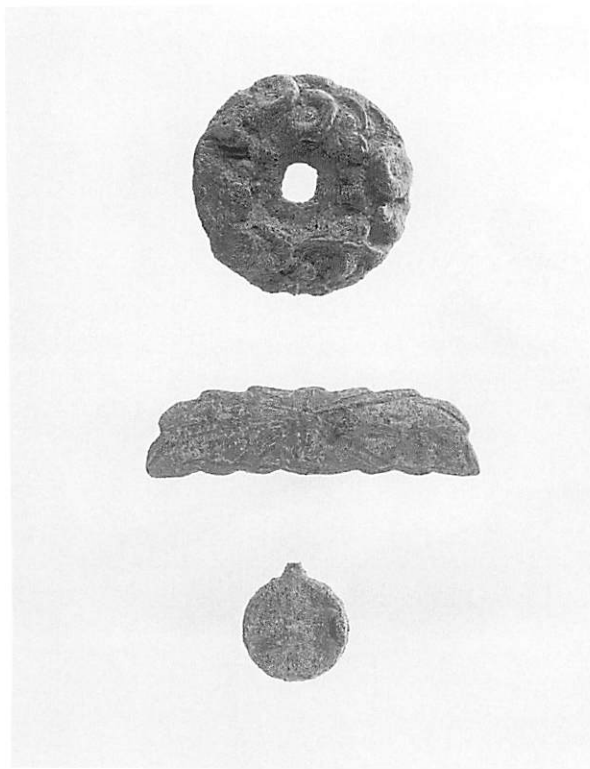




錠前と鍵 左から  
 1: C 地区 SA314の P229出土鍵 (第2-251図4)  
 2: C 地区 SA314の P256出土鍵 (第2-251図5)  
 3: G 地区 SK734出土錠前 (第2-78図④-55)  
 4: F 地区 SK571出土鍵 (第2-76図26)



鉄製品各種  
 1: F 地区 SK508出土火箸 (第2-83図6)  
 2: G 地区 SD766出土火打ち金 (第2-26図①-25)  
 3: E 地区 SK104出土金具 (第2-162図9)  
 4: C 地区第2焼土層出土和ばさみ (第2-268図③-64)  
 5: G 地区 SK782 (古代) 出土金具 (第2-13図16)  
 6: 16次 F 地区 C 層中出土金具 (第3-104図⑦-205)



金属製品

- 上：7次 C 地区 SD294出土金具（第2-92図27）  
中：7次 E 地区 SK126出土飾り金具（第2-175図②-38）  
下：7次 C 地区出土メダイ様金属製品（第2-270図9）



16次 G 地区 SX287出土 分銅（第3-76図1）



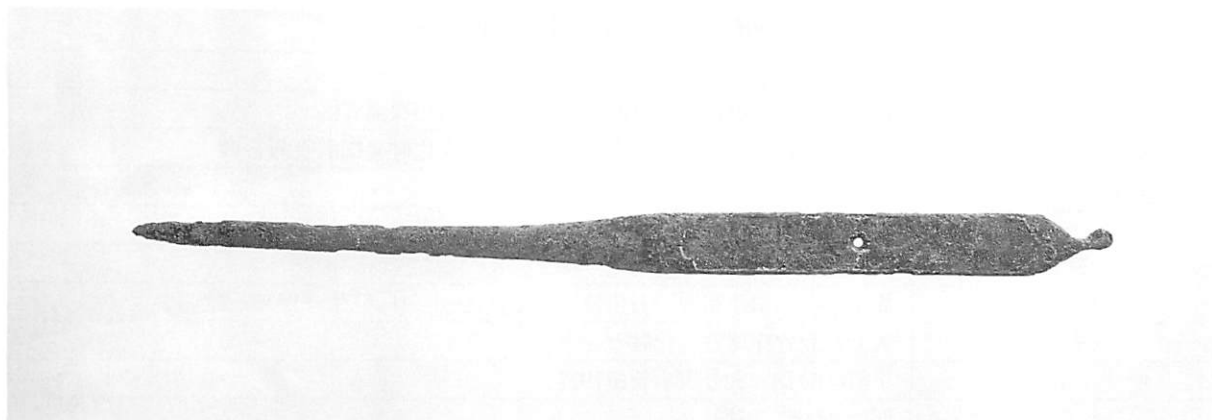
16次 F 地区 SK300出土磁器  
上：中国磁器大型碗（第3-86図1）  
下：白磁皿（第3-86図2）



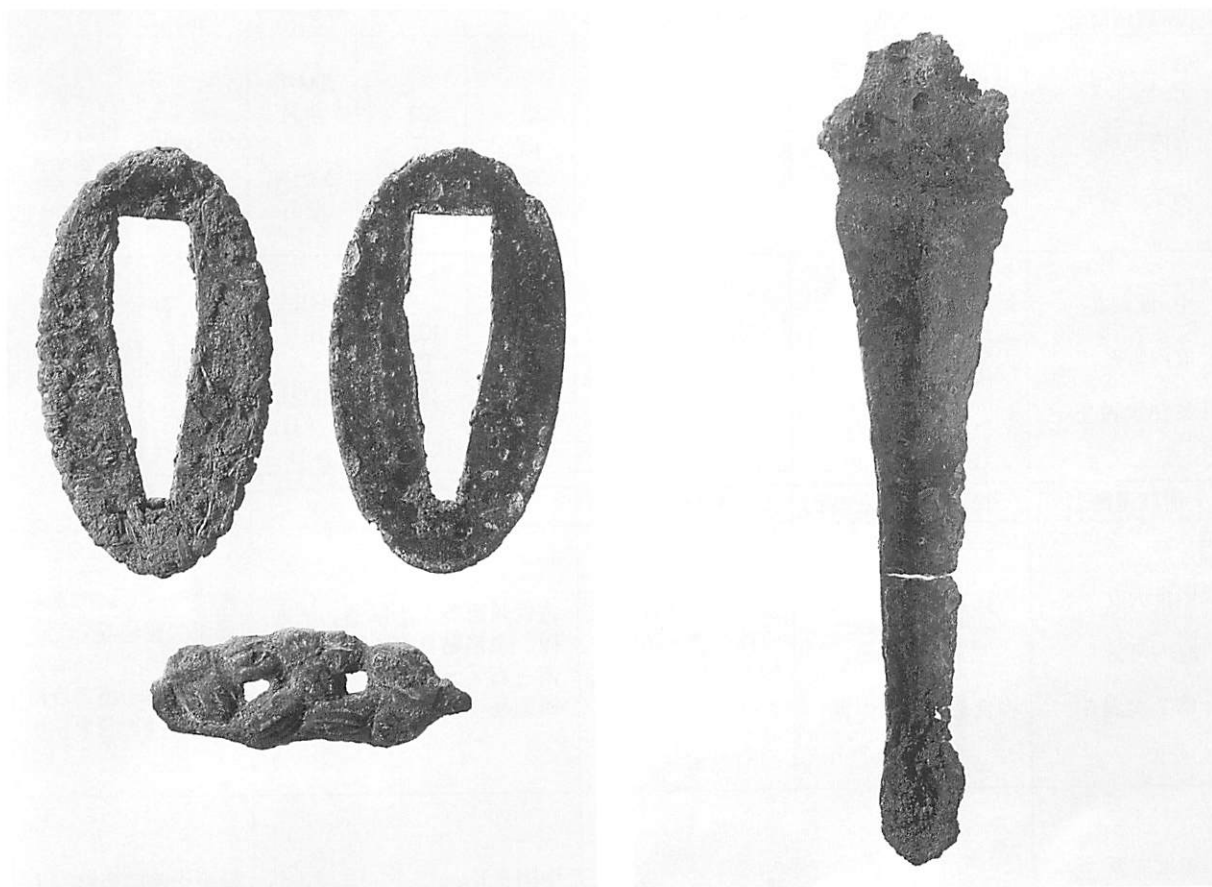
16次上市町西側 A 層出土 中国黒釉陶器小壺  
（第3-104図①-14）



16次 H 地区 SD440出土 中国褐釉陶器水注（第3-135図7）



F 地区 SK242出土かんざし (第3-88図3)



上：清忠寺町西側 B-2層出土、切羽(第3-104図⑤-141・142)  
下：E 地区 SP379出土金具 (第3-104図⑧-238)

清忠寺町西 B-2層出土 さじ (第3-104図⑤-143)



## 報 告 書 抄 録

ふりがな	ぶんごふない3 ちゅうせいおおともふないまちあとだい7じ・だい16じちようさく
書名	豊後府内3 中世大友府内町跡第7次・第16次調査区
副書名	大分駅付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅲ
シリーズ名	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第8集
編著者名	坂本嘉弘、田中裕介、石川健、田中良之、パリノ・サーヴェイ社
編集機関	大分県教育庁埋蔵文化財センター
所在地	〒870-1113 大分市中判田1977
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。'。"	東経 。'。"	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ちゅうせいおおとも 中世大友 ふないまちあと 府内町跡 第7次調査	おおいたしもとまち 大分市元町	322	51	33° 13' 32"	131° 37' 20"	2000年 4月 ～ 2001年 9月	2,000	大分駅 付近連続 立体交差 事業
ちゅうせいおおとも 中世大友 ふないまちあと 府内町跡 第16次調査	おおいたしにしきまち 大分市錦町	322	51	33° 13' 35"	131° 37' 20"	2001年 10月 ～ 2002年 3月	500	大分駅 付近連続 立体交差 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中世大友 府内町跡 第7次調査	古代官衙  中世都市	古代  中世	掘立柱建物群、柱 穴群・溝・道路・ 短冊型地割、土坑 ・井戸	古代須恵器・土師器、円面 硯。金箔貼り京土師器・華 南三彩・分銅・メダイ様金 属製品	古代の渡しに関わる 官衙関連施設 中世 御所小路町関 連の遺構、清忠寺町 で短冊型地割を検出
中世大友 府内町跡 第16次調査	中世都市	中世	溝・道路、短冊型 地割、土坑、掘立 柱建物	中国青花、 国産陶器、 銅製品、 土師器	御所小路の道路、上 市町の短冊型地割、 16世紀の都市遺構を 検出

要 約	<p>中世大友府内町跡第7次調査区発見の①8世紀末～9世紀中葉の庇付大型掘立柱建物群は、大分川を渡河する古代の道路の渡河点に関わる官衙的施設と考えられる。②第7次と第16次調査区では、第1南北街路と御所小路の道路遺構を調査し、御所小路町では15世紀後半から16世紀末まで武家地と推定される区画が継続し、第1南北街路の両側では15世紀までは溝で囲まれた区画が広がる。16世紀になると溝が埋まって道路に開かれた両側町が成立し、16世紀後半には上市町・清忠寺町となる短冊型地割りの町並みが成立することが判明した。</p>
--------	---

---

---

## 豊後府内3

中世大友府内町跡第7次・第16次調査区

大分駅付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第8集

平成18(2006)年3月31日

編集・発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター

〒870-1113

大分市字中判田字ビワノ門1977

TEL (097) 597-5675

印刷 佐伯印刷株式会社

〒870-0844

大分市古国府1155-1

TEL (097) 543-1211

---

---